

小牧市男女共同参画に関するアンケート

調査結果報告書

令和3年3月

小牧市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の実施概要	1
3	報告書の見方	2
II	一般 調査結果の概要	3
2	男女の平等意識について	3
3	家庭における家事などの分担について	3
4	仕事と育児・介護休業などについて	3
5	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	4
6	地域活動・社会活動について	4
7	人権について	4
8	性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）について	4
9	ドメスティック・バイオレンスについて	4
10	生涯にわたる健康づくりへの支援について	5
11	災害時について	5
12	メディアにおける性や暴力等の表現について	5
13	男女共同参画社会について	5
III	一般 調査結果	6
1	回答者自身のことについて	6
2	男女の平等意識について	12
3	家庭における家事などの分担について	31
4	仕事と育児・介護休業などについて	43
5	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	58
6	地域活動・社会活動について	63
7	人権について	75
8	性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）について	80
9	ドメスティック・バイオレンスについて	84
10	生涯にわたる健康づくりへの支援について	112
11	災害時について	114
12	メディアにおける性や暴力等の表現について	116
13	男女共同参画社会について	118
IV	一般 比較結果	139
V	学生 調査結果の概要	151
2	学校生活について	151

3	普段の生活について.....	151
4	仕事・将来について.....	151
5	性別・男女の平等意識について.....	152
6	男女共同参画に関する用語について.....	152
VI	学生 調査結果	153
1	あなた自身のことについて.....	153
2	学校生活について.....	156
3	普段の生活について.....	163
4	仕事・将来について.....	190
5	性別・男女の平等意識について.....	209
6	男女共同参画に関する用語について.....	214
VII	学生 前回比較	220
VIII	事業所 調査結果の概要	231
2	事業所における雇用管理状況について.....	231
3	従業員の育児・介護などとの両立支援について.....	231
4	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について.....	232
5	各種ハラスメントの防止について.....	232
6	男女共同参画社会について.....	232
IX	事業所 調査結果	233
1	事業所の概要について.....	233
2	事業所における雇用管理状況について.....	240
3	従業員の育児・介護などとの両立支援について.....	248
4	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について.....	255
5	各種ハラスメントの防止について.....	259
6	男女共同参画社会について.....	263
X	事業所 前回比較	266
XI	調査票	275
1	一般.....	275
2	中学生.....	291
3	小学生.....	298
4	事業所.....	304

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、令和4年度を初年度とする「第4次小牧市男女共同参画基本計画」を策定するにあたり、市民の皆様のお考えやご意見をお伺いし、男女共同参画事業を効果的に進めるための基礎資料とすることを目的として、実施したものです。

2 調査の実施概要

(1) 調査方法

区分	一般	中学生	小学生	事業所
調査客体	20歳以上の市民	市内の学校に通う中学2年生	市内の学校に通う小学5年生	市内の事業所
調査票の 配布・回収	郵送配布 郵送回収 WEB回答	学校配布 学校回収		郵送配布 郵送回収
調査期間	令和2年9月18日 ～10月8日	令和2年9月18日～10月15日		令和2年9月18日 ～10月8日

(2) 回収結果

区分	一般	中学生	小学生	事業所
配布数(A)	3,000件	1,550件	1,500件	300件
回収件数(B)	1,145件	1,373件	1,359件	83件
回収率(B/A)	38.2%	88.6%	90.6%	27.7%
有効回答件数(C)	1,145件	1,373件	1,359件	81件
有効回答率(C/A)	38.2%	88.6%	90.6%	27.0%

3 報告書の見方

- 図表中の「n」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- グラフ中の「%」は、小数第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（いくつでも○をつけるものなど）は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。
- グラフ・表として示したもののうち、無回答が0の場合は「無回答」の表示を省略しています。また、選択肢の文章を簡略化してある場合もあります。
- 性別のグラフについて、「その他」は回答が少ないため、参考程度とします。
- 年代別の表について、上段は回答者数（人）、下段は割合（%）を示しています。
- 性別、年代別等で示しているグラフ・表の「n」を合わせた数は、性別や年齢等の無回答を除いた数であるため、全体の「n」と一致しません。

Ⅱ 一般 調査結果の概要

2 男女の平等意識について

- “男性優遇（「男性のほうが優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）” であると思われるのは、「政治の場で」（74.5％）と「社会通念・慣習・しきたりなどで」（74.4％）
- 社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」ことが必要（56.0％）
- 固定的な性別役割分担については、“そう思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）”（49.5％）
- 子どもたちに望む進路は「4年生大学まで」（女の子の場合：52.2％、男の子の場合：59.1％）
- 女性が増える方が良いと思う職業・役職は「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」（55.1％）
- 政治・行政において女性参画が進んでいない理由は「男性優位の組織運営」（56.2％）

3 家庭における家事などの分担について

- 「妻」が担当している役割は「食事の支度」（81.9％）、「洗濯」（78.1％）
- 「夫」が担当している役割は「生活費を稼ぐ」（59.7％）、「ゴミ出し」（40.7％）
- 「夫婦とも同じくらい」担当している役割は「自治会などの活動・近所づきあい」（29.1％）、「食料品・日用品の買い物」（28.6％）

4 仕事と育児・介護休業などについて

- 女性が仕事を持つことについては「多様な選択肢があるなかで、本人の希望が尊重されるのが良い」（40.3％）、男性が仕事を持つことについては「結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けたほうが良い」（48.5％）
- 女性の就労上の問題は、「職場の労働条件（勤務時間・賃金・休暇制度など）」（62.6％）と「一旦退職した女性が、正社員として再就職することが困難である現状」（50.3％）
- 男性の育児休業等取得については、“取得に賛成（「取得したほうが良い」＋「どちらかといえば取得したほうが良い」）”（育児休業：81.4％、子の看護休暇：84.9％、介護休業：82.0％、介護休暇：84.8％）
- 男性の育児休業等取得について“取得に反対（「取得しないほうが良い」＋「どちらかといえば取得しないほうが良い」）”する理由は、「経済的に苦しくなる」（46.7％）と「職場に迷惑をかけてしまう」（41.4％）
- 男性がこれまで以上に家事等に携わるためには、「職場において育児・介護休業などを取りやすい雰囲気を作る」（69.2％）と「男性が家事などに携わることにに対する男性自身の抵抗感をなくす」（54.4％）

5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

- 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の理想の優先度は、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』全てを大切にしたい（35.8%）と『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい（24.6%）
- 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の現状の優先度は、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している（22.7%）と『家庭生活』を優先している（22.1%）

6 地域活動・社会活動について

- 「【参加したことがある】今後も参加したい」地域活動・社会活動は、「区・町内会、自治会などの活動」（32.8%）
- 「【参加したことがない】今後も参加したくない」地域活動・社会活動は、「消防団など防災に関する活動」（48.3%）、「まちづくりなどの活動」（42.1%）、「ボランティアやNPO（民間非営利組織）などの活動」（41.1%）
- 地域活動や社会活動に参加したことがない、もしくは今後参加したくない理由は、「人間関係がわずらわしい」（34.3%）と「仕事が忙しい」（33.8%）
- 地域活動上の男女の役割分担について、「町会、町内会に属する各種団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」（39.7%）

7 人権について

- 女性の人権が尊重されていないと感じるときは、「性暴力（痴漢行為、盗撮、同意のない性行為など）」（59.1%）と「家事・育児・介護等を担うことが当然とされること」（56.2%）
- 男性の人権が尊重されていないと感じるときは、「仕事をし、家族を養うことが当然とされること」（48.7%）、「男性というだけで肉体労働・力を使う仕事を任せられる風潮」（48.0%）、「強く、たくましく、他者に弱音を吐かないなどの『男らしさ』を望まれること」（46.5%）

8 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）について

- 性的少数者が直面している問題は、「学校や職場でいじめに遭う可能性がある」（52.0%）、「セクシュアリティを明かせないことで精神的負担を被る」（46.6%）
- 性的少数者が暮らしやすい社会にするためには、「相談できる窓口の設置」（43.7%）、「更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮」（35.0%）、「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の配偶者や家族と同等に扱うこと」（34.3%）

9 ドメスティック・バイオレンスについて

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」行為は、「身体を傷つける可能性のある物などで殴る」（91.0%）、「殴るふりや刃物をつきつけるなどして脅す」（86.9%）、「嫌がる相手に性的な行為を強要する・避妊に協力しない」（84.8%）

- DVの“被害経験あり（「何度もあった」＋「1、2度あった」）”の方が遭った暴力は、「精神的な嫌がらせ・暴力」（14.9%）、「身体的な暴力」（13.2%）、「性的な暴力」（7.0%）、「経済的暴力」（4.8%）
- DV被害の相談は「している」（33.8%）、「していない」（55.5%）
- 相談相手は、「友人・知人」（60.9%）、「家族・親族」（57.6%）
- 相談しなかった（できなかった）理由は、「相談するほどのことでもないと思ったから」（41.7%）、「自分にも悪い点があると思ったから」（35.1%）
- 「市に女性相談の窓口があることを知らない」人が多い（51.1%）
- 相談窓口で配慮してほしいことは、「匿名で相談ができる」（54.8%）、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」（49.7%）、「同性の相談員がいる」（47.6%）
- DV、セクハラなどを防止するために必要なことは、「法律・制度の面で見直しを行う」（57.6%）、「犯罪の取り締まりを強化する」（47.9%）、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」（47.5%）、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」（47.2%）

10 生涯にわたる健康づくりへの支援について

- 生涯にわたる健康づくりのために必要なことは、「女性や男性の健康に関する情報の提供」（41.7%）

11 災害時について

- 避難所運営に必要なことは、「男女別トイレや洗濯干し場、授乳室、更衣室など、避難者のニーズに配慮すること」（80.9%）、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」（71.4%）、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」（58.5%）

12 メディアにおける性や暴力等の表現について

- メディアにおける性や暴力等の表現について感じていることは、「性・暴力表現を見たくない人や子どもに対する配慮がなされていない」（45.3%）

13 男女共同参画社会について

- 「言葉も内容も知らない」関連用語は、「SOGI（性的指向及び性自認）」（81.6%）と「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」（80.2%）、「アンペイドワーク（無報酬労働）」（76.6%）、「ポジティブ・アクション」（76.1%）
- 小牧市の取組みで知っているものは、「小牧市まなび創造館（女性センター）」（54.9%）
- 小牧市が今後力を入れていくべきことは、「保育・子育てサービスや施設を充実させるため」（52.0%）、「介護サービスや福祉関連の施設を充実させるため」（50.8%）、「学校教育の場で、男女平等に関する教育をさらに進める」（48.4%）
- 「子育て」について、“充実していると思う（「充実している」＋「どちらかといえば充実している」）”人が多い（41.3%）

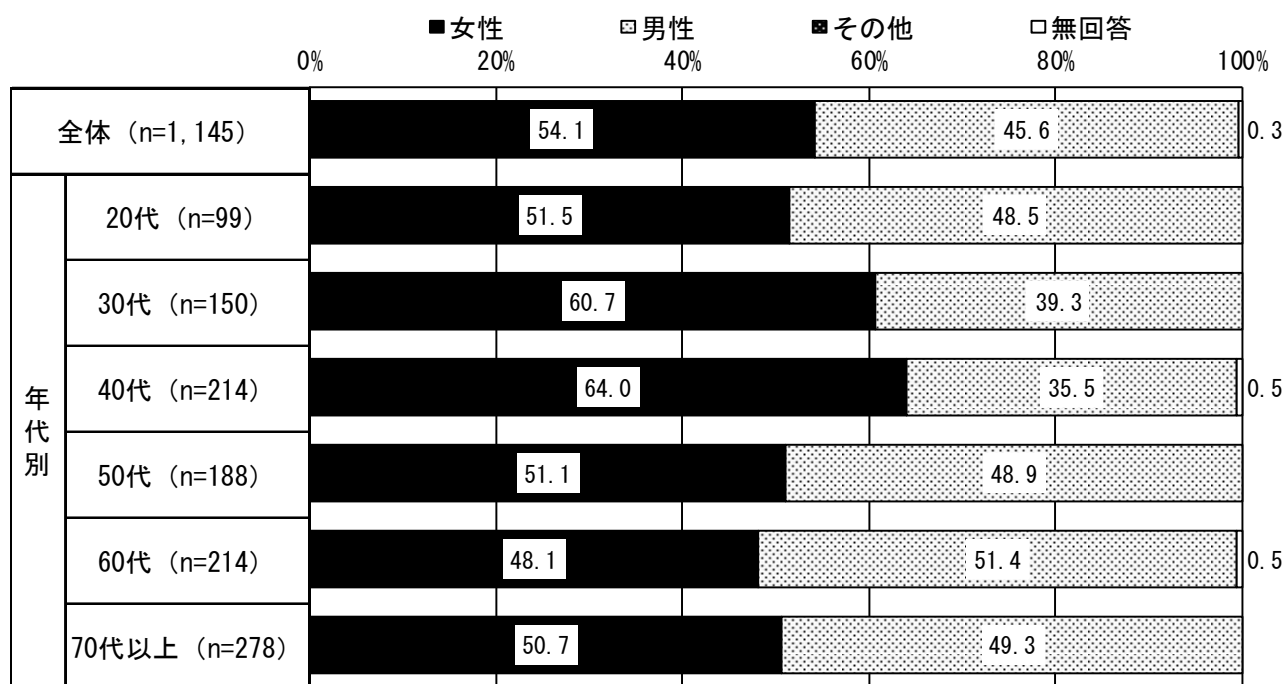
Ⅲ 一般 調査結果

1 回答者自身のことについて

問1 あなたの性別をお教えてください。（○は1つ）

- 「女性」が54.1%、「男性」が45.6%となっています。
- 年代別では、30代と40代で「女性」が6割以上となっています。

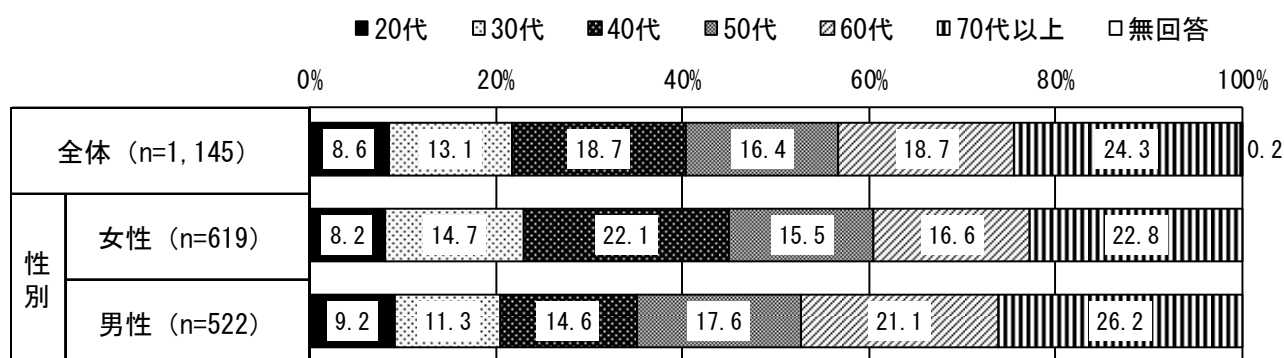
図表 1 性別（年代別）



問2 あなたの年齢をお教えてください。（○は1つ）

- 「70代以上」が24.3%と最も高く、次いで「40代」「60代」（ともに18.7%）、「50代」（16.4%）となっています。
- 性別では、男性で50代以上が64.9%と、女性より10.0ポイント高くなっています。

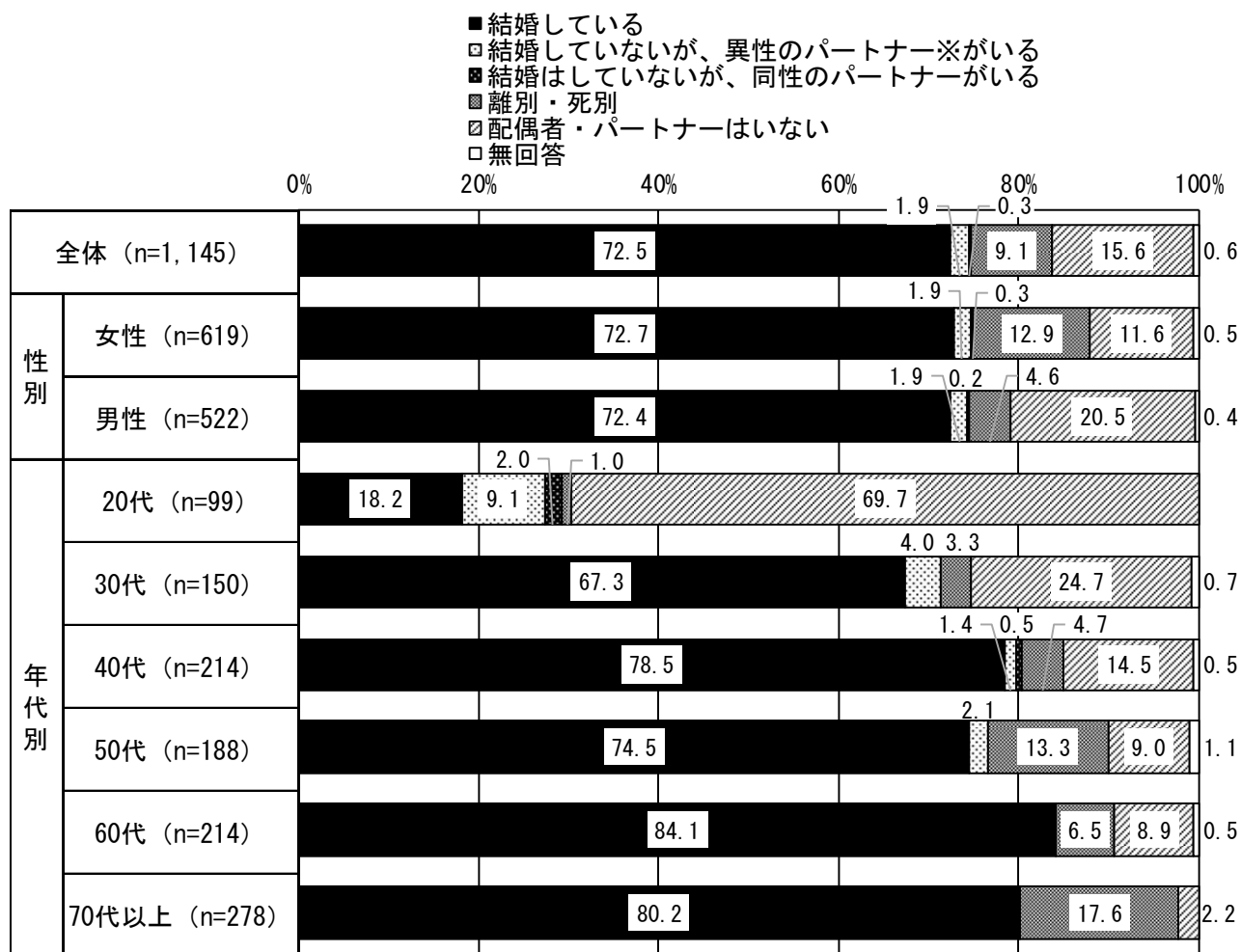
図表 2 年齢（性別）



問3 あなたは結婚されていますか。（〇は1つ）

- 「結婚している」が72.5%と最も高く、次いで「配偶者・パートナーはいない」(15.6%)、「離別・死別」(9.1%)となっています。
- 性別では、男性で「配偶者・パートナーはいない」が20.5%と、女性より8.9ポイント高くなっています。一方で、女性で「離別・死別」が12.9%と、男性より8.3ポイント高くなっています。
- 年代別では、「結婚している」が60代と70代以上で8割以上、40代と50代で7割以上となっています。

図表 3 婚姻状況（性別・年代別）

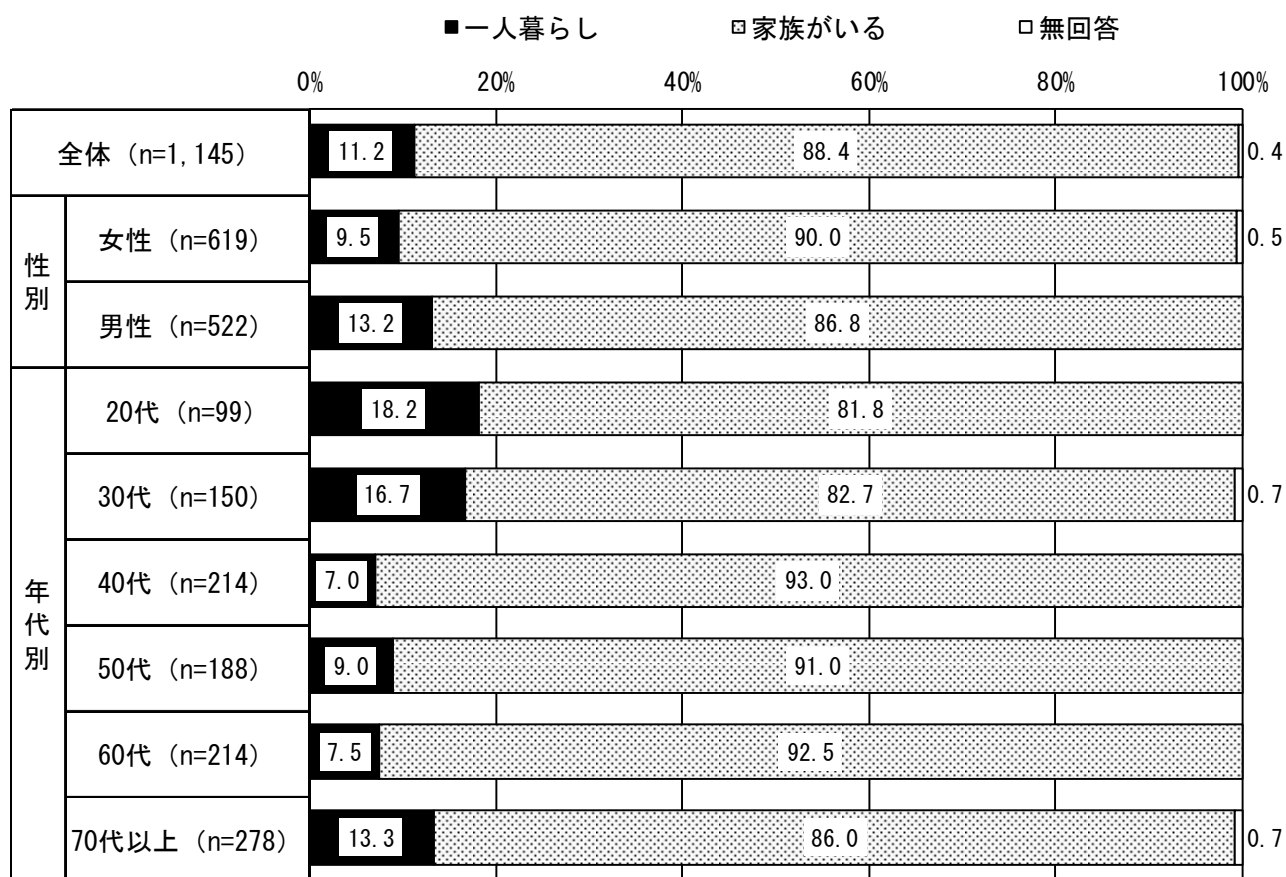


※パートナーとは、性別問わず、婚姻届けは提出していないが事実上婚姻関係にある方

問4 家族構成について教えてください。

- 「一人暮らし」が11.2%、「家族がいる」が88.4%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20代・30代・70代以上で「一人暮らし」が1割以上となっています。

図表 4 家族構成（性別・年代別）

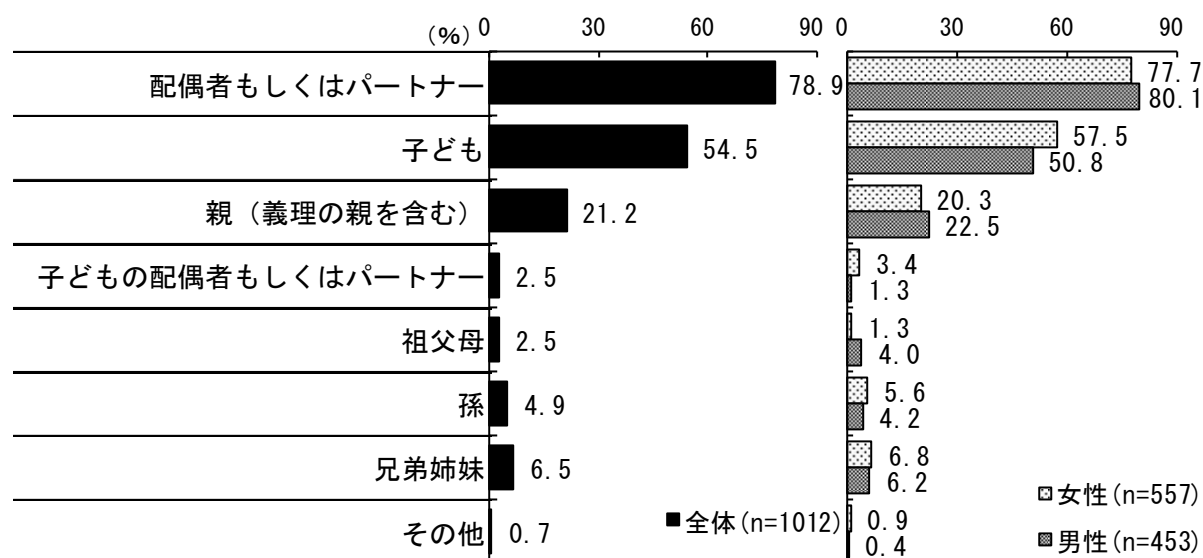


問4で「家族がいる」と答えた方

同居の家族がいる場合、当てはまる方全てに○

- 「配偶者もしくはパートナー」が78.9%と最も高く、次いで「子ども」(54.5%)、「親(義理の親を含む)」(21.2%)となっています。
- 性別では、女性で「子ども」が57.5%と、男性より6.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、20代は「親(義理の親を含む)」、30代以上は「配偶者もしくはパートナー」が、それぞれ最も高くなっています。

図表5 同居家族(性別)



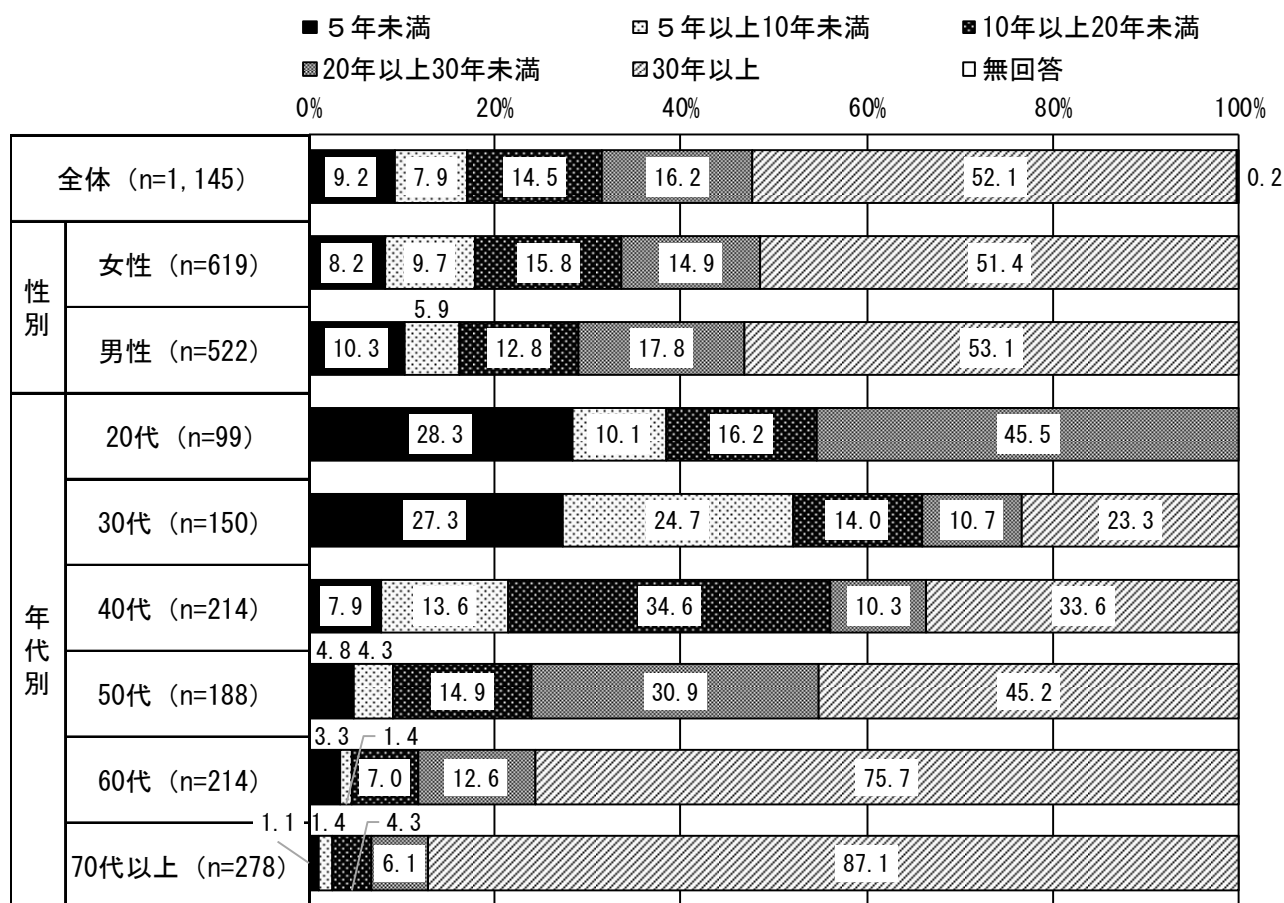
図表6 同居家族(年代別)

	全体	配偶者もしくはパートナー	子ども	親(義理の親を含む)	配偶者もしくは子どものパートナー	祖父母	孫	兄弟姉妹	その他
全 体	1012	798	552	215	25	25	50	66	7
	100.0	78.9	54.5	21.2	2.5	2.5	4.9	6.5	0.7
年 代 別	20代	81	19	15	61	-	14	-	37
		100.0	23.5	18.5	75.3	-	17.3	-	45.7
	30代	124	98	83	28	2	-	-	10
		100.0	79.0	66.9	22.6	1.6	-	-	8.1
	40代	199	165	158	43	-	3	-	8
		100.0	82.9	79.4	21.6	-	1.5	-	4.0
	50代	171	137	113	45	-	3	1	6
		100.0	80.1	66.1	26.3	-	1.8	0.6	3.5
	60代	198	172	84	29	9	5	16	5
		100.0	86.9	42.4	14.6	4.5	2.5	8.1	2.5
	70代以上	239	207	99	9	14	-	33	-
		100.0	86.6	41.4	3.8	5.9	-	13.8	-

問5 小牧市に住んで何年になりますか。（〇は1つ）

- 「30年以上」が52.1%と最も高く、次いで「20年以上30年未満」（16.2%）、「10年以上20年未満」（14.5%）となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、年代が上がるにつれて「30年以上」が高くなっており、70代以上で87.1%となっています。また、20代で「20年以上30年未満」が4割以上、40代で「10年以上20年未満」、50代で「20年以上30年未満」が、ともに3割以上となっています。

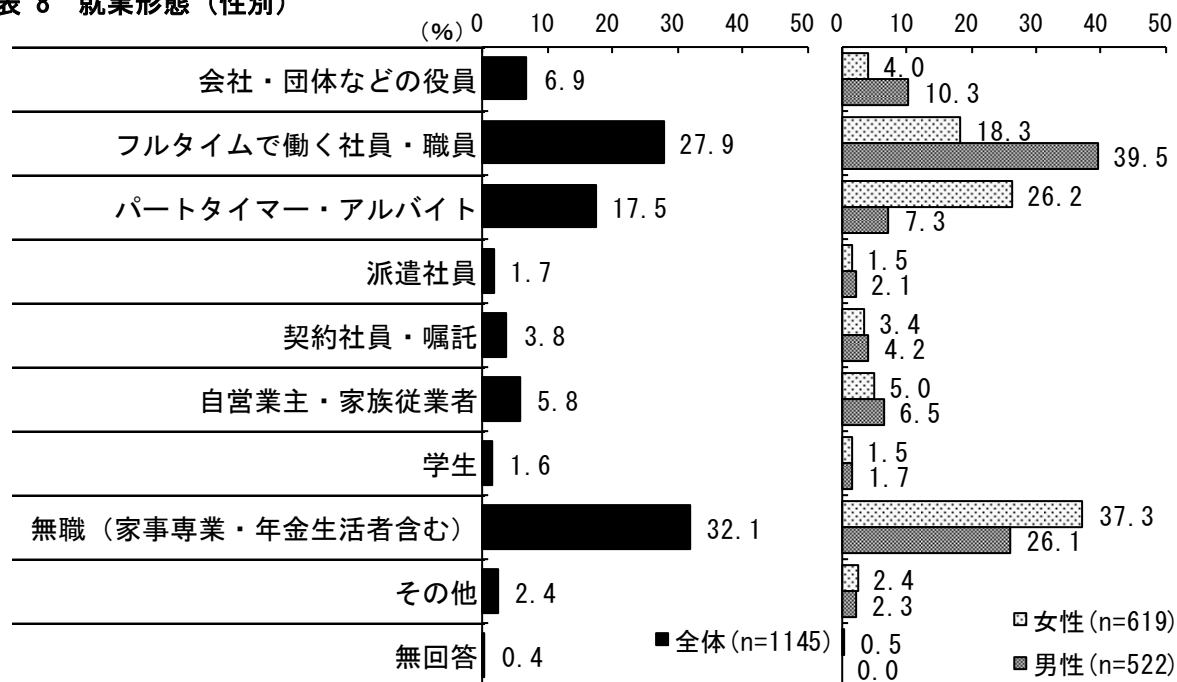
図表 7 居住年数（性別・年代別）



問6 あなたの就業形態などは次のうちどれですか。育児休業・介護休業中の方は、休業前の形態をお答えください。（〇は1つ）

- 「無職（家事専業・年金生活者含む）」が32.1%と最も高く、次いで「フルタイムで働く社員・職員」（27.9%）、「パートタイマー・アルバイト」（17.5%）となっています。
- 性別では、男性で「フルタイムで働く社員・職員」が21.2ポイント、「会社・団体などの役員」が6.3ポイント、それぞれ女性より高くなっています。一方で、女性で「パートタイマー・アルバイト」が18.9ポイント、「無職（家事専業・年金生活者含む）」が11.2ポイント、それぞれ男性より高くなっています。
- 年代別では、40代で「パートタイマー・アルバイト」が29.9%と、他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 8 就業形態（性別）



図表 9 就業形態（年代別）

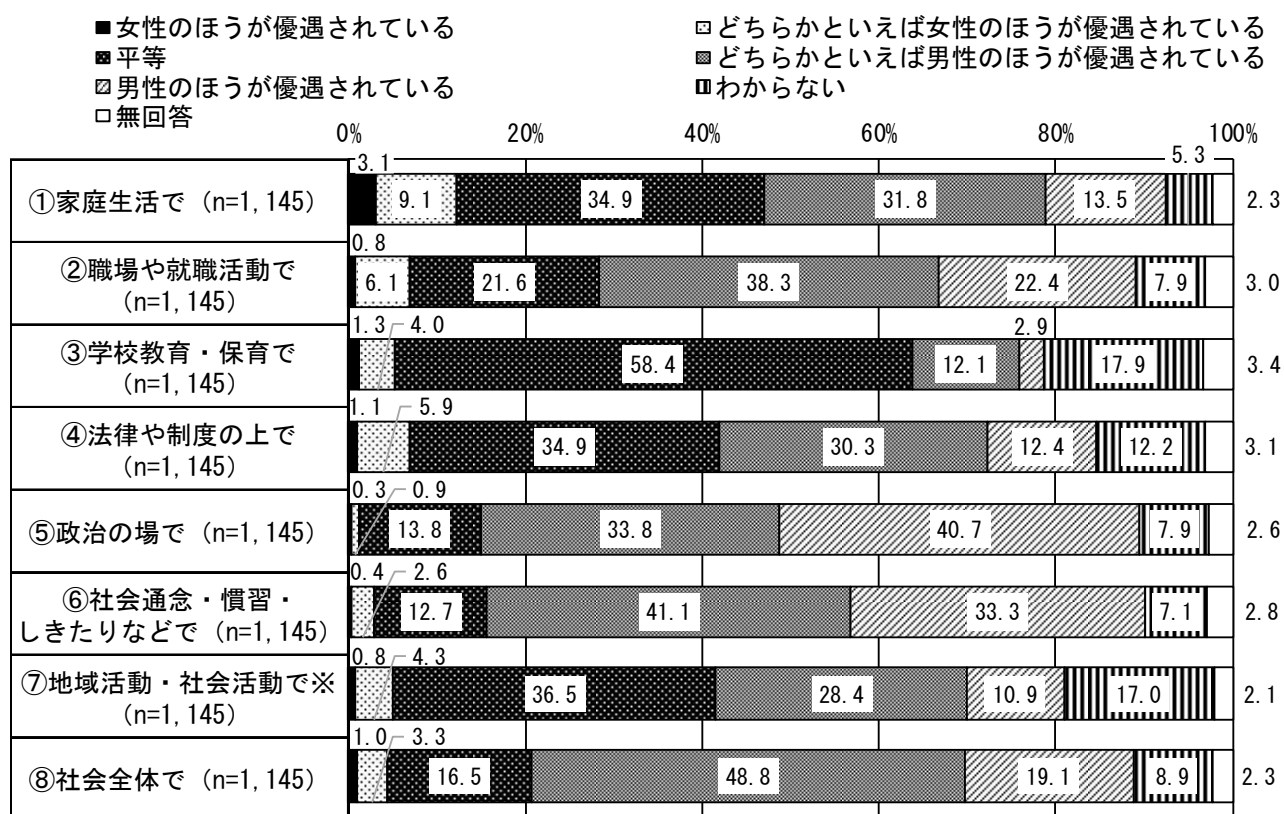
	全体	会社・団体などの役員	フルタイム社員・職員	パート・アルバイト	派遣社員	契約社員・嘱託	自営業主・家族従業者	学生	年金生活者・専業主婦（含）	無職	その他	無回答
全 体	1145	79	320	200	20	43	66	18	367	27	5	
	100.0	6.9	27.9	17.5	1.7	3.8	5.8	1.6	32.1	2.4	0.4	
年代別	20代	99	8	46	8	2	5	2	18	8	2	-
		100.0	8.1	46.5	8.1	2.0	5.1	2.0	18.2	8.1	2.0	-
	30代	150	13	72	25	8	6	4	-	19	3	-
		100.0	8.7	48.0	16.7	5.3	4.0	2.7	-	12.7	2.0	-
	40代	214	16	93	64	1	5	9	-	22	4	-
		100.0	7.5	43.5	29.9	0.5	2.3	4.2	-	10.3	1.9	-
	50代	188	19	84	33	6	4	14	-	25	3	-
		100.0	10.1	44.7	17.6	3.2	2.1	7.4	-	13.3	1.6	-
	60代	214	15	21	40	3	20	15	-	93	7	-
		100.0	7.0	9.8	18.7	1.4	9.3	7.0	-	43.5	3.3	-
	70代以上	278	8	4	30	-	3	22	-	200	8	3
		100.0	2.9	1.4	10.8	-	1.1	7.9	-	71.9	2.9	1.1

2 男女の平等意識について

問7 あなたは今の社会において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

- “男性優遇（「男性のほうが優遇されている」＋「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」）”をみると、「⑤政治の場で」と「⑥社会通念・慣習・しきたりなどで」で7割以上、「⑧社会全体で」と「②職場や就職活動で」で6割以上となっています。
- 「平等」をみると、「③学校教育・保育で」で58.4%と、他の分野と比べて20ポイント以上高くなっています。

図表 10 分野別の男女の地位

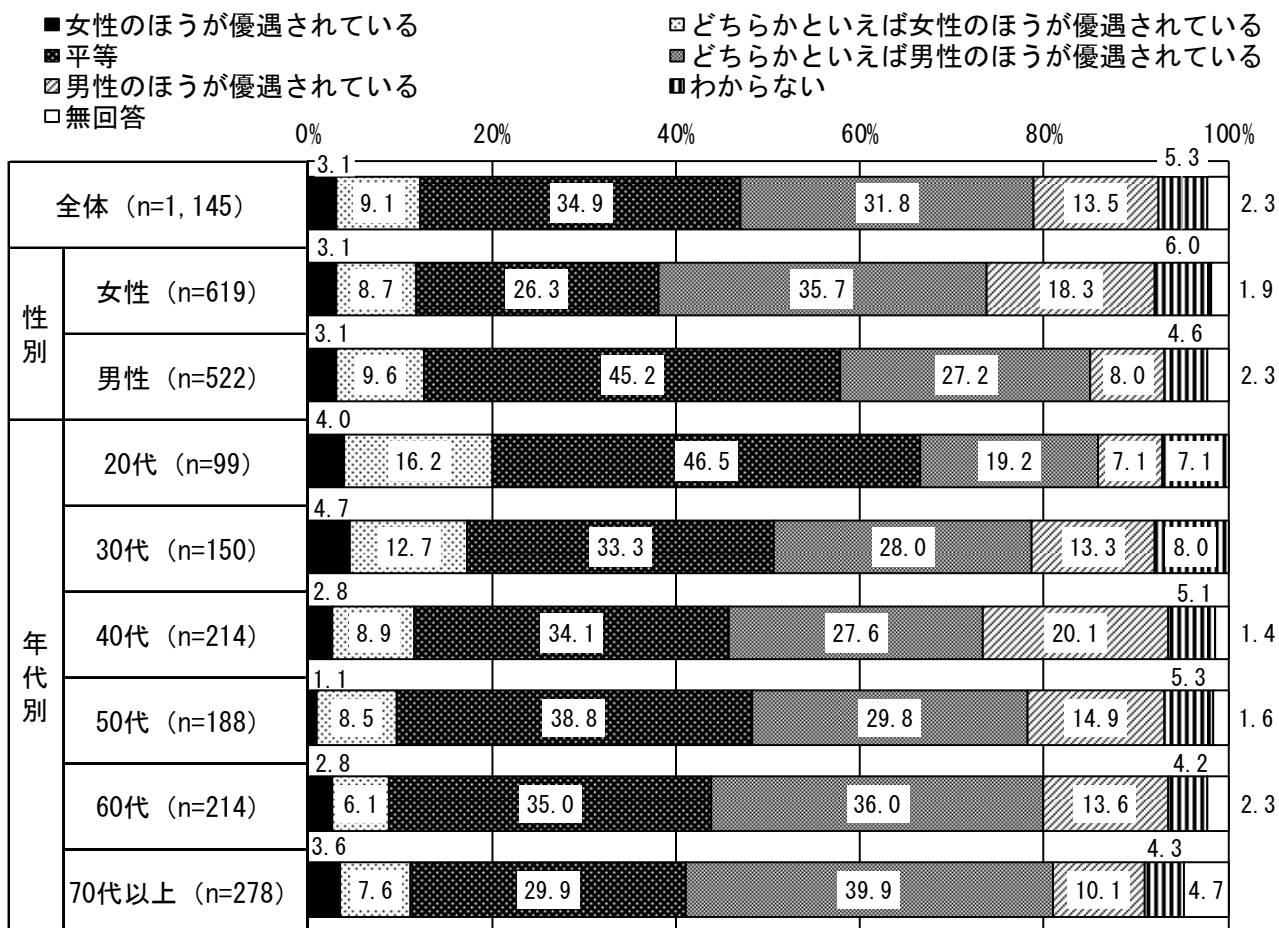


※自治会・NPOなど

①家庭生活で

- 「平等」が34.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(31.8%)、「男性のほうが優遇されている」(13.5%)となっています。
- 性別では、男性で「平等」が45.2%と、女性より18.9ポイント高くなっています。一方で、女性で“男性優遇”が54.0%と、男性より18.8ポイント高くなっています。
- 年代別では、20代を除いて“男性優遇”が4割以上となっており、なかでも70代以上で50.0%と、最も高くなっています。

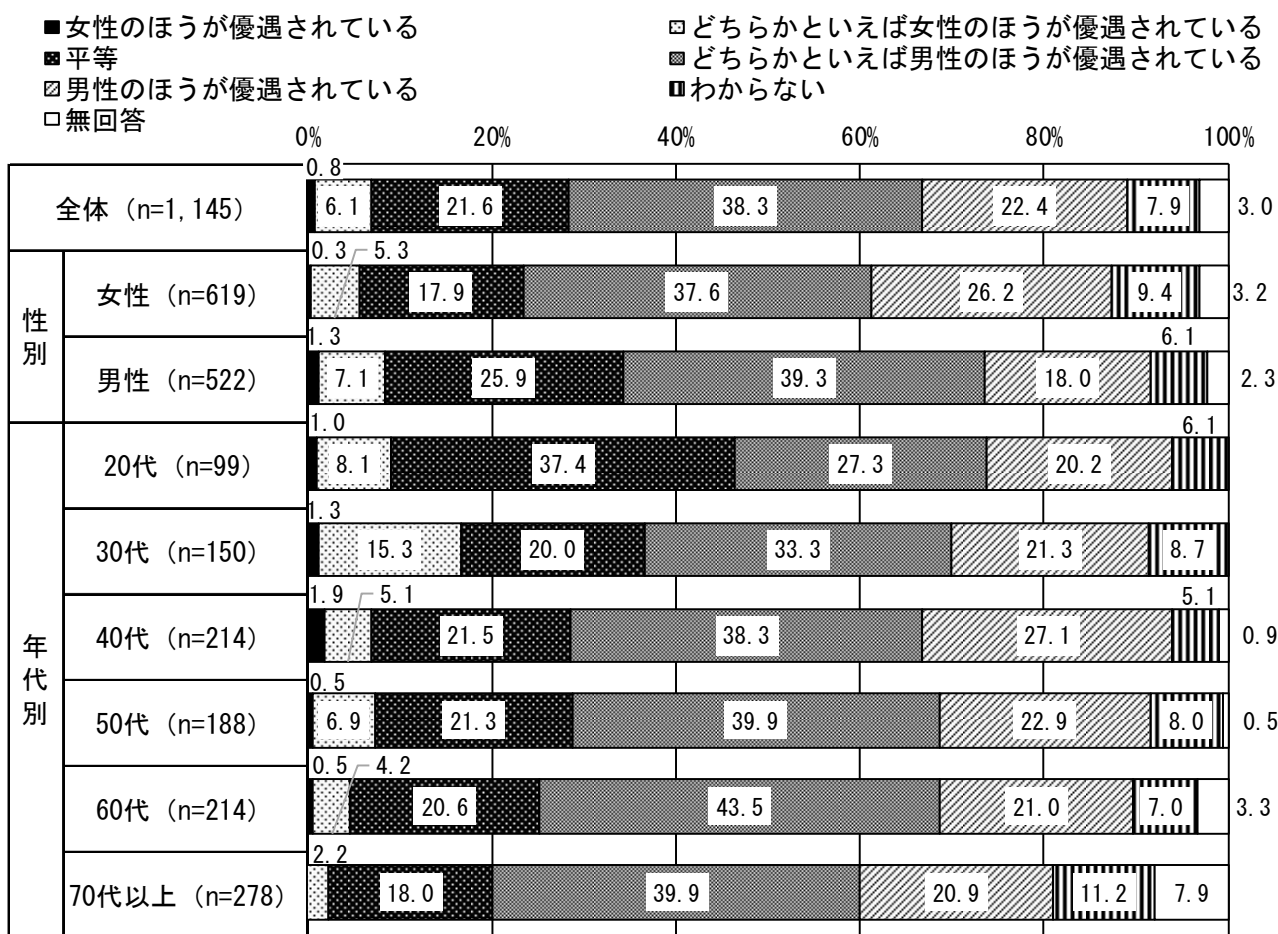
図表 11 ①家庭生活で（性別・年代別）



②職場や就職活動で

- 「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 38.3%と最も高く、次いで「男性のほうが優遇されている」(22.4%)、「平等」(21.6%)となっています。
- 性別では、女性で「男性のほうが優遇されている」が 26.2%と、男性より 8.2 ポイント高くなっています。一方で、男性で「平等」が 25.9%と、女性より 8.0 ポイント高くなっています。
- 年代別では、40 代以上で“男性優遇”が 6 割以上となっており、なかでも 40 代で 65.4%と、最も高くなっています。また、20 代で「平等」が 37.4%と、他の年代と比べて 15 ポイント以上高くなっています。

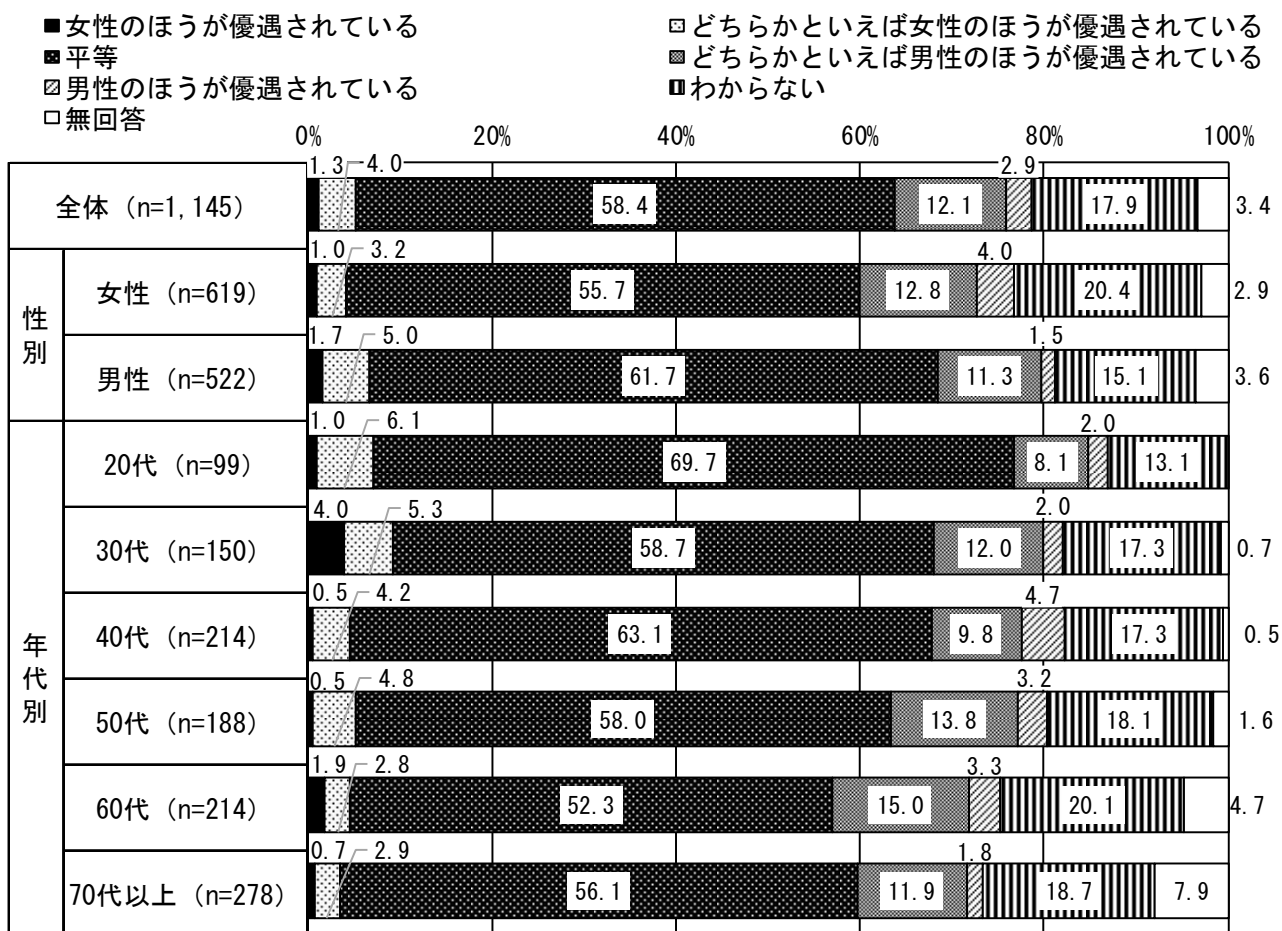
図表 12 ②職場や就職活動で（性別・年代別）



③学校教育・保育で

- 「平等」が58.4%と最も高く、次いで「わからない」(17.9%)、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(12.1%)となっています。
- 性別では、男性で「平等」が61.7%と、女性より6.0ポイント高くなっています。一方で、女性で「わからない」が20.4%と、男性より5.3ポイント高くなっています。
- 年代別では、20代と40代で「平等」が6割以上となっています。

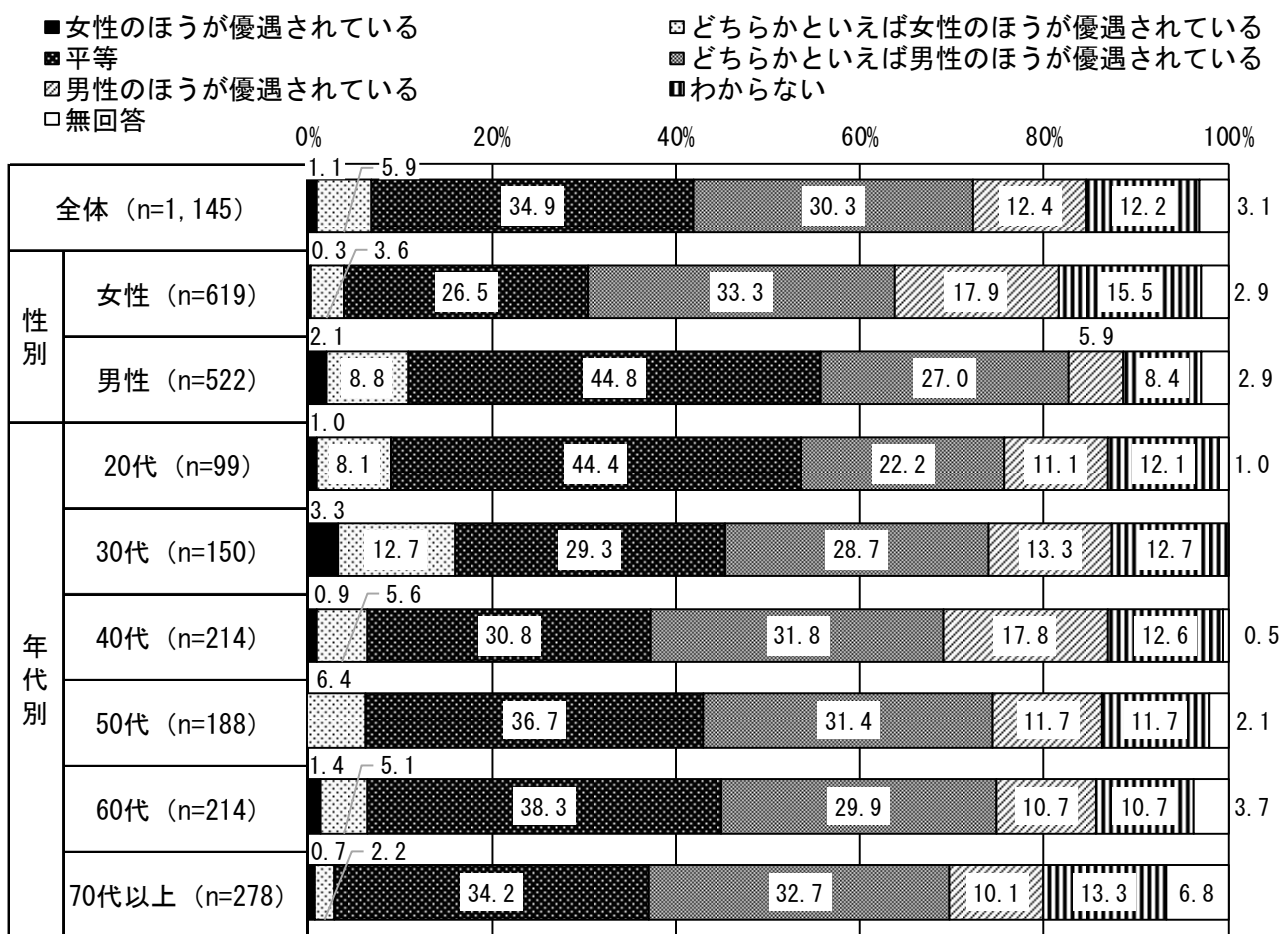
図表 13 ③学校教育・保育で（性別・年代別）



④法律や制度の上で

- 「平等」が34.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」(30.3%)、「わからない」(12.2%)となっています。
- 性別では、女性で“男性優遇”が18.3ポイント、「わからない」が7.1ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「平等」が44.8%と、女性より18.3ポイント高くなっています。
- 年代別では、20代を除いて“男性優遇”が4割以上となっており、なかでも40代で49.6%と、最も高くなっています。

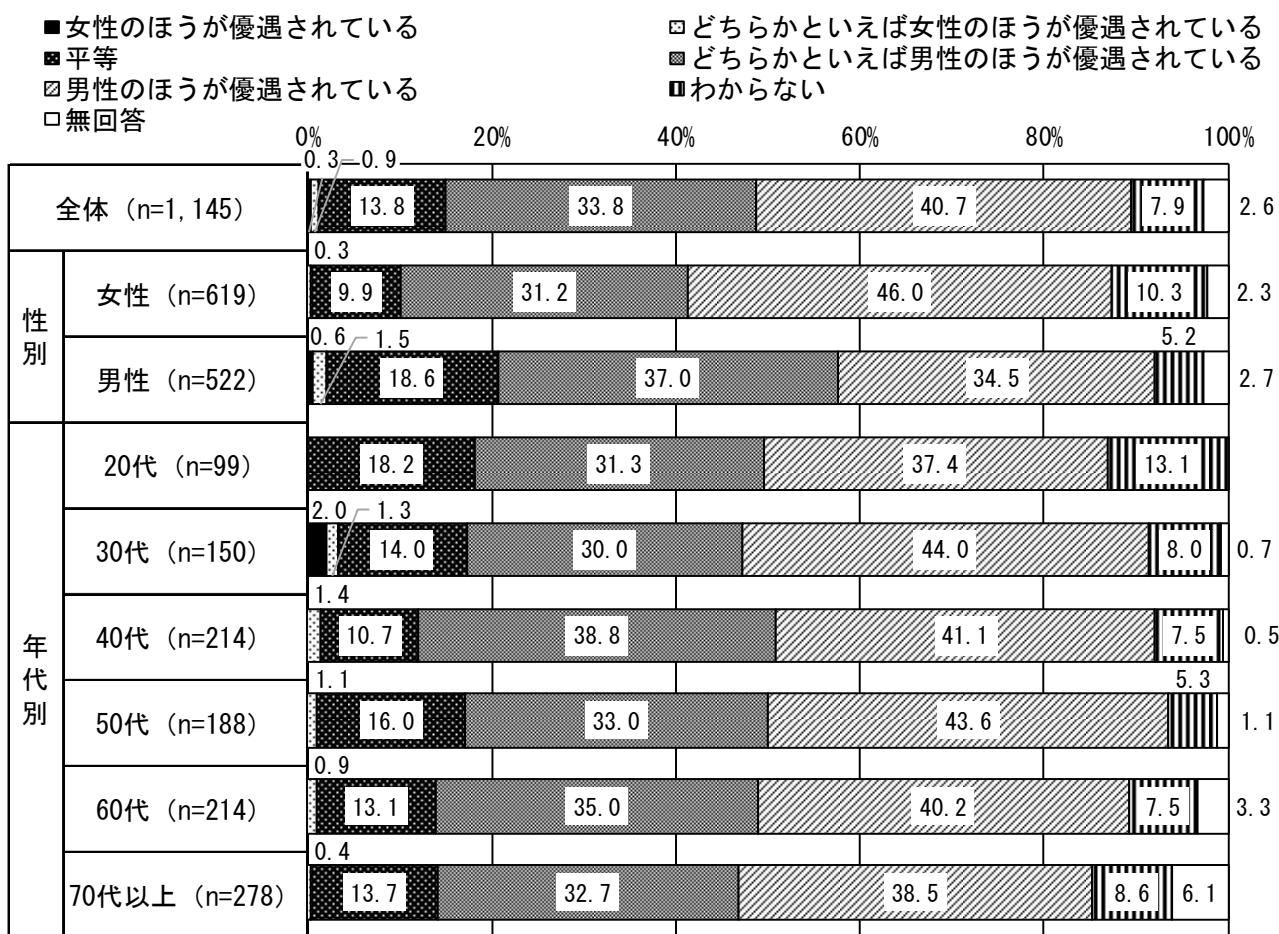
図表 14 ④法律や制度の上で（性別・年代別）



⑤政治の場で

- 「男性の方が優遇されている」が 40.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性のほうの方が優遇されている」(33.8%)、「平等」(13.8%)となっています。
- 性別では、女性で「男性のほうの方が優遇されている」が 11.5 ポイント、「わからない」が 5.1 ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「平等」が 8.7 ポイント、「どちらかといえば男性のほうの方が優遇されている」が 5.8 ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、20 代を除いて“男性優遇”が 7 割以上となっており、なかでも 40 代で 79.9%と、最も高くなっています。

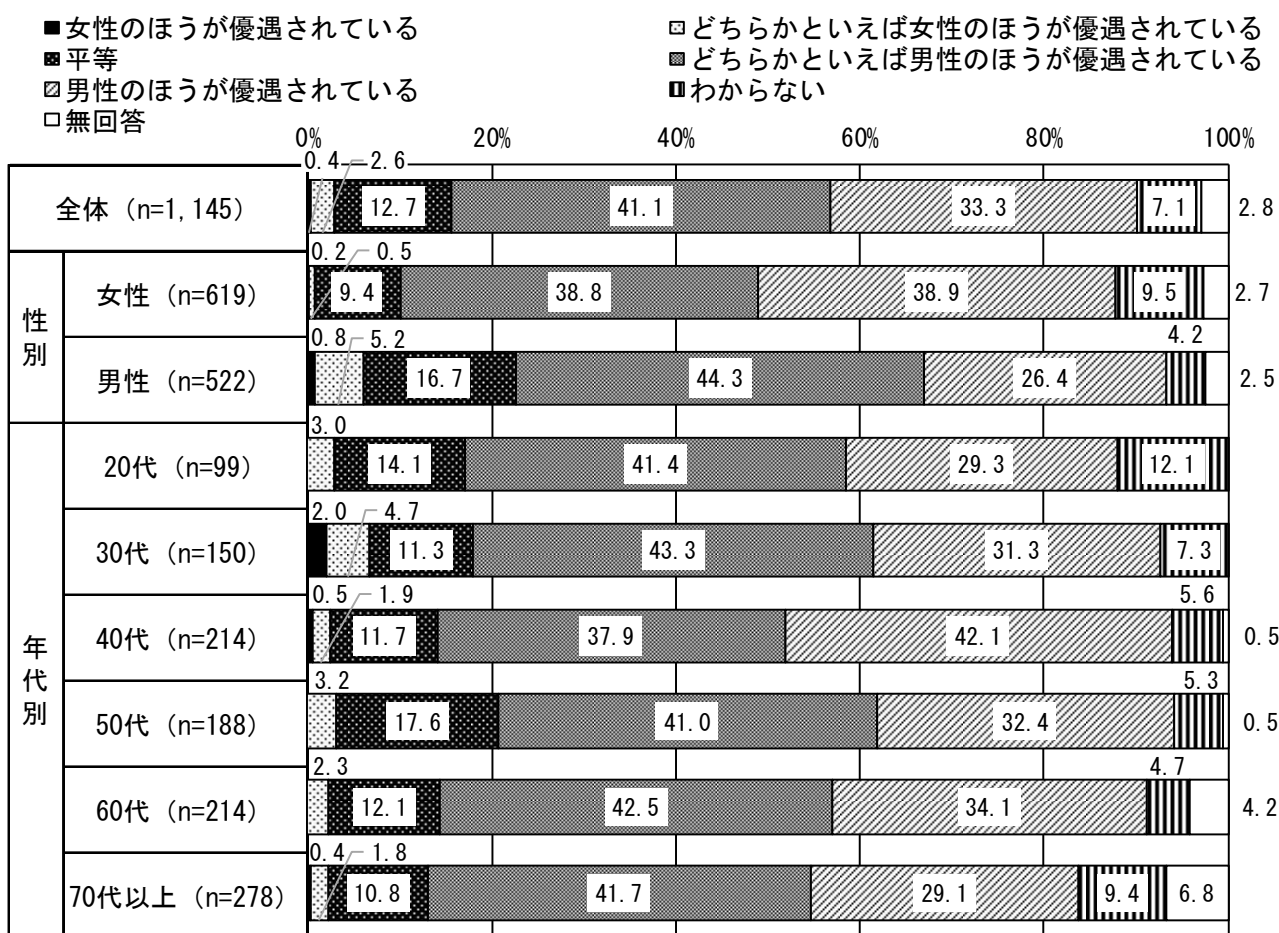
図表 15 ⑤政治の場で（性別・年代別）



⑥社会通念・慣習・しきたりなどで

- 「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 41.1%と最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」(33.3%)、「平等」(12.7%)となっています。
- 性別では、女性で「男性のほうが優遇されている」が 12.5 ポイント、「わからない」が 5.3 ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「平等」が 7.3 ポイント、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 5.5 ポイント、「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」が 4.7 ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「男性優遇」が7割以上となっており、なかでも40代で80.0%と、最も高くなっています。

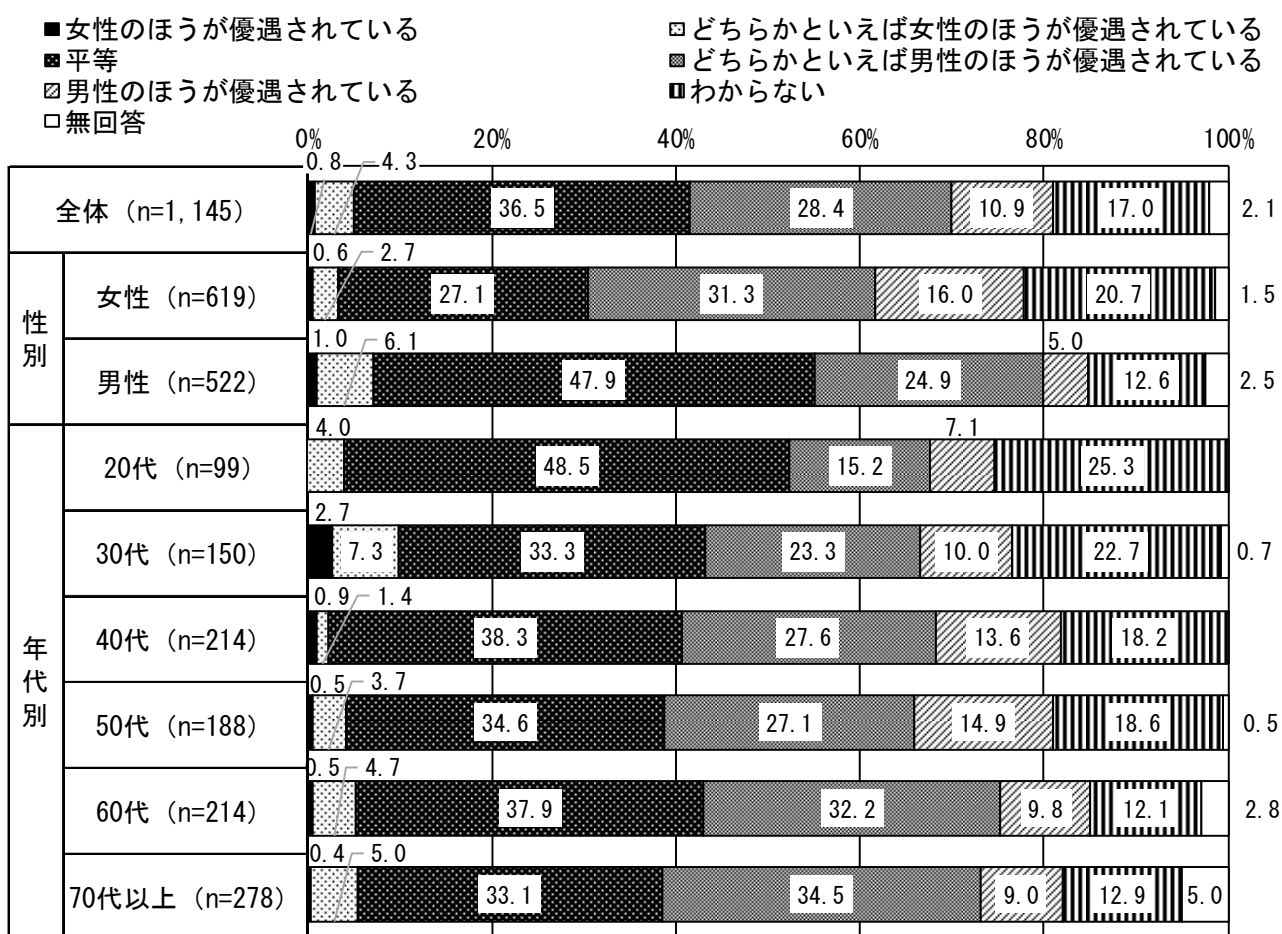
図表 16 ⑥社会通念・慣習・しきたりなどで（性別・年代別）



⑦地域活動・社会活動（自治会・NPOなど）で

- 「平等」が36.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（28.4%）、「わからない」（17.0%）、「男性のほうが優遇されている」（10.9%）となっています。
- 性別では、男性で「平等」が47.9%と、女性より20.8ポイント高くなっています。一方で、女性で“男性優遇”が17.4ポイント、「わからない」が8.1ポイント、それぞれ男性より高くなっています。
- 年代別では、20代で「平等」が48.5%と、他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

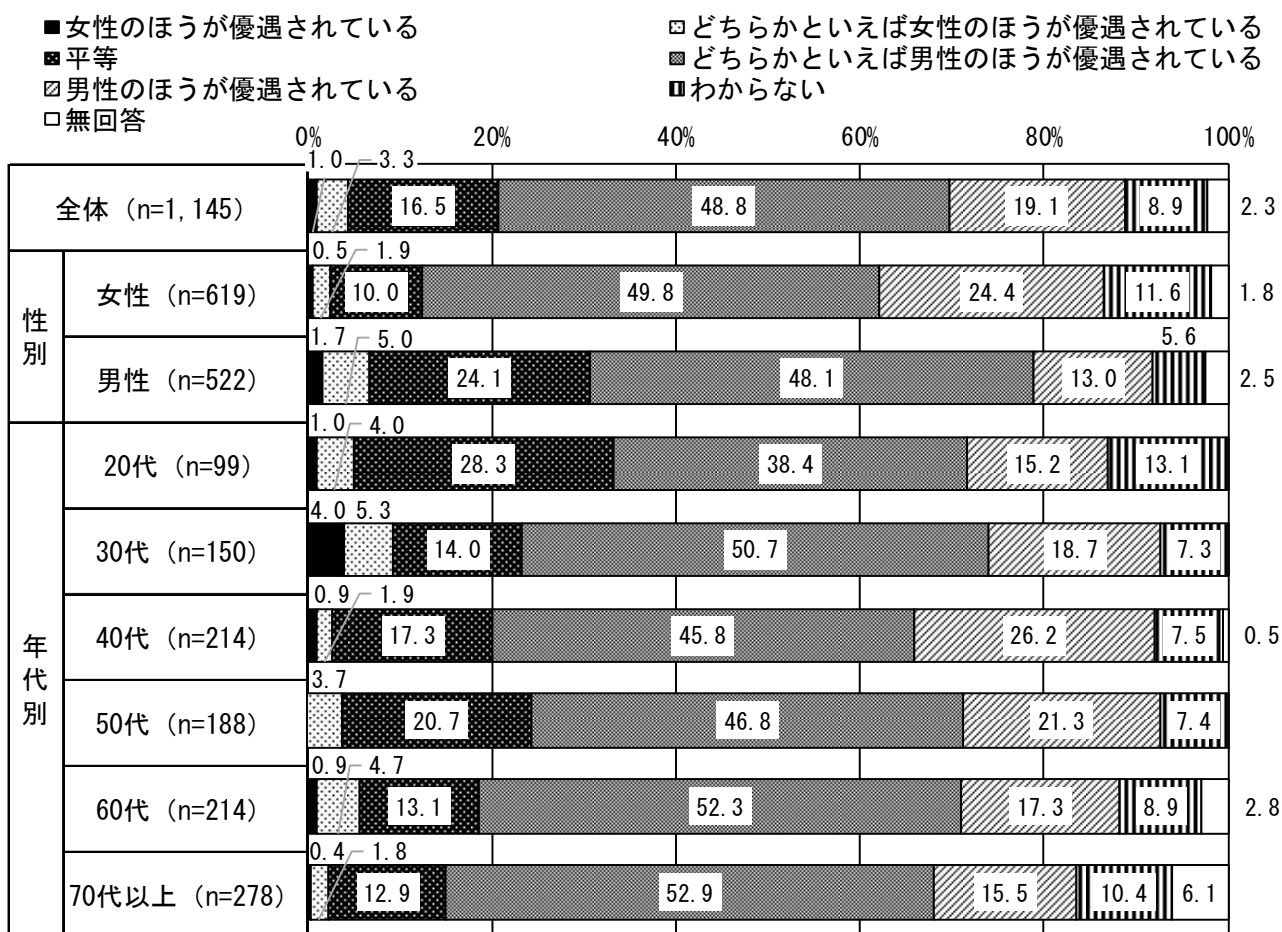
図表 17 ⑦地域活動・社会活動（自治会・NPOなど）で（性別・年代別）



⑧社会全体で

- 「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 48.8%と最も高く、次いで「男性のほうが優遇されている」(19.1%)、「平等」(16.5%)となっています。
- 性別では、男性で「平等」が 24.1%と、女性より 14.1 ポイント高くなっています。一方で、女性で「男性のほうが優遇されている」が 11.4 ポイント、「わからない」が 6.0 ポイント、それぞれ男性より高くなっています。
- 年代別では、20 代を除いて“男性優遇”が 6 割以上となっており、なかでも 40 代で 72.0%と、最も高くなっています。また、20 代で「平等」が 28.3%と、他の年代と比べて 10 ポイント以上高くなっています。

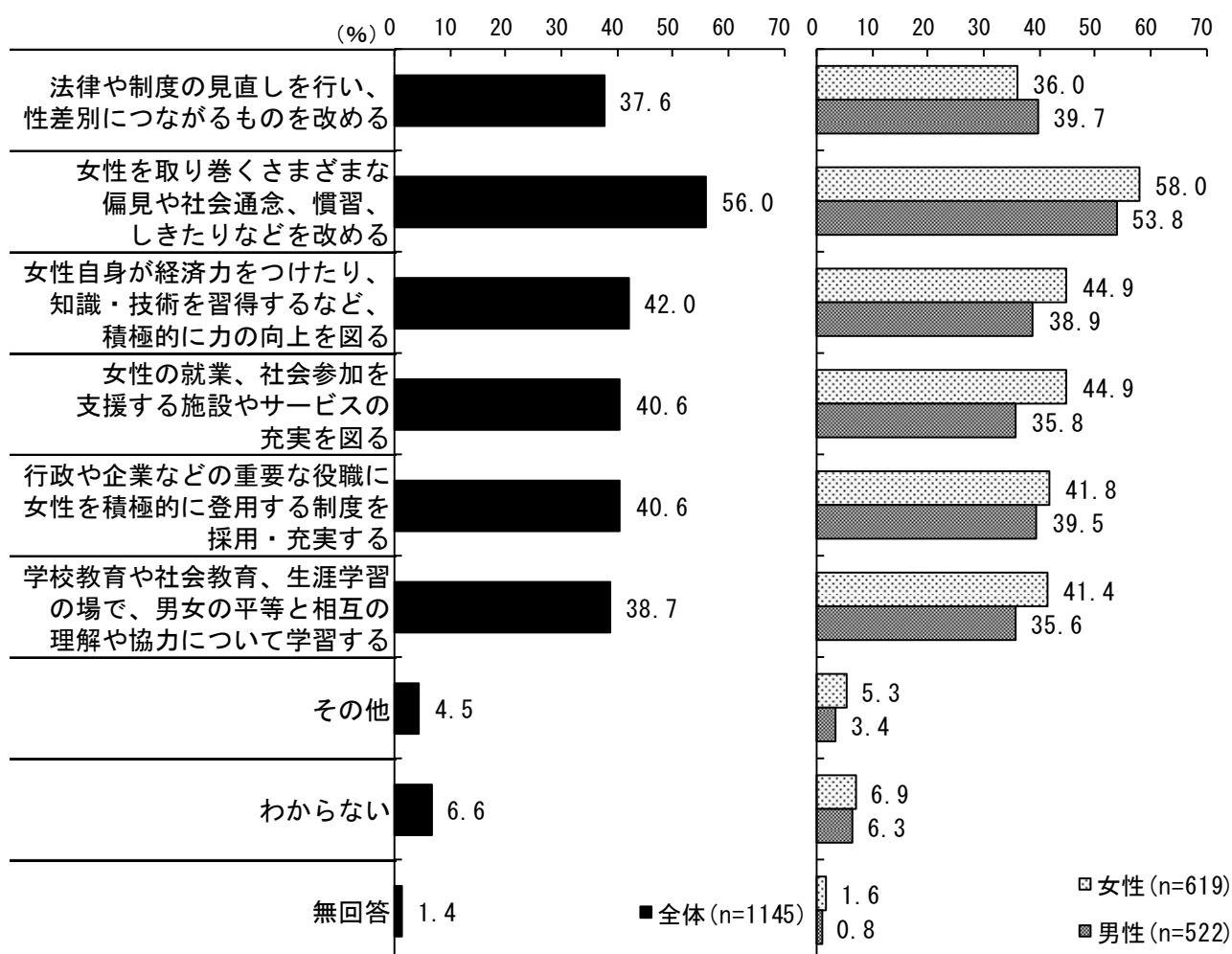
図表 18 ⑧社会全体で（性別・年代別）



問8 あなたは、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が必要だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- 「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が56.0%と最も高く、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」(42.0%)となっています。
- 性別では、「法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める」を除いて、女性が男性より高くなっています。なかでも、女性で「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が9.1ポイント、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」が6.0ポイント、「学校教育や社会教育、生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習する」が5.8ポイント、それぞれ男性より高くなっています。

図表 19 社会のあらゆる分野でもっと平等になるために必要なこと（性別）



その他意見

- 男女で区別するのではなく、個人の能力を評価する社会体制へと改める。
- 経済力をつけるには、女性が働きやすく、上にいきやすい環境を作る必要がある。
- 学校教育を筆頭に現代の価値観に見合った働き方、育て方、価値観、教科書等のアップデート。
- 男女が相互に尊重しあえる意識改革。 など

- 年代別では、いずれの年代も「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が最も高くなっており、なかでも 20 代と 30 代で 6 割以上となっています。また、30 代で「学校教育や社会教育、生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習する」が 48.0%、50 代で「法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める」が 45.2%、70 代以上で「行政や企業などの重要な役職に女性を積極的に登用する制度を採用・充実する」が 47.1%と、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

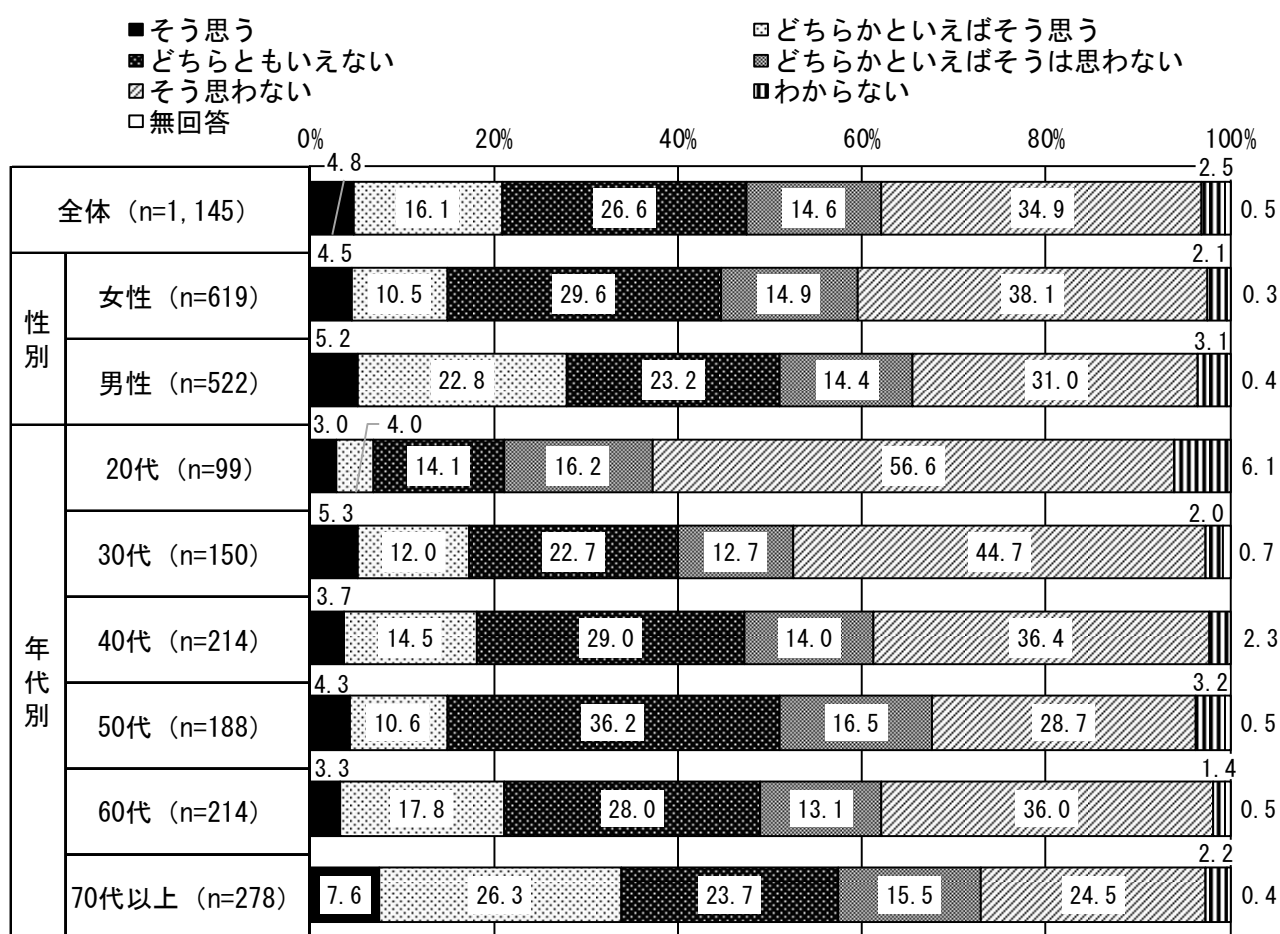
図表 20 社会のあらゆる分野でもっと平等になるために必要なこと（年代別）

		全体	性差別や制度の見直しを改める	法律や慣習、しきたりなど社会通念、慣習、さまざまな偏見などを改める	女性を取り巻くさまざまな偏見	女性自身を経済力をつけるなど、積極的・技術の向上を図る	女性施設やサービスの充実を支援する	女性の就業、社会参加の充実を支援する	行政や企業などの重要な役職に女性を積極的に登用する	行政や企業などの重要な役職に女性を積極的に登用する	理解や協力について学習する	学校や男女の平等と生涯学習の場	その他	わからない	無回答
全 体		1145	431	641	481	465	465	443	52	76	16				
		100.0	37.6	56.0	42.0	40.6	40.6	38.7	4.5	6.6	1.4				
年代別	20代	99	35	65	35	30	38	40	4	7	-				
		100.0	35.4	65.7	35.4	30.3	38.4	40.4	4.0	7.1	-				
	30代	150	55	94	70	70	55	72	13	9	-				
		100.0	36.7	62.7	46.7	46.7	36.7	48.0	8.7	6.0	-				
	40代	214	84	127	83	91	83	84	11	11	1				
		100.0	39.3	59.3	38.8	42.5	38.8	39.3	5.1	5.1	0.5				
	50代	188	85	101	74	73	71	62	8	15	-				
		100.0	45.2	53.7	39.4	38.8	37.8	33.0	4.3	8.0	-				
	60代	214	79	115	93	87	87	85	7	18	1				
		100.0	36.9	53.7	43.5	40.7	40.7	39.7	3.3	8.4	0.5				
	70代以上	278	93	139	126	114	131	100	9	16	12				
		100.0	33.5	50.0	45.3	41.0	47.1	36.0	3.2	5.8	4.3				

問9 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守る方が良い」といった固定的な性別役割分担について、どのように思いますか。（〇は1つ）

- 「そう思わない」が34.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」（26.6%）、「どちらかといえばそう思う」（16.1%）、「どちらかといえばそうは思わない」（14.6%）となっています。
- 性別では、男性で「どちらかといえばそう思う」が22.8%と、女性より12.3ポイント高くなっています。一方で、女性で「そう思わない」が7.1ポイント、「どちらともいえない」が6.4ポイント、それぞれ男性より高くなっています。
- 年代別では、20代で“反対派（「そう思わない」＋「どちらかといえばそうは思わない」）”が72.8%、70代以上で“賛成派（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）”が33.9%と、それぞれ他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

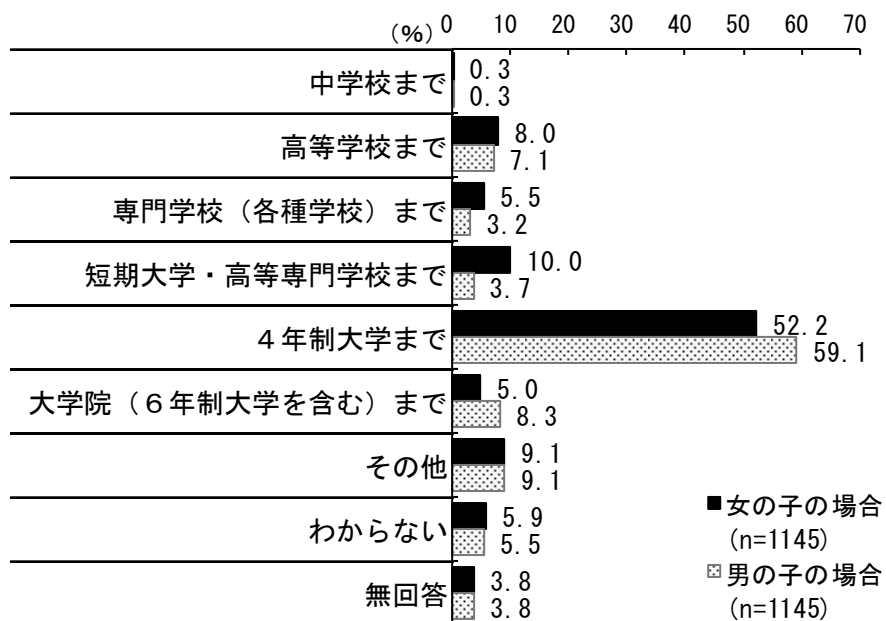
図表 21 固定的な性別役割分担について（性別・年代別）



問10 これからの子どもたちにはどこまで進学することを期待しますか。
(○はそれぞれ1つ)

- 「男の子の場合」で「4年制大学まで」が59.1%と、「女の子の場合」より6.9ポイント高くなっています。一方で、「女の子の場合」で「短期大学・高等専門学校まで」が10.0%と、「男の子の場合」より6.3ポイント高くなっています。

図表 22 期待する進路



その他意見（男女共通）

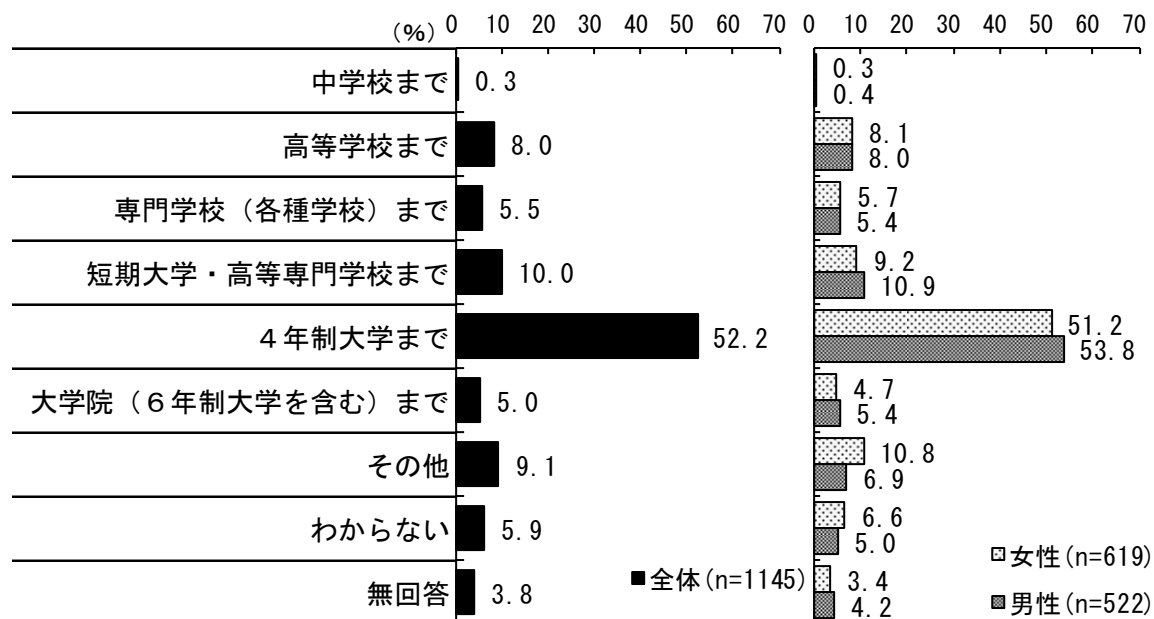
- 本人の希望による。
- 進学機会は平等が望まれるが、どこまで進学するかは個人の希望と能力に従う。
- 本人が決めること。親が決めることではない。
- 医者になりたいなら「大学院（6年制大学を含む）まで」、そうでないなら「4年制大学まで」
- 大学進学が当然になっているのはいかがでしょうかと思う。
- 資格が取れたり、公務員になったり、仕事に困らないのであれば学歴は拘らない。

など

女の子に期待する進路

- 「4年制大学まで」が52.2%と最も高く、次いで「短期大学・高等専門学校まで」(10.0%)、「その他」(9.1%)、「高等学校まで」(8.0%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、いずれの年代も「4年制大学まで」が最も高くなっています。また、20代で「大学院（6年制大学を含む）まで」が11.1%と、他の年代と比べて高くなっています。

図表 23 女の子に期待する進路（性別）



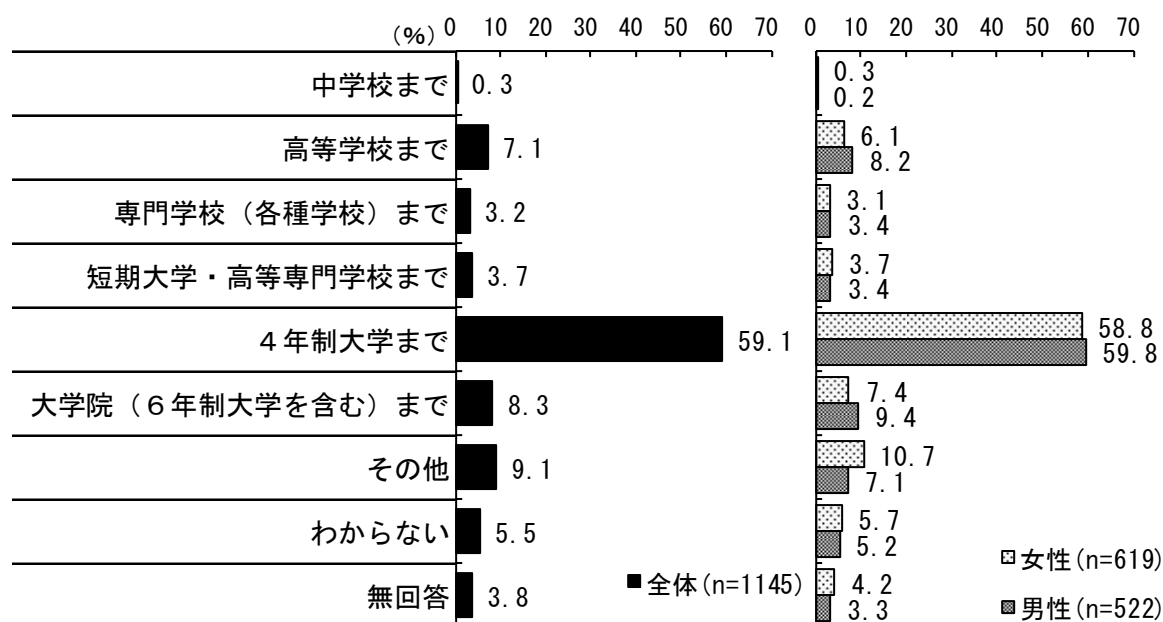
図表 24 女の子に期待する進路（年代別）

	全体	中学校まで	高等学校まで	専門学校（各種学校）まで	短期大学・高等専門学校まで	4年制大学まで	大学院（6年制大学を含む）まで	その他	わからない	無回答
全 体	1145	4	92	63	115	598	57	104	68	44
	100.0	0.3	8.0	5.5	10.0	52.2	5.0	9.1	5.9	3.8
年 代 別	20代	99	12	1	7	53	11	6	7	2
		100.0	12.1	1.0	7.1	53.5	11.1	6.1	7.1	2.0
	30代	150	3	23	6	9	5	13	6	6
		100.0	2.0	15.3	4.0	6.0	3.3	8.7	4.0	4.0
	40代	214	19	12	14	111	11	26	16	5
		100.0	8.9	5.6	6.5	51.9	5.1	12.1	7.5	2.3
	50代	188	1	10	13	21	8	21	13	3
		100.0	0.5	5.3	6.9	11.2	4.3	11.2	6.9	1.6
60代	214	10	13	23	114	13	22	7	12	
	100.0	4.7	6.1	10.7	53.3	6.1	10.3	3.3	5.6	
70代以上	278	18	18	40	143	9	16	19	15	
	100.0	6.5	6.5	14.4	51.4	3.2	5.8	6.8	5.4	

男の子に期待する進路

- 「4年制大学まで」が59.1%と最も高く、次いで「その他」(9.1%)、「大学院（6年制大学を含む）まで」(8.3%)、「高等学校まで」(7.1%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、いずれの年代も「4年制大学まで」が最も高く、なかでも60代と70代以上で6割以上となっています。また、30代で「高等学校まで」が16.7%と、他の年代と比べて高くなっています。

図表 25 男の子に期待する進路（性別）



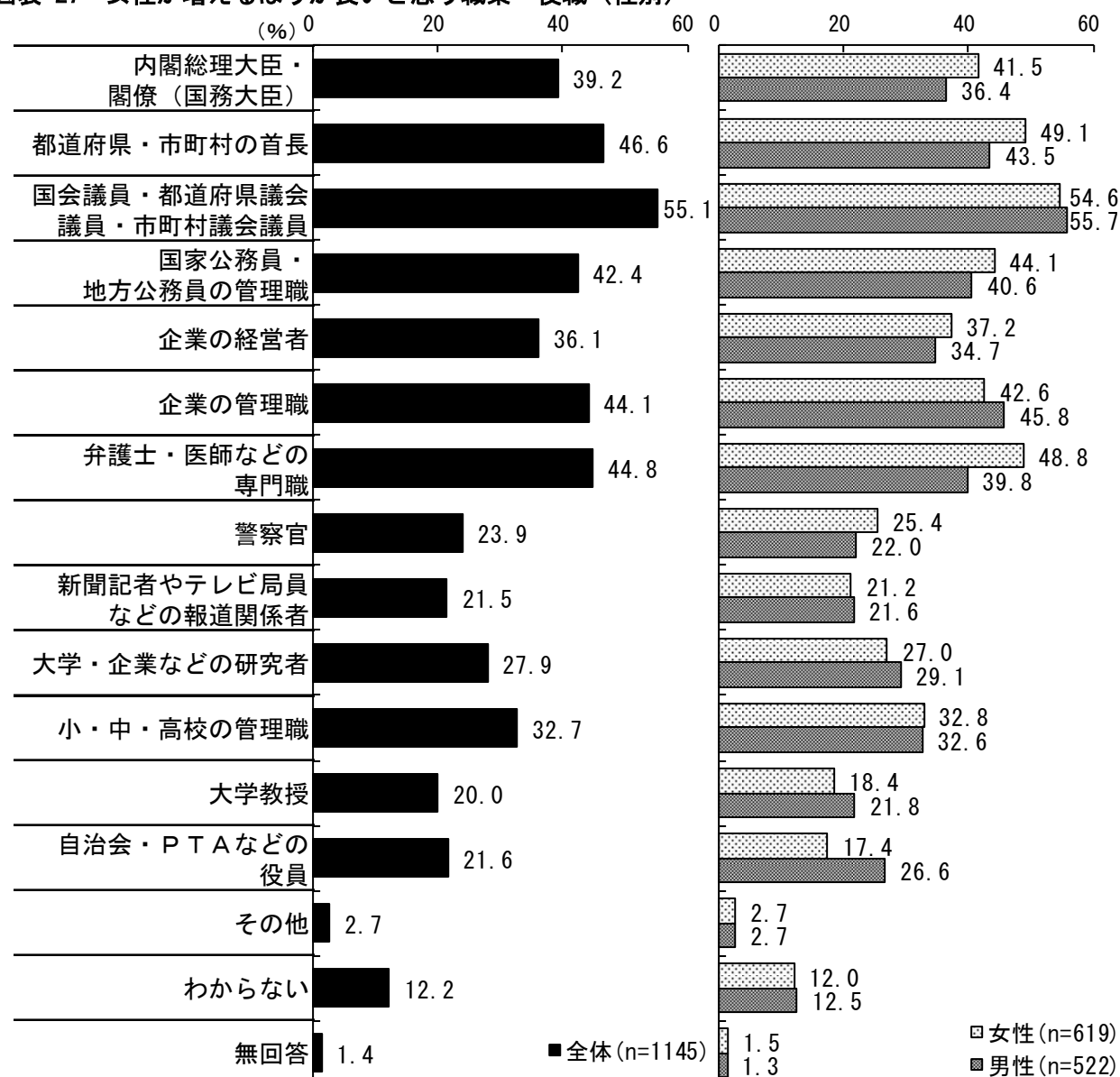
図表 26 男の子に期待する進路（年代別）

	全体	中学校まで	高等学校まで	専門学校（各種学校）まで	短期大学・高等専門学校まで	4年制大学まで	大学院（6年制大学を含む）まで	その他	わからない	無回答
全 体	1145	3	81	37	42	677	95	104	63	43
	100.0	0.3	7.1	3.2	3.7	59.1	8.3	9.1	5.5	3.8
年代別	20代	99	—	10	—	4	56	14	6	—
		100.0	—	10.1	—	4.0	56.6	14.1	6.1	—
	30代	150	2	25	1	4	81	11	13	5
		100.0	1.3	16.7	0.7	2.7	54.0	7.3	8.7	3.3
	40代	214	—	16	7	9	121	15	25	14
		100.0	—	7.5	3.3	4.2	56.5	7.0	11.7	6.5
	50代	188	1	12	7	7	110	12	21	13
		100.0	0.5	6.4	3.7	3.7	58.5	6.4	11.2	6.9
	60代	214	—	7	12	6	133	17	22	7
		100.0	—	3.3	5.6	2.8	62.1	7.9	10.3	3.3
	70代以上	278	—	11	10	11	175	26	17	15
		100.0	—	4.0	3.6	4.0	62.9	9.4	6.1	5.4

問11 あなたが、女性が増えるほうが良いと思う職業や役職は何ですか。
(当てはまるもの全てに○)

- 「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」が 55.1%と最も高く、次いで「都道府県・市町村の首長」(46.6%)、「弁護士・医師などの専門職」(44.8%)、「企業の管理職」(44.1%)、「国家公務員・地方公務員の管理職」(42.4%)、「内閣総理大臣・閣僚(国務大臣)」(39.2%)となっています。
- 性別では、男性で「自治会・PTAなどの役員」が 26.6%と、女性より 9.2 ポイント高くなっています。一方で、女性で「弁護士・医師などの専門職」が 9.0 ポイント、「都道府県・市町村の首長」が 5.6 ポイント、「内閣総理大臣・閣僚(国務大臣)」が 5.1 ポイント、それぞれ男性より高くなっています。

図表 27 女性が増えるほうが良いと思う職業・役職(性別)



その他意見

- 女性が増えるというより、女性が自由に選べる、性別を意識せず、色々な職業を選べる社会にしてほしい。
 - 全ての職に就いて同等に。
 - 男女問わず適した者がつけばよい。
- など

- 年代別では、いずれの年代も「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」が最も高く、なかでも 30 代と 60 代で約 6 割になっています。また、20 代で「警察官」が 34.3%、30 代で「内閣総理大臣・閣僚（国務大臣）」が 54.7%、「国家公務員・地方公務員の管理職」が 52.7%と、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

図表 28 女性が増えるほうが良いと思う職業・役職（年代別）

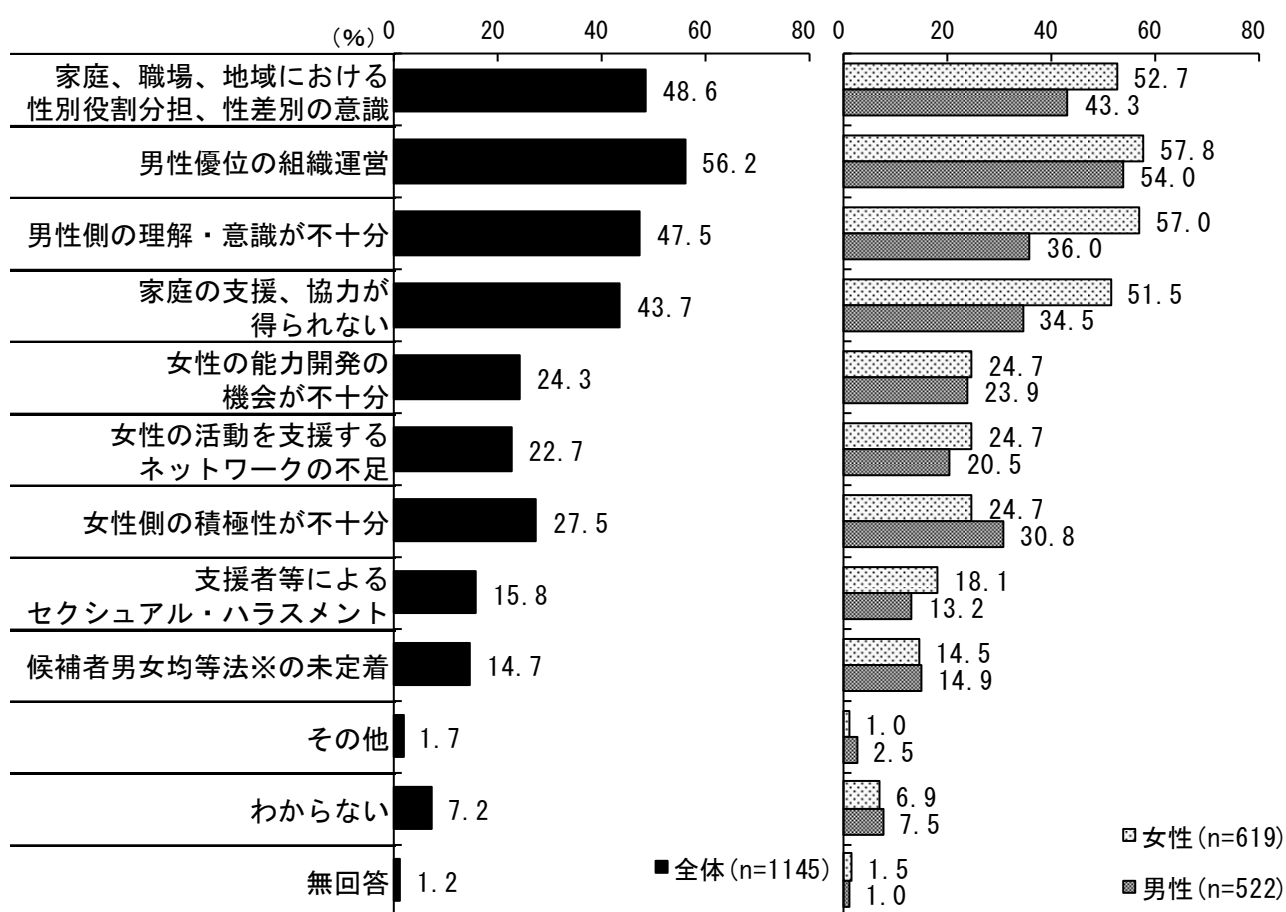
		全 体	内閣 総理 大臣・ 閣僚 (国務大臣)	市都 道府 村の 首長	・都 道府 議会 議員 ・市 町村 議会 議員	公 務 員 の 管 理 ・ 地 方 公 務 員 の 管 理 ・ 職	企 業 の 経 営 者	企 業 の 管 理 職	弁 護 士 ・ 医 師 な ど の 専 門 職	警 察 官
全 体		1145	449	533	631	486	413	505	513	274
		100.0	39.2	46.6	55.1	42.4	36.1	44.1	44.8	23.9
年 代 別	20代	99	48	51	53	47	48	47	44	34
		100.0	48.5	51.5	53.5	47.5	48.5	47.5	44.4	34.3
	30代	150	82	85	91	79	68	84	63	43
		100.0	54.7	56.7	60.7	52.7	45.3	56.0	42.0	28.7
	40代	214	99	117	119	99	103	112	93	61
		100.0	46.3	54.7	55.6	46.3	48.1	52.3	43.5	28.5
	50代	188	76	74	94	65	54	74	77	39
		100.0	40.4	39.4	50.0	34.6	28.7	39.4	41.0	20.7
	60代	214	69	93	128	89	73	96	98	41
		100.0	32.2	43.5	59.8	41.6	34.1	44.9	45.8	19.2
	70代以上	278	74	112	145	106	66	91	137	55
		100.0	26.6	40.3	52.2	38.1	23.7	32.7	49.3	19.8

		報 道 関 係 者 の テ レ ビ 局 員 な ど の	新 聞 記 者 や 研 究 者 ・ 企 業 な ど の	大 学 教 授 ・ 中 ・ 高 校 の 管 理 職	大 学 教 授	自 治 会 ・ P T A な ど の 役 員	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		246	320	374	229	247	31	140	16
		21.5	27.9	32.7	20.0	21.6	2.7	12.2	1.4
年 代 別	20代	19	26	32	22	15	1	15	-
		19.2	26.3	32.3	22.2	15.2	1.0	15.2	-
	30代	35	40	55	35	27	4	16	-
		23.3	26.7	36.7	23.3	18.0	2.7	10.7	-
	40代	49	62	83	44	36	9	26	-
		22.9	29.0	38.8	20.6	16.8	4.2	12.1	-
	50代	33	45	56	30	35	6	21	2
		17.6	23.9	29.8	16.0	18.6	3.2	11.2	1.1
	60代	46	66	68	45	56	7	23	5
		21.5	30.8	31.8	21.0	26.2	3.3	10.7	2.3
	70代以上	63	80	79	52	78	4	38	9
		22.7	28.8	28.4	18.7	28.1	1.4	13.7	3.2

問12 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由は何だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- 「男性優位の組織運営」が56.2%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」（48.6%）、「男性側の理解・意識が不十分」（47.5%）、「家庭の支援、協力が得られない」（43.7%）となっています。
- 性別では、女性で「男性側の理解・意識が不十分」が21.0ポイント、「家庭の支援、協力が得られない」が17.0ポイント、「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」が9.4ポイントと、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「女性側の積極性が不十分」が30.8%と、女性より6.1ポイント高くなっています。

図表 29 政治・行政において女性参画が進んでいない理由（性別）



※「政治分野における男女共同参画推進法」
できるだけ候補者数を男女均等にするよう政党等に努力を求める法律

- 年代別では、20代と30代で「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」、40代以上で「男性優位の組織運営」が、それぞれ最も高くなっています。また、30代と40代で「男性側の理解・意識が不十分」と「家庭の支援、協力が得られない」がともに5割以上と、他の年代と比べて高くなっています。

図表 30 政治・行政において女性参画が進んでいない理由（年代別）

		全 体	性 差 別 の 意 識	地 域 に お け る 職 場 、 組 織 運 営 の	男 性 優 位 の	男 性 側 の 理 解 ・ 意 識 が 不 十 分	家 庭 の 支 援 、 協 力 が 得 ら れ な い	機 会 が 不 十 分	女 性 の 能 力 開 発 の	女 性 の 活 動 を 支 援 す る ネ ッ ト ワ ー ク の 不 足
全 体		1145	556	643	544	500	278	260		
		100.0	48.6	56.2	47.5	43.7	24.3	22.7		
年 代 別	20代	99	58	44	47	42	23	23		
		100.0	58.6	44.4	47.5	42.4	23.2	23.2		
	30代	150	86	83	84	77	32	46		
		100.0	57.3	55.3	56.0	51.3	21.3	30.7		
	40代	214	122	130	119	108	41	36		
		100.0	57.0	60.7	55.6	50.5	19.2	16.8		
	50代	188	84	115	87	79	41	42		
		100.0	44.7	61.2	46.3	42.0	21.8	22.3		
	60代	214	94	117	96	95	52	50		
		100.0	43.9	54.7	44.9	44.4	24.3	23.4		
	70代以上	278	110	152	109	99	89	63		
		100.0	39.6	54.7	39.2	35.6	32.0	22.7		

		女 性 側 の 積 極 性 が 不 十 分	支 援 者 等 に よ る ハ ラ ス メ ン ト ル	候 補 者 男 女 均 等 法 の 未 定 着	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		315	181	168	20	82	14
		27.5	15.8	14.7	1.7	7.2	1.2
年 代 別	20代	18	23	13	-	8	-
		18.2	23.2	13.1	-	8.1	-
	30代	40	28	24	3	8	-
		26.7	18.7	16.0	2.0	5.3	-
	40代	54	40	30	7	8	-
		25.2	18.7	14.0	3.3	3.7	-
	50代	46	36	27	3	13	1
		24.5	19.1	14.4	1.6	6.9	0.5
	60代	57	27	24	6	16	5
		26.6	12.6	11.2	2.8	7.5	2.3
	70代以上	99	27	50	1	29	8
		35.6	9.7	18.0	0.4	10.4	2.9

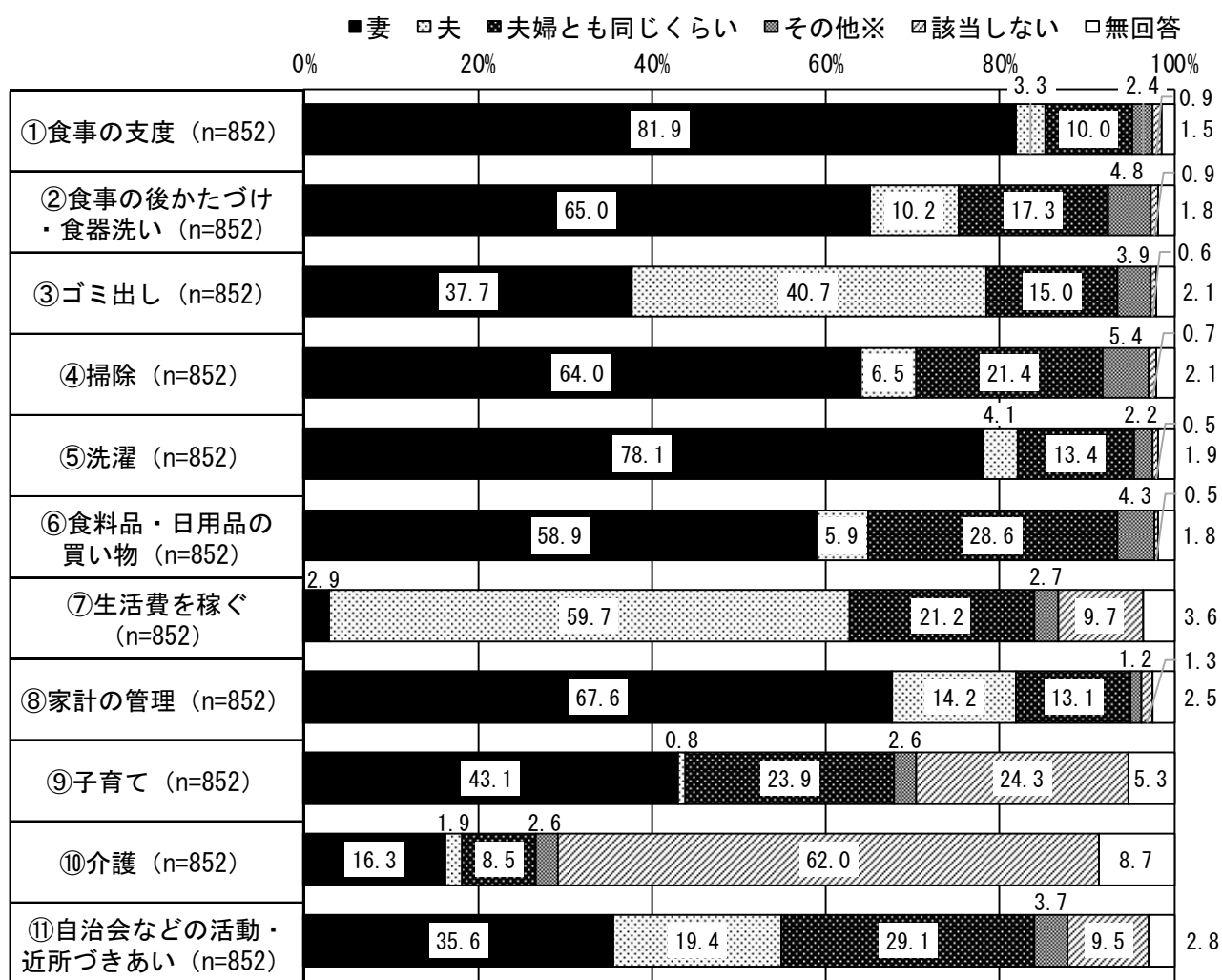
3 家庭における家事などの分担について

問3で「結婚している」「結婚していないが、異性のパートナーがいる」と答えた方

問13 あなたの家庭で、次の家事などは主にどなたが担っていますか。（〇はそれぞれ1つ）

- 「妻」をみると、「①食事の支度」が81.9%と最も高く、次いで「⑤洗濯」（78.1%）、「⑧家計の管理」（67.6%）、「②食事の後かたづけ・食器洗い」（65.0%）、「④掃除」（64.0%）となっています。
- 「夫」をみると、「⑦生活費を稼ぐ」が59.7%と最も高く、次いで「③ゴミ出し」（40.7%）となっています。
- 「夫婦とも同じくらい」をみると、「⑪自治会などの活動・近所づきあい」が29.1%と最も高く、次いで「⑥食料品・日用品の買い物」（28.6%）となっています。

図表 31 家事の役割分担

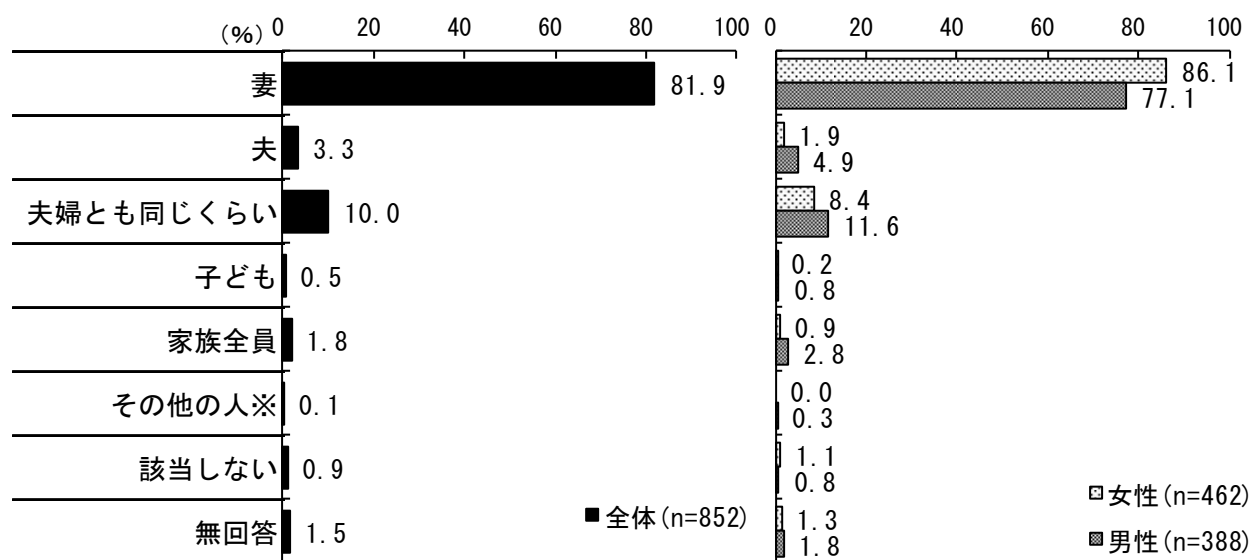


※「子ども」＋「家族全員」＋「その他の人（有償サービスの利用など）」

①食事の支度

- 「妻」が81.9%と最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」(10.0%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が86.1%と、男性より9.0ポイント高くなっています。
- 年代別※では、いずれの年代も「妻」が8割以上となっており、なかでも40代で86.5%と、最も高くなっています。

図表 32 ①食事の支度（性別）



※有償サービスの利用など

図表 33 ①食事の支度（年代別）

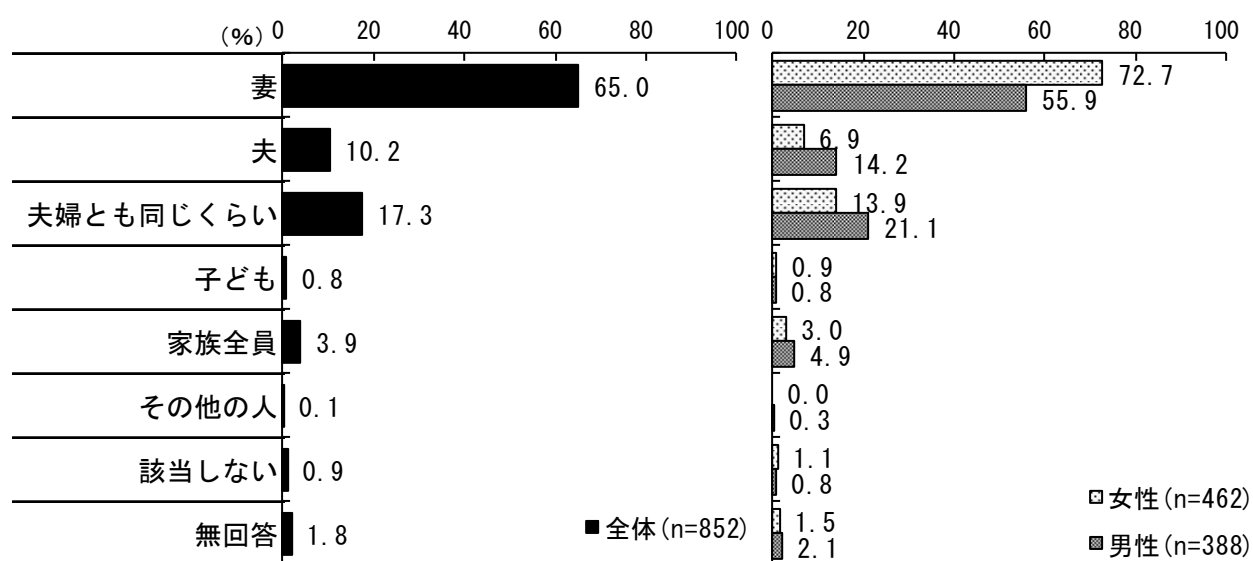
	全体	妻	夫	夫婦とも 同じくらい	子ども	家族 全員	その他 の人	該当 しない	無 回答
全 体	852 100.0	698 81.9	28 3.3	85 10.0	4 0.5	15 1.8	1 0.1	8 0.9	13 1.5
年 代 別	20代	27 100.0	18 66.7	3 11.1	3 11.1	2 7.4	1 3.7	-	-
	30代	107 100.0	87 81.3	3 2.8	12 11.2	2 1.9	-	2 1.9	-
	40代	171 100.0	148 86.5	4 2.3	15 8.8	3 1.8	-	1 0.6	-
	50代	144 100.0	120 83.3	5 3.5	14 9.7	3 2.1	-	2 1.4	-
	60代	180 100.0	145 80.6	6 3.3	20 11.1	3 1.7	-	1 0.6	5 2.8
	70代以上	223 100.0	180 80.7	7 3.1	21 9.4	2 0.9	-	2 0.9	8 3.6

※20代は回答が少ないため、参考程度とします。以下の「②食事の後かたづけ・食器洗い」から「⑪自治会などの活動・近所づきあい」に関しても同様です。

②食事の後かたづけ・食器洗い

- 「妻」が65.0%と最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」(17.3%)、「夫」(10.2%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が72.7%と、男性より16.8ポイント高くなっています。一方で、男性で「夫」が7.3ポイント、「夫婦とも同じくらい」が7.2ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、30代を除いて「妻」が6割以上となっており、なかでも70代以上で68.6%と、最も高くなっています。また、30代で「夫婦とも同じくらい」が28.0%と、他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 34 ②食事の後かたづけ・食器洗い（性別）



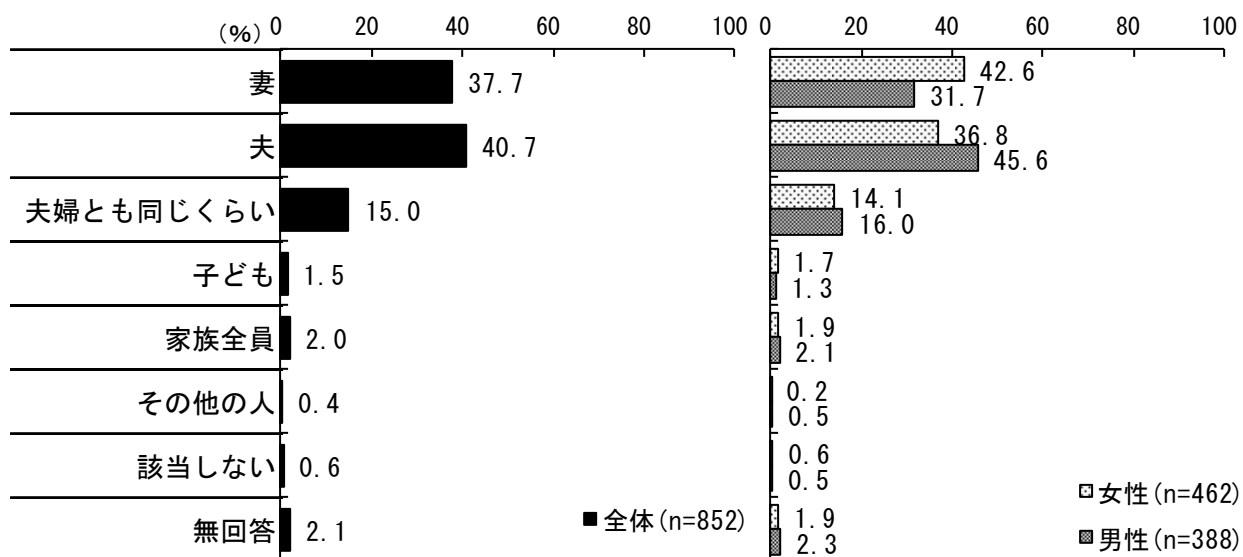
図表 35 ②食事の後かたづけ・食器洗い（年代別）

		全体	妻	夫	夫婦とも同じくらい	子ども	家族全員	その他の人	該当しない	無回答
全 体		852	554	87	147	7	33	1	8	15
		100.0	65.0	10.2	17.3	0.8	3.9	0.1	0.9	1.8
年 代 別	20代	27	12	6	5	-	2	1	1	-
		100.0	44.4	22.2	18.5	-	7.4	3.7	3.7	-
	30代	107	59	13	30	1	3	-	1	-
		100.0	55.1	12.1	28.0	0.9	2.8	-	0.9	-
	40代	171	114	17	26	3	9	-	1	1
		100.0	66.7	9.9	15.2	1.8	5.3	-	0.6	0.6
	50代	144	96	15	24	-	7	-	2	-
		100.0	66.7	10.4	16.7	-	4.9	-	1.4	-
	60代	180	120	16	30	-	8	-	1	5
		100.0	66.7	8.9	16.7	-	4.4	-	0.6	2.8
	70代以上	223	153	20	32	3	4	-	2	9
		100.0	68.6	9.0	14.3	1.3	1.8	-	0.9	4.0

③ゴミ出し

- 「夫」が40.7%と最も高く、次いで「妻」(37.7%)、「夫婦とも同じくらい」(15.0%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が42.6%と、男性より10.9ポイント高くなっています。一方で、男性で「夫」が45.6%と、女性より8.8ポイント高くなっています。
- 年代別では、30代と70代以上は「夫」、40代から60代にかけては「妻」が、それぞれ最も高くなっています。

図表 36 ③ゴミ出し（性別）



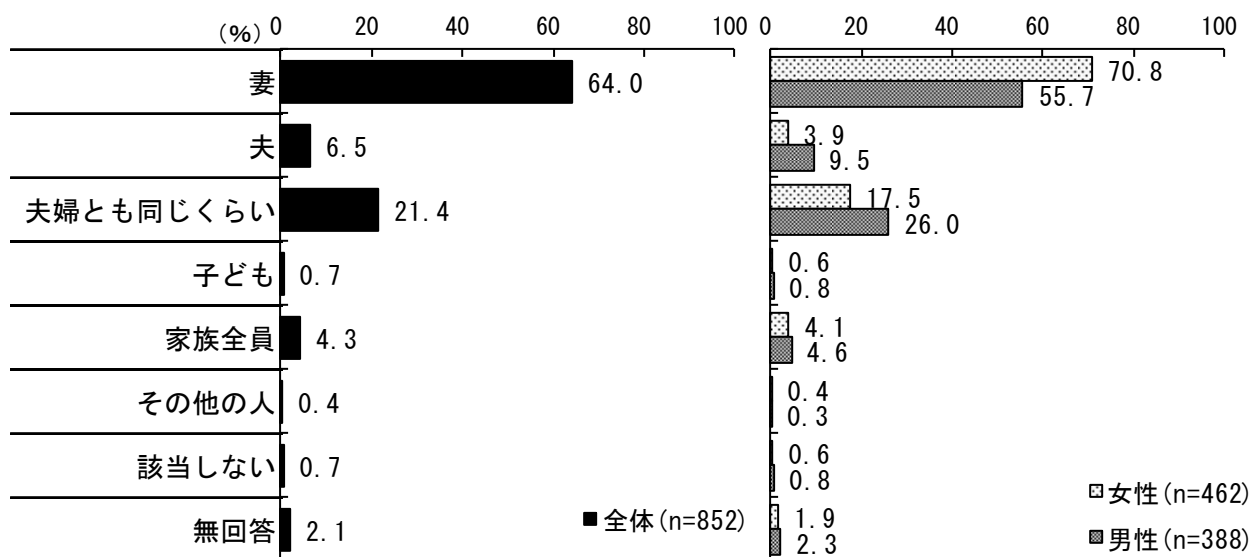
図表 37 ③ゴミ出し（年代別）

		全体	妻	夫	同夫婦ともい	子ども	家族全員	その他の人	該当しない	無回答
全 体		852	321	347	128	13	17	3	5	18
		100.0	37.7	40.7	15.0	1.5	2.0	0.4	0.6	2.1
年 代 別	20代	27	5	13	7	-	1	1	-	-
		100.0	18.5	48.1	25.9	-	3.7	3.7	-	-
	30代	107	28	55	15	4	5	-	-	-
		100.0	26.2	51.4	14.0	3.7	4.7	-	-	-
	40代	171	74	65	17	4	6	1	2	2
		100.0	43.3	38.0	9.9	2.3	3.5	0.6	1.2	1.2
	50代	144	65	46	23	2	2	1	3	2
		100.0	45.1	31.9	16.0	1.4	1.4	0.7	2.1	1.4
	60代	180	80	58	34	-	3	-	-	5
		100.0	44.4	32.2	18.9	-	1.7	-	-	2.8
	70代以上	223	69	110	32	3	-	-	-	9
		100.0	30.9	49.3	14.3	1.3	-	-	-	4.0

④掃除

- 「妻」が64.0%と最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」(21.4%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が70.8%と、男性より15.1ポイント高くなっています。一方で、男性で「夫婦とも同じくらい」が8.5ポイント、「夫」が5.6ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「妻」が最も高くなっており、なかでも40代と50代で約7割となっています。

図表 38 ④掃除（性別）



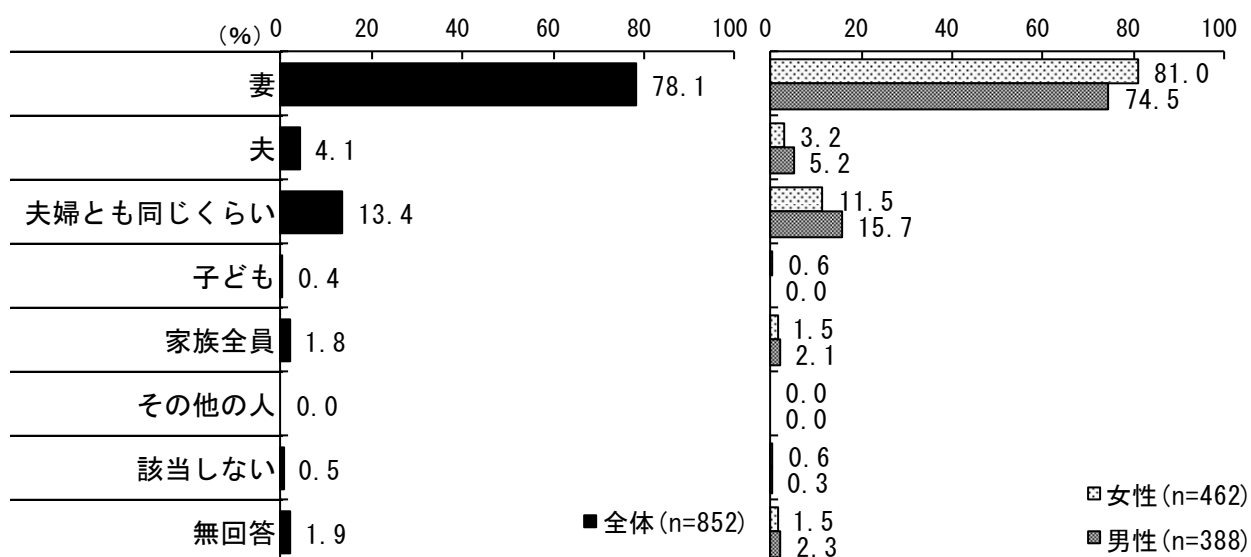
図表 39 ④掃除（年代別）

		全体	妻	夫	夫婦とも 同じくらい	子ども	家族 全員	その 他の 人	該 当 し な い	無 回 答
全 体		852	545	55	182	6	37	3	6	18
		100.0	64.0	6.5	21.4	0.7	4.3	0.4	0.7	2.1
年 代 別	20代	27	15	2	6	-	3	1	-	-
		100.0	55.6	7.4	22.2	-	11.1	3.7	-	-
	30代	107	69	6	24	1	7	-	-	-
		100.0	64.5	5.6	22.4	0.9	6.5	-	-	-
	40代	171	120	8	33	2	6	-	1	1
		100.0	70.2	4.7	19.3	1.2	3.5	-	0.6	0.6
	50代	144	100	8	24	-	9	-	3	-
		100.0	69.4	5.6	16.7	-	6.3	-	2.1	-
	60代	180	109	10	47	1	5	-	1	7
		100.0	60.6	5.6	26.1	0.6	2.8	-	0.6	3.9
	70代以上	223	132	21	48	2	7	2	1	10
		100.0	59.2	9.4	21.5	0.9	3.1	0.9	0.4	4.5

⑤洗濯

- 「妻」が78.1%と最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」(13.4%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が81.0%と、男性より6.5ポイント高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「妻」が7割以上となっており、なかでも50代で84.0%と、最も高くなっています。また、30代で「夫婦とも同じくらい」が21.5%と、他の年代と比べて高くなっています。

図表 40 ⑤洗濯（性別）



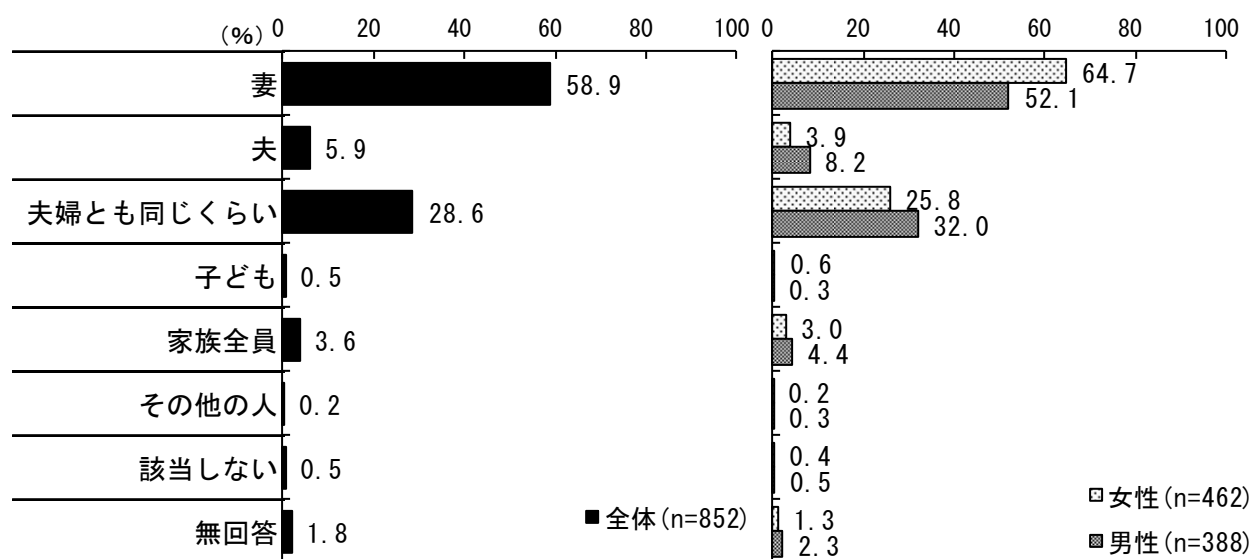
図表 41 ⑤洗濯（年代別）

	全体	妻	夫	夫婦とも同じくらい	子ども	家族全員	その他の人	該当しない	無回答
全 体	852 100.0	665 78.1	35 4.1	114 13.4	3 0.4	15 1.8	-	4 0.5	16 1.9
年代別	20代	27 100.0	16 59.3	3 11.1	7 25.9	-	1 3.7	-	-
	30代	107 100.0	76 71.0	5 4.7	23 21.5	-	3 2.8	-	-
	40代	171 100.0	135 78.9	5 2.9	24 14.0	1 0.6	4 2.3	1 0.6	1 0.6
	50代	144 100.0	121 84.0	4 2.8	16 11.1	-	1 0.7	2 1.4	-
	60代	180 100.0	141 78.3	6 3.3	24 13.3	1 0.6	3 1.7	-	5 2.8
	70代以上	223 100.0	176 78.9	12 5.4	20 9.0	1 0.4	3 1.3	1 0.4	10 4.5

⑥食料品・日用品の買い物

- 「妻」が58.9%と最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」(28.6%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が64.7%と、男性より12.6ポイント高くなっています。一方で、男性で「夫婦とも同じくらい」が32.0%と、女性より6.2ポイント高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「妻」が最も高くなっており、なかでも40代と50代で6割以上となっています。

図表 42 ⑥食料品・日用品の買い物（性別）



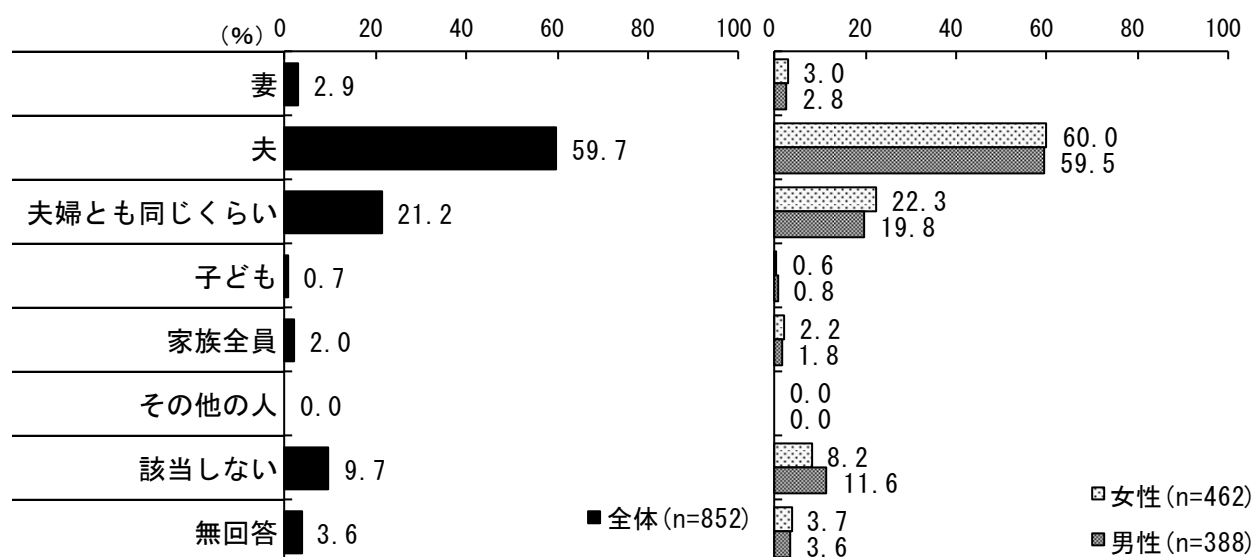
図表 43 ⑥食料品・日用品の買い物（年代別）

	全体	妻	夫	夫婦とも 同じくらい	子ども	家族 全員	その 他の 人	該 当 し な い	無 回 答
全 体	852 100.0	502 58.9	50 5.9	244 28.6	4 0.5	31 3.6	2 0.2	4 0.5	15 1.8
年 代 別	20代	27 100.0	8 29.6	3 11.1	12 44.4	- -	3 11.1	1 3.7	- -
	30代	107 100.0	63 58.9	7 6.5	31 29.0	- -	6 5.6	- -	- -
	40代	171 100.0	112 65.5	7 4.1	43 25.1	- -	5 2.9	1 0.6	2 1.2
	50代	144 100.0	98 68.1	7 4.9	33 22.9	- -	4 2.8	2 1.4	- -
	60代	180 100.0	106 58.9	9 5.0	56 31.1	1 0.6	4 2.2	- -	4 2.2
	70代以上	223 100.0	115 51.6	17 7.6	69 30.9	3 1.3	9 4.0	1 0.4	9 4.0

⑦生活費を稼ぐ

- 「夫」が59.7%と最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」(21.2%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、いずれの年代も「夫」が最も高く、なかでも40代と50代で7割以上となっています。また、30代で「夫婦とも同じくらい」が35.5%と、他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 44 ⑦生活費を稼ぐ（性別）



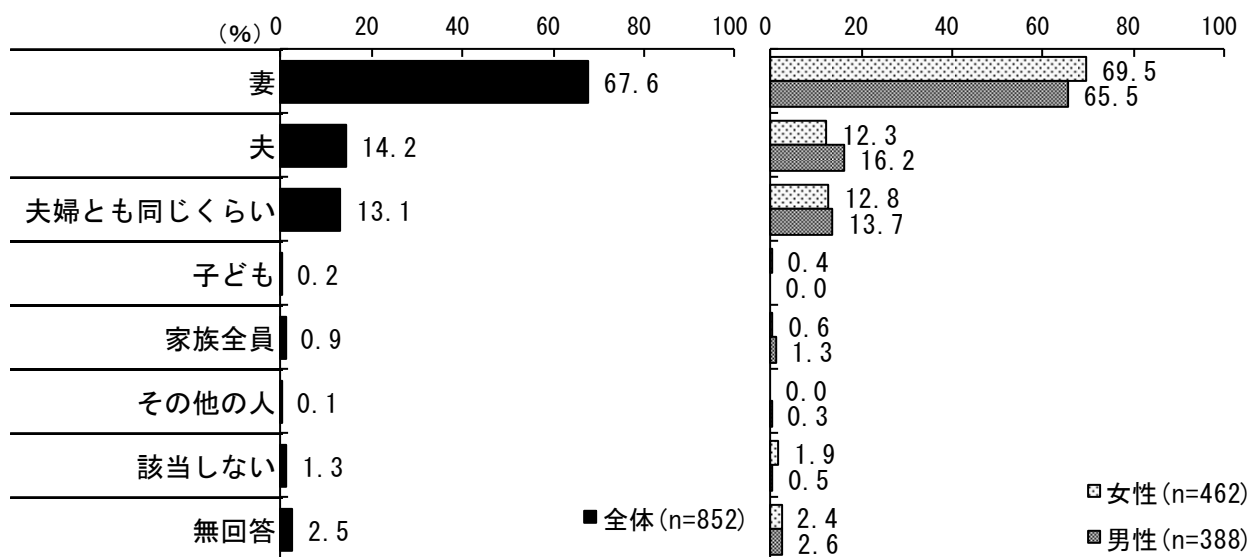
図表 45 ⑦生活費を稼ぐ（年代別）

	全体	妻	夫	同 夫 じ 婦 く と ら も い	子 ど も	家 族 全 員	そ の 他 の 人	該 当 し な い	無 回 答
全 体	852 100.0	25 2.9	509 59.7	181 21.2	6 0.7	17 2.0	-	83 9.7	31 3.6
年 代 別	20代	27 100.0	1 3.7	15 55.6	8 29.6	- 11.1	3 -	- -	- -
	30代	107 100.0	2 1.9	66 61.7	38 35.5	- 0.9	1 -	- -	- -
	40代	171 100.0	3 1.8	127 74.3	37 21.6	- 1.2	2 -	- -	2 1.2
	50代	144 100.0	8 5.6	109 75.7	25 17.4	- 0.7	1 -	1 0.7	- -
	60代	180 100.0	6 3.3	99 55.0	38 21.1	3 1.7	6 3.3	- 12.2	6 3.3
	70代以上	223 100.0	5 2.2	93 41.7	35 15.7	3 1.3	4 1.8	- 26.9	23 10.3

⑧家計の管理

- 「妻」が67.6%と最も高く、次いで「夫」(14.2%)、「夫婦とも同じくらい」(13.1%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、いずれの年代も「妻」が最も高くなっており、なかでも50代で76.4%と、最も高くなっています。また、30代で「夫婦とも同じくらい」が23.4%と、他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 46 ⑧家計の管理（性別）



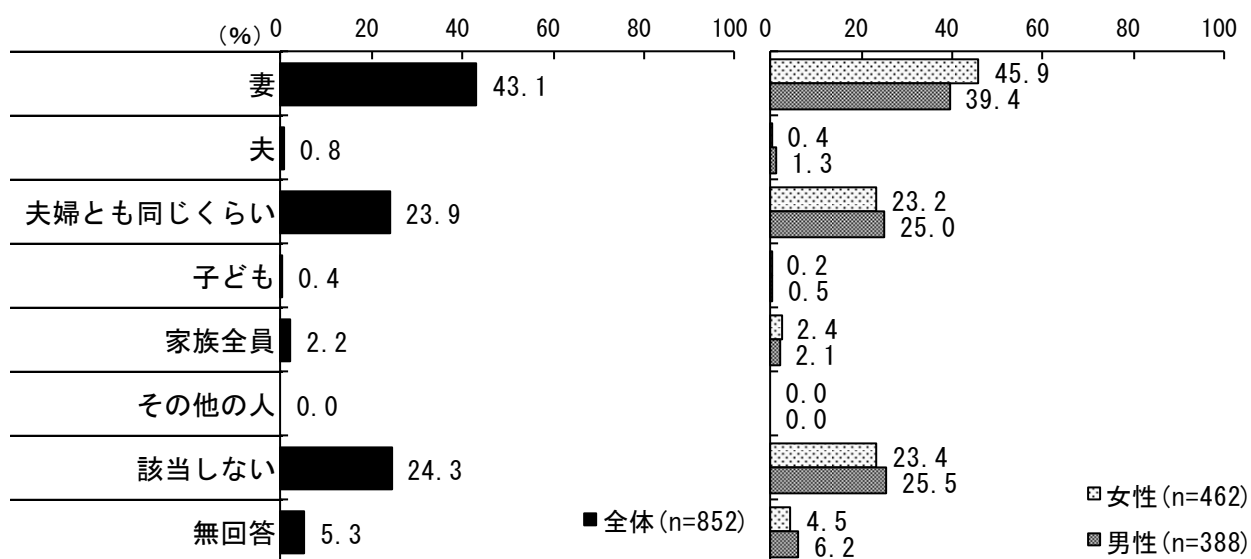
図表 47 ⑧家計の管理（年代別）

		全体	妻	夫	夫婦とも 同じくらい	子ども	家族 全員	その 他の 人	該 当 し な い	無 回 答
全 体		852	576	121	112	2	8	1	11	21
		100.0	67.6	14.2	13.1	0.2	0.9	0.1	1.3	2.5
年 代 別	20代	27	12	8	5	-	1	-	1	-
		100.0	44.4	29.6	18.5	-	3.7	-	3.7	-
	30代	107	64	13	25	-	2	-	3	-
		100.0	59.8	12.1	23.4	-	1.9	-	2.8	-
	40代	171	118	26	22	-	-	-	2	3
		100.0	69.0	15.2	12.9	-	-	-	1.2	1.8
	50代	144	110	19	12	-	1	-	1	1
		100.0	76.4	13.2	8.3	-	0.7	-	0.7	0.7
	60代	180	124	27	20	-	1	1	1	6
		100.0	68.9	15.0	11.1	-	0.6	0.6	0.6	3.3
	70代以上	223	148	28	28	2	3	-	3	11
		100.0	66.4	12.6	12.6	0.9	1.3	-	1.3	4.9

⑨子育て

- 「妻」が43.1%と最も高く、次いで「該当しない」(24.3%)、「夫婦とも同じくらい」(23.9%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が45.9%と、男性より6.5ポイント高くなっています。
- 年代別では、70代以上を除いて「妻」が最も高くなっており、なかでも40代と50代で5割以上となっています。

図表 48 ⑨子育て（性別）



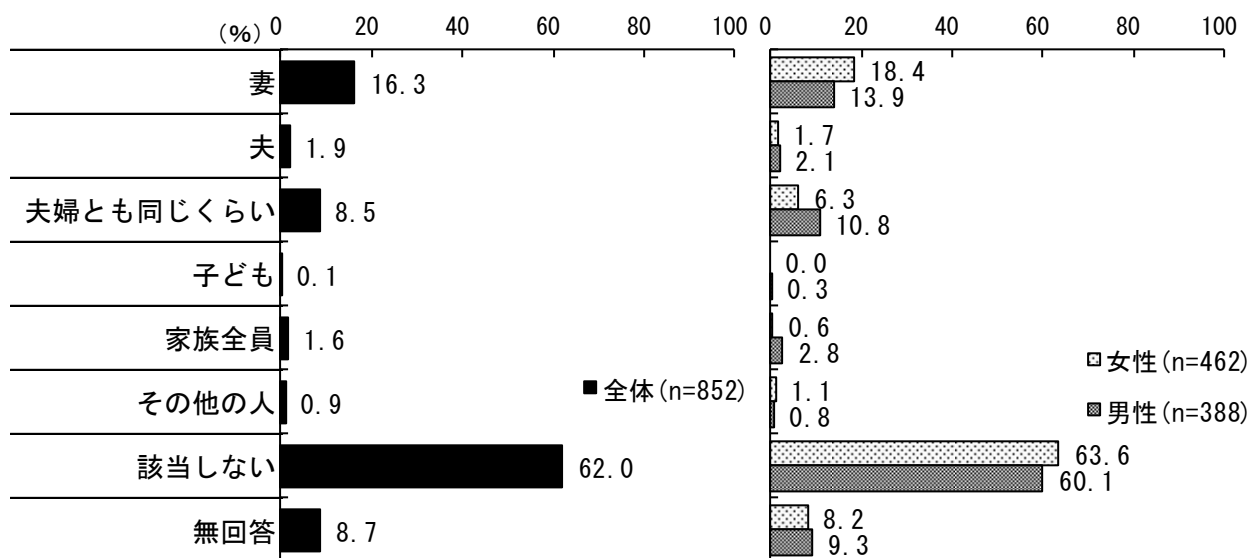
図表 49 ⑨子育て（年代別）

		全体	妻	夫	夫婦とも 同じくらい	子ども	家族 全員	その 他の人	該当 しない	無 回答
全 体		852	367	7	204	3	19	-	207	45
		100.0	43.1	0.8	23.9	0.4	2.2	-	24.3	5.3
年 代 別	20代	27	6	-	10	-	3	-	7	1
		100.0	22.2	-	37.0	-	11.1	-	25.9	3.7
	30代	107	45	2	39	-	2	-	19	-
		100.0	42.1	1.9	36.4	-	1.9	-	17.8	-
	40代	171	92	1	58	-	2	-	16	2
		100.0	53.8	0.6	33.9	-	1.2	-	9.4	1.2
	50代	144	76	-	40	-	2	-	21	5
		100.0	52.8	-	27.8	-	1.4	-	14.6	3.5
	60代	180	76	3	28	1	4	-	58	10
		100.0	42.2	1.7	15.6	0.6	2.2	-	32.2	5.6
	70代以上	223	72	1	29	2	6	-	86	27
		100.0	32.3	0.4	13.0	0.9	2.7	-	38.6	12.1

⑩介護

- 「該当しない」が62.0%と最も高く、次いで「妻」(16.3%)、「夫婦とも同じくらい」(8.5%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が18.4%と、男性より4.5ポイント高くなっています。一方で、男性で「夫婦とも同じくらい」が10.8%と、女性より4.5ポイント高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「該当しない」が最も高くなっています。また、50代以上で「妻」が2割以上となっています。

図表 50 ⑩介護（性別）



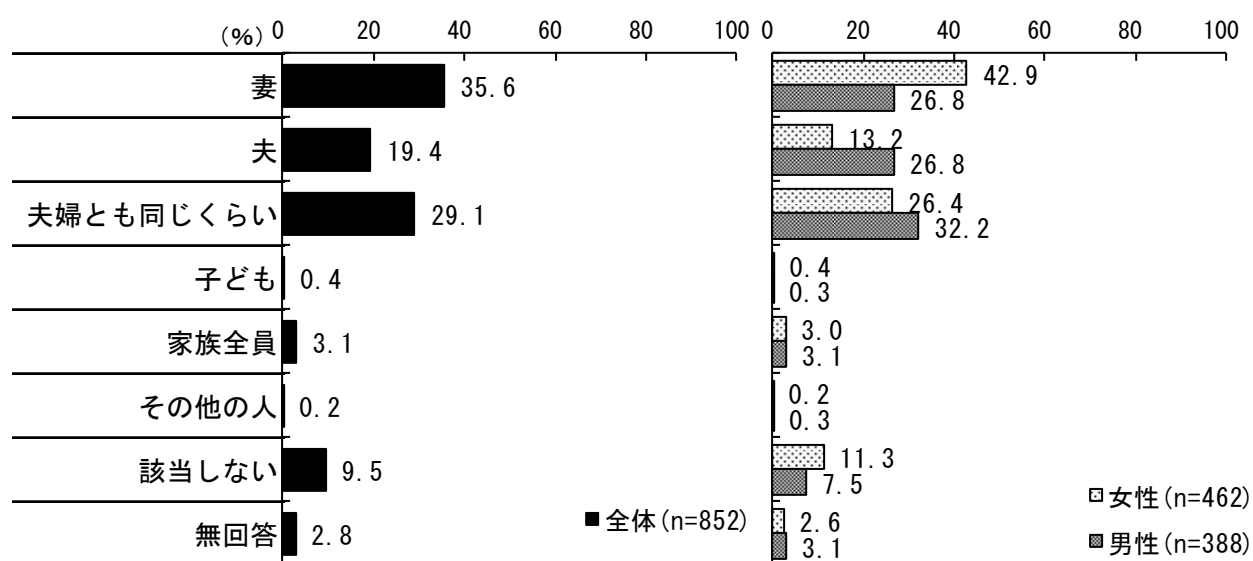
図表 51 ⑩介護（年代別）

		全体	妻	夫	夫婦とも 同じくらい	子ども	家族 全員	その他 の人	該当 しない	無回 答
全 体		852	139	16	72	1	14	8	528	74
		100.0	16.3	1.9	8.5	0.1	1.6	0.9	62.0	8.7
年 代 別	20代	27	2	1	1	-	3	-	19	1
		100.0	7.4	3.7	3.7	-	11.1	-	70.4	3.7
	30代	107	7	2	4	-	1	2	90	1
		100.0	6.5	1.9	3.7	-	0.9	1.9	84.1	0.9
	40代	171	15	-	13	-	2	-	137	4
		100.0	8.8	-	7.6	-	1.2	-	80.1	2.3
	50代	144	33	3	15	-	1	4	81	7
		100.0	22.9	2.1	10.4	-	0.7	2.8	56.3	4.9
	60代	180	37	6	18	1	5	1	92	20
		100.0	20.6	3.3	10.0	0.6	2.8	0.6	51.1	11.1
	70代以上	223	45	4	21	-	2	1	109	41
		100.0	20.2	1.8	9.4	-	0.9	0.4	48.9	18.4

⑪自治会などの活動・近所づきあい

- 「妻」が35.6%と最も高く、次いで「夫婦とも同じくらい」(29.1%)、「夫」(19.4%)となっています。
- 性別では、女性で「妻」が42.9%と、男性より16.1ポイント高くなっています。一方で、男性で「夫」が13.6ポイント、「夫婦とも同じくらい」が5.8ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、30代と70代以上で「夫婦とも同じくらい」、40代から60代にかけて「妻」が、それぞれ最も高くなっています。なかでも、40代で「妻」が52.0%と、最も高くなっています。

図表 52 ⑪自治会などの活動・近所づきあい（性別）



図表 53 ⑪自治会などの活動・近所づきあい（年代別）

	全体	妻	夫	夫婦とも同じくらい	子ども	家族全員	その他の人	該当しない	無回答
全 体	852	303	165	248	3	26	2	81	24
	100.0	35.6	19.4	29.1	0.4	3.1	0.2	9.5	2.8
年 代 別	20代	27	4	6	2	4	-	11	-
		100.0	14.8	22.2	7.4	14.8	-	40.7	-
	30代	107	29	11	31	8	-	28	-
		100.0	27.1	10.3	29.0	7.5	-	26.2	-
	40代	171	89	16	44	4	-	15	2
		100.0	52.0	9.4	25.7	2.3	-	8.8	1.2
	50代	144	60	21	45	3	2	11	2
		100.0	41.7	14.6	31.3	2.1	1.4	7.6	1.4
	60代	180	60	50	57	2	-	5	6
		100.0	33.3	27.8	31.7	1.1	-	2.8	3.3
	70代以上	223	61	61	69	5	-	11	14
		100.0	27.4	27.4	30.9	2.2	-	4.9	6.3

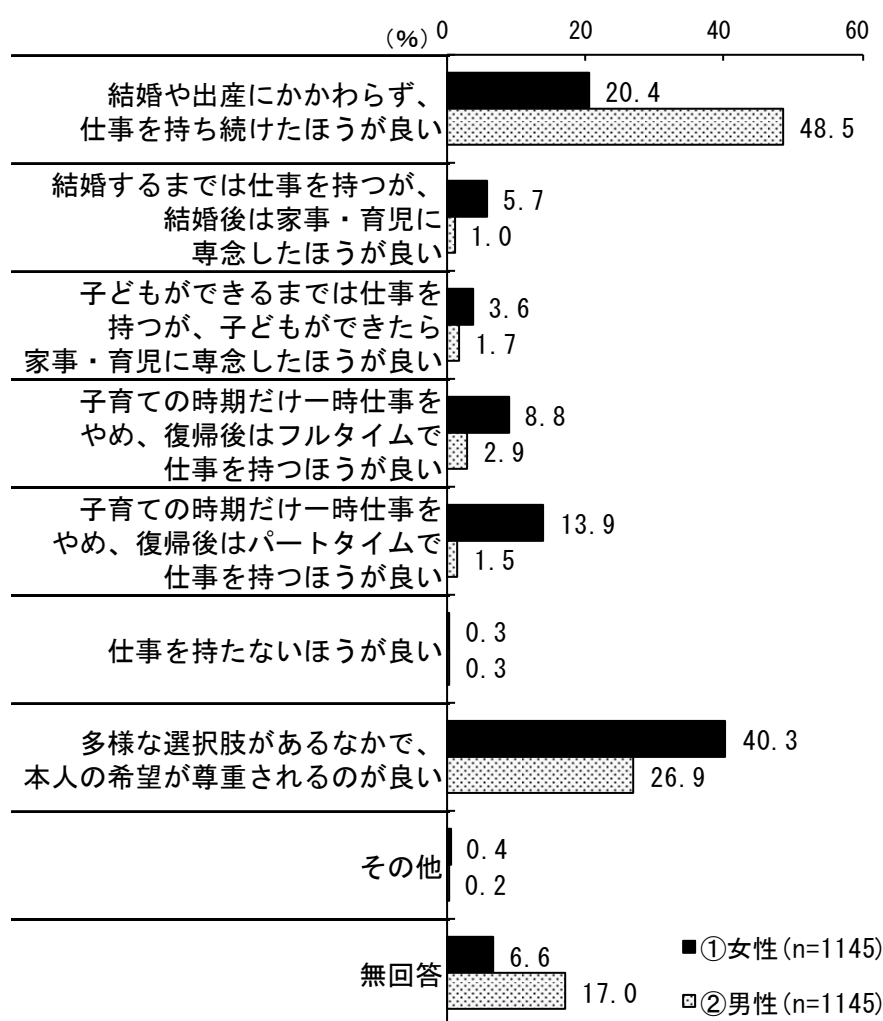
4 仕事と育児・介護休業などについて

問14 女性及び男性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。

(○はそれぞれ1つ) ※「結婚」は、事実婚も含めます

- 「結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けたほうが良い」を除いて、「①女性」が「②男性」より高くなっています。なかでも、「①女性」で「多様な選択肢があるなかで、本人の希望が尊重されるのが良い」が 13.4 ポイント、「子育ての時期だけ一時仕事をやめ、復帰後はパートタイムで仕事を持つほうが良い」が 12.4 ポイント、「子育ての時期だけ一時仕事をやめ、復帰後はフルタイムで仕事を持つほうが良い」が 5.9 ポイント、それぞれ「②男性」より高くなっています。一方で、「②男性」で「結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けたほうが良い」が 48.5%と、「①女性」より 28.1 ポイント高くなっています。

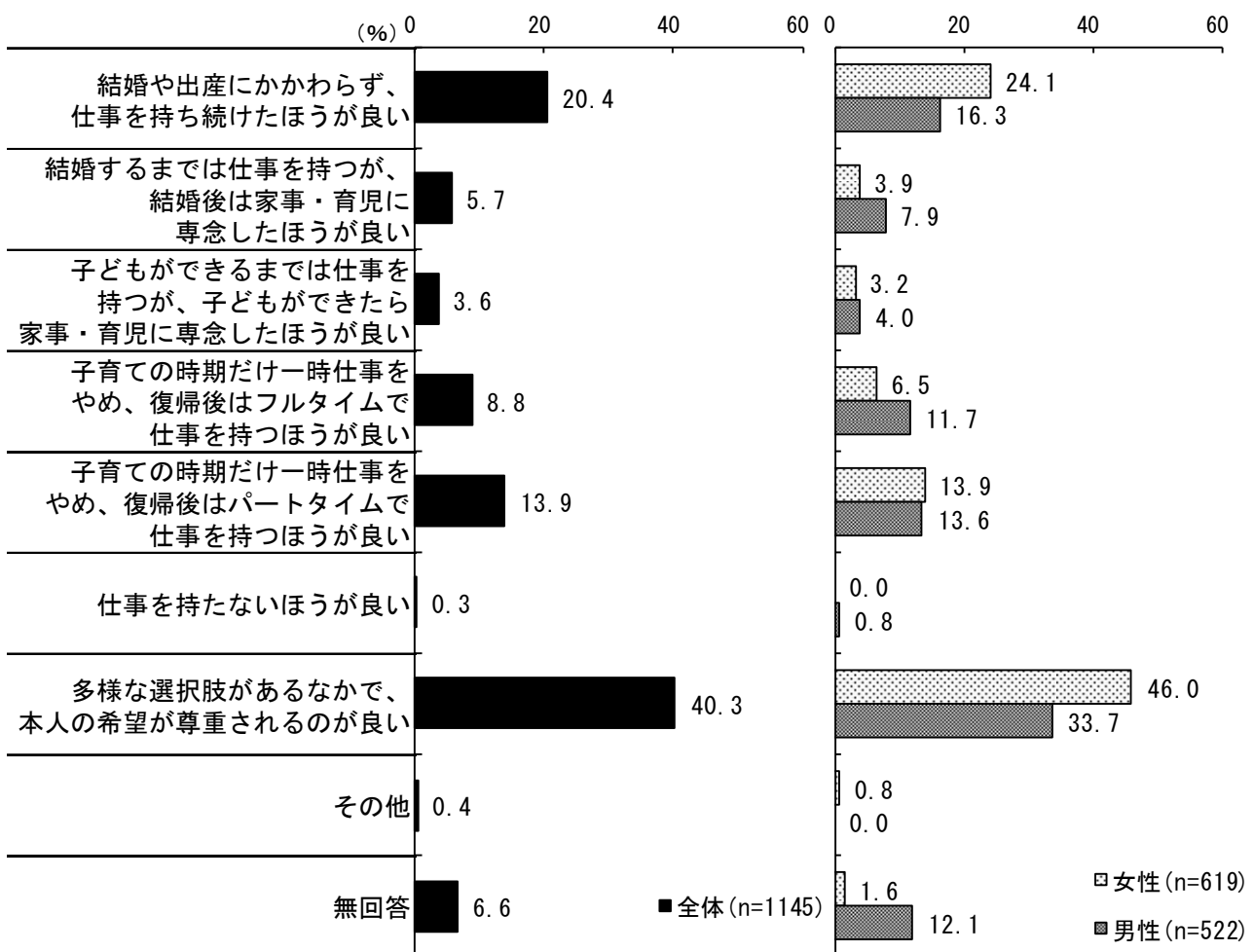
図表 54 仕事を持つことに対する考え



女性が仕事を持つことに対する考え

- 「多様な選択肢があるなかで、本人の希望が尊重されるのが良い」が 40.3%と最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けたほうが良い」(20.4%)、「子育ての時期だけ一時仕事をやめ、復帰後はパートタイムで仕事を持つほうが良い」(13.9%)となっています。
- 性別では、女性で「多様な選択肢があるなかで、本人の希望が尊重されるのが良い」が 12.3 ポイント、「結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けたほうが良い」が 7.8 ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「子育ての時期だけ一時仕事をやめ、復帰後はフルタイムで仕事を持つほうが良い」が 11.7%と、女性より 5.2 ポイント高くなっています。

図表 55 女性が仕事を持つことに対する考え（性別）



- 年代別では、20代から50代にかけて、「多様な選択肢があるなかで、本人の希望が尊重されるのが良い」が4割以上となっており、なかでも30代で48.7%と、最も高くなっています。

図表 56 女性が仕事を持つことに対する考え（年代別）

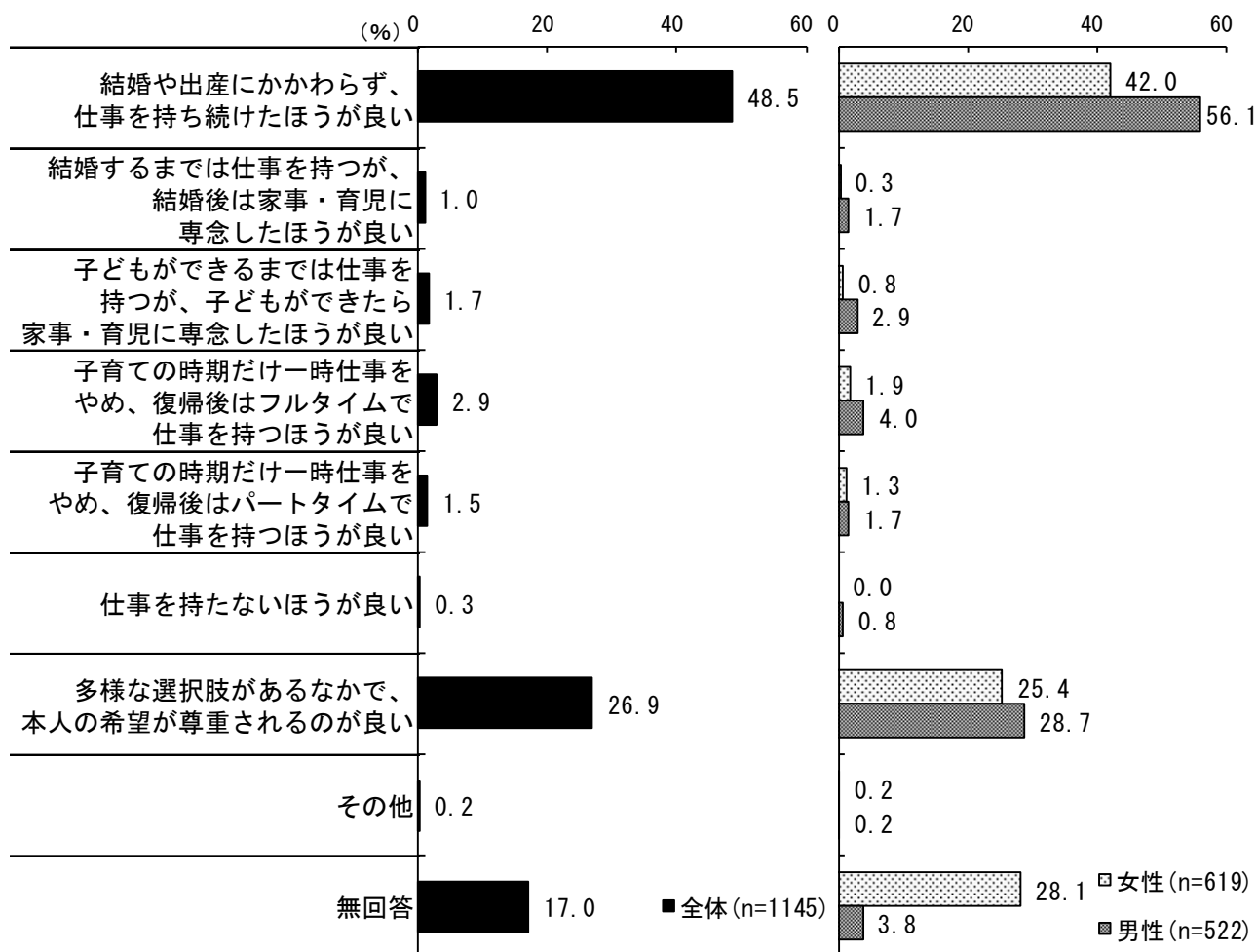
		全 体	ほ う、 結 婚 が 仕 や 良 事 出 産 に ち か 続 け わ ら	が・持 良 育 い に、 結 婚 す る ま 結 婚 で は 仕 事 を	に が 仕 事 を も た ら あ る 事 が ・ 子 ど で は	持 つ ル 事 を て の ム、 期 復 け 一 は 時
全 体		1145	234	65	41	101
		100.0	20.4	5.7	3.6	8.8
年 代 別	20代	99	18	7	3	10
		100.0	18.2	7.1	3.0	10.1
	30代	150	32	7	4	12
		100.0	21.3	4.7	2.7	8.0
	40代	214	45	2	6	21
		100.0	21.0	0.9	2.8	9.8
	50代	188	44	7	4	15
		100.0	23.4	3.7	2.1	8.0
	60代	214	44	9	9	19
		100.0	20.6	4.2	4.2	8.9
	70代以上	278	51	33	15	24
		100.0	18.3	11.9	5.4	8.6

		持 つ パ ー ト を ほ う が 良 い	良 い 仕 事 を 持 た な い ほ う が	多 様 な 選 択 肢 が あ る が	そ の 他	無 回 答
全 体		159	4	461	5	75
		13.9	0.3	40.3	0.4	6.6
年 代 別	20代	12	-	47	-	2
		12.1	-	47.5	-	2.0
	30代	17	1	73	1	3
		11.3	0.7	48.7	0.7	2.0
	40代	33	2	100	3	2
		15.4	0.9	46.7	1.4	0.9
	50代	31	-	78	1	8
		16.5	-	41.5	0.5	4.3
	60代	33	-	78	-	22
		15.4	-	36.4	-	10.3
	70代以上	32	1	85	-	37
		11.5	0.4	30.6	-	13.3

男性が仕事を持つことに対する考え

- 「結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けたほうが良い」が 48.5%と最も高く、次いで「多様な選択肢があるなかで、本人の希望が尊重されるのが良い」(26.9%) となっています。
- 性別では、男性で「仕事や出産にかかわらず、仕事を持ち続けたほうが良い」が 56.1%と、女性より 14.1 ポイント高くなっています。

図表 57 男性が仕事を持つことに対する考え（性別）



- 年代別では、いずれの年代も「結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けたほうが良い」が最も高くなっています。また、20代で「多様な選択肢があるなかで、本人の希望が尊重されるのが良い」が41.4%と、同じく最も高くなっています。

図表 58 男性が仕事を持つことに対する考え（年代別）

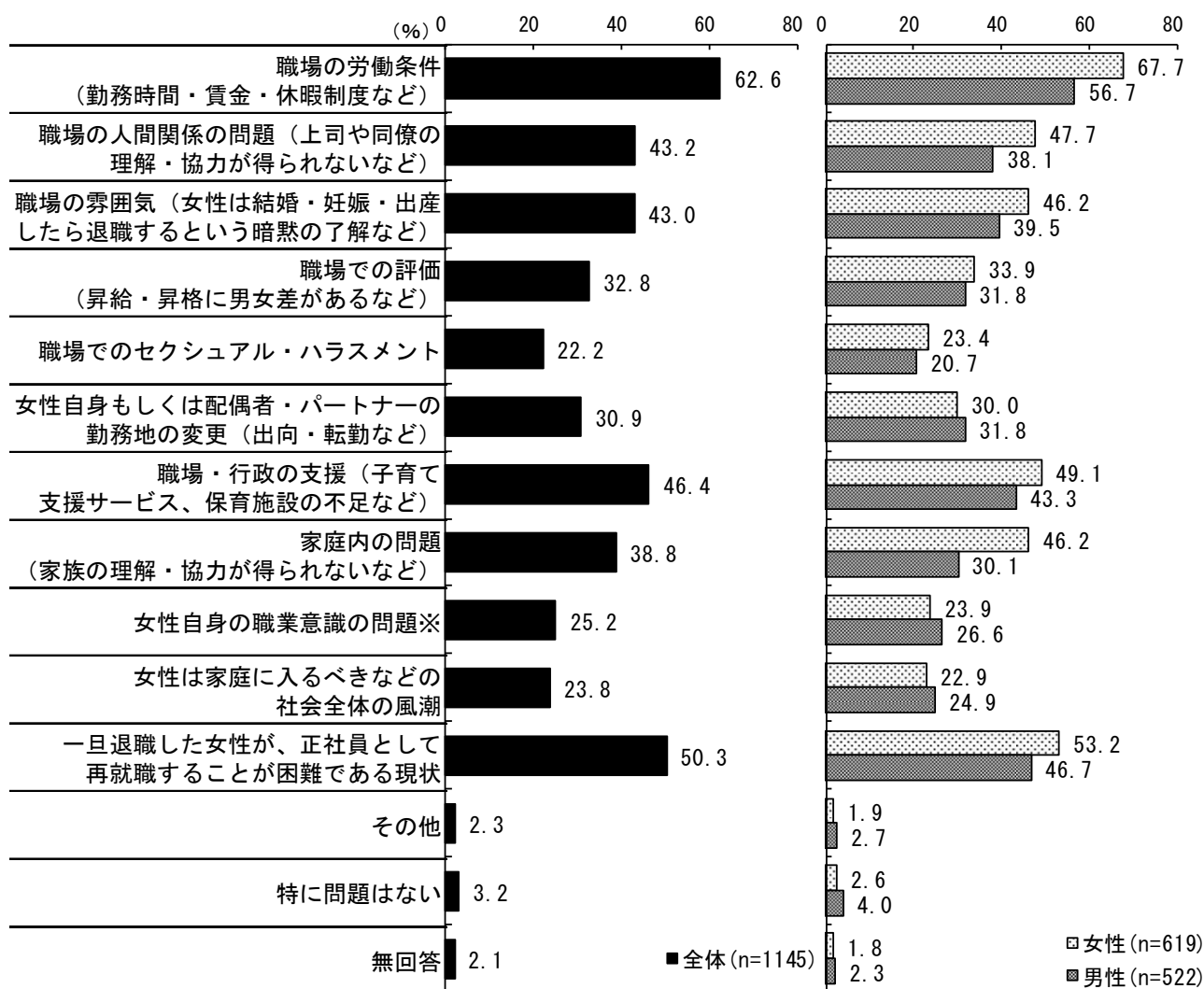
		全 体	ほ う、 結 婚 が 仕 や 良 事 出 産 持 ち か 続 け わ ら	が・持 良 育 い に、 結 専 念 婚 し は 仕 家 事 を	に が 仕 子 専 で 事 ど 念 き を も し た 持 が た ら つ で き る 事 が ・ 子 ま ど で い 児 も は	持 フ 仕 子 つ ル 事 育 て の や の ム め 時 期 だ け 後 一 は 時
全 体		1145	555	11	20	33
		100.0	48.5	1.0	1.7	2.9
年 代 別	20代	99	41	1	5	9
		100.0	41.4	1.0	5.1	9.1
	30代	150	74	1	3	6
		100.0	49.3	0.7	2.0	4.0
	40代	214	120	2	1	5
		100.0	56.1	0.9	0.5	2.3
	50代	188	100	-	3	4
		100.0	53.2	-	1.6	2.1
	60代	214	107	5	3	6
		100.0	50.0	2.3	1.4	2.8
	70代以上	278	112	2	5	3
		100.0	40.3	0.7	1.8	1.1

		持 ッ し 事 育 て の や の ム め 時 期 だ け 後 一 は 時	良 仕 事 を 持 た ない ほう が	尊 な 多 重 か 様 な 選 択 肢 が あ る 希 望 が	そ の 他	無 回 答
全 体		17	4	308	2	195
		1.5	0.3	26.9	0.2	17.0
年 代 別	20代	1	1	41	-	-
		1.0	1.0	41.4	-	-
	30代	-	-	57	-	9
		-	-	38.0	-	6.0
	40代	3	-	63	-	20
		1.4	-	29.4	-	9.3
	50代	1	-	54	1	25
		0.5	-	28.7	0.5	13.3
	60代	5	-	41	-	47
		2.3	-	19.2	-	22.0
	70代以上	7	3	51	1	94
		2.5	1.1	18.3	0.4	33.8

問15 女性が仕事を持ったり、仕事を持ち続けたりしていく上で、問題となる（なっている）のは何だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- 「職場の労働条件（勤務時間・賃金・休暇制度など）」が 62.6%と最も高く、次いで「一旦退職した女性が、正社員として再就職することが困難である現状」（50.3%）、「職場・行政の支援（子育て支援サービス、保育施設の不足など）」（46.4%）となっています。
- 性別では、女性で「家庭内の問題（家族の理解・協力が得られないなど）」が 16.1 ポイント、「職場の労働条件（勤務時間・賃金・休暇制度など）」が 11.0 ポイント、それぞれ男性より 10 ポイント以上高くなっています。

図表 59 女性が就労する上で問題となること（性別）



※働き続けることへの意識、責任ある仕事への不安や仕事への取り組み姿勢など

その他意見

- 出産・育児の期間の公的サポート、仕事の両立協力が無い。保育園が見つからなかった。
 - 病気をしたときに迎えに行くのは女性だから。
 - 職場において男女とも育児休暇が取りづらい。
 - サービス業の場合、学校の土日休みと合わない。
- など

- 年代別では、70代以上を除いて、「職場の労働条件（勤務時間・賃金・休暇制度など）」が6割以上となっており、なかでも30代で68.7%と、最も高くなっています。また、20代で「職場の雰囲気（女性は結婚・妊娠・出産したら退職するという暗黙の了解など）」が62.6%、「職場でのセクシュアル・ハラスメント」が36.4%と、他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 60 女性が就労する上で問題となること（年代別）

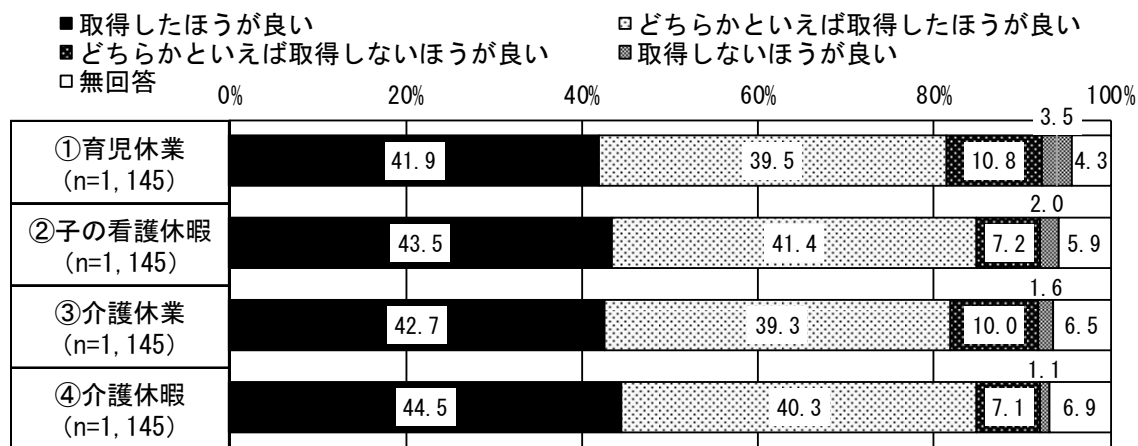
		全 体	職 場 の 労 働 条 件 ・ 休 暇 制 度 な ど	職 場 の 人 間 関 係 の 問 題 ・ 協 力 が 得 ら れ な い 理 由 な ど	職 場 の 雰 囲 気 ・ 出 産 し た ら 退 職 す る と い う 暗 黙 の 理 由 な ど	職 場 で の 評 価 が あ る 昇 格 に 男 女 差 が あ る な ど	・ 職 場 で の セ ク シ ュ ア ル ハ ラ ス メ ン ト	女 性 自 身 も し く は 配 偶 者 の 支 援 な ど	職 場 ・ 行 政 の 支 援 ・ 子 育 て の 支 援 サ ー ビ ス 、 保 育 施 設 の 不 足 な ど
全 体		1145 100.0	717 62.6	495 43.2	492 43.0	376 32.8	254 22.2	354 30.9	531 46.4
年 代 別	20代	99 100.0	66 66.7	46 46.5	62 62.6	39 39.4	36 36.4	38 38.4	53 53.5
		30代	150 100.0	103 68.7	78 52.0	77 51.3	47 31.3	39 26.0	50 33.3
	40代		214 100.0	135 63.1	91 42.5	92 43.0	77 36.0	41 19.2	68 31.8
		50代	188 100.0	116 61.7	80 42.6	81 43.1	56 29.8	44 23.4	49 26.1
	60代		214 100.0	138 64.5	80 37.4	73 34.1	75 35.0	47 22.0	73 34.1
		70代以上	278 100.0	158 56.8	119 42.8	107 38.5	82 29.5	46 16.5	75 27.0

		な り 解 ・ 協 力 が 得 ら れ な い な ど	問 題 女 性 自 身 の 職 業 意 識 の	な 女 性 の 社 会 全 体 に 入 る 風 潮 き	こ 正 一 と 社 員 退 職 し た 再 就 職 す る 状 況	そ の 他	特 に 問 題 は な い	無 回 答
全 体		444	288	272	576	26	37	24
		38.8	25.2	23.8	50.3	2.3	3.2	2.1
年 代 別	20代	38	24	38	59	3	3	-
		38.4	24.2	38.4	59.6	3.0	3.0	-
	30代	67	39	43	75	4	3	1
		44.7	26.0	28.7	50.0	2.7	2.0	0.7
	40代	95	53	62	112	7	4	1
		44.4	24.8	29.0	52.3	3.3	1.9	0.5
	50代	78	46	45	83	4	9	-
		41.5	24.5	23.9	44.1	2.1	4.8	-
	60代	79	55	40	107	4	6	8
		36.9	25.7	18.7	50.0	1.9	2.8	3.7
	70代以上	86	70	44	138	4	12	14
		30.9	25.2	15.8	49.6	1.4	4.3	5.0

問16 育児や家族介護を行うため、法律に基づき育児休業・子の看護休暇・介護休業・介護休暇を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して男性が休業や休暇を取得することについてどう思いますか。（〇はそれぞれ1つ）

- いずれも“取得に賛成（「取得したほうが良い」＋「どちらかといえば取得したほうが良い」）”が8割以上となっています。

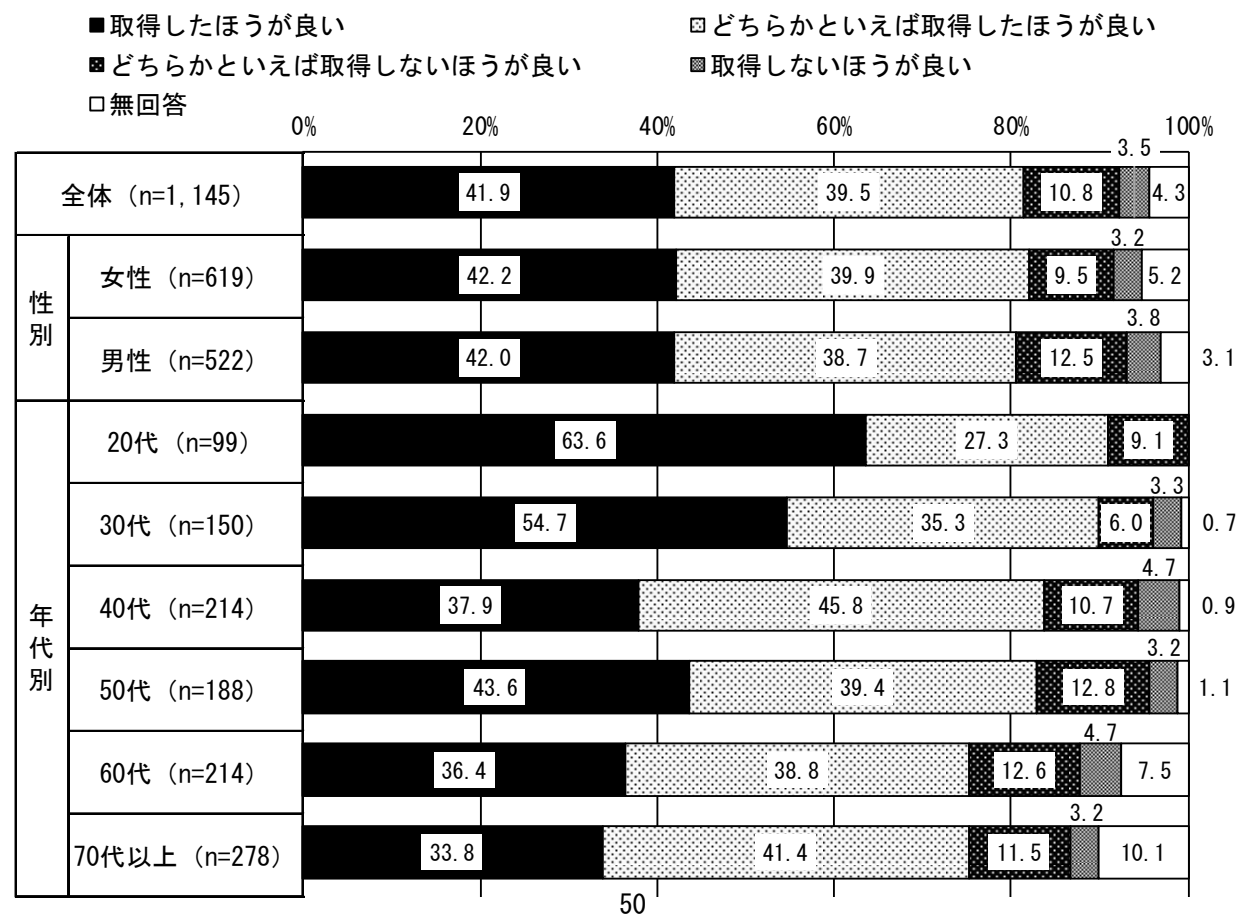
図表 61 男性の育児休業等取得について



①育児休業

- 「取得したほうが良い」が41.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば取得したほうが良い」（39.5%）、「どちらかといえば取得しないほうが良い」（10.8%）となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20代と30代で“取得に賛成”が約9割となっています。また、20代で「取得したほうが良い」が63.6%と、他の年代と比べて高くなっています。

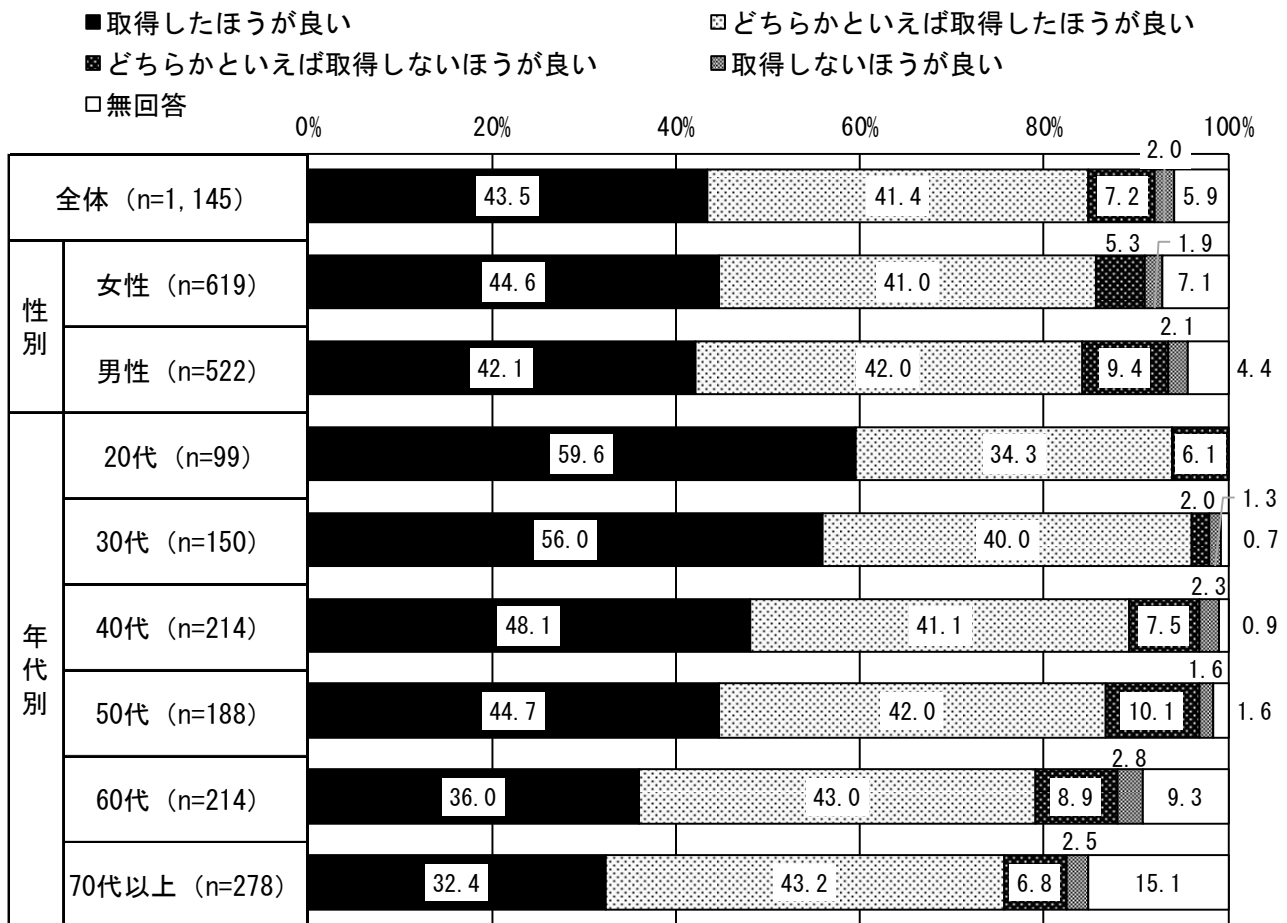
図表 62 ①育児休業（性別・年代別）



②子の看護休暇

- 「取得したほうが良い」が 43.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば取得したほうが良い」(41.4%) となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20代と30代で“取得に賛成”が9割以上となっています。また、年代が下がるにつれ「取得したほうが良い」が高くなっており、20代で59.6%となっています。

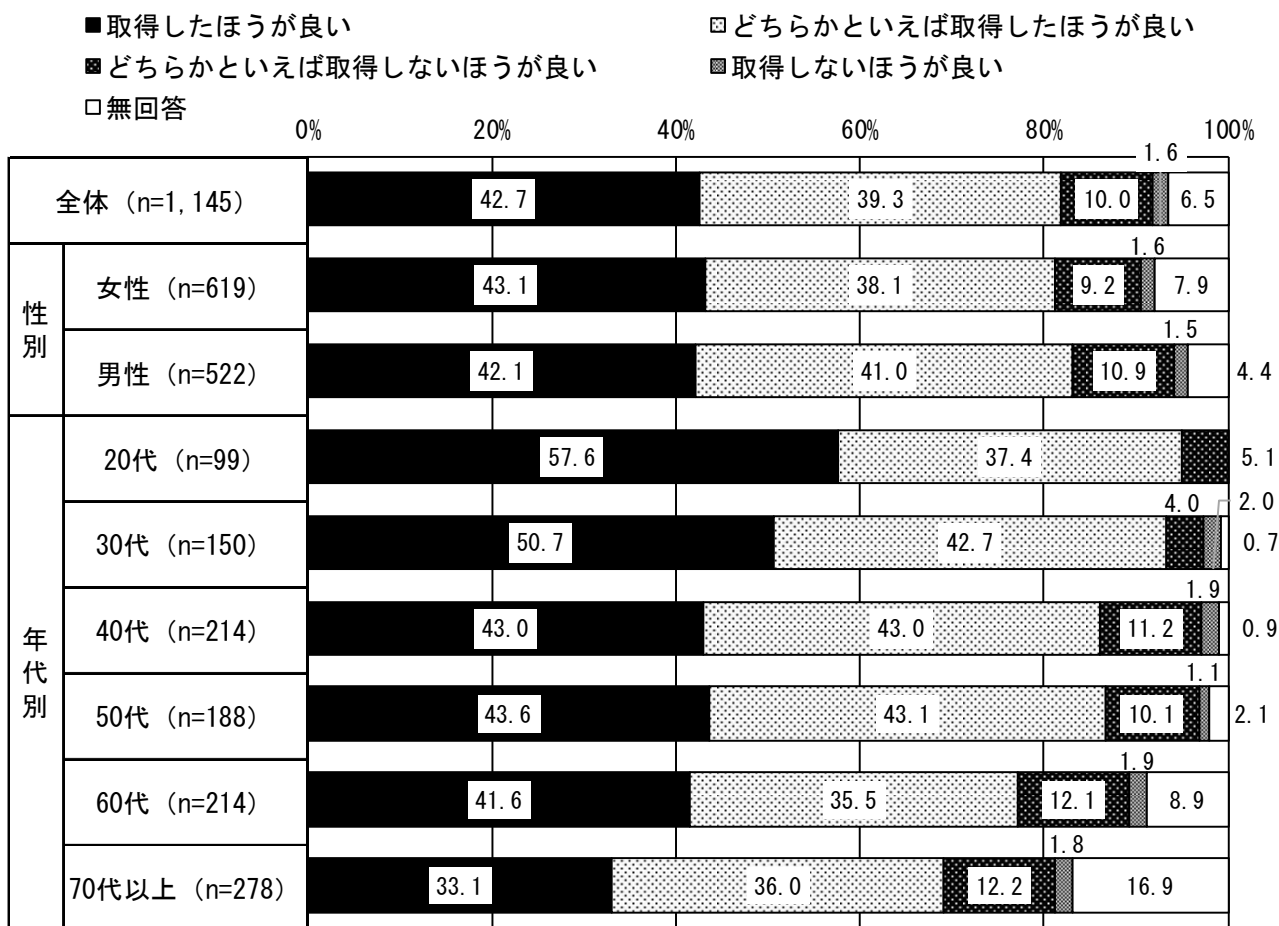
図表 63 ②子の看護休暇（性別・年代別）



③介護休業

- 「取得したほうが良い」が 42.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば取得したほうが良い」(39.3%)、「どちらかといえば取得しないほうが良い」(10.0%) となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20代と30代で“取得に賛成”が9割以上となっています。また、20代で「取得したほうが良い」が57.6%と、他の年代と比べて高くなっています。

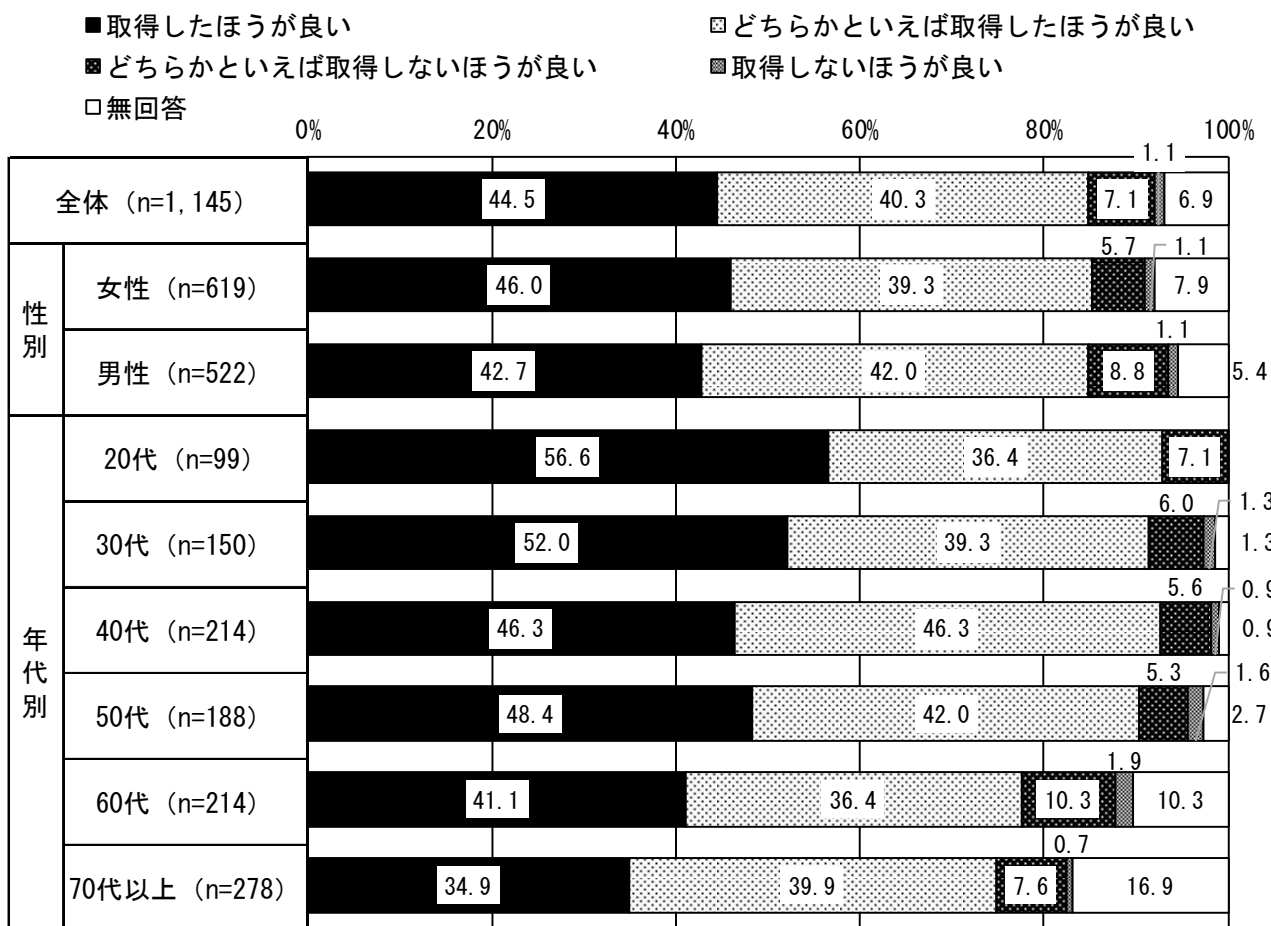
図表 64 ③介護休業（性別・年代別）



④介護休暇

- 「取得したほうが良い」が 44.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば取得したほうが良い」(40.3%) となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20代から50代にかけて、“取得に賛成”が9割以上となっています。

図表 65 ④介護休暇（性別・年代別）

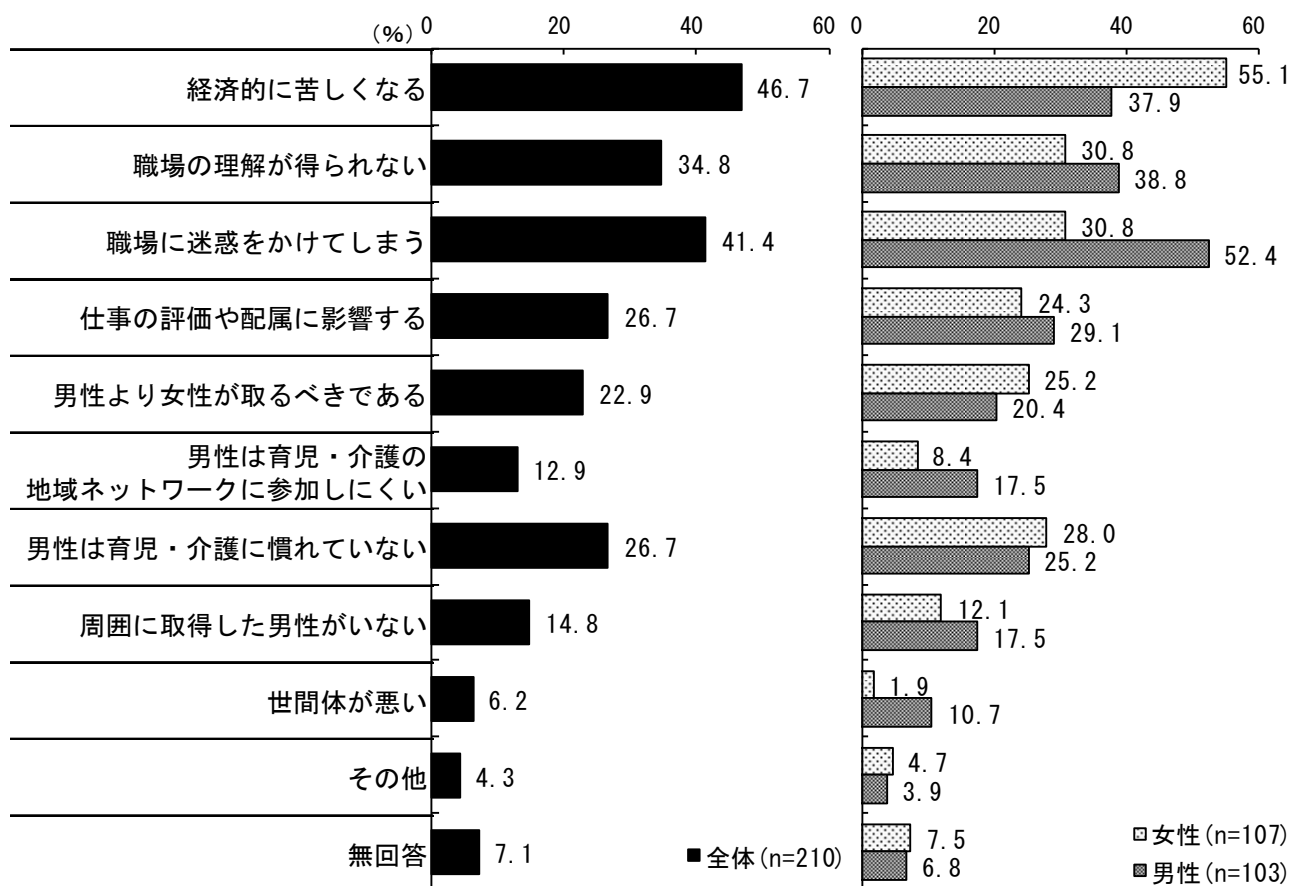


問 16 で 1 つでも「どちらかといえば取得しないほうが良い」「取得しないほうが良い」と答えた方

問 16-1 その理由は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

- 「経済的に苦しくなる」が 46.7%と最も高く、次いで「職場に迷惑をかけてしまう」（41.4%）、「職場の理解が得られない」（34.8%）となっています。
- 性別では、男性で「職場に迷惑をかけてしまう」が 21.6 ポイント、「男性は育児・介護の地域ネットワークに参加しにくい」が 9.1 ポイント、「世間体が悪い」が 8.8 ポイント、「職場の理解が得られない」が 8.0 ポイント、それぞれ女性より高くなっています。一方で、女性で「経済的に苦しくなる」が 55.1%と、男性より 17.2 ポイント高くなっています。

図表 66 男性が育児・介護休業等を取得しないほうが良いと思う理由（性別）



その他意見

- 本人の休暇（休み）だけになりそう。
- 一時的な育児休業ではなく、夫婦 2 人でこれからも育てていくものだから、日々のサポートが大切。一時的に休業するくらいなら、しっかり働いてきてほしい。

など

- 年代別では、40代は「職場の理解が得られない」、60代は「職場に迷惑をかけてしまう」、それ以外の年代は「経済的に苦しくなる」が、それぞれ最も高くなっています。

図表 67 男性が育児・介護休業等取得しないほうが良いと思う理由（年代別）

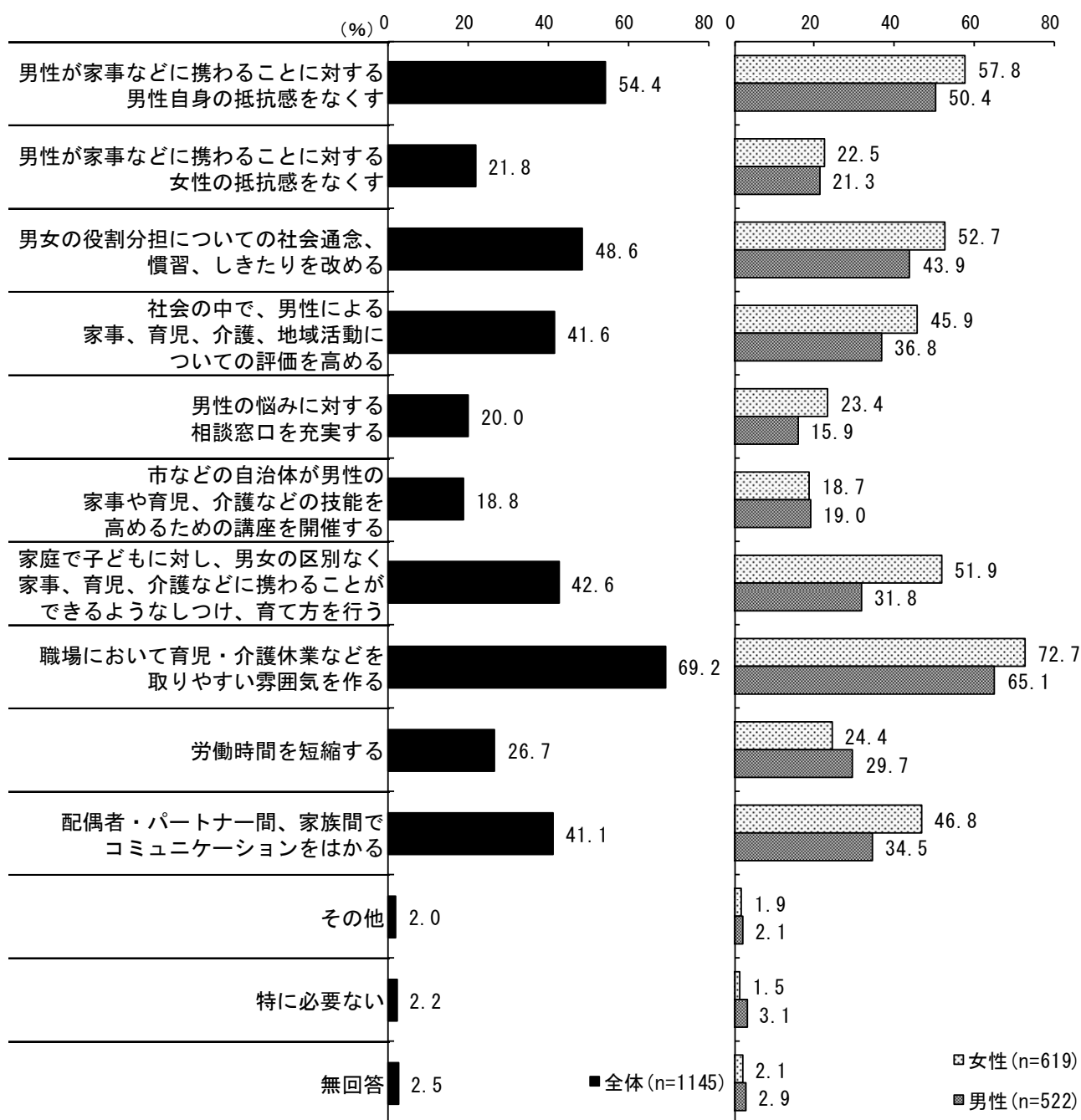
		全 体	経 済 的 に 苦 し く な る	職 場 の 理 解 が 得 ら れ な い	職 場 に 迷 惑 を か け て し ま う	仕 事 の 評 価 や 配 属 に 影 響 す る	男 性 よ り 女 性 が 取 る べ き で あ る
全 体		210 100.0	98 46.7	73 34.8	87 41.4	56 26.7	48 22.9
年 代 別	20代	14 100.0	9 64.3	6 42.9	7 50.0	6 42.9	7 50.0
	30代	21 100.0	16 76.2	3 14.3	4 19.0	6 28.6	1 4.8
	40代	41 100.0	17 41.5	20 48.8	16 39.0	11 26.8	6 14.6
	50代	36 100.0	16 44.4	12 33.3	15 41.7	9 25.0	8 22.2
	60代	43 100.0	17 39.5	17 39.5	26 60.5	13 30.2	12 27.9
	70代以上	55 100.0	23 41.8	15 27.3	19 34.5	11 20.0	14 25.5

		参 加 し に く ト ワ ー ク に の	男 性 は 育 児 ・ 介 護 に 慣 れ て い な い	男 性 が 取 得 し た 周 囲 に い な い	世 間 体 が 悪 い	そ の 他	無 回 答
全 体		27 12.9	56 26.7	31 14.8	13 6.2	9 4.3	15 7.1
年 代 別	20代	4 28.6	4 28.6	2 14.3	3 21.4	2 14.3	-
	30代	-	4 19.0	-	2 9.5	-	1 4.8
	40代	4 9.8	8 19.5	12 29.3	2 4.9	4 9.8	1 2.4
	50代	1 2.8	4 11.1	5 13.9	-	-	4 11.1
	60代	10 23.3	16 37.2	8 18.6	6 14.0	2 4.7	2 4.7
	70代以上	8 14.5	20 36.4	4 7.3	-	1 1.8	7 12.7

問17 男性がこれまで以上に家事・育児・介護に携わるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- 「職場において育児・介護休業などを取りやすい雰囲気を作る」が 69.2%と最も高く、次いで「男性が家事などに携わることにに対する男性自身の抵抗感をなくす」(54.4%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」(48.6%)となっています。
- 性別では、「市などの自治体が男性の家事や育児、介護などの技能を高めるための講座を開催する」「労働時間を短縮する」「その他」「特に必要ない」を除いて、女性が男性より高くなっています。なかでも、女性で「家庭で子どもに対し、男女の区別なく家事、育児、介護などに携わることができるようなしつけ、育て方を行う」が 20.1 ポイント、「配偶者・パートナー間、家族間でコミュニケーションをはかる」が 12.3 ポイント、それぞれ男性より 10 ポイント以上高くなっています。

図表 68 男性がこれまで以上に家事等に携わるために必要なこと（性別）



- 年代別では、いずれの年代も「職場において育児・介護休業などを取りやすい雰囲気を作る」が6割以上となっており、なかでも50代で77.7%と、最も高くなっています。また、年代が下がるにつれて「男性の悩みに対する相談窓口を充実する」と「労働時間を短縮する」がそれぞれ高くなっています。

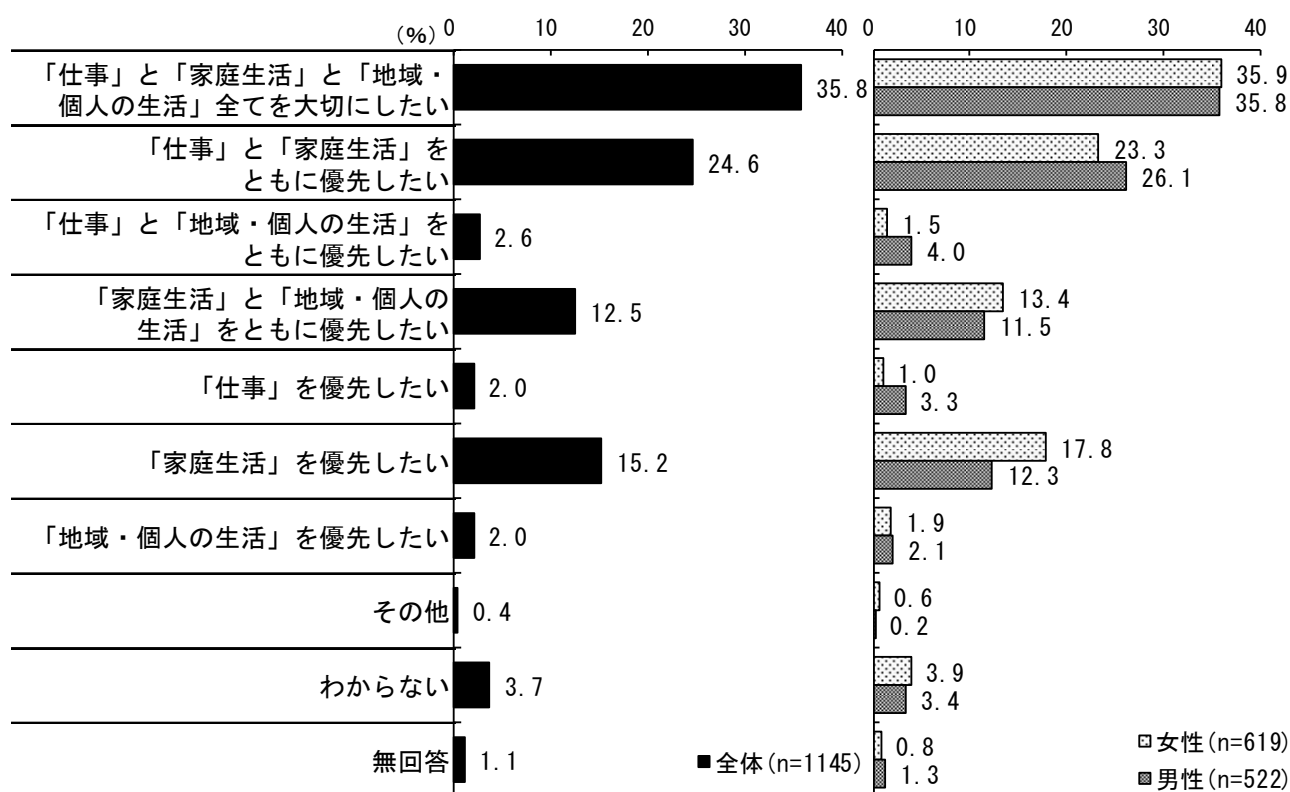
図表 69 男性がこれまで以上に家事等に携わるために必要なこと（年代別）

		全 体	男性が家事などに携わることに対する抵抗感をなくす	男性が家事などに携わることに対する抵抗感をなくす	女性の抵抗感をなくす	男女の役割分担について、社会通念、慣習、しきたりを改める	介護、地域活動について、評価を高める	社会の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動に	男性の悩みに対する相談窓口を充実する	市などの自治体、男性の家事や育児、介護などの技能を高めるための講座を開催する
全 体		1145 100.0	623 54.4	250 21.8	556 48.6	476 41.6	229 20.0	215 18.8		
年 代 別	20代	99 100.0	59 59.6	35 35.4	50 50.5	46 46.5	37 37.4	27 27.3		
		30代	150 100.0	85 56.7	32 21.3	91 60.7	72 48.0	41 27.3	24 16.0	
	40代		214 100.0	117 54.7	54 25.2	105 49.1	98 45.8	47 22.0	36 16.8	
		50代	188 100.0	100 53.2	39 20.7	79 42.0	75 39.9	33 17.6	24 12.8	
	60代		214 100.0	117 54.7	34 15.9	111 51.9	85 39.7	33 15.4	43 20.1	
		70代以上	278 100.0	144 51.8	56 20.1	120 43.2	100 36.0	37 13.3	61 21.9	
			家庭で子どもに 対し、育つこと、 育て方を行うな ど	介護休業など を育児・	労働時間を短 縮する	配偶者・パート ・フリーランス の活用を促す	その他	特に必要ない	無 回 答	
	全 体		488 42.6	792 69.2	306 26.7	471 41.1	23 2.0	25 2.2	29 2.5	
年 代 別	20代	47 47.5	75 75.8	43 43.4	45 45.5	- -	2 2.0	- -		
		30代	67 44.7	105 70.0	58 38.7	67 44.7	4 2.7	4 2.7	- -	
	40代		91 42.5	147 68.7	60 28.0	90 42.1	8 3.7	1 0.5	2 0.9	
		50代	67 35.6	146 77.7	48 25.5	75 39.9	6 3.2	5 2.7	1 0.5	
	60代		83 38.8	141 65.9	46 21.5	79 36.9	4 1.9	4 1.9	8 3.7	
		70代以上	133 47.8	177 63.7	51 18.3	114 41.0	1 0.4	9 3.2	18 6.5	

5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問18 あなたの中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味など）」の優先度についてお聞きします。あなたの理想の優先度に最も当てはまるものをお答えください。（○は1つ）

- 「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』全てを大切にしたい」が 35.8%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」（24.6%）、「『家庭生活』を優先したい」（15.2%）、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」（12.5%）となっています。
- 性別では、女性で「『家庭生活』を優先したい」が 17.8%と、男性より 5.5 ポイント高くなっています。
- 前回調査と比較すると「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」が 13.1 ポイント、「男性が家事などに携わることにに対する女性の抵抗感をなくす」が 9.4 ポイント、前回調査より高くなっています。



- 年代別では、いずれの年代も『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』全てを大切にしたい」が3割以上となっており、なかでも20代で40.4%と、最も高くなっています。

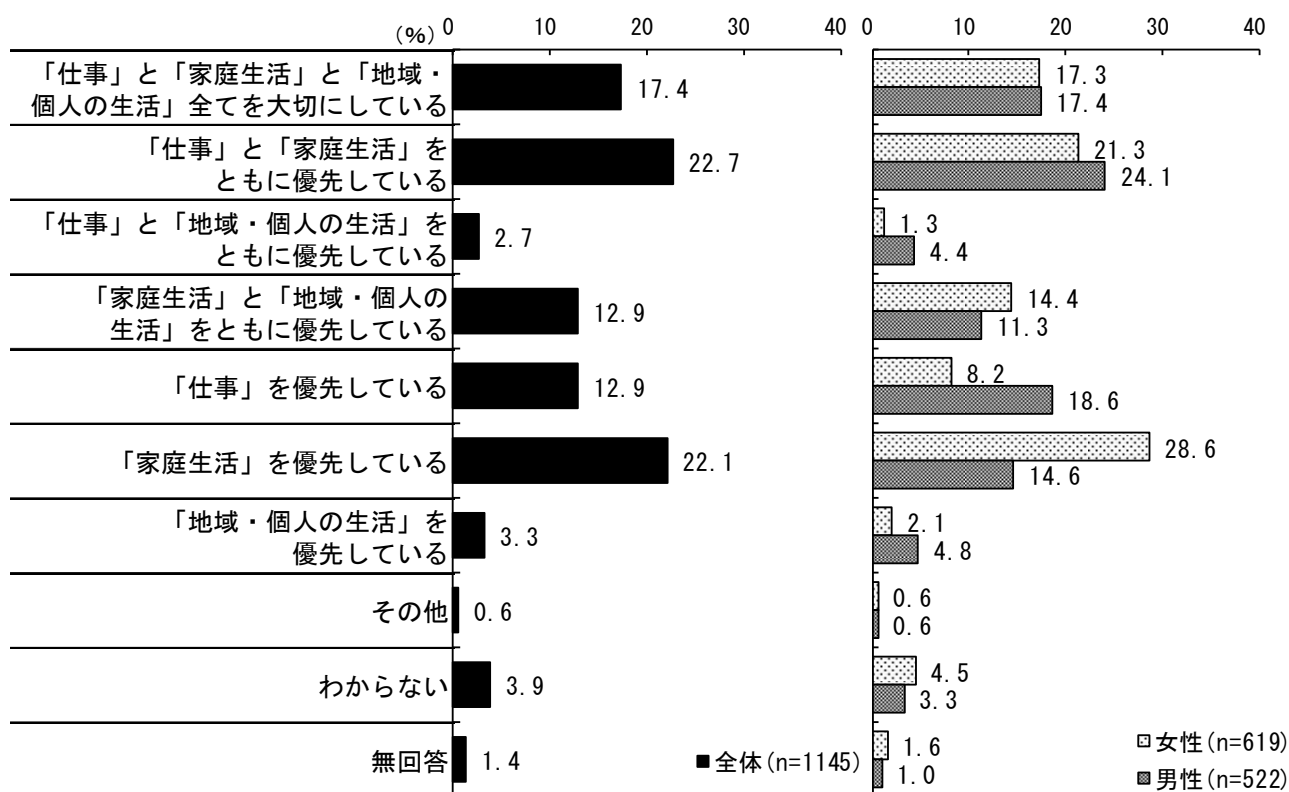
図表 70 理想の優先度（年代別）

		全 体	を個生「任 大人の生」と に生活「地 した「域・家 い全域庭	優先生「任 した「事 たい「を い「と 「も 「に 「家 庭	優先生「地 した「域・任 たい「を事 い「と 「と 「個 「人 「の	優先生「地 した「域・家 たい「を庭 い「と 「と 「個 「人 「の	した「任 たい「事 「を優先	
全 体		1145 100.0	410 35.8	282 24.6	30 2.6	143 12.5	23 2.0	
年 代 別	20代	99 100.0	40 40.4	16 16.2	7 7.1	17 17.2	1 1.0	
		30代	150 100.0	52 34.7	43 28.7	6 4.0	12 8.0	3 2.0
	40代		214 100.0	82 38.3	62 29.0	1 0.5	25 11.7	4 1.9
		50代	188 100.0	74 39.4	45 23.9	3 1.6	14 7.4	2 1.1
	60代		214 100.0	65 30.4	55 25.7	8 3.7	32 15.0	4 1.9
		70代以上	278 100.0	96 34.5	60 21.6	5 1.8	43 15.5	9 3.2
			優先「家 庭生活」 を	した「生 活「地 たい「域 「を・個 優先人 の	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
	全 体		174 15.2	23 2.0	5 0.4	42 3.7	13 1.1	
	年 代 別	20代	12 12.1	4 4.0	－ －	2 2.0	－ －	
			30代	27 18.0	2 1.3	－ －	5 3.3	－ －
40代		27 12.6		2 0.9	2 0.9	8 3.7	1 0.5	
		50代	40 21.3	3 1.6	－ －	6 3.2	1 0.5	
60代			31 14.5	6 2.8	1 0.5	7 3.3	5 2.3	
		70代以上	37 13.3	6 2.2	2 0.7	14 5.0	6 2.2	

問19 あなたの現状の生活に最も当てはまるものをお答えください。(○は1つ)

- 『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 22.7%と最も高く、次いで『家庭生活』を優先している」(22.1%)、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』全てを大切にしている」(17.4%) となっています。
- 性別では、女性で『家庭生活』を優先している」が 28.6%と、男性より 14.0 ポイント高くなっています。一方で、男性で『仕事』を優先している」が 18.6%と、女性より 10.4 ポイント高くなっています。

図表 71 現状の生活（性別）



- 年代別では、20代から50代にかけて『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」、60代と70代以上で『家庭生活』を優先している」が、それぞれ最も高くなっています。また、70代以上で『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」が25.9%と、他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 72 現状の生活（年代別）

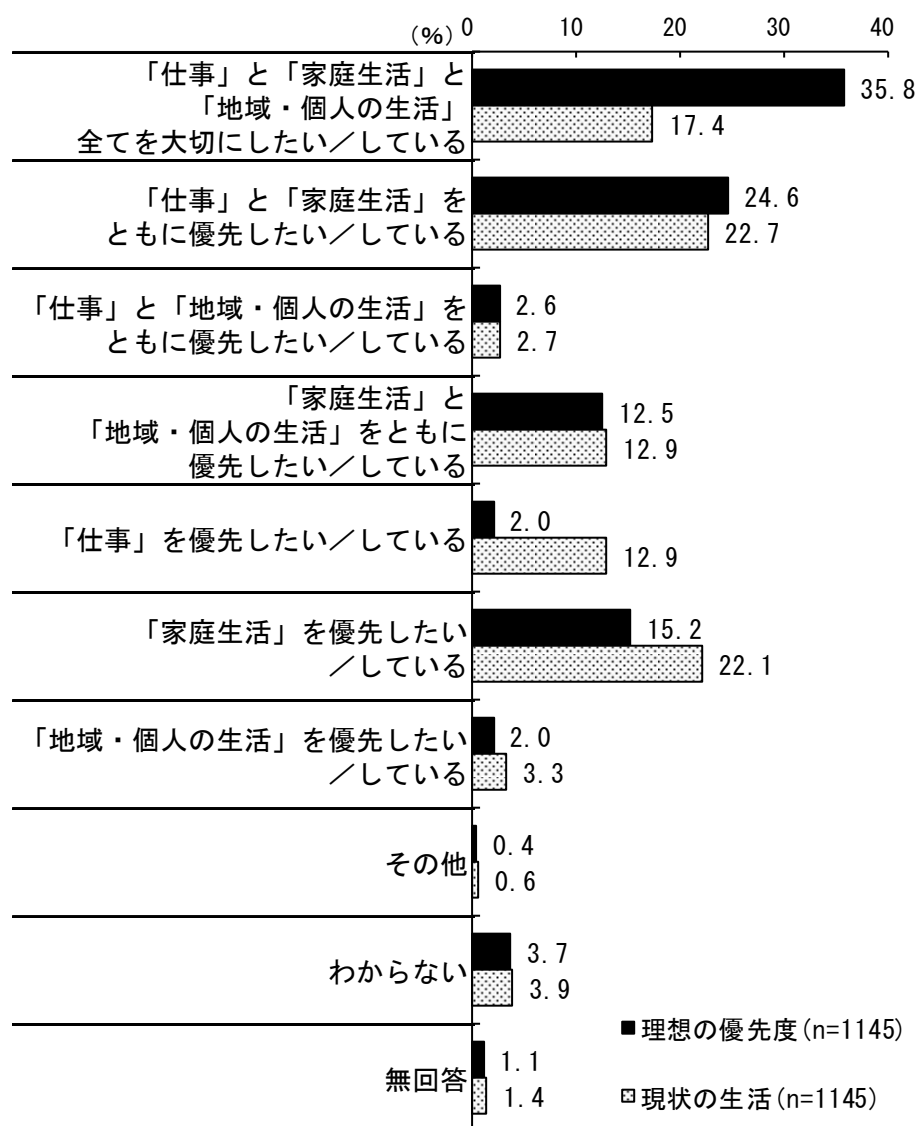
		全 体	を個生活「仕事」と大切にし「地域・家庭」を優先している	優先生活「仕事」と「地域・個人」をともに優先している	優先生活「地域・個人」をともに優先している	優先生活「地域・個人」をともに優先している
全 体		1145 100.0	199 17.4	260 22.7	31 2.7	148 12.9
年 代 別	20代	99 100.0	18 18.2	21 21.2	10 10.1	15 15.2
	30代	150 100.0	27 18.0	41 27.3	5 3.3	8 5.3
	40代	214 100.0	40 18.7	65 30.4	3 1.4	17 7.9
	50代	188 100.0	38 20.2	57 30.3	5 2.7	7 3.7
	60代	214 100.0	34 15.9	49 22.9	3 1.4	34 15.9
	70代以上	278 100.0	41 14.7	26 9.4	5 1.8	72 25.9

		優先「家庭生活」を	生活「地域・個人」を優先している	その他	わからない	無回答
全 体		253 22.1	38 3.3	7 0.6	45 3.9	16 1.4
年 代 別	20代	8 8.1	7 7.1	-	10 10.1	-
	30代	29 19.3	-	1 0.7	5 3.3	-
	40代	40 18.7	2 0.9	2 0.9	6 2.8	1 0.5
	50代	35 18.6	5 2.7	-	5 2.7	1 0.5
	60代	57 26.6	8 3.7	3 1.4	8 3.7	4 1.9
	70代以上	84 30.2	16 5.8	1 0.4	11 4.0	10 3.6

「理想の優先度」と「現状の生活」の比較

- 「理想の優先度」で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』全てを大切にしたい」が 35.8%と、「現状の生活」より 18.4 ポイント高くなっています。一方で、「現状の生活」で『仕事』を優先している」が 10.9 ポイント、『家庭生活』を優先している」が 6.9 ポイント、それぞれ「理想の優先度」より高くなっています。

図表 73 「理想の優先度」と「現状の生活」の比較

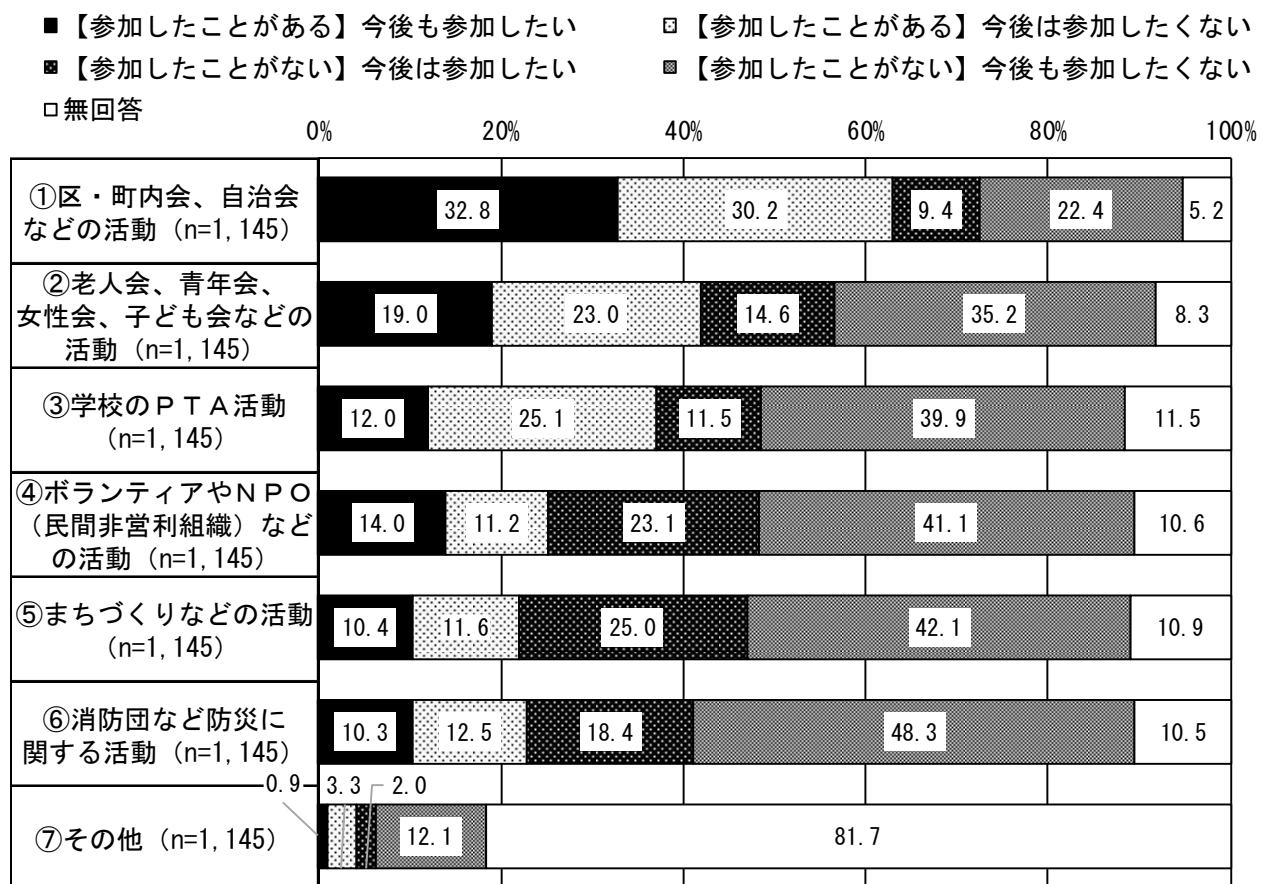


6 地域活動・社会活動について

問20 あなたは、次のような活動に参加したことがありますか。（○はそれぞれ1つ）

- 「【参加したことがある】今後も参加したい」をみると、「①区・町内会、自治会などの活動」が32.8%と、他の活動と比べて10ポイント以上高くなっています。
- 「【参加したことがない】今後も参加したくない」をみると、「⑥消防団など防災に関する活動」が48.3%と最も高く、次いで「⑤まちづくりなどの活動」（42.1%）、「④ボランティアやNPO（民間非営利組織）などの活動」（41.1%）となっています。

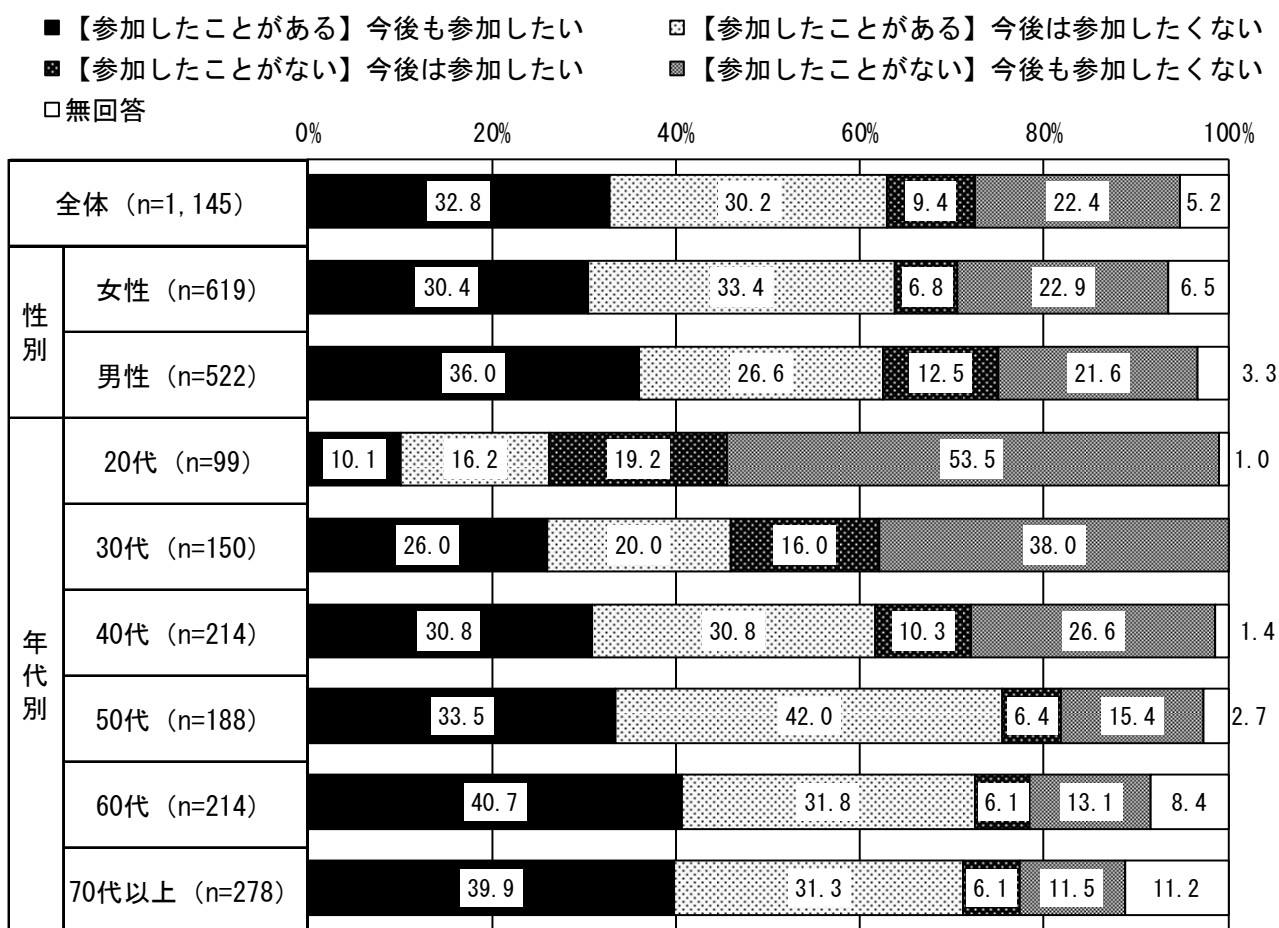
図表 74 地域活動・社会活動の参加状況



①区・町内会、自治会などの活動

- 「【参加したことがある】今後も参加したい」が 32.8%と最も高く、次いで「【参加したことがある】今後は参加したくない」(30.2%)、「【参加したことがない】今後も参加したくない」(22.4%)となっています。
- 性別では、女性で「【参加したことがある】今後は参加したくない」が 33.4%と、男性より 6.8 ポイント高くなっています。一方で、男性で「【参加したことがない】今後は参加したい」が 5.7 ポイント、「【参加したことがある】今後も参加したい」が 5.6 ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、60代と70代で「【参加したことがある】今後も参加したい」が約4割となっています。また、20代で「【参加したことがない】今後は参加したくない」が 53.5%、50代で「【参加したことがある】今後は参加したくない」が 42.0%と、それぞれ他の年代と比べて 10 ポイント以上高くなっています。

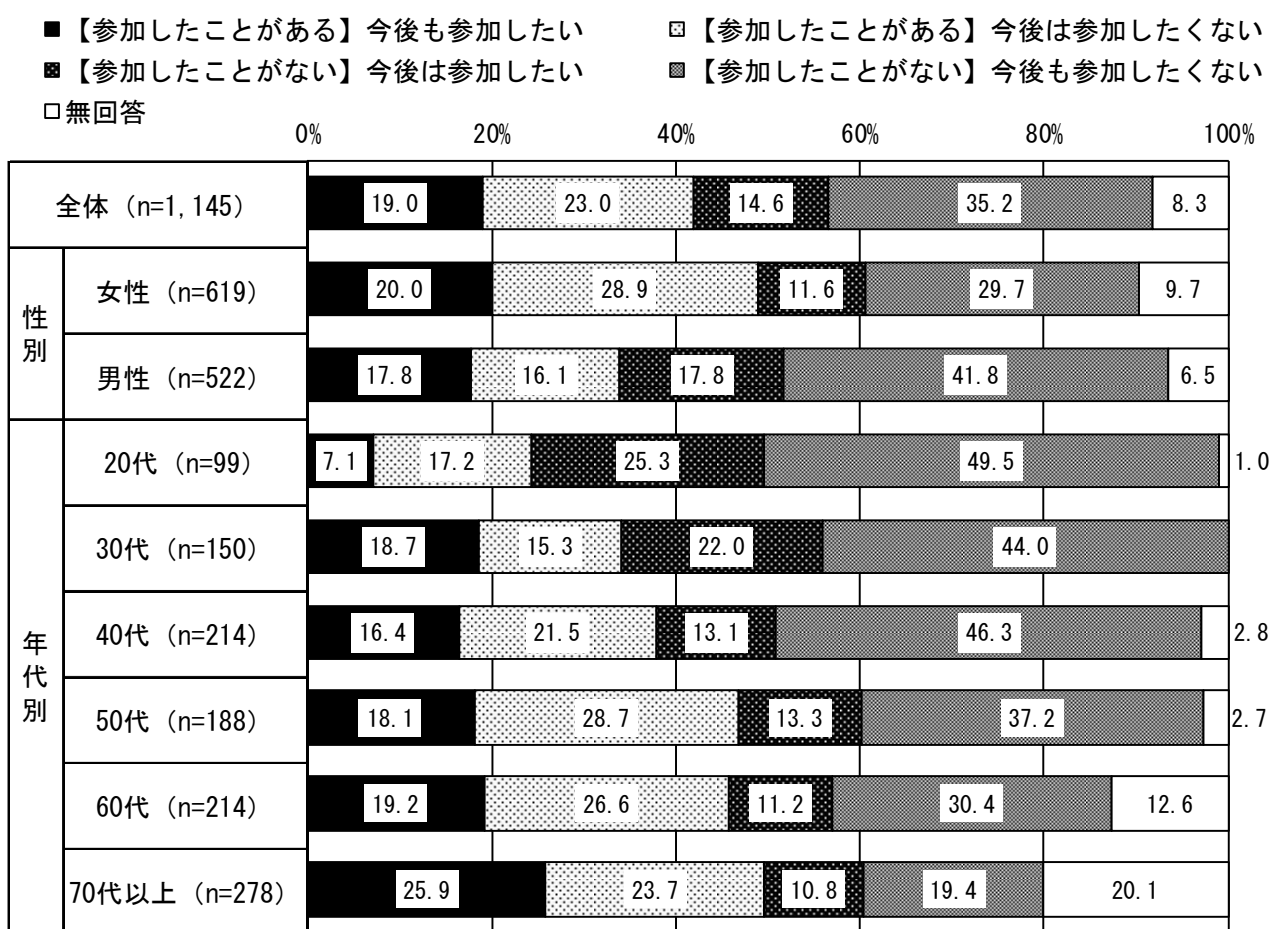
図表 75 ①区・町内会、自治会などの活動（性別・年代別）



②老人会、青年会、女性会、子ども会などの活動

- 「【参加したことがない】今後も参加したくない」が 35.2%と最も高く、次いで「【参加したことがある】今後は参加したくない」(23.0%)、「【参加したことがある】今後も参加したい」(19.0%)、「【参加したことがない】今後は参加したい」(14.6%)となっています。
- 性別では、男性で“参加経験なし（「【参加したことがない】今後は参加したい」＋「【参加したことがない】今後も参加したくない」）”が 59.6%と、女性より 18.3 ポイント高くなっています。一方で、女性で「【参加したことがある】今後は参加したくない」が 28.9%と、男性より 12.8 ポイント高くなっています。
- 年代別では、20 代から 40 代にかけて、「【参加したことがない】今後も参加したくない」が 4 割以上となっており、なかでも 20 代で 49.5%と、最も高くなっています。

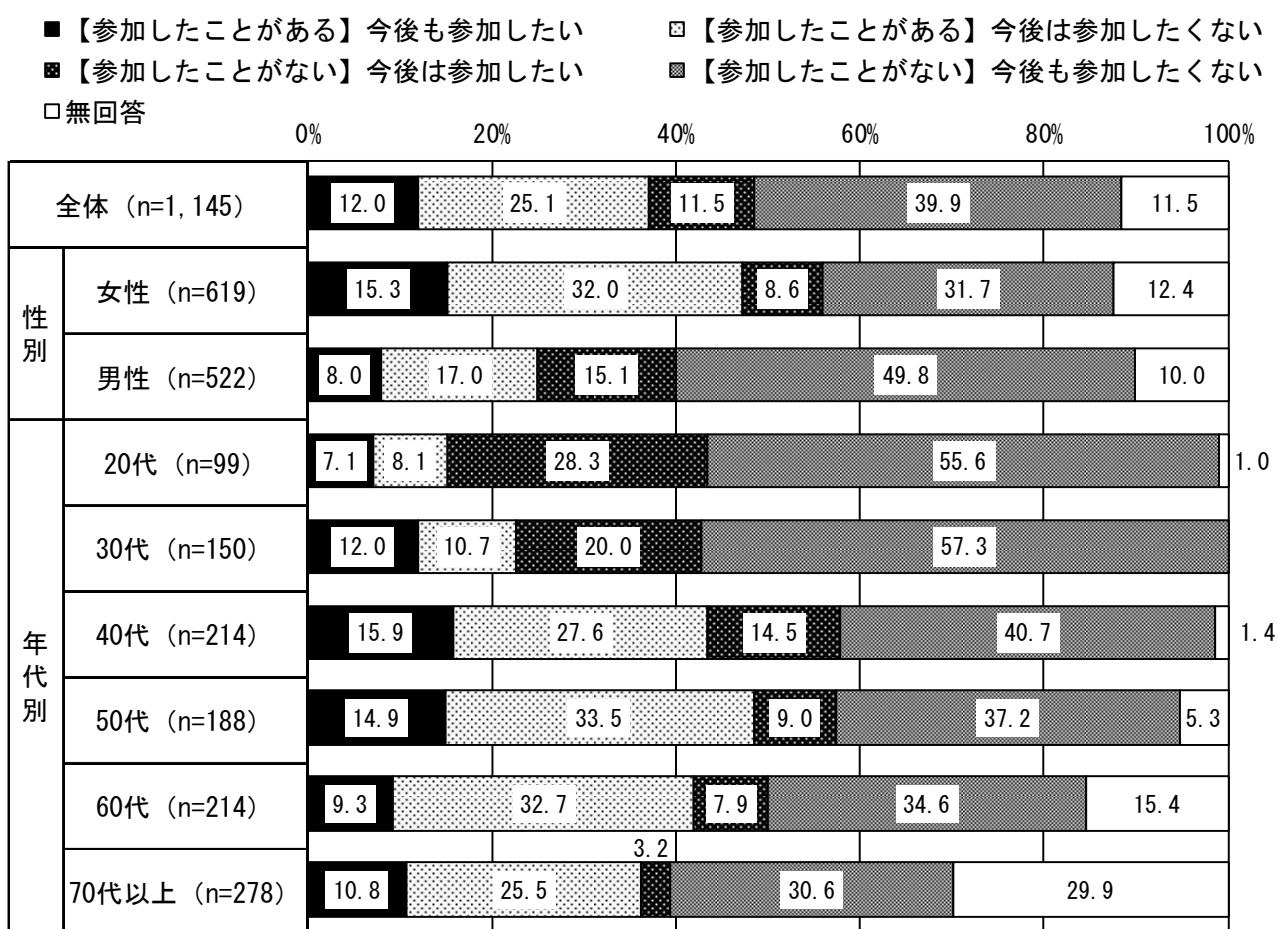
図表 76 ②老人会、青年会、女性会、子ども会などの活動（性別・年代別）



③学校のPTA活動

- 「【参加したことがない】今後も参加したくない」が 39.9%と最も高く、次いで「【参加したことがある】今後は参加したくない」(25.1%)、「【参加したことがある】今後も参加したい」(12.0%)、「【参加したことがない】今後は参加したい」(11.5%)となっています。
- 性別では、女性で「【参加したことがある】今後は参加したくない」が 32.0%、男性で「【参加したことがない】今後も参加したくない」が 49.8%と、それぞれ最も高くなっています。また、男性で“参加経験なし”が 64.9%と、女性より 24.6 ポイント高くなっています。一方で、女性で“参加経験あり(「【参加したことがある】今後も参加したい」+「【参加したことがある】今後は参加したくない」)」が 47.3%と、男性より 22.3 ポイント高くなっています。
- 年代別では、20代と30代で「【参加したことがない】今後も参加したくない」が5割以上と、他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

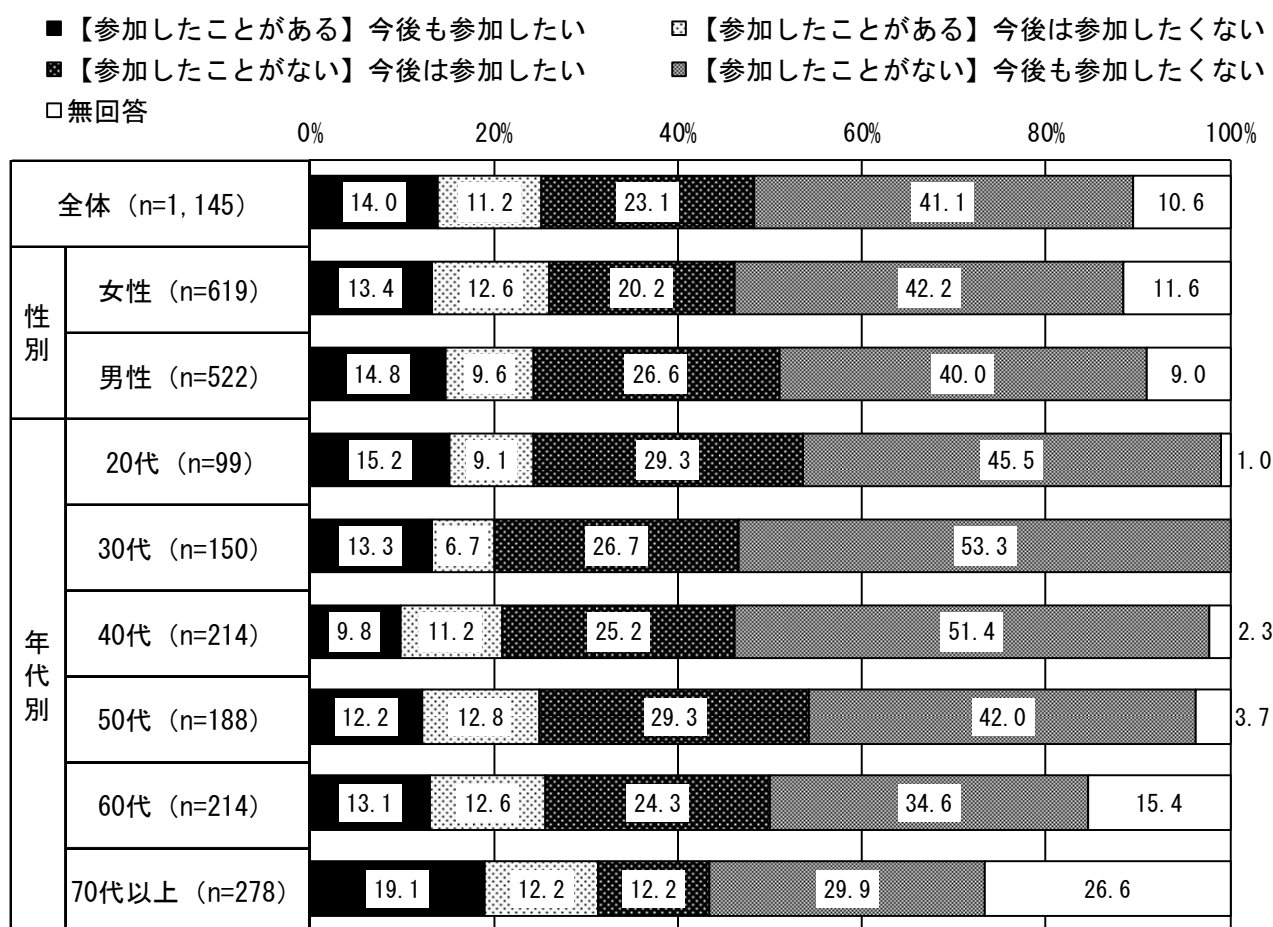
図表 77 ③学校のPTA活動（性別・年代別）



④ボランティアやNPO（民間非営利組織）などの活動

- 「【参加したことがない】今後も参加したくない」が 41.1%と最も高く、次いで「【参加したことがない】今後は参加したい」(23.1%)、「【参加したことがある】今後は参加したい」(14.0%)、「【参加したことがある】今後は参加したくない」(11.2%) となっています。
- 性別では、男性で「【参加したことがない】今後は参加したい」が 26.6%と、女性より 6.4 ポイント高くなっています。
- 年代別では、30 代と 40 代で「【参加したことがない】今後は参加したくない」が 5 割以上と、他の年代と比べて高くなっています。

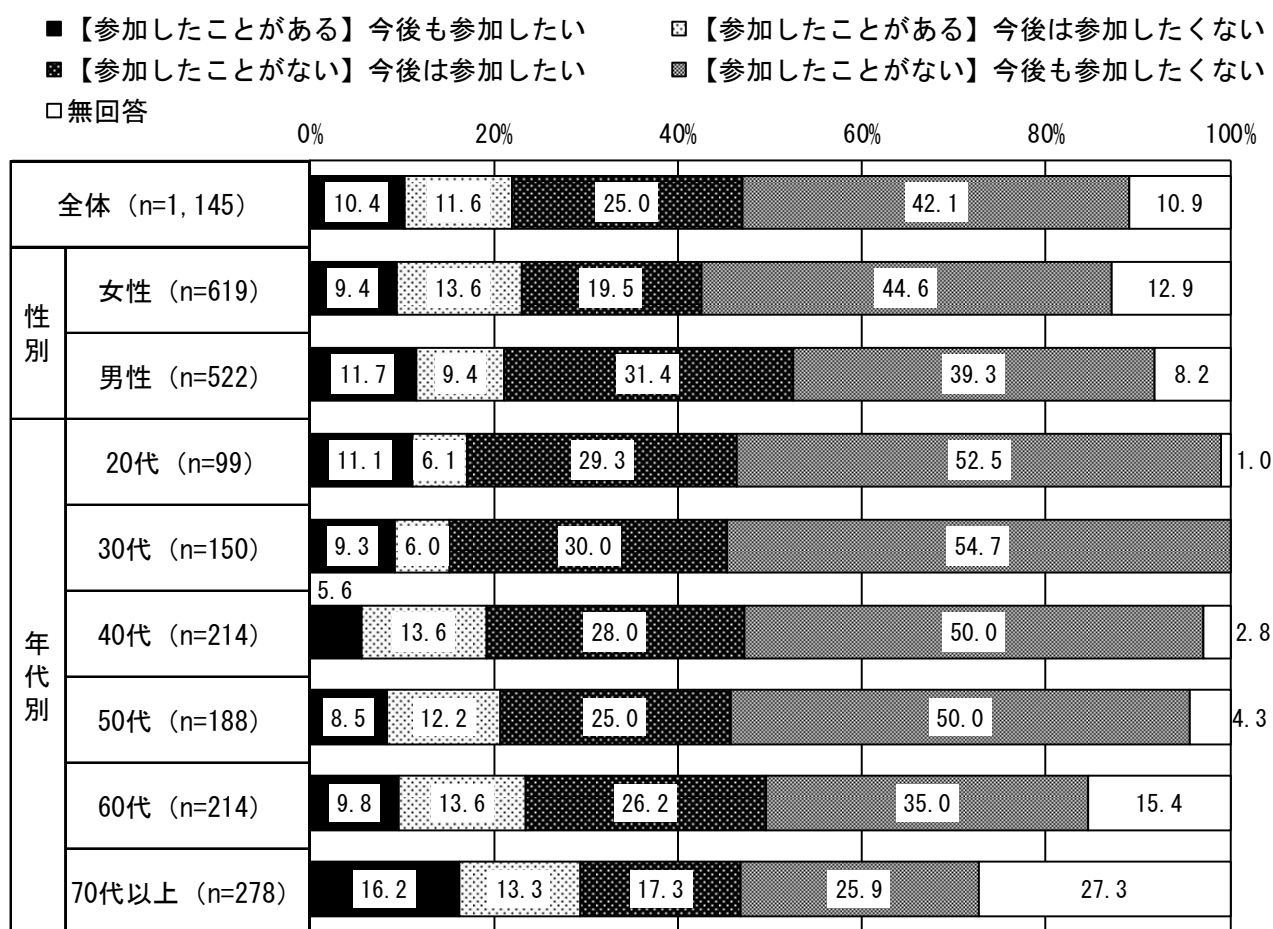
図表 78 ④ボランティアやNPO（民間非営利組織）などの活動（性別・年代別）



⑤まちづくりなどの活動

- 「【参加したことがない】今後も参加したくない」が 42.1%と最も高く、次いで「【参加したことがない】今後は参加したい」(25.0%)、「【参加したことがある】今後は参加したくない」(11.6%)、「【参加したことがある】今後も参加したい」(10.4%) となっています。
- 性別では、男性で「【参加したことがない】今後は参加したい」が 31.4%と、女性より 11.9 ポイント高くなっています。一方で、女性で「【参加したことがない】今後も参加したくない」が 44.6%と、男性より 5.3 ポイント高くなっています。
- 年代別では、60 代と 70 代を除いて、「【参加したことがない】今後も参加したくない」が 5 割以上となっており、なかでも 30 代で 54.7%と、最も高くなっています。

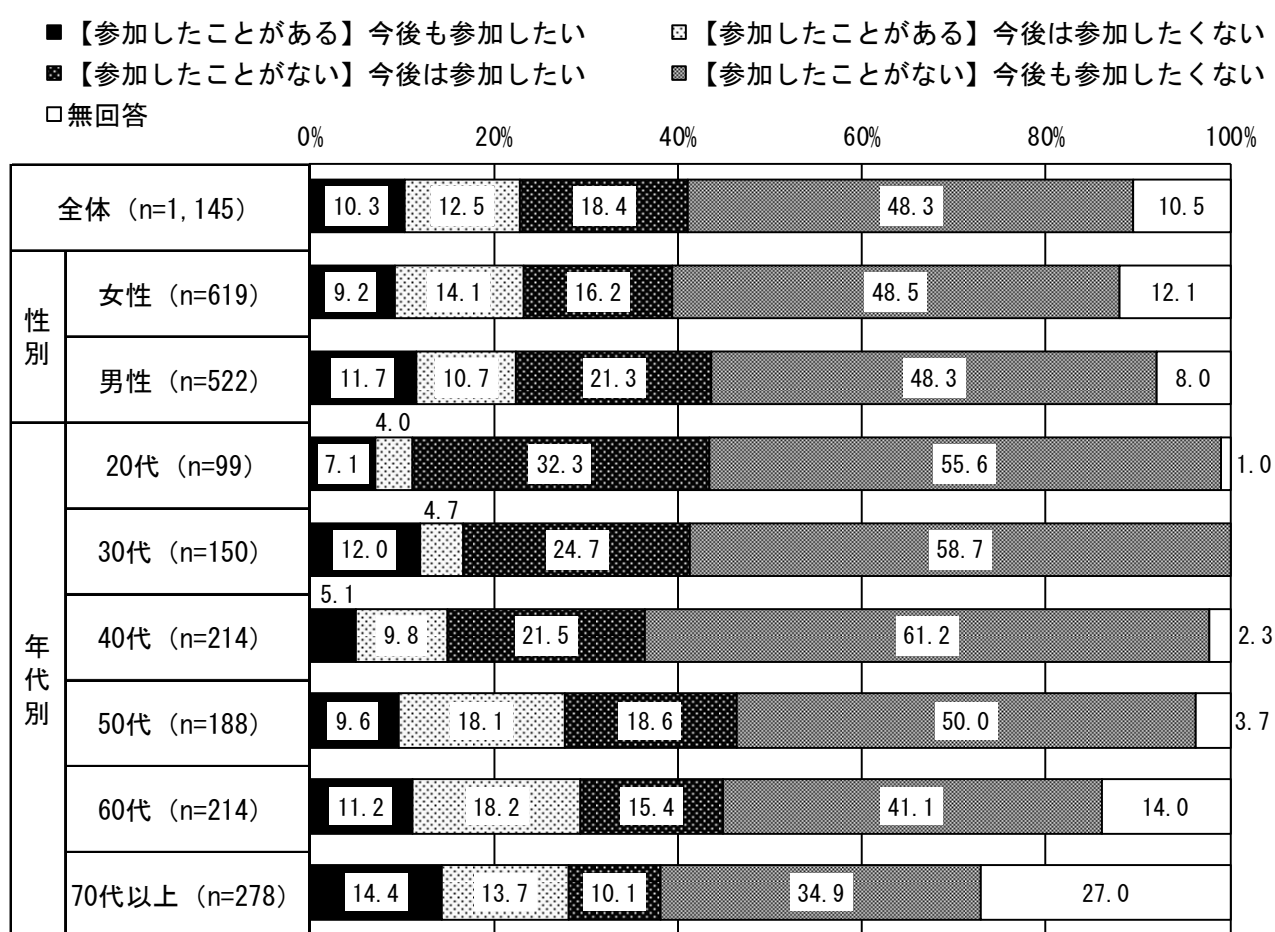
図表 79 ⑤まちづくりなどの活動（性別・年代別）



⑥消防団など防災に関する活動

- 「【参加したことがない】今後も参加したくない」が 48.3%と最も高く、次いで「【参加したことがない】今後は参加したい」(18.4%)、「【参加したことがある】今後は参加したくない」(12.5%)、「【参加したことがある】今後も参加したい」(10.3%) となっています。
- 性別では、男性で「【参加したことがない】今後は参加したい」が 21.3%と、女性より 5.1 ポイント高くなっています。
- 年代別では、60 代と 70 代以上を除いて、「【参加したことがない】今後も参加したくない」が 5 割以上となっており、なかでも 40 代で 61.2%と、最も高くなっています。また、20 代で「【参加したことがない】今後は参加したい」が 32.3%と、他の年代と比べて高くなっています。

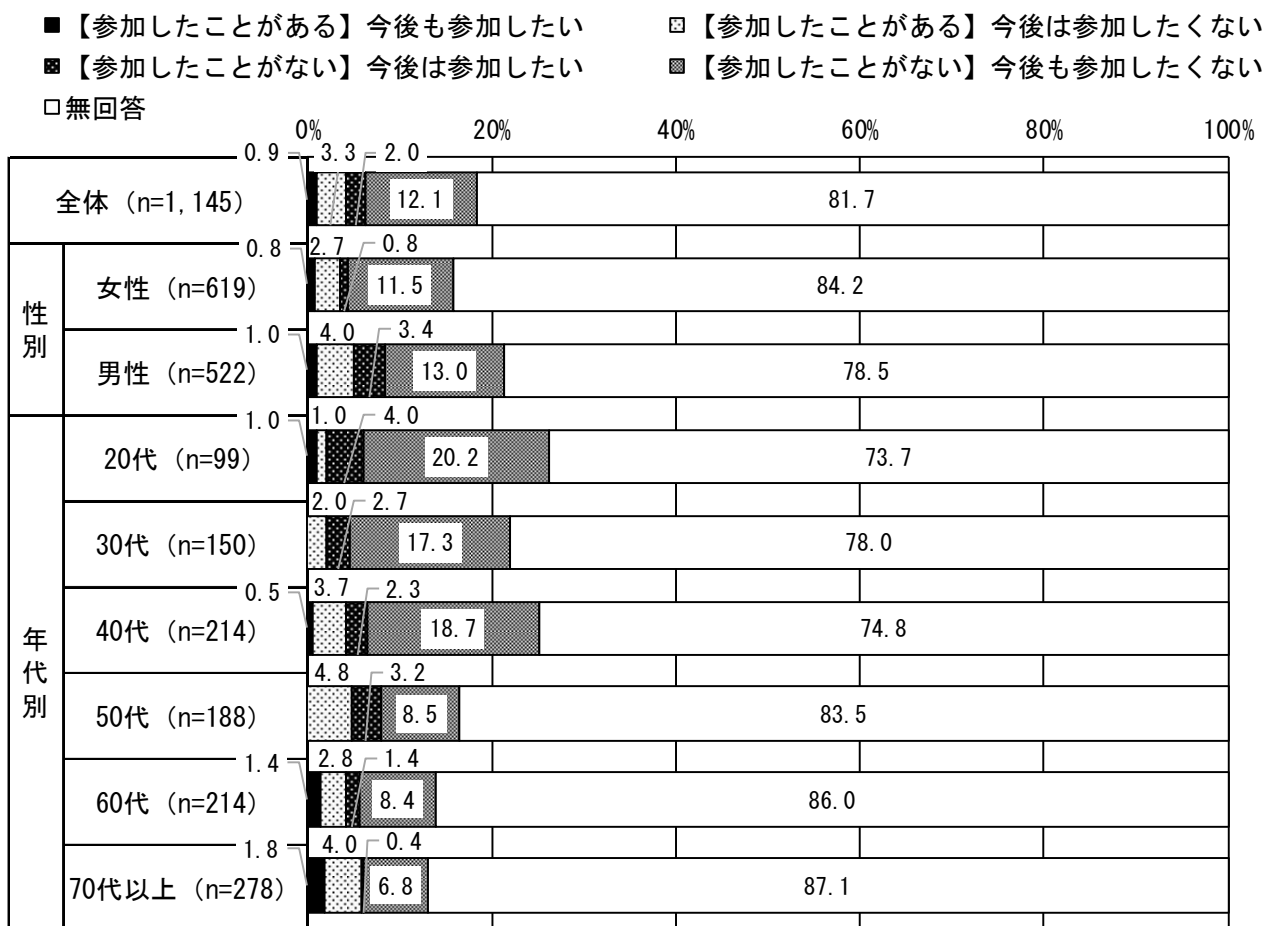
図表 80 ⑥消防団など防災に関する活動（性別・年代別）



⑦その他

- 「【参加したことがない】今後も参加したくない」が12.1%と最も高くなっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20代から40代にかけて「【参加したことがない】今後も参加したくない」が1割以上となっています。

図表 81 ⑦その他（性別・年代別）



その他意見

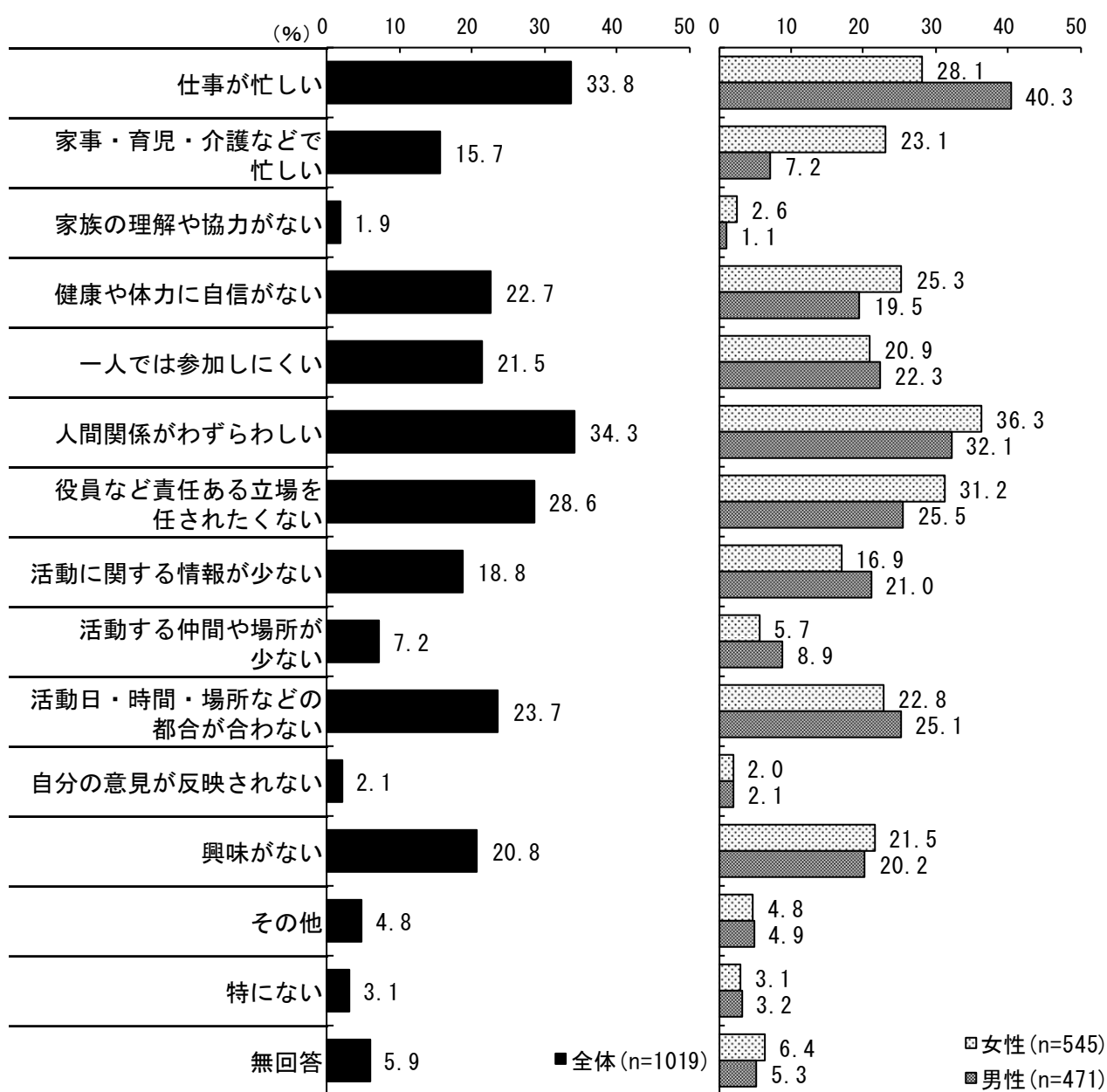
- ユニセフ募金
- ガールスカウト活動
- ゴミ集積所の整備
- 地域のゴミ拾い
- 趣味の会
- 産業フェスタ
- クラブ活動
- など

問 20 で 1 つでも「今後は参加したくない」「今後は参加したい」「今後も参加したくない」と答えた方

問 20-1 これまで参加したことがない理由、今後参加したくない理由は何ですか。
(当てはまるもの全てに○)

- 「人間関係がわずらわしい」が 34.3%と最も高く、次いで「仕事が忙しい」(33.8%)、「役員など責任ある立場を任されたくない」(28.6%)、「活動日・時間・場所などの都合が合わない」(23.7%)となっています。
- 性別では、女性で「家事・育児・介護などで忙しい」が 15.9 ポイント、「健康や体力に自信がない」が 5.8 ポイント、「役員など責任ある立場を任されたくない」が 5.7 ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「仕事が忙しい」が 40.3%と、女性より 12.2 ポイント高くなっています。

図表 82 参加したことがない理由・今後参加したくない理由（性別）



- 年代別では、30代で「人間関係がわずらわしい」、60代と70代以上で「健康や体力に自信がない」、その他の年代で「仕事が忙しい」がそれぞれ最も高くなっています。

図表 83 参加したことがない理由・今後参加したくない理由（年代別）

		全体	仕事が忙しい	家事・育児・介護など忙しい	家族の理解や協力がでない	健康や体力に自信がない	一人では参加しにくい	人間関係がわずらわしい	立場を任せられたい役員など責任ある
全 体		1019	344	160	19	231	219	350	291
		100.0	33.8	15.7	1.9	22.7	21.5	34.3	28.6
年代別	20代	97	42	16	2	11	32	38	18
		100.0	43.3	16.5	2.1	11.3	33.0	39.2	18.6
	30代	145	54	38	5	6	43	59	51
		100.0	37.2	26.2	3.4	4.1	29.7	40.7	35.2
	40代	209	89	60	3	18	49	84	66
		100.0	42.6	28.7	1.4	8.6	23.4	40.2	31.6
	50代	176	78	27	2	30	32	59	49
		100.0	44.3	15.3	1.1	17.0	18.2	33.5	27.8
	60代	180	54	15	1	57	40	54	56
		100.0	30.0	8.3	0.6	31.7	22.2	30.0	31.1
	70代以上	210	26	4	6	108	23	56	51
		100.0	12.4	1.9	2.9	51.4	11.0	26.7	24.3

		活動に関する情報が少ない	活動する仲間や場所が少ない	活動日・時間・都合などが合わない	自分の意見が反映されない	興味がない	その他	特にない	無回答
全 体		192	73	242	21	212	49	32	60
		18.8	7.2	23.7	2.1	20.8	4.8	3.1	5.9
年代別	20代	19	10	23	4	28	1	6	1
		19.6	10.3	23.7	4.1	28.9	1.0	6.2	1.0
	30代	42	16	39	2	39	7	7	6
		29.0	11.0	26.9	1.4	26.9	4.8	4.8	4.1
	40代	40	16	58	6	47	18	7	7
		19.1	7.7	27.8	2.9	22.5	8.6	3.3	3.3
	50代	45	12	53	3	35	5	2	14
		25.6	6.8	30.1	1.7	19.9	2.8	1.1	8.0
	60代	21	8	47	3	36	6	5	16
		11.7	4.4	26.1	1.7	20.0	3.3	2.8	8.9
	70代以上	24	11	22	3	27	12	5	16
		11.4	5.2	10.5	1.4	12.9	5.7	2.4	7.6

その他意見

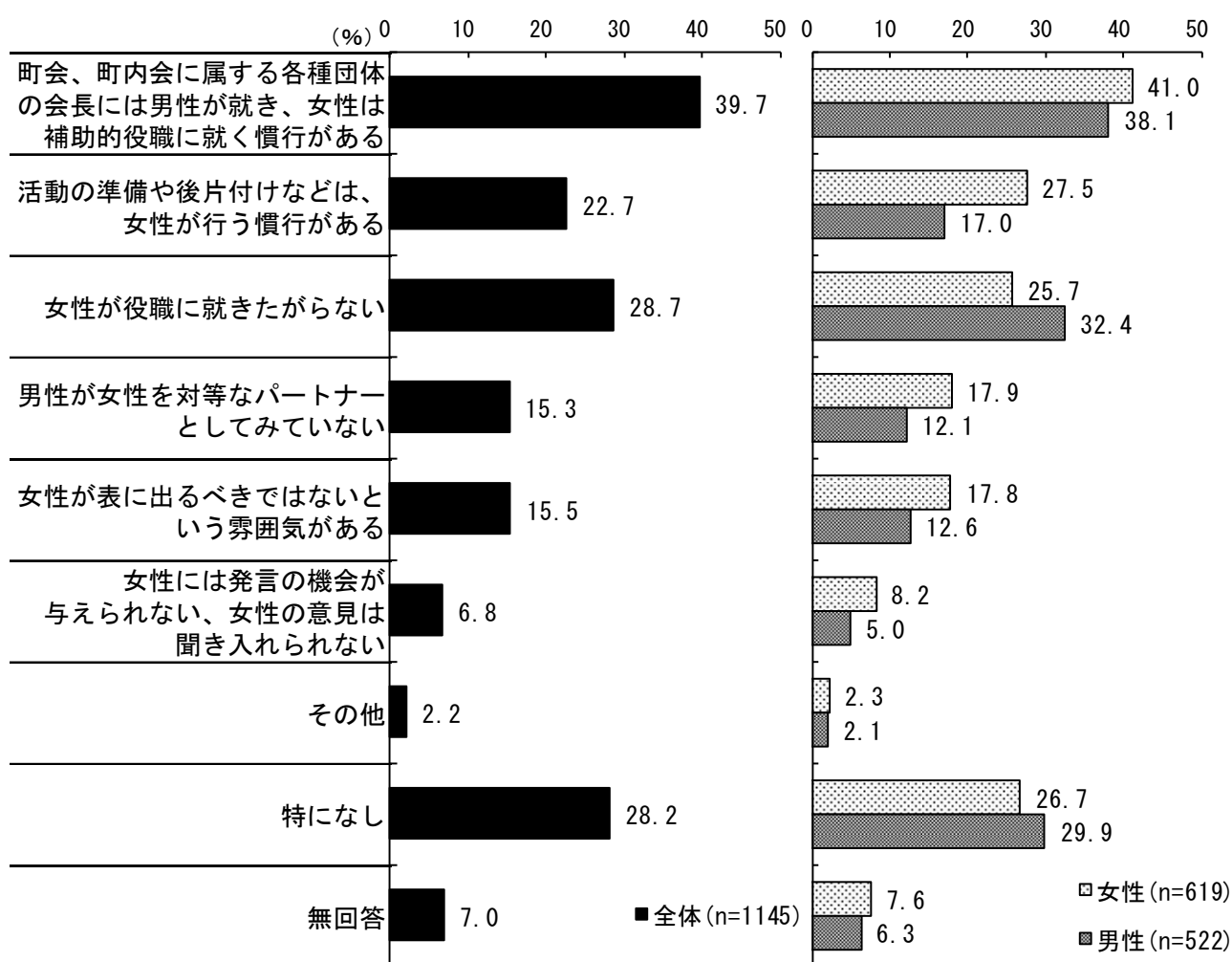
- 休みの日には好きなことをしたい。
- 活動の目的がわからない。
- 機会がなかった。
- 子どもを見る人がいない。
- 土日に休みがない。

など

問21 あなたが地域活動の中で男女の役割分担について思うことは何ですか。
(当てはまるもの全てに○)

- 「町会、町内会に属する各種団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が39.7%と最も高く、次いで「女性が役職に就きたがらない」(28.7%)、「特になし」(28.2%)、「活動の準備や後片付けなどは、女性が行う慣行がある」(22.7%)となっています。
- 性別では、女性で「活動の準備や後片付けなどは、女性が行う慣行がある」が10.5ポイント、「男性が女性を対等なパートナーとしてみていない」が5.8ポイント、「女性が表に出るべきではないという雰囲気がある」が5.2ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「女性が役職に就きたがらない」が32.4%と、女性より6.7ポイント高くなっています。

図表 84 地域活動上の男女の役割分担(性別)



- 年代別では、20代で「特になし」、30代以上で「町会、町内会に属する各種団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が、それぞれ最も高くなっています。

図表 85 地域活動上の男女の役割分担(年代別)

		全 体	慣 行 が あ る に 就 く は す る	補 助 的 役 職 に 就 く は す る	男 性 が 就 き 、 女 性 は 補 助 的 役 職 に 就 く は す る	各 種 団 体 の 会 長 に 属 す る	町 会 、 町 内 会 に 属 す る	慣 行 が あ る	活 動 の 準 備 や 後 片 う け	就 き た が 役 職 に い	女 性 が 役 職 に い	み て い な い	パ ー ト ナ ー と し て	男 性 が 女 性 を 対 等 な
全 体		1145	455	260	329	175								
		100.0	39.7	22.7	28.7	15.3								
年 代 別	20代	99	23	21	15	17								
		100.0	23.2	21.2	15.2	17.2								
	30代	150	53	43	34	30								
		100.0	35.3	28.7	22.7	20.0								
	40代	214	89	54	60	43								
		100.0	41.6	25.2	28.0	20.1								
	50代	188	73	44	60	27								
		100.0	38.8	23.4	31.9	14.4								
	60代	214	95	42	73	25								
		100.0	44.4	19.6	34.1	11.7								
	70代以上	278	121	56	87	33								
		100.0	43.5	20.1	31.3	11.9								

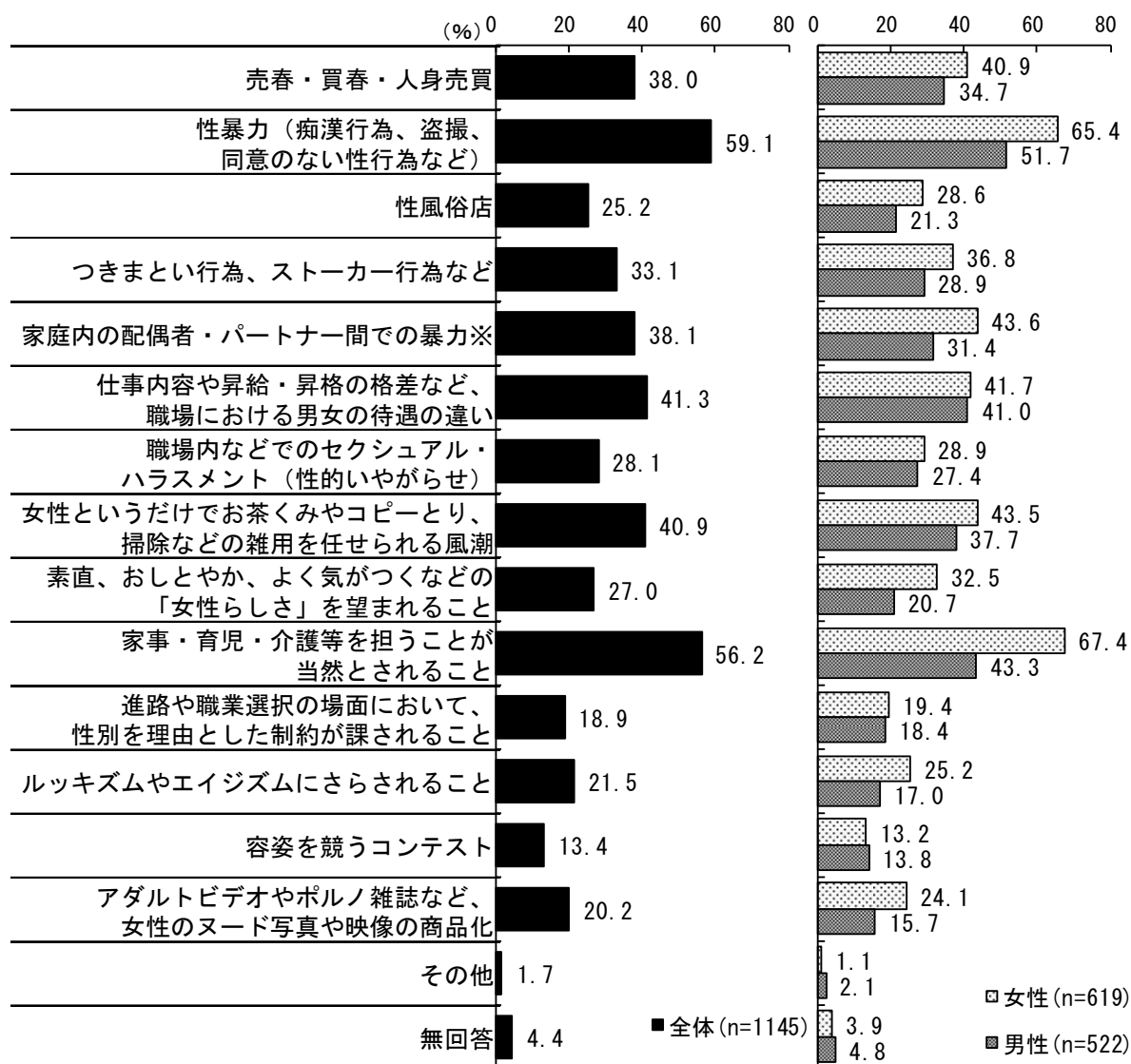
		女 性 が 表 に 出 る 雰 囲 気	女 性 に は 発 言 の 機 会 が	女 性 に は 入 れ ら れ る	意 見 は 聞 き 入 れ ら れ る	な い	そ の 他	特 に な し	無 回 答
全 体		177	78	25	323	80			
		15.5	6.8	2.2	28.2	7.0			
年 代 別	20代	17	13	2	43	2			
		17.2	13.1	2.0	43.4	2.0			
	30代	25	11	4	50	2			
		16.7	7.3	2.7	33.3	1.3			
	40代	40	22	7	62	9			
		18.7	10.3	3.3	29.0	4.2			
	50代	27	8	3	55	11			
		14.4	4.3	1.6	29.3	5.9			
	60代	35	13	3	50	23			
		16.4	6.1	1.4	23.4	10.7			
	70代以上	33	11	6	62	33			
		11.9	4.0	2.2	22.3	11.9			

7 人権について

問22 あなたが女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。（当てはまるもの全てに○）

- 「性暴力（痴漢行為、盗撮、同意のない性行為など）」が 59.1%と最も高く、次いで「家事・育児・介護等を担うことが当然とされること」（56.2%）、「仕事内容や昇給・昇格の格差など、職場における男女の待遇の違い」（41.3%）、「女性というだけでお茶くみやコピーとり、掃除などの雑用を任せられる風潮」（40.9%）となっています。
- 性別では、「容姿競うコンテスト」と「その他」を除いて、女性が男性より高くなっています。なかでも、女性で「家事・育児・介護等を担うことが当然とされること」が 24.1 ポイント、「性暴力（痴漢行為、盗撮、同意のない性行為など）」が 13.7 ポイント、「家庭内の配偶者・パートナー間での暴力」が 12.2 ポイント、「素直、おしとやか、よく気がつくなどの『女性らしさ』を望まれること」が 11.8 ポイント、それぞれ男性より 10 ポイント以上高くなっています。

図表 86 女性の人権が尊重されていないと感じるとき（性別）



※肉体的、精神的、経済的、性的なものを全てを含む

- 年代別では、20代と30代で「家事・育児・介護等を担うことが当然とされること」、40代以上で「性暴力（痴漢行為、盗撮、同意のない性行為など）」が、それぞれ最も高くなっています。また、20代で「職場内などでのセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」が48.5%、「素直、おしとやか、よく気がつくなどの『女性らしさ』を望まれること」が52.5%と、それぞれ他の年代と比べて10ポイント以上高くなっています。

図表 87 女性の人権が尊重されていないと感じるとき（年代別）

		全体	売春・買春・人身売買	性暴力（盗撮、同意のない行為など）	性風俗店	つきまとい行為、ストーカー行為など	家庭内での配偶者の暴力	職場内でのセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	仕事内容や昇給・昇格の格差など、男女の待遇の違い	お茶くみや雑用を任せられる風潮	女性というだけで
全 体		1145	435	677	288	379	436	473	322	468	
		100.0	38.0	59.1	25.2	33.1	38.1	41.3	28.1	40.9	
年代別	20代	99	39	56	22	43	42	44	48	45	
		100.0	39.4	56.6	22.2	43.4	42.4	44.4	48.5	45.5	
	30代	150	58	91	39	60	73	81	47	75	
		100.0	38.7	60.7	26.0	40.0	48.7	54.0	31.3	50.0	
	40代	214	89	148	50	78	93	89	67	96	
		100.0	41.6	69.2	23.4	36.4	43.5	41.6	31.3	44.9	
	50代	188	48	105	22	59	63	67	51	65	
		100.0	25.5	55.9	11.7	31.4	33.5	35.6	27.1	34.6	
	60代	214	92	125	59	70	75	78	53	83	
		100.0	43.0	58.4	27.6	32.7	35.0	36.4	24.8	38.8	
	70代以上	278	108	151	96	69	89	113	56	103	
		100.0	38.8	54.3	34.5	24.8	32.0	40.6	20.1	37.1	

		望ま「女素る担家事ここと育児・然と護されを	性暴力（盗撮、同意のない行為など）	性風俗店	つきまとい行為、ストーカー行為など	家庭内での配偶者の暴力	職場内でのセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	仕事内容や昇給・昇格の格差など、男女の待遇の違い	お茶くみや雑用を任せられる風潮	女性というだけで
全 体		309	644	216	246	154	231	19	50	
		27.0	56.2	18.9	21.5	13.4	20.2	1.7	4.4	
年代別	20代	52	64	30	31	18	15	-	-	
		52.5	64.6	30.3	31.3	18.2	15.2	-	-	
	30代	63	94	35	35	21	25	2	3	
		42.0	62.7	23.3	23.3	14.0	16.7	1.3	2.0	
	40代	61	121	37	48	29	39	5	2	
		28.5	56.5	17.3	22.4	13.6	18.2	2.3	0.9	
	50代	46	104	31	36	24	24	3	5	
		24.5	55.3	16.5	19.1	12.8	12.8	1.6	2.7	
	60代	40	118	36	45	24	54	4	16	
		18.7	55.1	16.8	21.0	11.2	25.2	1.9	7.5	
	70代以上	47	142	47	50	38	74	4	24	
		16.9	51.1	16.9	18.0	13.7	26.6	1.4	8.6	

その他意見

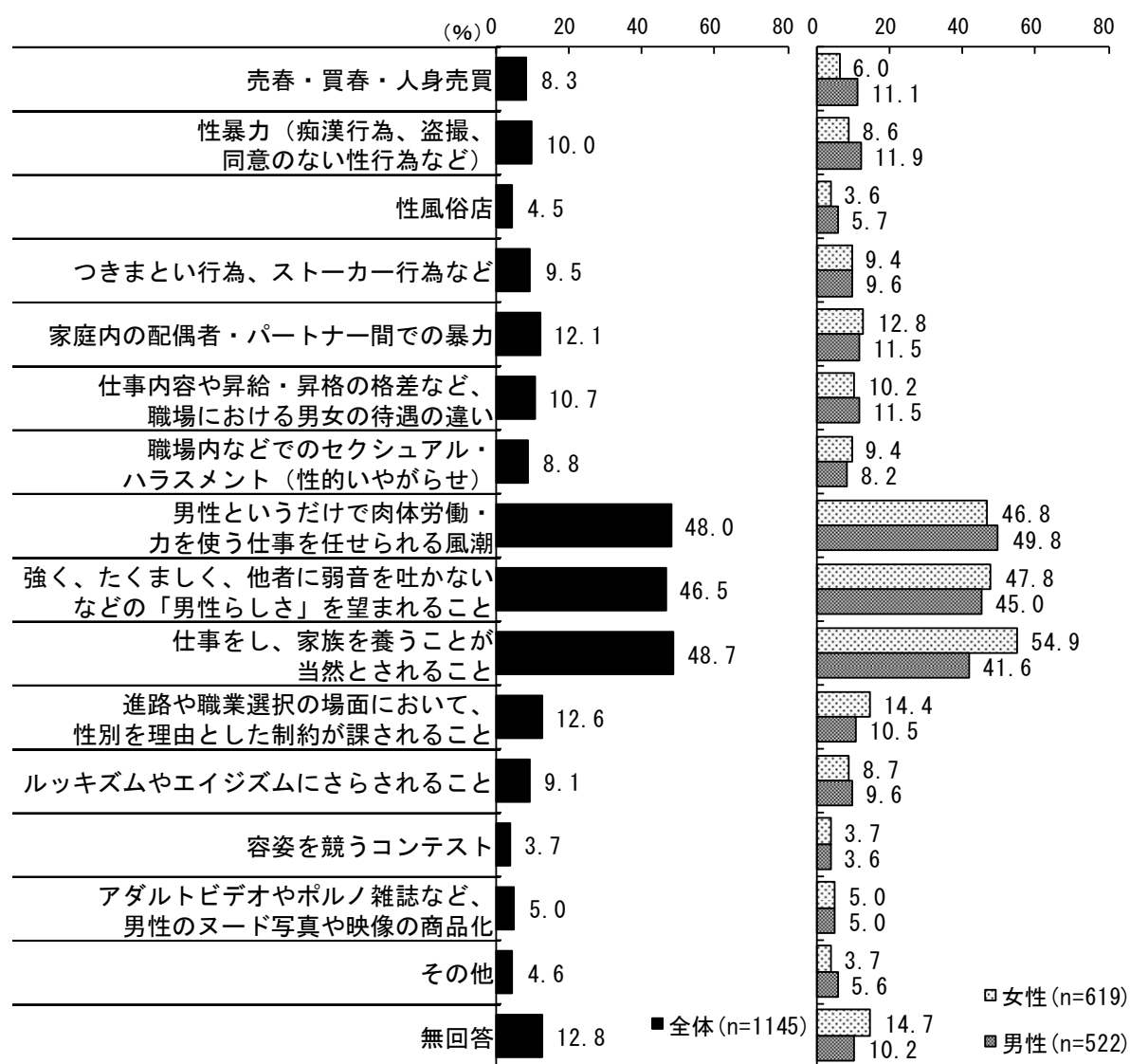
- 人によって向き不向きが。女性だからと決めないで。
- 政治の場での女性参加の少なさ。
- 別姓にならない。
- 女子割礼

など

問23 あなたが男性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。（当てはまるもの全てに○）

- 「仕事をし、家族を養うことが当然とされること」が 48.7%と最も高く、次いで「男性というだけで肉体労働・力を使う仕事を任せられる風潮」(48.0%)、「強く、たくましく、他者に弱音を吐かないなどの『男性らしさ』を望まれること」(46.5%)となっています。
- 性別では、女性で「仕事をし、家族を養うことが当然とされること」が 54.9%と、男性より 13.3 ポイント高くなっています。一方で、男性で「売春・買春・人身売買」が 11.1%と、女性より 5.1 ポイント高くなっています。

図表 88 男性の人権が尊重されていないと感じるとき（性別）



- 年代別では、20代と30代で「強く、たくましく、他者に弱音を吐かないなどの『男らしさ』を望まれること」と「仕事をし、家族を養うことが当然とされること」が、それぞれ6割以上となっています。また、20代で「家庭内の配偶者・パートナー間での暴力」が24.2%、「仕事内容や昇給・昇格の格差など、職場における男女の待遇の違い」が17.2%、30代で「男性というだけで肉体労働・力を使う仕事を任せられる風潮」が59.3%と、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

図表 89 男性の人権が尊重されていないと感じるとき（年代別）

	全体	売春・買春・人身売買	性盗撮、暴力行為、同意のない行為など	性風俗店	ストーカー行為など	家庭内の配偶者・パートナー間での暴力	職場内での格差など、昇給・昇格の待遇の違い	仕事内容や昇給・昇格の待遇の違い	ハラスメント（性的いやがらせ）	職場内での格差など、昇給・昇格の待遇の違い	労働性というだけで肉を体
全 体	1145 100.0	95 8.3	115 10.0	52 4.5	109 9.5	139 12.1	123 10.7	101 8.8	550 48.0		
年 代 別	20代	99 100.0	15 15.2	11 11.1	6 6.1	14 14.1	24 24.2	17 17.2	53 53.5		
	30代	150 100.0	19 12.7	23 15.3	8 5.3	19 12.7	26 17.3	18 12.0	89 59.3		
	40代	214 100.0	18 8.4	29 13.6	8 3.7	22 10.3	27 12.6	17 7.9	111 51.9		
	50代	188 100.0	11 5.9	16 8.5	5 2.7	17 9.0	16 8.5	21 11.2	87 46.3		
	60代	214 100.0	13 6.1	13 6.1	7 3.3	14 6.5	19 8.9	17 7.9	94 43.9		
	70代以上	278 100.0	19 6.8	23 8.3	18 6.5	23 8.3	27 9.7	33 11.9	116 41.7		

		を望まれること	他者に弱音を吐かないなどの「男性らしさ」	強く、たくましく、	仕事をし、家族を養うことが当然とされること	仕路や職業選択の場面において、性別を理由とした制約が課されること	ルッキズムやエイジズムにさらされること	容姿を競うコンテスト	商品のボルノ雑誌など、男性のヌード写真や映像の商品化	その他	無回答
全 体		532	558	144	104	42	57	53	146		
		46.5	48.7	12.6	9.1	3.7	5.0	4.6	12.8		
年 代 別	20代	63	64	18	14	6	4	2	1		
		63.6	64.6	18.2	14.1	6.1	4.0	2.0	1.0		
	30代	102	94	32	23	10	9	3	7		
		68.0	62.7	21.3	15.3	6.7	6.0	2.0	4.7		
	40代	110	119	23	18	5	6	12	12		
		51.4	55.6	10.7	8.4	2.3	2.8	5.6	5.6		
	50代	87	87	19	17	5	6	11	18		
		46.3	46.3	10.1	9.0	2.7	3.2	5.9	9.6		
	60代	79	96	23	13	4	9	16	41		
		36.9	44.9	10.7	6.1	1.9	4.2	7.5	19.2		
70代以上	91	98	29	19	12	23	8	66			
	32.7	35.3	10.4	6.8	4.3	8.3	2.9	23.7			

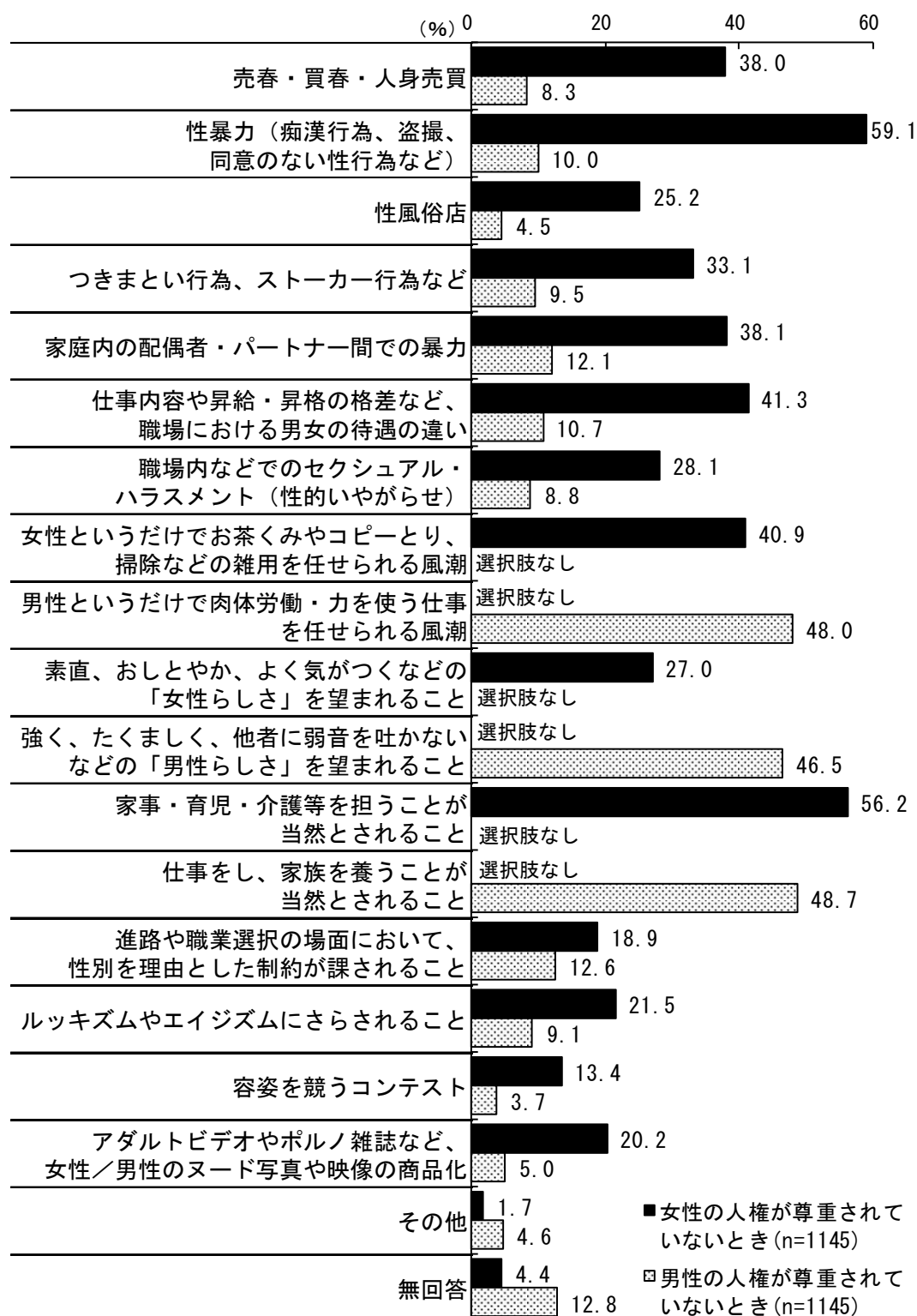
その他意見

- 「男だから」と感じたことがない。
 - 我慢を強いられる場面が多い気がします。
 - 児童館や公共施設のオムツ替えエリアなど男性（父親）が利用しづらいこと。
 - 職場における異動や転勤。
- など

女性の人権・男性の人権が尊重されていないと感じること

- 性別固有の選択肢を除いて、「女性の人権が尊重されていないとき」が「男性の人権が尊重されていないとき」より高くなっています。なかでも、「女性の人権が尊重されていないとき」で「性暴力（痴漢行為、盗撮、同意のない性行為など）」が 49.1 ポイント、「仕事内容や昇給・昇格の格差など、職場における男女の待遇の違い」が 30.6 ポイント、「売春・買春・人身売買」が 29.7 ポイント、それぞれ「男性の人権が尊重されていないとき」より高くなっています。

図表 90 女性の人権・男性の人権が尊重されていないと感じること

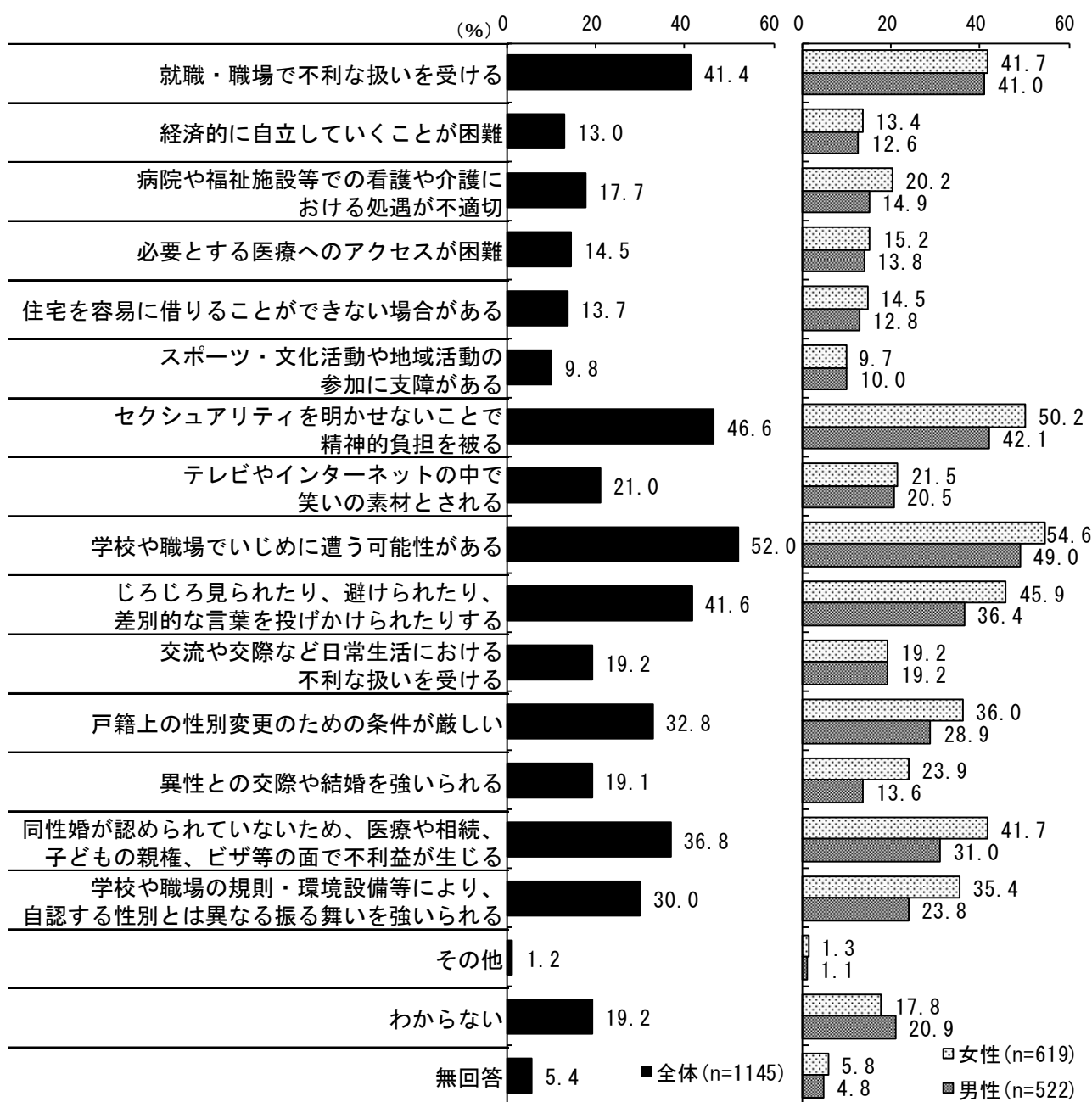


8 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）について

問24 あなたは、現在性的少数者（同性愛者、両性愛者やトランスジェンダーなど）がどのような問題に直面していると思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- 「学校や職場でいじめに遭う可能性がある」が 52.0%と最も高く、次いで「セクシュアリティを明かせないことで精神的負担を被る」(46.6%)、「じろじろ見られたり、避けられたり、差別的な言葉を投げかけられたりする」(41.6%)、「就職・職場で不利な扱いを受ける」(41.4%) となっています。
- 性別では、「スポーツ・文化活動や地域活動の参加に支障がある」「交流や交際など日常生活における不利な扱いを受ける」「わからない」を除いて、女性が男性より高くなっています。なかでも、女性で「学校や職場の規則・環境設備等により、自認する性別とは異なる振る舞いを強いられる」が 11.6 ポイント、「同性婚が認められていないため、医療や相続、子どもの親権、ビザ等の面で不利益が生じる」が 10.7 ポイント、「異性との交際や結婚を強いられる」が 10.3 ポイント、それぞれ男性より 10 ポイント以上高くなっています。

図表 91 性的少数者が直面している問題（性別）



- 年代別では、70代以上を除いて、「学校や職場でいじめに遭う可能性がある」が5割以上となっており、なかでも30代で70.0%と、最も高くなっています。また、年代が下がるにつれて、「交流や交際など日常生活における不利な扱いを受ける」「戸籍上の性別変更のための条件が厳しい」「異性との交際や結婚を強いられる」「学校や職場の規則・環境設備等により、自認する性別とは異なる振る舞いを強いられる」が、それぞれ高くなっています。

図表 92 性的少数者が直面している問題（年代別）

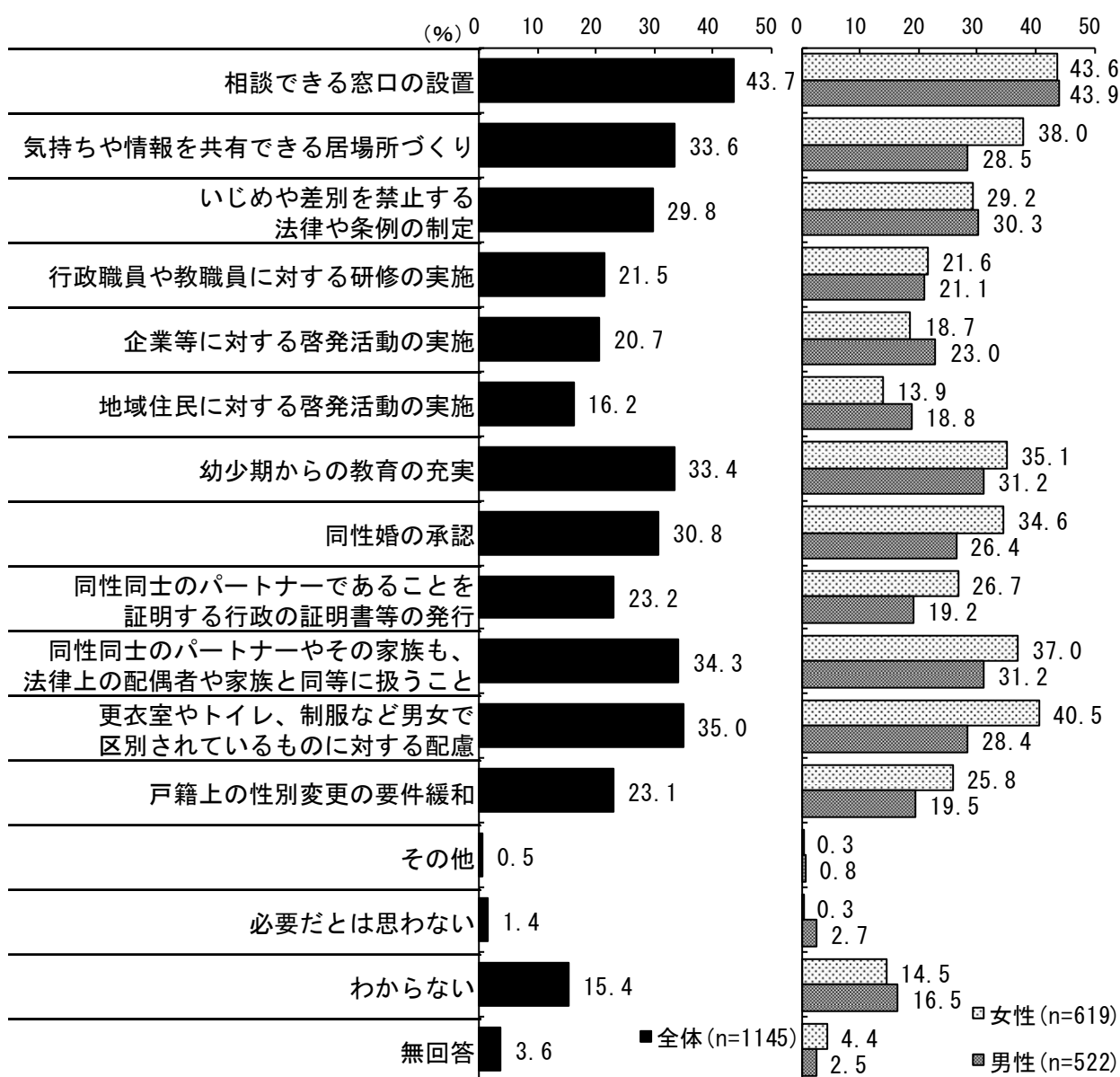
		全 体	就 職 ・ 職 場 で 不 利 な 扱 い を 受 け る	経 済 的 に 自 立 し て い く こ と が 困 難	病 院 や 福 祉 施 設 等 の 看 護 や 介 護 に お け る 処 遇 が 不 適 切	必 要 と す る 医 療 へ の ア ク セ ス が 困 難	住 宅 を 容 易 に 借 り あ る こ と が で き な い 場 合 が あ る こ と	ス ポ ー ツ ・ 文 化 活 動 や 地 域 の 参 加 に 支 障 が あ る こ と	精 神 的 負 担 を 被 る こ と を 明 か し ア リ テ ィ を セ ク シ ュ ア リ テ ィ を	テ レ ビ や イ ン タ ー ネ ッ ト の 中 で 笑 い の 素 材 と さ る	学 校 や 職 場 で い じ め に 遭 う 可 能 性 が あ る
全 体		1145 100.0	474 41.4	149 13.0	203 17.7	166 14.5	157 13.7	112 9.8	533 46.6	241 21.0	595 52.0
年 代 別	20代	99 100.0	46 46.5	20 20.2	20 20.2	18 18.2	20 20.2	11 11.1	60 60.6	36 36.4	64 64.6
	30代	150 100.0	63 42.0	19 12.7	27 18.0	30 20.0	22 14.7	16 10.7	98 65.3	50 33.3	105 70.0
	40代	214 100.0	94 43.9	33 15.4	39 18.2	35 16.4	28 13.1	18 8.4	109 50.9	51 23.8	120 56.1
	50代	188 100.0	81 43.1	18 9.6	33 17.6	24 12.8	29 15.4	22 11.7	89 47.3	31 16.5	95 50.5
	60代	214 100.0	89 41.6	26 12.1	37 17.3	19 8.9	18 8.4	24 11.2	82 38.3	39 18.2	107 50.0
	70代以上	278 100.0	100 36.0	33 11.9	47 16.9	40 14.4	40 14.4	21 7.6	94 33.8	33 11.9	103 37.1

		言 葉 を 投 げ か け ら れ た り す る	じ ろ じ ろ 見 ら れ た り 、 差 別 的 な 扱 い を 受 け る	交 流 や 交 際 な ど 日 常 生 活 に 不 利 な 扱 い を 受 け る	戸 籍 上 の 性 別 変 更 の 条 件 が 厳 し い	異 性 と の 交 際 や 結 婚 を 強 い ら れ る	同 性 婚 が 認 め ら れ て い な い た め 、 医 療 や 相 続 、 子 ど も の 親 権 、 ビ ザ 等 の 面 で 不 利 益 が 生 じ る	学 校 や 職 場 の 規 則 ・ 環 境 設 備 等 に よ り 、 自 認 す る 性 別 と は 異 な る 振 る 舞 い を 強 い ら れ る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		476 41.6	220 19.2	375 32.8	219 19.1	421 36.8	344 30.0	14 1.2	220 19.2	62 5.4	
年 代 別	20代	56 56.6	34 34.3	47 47.5	47 47.5	48 48.5	41 41.4	1 1.0	11 11.1	3 3.0	
		30代	91 60.7	44 29.3	62 41.3	54 36.0	74 49.3	56 37.3	- -	17 11.3	- -
	40代		100 46.7	40 18.7	79 36.9	46 21.5	91 42.5	75 35.0	5 2.3	35 16.4	1 0.5
		50代	82 43.6	29 15.4	56 29.8	27 14.4	60 31.9	56 29.8	2 1.1	36 19.1	3 1.6
	60代		74 34.6	33 15.4	59 27.6	22 10.3	73 34.1	59 27.6	1 0.5	49 22.9	16 7.5
		70代以上	72 25.9	39 14.0	71 25.5	23 8.3	75 27.0	56 20.1	5 1.8	71 25.5	39 14.0

問25 あなたは、性的少数者の方たちが暮らしやすい社会にするためには、どのような意識啓発や支援が必要だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- 「相談できる窓口の設置」が 43.7%と最も高く、次いで「更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮」（35.0%）、「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の配偶者や家族と同等に扱うこと」（34.3%）となっています。
- 性別では、女性で「更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮」が 12.1 ポイント、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が 9.5 ポイント、「同性婚の承認」が 8.2 ポイント、「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の配偶者や家族と同等に扱うこと」が 7.5 ポイント、「戸籍上の性別変更の要件緩和」が 6.3 ポイント、「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の配偶者や家族と同等に扱うこと」が 5.8 ポイント、それぞれ男性より高くなっています。

図表 93 性的少数者が暮らしやすい社会にするためには（性別）



- 図表 94 性的少数者が暮らしやすい社会にするためには（年代別）

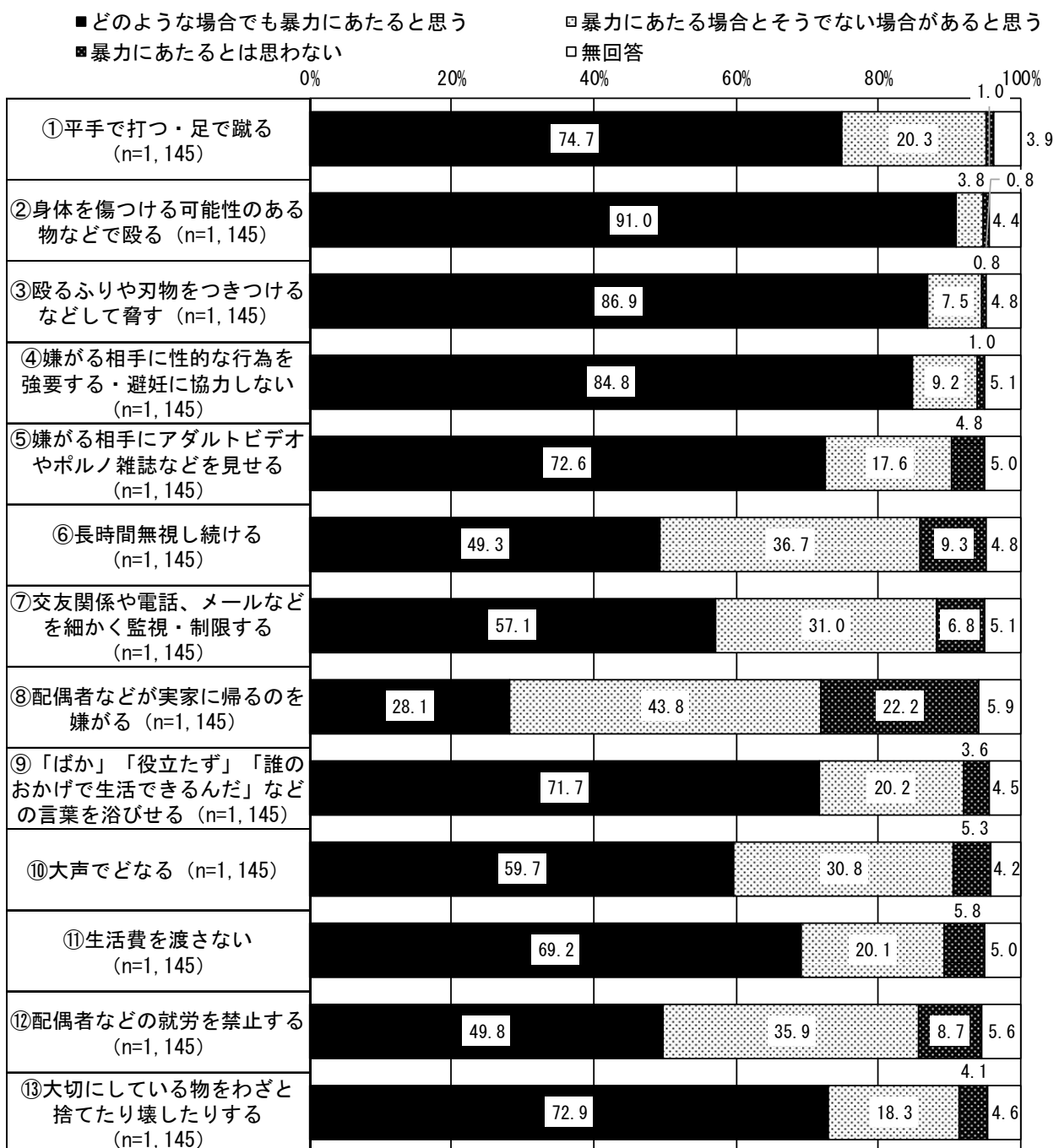
		行政の証明書を証明する	同性のパートナーに扱うこと	同性の家族、法律上の配偶者や家族と同等の配置	同性のパートナーに対する配慮	更衣室やトイレ、制服など男女で区別される配慮	戸籍上の性別変更の要件緩和	その他	必要だとは思わない	わからない	無回答
全 体		266	393	401	264	6	16	176	41		
		23.2	34.3	35.0	23.1	0.5	1.4	15.4	3.6		
年 代 別	20代	46	51	43	34	－	1	7	2		
		46.5	51.5	43.4	34.3	－	1.0	7.1	2.0		
	30代	52	68	65	53	－	1	14	－		
		34.7	45.3	43.3	35.3	－	0.7	9.3	－		
	40代	59	86	86	66	3	4	26	2		
		27.6	40.2	40.2	30.8	1.4	1.9	12.1	0.9		
	50代	41	60	56	36	1	3	33	3		
		21.8	31.9	29.8	19.1	0.5	1.6	17.6	1.6		
	60代	32	62	71	40	1	3	42	11		
		15.0	29.0	33.2	18.7	0.5	1.4	19.6	5.1		
70代以上	35	65	78	34	1	4	54	23			
	12.6	23.4	28.1	12.2	0.4	1.4	19.4	8.3			

9 ドメスティック・バイオレンスについて

問26 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナー間や恋人間で行われた場合、それを暴力だと思いませんか。（〇はそれぞれ1つ）

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」をみると、「②身体を傷つける可能性のある物などで殴る」が91.0%と最も高く、次いで「③殴るふりや刃物をつきつけるなどして脅す」（86.9%）、「④嫌がる相手に性的な行為を強要する・避妊に協力しない」（84.8%）となっています。
- 「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」をみると、「⑧配偶者などが実家に帰るのを嫌がる」が43.8%と最も高く、次いで「⑥長時間無視し続ける」（36.7%）、「⑫配偶者などの就労を禁止する」（35.9%）となっています。

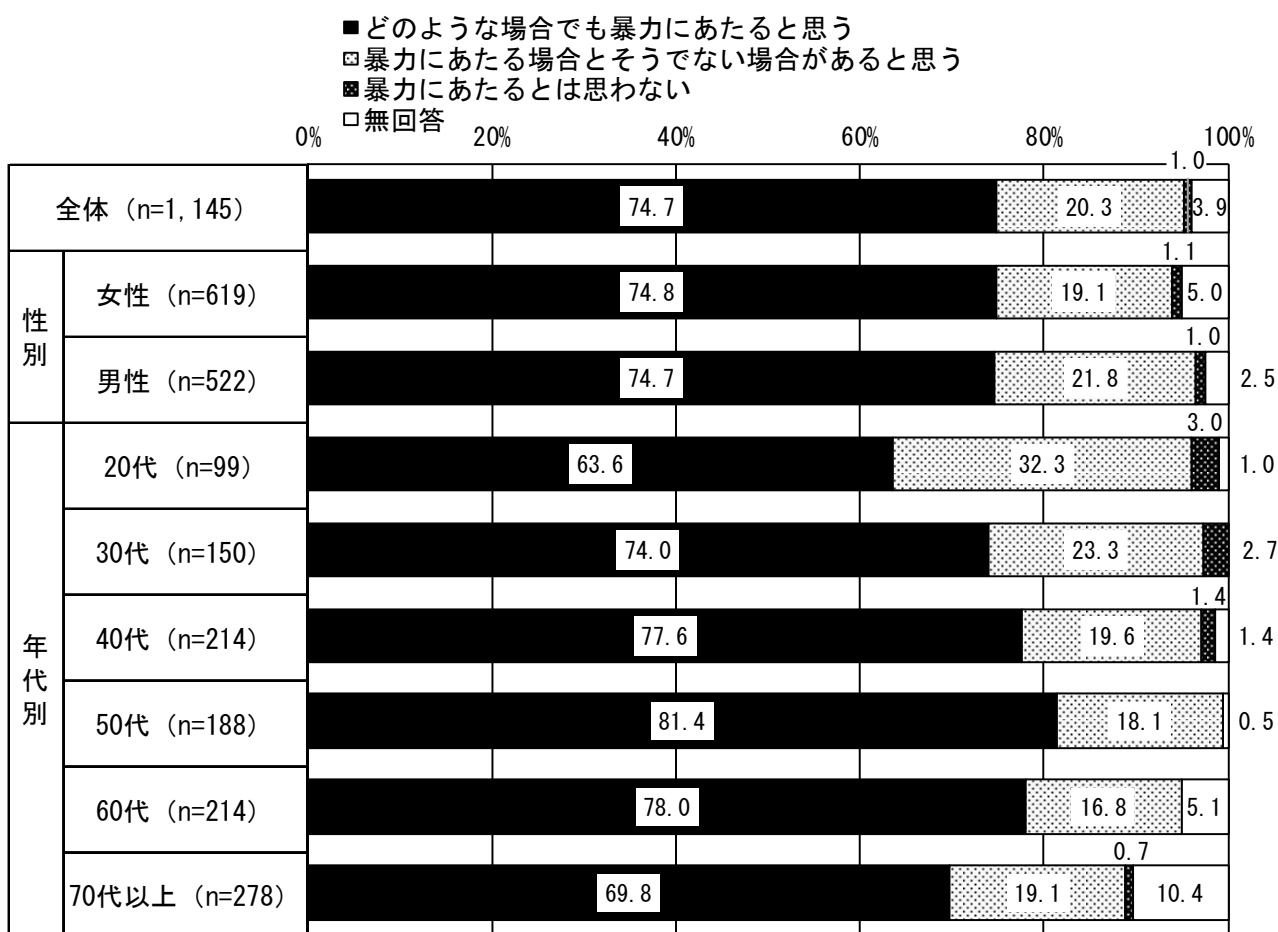
図表 95 暴力の認識



①平手で打つ・足で蹴る

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が74.7%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が20.3%、「暴力にあたるとは思わない」が1.0%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20代から50代にかけて、年代が上がるにつれて「どのような場合でも暴力にあたると思う」が高くなっており、50代で81.4%となっています。また、20代で「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が32.3%と、他の年代と比べて高くなっています。

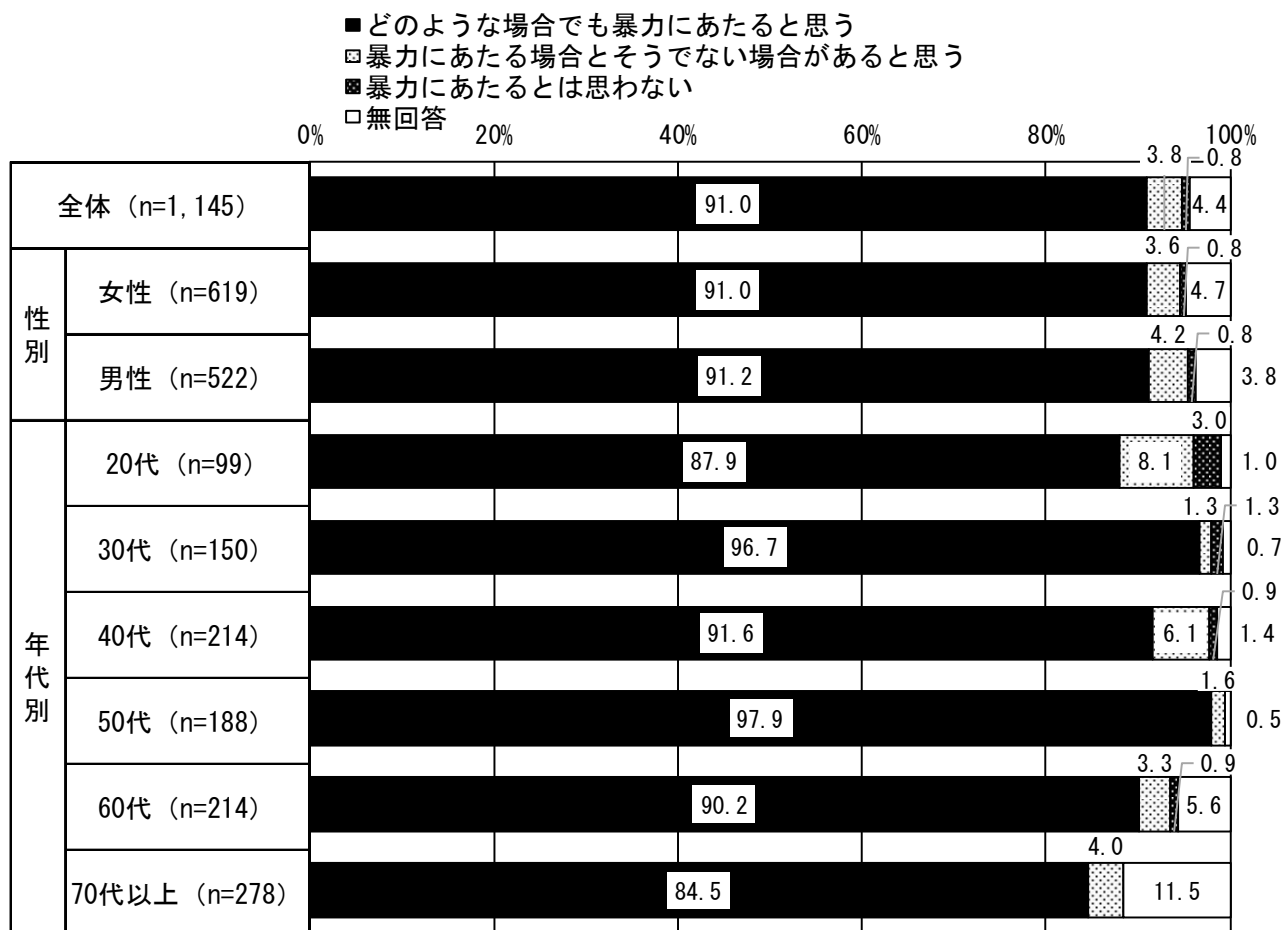
図表 96 ①平手で打つ・足で蹴る（性別・年代別）



②身体を傷つける可能性のある物などで殴る

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が 91.0%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が 3.8%、「暴力にあたるとは思わない」が 0.8%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、30代から60代にかけて、「どのような場合でも暴力にあたると思う」が9割以上となっており、なかでも50代で97.9%と、最も高くなっています。

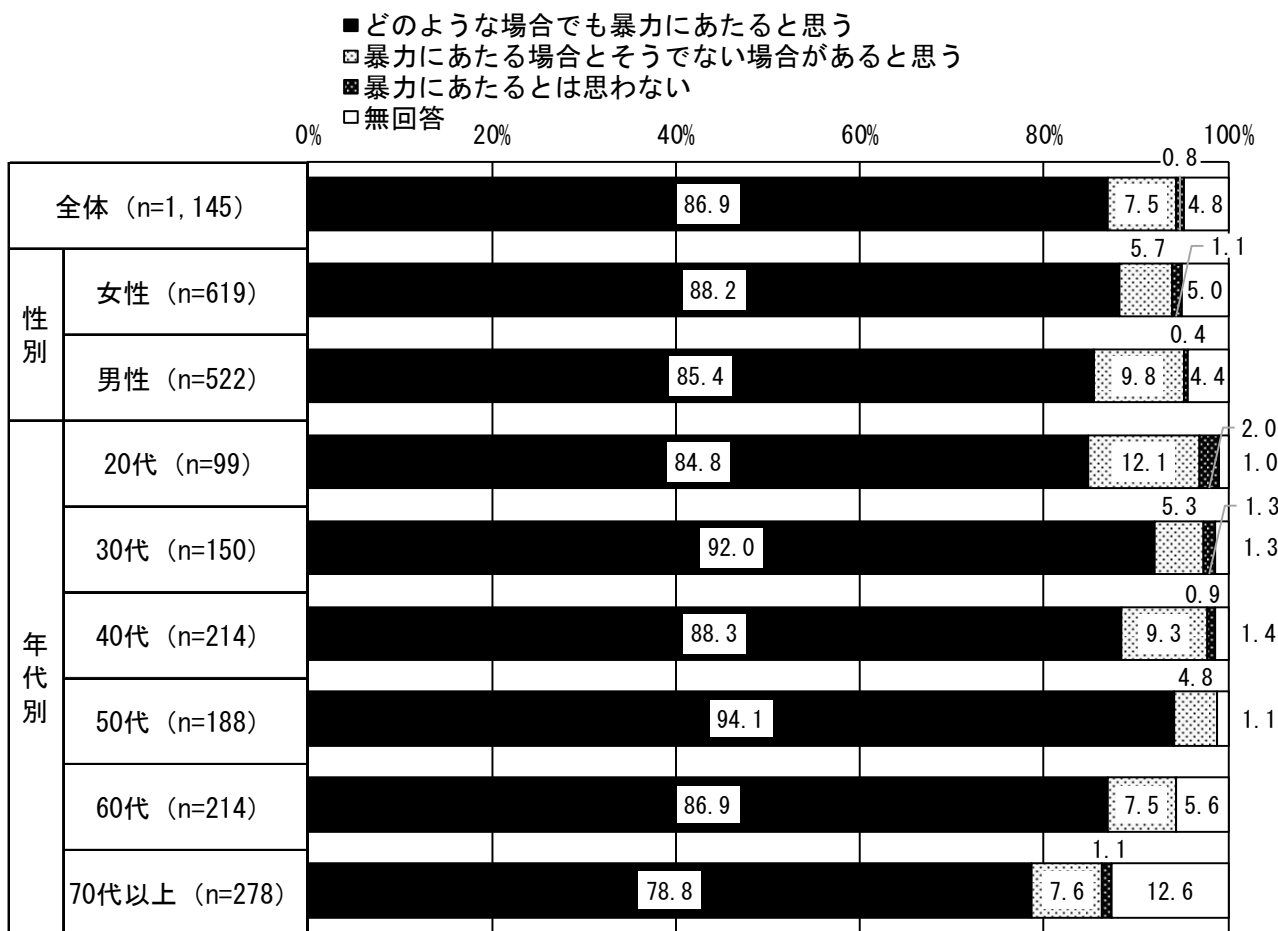
図表 97 ②身体を傷つける可能性のある物などで殴る（性別・年代別）



③殴るふりや刃物をつきつけるなどして脅す

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が 86.9%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が 7.5%、「暴力にあたるとは思わない」が 0.8%となっています。
- 性別では、男性で「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が 9.8%と、女性より 4.1 ポイント高くなっています。
- 年代別では、30 代と 50 代で「どのような場合でも暴力にあたると思う」が 9 割以上となっています。

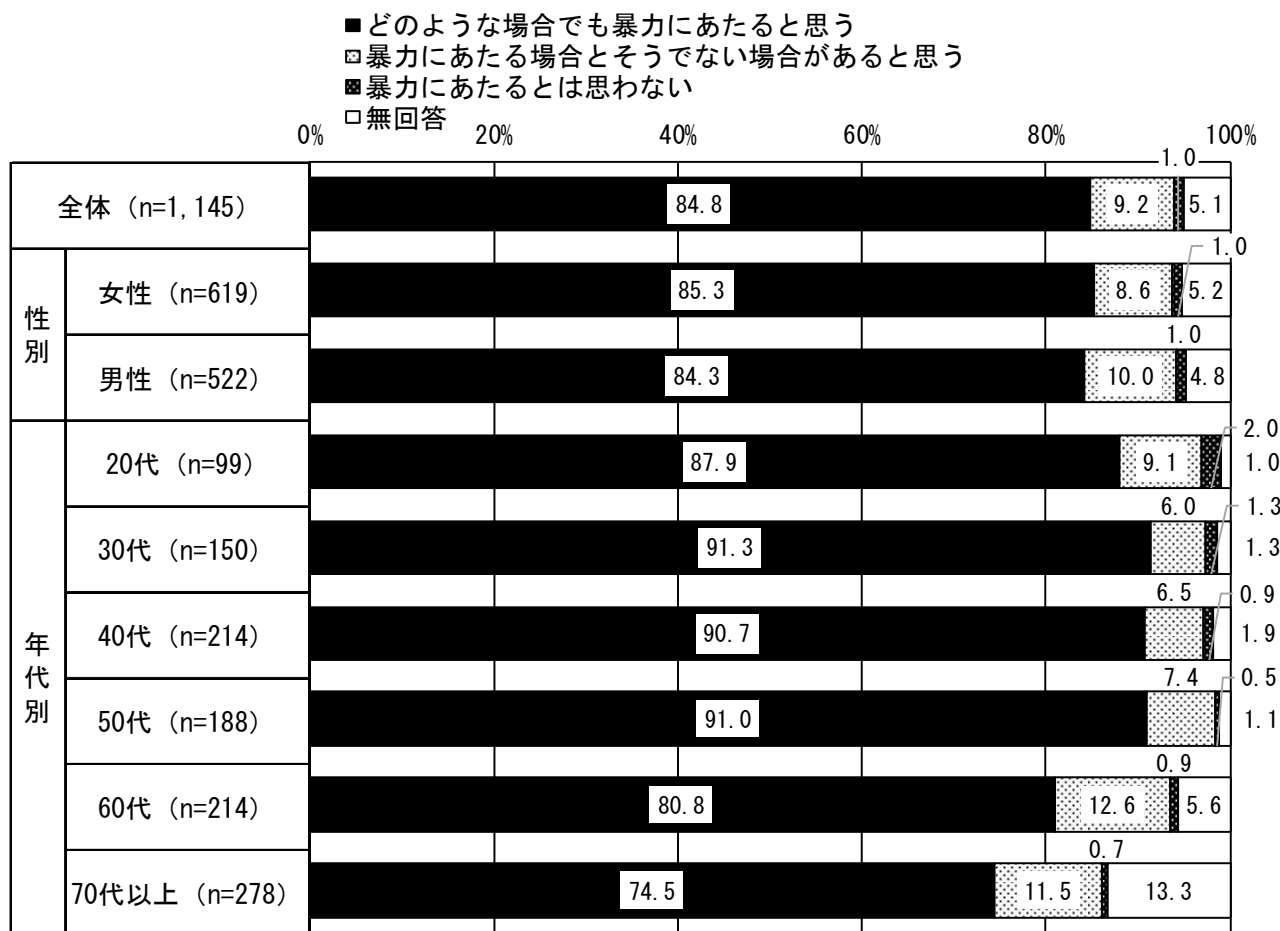
図表 98 ③殴るふりや刃物をつきつけるなどして脅す（性別・年代別）



④嫌がる相手に性的な行為を強要する・避妊に協力しない

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が84.8%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が9.2%、「暴力にあたるとは思わない」が1.0%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、30代から50代にかけて、「どのような場合でも暴力にあたると思う」が約9割となっています。また、60代と70代以上で、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が1割以上となっています。

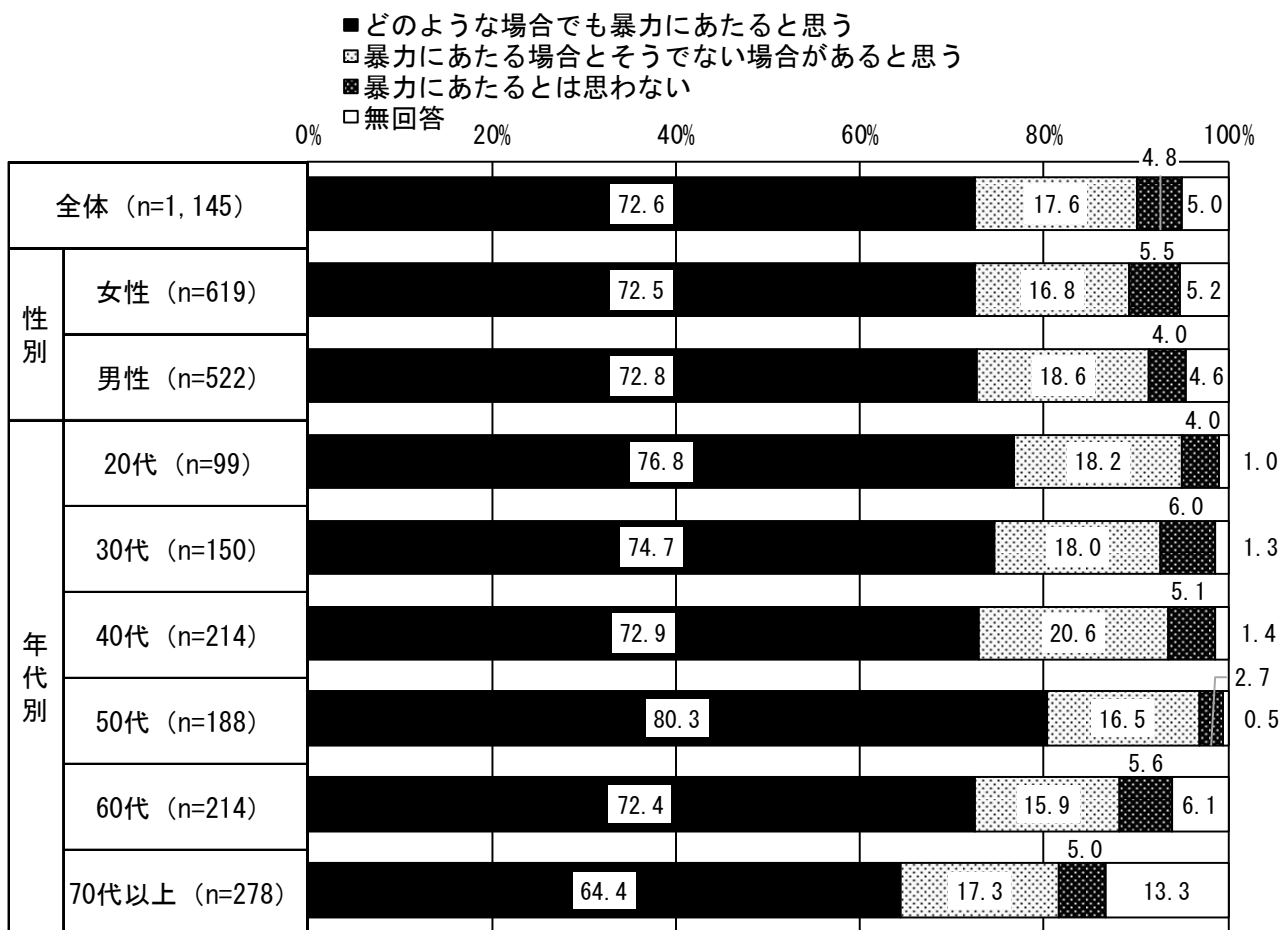
図表 99 ④嫌がる相手に性的な行為を強要する・避妊に協力しない（性別・年代別）



⑤嫌がる相手にアダルトビデオやポルノ雑誌などを見せる

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が72.6%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が17.6%、「暴力にあたるとは思わない」が4.8%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、70代以上を除いて、「どのような場合でも暴力にあたると思う」が7割以上となっており、なかでも50代で80.3%と、最も高くなっています。

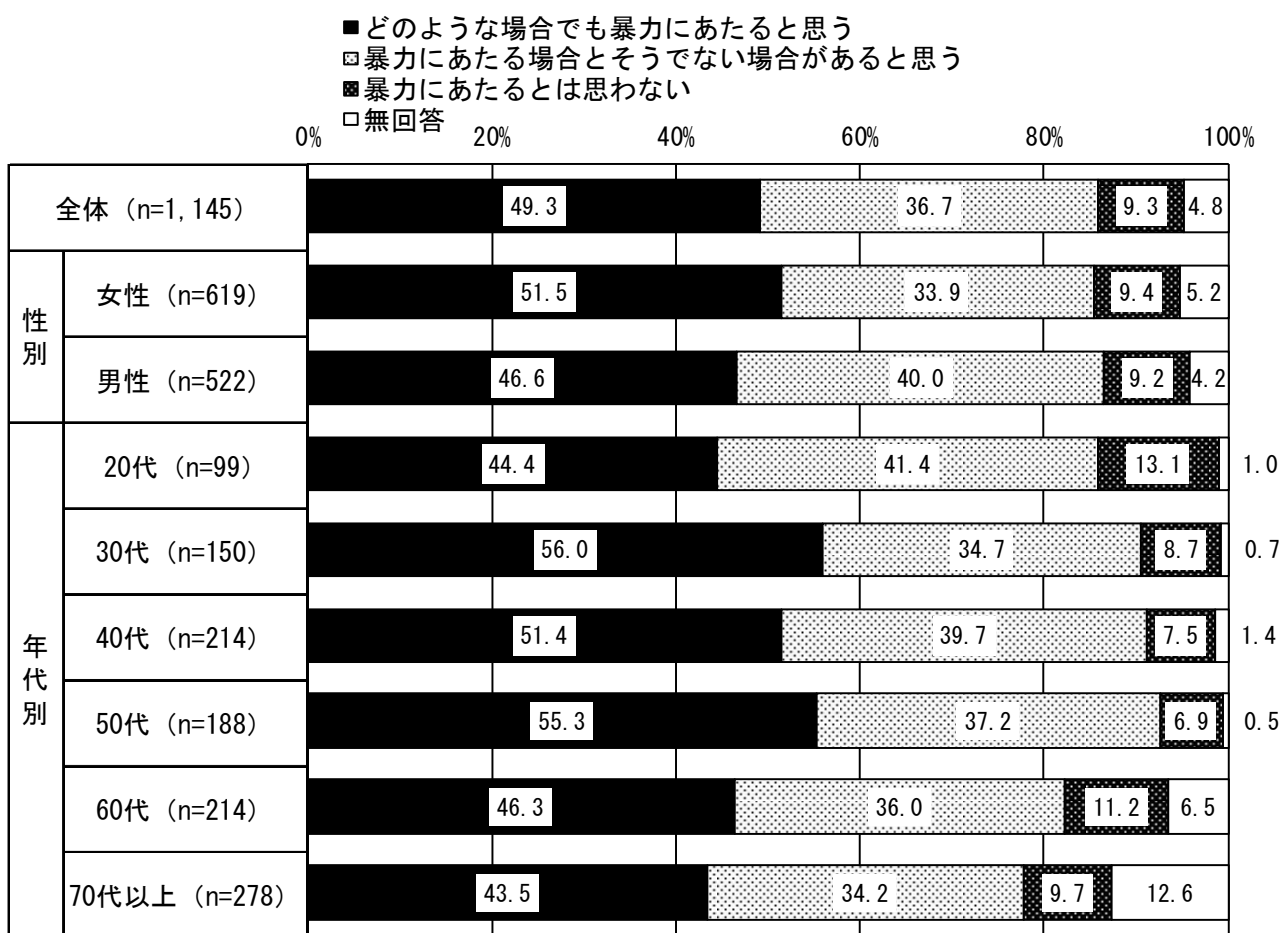
図表 100 ⑤嫌がる相手にアダルトビデオやポルノ雑誌などを見せる（性別・年代別）



⑥長時間無視し続ける

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が49.3%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が36.7%、「暴力にあたるとは思わない」が9.3%となっています。
- 性別では、男性で「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が40.0%と、女性より6.1ポイント高くなっています。一方で、女性で「どのような場合でも暴力にあたると思う」が51.5%と、男性より4.9ポイント高くなっています。
- 年代別では、30代から50代にかけて、「どのような場合でも暴力にあたると思う」が5割以上となっており、なかでも30代で56.0%と、最も高くなっています。また、20代と60代で「暴力にあたるとは思わない」が1割以上となっています。

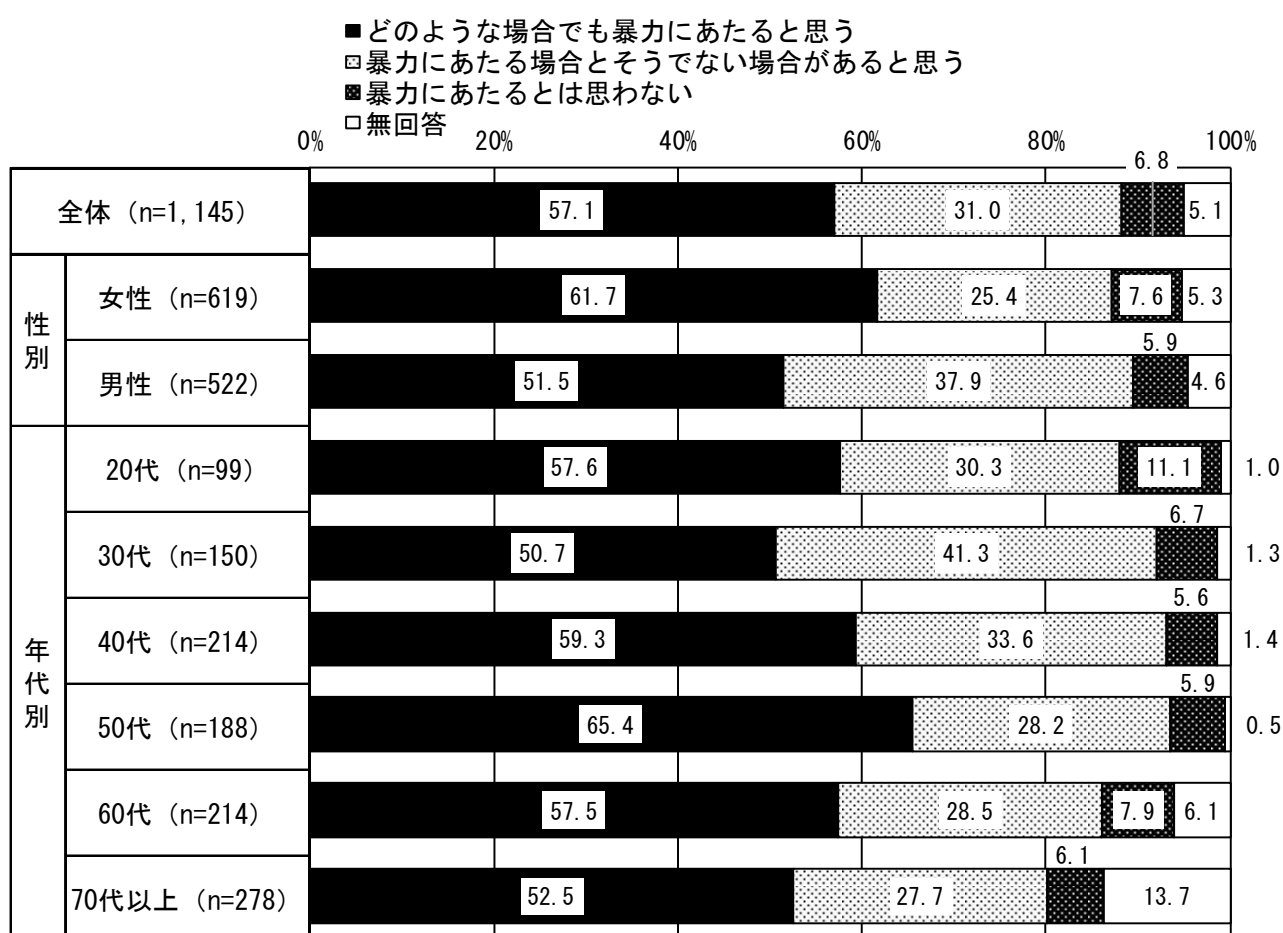
図表 101 ⑥長時間無視し続ける（性別・年代別）



⑦交友関係や電話、メールなどを細かく監視・制限する

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が57.1%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が31.0%、「暴力にあたるとは思わない」が6.8%となっています。
- 性別では、男性で「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が37.9%と、女性より12.5ポイント高くなっています。一方で、女性で「どのような場合でも暴力にあたると思う」が61.7%と、男性より10.2ポイント高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「どのような場合も暴力にあたると思う」が5割以上となっており、なかでも50代で65.4%と、最も高くなっています。また、30代で「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が41.4%と、他の年代と比べて高くなっています。

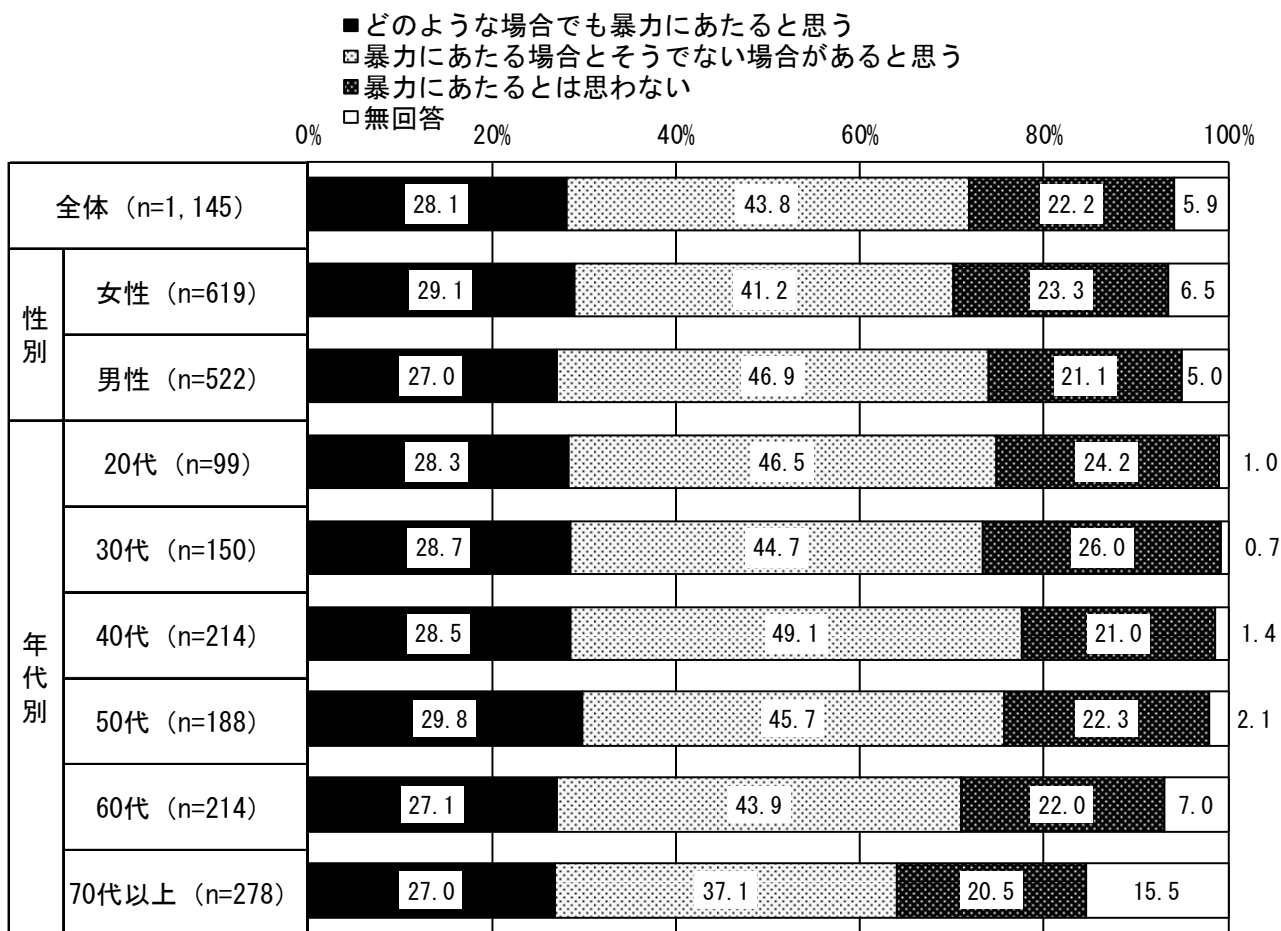
図表 102 ⑦交友関係や電話、メールなどを細かく監視・制限する（性別・年代別）



⑧配偶者などが実家に帰るのを嫌がる

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が28.1%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が43.8%、「暴力にあたるとは思わない」が22.2%となっています。
- 性別では、男性で「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が46.9%と、女性より5.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、70代以上を除いて、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が4割以上となっており、なかでも40代で49.1%と、最も高くなっています。

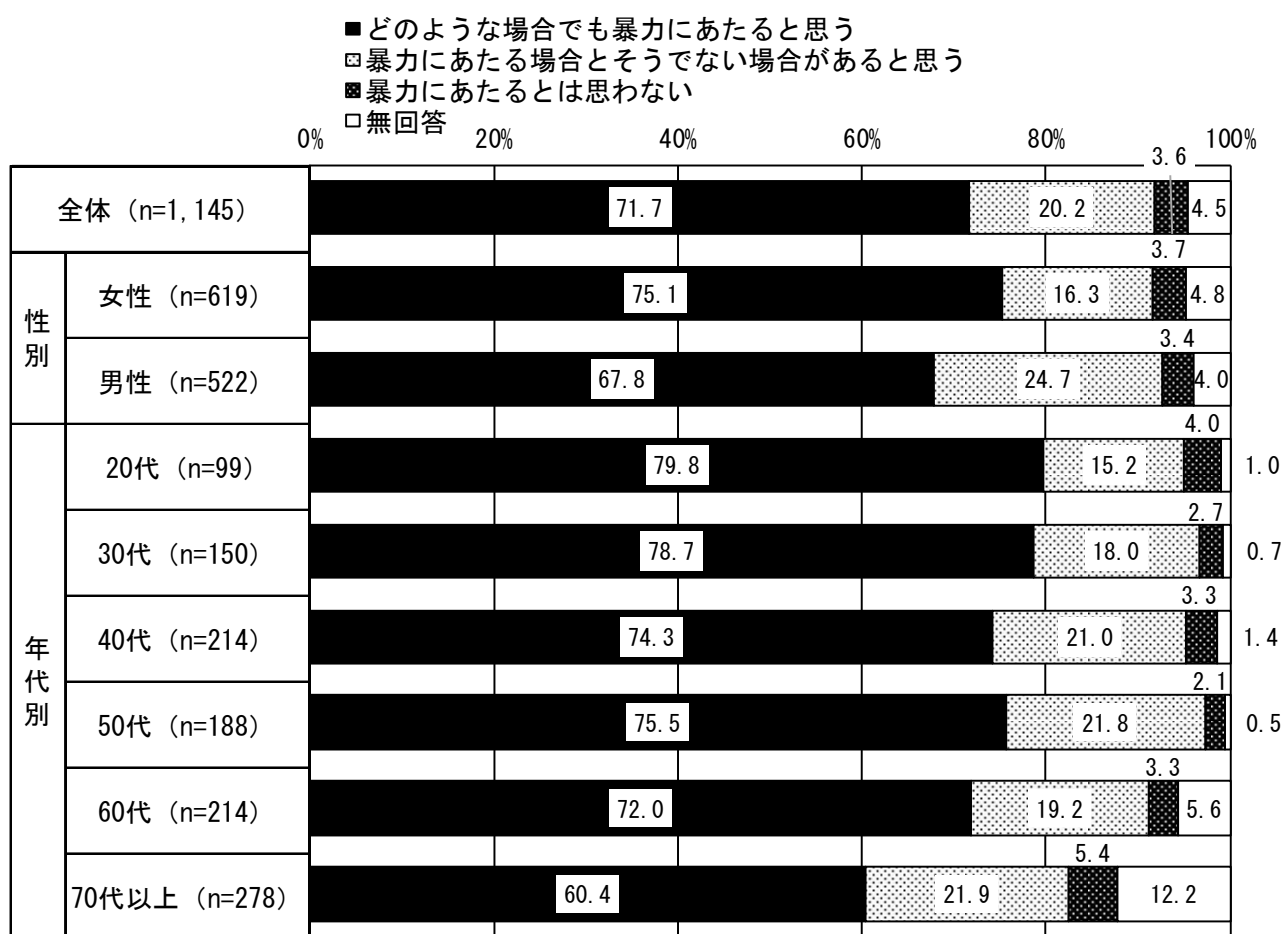
図表 103 ⑧配偶者などが実家に帰るのを嫌がる（性別・年代別）



⑨「ばか」「役立たず」「誰のおかげで生活できるんだ」などの言葉を浴びせる

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が71.7%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が20.2%、「暴力にあたるとは思わない」が3.6%となっています。
- 性別では、男性で「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が24.7%と、女性より8.4ポイント高くなっています。一方で、女性で「どのような場合でも暴力にあたると思う」が75.1%と、男性より7.3ポイント高くなっています。
- 年代別では、70代以上を除いて、「どのような場合でも暴力にあたると思う」が7割以上となっており、なかでも20代で79.8%と、最も高くなっています。

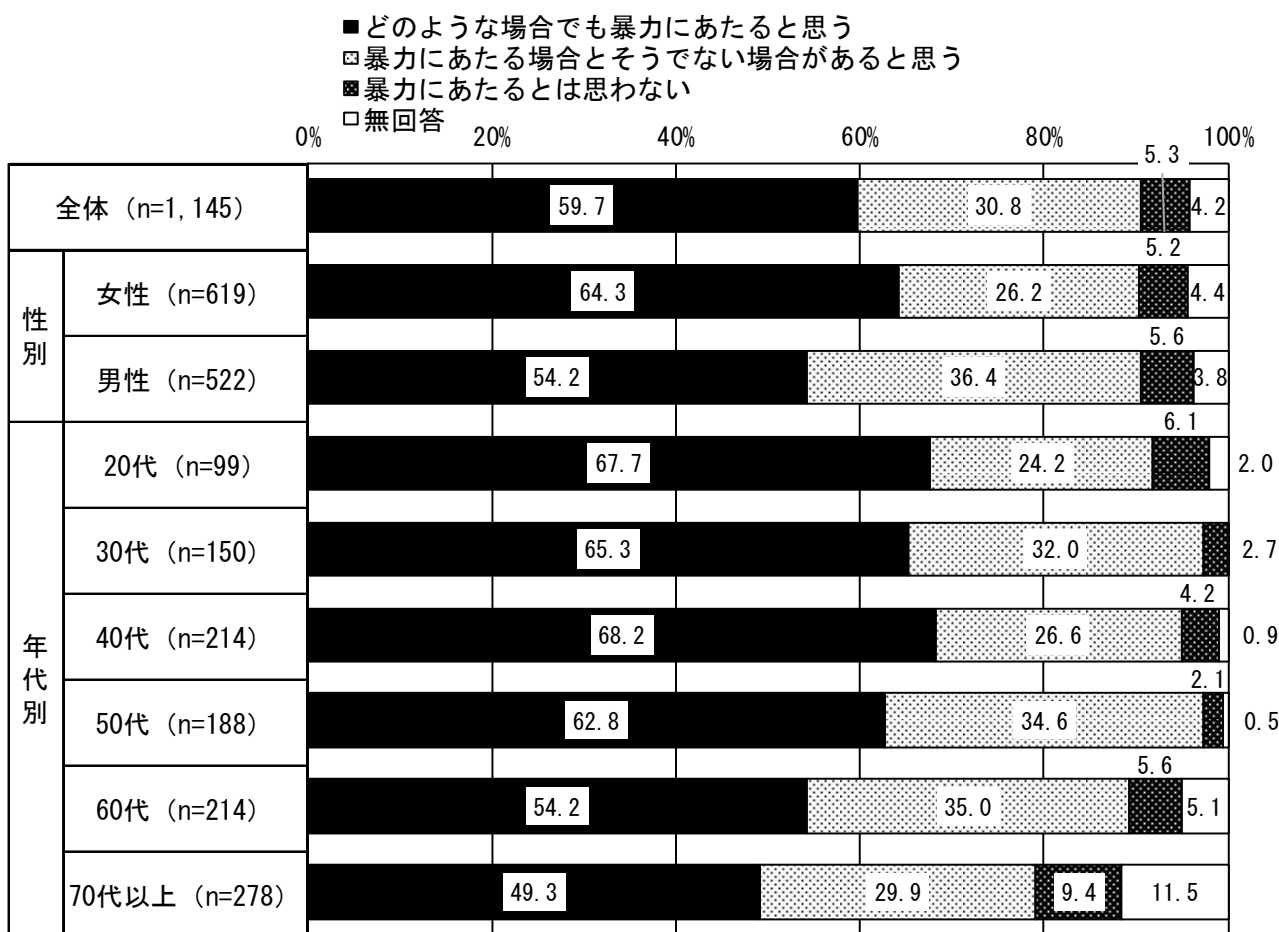
図表 104 ⑨「ばか」「役立たず」「誰のおかげで生活できるんだ」などの言葉を浴びせる（性別・年代別）



⑩大声でどなる

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が 59.7%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が 30.8%、「暴力にあたるとは思わない」が 5.3%となっています。
- 性別では、男性で「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が 36.4%と、女性より 10.2 ポイント高くなっています。一方で、女性で「どのような場合でも暴力にあたると思う」が 64.3%と、男性より 10.1 ポイント高くなっています。
- 年代別では、20 代から 50 代にかけて「どのような場合でも暴力にあたると思う」が 6 割以上となっており、なかでも 40 代で 68.2%と、最も高くなっています。

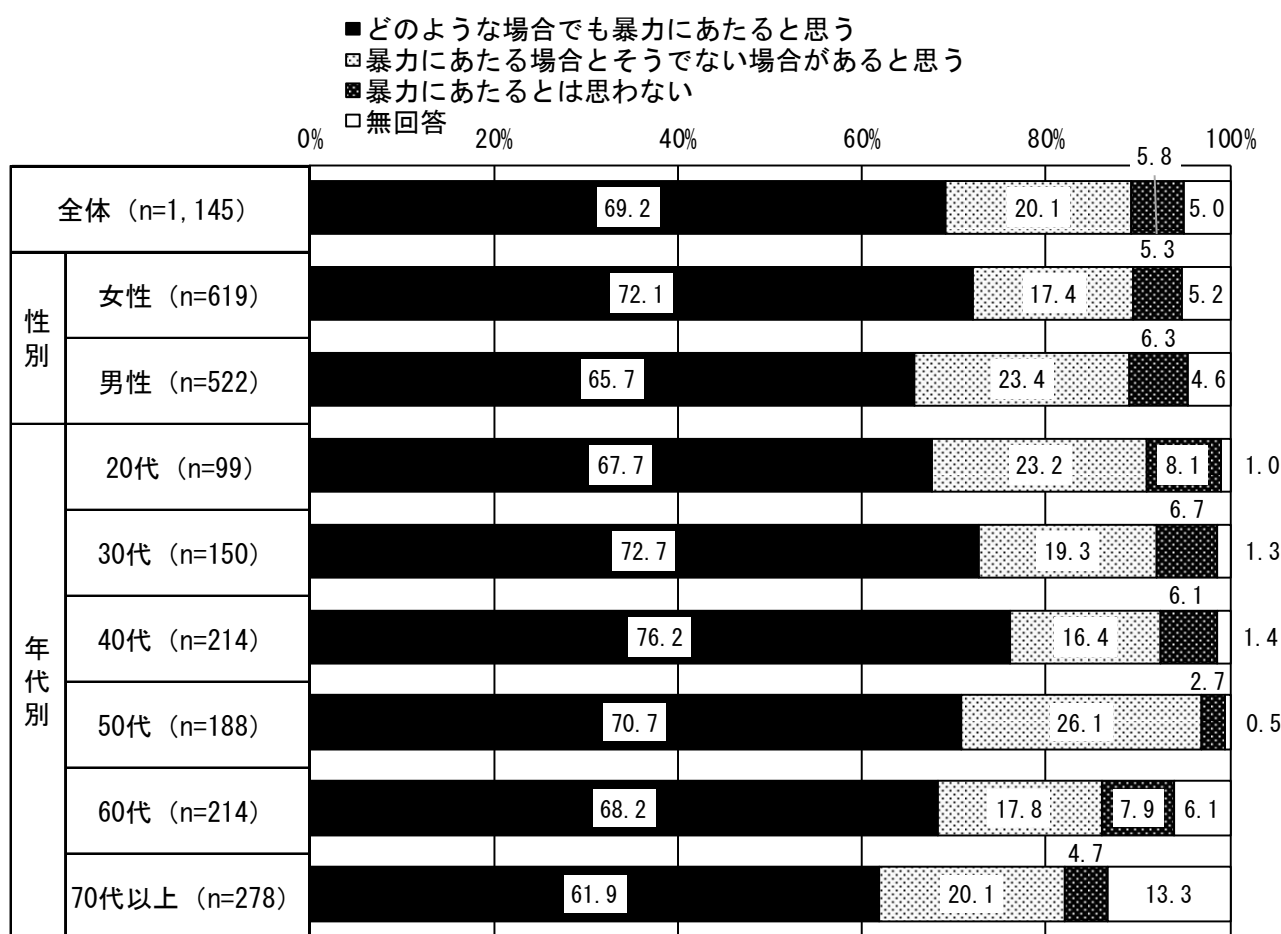
図表 105 ⑩大声でどなる（性別・年代別）



⑪生活費を渡さない

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が69.2%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が20.1%、「暴力にあたるとは思わない」が5.8%となっています。
- 性別では、女性で「どのような場合でも暴力にあたると思う」が72.1%と、男性より6.4ポイント高くなっています。一方で、男性で「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が23.4%と、女性より6.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、30代から50代にかけて、「どのような場合でも暴力にあたると思う」が7割以上となっており、なかでも40代で76.2%と、最も高くなっています。

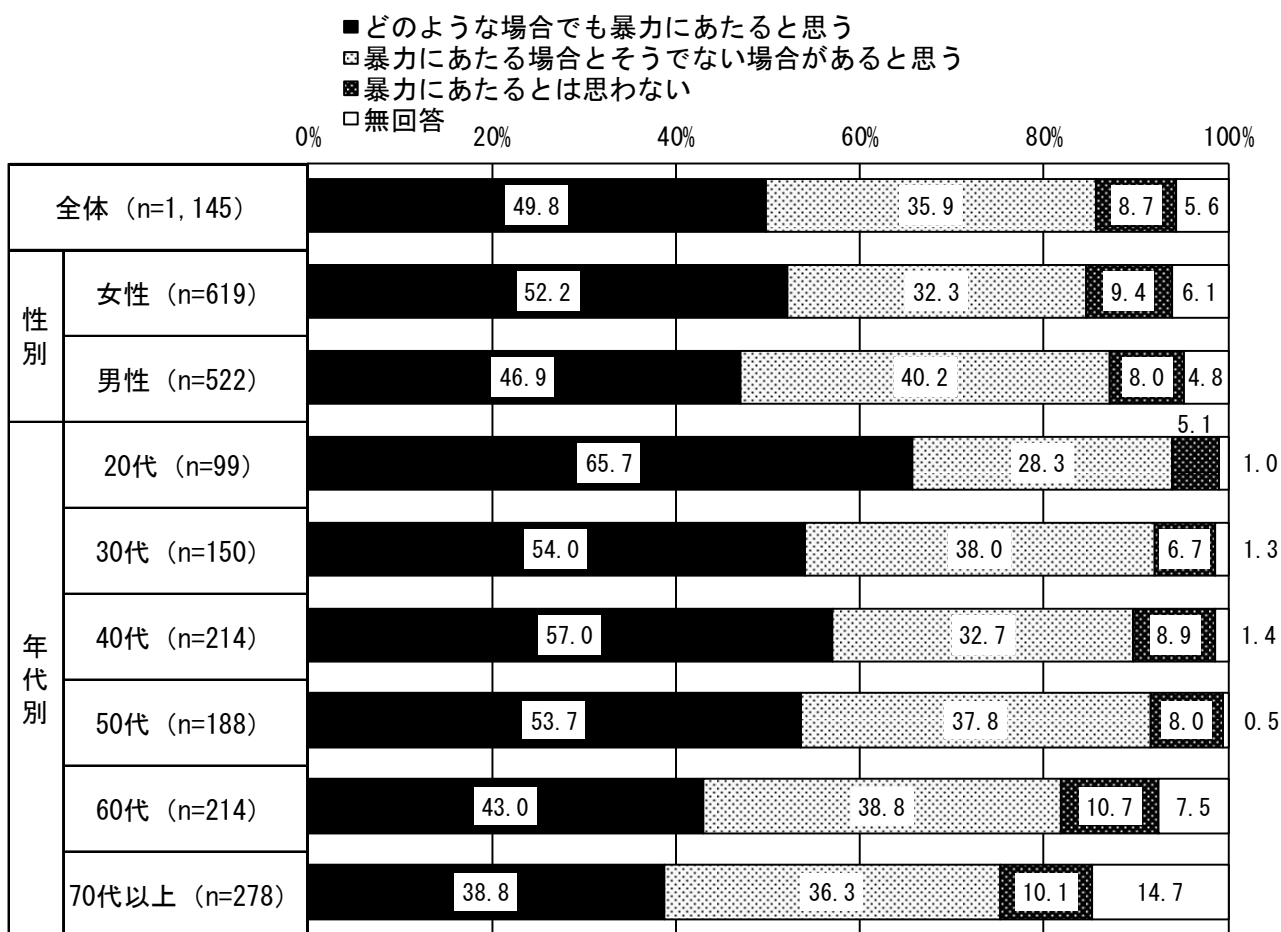
図表 106 ⑪生活費を渡さない（性別・年代別）



⑫配偶者などの就労を禁止する

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が49.8%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が35.9%、「暴力にあたるとは思わない」が8.7%となっています。
- 性別では、男性で「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が40.2%と、女性より7.9ポイント高くなっています。一方で、女性で「どのような場合でも暴力にあたると思う」が52.2%と、男性より5.3ポイント高くなっています。
- 年代別では、20代で「どのような場合でも暴力にあたると思う」が65.7%と、他の年代と比べて高くなっています。

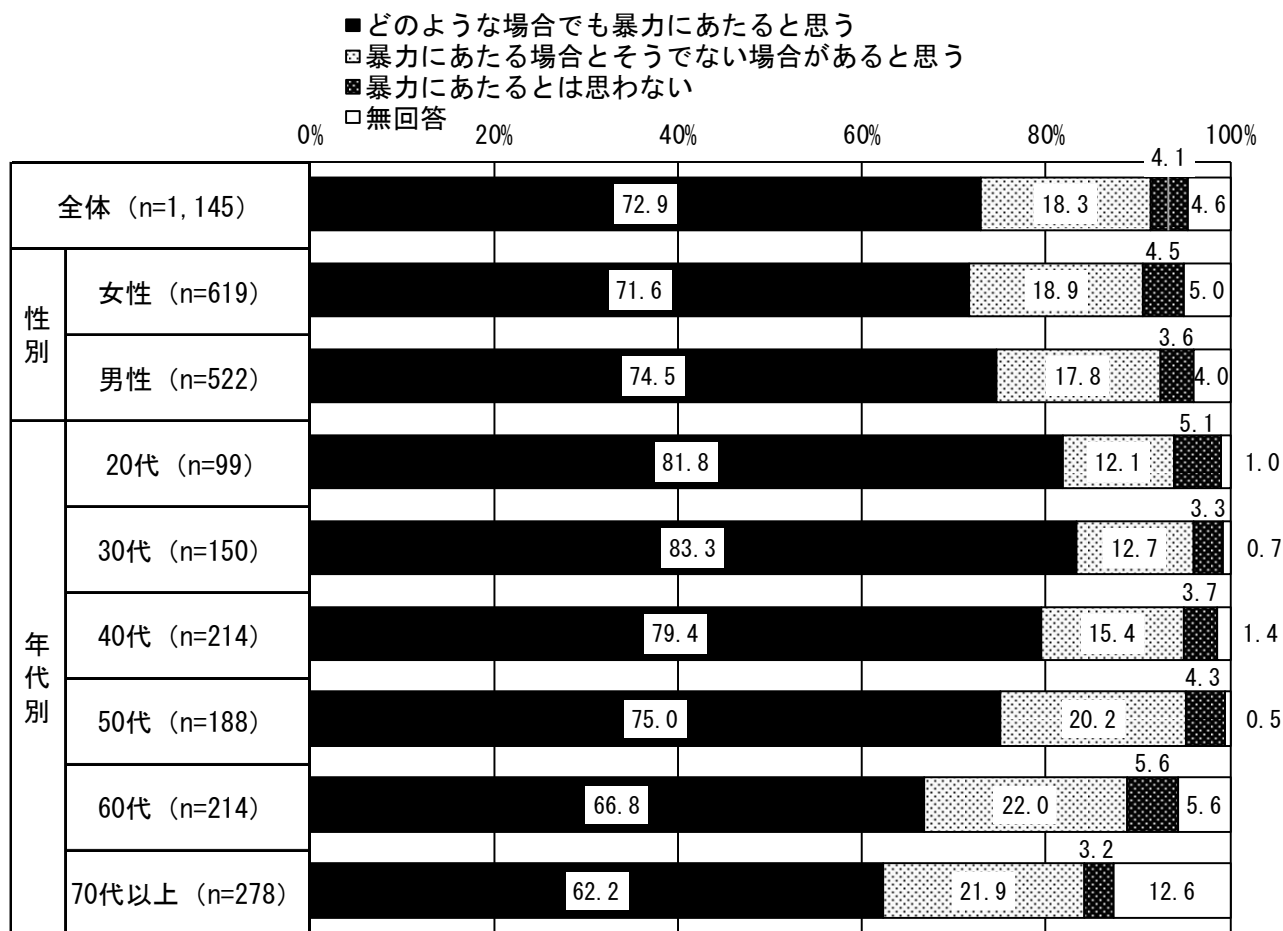
図表 107 ⑫配偶者などの就労を禁止する（性別・年代別）



⑬大切にしている物をわざと捨てたり壊したりする

- 「どのような場合でも暴力にあたると思う」が72.9%、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」が18.3%、「暴力にあたるとは思わない」が4.1%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20代を除いて、年齢が下がるにつれて「どのような場合でも暴力にあたると思う」が高くなっており、30代で83.3%となっています。

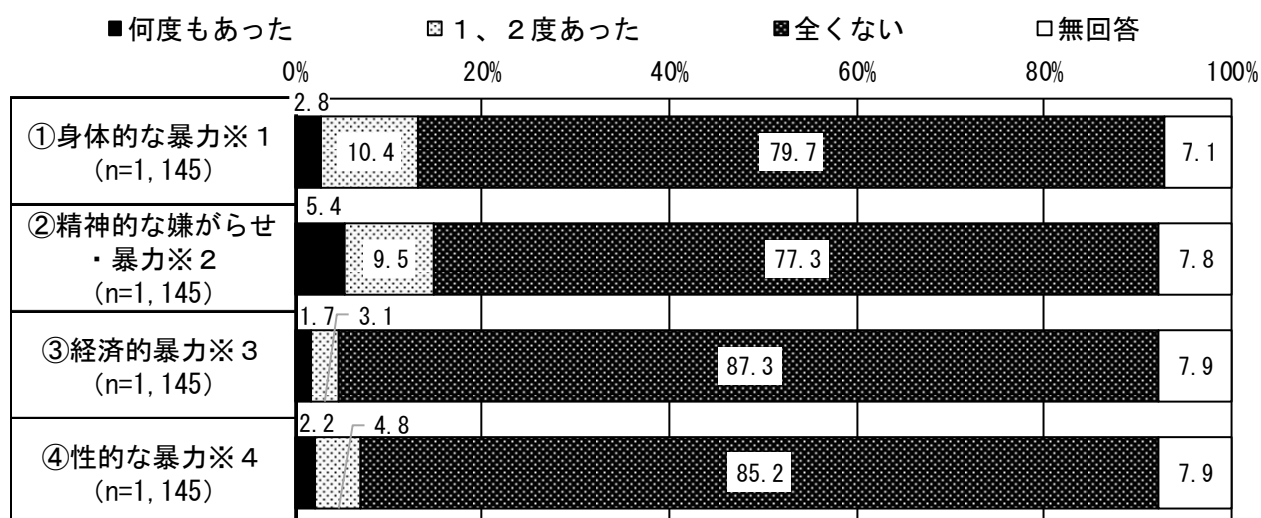
図表 108 ⑬大切にしている物をわざと捨てたり壊したりする（性別・年代別）



問27 あなたはこれまで、あなたの配偶者などから次のような行為をされたことがありますか。（〇はそれぞれ1つ）

- “被害経験あり（「何度もあった」＋「1、2度あった」）”をみると、「②精神的な嫌がらせ・暴力」が14.9%と最も高く、次いで「①身体的な暴力」（13.2%）、「④性的な暴力」（7.0%）、「③経済的暴力」（4.8%）となっています。

図表 109 DVの被害経験



※1 ①殴る、蹴る、突き飛ばすなどの身体的な暴力

※2 ②長時間無視をする、人格を否定するようなことを言う、殴るふりをするなどして脅す、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ・暴力

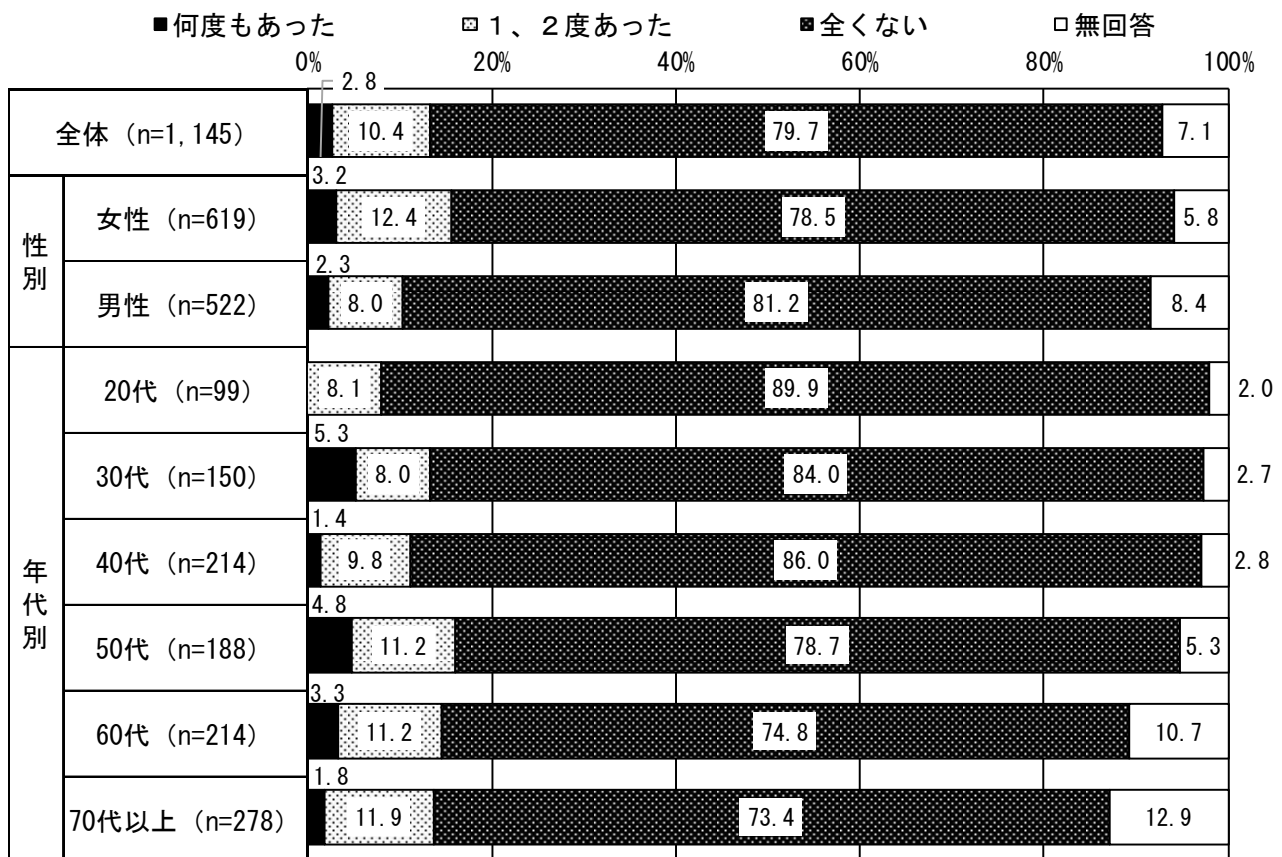
※3 ③生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなどの経済的暴力

※4 ④嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しないなどの性的な暴力

①殴る、蹴る、突き飛ばすなどの身体的な暴力

- 「何度もあった」が2.8%、「1、2度あった」が10.4%、「全くない」が79.7%となっています。
- 性別では、女性で“被害経験あり”が15.6%と、男性より5.3ポイント高くなっています。
- 年代別では、20代を除いて、“被害経験あり”が1割以上となっており、なかでも50代で16.0%と、最も高くなっています。

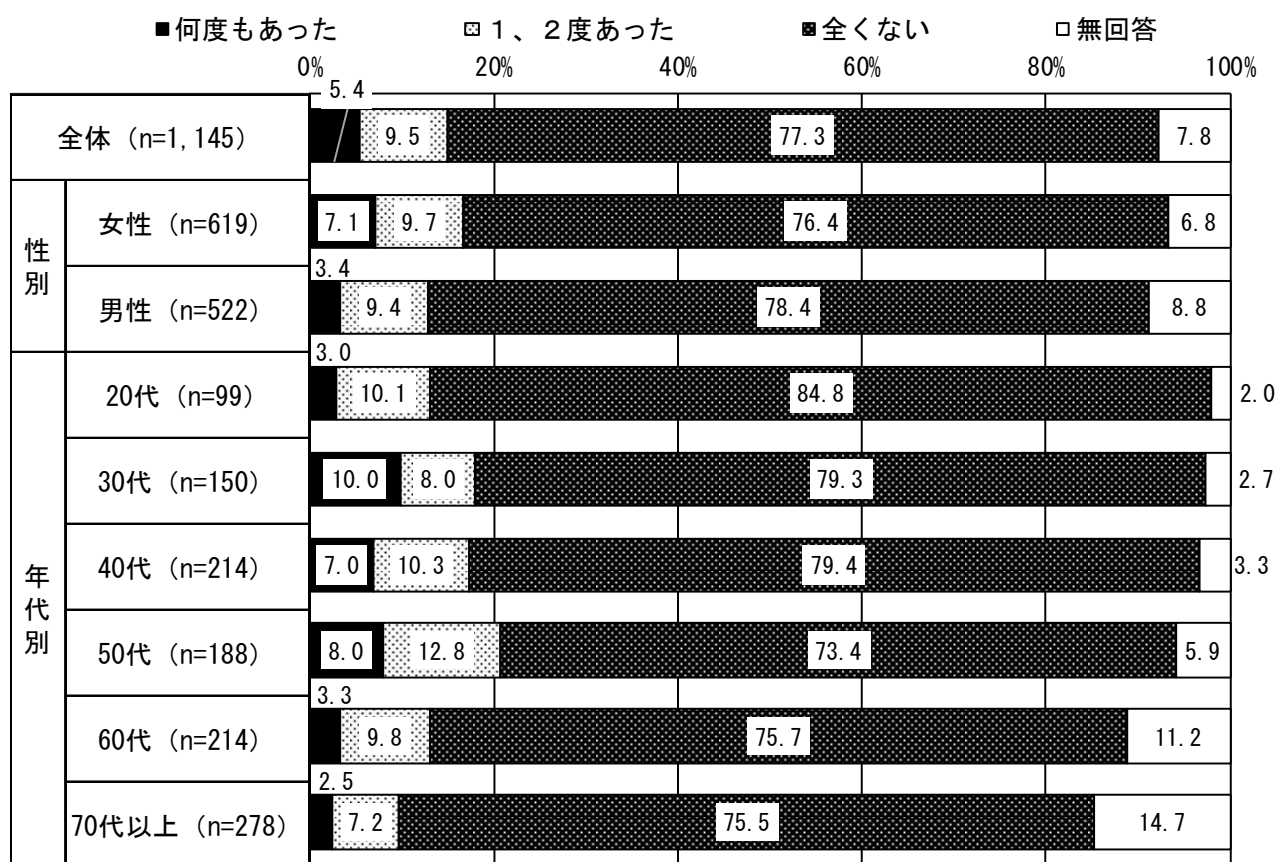
図表 110 ①殴る、蹴る、突き飛ばすなどの身体的な暴力（性別・年代別）



②長時間無視をする、人格を否定するようなことを言う、殴るふりをするなどして脅す、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ・暴力

- 「何度もあった」が5.4%、「1、2度あった」が9.5%、「全くない」が77.3%となっています。
- 性別では、女性で“被害経験あり”が16.8%と、男性より4.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、70代以上を除いて、“被害経験あり”が1割以上となっており、なかでも50代で20.8%と、最も高くなっています。

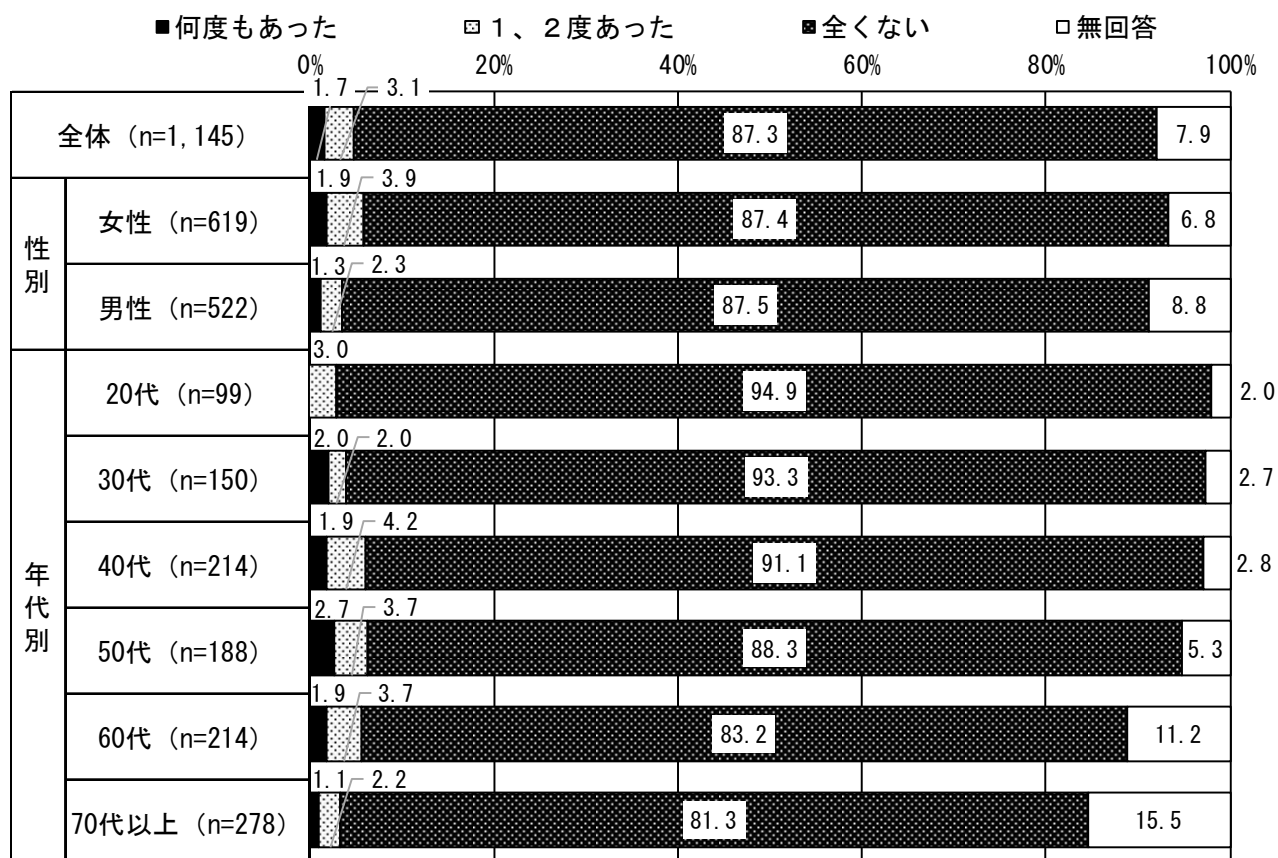
図表 111 ②長時間無視をする、人格を否定するようなことを言う、殴るふりをするなどして脅す、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ・暴力（性別・年代別）



③生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなどの経済的暴力

- 「何度もあった」が1.7%、「1、2度あった」が3.1%、「全くない」が87.3%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、いずれの年代も“被害経験あり”が1割未満となっており、50代で6.4%と、最も高くなっています。

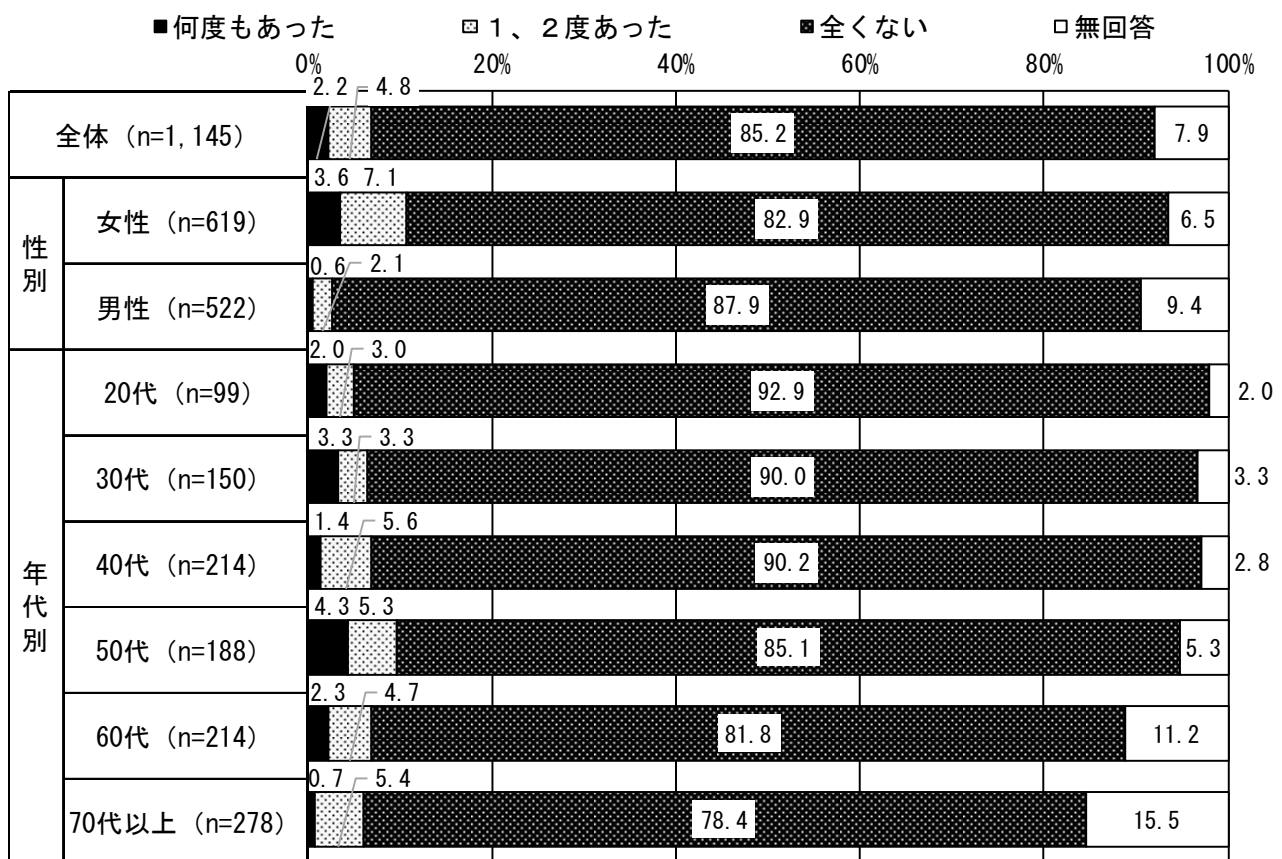
図表 112 ③生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなどの経済的暴力（性別・年代別）



④嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しないなどの性的な暴力

- 「何度もあった」が2.2%、「1、2度あった」が4.8%、「全くない」が85.2%となっています。
- 性別では、女性で“被害経験あり”が10.7%と、男性より8.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も“被害経験あり”が1割未満となっており、50代で9.6%と、最も高くなっています。

図表 113 ④嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しないなどの性的な暴力
(性別・年代別)

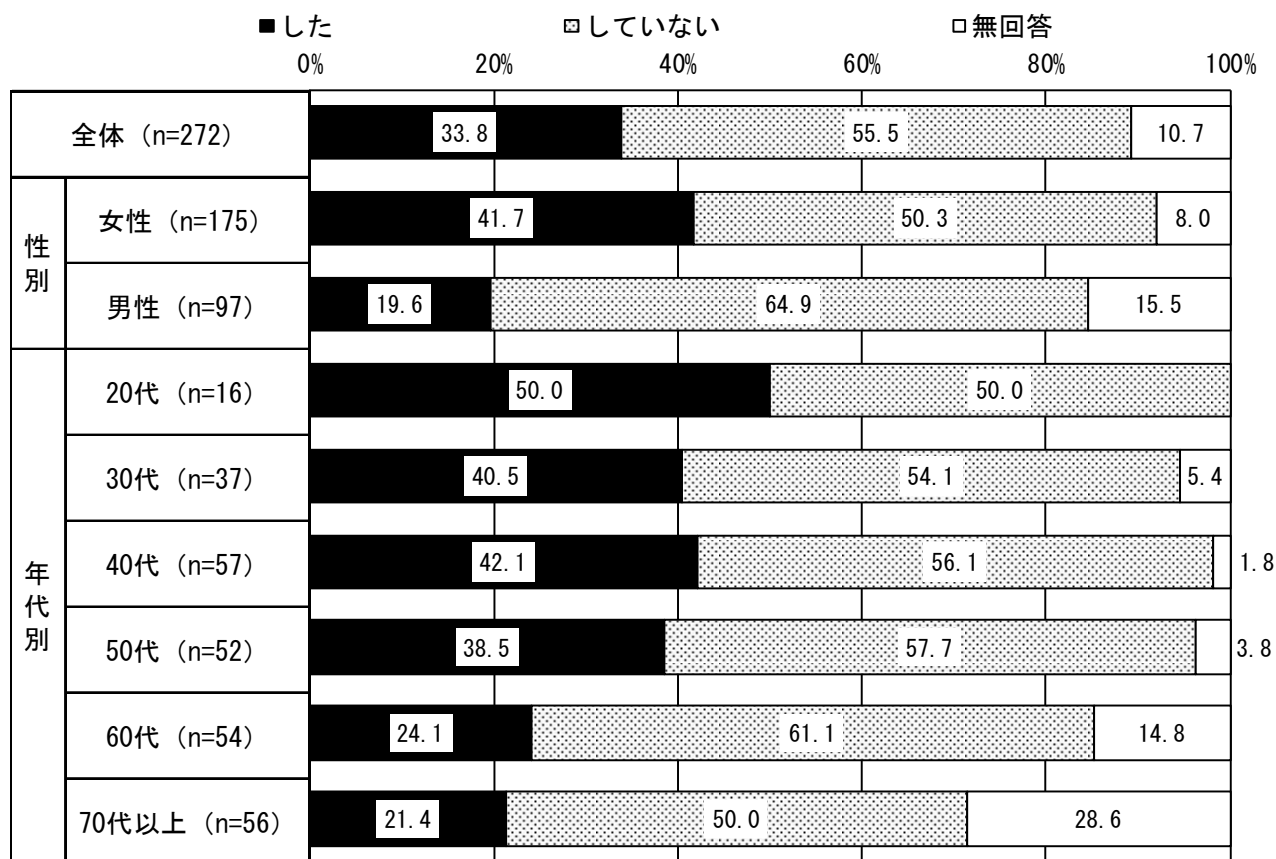


問 27 で 1 つでも「何度もあった」「1、2 度あった」と答えた方

問 27-1 あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は 1 つ)

- 「した」が 33.8%、「していない」が 55.5%となっています。
- 性別では、女性で「した」が 41.7%と、男性より 22.1 ポイント高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「していない」が 5 割以上となっており、なかでも 60 代で 61.1%と、最も高くなっています。

図表 114 相談したかどうか(性別・年代別)

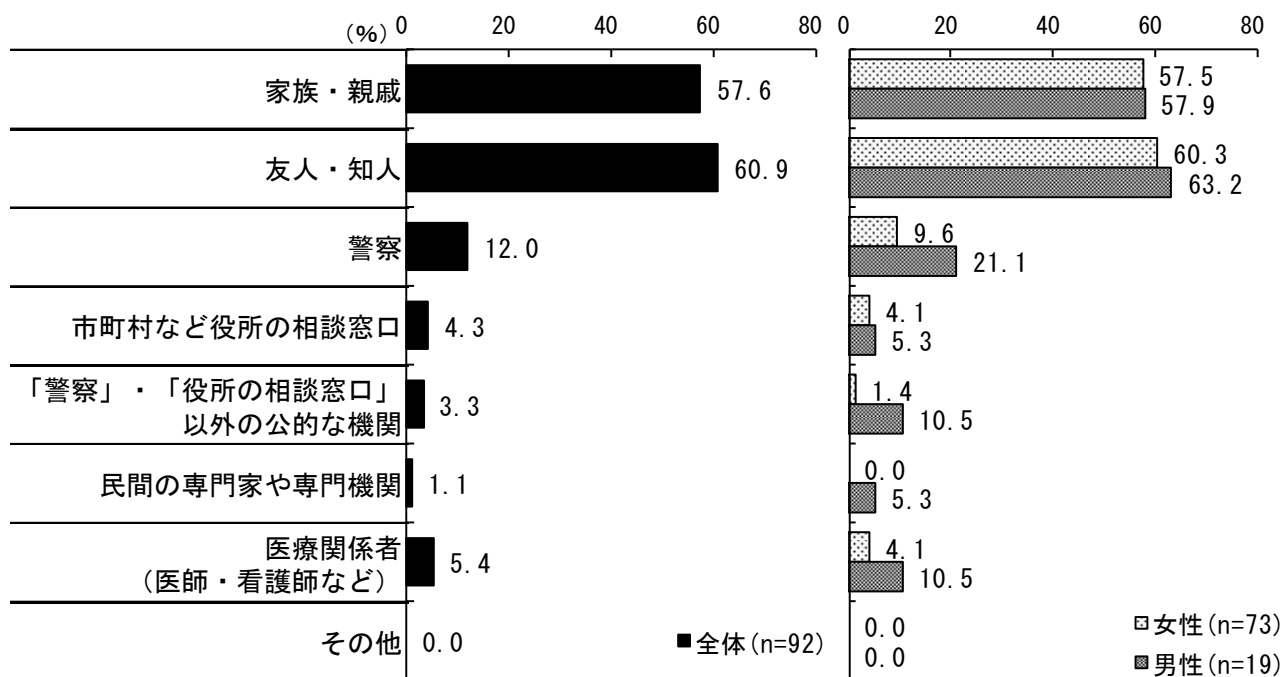


問 27-1 で「した」と答えた方

問 27-2 誰（どこ）に相談しましたか。（当てはまるもの全てに○）

- 「友人・知人」が 60.9%と最も高く、次いで「家族・親戚」（57.6%）、「警察」（12.0%）となっています。
- 性別では、男女ともに「友人・知人」が最も高く、次いで「家族・親戚」となっています。
- 年代別は回答者が少ないため、参考程度とします。

図表 115 相談した相手（性別）



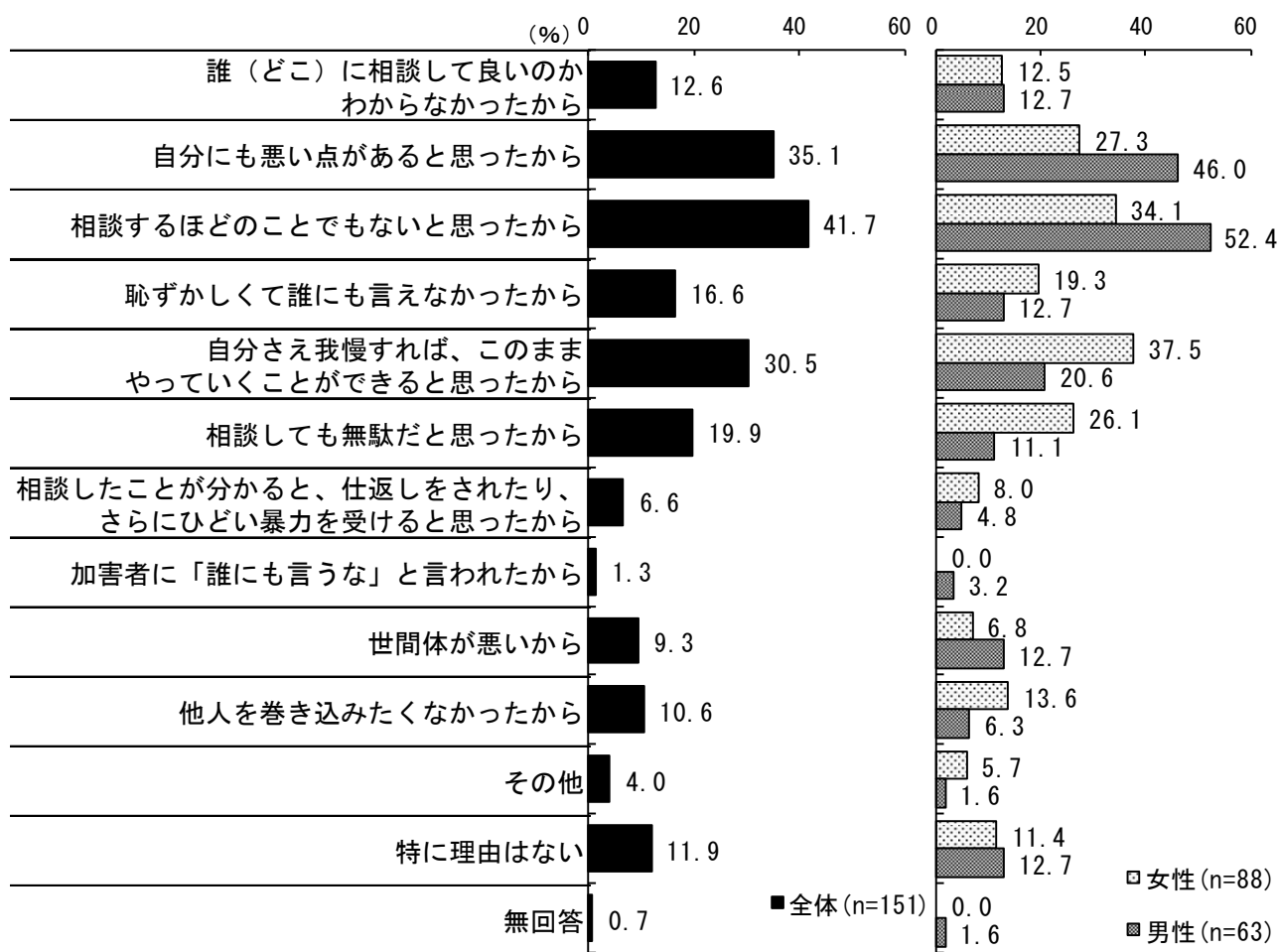
図表 116 相談した相手（年代別）

		全 体	家 族 ・ 親 戚	友 人 ・ 知 人	警 察	市 町 村 な ど 役 所 の 相 談 窓 口	警 察 「 の 相 談 窓 口 」 以 外 の 公 的 な 機 関	民 間 の 専 門 機 関 の 専 門 家 や	医 療 関 係 者 （ 医 師 ・ 看 護 師 な ど ）	そ の 他
全 体		92 100.0	53 57.6	56 60.9	11 12.0	4 4.3	3 3.3	1 1.1	5 5.4	- -
年 代 別	20代	8 100.0	3 37.5	6 75.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	- -
		30代	15 100.0	9 60.0	10 66.7	3 20.0	1 6.7	- -	- -	1 6.7
	40代		24 100.0	17 70.8	14 58.3	2 8.3	- -	1 4.2	- -	1 4.2
		50代	20 100.0	9 45.0	13 65.0	4 20.0	1 5.0	- -	- -	- -
	60代		13 100.0	9 69.2	7 53.8	- -	- -	1 7.7	- -	- -
		70代以上	12 100.0	6 50.0	6 50.0	- -	1 8.3	- -	- -	2 16.7

問 27-3 誰（どこ）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。
（当てはまるもの全てに○）

- 「相談するほどのことでもないと思ったから」が 41.7%と最も高く、次いで「自分にも悪い点があると思ったから」（35.1%）、「自分さえ我慢すれば、このままやていくことができると思ったから」（30.5%）となっています。
- 性別では、男性で「自分にも悪い点があると思ったから」が 18.7 ポイント、「相談するほどのことでもないと思ったから」が 18.3 ポイント、それぞれ女性より 10 ポイント以上高くなっています。一方で、女性で「自分さえ我慢すれば、このままやていくことができると思ったから」が 16.9 ポイント、「相談しても無駄だと思ったから」が 15.0 ポイント、それぞれ男性より 10 ポイント以上高くなっています。

図表 117 相談しなかった（できなかった）理由（性別）



- 年代別では、50代と70代以上で「自分にも悪い点があると思ったから」、それ以外の年代で「相談するほどのことでもないと思ったから」が、それぞれ最も高くなっています。

図表 118 相談しなかった（できなかった）理由（年代別）

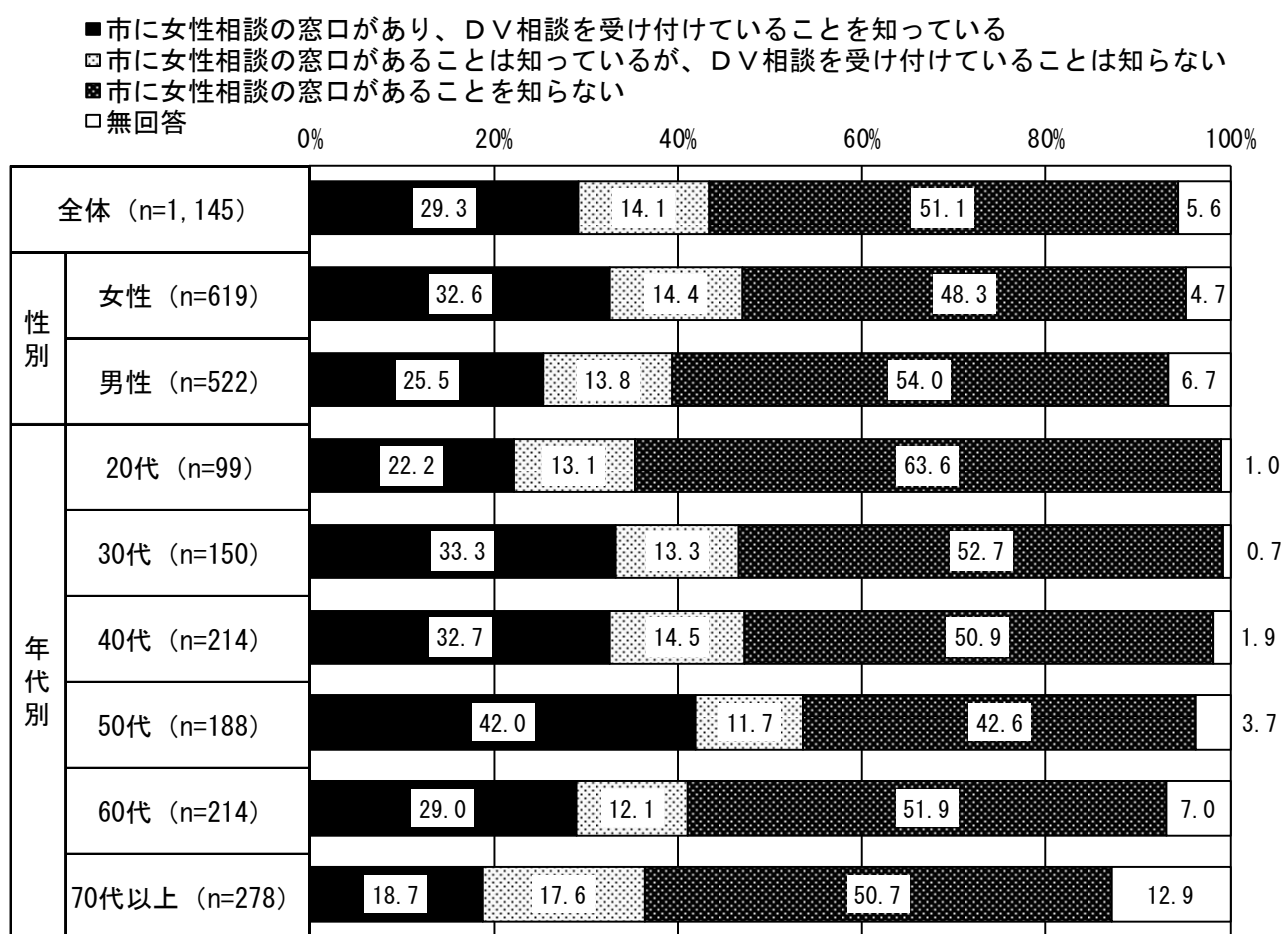
		全 体	た良誰 かいのど からかこ わかに相 談な談し かして って	と自 思分 ったに も悪 い点 があ る	も相 談 す る ほ ど の こ と で	言恥 えな か し く た て 誰 ら に も	かこ この がま え我 まや つて い く ば、 思 った	思相 った た し て も 無 駄 だ と
全 体		151	19	53	63	25	46	30
		100.0	12.6	35.1	41.7	16.6	30.5	19.9
年 代 別	20代	8	2	2	5	1	1	2
		100.0	25.0	25.0	62.5	12.5	12.5	25.0
	30代	20	5	9	10	4	8	4
		100.0	25.0	45.0	50.0	20.0	40.0	20.0
	40代	32	5	9	13	6	9	10
		100.0	15.6	28.1	40.6	18.8	28.1	31.3
	50代	30	2	9	6	4	7	5
		100.0	6.7	30.0	20.0	13.3	23.3	16.7
	60代	33	3	13	19	8	11	5
		100.0	9.1	39.4	57.6	24.2	33.3	15.2
	70代以上	28	2	11	10	2	10	4
		100.0	7.1	39.3	35.7	7.1	35.7	14.3

		とひさ分相 思どれか談 ったいた る暴り、し から力を 受さ仕返 けるけに るを	か言加 らう害 「者」に と「誰 言わに れたも た	世 間 体 が 悪 い か ら	な他 か人 ったを る巻 かき 込 み た く	そ の 他	特 に 理 由 は な い	無 回 答
全 体		10	2	14	16	6	18	1
		6.6	1.3	9.3	10.6	4.0	11.9	0.7
年 代 別	20代	2	1	2	-	-	1	-
		25.0	12.5	25.0	-	-	12.5	-
	30代	2	-	2	6	-	-	-
		10.0	-	10.0	30.0	-	-	-
	40代	5	1	3	3	1	5	-
		15.6	3.1	9.4	9.4	3.1	15.6	-
	50代	1	-	3	2	5	6	-
		3.3	-	10.0	6.7	16.7	20.0	-
	60代	-	-	2	-	-	3	-
		-	-	6.1	-	-	9.1	-
	70代以上	-	-	2	5	-	3	1
		-	-	7.1	17.9	-	10.7	3.6

問28 あなたは、市に女性の相談窓口があり、そこでDV相談を受け付けていることを知っていますか。（〇は1つ）

- 「市に女性相談の窓口があり、DV相談を受け付けていることを知っている」が29.3%、「市に女性相談の窓口があることは知っているが、DV相談を受け付けていることは知らない」が14.1%、「市に女性相談の窓口があることを知らない」が51.1%となっています。
- 性別では、女性で「市に女性相談の窓口があり、DV相談を受け付けていることを知っている」が32.6%と、男性より7.1ポイント高くなっています。一方で、男性で「市に女性相談の窓口があることを知らない」が54.0%と、女性より5.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、50代を除いて、「市に女性相談の窓口があることを知らない」が5割以上となっており、なかでも20代で63.6%と、最も高くなっています。

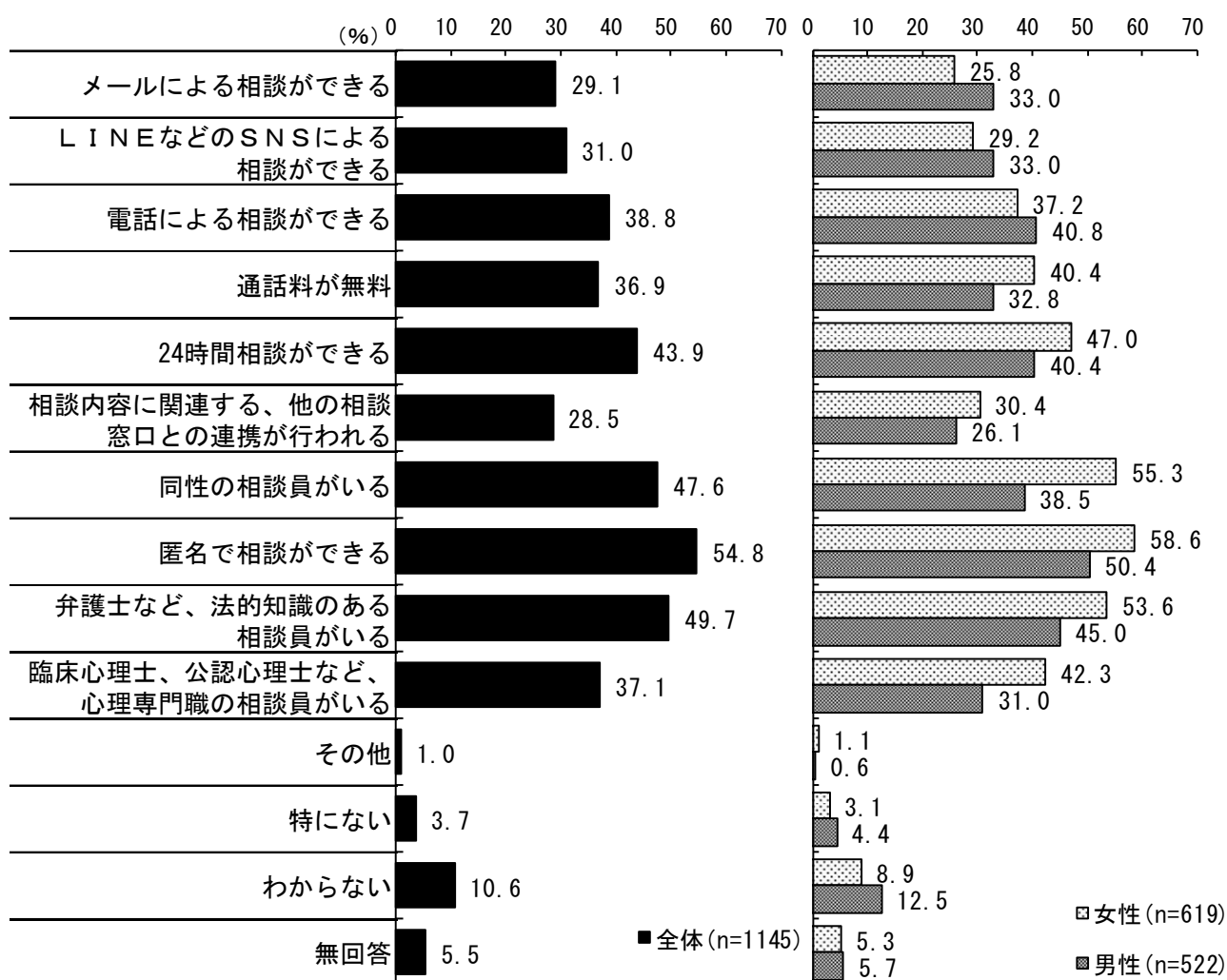
図表 119 市の女性相談窓口について（性別・年代別）



問29 あなたは、性暴力・DVや様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。（当てはまるもの全てに○）

- 「匿名で相談ができる」が 54.8%と最も高く、次いで「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」（49.7%）、「同性の相談員がいる」（47.6%）、「24 時間相談ができる」（43.9%）となっています。
- 性別では、女性で「同性の相談員がいる」が 16.8 ポイント、「臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる」が 11.3 ポイント、それぞれ男性より 10 ポイント以上高くなっています。一方で、男性で「メールによる相談ができる」が 33.0%と、女性より 7.2 ポイント高くなっています。

図表 120 相談窓口で配慮してほしいこと（性別）



- 年代別では、20代で「同性の相談員がいる」、60代で「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」、その他の年代で「匿名で相談ができる」が、それぞれ最も高くなっています。また、年代が下がるにつれて、「メールによる相談ができる」と「LINEなどのSNSによる相談ができる」が、それぞれ高くなっています。

図表 121 相談窓口で配慮してほしいこと（年代別）

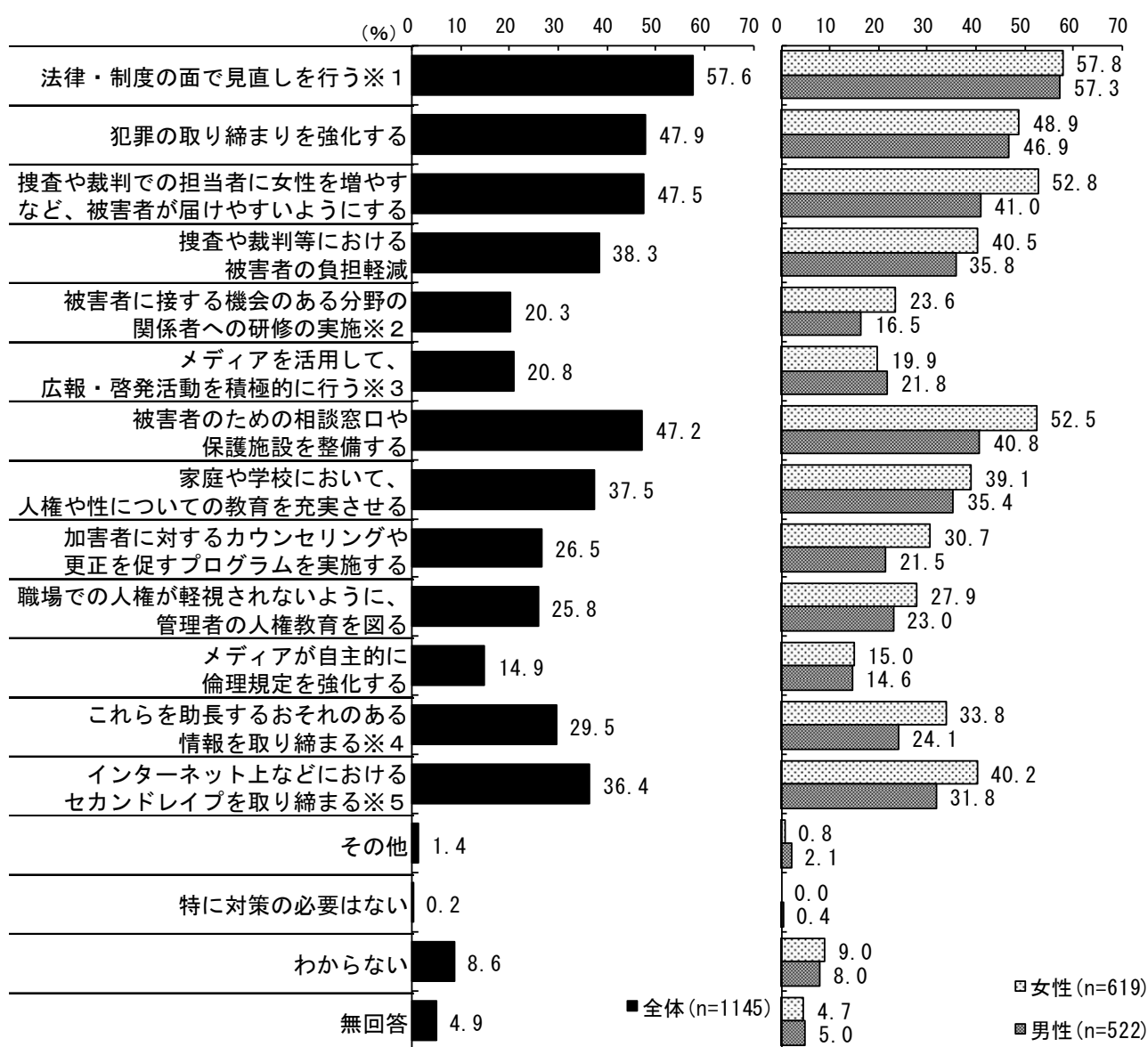
		全 体	で メ ー ル に よ る 相 談 が で き る	に L I N E な ど の S N S に よ る 相 談 が で き る	で 電 話 に よ る 相 談 が で き る	通 話 料 が 無 料	2 4 時 間 相 談 が で き る	が 他 の 相 談 内 容 に 関 連 す る 、 相 談 窓 口 と の 連 携 が 行 わ れ る	同 性 の 相 談 員 が い る
全 体		1145	333	355	444	422	503	326	545
		100.0	29.1	31.0	38.8	36.9	43.9	28.5	47.6
年 代 別	20代	99	42	54	33	45	54	24	63
		100.0	42.4	54.5	33.3	45.5	54.5	24.2	63.6
	30代	150	61	75	65	79	91	53	82
		100.0	40.7	50.0	43.3	52.7	60.7	35.3	54.7
	40代	214	81	90	85	92	117	79	124
		100.0	37.9	42.1	39.7	43.0	54.7	36.9	57.9
	50代	188	57	54	76	74	95	47	85
		100.0	30.3	28.7	40.4	39.4	50.5	25.0	45.2
	60代	214	50	46	82	71	74	62	95
		100.0	23.4	21.5	38.3	33.2	34.6	29.0	44.4
	70代以上	278	41	35	102	60	71	60	95
		100.0	14.7	12.6	36.7	21.6	25.5	21.6	34.2

		匿 名 で 相 談 が で き る	の 弁 護 士 な ど 、 法 的 知 識 が あ る 相 談 員 が い る	相 士 臨 床 心 理 士 、 公 認 心 理 師 な ど 、 心 理 的 知 識 が あ る 相 談 員 が い る	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		627	569	425	11	42	121	63
		54.8	49.7	37.1	1.0	3.7	10.6	5.5
年 代 別	20代	62	51	41	-	2	11	1
		62.6	51.5	41.4	-	2.0	11.1	1.0
	30代	95	79	63	3	4	13	-
		63.3	52.7	42.0	2.0	2.7	8.7	-
	40代	136	121	89	5	3	15	4
		63.6	56.5	41.6	2.3	1.4	7.0	1.9
	50代	103	98	71	2	2	17	6
		54.8	52.1	37.8	1.1	1.1	9.0	3.2
	60代	110	112	84	-	11	26	12
		51.4	52.3	39.3	-	5.1	12.1	5.6
	70代以上	120	107	76	-	20	39	40
		43.2	38.5	27.3	-	7.2	14.0	14.4

問30 あなたは、DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために何が必要だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- 「法律・制度の面で見直しを行う」が 57.6%と最も高く、次いで「犯罪の取り締まりを強化する」(47.9%)、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」(47.5%)、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」(47.2%)となっています。
- 性別では、「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」と「その他」を除いて、女性が男性より高くなっています。なかでも、女性で「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする」が 11.8 ポイント、「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が 11.7 ポイント、それぞれ男性より 10 ポイント以上高くなっています。

図表 122 DV、セクハラなどを防止するために必要なこと（性別）



※1 罰則の強化、性犯罪成立要件の緩和、性交同意年齢の引き上げなど

※2 医療・教育・司法・報道など ※3 放送、出版、新聞など

※4 雑誌、コンピュータソフト、SNSなど ※5 二次被害

- 年代別では、30代から50代にかけて、「法律・制度の面で見直しを行う」が6割以上となっており、なかでも30代で68.0%と、最も高くなっています。また、20代で「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」が30.3%と、他の年代と比べて高くなっています。さらに、年代が下がるにつれて、「家庭や学校において、人権や性についての教育を充実させる」が高くなっています。

図表 123 DV、セクハラなどを防止するために必要なこと（年代別）

		全体	法律・制度の面で見直しを行う	犯罪の取り締まりを強化する	被害者が届けやすいように捜査や裁判の担当者、被害者の負担軽減	被害者の裁判等における捜査や負担軽減	被害者の分野に接する関係者の研修の実施	メディアを活用して、積極的に啓発活動を行う	被害者のための相談窓口や保護施設の整備	家庭や学校において、人権や性について、教育を充実させる
全 体		1145	660	549	544	439	233	238	540	429
		100.0	57.6	47.9	47.5	38.3	20.3	20.8	47.2	37.5
年代別	20代	99	58	58	51	41	26	30	45	48
		100.0	58.6	58.6	51.5	41.4	26.3	30.3	45.5	48.5
	30代	150	102	89	83	58	37	37	70	69
		100.0	68.0	59.3	55.3	38.7	24.7	24.7	46.7	46.0
	40代	214	140	110	108	92	52	51	96	96
		100.0	65.4	51.4	50.5	43.0	24.3	23.8	44.9	44.9
	50代	188	114	93	89	79	31	26	91	65
		100.0	60.6	49.5	47.3	42.0	16.5	13.8	48.4	34.6
	60代	214	116	85	96	81	37	46	107	73
		100.0	54.2	39.7	44.9	37.9	17.3	21.5	50.0	34.1
	70代以上	278	128	113	115	87	49	47	129	77
		100.0	46.0	40.6	41.4	31.3	17.6	16.9	46.4	27.7

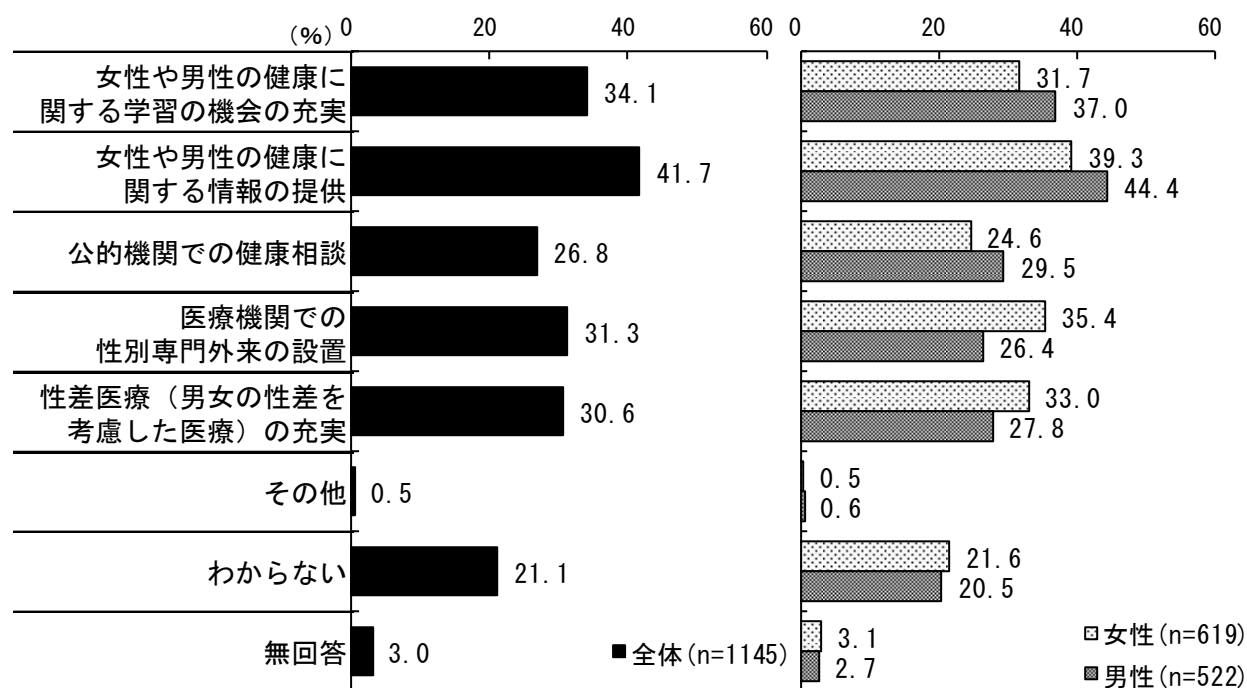
		実施する	加害者に対する働きかけを促すプログラムを	被害者の人権教育を図る	職場での人権が軽視されないよう、管理者の人権教育	メディアが自主的に倫理規定を強化する	これらを知る機会を	インターネット上でセカンドレイプを取り締まる	その他	特に対策の必要はない	わからない	無回答
全 体		303	295	171	338	417	16	2	98	56		
		26.5	25.8	14.9	29.5	36.4	1.4	0.2	8.6	4.9		
年代別	20代	33	26	21	32	42	2	－	9	1		
		33.3	26.3	21.2	32.3	42.4	2.0	－	9.1	1.0		
	30代	47	44	29	42	50	4	－	11	1		
		31.3	29.3	19.3	28.0	33.3	2.7	－	7.3	0.7		
	40代	61	54	36	64	93	3	1	15	4		
		28.5	25.2	16.8	29.9	43.5	1.4	0.5	7.0	1.9		
	50代	57	48	21	50	66	1	1	12	5		
		30.3	25.5	11.2	26.6	35.1	0.5	0.5	6.4	2.7		
	60代	46	50	27	67	77	4	－	17	13		
		21.5	23.4	12.6	31.3	36.0	1.9	－	7.9	6.1		
70代以上	58	71	35	81	88	2	－	34	32			
	20.9	25.5	12.6	29.1	31.7	0.7	－	12.2	11.5			

10 生涯にわたる健康づくりへの支援について

問31 以前まで、生殖器以外の疾患について、女性を対象とした研究が乏しかったこともあり、性差はないものとして診断や治療が行われていました。現在では、男女の体の違いによる性別特有の病気など、性によって異なる健康上の問題が生じることが知られてきています。このような中で、生涯にわたる健康づくりのための支援策として、あなたは何かが必要だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- 「女性や男性の健康に関する情報の提供」が 41.7%と最も高く、次いで「女性や男性の健康に関する学習の機会の充実」(34.1%)となっています。
- 性別では、女性で「医療機関での性別専門外来の設置」が 9.0 ポイント、「性差医療（男女の性差を考慮した医療）の充実」が 5.2 ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「女性や男性の健康に関する学習の機会の充実」が 5.3 ポイント、「女性や男性の健康に関する情報の提供」が 5.1 ポイント、「公的機関での健康相談」が 4.9 ポイント、それぞれ女性より高くなっています。

図表 124 生涯にわたる健康づくりのために必要なこと（性別）



- 年代別では、20 代を除いて「女性や男性の健康に関する情報の提供」が、それぞれ最も高くなっています。また、20 代で「女性や男性の健康に関する学習の機会の充実」が 51.5%と、他の年代と比べて 10 ポイント以上高くなっています。

図表 125 生涯にわたる健康づくりのために必要なこと（年代別）

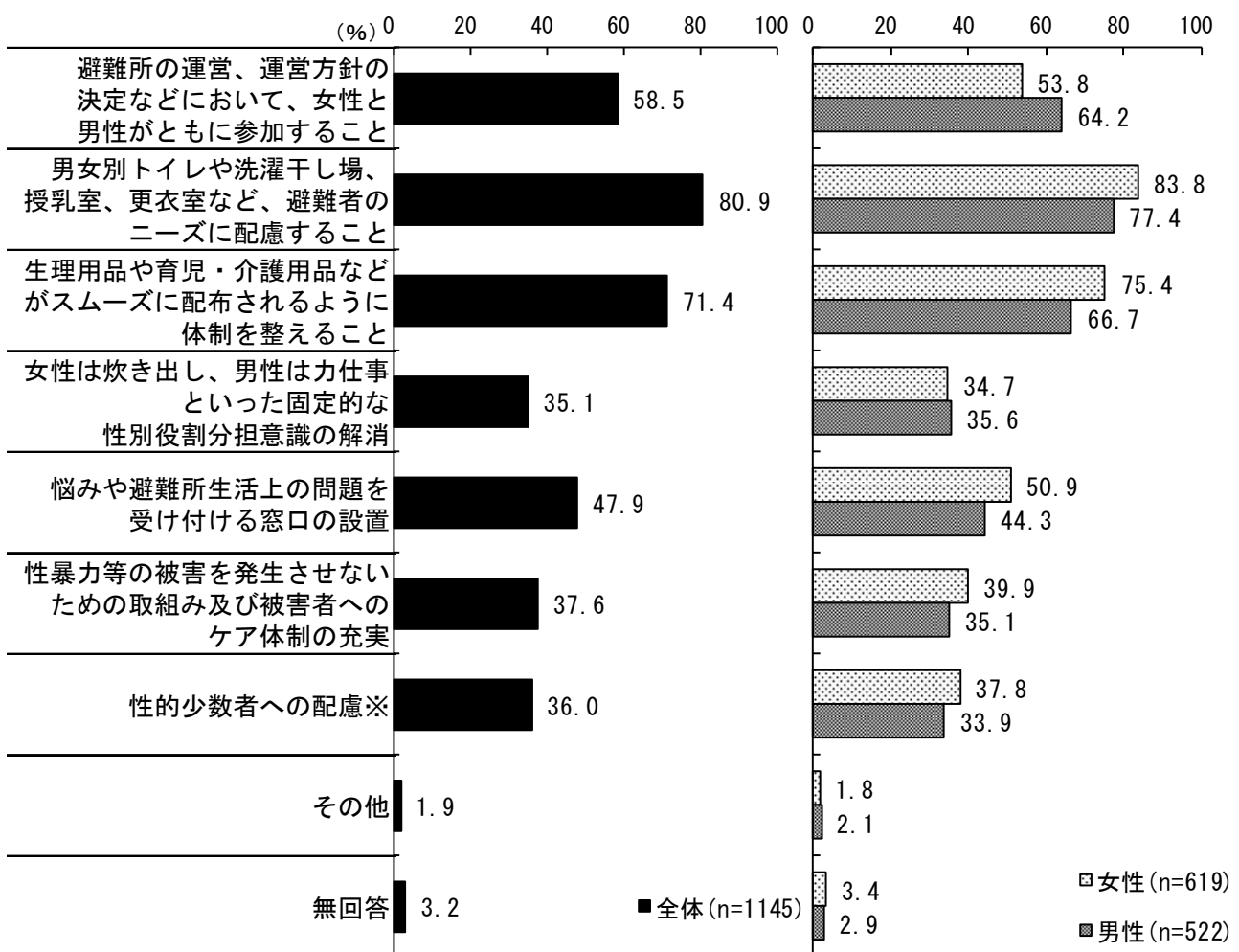
		全 体	機 会 に 関 する 充 実	女 性 の 学 習 の 健 康	提 供 に 関 する 男 性 の 健 康	健 公 康 的 機 関 の 関 与	専 門 医 療 機 関 の 設 置 の 性 別	医 療 機 関 の 充 実 の 考 慮 し た 男 女 の 差 異	性 差 を 考 慮 し た 男 女 の 差 異	性 差 を 考 慮 し た 男 女 の 差 異	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1145	390	477	307	358	350	6	242	34			
		100.0	34.1	41.7	26.8	31.3	30.6	0.5	21.1	3.0			
年 代 別	20代	99	51	49	30	35	41	-	20	1			
		100.0	51.5	49.5	30.3	35.4	41.4	-	20.2	1.0			
	30代	150	62	77	36	52	59	1	26	-			
		100.0	41.3	51.3	24.0	34.7	39.3	0.7	17.3	-			
	40代	214	86	95	52	68	76	4	37	1			
		100.0	40.2	44.4	24.3	31.8	35.5	1.9	17.3	0.5			
	50代	188	50	75	53	62	61	-	41	3			
		100.0	26.6	39.9	28.2	33.0	32.4	-	21.8	1.6			
	60代	214	58	80	55	66	48	-	52	10			
		100.0	27.1	37.4	25.7	30.8	22.4	-	24.3	4.7			
	70代以上	278	82	99	80	74	64	1	66	19			
		100.0	29.5	35.6	28.8	26.6	23.0	0.4	23.7	6.8			

11 災害時について

問32 あなたは、災害時の避難所運営について、どのようなことが必要だと思いますか。
(当てはまるもの全てに○)

- 「男女別トイレや洗濯干し場、授乳室、更衣室など、避難者のニーズに配慮すること」が 80.9%と最も高く、次いで「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」(71.4%)、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」(58.5%)となっています。
- 性別では、男性で「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」が 64.2%と、女性より 10.4 ポイント高くなっています。一方で、女性で「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」が 8.7 ポイント、「悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口の設置」が 6.6 ポイント、「男女別トイレや洗濯干し場、授乳室、更衣室など、避難所のニーズに配慮すること」が 6.4 ポイント、それぞれ男性より高くなっています。

図表 126 避難所運営に必要なこと（性別）



※相談窓口の設置、トランスジェンダー等も使用しやすいトイレ・浴室等の運用、同性カップルを家族として扱うことなど

- 年代別では、いずれの年代も「男女別トイレや洗濯干し場、授乳室、更衣室など、避難者のニーズに配慮すること」が7割以上となっており、なかでも20代で86.9%と、最も高くなっています。また、20代で「女性は炊き出し、男性は力仕事といった固定的な性別役割分担意識の解消」が47.5%、「性的少数者への配慮」が52.5%、70代以上で「悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口の設置」が56.5%と、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。さらに、年代が上がるにつれて、「悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口の設置」が高くなる一方で、年代が下がるにつれて、「性的少数者への配慮」が高くなっています。

図表 127 避難所運営に必要なこと（年代別）

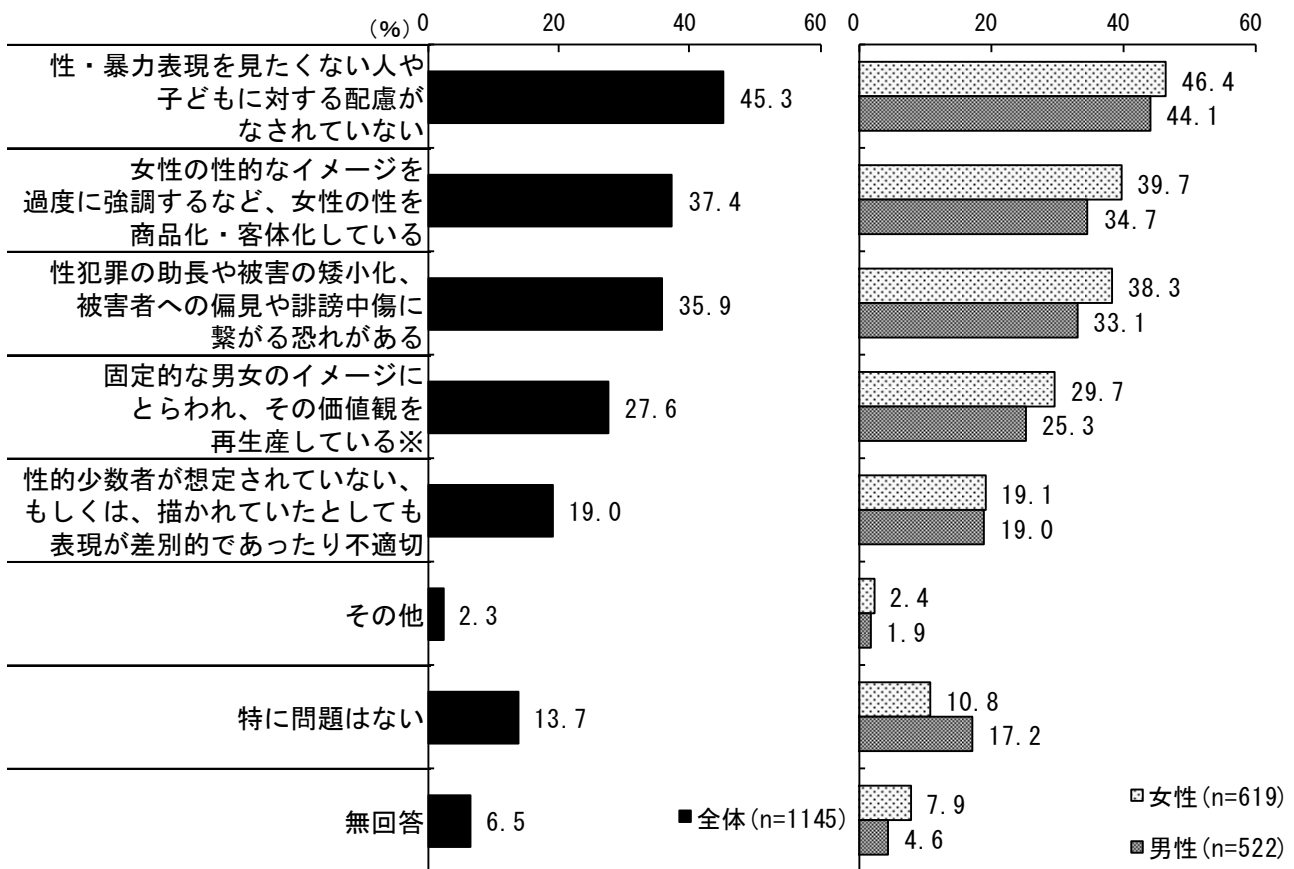
		全 体	男性がともに参加すること	避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と	授乳室、更衣室など、避難者のニーズに配慮すること	男女別トイレや洗濯干し場、	生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること	性別役割分担意識の解消	女性 は 炊き出し、男性 は 力仕事といった固定的な	受け付ける窓口の設置	悩みや避難所生活上の問題を	へのケア体制の充実	性的少数者への配慮	その他	無回答
全 体		1145	670	926	818	402	548	431	412	22	37				
		100.0	58.5	80.9	71.4	35.1	47.9	37.6	36.0	1.9	3.2				
年代別	20代	99	61	86	83	47	30	50	52	－	2				
		100.0	61.6	86.9	83.8	47.5	30.3	50.5	52.5	－	2.0				
	30代	150	93	130	130	58	65	78	69	3	2				
		100.0	62.0	86.7	86.7	38.7	43.3	52.0	46.0	2.0	1.3				
	40代	214	108	174	159	72	96	96	85	7	2				
		100.0	50.5	81.3	74.3	33.6	44.9	44.9	39.7	3.3	0.9				
	50代	188	102	145	129	58	88	55	63	3	2				
		100.0	54.3	77.1	68.6	30.9	46.8	29.3	33.5	1.6	1.1				
	60代	214	133	172	140	69	110	70	71	5	8				
		100.0	62.1	80.4	65.4	32.2	51.4	32.7	33.2	2.3	3.7				
70代以上	278	171	217	175	97	157	81	71	4	21					
	100.0	61.5	78.1	62.9	34.9	56.5	29.1	25.5	1.4	7.6					

12 メディアにおける性や暴力等の表現について

問33 あなたは、新聞・雑誌・テレビ・インターネット・DVD・ブルーレイディスク・広告などのメディアにおける性や暴力等の表現について、どのように感じていますか。
(当てはまるもの全てに○)

- 「性・暴力表現を見たくない人や子どもに対する配慮がなされていない」が45.3%と最も高く、次いで「女性の性的なイメージを過度に強調するなど、女性の性を商品化・客体化している」(37.4%)、「性犯罪の助長や被害の矮小化、被害者への偏見や誹謗中傷に繋がる恐れがある」(35.9%)となっています。
- 性別では、男性で「特に問題はない」が17.2%と、女性より6.4ポイント高くなっています。一方で、女性で「性犯罪の助長や被害の矮小化、被害者への偏見や誹謗中傷に繋がる恐れがある」が5.2ポイント、「女性の性的なイメージを過度に強調するなど、女性の性を商品化・客体化している」が5.0ポイント、それぞれ男性より高くなっています。

図表 128 メディアにおける性や暴力等の表現について感じていること（性別）



※「男は仕事、女は家事・育児」「男は強く、女は弱い」
「男は論理的、女は感情的」「女の敵は女」など

- 年代別では、20代で「固定的な男女のイメージにとらわれ、その価値観を再生産している」、30代以上で「性・暴力表現を見たくない人や子どもに対する配慮がなされていない」が、それぞれ最も高くなっています。また、20代で「固定的な男女のイメージにとらわれ、その価値観を再生産している」が42.4%、「性的少数者が想定されていない、もしくは、描かれていたとしても表現が差別的であったり不適切」が31.3%、60代で「性犯罪の助長や被害の矮小化、被害者への偏見や誹謗中傷に繋がる恐れがある」が43.0%と、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

図表 129 メディアにおける性や暴力等の表現について感じていること（年代別）

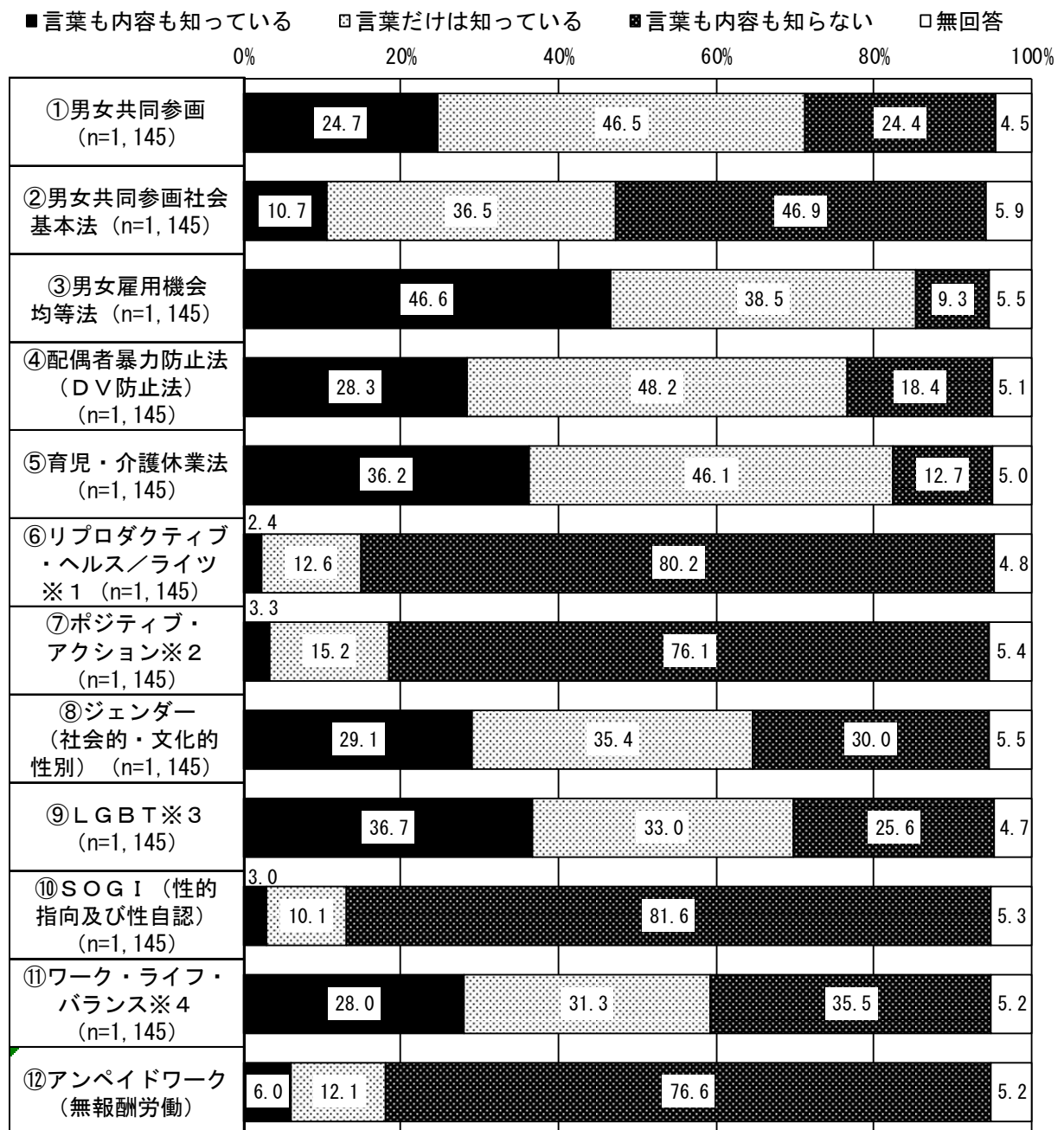
		全 体	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人
		全 体	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人	性 ・暴 力表 現に 対す る配 慮が ない 人
年 代 別	全 体	1145 100.0	519 45.3	428 37.4	411 35.9	316 27.6	217 19.0	26 2.3	157 13.7	74 6.5
	20代	99 100.0	32 32.3	37 37.4	27 27.3	42 42.4	31 31.3	1 1.0	22 22.2	1 1.0
	30代	150 100.0	59 39.3	47 31.3	48 32.0	49 32.7	36 24.0	3 2.0	31 20.7	3 2.0
	40代	214 100.0	85 39.7	81 37.9	71 33.2	58 27.1	38 17.8	8 3.7	38 17.8	6 2.8
	50代	188 100.0	84 44.7	67 35.6	70 37.2	40 21.3	34 18.1	7 3.7	20 10.6	6 3.2
	60代	214 100.0	115 53.7	84 39.3	92 43.0	54 25.2	37 17.3	5 2.3	17 7.9	18 8.4
	70代以上	278 100.0	142 51.1	111 39.9	102 36.7	73 26.3	41 14.7	2 0.7	29 10.4	40 14.4

13 男女共同参画社会について

問34 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。
(○はそれぞれ1つ)

- 「言葉も内容も知っている」をみると、「③男女雇用機会均等法」が46.6%と最も高く、次いで「⑨LGBT」(36.7%)、「⑤育児・介護休業法」(32.2%)となっています。
- 「言葉も内容も知らない」をみると、「SOGI (性的指向及び性自認)」が81.6%と最も高く、次いで「⑥リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(80.2%)、「⑫アンペイドワーク (無報酬労働)」(76.6%)、「⑦ポジティブ・アクション」(76.1%)となっています。

図表 130 男女共同参画社会関連用語の認知度



※1 性と生殖に関する健康/権利

※2 積極的格差是正措置

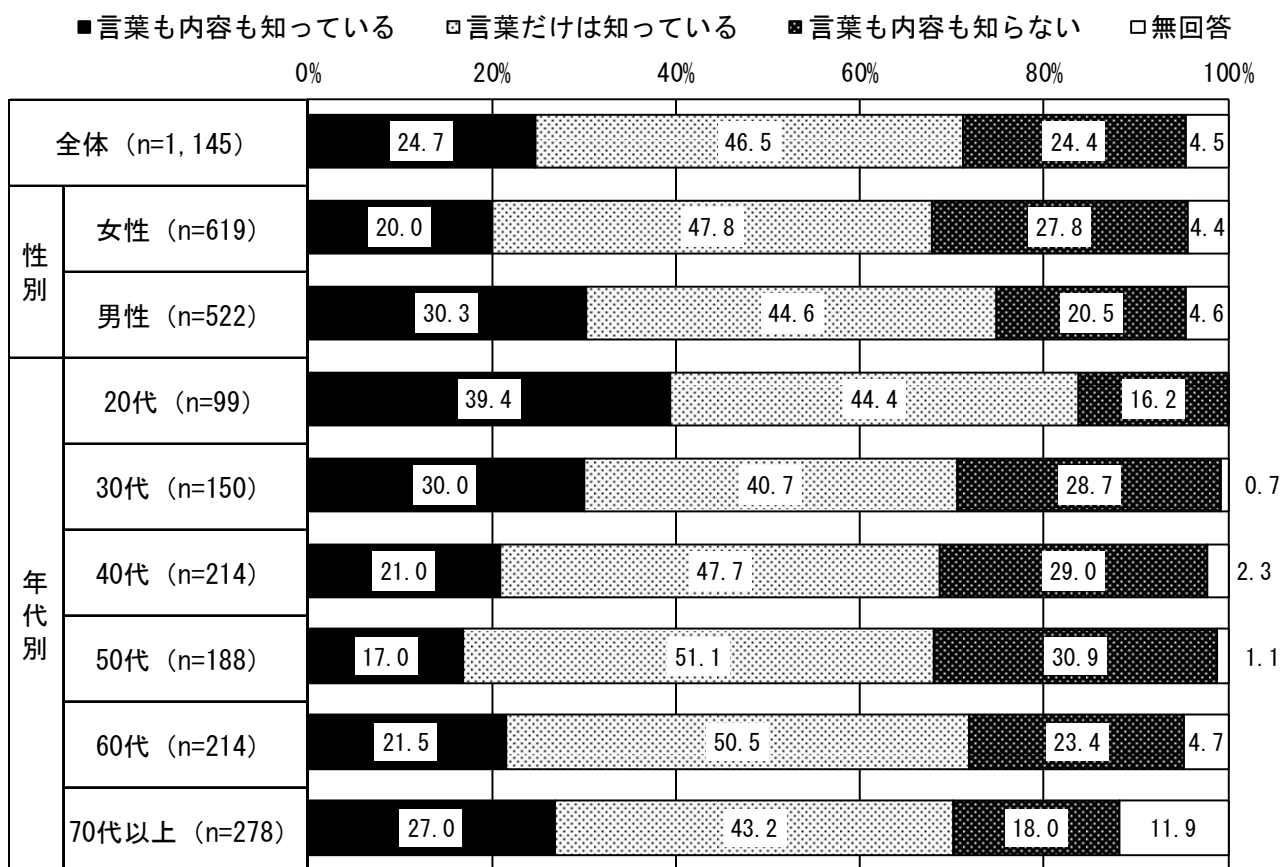
※3 レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの総称

※4 仕事と生活の調和

①男女共同参画

- 「言葉も内容も知っている」が24.7%、「言葉だけは知っている」が46.5%、「言葉も内容も知らない」が24.4%となっています。
- 性別では、男性で「言葉も内容も知っている」が30.3%と、女性より10.3ポイント高くなっています。一方で、女性で「言葉も内容も知らない」が27.8%と、男性より7.3ポイント高くなっています。
- 年代別では、30代から60代にかけて、「言葉も内容も知らない」が2割以上となっており、なかでも50代で30.9%と、最も高くなっています。

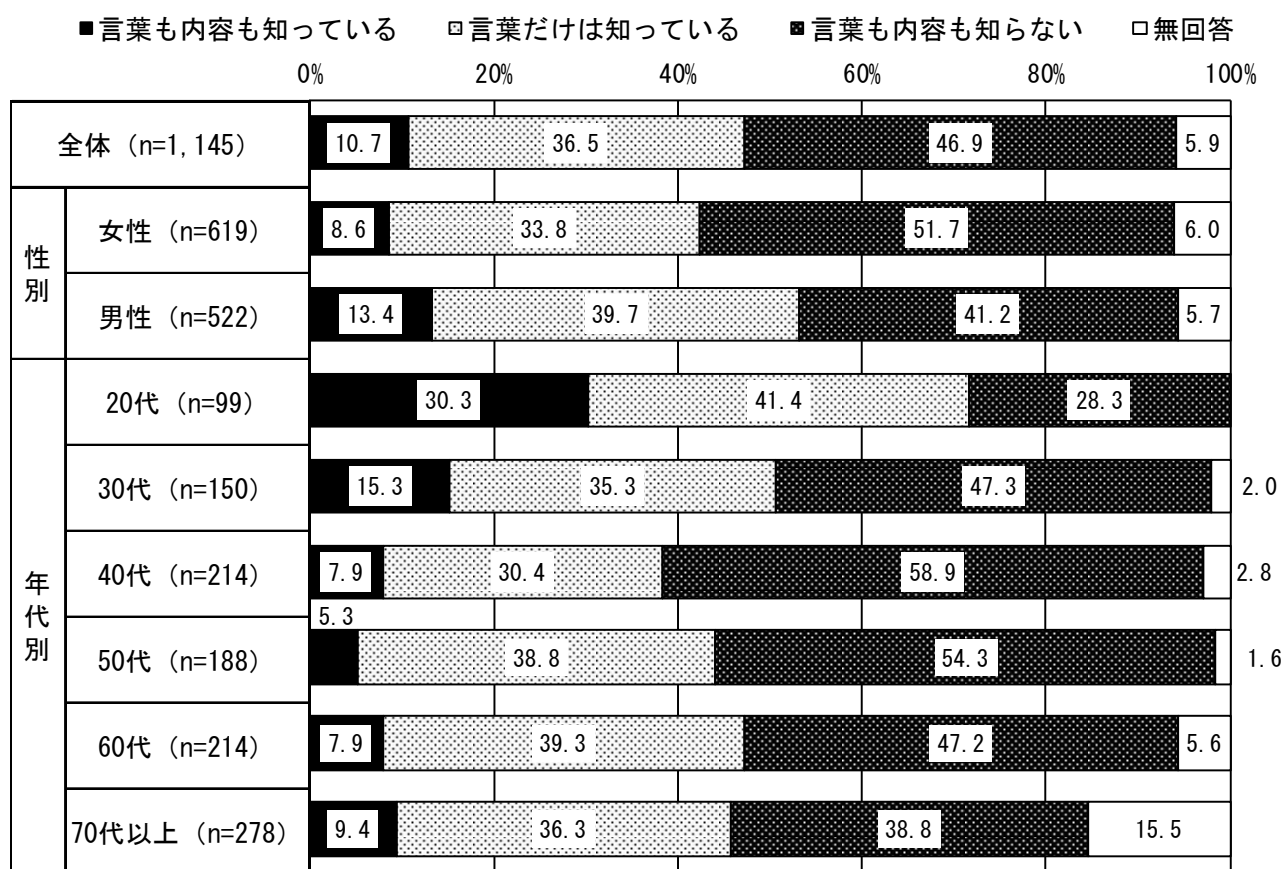
図表 131 ①男女共同参画（性別・年代別）



②男女共同参画社会基本法

- 「言葉も内容も知っている」が10.7%、「言葉だけは知っている」が36.5%、「言葉も内容も知らない」が46.9%となっています。
- 性別では、女性で「言葉も内容も知らない」が51.7%と、男性より10.5ポイント高くなっています。一方で、男性で「言葉だけは知っている」が5.9ポイント、「言葉も内容も知っている」が4.8ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、40代と50代で「言葉も内容も知らない」が5割以上となっています。一方で、20代で「言葉も内容も知っている」が30.3%と、他の年代と比べて15ポイント以上高くなっています。

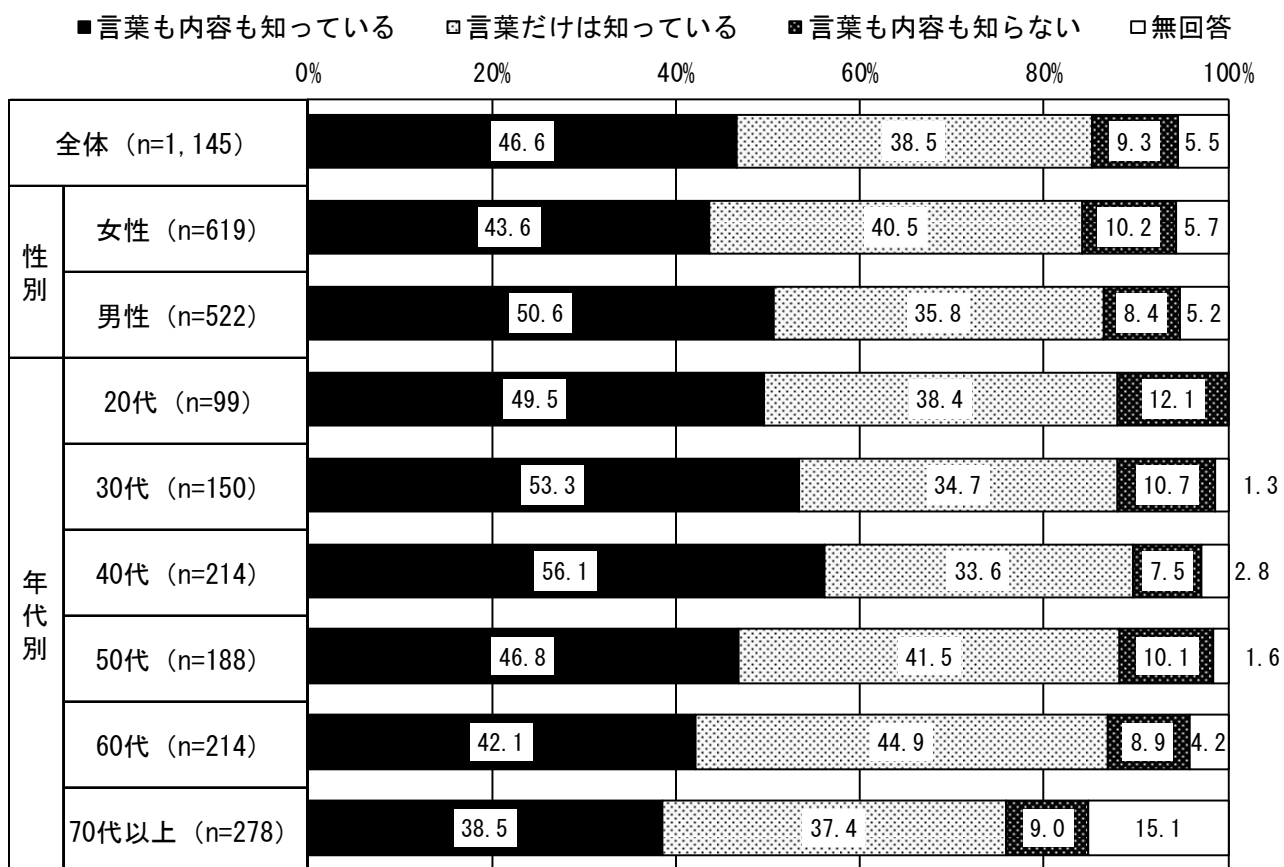
図表 132 ②男女共同参画社会基本法（性別・年代別）



③男女雇用機会均等法

- 「言葉も内容も知っている」が46.6%、「言葉だけは知っている」が38.5%、「言葉も内容も知らない」が9.3%となっています。
- 性別では、男性で「言葉も内容も知っている」が50.6%と、女性より7.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、30代と40代で「言葉も内容も知っている」が5割以上となっています。

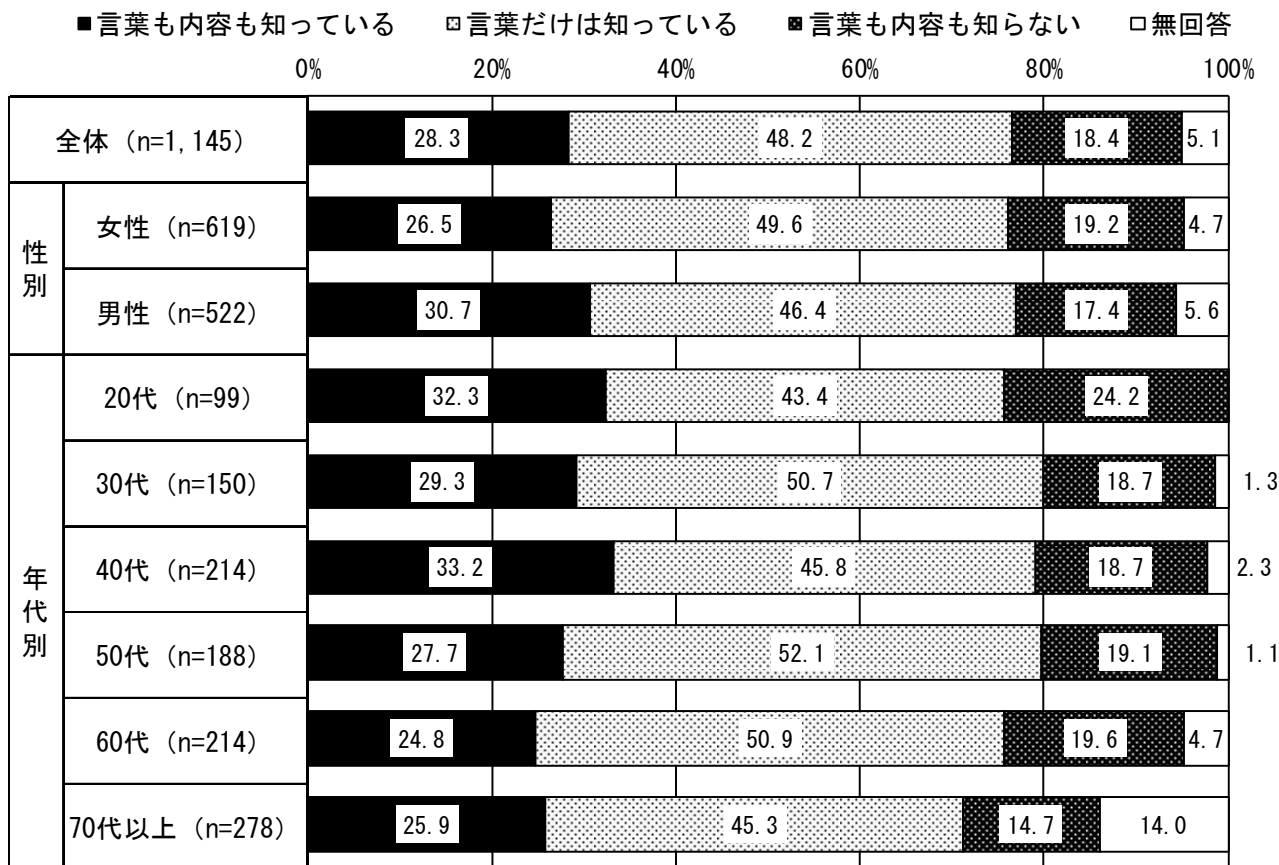
図表 133 ③男女雇用機会均等法（性別・年代別）



④配偶者暴力防止法（DV防止法）

- 「言葉も内容も知っている」が28.3%、「言葉だけは知っている」が48.2%、「言葉も内容も知らない」が18.4%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20代と40代で「言葉も内容も知っている」が3割以上となっています。一方で、20代で「言葉も内容も知らない」が24.2%と、他の年代と比べて高くなっています。

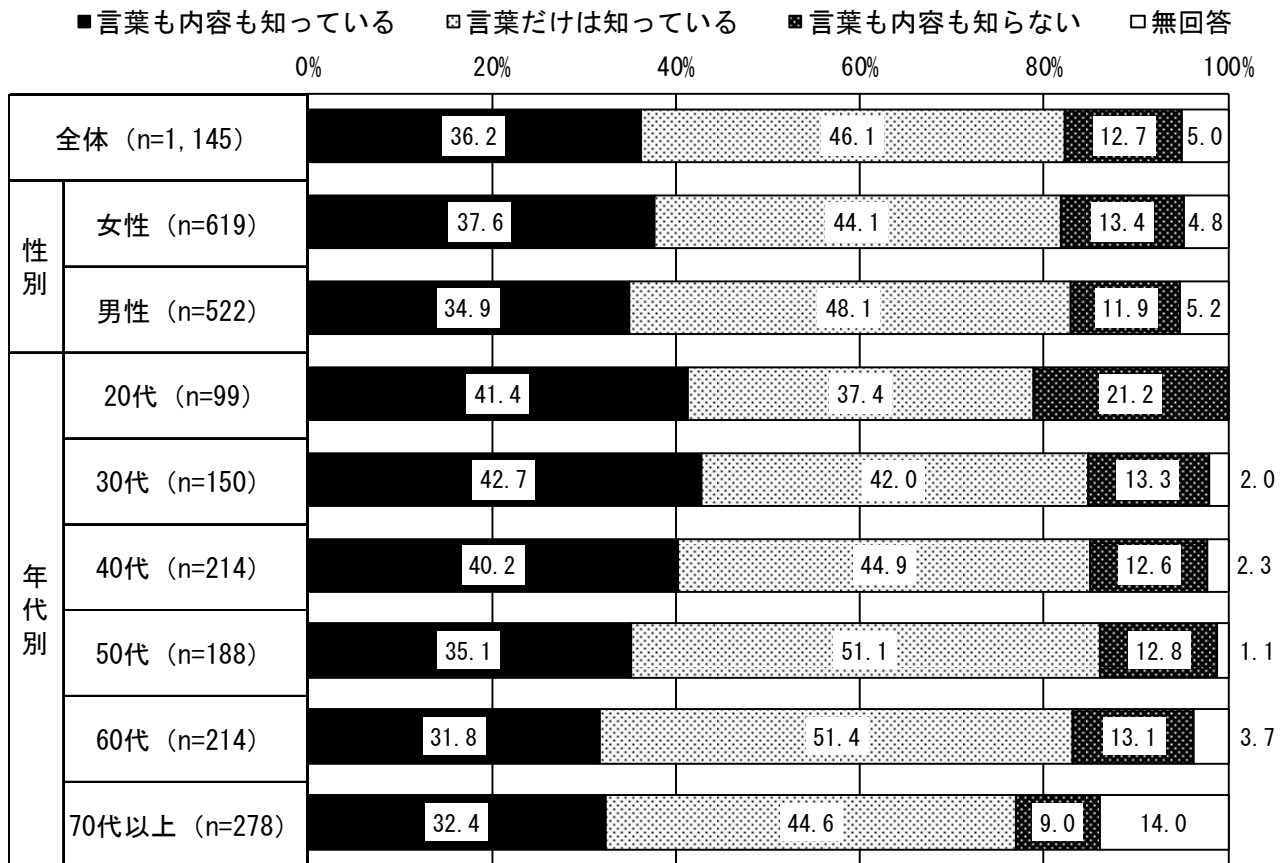
図表 134 ④配偶者暴力防止法（DV防止法）（性別・年代別）



⑤育児・介護休業法

- 「言葉も内容も知っている」が36.2%、「言葉だけは知っている」が46.1%、「言葉も内容も知らない」が12.7%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。
- 年代別では、20代から40代にかけて、「言葉も内容も知っている」が4割以上となっています。一方で、20代で「言葉も内容も知らない」が21.2%と、他の年代と比べて高くなっています。

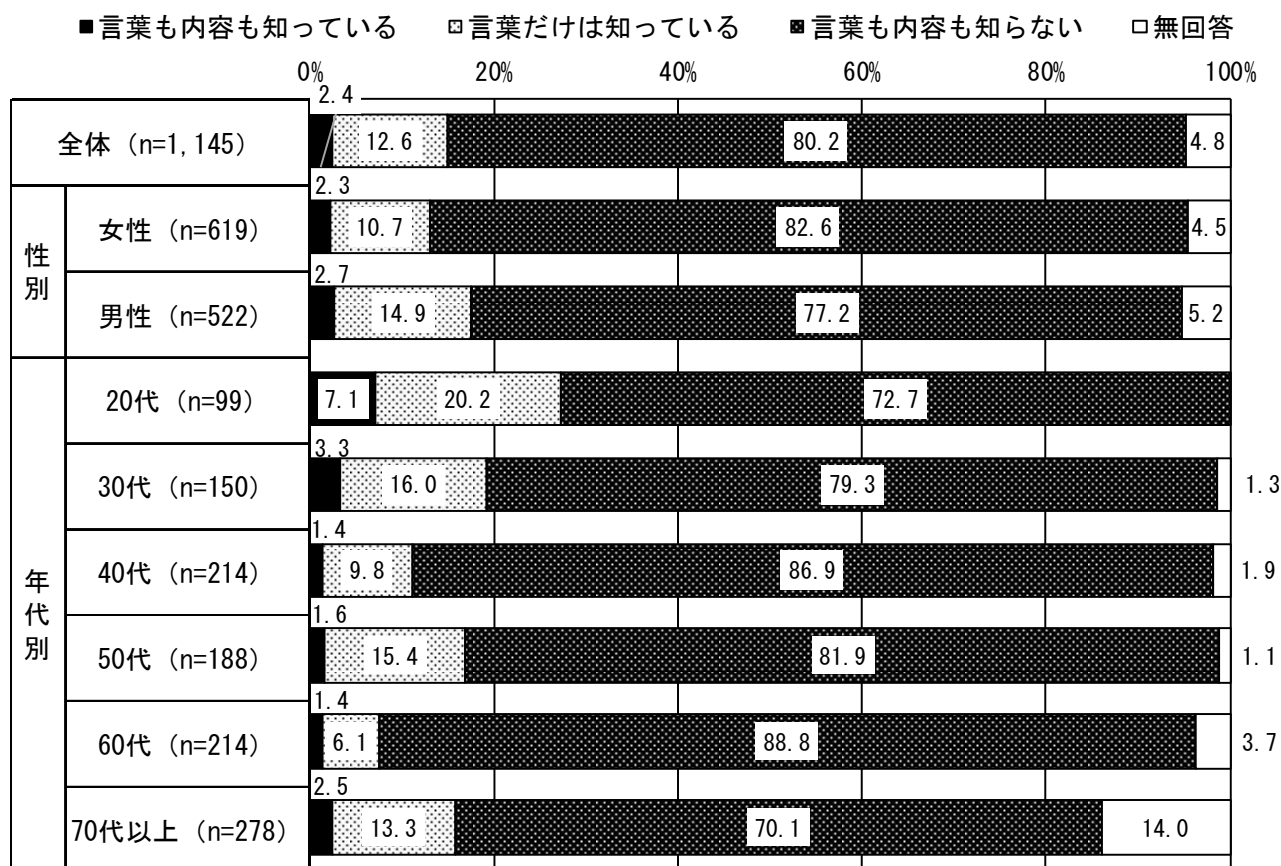
図表 135 ⑤育児・介護休業法（性別・年代別）



⑥リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）

- 「言葉も内容も知っている」が2.4%、「言葉だけは知っている」が12.6%、「言葉も内容も知らない」が80.2%となっています。
- 性別では、女性で「言葉も内容も知らない」が82.6%と、男性より5.4ポイント高くなっています。
- 年代別では、40代から60代にかけて、「言葉も内容も知らない」が8割以上となっており、なかでも60代で88.8%と、最も高くなっています。

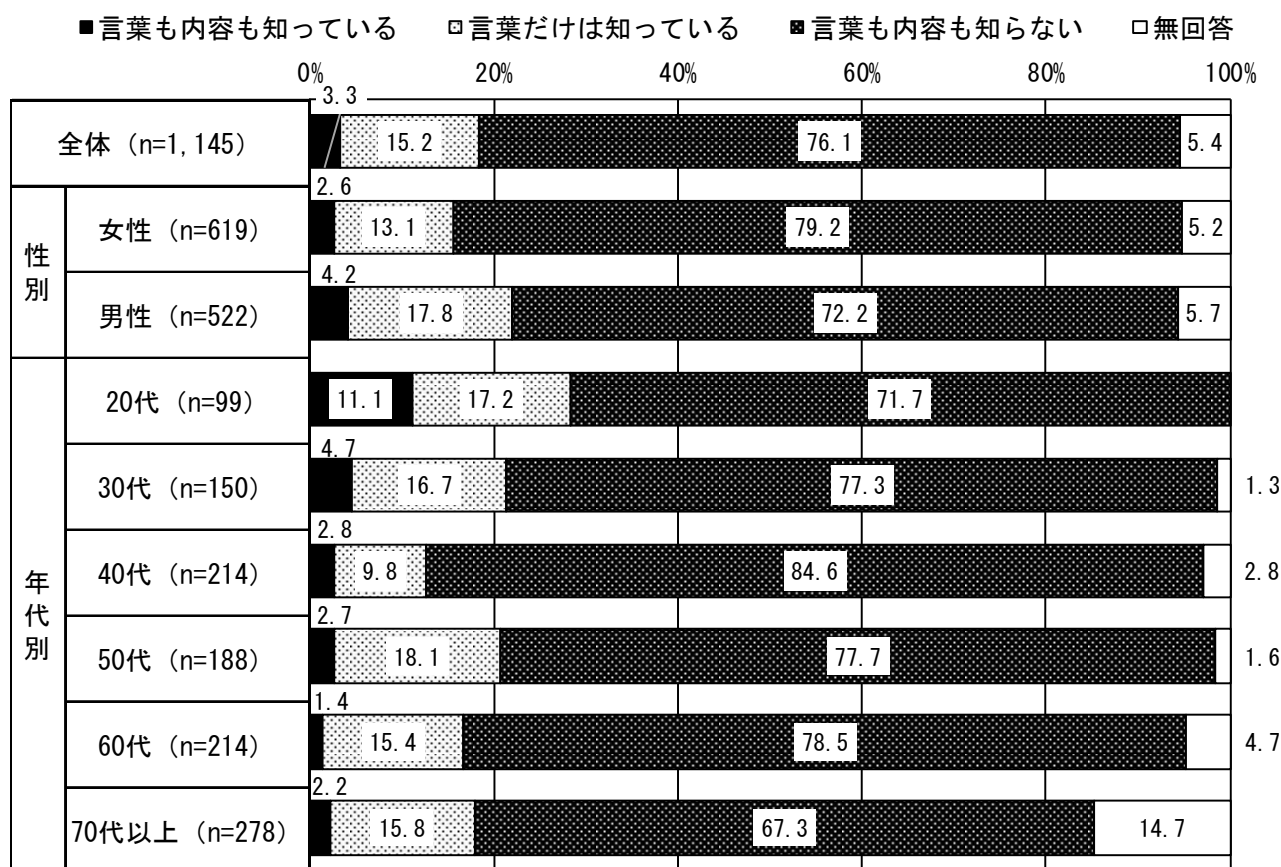
図表 136 ⑥リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）（性別・年代別）



⑦ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）

- 「言葉も内容も知っている」が3.3%、「言葉だけは知っている」が15.2%、「言葉も内容も知らない」が76.1%となっています。
- 性別では、女性で「言葉も内容も知らない」が79.2%と、男性より7.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、70代以上を除いて、「言葉も内容も知らない」が7割以上となっており、なかでも40代で84.6%と、最も高くなっています。一方で、20代で「言葉も内容も知っている」が11.1%と、他の年代と比べて高くなっています。

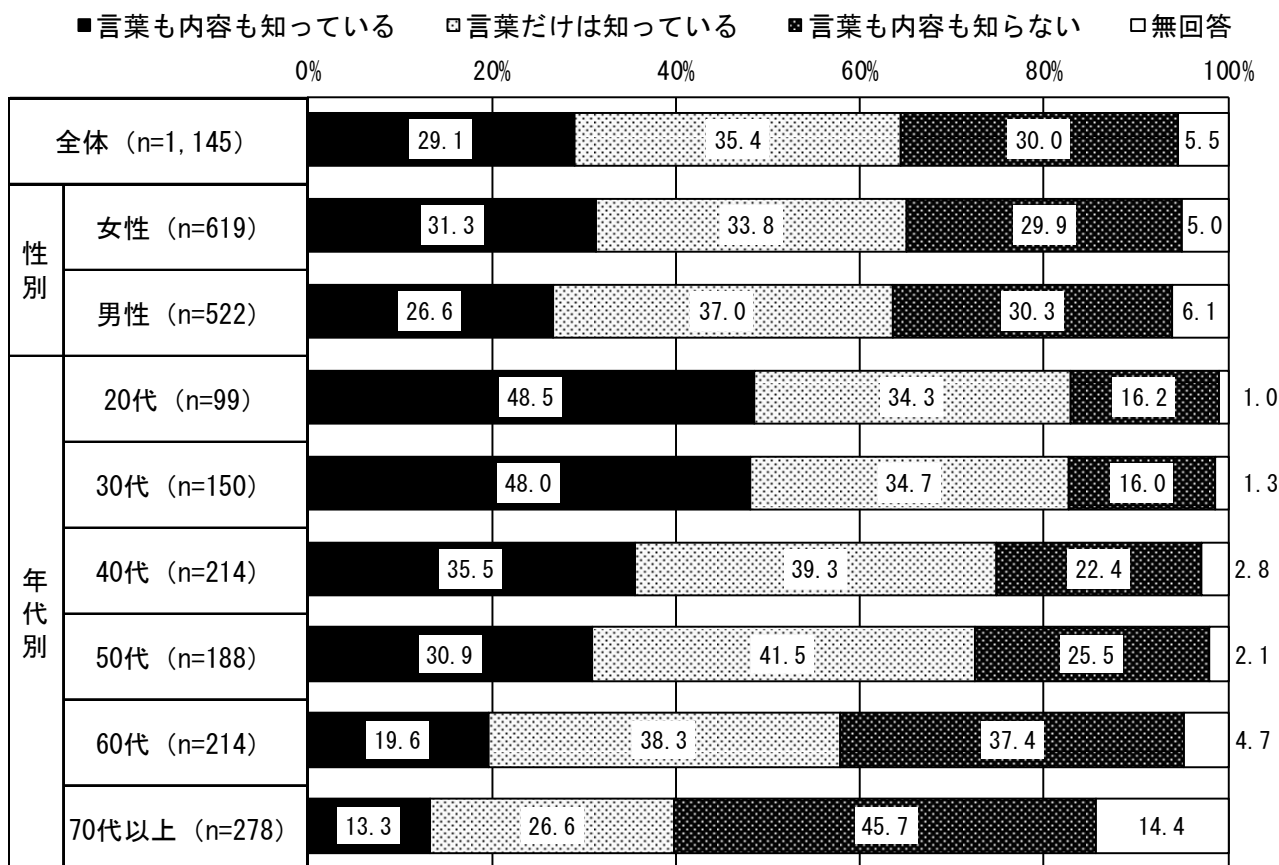
図表 137 ⑦ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）（性別・年代別）



⑧ジェンダー（社会的・文化的性別）

- 「言葉も内容も知っている」が 29.1%、「言葉だけは知っている」が 35.4%、「言葉も内容も知らない」が 30.0%となっています。
- 性別では、女性で「言葉も内容も知っている」が 31.3%と、男性より 4.7 ポイント高くなっています。
- 年代別では、年代が下がるにつれて「言葉も内容も知っている」が高くなっており、20代で 48.5%となっています。一方で、70代以上で「言葉も内容も知らない」が 45.7%と、他の年代と比べて高くなっています。

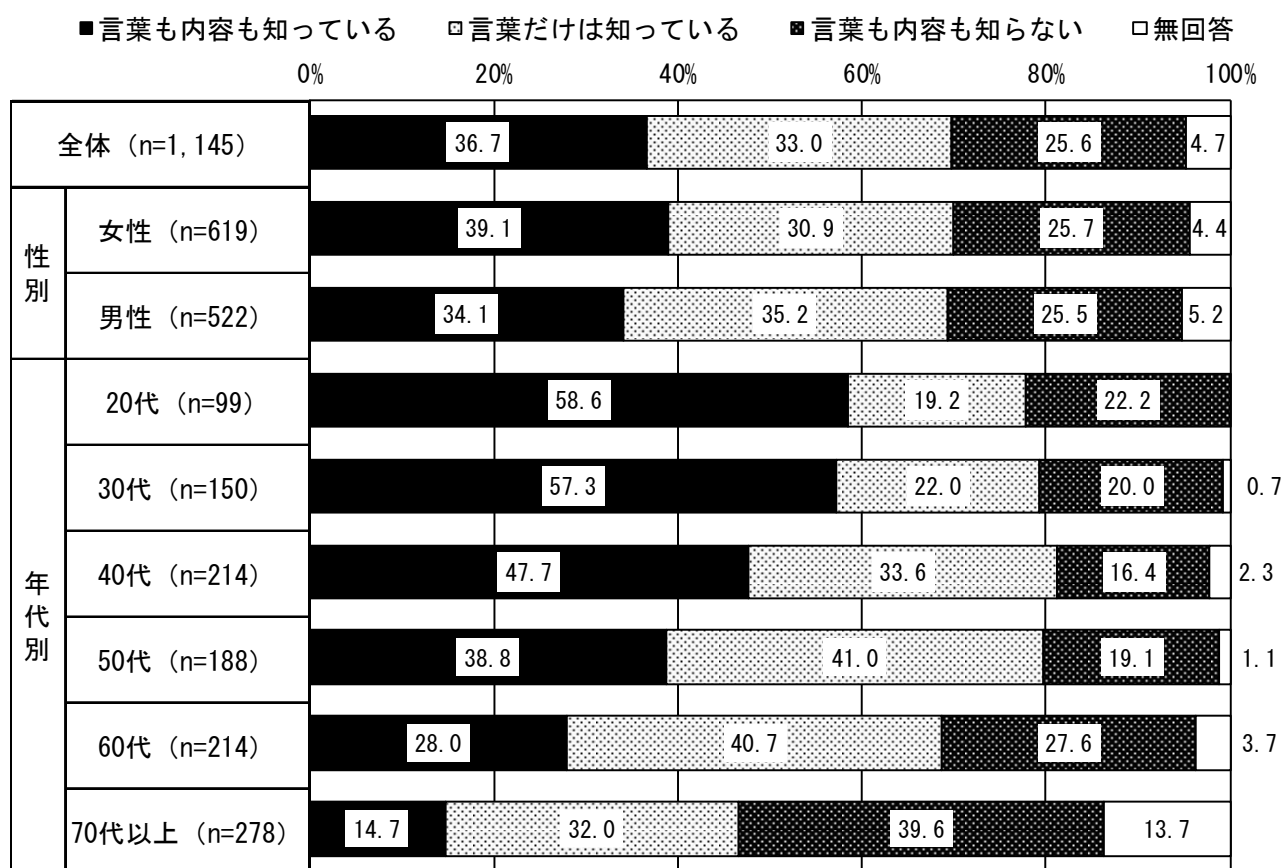
図表 138 ⑧ジェンダー（社会的・文化的性別）（性別・年代別）



⑨LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの総称）

- 「言葉も内容も知っている」が36.7%、「言葉だけは知っている」が33.0%、「言葉も内容も知らない」が25.6%となっています。
- 性別では、女性で「言葉も内容も知っている」が39.1%と、男性より5.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、年代が下がるにつれて「言葉も内容も知っている」が高くなっており、20代で58.6%となっています。一方で、70代以上で「言葉も内容も知らない」が39.6%と、他の年代と比べて高くなっています。

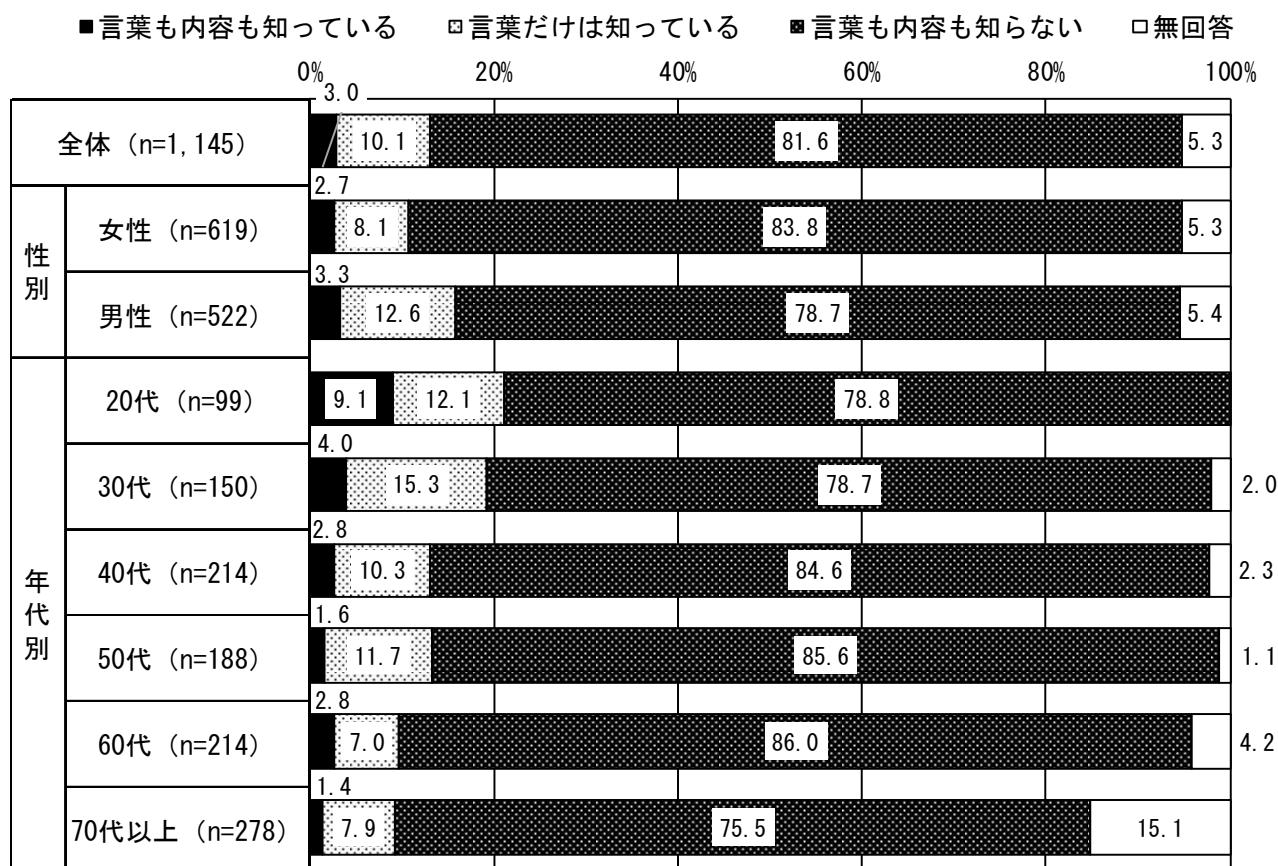
図表 139 ⑨LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの総称）
（性別・年代別）



⑩SOGI（性的指向及び性自認）

- 「言葉も内容も知っている」が3.0%、「言葉だけは知っている」が10.1%、「言葉も内容も知らない」が81.6%となっています。
- 性別では、女性で「言葉も内容も知らない」が83.8%と、男性より5.1ポイント高くなっています。
- 年代別では、40代から60代にかけて「言葉も内容も知らない」が8割以上となっています。

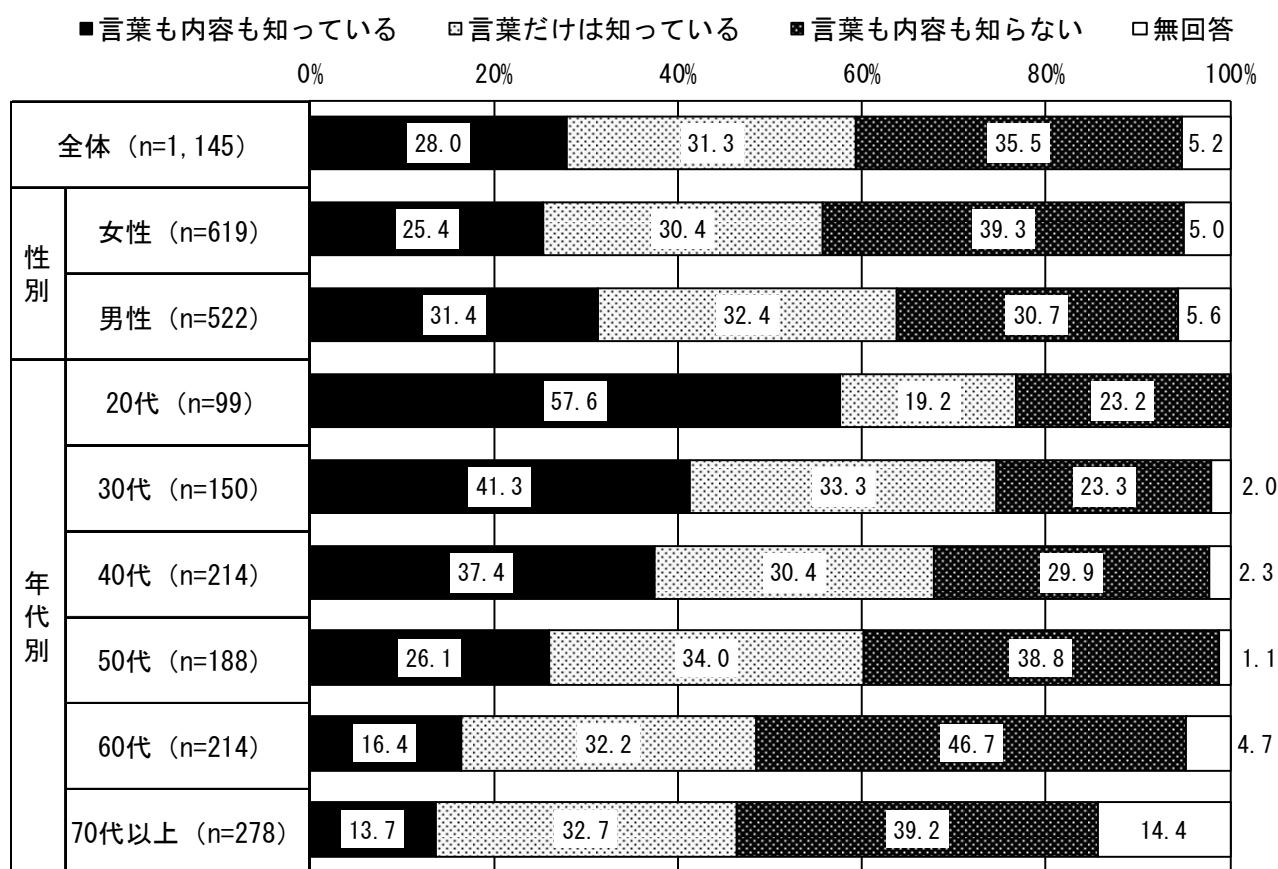
図表 140 ⑩SOGI（性的指向及び性自認）（性別・年代別）



⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

- 「言葉も内容も知っている」が28.0%、「言葉だけは知っている」が31.3%、「言葉も内容も知らない」が35.5%となっています。
- 性別では、女性で「言葉も内容も知らない」が39.3%と、男性より8.6ポイント高くなっています。一方で、男性で「言葉も内容も知っている」が31.4%と、女性より6.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、年代が下がるにつれて「言葉も内容も知っている」が高くなっており、20代で57.6%となっています。一方で、60代で「言葉も内容も知らない」が46.7%と、他の年代と比べて高くなっています。

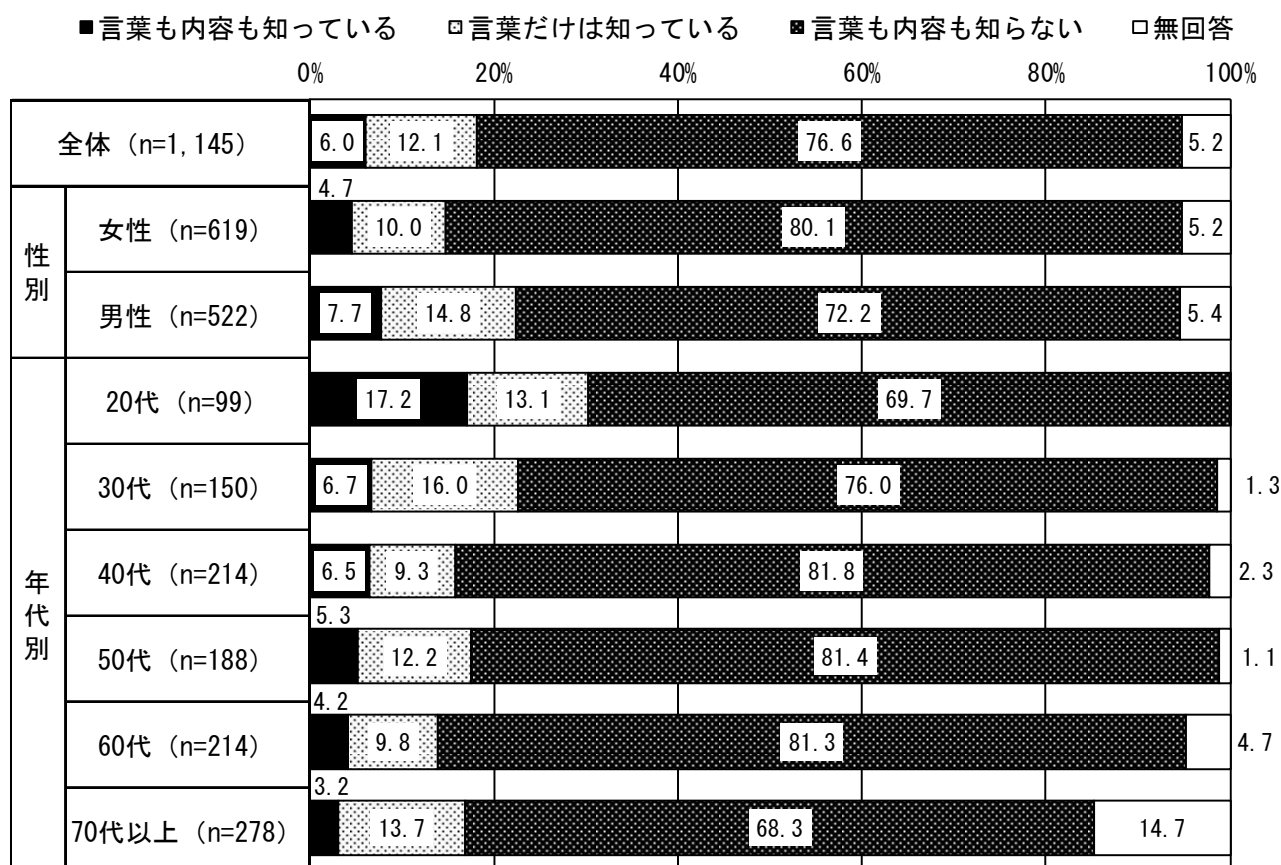
図表 141 ⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）（性別・年代別）



⑫アンペイドワーク（無報酬労働）

- 「言葉も内容も知っている」が6.0%、「言葉だけは知っている」が12.1%、「言葉も内容も知らない」が76.6%となっています。
- 性別では、女性で「言葉も内容も知らない」が80.1%と、男性より7.9ポイント高くなっています。一方で、男性で「言葉だけは知っている」が14.8%と、女性より4.8ポイント高くなっています。
- 年代別では、40代から60代にかけて「言葉も内容も知らない」が8割以上となっています。

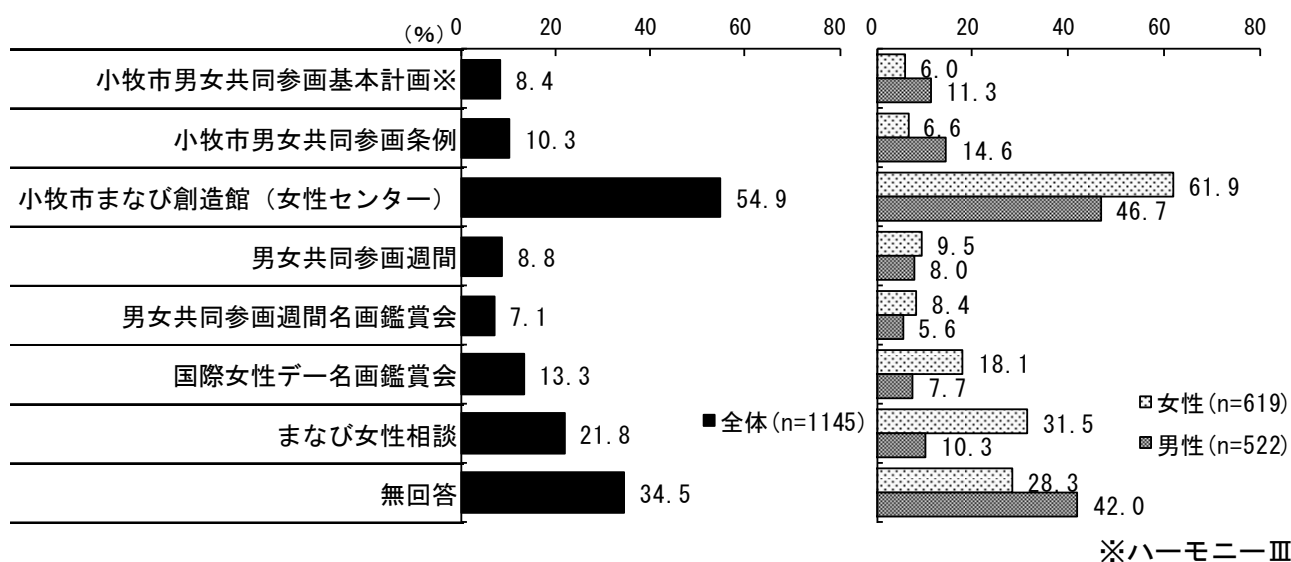
図表 142 ⑫アンペイドワーク（無報酬労働）（性別・年代別）



問35 小牧市では、男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みを行っています。あなたがご存知のものはどれですか。「知っている」「聞いたことがある」を含めてお答えください。（当てはまるもの全てに○）

- 「小牧市まなび創造館（女性センター）」が54.9%と最も高く、次いで「まなび女性相談」（21.8%）、「国際女性デー名画鑑賞会」（13.3%）となっています。
- 性別では、女性で「まなび女性相談」が21.2ポイント、「小牧市まなび創造館（女性センター）」が15.2ポイント、「国際女性デー名画鑑賞会」が10.4ポイント、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「小牧市男女共同参画条例」が8.0ポイント、「小牧市男女共同参画基本計画」が5.3ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、いずれの年代も「小牧市まなび創造館（女性センター）」が最も高くなっています。また、「男女共同参画週間」と「まなび女性相談」を除いて、70代以上が最も高くなっています。

図表 143 小牧市の取り組みの認知度（性別）



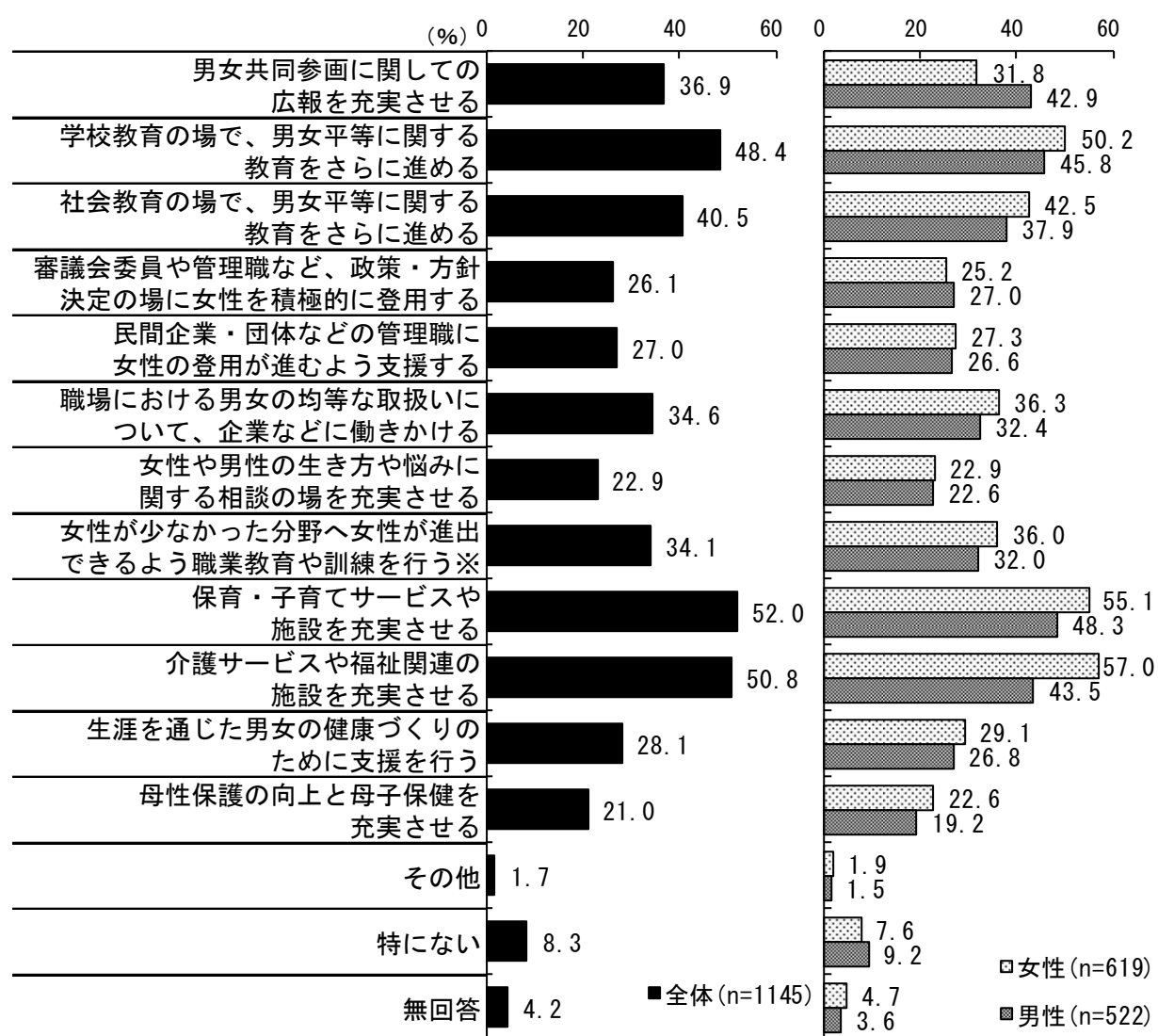
図表 144 小牧市の取り組みの認知度（年代別）

		全 体	小牧市男女共同 参画基本計画 （ハ―モニ―Ⅲ）	小牧市男女共同 参画条例	小牧市まなび 創造館 （女性セ―ンター）	男女共同参画週 間	男女共同参画週 間 名画鑑賞会	国際女性デー名画 鑑賞会	まなび女性相談	無回 答
全 体		1145 100.0	96 8.4	118 10.3	629 54.9	101 8.8	81 7.1	152 13.3	250 21.8	395 34.5
年 代 別	20代	99 100.0	8 8.1	8 8.1	41 41.4	9 9.1	3 3.0	5 5.1	13 13.1	45 45.5
		30代	150 100.0	14 9.3	11 7.3	77 51.3	18 12.0	4 2.7	12 8.0	31 20.7
	40代		214 100.0	16 7.5	18 8.4	124 57.9	17 7.9	8 3.7	25 11.7	58 27.1
		50代	188 100.0	14 7.4	17 9.0	107 56.9	11 5.9	9 4.8	23 12.2	44 23.4
	60代		214 100.0	9 4.2	20 9.3	112 52.3	13 6.1	12 5.6	28 13.1	38 17.8
		70代以上	278 100.0	35 12.6	44 15.8	167 60.1	33 11.9	45 16.2	59 21.2	65 23.4

問36 男女共同参画社会を実現していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- 「保育・子育てサービスや施設を充実させる」が52.0%と最も高く、次いで「介護サービスや福祉の施設を充実させる」（50.8%）、「学校教育の場で、男女平等に関する教育をさらに進める」（48.4%）、「社会教育の場で、男女平等に関する教育をさらに進める」（40.5%）となっています。
- 性別では、女性で「介護サービスや福祉関連の施設を充実させる」が13.5ポイント、「保育・子育てサービスや施設を充実させる」が6.8%、それぞれ男性より高くなっています。一方で、男性で「男女共同参画に関しての広報を充実させる」が42.9%と、女性より11.1ポイント高くなっています。

図表 145 小牧市が今後力を入れていくべきこと（性別）



※女性が働くための機会を増やす、もともと女性が少なかった分野へ女性が進出できるよう職業教育や訓練を行う

- 年代別では、20代で「学校教育の場で、男女平等に関する教育をさらに進める」、30代と40代で「保育・子育てサービスや施設を充実させる」、50代以上で「介護サービスや福祉関連の施設を充実させる」が、それぞれ最も高くなっています。また、30代で「保育・子育てサービスや施設を充実させる」が64.0%と、他の年代と比べて高くなっています。さらに、年代が上がるにつれて、「介護サービスや福祉関連の施設を充実させる」が高くなっている一方で、年代が下がるにつれて「学校教育の場で、男女平等に関する教育をさらに進める」が高くなっています。

図表 146 小牧市が今後力を入れていくべきこと（年代別）

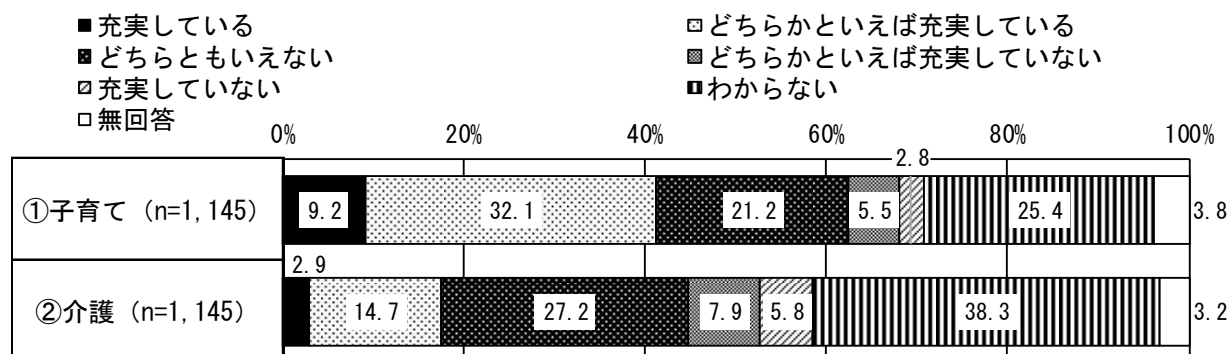
		全体	の男女 広報共 を同参 充実画 さに関 して	教男学 育女校 を平教 を等育 にの場 に進で める	教男社 育女会 を平教 を等育 にの場 に進で める	登のな 用場ど すに、 女政委 性策員 を・や 積方管 極針理 的決職 に定	進管民 む理間 よ職企 うに業 支女・ 援性団 する体 登の 用な がの	企等職 業な場 な取に ど扱お にいけ る男 き女 かいて 、均	を悩女 充み性 実にや さ関男 せる性 の相 生 談 の 方 場 や
全 体		1145	423	554	464	299	309	396	262
		100.0	36.9	48.4	40.5	26.1	27.0	34.6	22.9
年 代 別	20代	99	32	59	45	27	29	42	31
		100.0	32.3	59.6	45.5	27.3	29.3	42.4	31.3
	30代	150	48	89	72	42	45	60	47
		100.0	32.0	59.3	48.0	28.0	30.0	40.0	31.3
	40代	214	72	109	90	48	64	73	46
		100.0	33.6	50.9	42.1	22.4	29.9	34.1	21.5
	50代	188	65	87	68	37	46	61	39
		100.0	34.6	46.3	36.2	19.7	24.5	32.4	20.7
	60代	214	84	91	81	55	58	67	39
		100.0	39.3	42.5	37.9	25.7	27.1	31.3	18.2
	70代以上	278	120	117	106	88	66	91	58
		100.0	43.2	42.1	38.1	31.7	23.7	32.7	20.9

		行よう う女性 職業が 少進な か教育 やで 訓練 を	や保 施育・ 設子育 を充実 させ るサ ービス	さ関 連の サ ー ビ ス や 福 祉	支健生 援康涯 を行を く通じ りた た男 女に	母母 子性 保保 健護 の向 上と せる	そ 他	特 に な い	無 回 答
全 体		391	595	582	322	241	20	95	48
		34.1	52.0	50.8	28.1	21.0	1.7	8.3	4.2
年 代 別	20代	40	57	37	31	32	—	10	1
		40.4	57.6	37.4	31.3	32.3	—	10.1	1.0
	30代	54	96	65	43	44	5	10	3
		36.0	64.0	43.3	28.7	29.3	3.3	6.7	2.0
	40代	73	119	99	49	38	7	19	5
		34.1	55.6	46.3	22.9	17.8	3.3	8.9	2.3
	50代	57	85	103	45	27	3	19	3
		30.3	45.2	54.8	23.9	14.4	1.6	10.1	1.6
	60代	62	112	120	69	43	2	13	12
		29.0	52.3	56.1	32.2	20.1	0.9	6.1	5.6
	70代以上	104	124	156	83	56	3	24	24
		37.4	44.6	56.1	29.9	20.1	1.1	8.6	8.6

問37 あなたは、小牧市において、子育て・介護と仕事を両立するための支援が充実していると思いますか。（〇はそれぞれ1つ）

- 「①子育て」で“充実していると思う（「充実している」＋「どちらかといえば充実している」）”が41.3%と、「②介護」より23.7ポイント高くなっています。一方で、「②介護」で“充実していないと思う（「充実していない」＋「どちらかといえば充実していない」）”が13.7%と、「①子育て」より5.4ポイント高くなっています。

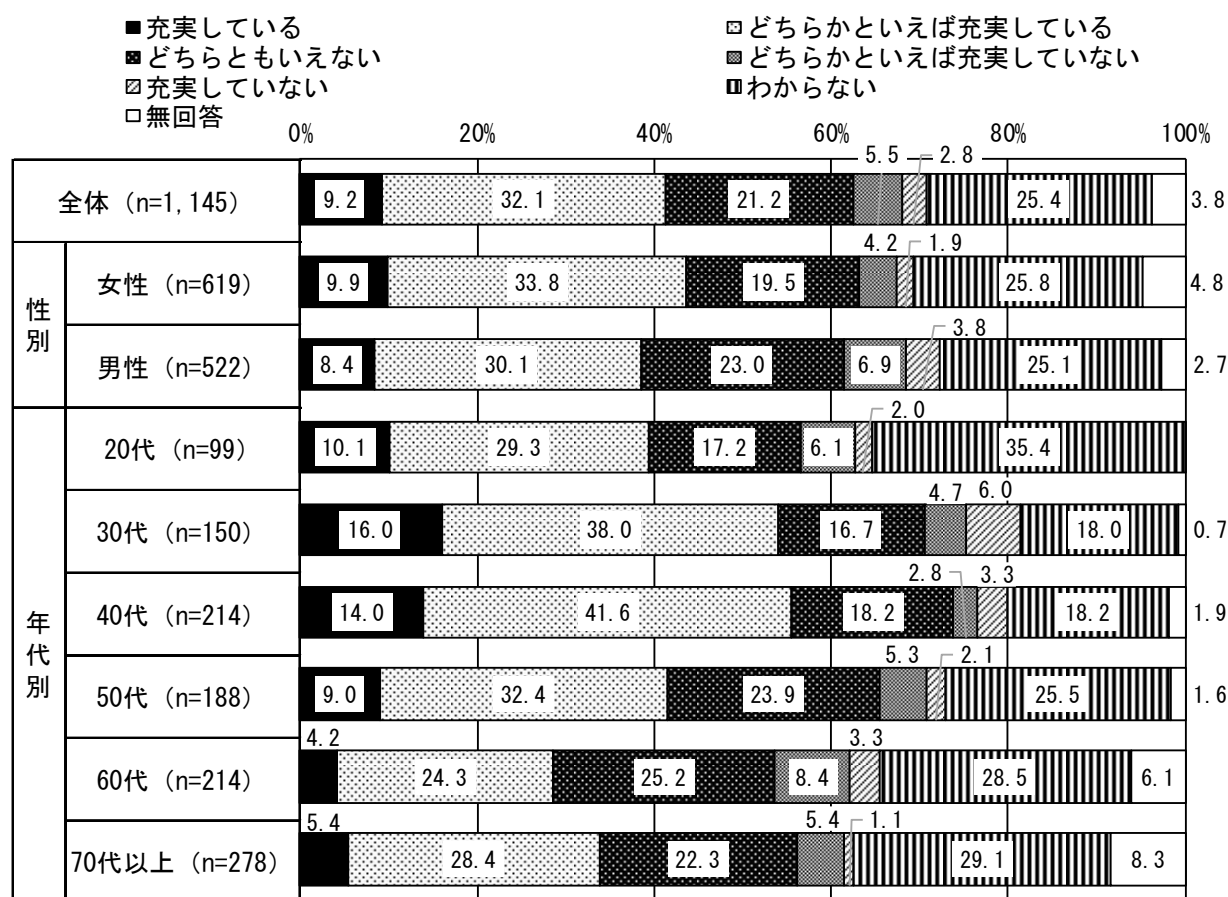
図表 147 子育て・介護と仕事の両立支援の充実度



①子育て

- 「どちらかといえば充実している」が32.1%と最も高く、次いで「わからない」(25.4%)、「どちらともいえない」(21.2%)となっています。
- 性別では、女性で“充実していると思う”が43.7%と、男性より5.2ポイント高くなっています。
- 年代別では、30代と40代で“充実していると思う”が5割以上となっています。一方で、30代と60代で“充実していないと思う”が約1割となっています。

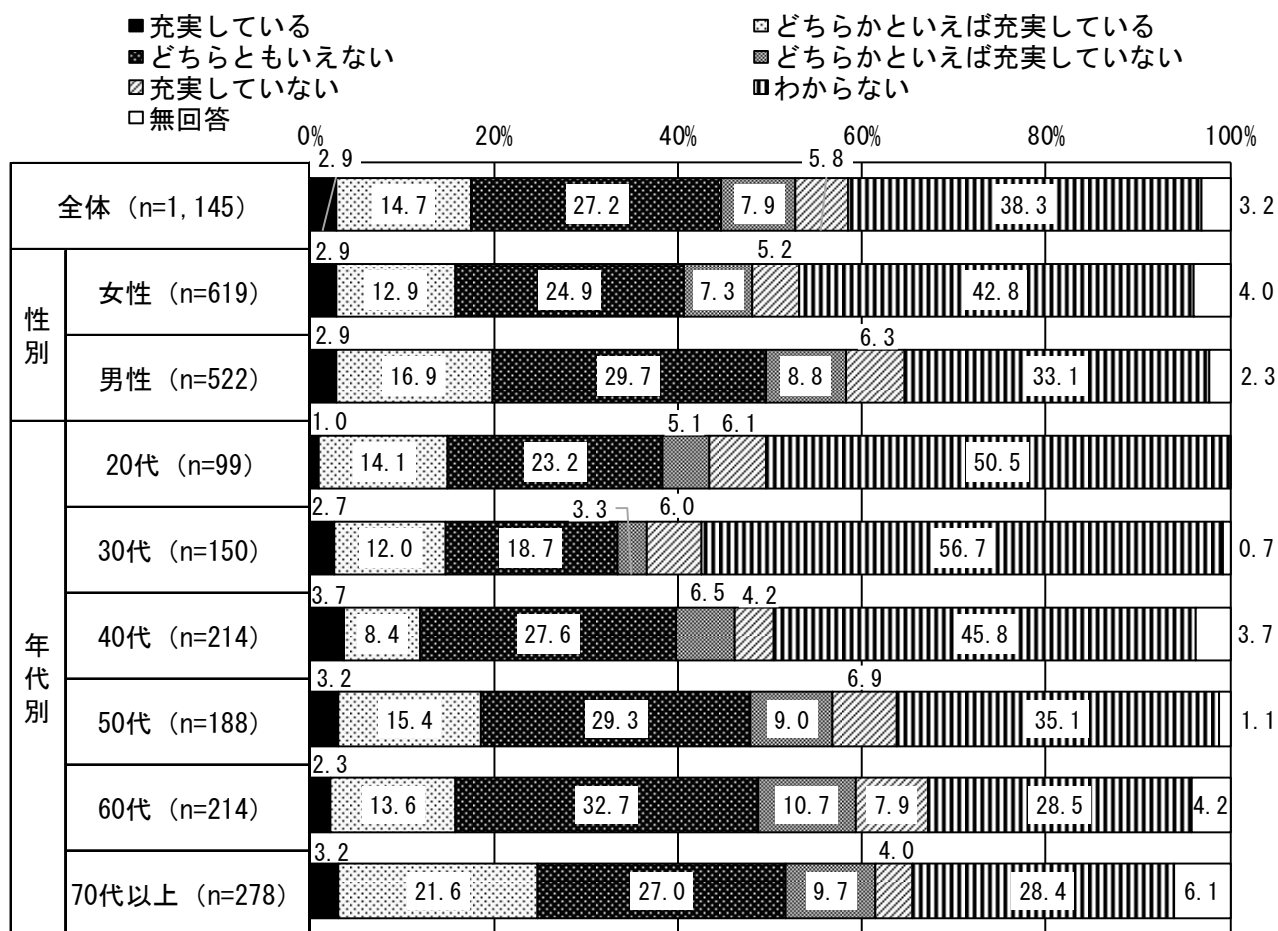
図表 148 ①子育て（性別・年代別）



②介護

- 「わからない」が38.3%最も高く、次いで「どちらともいえない」(27.2%)、「どちらかといえば充実している」(14.7%)となっています。
- 性別では、女性で「わからない」が42.8%と、男性より9.7ポイント高くなっています。一方で、男性で「どちらともいえない」が4.8ポイント、「どちらかといえば充実している」が4.0ポイント、それぞれ女性より高くなっています。
- 年代別では、70代以上で「どちらかといえば充実している」が21.6%と、他の年代と比べて高くなっています。

図表 149 ②介護（性別・年代別）



問38 男女共同参画について、何かご意見があればお聞かせください。

行政について（22 件）

- 行政が先頭に立たないと進まない。
- 今まで以上にわかりやすくしてほしいです。男女共同参画について、小牧市広報に載せていただきたいです。
- 9/22(火)中日新聞で、フィンランドと日本の政治リーダーの写真を比較している記事を見ました。フィンランドは女性ばかりで 30～40 代、日本は男性ばかりで 70～80 代。これでは少子化は防げませんし、女性問題も進まないはずです。幻滅します。私は 40 過ぎて 2 人子どもを授かりましたが、出産、子育てがこんなに大変なものとは知りませんでした。核家族のため、親には頼れず、夫も毎日会社、近所づきあいもなく、体力的精神的に人生の中で一番追い込まれました。助けてほしくても、誰も助けてくれず、一人でどうにかするしかありませんでした。男性は出産や子育ての大変さが全くわかっていないと感じます。もっと出産、子育て経験のある女性に、リーダーになって改善して行ってほしいです。またはマイノリティーの人など、色々な視点を持った人をリーダーにしてほしいです。
- 日本の政界はまだまだ男性が多いです。女性の活躍を願います。
- 男女共同参画について知らないことが多いと感じた。私自身も勉強不足な部分もあると思いますが、若い世代に理解してもらうには、SNS 等での情報発信がもっとあった方がいいと思った。企業でも女性が管理職に登用されるような社会になっていけばいいと思う。そのためには女性が不安なく働けるような行政サービスの充実が不可欠だと思うので、これからも頑張ってください。
- 未満児でも気軽に預けられる環境があれば、いいと思う。保育士さんの給料、待遇をもっと改善してほしい。子育ては女性が担っている場合が多いが、その負担の軽減が進んでほしい。

など

アンケートについて（16 件）

- アンケート内容が膨大である。男女共同のこと市民はよくわからないので、もっと簡潔、基本にポイントを絞るべき。アンケート疲れしました。公務員の意識を変えるべき。
- アンケートに対する回答ができない項目が多い。現役世代にアンケートを依頼された方が今後役に立つのでは。
- 問が多い。問の内容が似ている（問が重複している気がする？）。

など

教育について（11 件）

- 50 歳代の私たちは「男は男らしく 女は女らしく」と教育を受けてきました。そのことに疑問を持たずに自身も大人になりました。そのせいか、弱音を吐けず苦しんでいる男性が多くいて、心が痛みます。家庭でも職場でも、男性の下で自我を抑えて生きている女性がたくさんいます。私もそうです。今の子どもたちには男も女もセクシュアルマイノリティも平等であることが当たり前の世の中で生きてほしいです。
- 若い世代（義務教育修了後～義務教育児童を育てている年代）への意識を高めていく。小牧市の各地区が男女共同の核となるまちづくり。
- 学校の教育で、男女区別なく家事・育児・仕事への考え方を教えるべきだと思う。それぞれが得意なことを頑張る世の中に自分たちになるよう学ぶことができればよかったと思う。今、自殺も多いので、頑張りすぎもよくない。

など

就労について（10 件）

- 職場で男性が育休を取りにくい雰囲気がある。夫婦共働きで子育てをする場合、親の子育て支援（近くに親が住んでいるなど）がないと、共働きが難しいと感じることがある。
- 結局、育児と仕事（正社員として）を両立させてくれる職場が少なすぎて、母親の負担が大きい。続けたくても仕事を続けてはいけないと言われているよう。「旦那さんにもっと働いてもらって、もっと稼いでもらって、自分は家庭に入って」みたいな社会がまだまだあって生きづらいなあと感じる。
- 女性が働きやすい環境を整えてほしい（学童保育の時間延長など。時短パートや介護でも学童が利用できるとなおい）。母親としては子と一緒にいたいのに、会社の勤務時間でどうしようもないこともある。会社も人も時短勤務が利用できるようなワーク・ライフ・バランスを考えてほしい。

など

「男女共同参画」「男女平等」について（7 件）

- 「男女共同参画」という言葉は以前から目にすることはあったが、自分が住んでいる街や社会全体でどのような取り組みがされているのか、制度があるのかずっと知らないまま。知ろうとしない自分も改めなきゃいけない。難しいことだと思うけど、偏見、思い込み、イメージがなくなって、「男女共同参画」という言葉自体もいい意味でなくなってほしい（社会全体に考え方や制度が浸透して、当たり前であってほしい）。
- 男女差別の無い小牧市になってほしいと思っています。

など

経済について（５件）

- 男女で生活している家庭は子育てを含み、生活は安定しているが、母子、父子家庭での生活は苦しい家庭が多いように見える。特に子育ての面と収入のバランスが整っていないように見えるので、補助する必要があるかも。

など

男性の家庭参加（５件）

- 男性の意識改革が必要です。家事は女性がするものという考えを変えないことには進まないと思います。会社でも、掃除・洗濯は女性が当番制ですが男性は一切しないので。
- 男性の育児参加促進…今までの固定概念を覆す必要があるため、現状「育児に参加している人」の話を聞き改善すべき。主夫についての偏見をなくす…現状育児をしている男性がもっとやりやすいように、トイレにチャイルドシートやおむつ替えの施設を普及。男性だけでも入れるキッズスペースがあるといいと思う。女性の方で男性が入ってくるのを嫌がる人がある。そういう人のために配慮できる。

など

その他（35 件）

- 性的少数者への配慮…トイレの普及など、男・女だけでは足りない。学業などで積極的に意見交換。
- まず、性犯罪をなくしてほしい。
- アダルトビデオ等が演技や演出の上のものだという観念が広がってほしい。演出上のものを女性に対してやっていいと思わされるのが、いけないと思う。わかりやすくテロップや字幕で注意喚起するのが法で義務化してほしい。
- 我が家は妻が外で働き、夫が家事をしている。性別にとらわれず、誰もが個人の能力を生かして働ける社会になってほしい。
- 男女相互の考え方次第で平等な社会をつくることができる。しかし、現在までに残る差別等は今に始まったことではなく、長年に渡って残っているものだから簡単に社会が変わるとは思わない。個人が他者を尊重できるような社会になってほしいと思う。
- 以前に比べて男・女という考え方が変化してきていると思います。

など

IV 一般 比較結果

※平成 26 年の本市調査の結果、令和元年の全国調査、名古屋市調査の結果について一部抜粋しています。

問 あなたは今の社会において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

前回比較

- 前回調査と比較すると、“男性優遇（「男性のほうが優遇されている」＋「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」）」について、「政治の場で」で 10.5 ポイント、「法律や制度の上で」で 6.9 ポイント、前回より高くなっています。一方で、「平等」について、「職場や就職活動で」で、前回より 4.7 ポイント高くなっており、なかでも女性で平等と感じている人の割合が、前回よりも高くなっています。

図表 150 男女の平等について（前回比較）

		男性優遇							(%)
		家庭生活で	で職場や就職活動	で学校教育・保育	で法律や制度の上	政治の場で	で・社会きたり・慣ど習	N 活地 P 動域 O な自働・治・会社会	
全体	令和 2 年 (n=1, 145)	45.3	60.7	15.0	42.7	74.5	74.4	39.3	
	平成26年 (n=1, 081)	48.4	63.7	13.5	35.8	64.0	69.5	37.0	
	差	-3.1	-3.0	1.5	6.9	10.5	4.9	2.3	
女性	令和 2 年 (n=619)	54.0	63.8	16.8	51.2	77.2	77.7	47.3	
	平成26年 (n=597)	57.1	68.4	16.8	43.4	69.8	74.4	42.5	
	差	-3.1	-4.6	0.0	7.8	7.4	3.3	4.8	
男性	令和 2 年 (n=522)	35.2	57.3	12.8	32.9	71.5	70.7	29.9	
	平成26年 (n=456)	39.0	60.9	9.9	27.8	60.1	66.9	31.6	
	差	-3.8	-3.6	2.9	5.1	11.4	3.8	-1.7	

		平等							(%)
		家庭生活で	で職場や就職活動	で学校教育・保育	で法律や制度の上	政治の場で	で・社会きたり・慣ど習	N 活地 P 動域 O な自働・治・会社会	
全体	令和 2 年 (n=1, 145)	34.9	21.6	58.4	34.9	13.8	12.7	36.5	
	平成26年 (n=1, 081)	33.2	16.9	57.8	36.5	16.8	14.9	38.2	
	差	1.7	4.7	0.6	-1.6	-3.0	-2.2	-1.7	
女性	令和 2 年 (n=619)	26.3	17.9	55.7	26.5	9.9	9.4	27.1	
	平成26年 (n=597)	26.5	11.9	55.6	28.6	10.4	11.1	29.5	
	差	-0.2	6.0	0.1	-2.1	-0.5	-1.7	-2.4	
男性	令和 2 年 (n=522)	45.2	25.9	61.7	44.8	18.6	16.7	47.9	
	平成26年 (n=456)	43.9	24.3	64.0	48.9	26.3	20.8	51.5	
	差	1.3	1.6	-2.3	-4.1	-7.7	-4.1	-3.6	

全国比較

- 全国調査と比較すると、“男性優遇”について「職場」で7.3ポイント、「地域活動の場」で4.6ポイント、全国より高くなっています。一方で、「平等」について、「家庭生活」で10.6ポイント、「地域活動の場」で10.0ポイント、全国に比べて低くなっており、全項目で全国より平等と感じている人の割合が低くなっています。

図表 151 男女の平等について（全国比較）

		(%)							
		家庭生活	職場	学校教育の場	法律や制度	政治の場	で・社会 しき きたり・ 通念・ 慣習	地域活動の場	社会全体
男性優遇	小牧市	45.3	60.7	15.0	42.7	74.5	74.4	39.3	67.9
	全国	44.9	53.4	18.5	46.9	79.0	70.1	34.7	74.1
	差	0.4	7.3	-3.5	-4.2	-4.5	4.3	4.6	-6.2
平等	小牧市	34.9	21.6	58.4	34.9	13.8	12.7	36.5	16.5
	全国	45.5	30.7	61.2	39.7	14.4	22.6	46.5	21.2
	差	-10.6	-9.1	-2.8	-4.8	-0.6	-9.9	-10.0	-4.7

名古屋市比較

- 名古屋市調査と比較すると、“男性優遇”について、「職場」と「地域活動の場」を除いて、名古屋市より低くなっています。なかでも、「家庭生活」では6.7ポイント、「政治の場」では5.5ポイント、それぞれ名古屋市より低くなっています。一方で、「平等」について、いずれの項目でも名古屋市より高くなっています。なかでも「学校教育の場」で7.1ポイント、「政治の場」で5.7ポイント、「法律や制度」で5.6ポイント、それぞれ名古屋市より高くなっています。

図表 152 男女の平等について（名古屋市比較）

		(%)							
		家庭生活	職場	学校教育の場	法律や制度	政治の場	で・社会 しき きたり・ 通念・ 慣習	地域活動の場	社会全体
男性優遇	小牧市	45.3	60.7	15.0	42.7	74.5	74.4	39.3	67.9
	名古屋市	52.0	59.2	19.0	47.0	80.0	77.9	35.6	72.6
	差	-6.7	1.5	-4.0	-4.3	-5.5	-3.5	3.7	-4.7
平等	小牧市	34.9	21.6	58.4	34.9	13.8	12.7	36.5	16.5
	名古屋市	31.4	20.6	51.3	29.3	8.1	9.8	35.2	13.8
	差	3.5	1.0	7.1	5.6	5.7	2.9	1.3	2.7

問 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守る方が良い」といった固定的な性別役割分担について、どのように思いますか。（○は1つ）

前回比較

- 前回調査と比較すると、“概ねそう思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）”が20.9%と、前回よりも16.1ポイント低くなっていますが、他方で“概ねそう思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそうは思わない」）”が49.5%と、前回よりも20.2ポイント高くなっています。

図表 153 固定的な性別役割分担について（前回比較）

	概ね そう 思う	そう 思う	えど ち ば ち ら か そ う か 思 う い	な 概 い ね そ う 思 わ	わ えど ち ば ち ら か は と 思 い	そ う 思 わ ない	えど ち ら と も い	わ か ら ない	(%) 無 回 答
令和2年(n=1,145)	20.9	4.8	16.1	49.5	14.6	34.9	26.6	2.5	0.5
平成26年(n=1,081)	37.0	9.7	27.3	29.3	11.1	18.2	30.1	1.0	2.6
差	-16.1	-4.9	-11.2	20.2	3.5	16.7	-3.5	1.5	-2.1

全国比較

- 全国調査と比較すると、“概ねそう思う”が20.9%と、全国よりも14.1ポイント低くなっていますが、他方で“概ねそう思わない”が49.5%と、全国よりも10.3ポイント低くなっています。

図表 154 固定的な性別役割分担について（全国比較）

		概ね そう 思う	そう 思う	えど ち ば ち ら か そ う か 思 う い	な 概 い ね そ う 思 わ	わ えど ち ば ち ら か は と 思 い	そ う 思 わ ない	えど ち ら と も い	わ か ら ない	(%) 無 回 答
小 牧 市	女性	15.0	4.5	10.5	53.0	14.9	38.1	31.7	0.3	
	男性	28.0	5.2	22.8	45.4	14.4	31.0	26.3	0.4	
	合計	20.9	4.8	16.1	49.5	14.6	34.9	29.1	0.5	
全 国	女性	31.1	6.5	24.6	63.4	38.5	24.9	5.5	-	
	男性	39.4	8.6	30.8	55.6	34.4	21.2	4.9	-	
	合計	35.0	7.5	27.5	59.8	36.6	23.2	5.2	-	

名古屋市比較

- 名古屋市調査と比較すると、“概ねそう思う”が20.9%と、名古屋市よりも13.5ポイント低くなっていますが、他方で「そう思わない」が34.9%と、名古屋市よりも14.0ポイント高くなっています。

図表 155 固定的な性別役割分担について（名古屋市比較）

		(%)							
		概ね そう 思う	そう 思う	えど ちら そう か とい	な 概 ね そ う 思 わ	わ えど ち ら さ う か は と 思 い	そ う 思 わ ない	えど ち ら さ う か は と 思 い	無 回 答
小 牧 市	女性	15.0	4.5	10.5	53.0	14.9	38.1	31.7	0.3
	男性	28.0	5.2	22.8	45.4	14.4	31.0	26.3	0.4
	合計	20.9	4.8	16.1	49.5	14.6	34.9	29.1	0.5
名 古 屋 市	女性	31.3	4.3	27.0	54.7	30.7	24.0	12.8	1.9
	男性	38.0	3.5	34.5	46.0	29.5	16.5	12.3	1.8
	合計	34.4	4.3	30.1	51.1	30.2	20.9	12.6	1.9

※名古屋市調査はの設問文は、
 「『夫は外で働き、妻は家庭を守るべき』という考え方について、
 あなたのご意見にもっとも近いものはどれですか。」
 選択肢は、「賛成／どちらかといえば賛成／どちらかといえば反対／反対／わからない」

※今回調査：「結婚している」「結婚していないが、異性のパートナーがいる」と答えた方

※前回調査：現在結婚（事実婚含む）をされている方

問 あなたの家庭で、次の家事などは主にどなたが担っていますか。（〇はそれぞれ1つ）

前回比較

- 前回調査と比較すると、「妻」について、「生活費を稼ぐ」を除いて前回調査より低くなっています。なかでも、「食事の後かたづけ・食器洗い」が11.0ポイント、「自治会などの活動・近所づきあい」が10.1ポイント、それぞれ前回調査より低くなっています。一方で、「夫」について、「生活費を稼ぐ」で10.5ポイント、前回調査より低くなっていますが、他方で「ゴミ出し」で7.9ポイント、前回調査より高くなっています。さらに、「夫婦とも同じくらい」について、「ゴミ出し」と「自治会などの活動・近所づきあい」を除いて、前回調査より高くなっています。

図表 156 家庭での役割分担（前回比較）

		食 事 の 支 度	食 事 の 後 か た づ け ・ 食 器 洗 い	ゴ ミ 出 し	掃 除	洗 濯	食 料 品 ・ 日 用 品 の 買 い	生 活 費 を 稼 ぐ	家 計 の 管 理	(%) 自 治 会 な ど の 活 動 ・ 近 所 づ き あ い
妻	令和2年(n=852)	81.9	65.0	37.7	64.0	78.1	58.9	2.9	67.6	35.6
	平成26年(n=1,081)	87.8	76.0	44.9	68.5	81.3	66.1	2.7	70.1	45.7
	差	-5.9	-11.0	-7.2	-4.5	-3.2	-7.2	0.2	-2.5	-10.1
夫	令和2年(n=852)	3.3	10.2	40.7	6.5	4.1	5.9	59.7	14.2	19.4
	平成26年(n=1,081)	2.1	5.9	32.8	6.4	4.8	3.4	70.2	13.6	17.1
	差	1.2	4.3	7.9	0.1	-0.7	2.5	-10.5	0.6	2.3
夫婦 同 じ	令和2年(n=852)	10.0	17.3	15.0	21.4	13.4	28.6	21.2	13.1	29.1
	平成26年(n=1,081)	6.5	12.8	15.3	20.3	9.5	24.1	18.5	12.4	31.4
	差	3.5	4.5	-0.3	1.1	3.9	4.5	2.7	0.7	-2.3

問 育児や家族介護を行うため、法律に基づき育児休業・子の看護休暇・介護休業・介護休暇を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して男性が休業や休暇を取得することについてどう思いますか。（○はそれぞれ1つ）

前回比較

- 前回調査と比較すると、いずれの項目も「取得したほうが良い」が前回調査より10ポイント前後高くなっており、なかでも「②子の看護休暇」では12.8ポイント高くなっています。

図表 157 男性の育児休業等取得（前回比較）

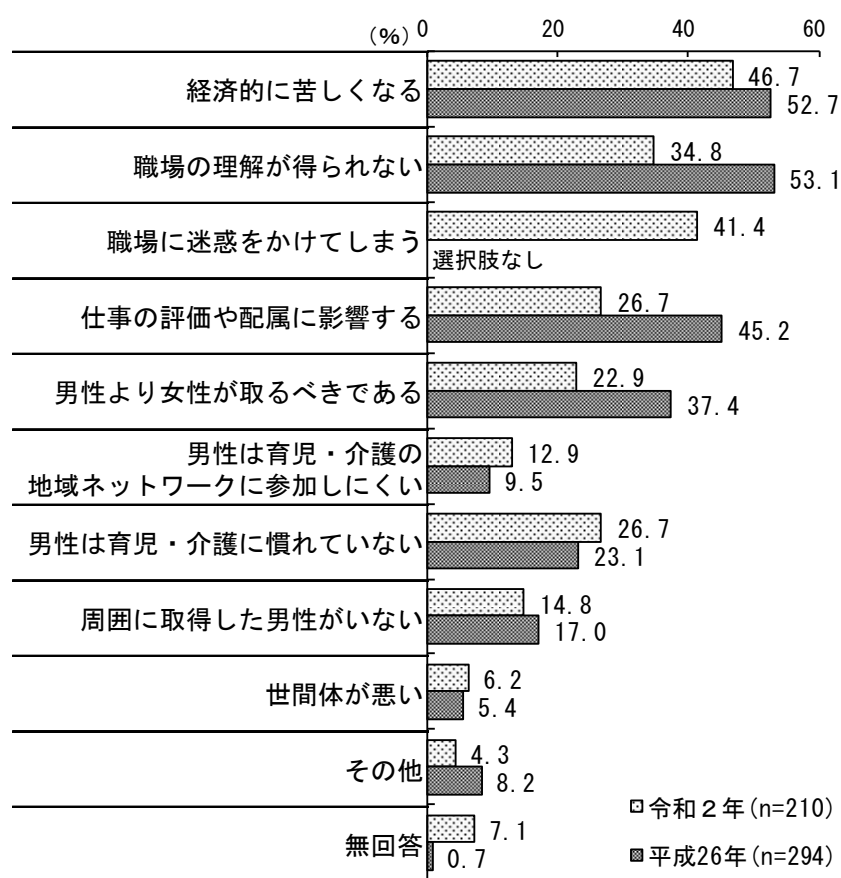
		(%)				
		良取得したほうが	良取得どちらかほうがい	良取得どちらでもないほうがい	良取得しないほうが	無回答
①育児休業	令和2年(n=1,145)	41.9	39.5	10.8	3.5	4.3
	平成26年(n=1,081)	30.4	41.4	17.8	4.8	5.6
	差	11.5	-1.9	-7.0	-1.3	-1.3
②子の看護休暇	令和2年(n=1,145)	43.5	41.4	7.2	2	5.9
	平成26年(n=1,081)	30.7	47.5	11.7	2.6	7.6
	差	12.8	-6.1	-4.5	-0.6	-1.7
③介護休業	令和2年(n=1,145)	42.7	39.3	10	1.6	6.5
	平成26年(n=1,081)	30.9	43.5	15.0	3.2	7.4
	差	11.8	-4.2	-5.0	-1.6	-0.9
④介護休暇	令和2年(n=1,145)	44.5	40.3	7.1	1.1	6.9
	平成26年(n=1,081)	35.3	45.8	10.5	1.8	6.7
	差	9.2	-5.5	-3.4	-0.7	0.2

問 16 で 1 つでも「どちらかといえば取得しないほうが良い」、「取得しないほうが良い」と答えた方
問 その理由は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

前回比較

- 前回調査と比較すると、「男性は育児・介護の地域ネットワークに参加しにくい」「男性は育児・介護に慣れていない」「世間体が悪い」を除いて、前回調査より低くなっています。なかでも、「仕事の評価や配属に影響する」が 18.5 ポイント、「職場の理解が得られない」が 18.3 ポイント、「男性より女性を取るべきである」が 14.5 ポイント、それぞれ前回調査より低くなっています。

図表 158 男性は育児休暇等を取得しないほうが良いと考える理由（前回比較）

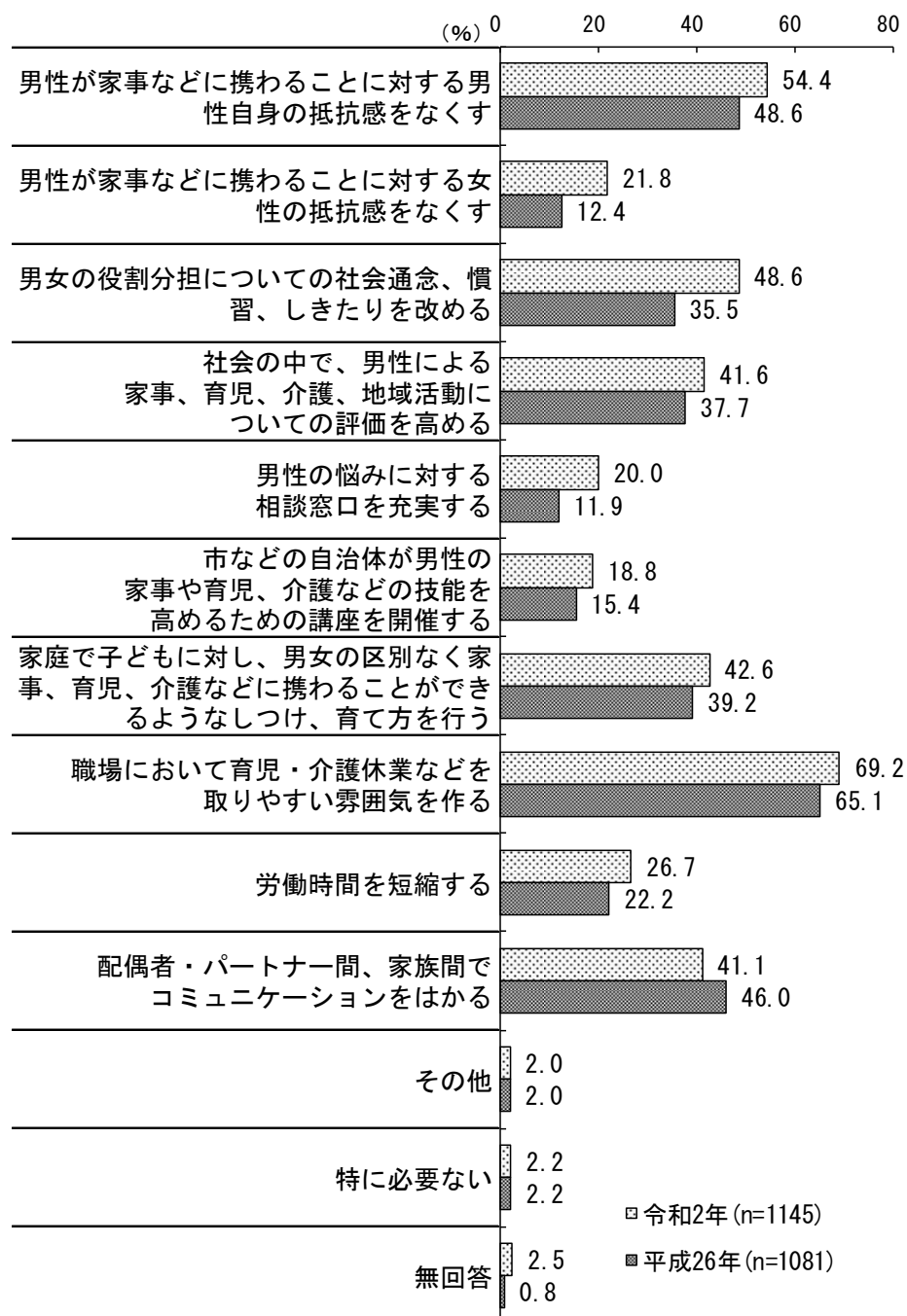


問 男性がこれまで以上に家事・育児・介護に携わるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

前回比較

- 前回調査と比較すると、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」が13.1ポイント、「男性が家事などに携わることにに対する女性の抵抗感をなくす」が9.4ポイント、前回調査より高くなっています。

図表 159 男性がこれまで以上に家事等に携わるために必要なこと（前回比較）



問 あなたの中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味など）」の優先度についてお聞きします。

あなたの理想の優先度に最も当てはまるものをお答えください。（○は1つ）

あなたの現状の生活に最も当てはまるものをお答えください。（○は1つ）

前回比較

- 前回調査と比較すると、理想について特に大きな差はなく、ともに『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』全てを大切にしたい」が最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」となっています。同様に、現状についても特に大きな差はなく、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が最も高く、次いで『家庭生活』を優先している」となっています。

図表 160 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度（前回比較）

		(%)									
		を「仕事」と「地域・個人の生活」を大切にしたい人	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい人	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい人	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい人	「仕事」を優先したい人	「家庭生活」を優先したい人	「地域・個人の生活」を優先したい人	その他	わからない	無回答
理想	令和2年(n=1,145)	35.8	24.6	2.6	12.5	2.0	15.2	2.0	0.4	3.7	1.1
	平成26年(n=1,081)	35.4	27.2	2.5	13.6	1.6	13.8	2.3	0.6	1.9	1.2
	差	0.4	-2.6	0.1	-1.1	0.4	1.4	-0.3	-0.2	1.8	-0.1
現状	令和2年(n=1,145)	17.4	22.7	2.7	12.9	12.9	22.1	3.3	0.6	3.9	1.4
	平成26年(n=1,081)	15.5	22.6	3.1	15.2	14.0	21.0	3.1	0.6	3.8	1.1
	差	1.9	0.1	-0.4	-2.3	-1.1	1.1	0.2	0.0	0.1	0.3

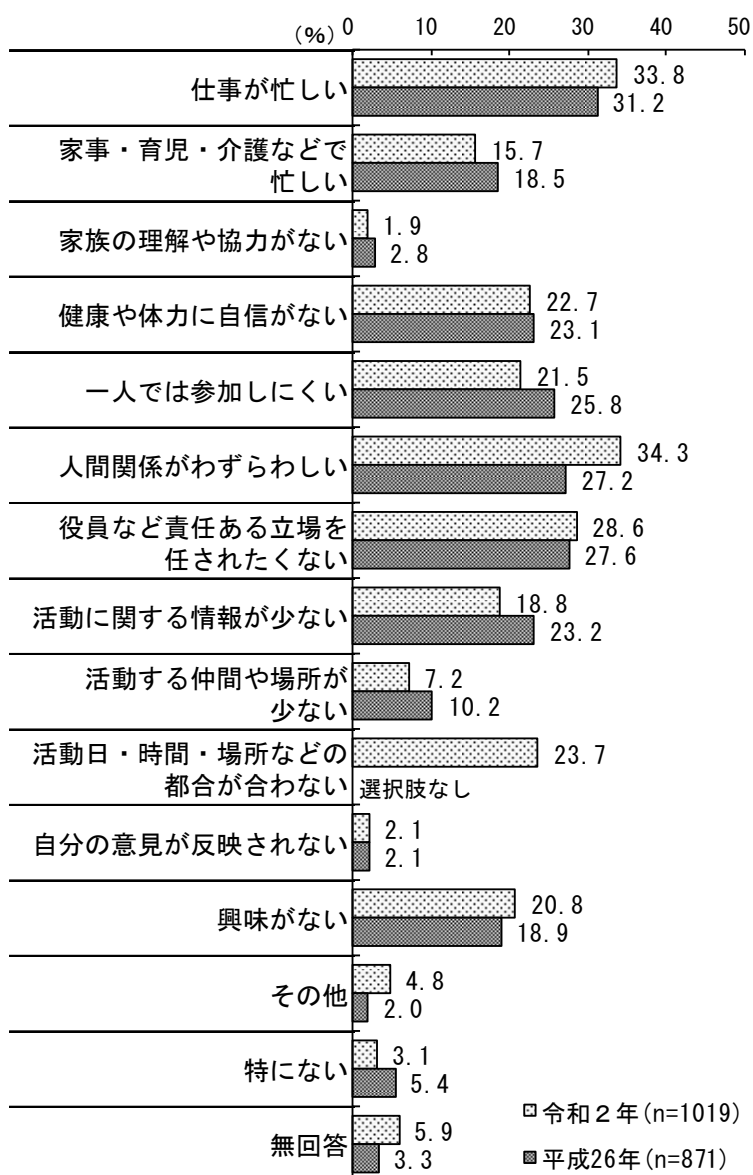
※問 20 で 1 つでも「今後は参加したくない」「今後は参加したい」「今後も参加したくない」と答えた方

問 (地域活動等に)これまで参加したことがない理由、今後参加したくない理由は何ですか。
(○は1つ)

前回比較

- 前回調査と比較すると、「人間関係がわずらわしい」で 7.1 ポイント、前回調査より高くなっていますが、他方で「活動に関する情報が少ない」で 4.4 ポイント、「一人では参加しにくい」で 4.3 ポイント、それぞれ前回調査より低くなっています。

図表 161 これまで参加したことがない、今後参加したくない理由 (前回比較)



※問 27 で 1 つでも「何度もあった」、「1、2 度あった」と答えた方

問 （配偶者等から暴力を受けた際）あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○は 1 つ）

前回比較

- 前回調査と比較すると、「した」で 14.9 ポイント、「していない」で 6.7 ポイント、それぞれ前回調査より高くなっています。

図表 162 被害相談の有無（前回比較）

	(%)		
	した	い し な て い	無 回 答
令和 2 年 (n=272)	33.8	55.5	10.7
平成 26 年 (n=254)	18.9	48.8	32.3
差	14.9	6.7	-21.6

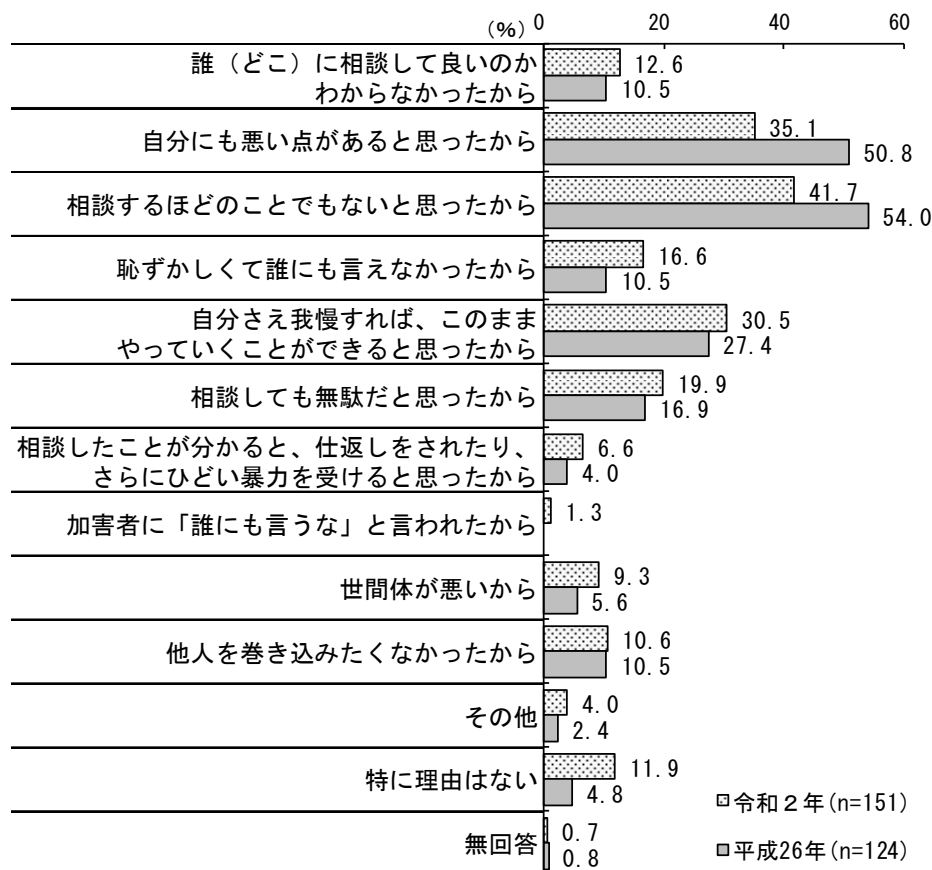
※問 27-1 で「していない」と答えた方

問 誰（どこ）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。
（当てはまるもの全てに○）

前回比較

- 前回調査と比較すると、「自分にも悪い点があると思ったから」（15.7 ポイント差）、「相談するほどのことでもないと思ったから」（12.3 ポイント差）を除いて、それぞれ前回調査より高くなっています。

図表 163 相談しなかった（できなかった）理由（前回比較）



問 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。
(○はそれぞれ1つ)

前回比較

- 前回調査と比較すると、“知っている”について、「ジェンダー（社会的・文化的性別）」で 31.4 ポイント、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で 11.6 ポイント、それぞれ前回調査より高くなっています。一方で、「言葉も内容も知らない」について、「配偶者暴力防止法（DV防止法）」で 6.3 ポイント、「男女共同参画社会基本法」で 5.3 ポイント、それぞれ前回調査より高くなっています。また、同じく「言葉も内容も知らない」について、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」が 80.2%、「ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）」が 76.1%と、前回調査と変わらず高くなっています。

図表 164 男女共同参画社会関連用語の認知度（前回比較）

		(%)							
		基本法 男女共同参画社会	均等法 男女雇用機会	配偶者暴力防止法 (DV防止法)	育児・介護休業法	※2 リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	格差是正措置 (積極的)	性別 社会的・文化的	ジェンダー 生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)
“知っている” ※1	令和2年 (n=852)	47.2	85.1	76.5	82.3	15.0	18.5	64.5	59.3
	平成26年 (n=1,081)	51.5	86.6	81.0	83.6	12.8	16.8	33.1	47.7
	差	-4.3	-1.5	-4.5	-1.3	2.2	1.7	31.4	11.6
言葉も内容も知らない	令和2年 (n=852)	46.9	9.3	18.4	12.7	80.2	76.1	30.0	35.5
	平成26年 (n=1,081)	41.6	6.9	12.1	9.3	79.8	75.9	59.6	45.1
	差	5.3	2.4	6.3	3.4	0.4	0.2	-29.6	-9.6

※1 「言葉も内容も知っている」＋「言葉だけは知っている」

※2 性と生殖に関する健康／権利

V 学生 調査結果の概要

2 学校生活について

- 「道具運びなど力のいる仕事は男子に向いている」については“概ねそう思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）”（中学生：69.9%、小学生：77.5%）

3 普段の生活について

- 「男／女だから〇〇しなさい」と“言われる（「よく言われる」＋「ときどき言われる」＋「言われる」）”（中学生：32.7%、小学生：34.1%）
- 「男／女だから〇〇しなさい」と言われた場面は、「言葉づかいが悪いとき」（中学生：49.7%、小学生：41.6%）、「服装・身だしなみが悪いとき」（中学生：41.6%、小学生：30.0%）、「行儀が悪いとき」（中学生：39.9%、小学生：40.5%）
- 「男／女だから〇〇しなさい」と言われた時、「嫌な気分だった」（中学生 45.7%、小学生：36.6%）
- 「男／女だから〇〇しなさい」と言ってきたのは「母親」（中学生：81.7%、小学生 80.8%）
- “している（「よくしている」＋「時々している」）” 手伝いは「食事の後かたづけ」（中学生：83.4%、小学生：82.2%）
- 理想の家事分担として、「母親」は「食事を作る」（中学生：76.2%、小学生：75.6%）、「父親」は「お金を稼ぐ」（中学生：73.5%、小学生：74.3%）、「家族全員」は「食事の後かたづけ」（中学生：58.3%、小学生：45.0%）と「掃除」（中学生：58.5%、小学生 43.4%）

4 仕事・将来について

- 希望する進路は「4年制大学まで」（中学生：31.0%）と「まだ決めていない」（中学生：28.5%）
- 父親が働き、母親が家事をする家庭については「良いと思う」（中学生：41.3%、小学生：36.7%）と「普通だと思う」（中学生：36.6%、小学生：38.3%）
- 母親が働き、父親が家事をする家庭については「良いと思う」（中学生：33.2%）と「おかしい（変だ）と思う」（小学生：25.4%）
- 固定的な性別役割分担意識について、“そう思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）”（中学生：25.3%、小学生：44.5%），“そう思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）”（中学生：59.5%、小学生：38.8%）
- 女性が仕事を持つことについては「子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い」（中学生：34.7%、小学生：35.9%）
- 男性が仕事を持つことについては「結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い」（中学生：73.3%、小学生：72.6%）
- 将来つきたい仕事は「会社員」（中学生：9.2%）と「YouTuber などの動画投稿者」（小学生：7.7%）
- 職業選択の際に「とても大切」に思うポイントは「安定して長く勤められる」（中学生：76.3%）と「自分の特技・好きなことが活かせる」（中学生：69.4%）

5 性別・男女の平等意識について

- 自分の出生時の性別について「良かったと思っている」（中学生：53.1%、小学生：62.7%）、「反対なら良かったと思っている」（中学生：8.4%、小学生：7.9%）
- 出生時の性別と異なる性別が良かったと思う理由は「『男らしく』または『女らしく』するのがいやだから」（中学生：35.3%、小学生：32.4%）
- 「家庭で」の男女の地位は「平等」（中学生：66.2%）

6 男女共同参画に関する用語について

- 「言葉も内容も知らない」関連用語は「男女共同参画社会基本法」（中学生：72.0%）「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（中学生：65.3%）、「女子差別撤廃条約」（中学生：58.3%）、「LGBT」（中学生：57.1%）、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」（小学生：50.0%）

VI 学生 調査結果

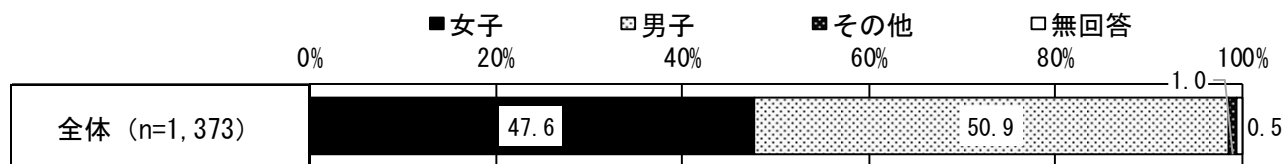
1 あなた自身のことについて

問 あなたの性別を教えてください。（○は1つ）

中学2年生

- 「女子」が47.6%、「男子」が50.9%、「その他」が1.0%となっています。

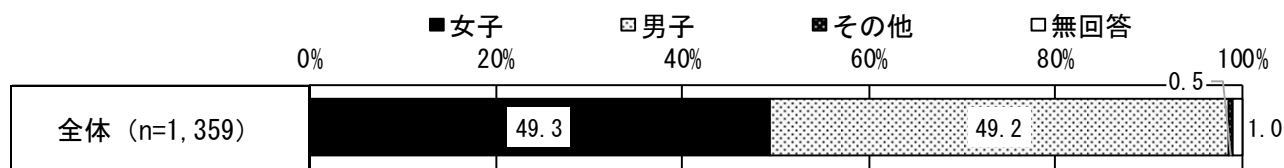
図表 165 【中学2年生】性別



小学5年生

- 「女子」が49.3%、「男子」が49.2%、「その他」が0.5%となっています。

図表 166 【小学5年生】性別

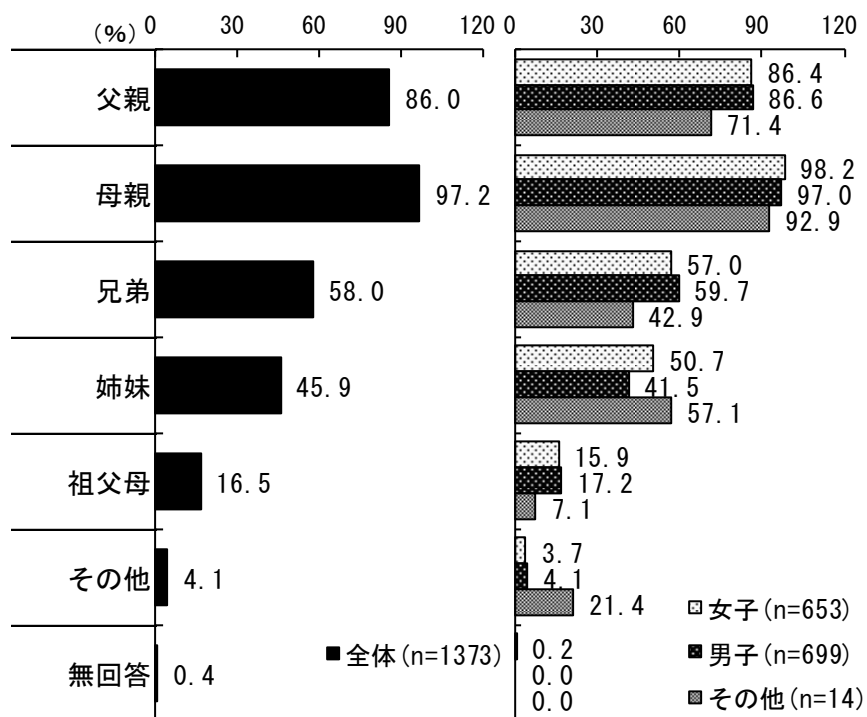


問 あなたは、だれと一緒に住んでいますか。（あてはまる人全てに○）

中学2年生

- 「母親」が97.2%と最も高く、次いで「父親」（86.0%）、「兄弟」（58.0%）、「姉妹」（45.9%）となっています。
- 性別では、女子で「姉妹」が50.7%と、男子より9.2ポイント高くなっています。

図表 167 【中学2年生】同居している家族（性別）



【中学2年生】その他意見

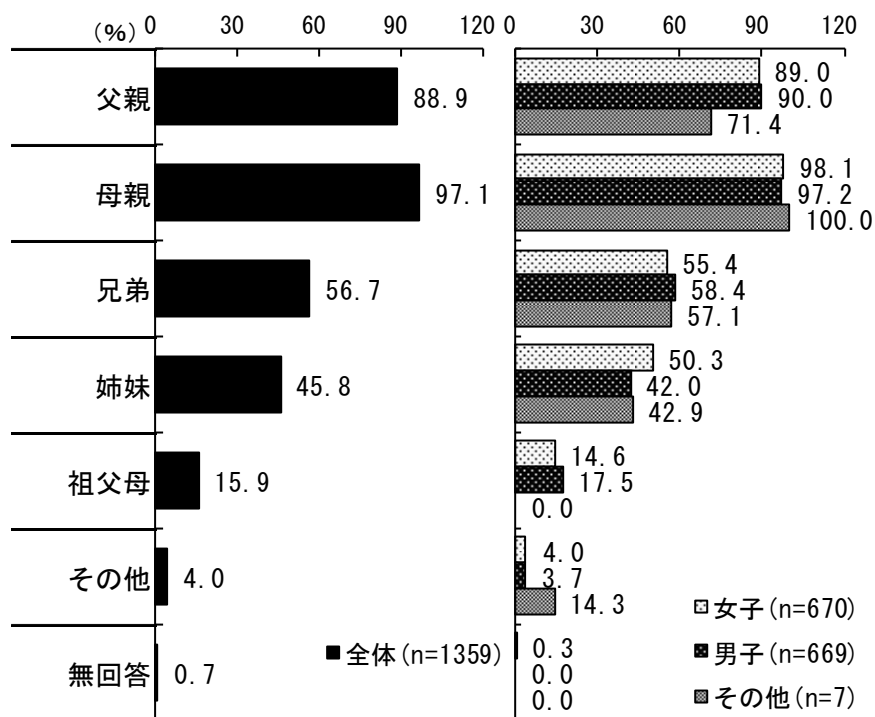
- ペット（犬、猫、ハムスター、インコなど）
- ひいおばあちゃん
- おじさん

など

小学5年生

- 「母親」が97.1%と最も高く、次いで「父親」(88.9%)、「兄弟」(56.7%)、「姉妹」(45.8%)となっています。
- 性別では、女子で「姉妹」が50.3%と、男子より8.3ポイント高くなっています。

図表 168 【小学5年生】同居している家族（性別）



【小学5年生】その他意見

- ペット（犬、猫、ハムスター、うさぎなど）
- ひいおばあちゃん、ひいおじいちゃん
- いとこ
- おじさん、おばさん

など

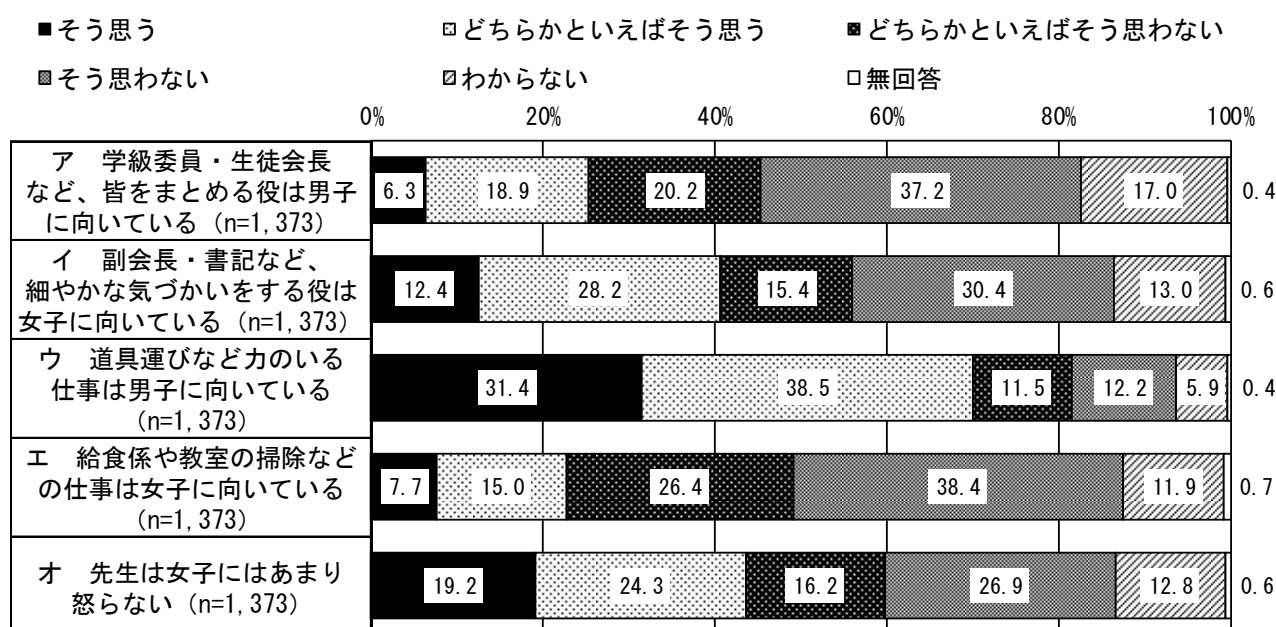
2 学校生活について

問 普段の学校での生活で、次のようなことを思うときがありますか。(〇はそれぞれ1つ)

中学2年生

- “概ねそう思う(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)”をみると、「ウ 道具運びなど力のいる仕事は男子に向いている」が69.9%と最も高く、次いで「オ 先生は女子にはあまり怒らない」(43.5%)となっています。
- “概ねそう思わない(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)”をみると、「エ 給食係や教室の掃除などの仕事は女子に向いている」が64.8%と最も高く、次いで「ア 学級委員・生徒会長など、皆をまとめる役は男子に向いている」(57.4%)となっています。

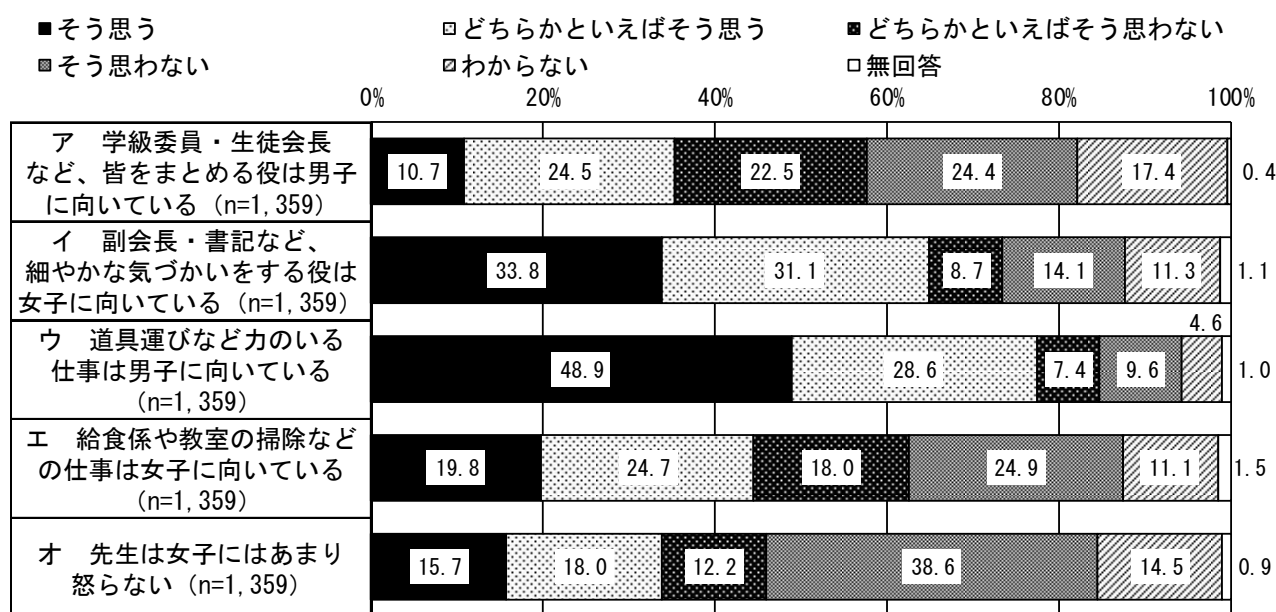
図表 169 【中学2年生】学校生活について



小学5年生

- “概ねそう思う（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）”をみると、「ウ 道具運びなど力のいる仕事は男子に向いている」が77.5%と最も高く、次いで「イ 副会長・書記など、細やかな気づかいをする役は女子に向いている」（64.9%）となっています。
- “概ねそう思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）”をみると、「オ 先生は女子にはあまり怒らない」が50.8%と最も高く、次いで「ア 学級委員・生徒会長など、皆をまとめる役は男子に向いている」（46.9%）、「エ 給食係や教室の掃除などの仕事は女子に向いている」（42.9%）となっています。

図表 170 【小学5年生】学校生活について

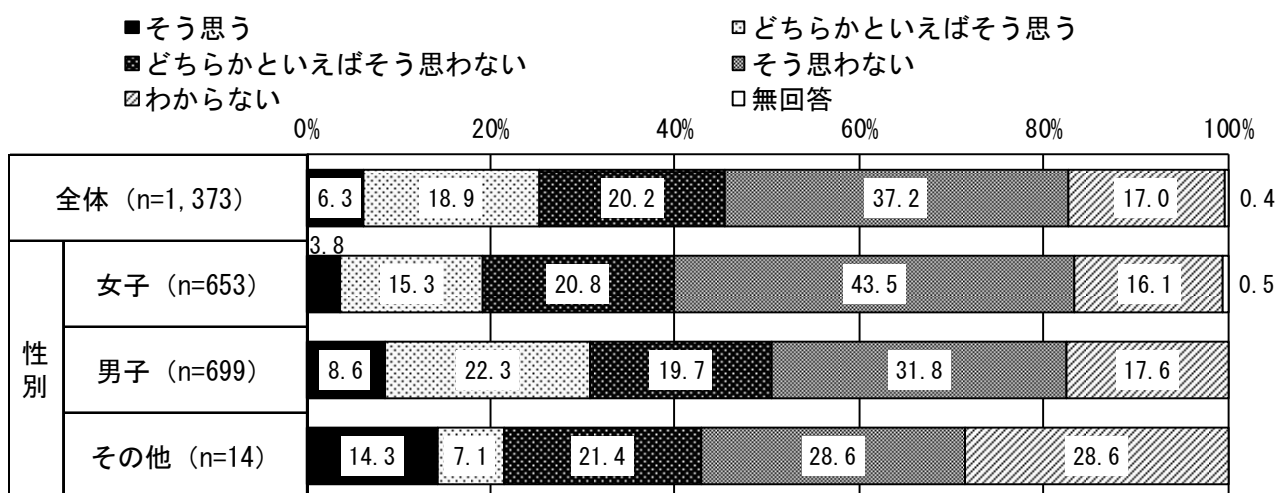


ア 学級委員・生徒会長など、皆をまとめる役は男子に向いている

中学2年生

- 「そう思わない」が 37.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」(20.2%)、「どちらかといえばそう思う」(18.9%) となっています。
- 性別では、男子で“概ねそう思う”が 30.9%と、女子より 11.8 ポイント高くなっています。一方で、女子で「そう思わない」が 43.5%と、男子より 11.7 ポイント高くなっています。

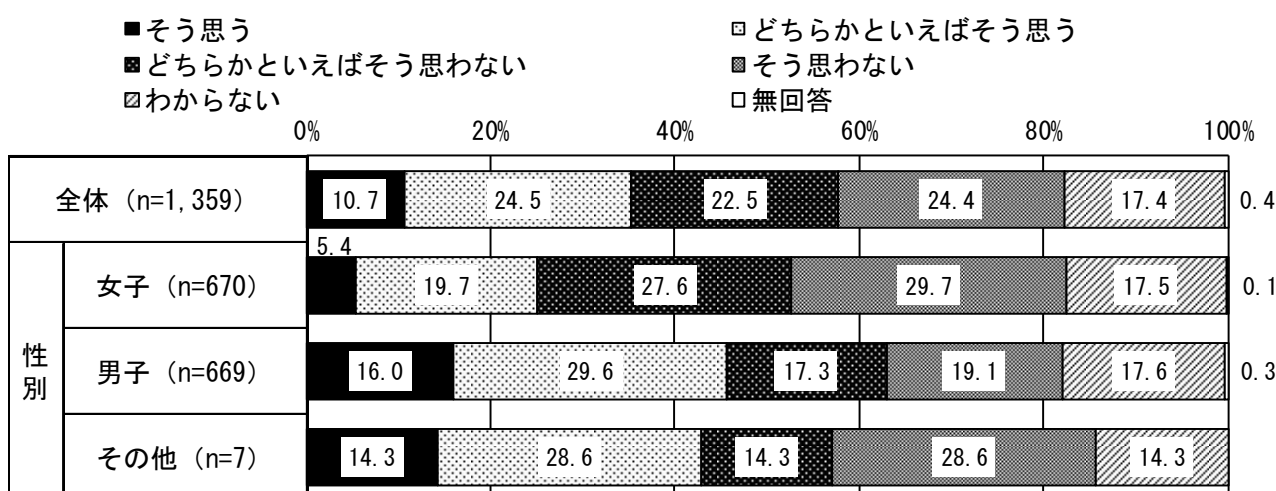
図表 171 【中学2年生】ア 学級委員・生徒会長など、皆をまとめる役は男子に向いている（性別）



小学5年生

- 「どちらかといえばそう思う」が 24.5%と最も高く、次いで「そう思わない」(24.4%)、「どちらかといえばそう思わない」(22.5%) となっています。
- 性別では、女子で“概ねそう思わない”が 57.3%と、男子より 20.9 ポイント高くなっています。一方で、男子で“概ねそう思う”が 45.6%と、女子より 20.5 ポイント高くなっています。

図表 172 【小学5年生】ア 学級委員・生徒会長など、皆をまとめる役は男子に向いている（性別）

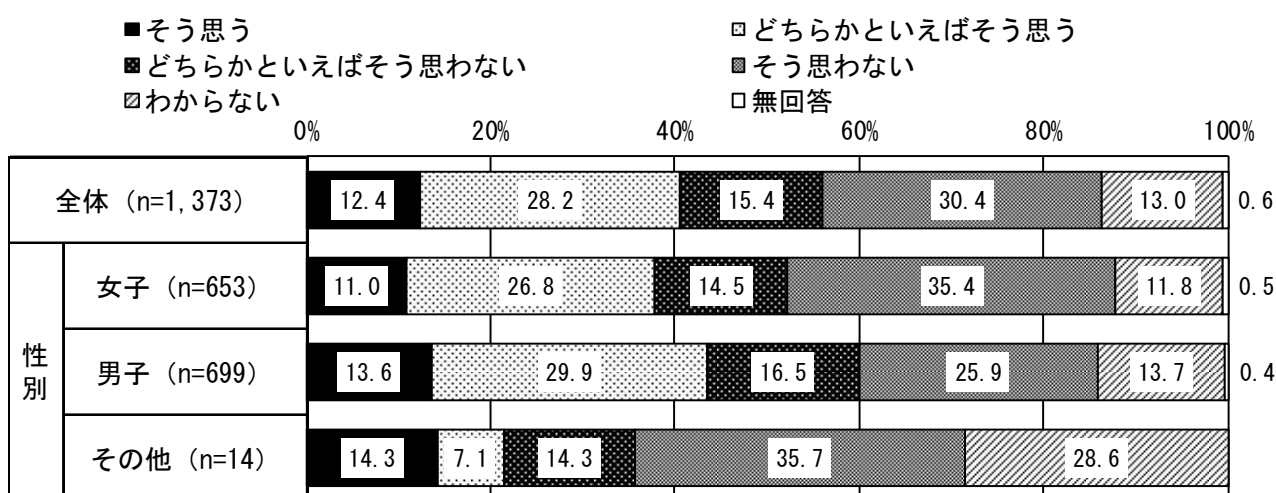


イ 副会長・書記など、細やかな気づかいをする役は女子に向いている

中学2年生

- 「そう思う」が 30.4%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(28.2%)となっています。
- 性別では、女子で「そう思う」が 35.4%と、男子より 9.5 ポイント高くなっています。一方で、男子で“概ねそう思う”が 43.5%と、女子より 5.7 ポイント高くなっています。

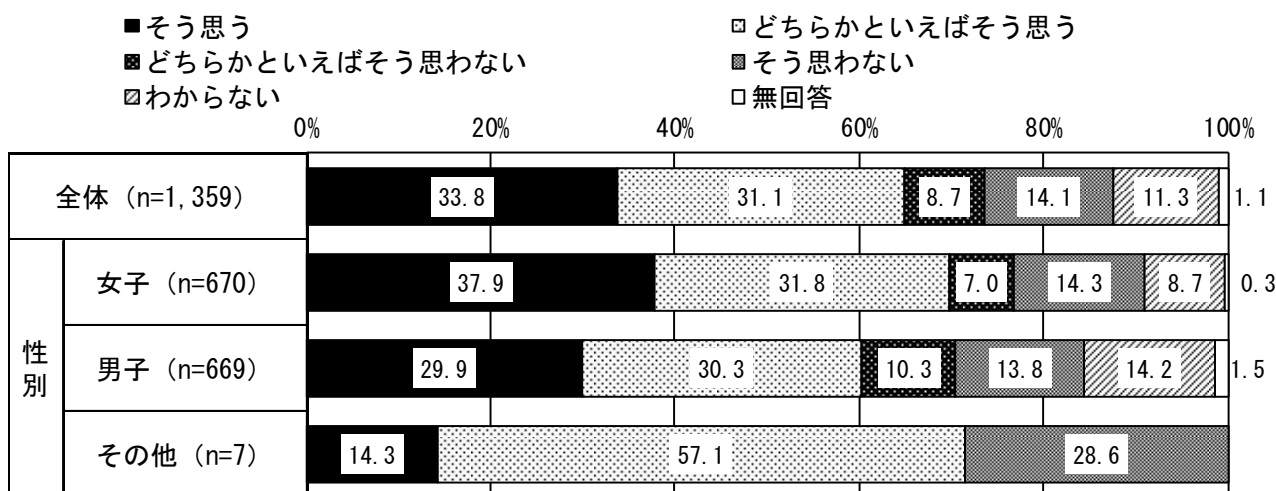
図表 173 【中学2年生】イ 副会長・書記など、細やかな気づかいをする役は女子に向いている（性別）



小学5年生

- 「そう思う」が 33.8%と最も高く、次いで「どちらかと言えばそう思う」(31.1%)となっています。
- 性別では、女子で「そう思う」が 37.9%と、男子より 8.0 ポイント高くなっています。一方で、男子で「わからない」が 14.2%と、女子より 5.5 ポイント高くなっています。

図表 174 【小学5年生】イ 副会長・書記など、細やかな気づかいをする役は女子に向いている（性別）

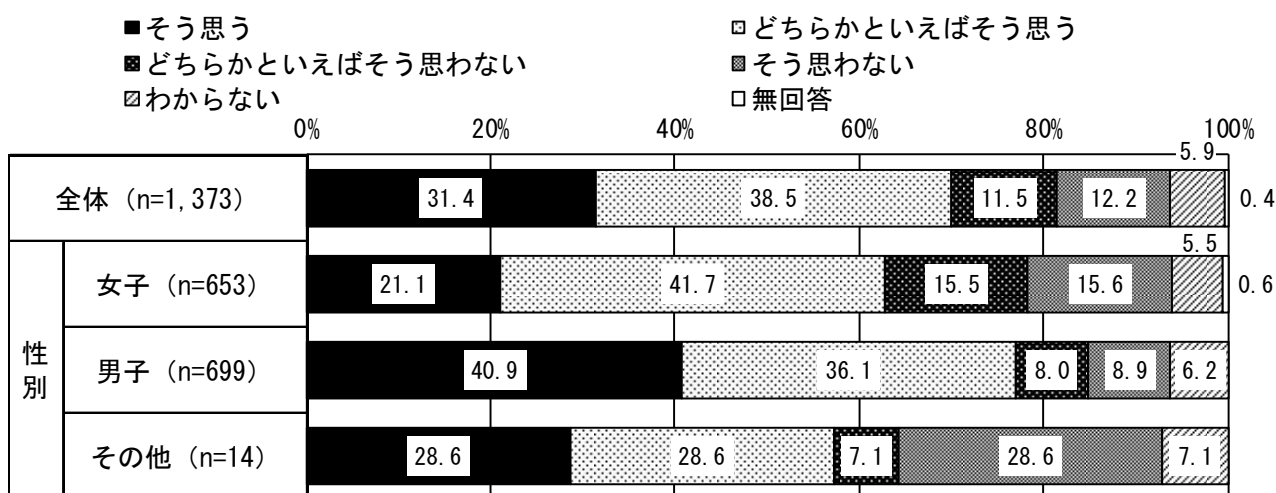


ウ 道具運びなど力のいる仕事は男子に向いている

中学2年生

- 「どちらかといえばそう思う」が38.5%と最も高く、次いで「そう思う」(31.4%)となっています。
- 性別では、男子で「そう思う」が40.9%と、女子より19.8ポイント高くなっています。一方で、女子で“概ねそう思わない”が31.1%と、男子より14.2ポイント高くなっています。

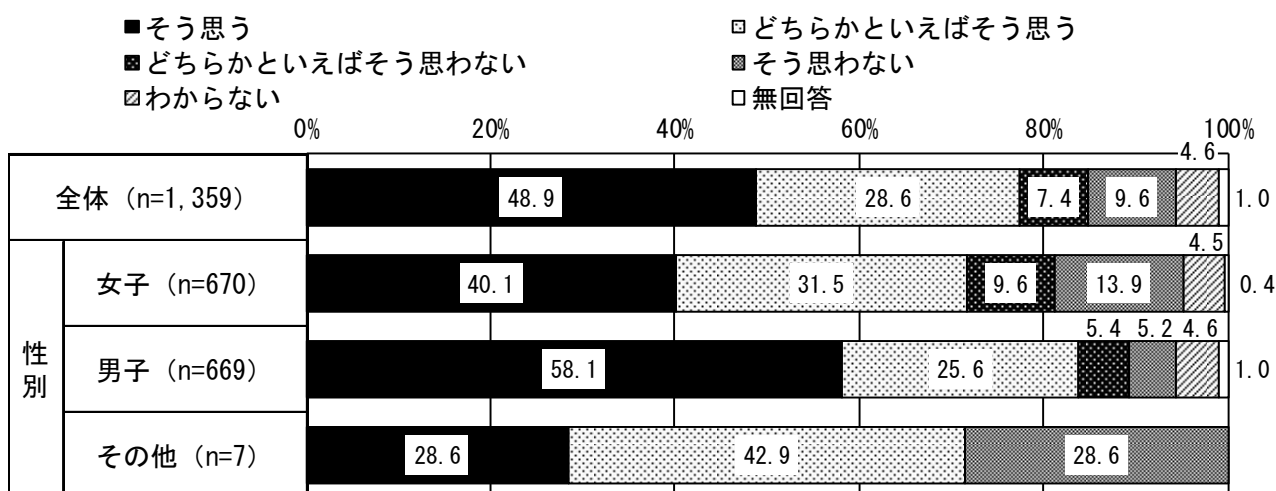
図表 175 【中学2年生】ウ 道具運びなど力のいる仕事は男子に向いている（性別）



小学5年生

- 「そう思う」が48.9%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(28.6%)となっています。
- 性別では、男子で「そう思う」が58.1%と、女子より18.0ポイント高くなっています。一方で、女子で「そう思わない」が8.7ポイント、「どちらかといえばそう思う」が5.9ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

図表 176 【小学5年生】ウ 道具運びなど力のいる仕事は男子に向いている（性別）

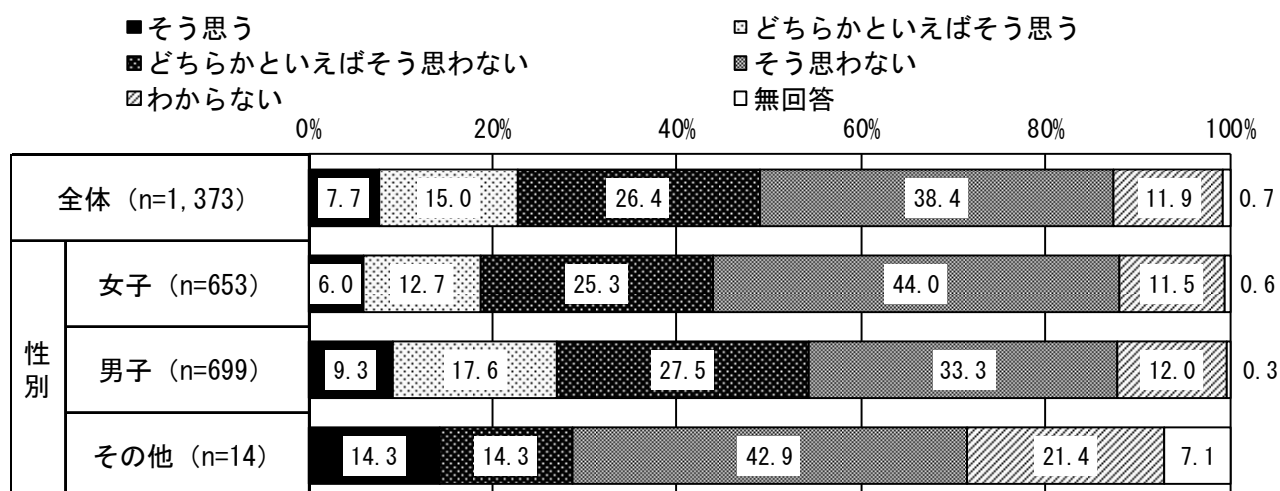


エ 給食係や教室の掃除などの仕事は女子に向いている

中学2年生

- 「そう思わない」が 38.4%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」(26.4%) となっています。
- 性別では、女子で「そう思わない」が 44.0%と、男子より 10.7 ポイント高くなっています。一方で、男子で「どちらかといえばそう思う」が 17.6%と、女子より 4.9 ポイント高くなっています。

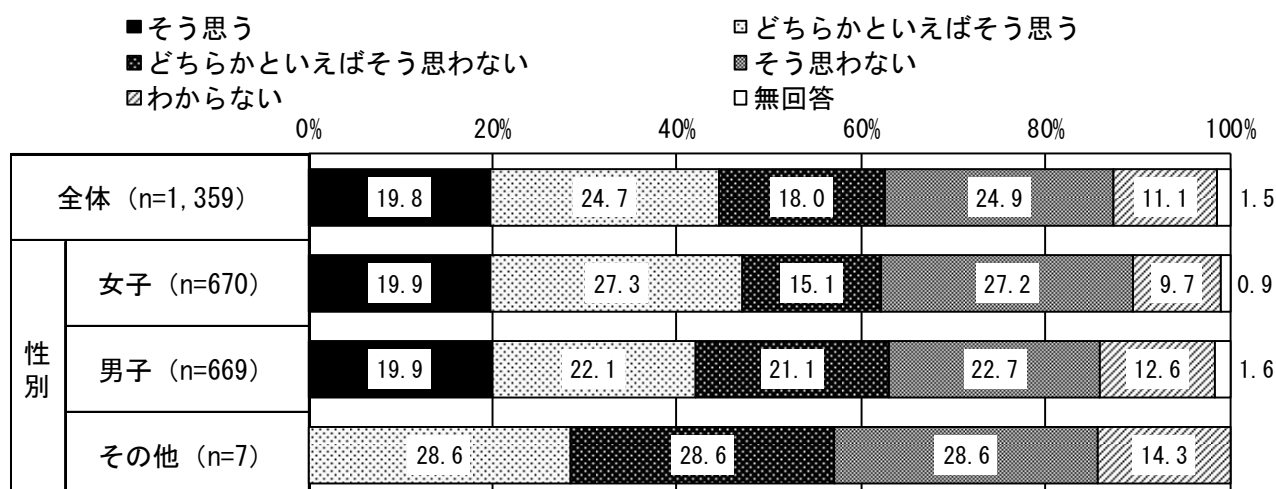
図表 177 【中学2年生】エ 給食係や教室の掃除などの仕事は女子に向いている（性別）



小学5年生

- 「そう思わない」が 24.9%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(24.7%) となっています。
- 性別では、男子で「どちらかといえばそう思わない」が 21.1%と、女子より 6.0 ポイント高くなっています。一方で、女子で「どちらかといえばそう思う」が 27.3%と、男子より 5.2 ポイント高くなっています。

図表 178 【小学5年生】エ 給食係や教室の掃除などの仕事は女子に向いている（性別）

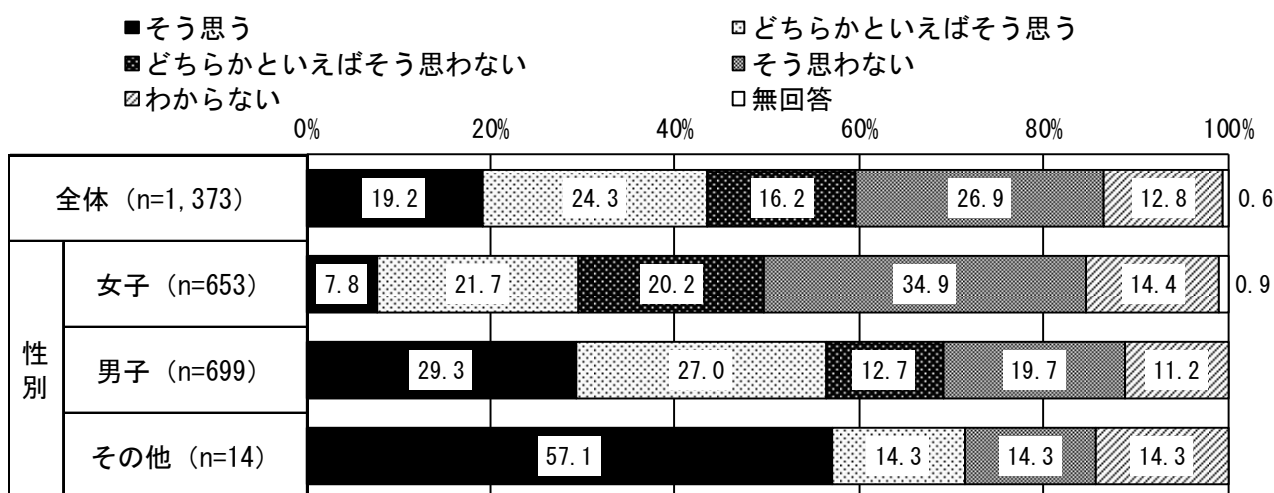


オ 先生は女子にはあまり怒らない

中学2年生

- 「そう思わない」が 26.9%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(24.3%)となっています。
- 性別では、男子で「そう思う」が 29.3%と、女子より 21.5 ポイント高くなっています。一方で、女子で「そう思わない」が 34.9%と、男子より 15.2 ポイント高くなっています。

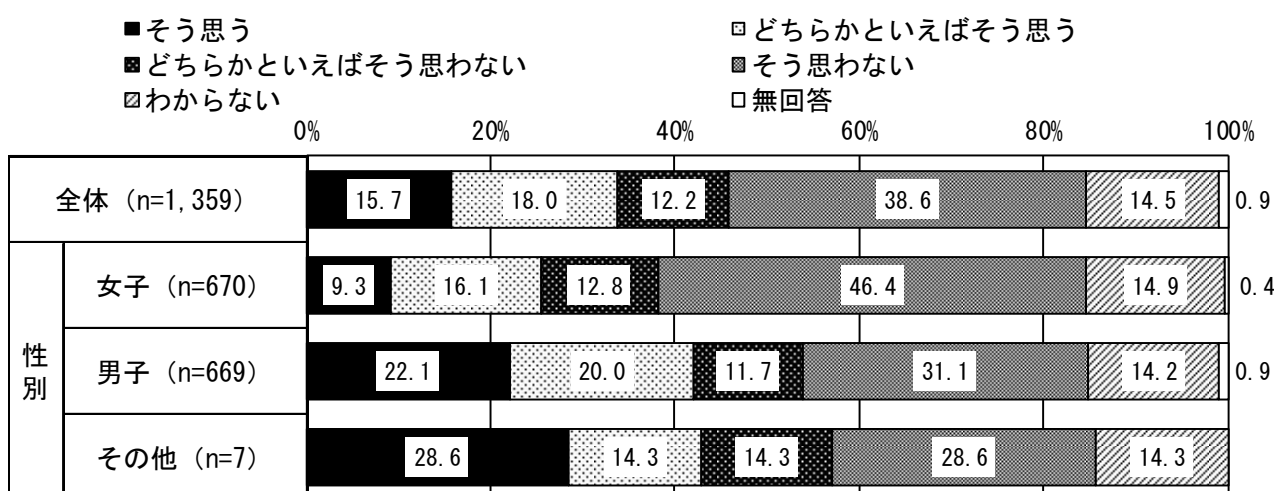
図表 179 【中学2年生】オ 先生は女子にはあまり怒らない（性別）



小学5年生

- 「そう思わない」が 38.6%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(18.0%)となっています。
- 性別では、女子で「そう思わない」が 46.4%と、男子より 15.3 ポイント高くなっています。一方で、男子で「そう思う」が 22.1%と、女子より 12.8 ポイント高くなっています。

図表 180 【小学5年生】オ 先生は女子にはあまり怒らない（性別）



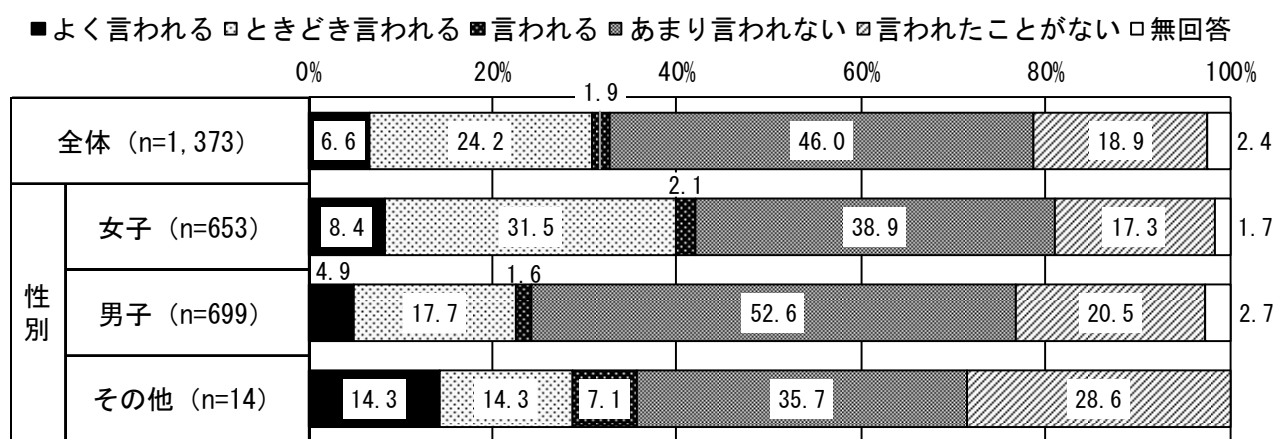
3 普段の生活について

問 あなたは、「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。（〇は1つ）

中学2年生

- 「あまり言われない」が46.0%と最も高く、次いで「ときどき言われる」（24.2%）、「言われたことがない」（18.9%）となっています。
- 性別では、女子で「ときどき言われる」が31.5%と、男子より13.8ポイント高くなっています。一方で、男子で「あまり言われない」が52.6%と、女子より13.7ポイント高くなっています。

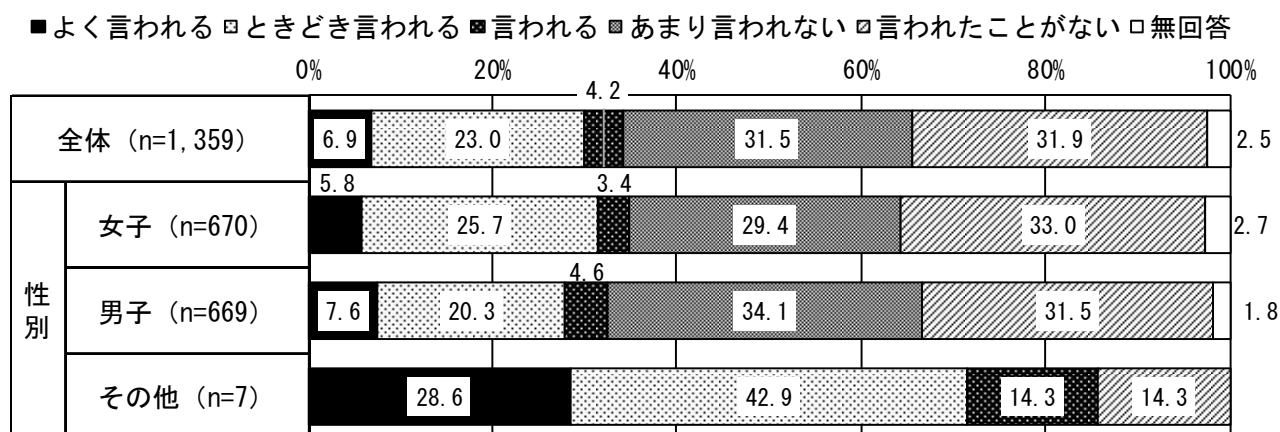
図表 181 【中学2年生】「男／女だから〇〇しなさい」と言われた経験（性別）



小学5年生

- 「言われたことがない」が31.9%と最も高く、「あまり言われない」（31.5%）、「ときどき言われる」（23.0%）となっています。
- 性別では、女子で「ときどき言われる」が25.7%と、男子より5.4ポイント高くなっています。一方で、男子で「あまり言われない」が34.1%と、女子より4.7ポイント高くなっています。

図表 182 【小学5年生】「男／女だから〇〇しなさい」と言われた経験（性別）

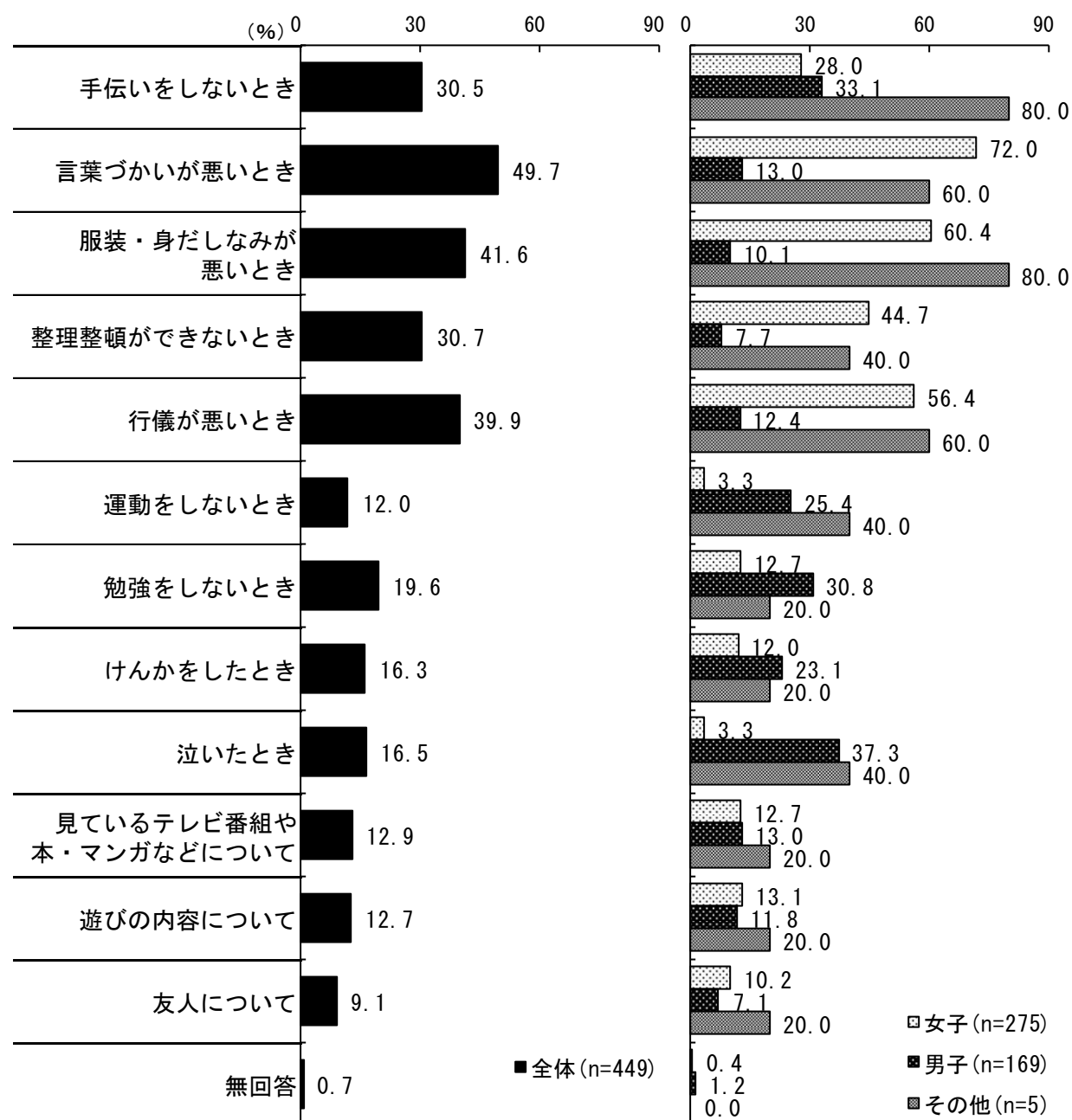


問 どんなことで言われましたか。（当てはまるもの全てに○）

中学2年生

- 「言葉づかいが悪いとき」が 49.7%と最も高く、次いで「服装・身だしなみが悪いとき」(41.6%)、「行儀が悪いとき」(39.9%)、「整理整頓ができないとき」(30.7%)、「手伝いをしないとき」(30.5%)となっています。
- 性別では、女子で「言葉づかいが悪いとき」が 72.0%と最も高く、次いで「服装・身だしなみが悪いとき」(60.4%)、「行儀が悪いとき」(56.4%)、「整理整頓ができないとき」(44.7%)となっています。一方で、男子で「泣いたとき」が 37.3%と最も高く、次いで「手伝いをしないとき」(33.1%)、「勉強をしないとき」(30.8%)、「運動をしないとき」(25.4%)、「けんかをしたとき」(23.1%)となっています。

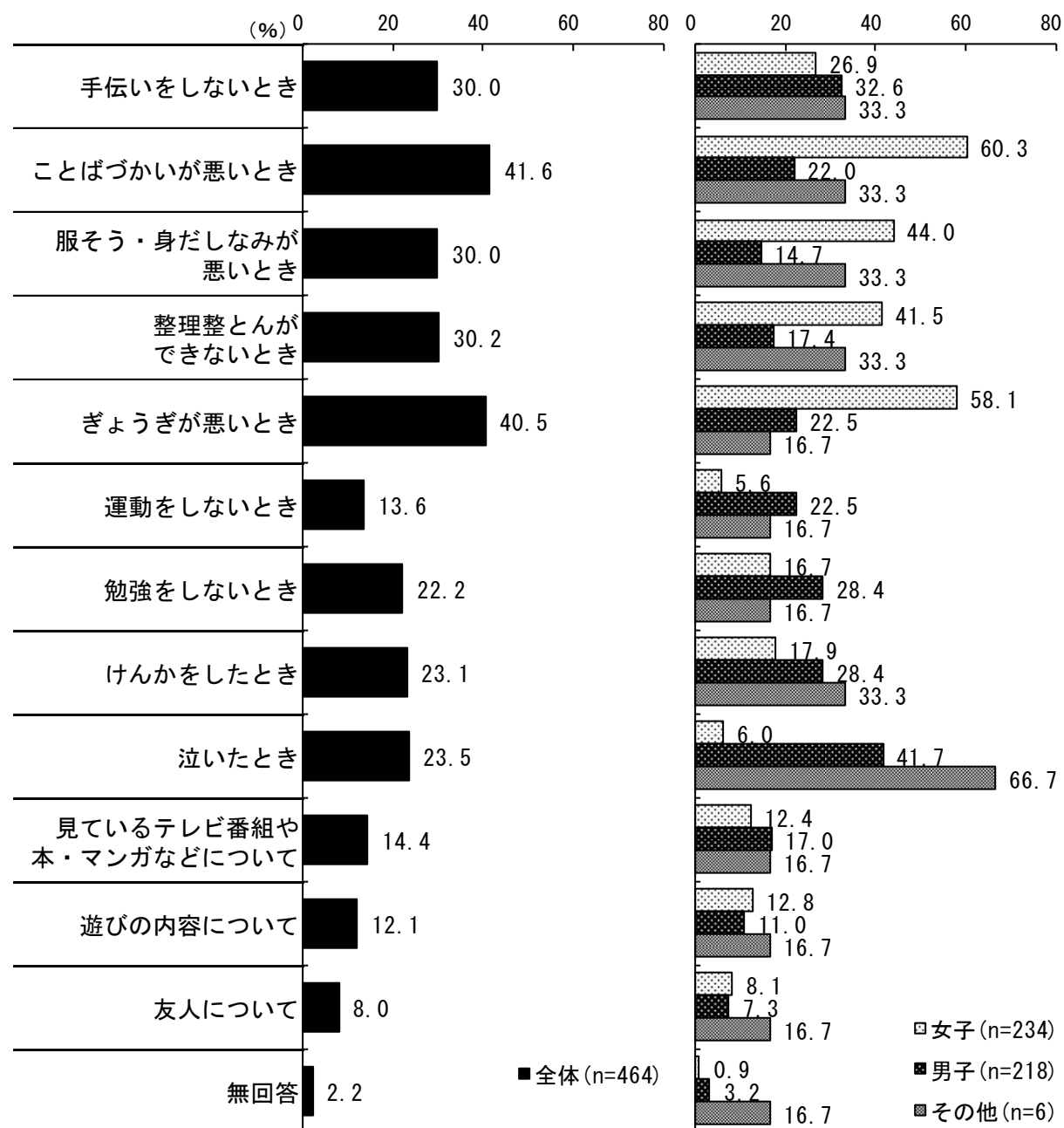
図表 183 【中学2年生】「男／女だから○○しなさい」と言われた場面（性別）



小学5年生

- 「ことばづかいが悪いとき」が 41.6%と最も高く、次いで「ぎょうぎが悪いとき」(40.5%)、「整理整とんができないとき」(30.2%)、「手伝いをしないとき」「服そう・身だしなみが悪いとき」(ともに 30.0%) となっています。
- 性別では、女子で「ことばづかいが悪いとき」が 60.3%と最も高く、次いで「ぎょうぎが悪いとき」(58.1%)、「服そう・身だしなみが悪いとき」(44.0%)、「整理整とんができないとき」(41.5%) となっています。一方で、男子で「泣いたとき」が 41.7%と最も高く、次いで「手伝いをしないとき」(32.6%)、「勉強をしないとき」「けんかをしたとき」(ともに 28.4%) となっています。

図表 184 【小学5年生】「男／女だから〇〇しなさい」と言われた場面（性別）



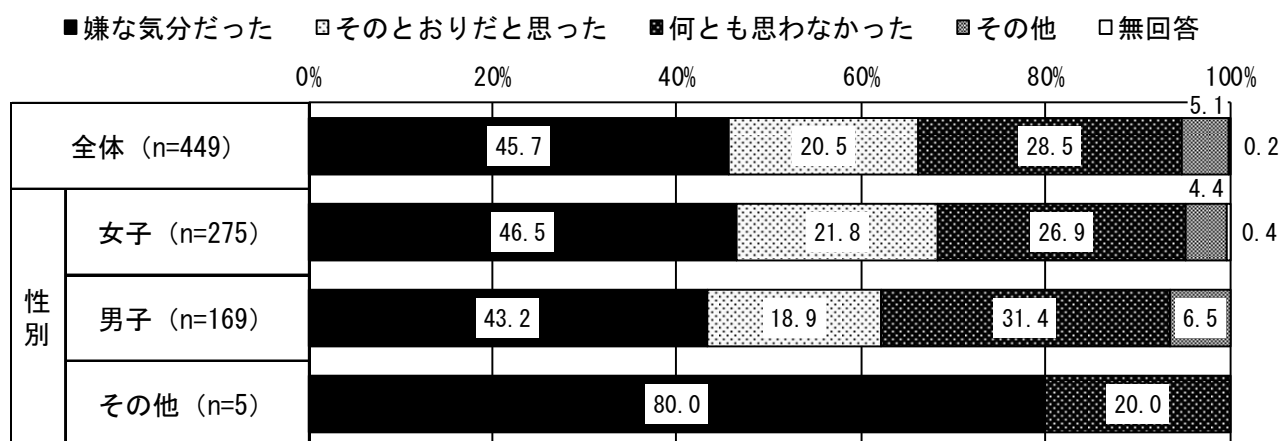
「よく言われる」「ときどき言われる」「言われる」の人

問 その時、どんな気分でしたか。（○は1つ）

中学2年生

- 「嫌な気分だった」が 45.7%と最も高く、次いで「何とも思わなかった」（28.5%）、
「そのとおりだと思った」（20.5%）となっています。
- 性別では、男子で「何とも思わなかった」が 31.4%と、女子より 4.5 ポイント高くなっ
ています。

図表 185 【中学2年生】「男／女だから〇〇しなさい」と言われた時の気分（性別）



【中学2年生】その他意見

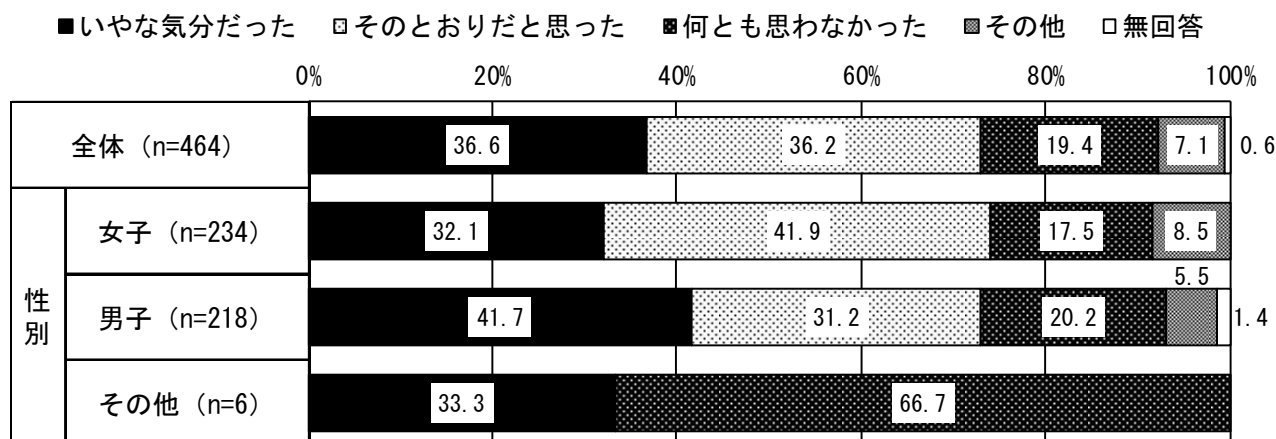
- うっとおしかった。
- 男じゃなくてもできるだろ。
- 男か女か関係なく、自分が悪かったため反省した。
- 何が言いたいのかわからなかった。
- 男の人だったらいいの？って思った。
- 男女で差別があるのだなと少し悲しかった。

など

小学5年生

- 「いやな気分だった」が 36.6%と最も高く、次いで「そのとおりだと思った」(36.2%)、「何とも思わなかった」(19.4%) となっています。
- 性別では、女子で「そのとおりだと思った」が 41.9%と、男子より 10.7 ポイント高くなっています。一方で、男子で「いやな気分だった」が 41.7%と、女子より 9.6 ポイント高くなっています。

図表 186 【小学5年生】「男／女だから〇〇しなさい」と言われた時の気分（性別）



【小学5年生】その他意見

- 男子だから泣いちゃだめ、女子だからしっかりと関係ないと思った。
- 女なのに「おれ」というと「やめなさい」と言われ心がえぐられる。
- 言われ慣れてなんとも思わなくなった。
- 少し、腹が立った。
- 納得できたり、できなかったりした。でも、性別で決めるのは……と思った。
- 人の将来を決めつけているみたい。

など

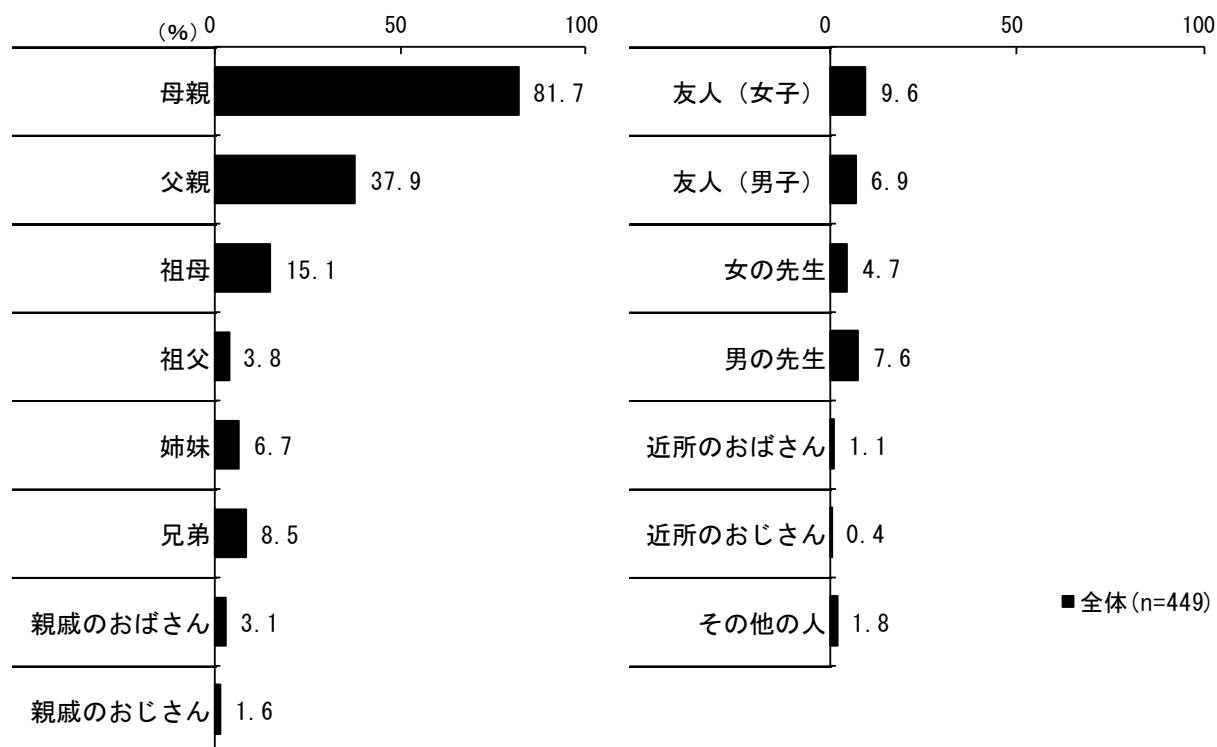
「よく言われる」「ときどき言われる」「言われる」の人

問 あなたにそれを言ったのはだれですか。（当てはまるもの全てに○）

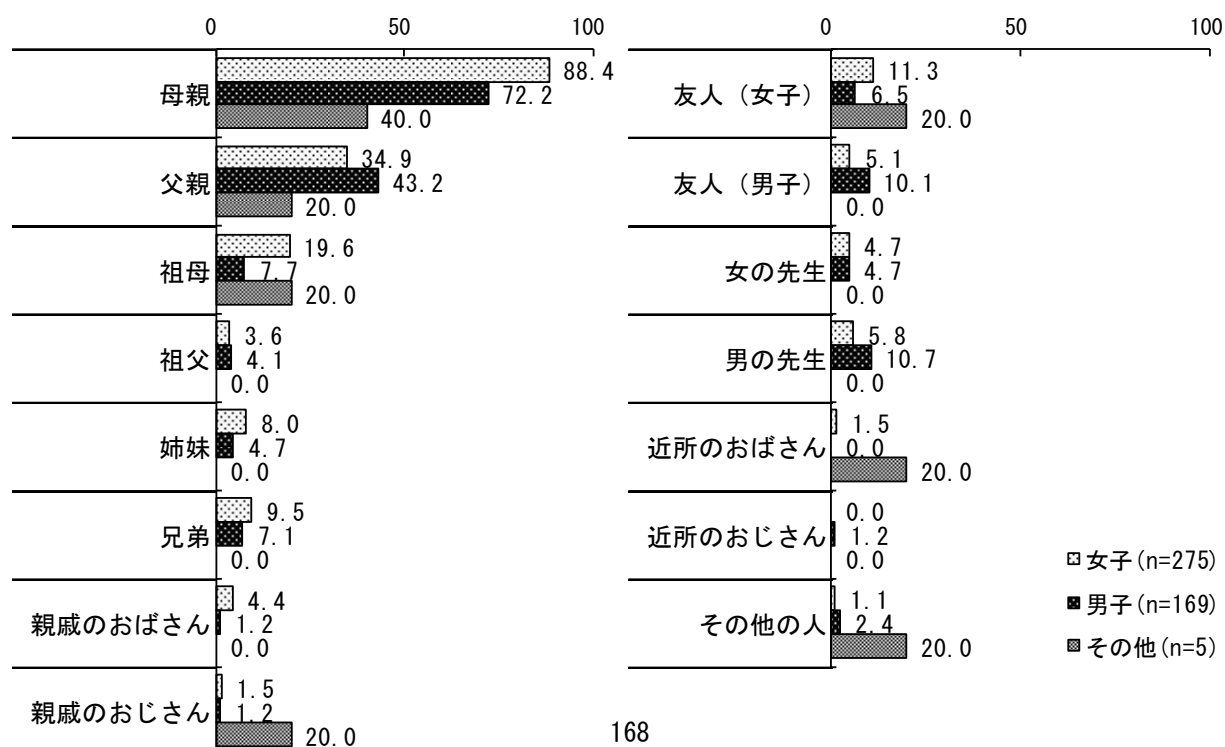
中学2年生

- 「母親」が81.7%と最も高く、次いで「父親」(37.9%)、「祖母」(15.1%)となっています。
- 性別では、女子で「母親」が16.2ポイント、「祖母」が11.9ポイント、「友人(女子)」が4.8ポイント、それぞれ男子より高くなっています。一方で、男子で「父親」が8.3ポイント、「友人(男子)」が5.0ポイント、「男の先生」が4.9ポイント、それぞれ女子より高くなっています。

図表 187 【中学2年生】「男／女だから○○しなさい」と言った人



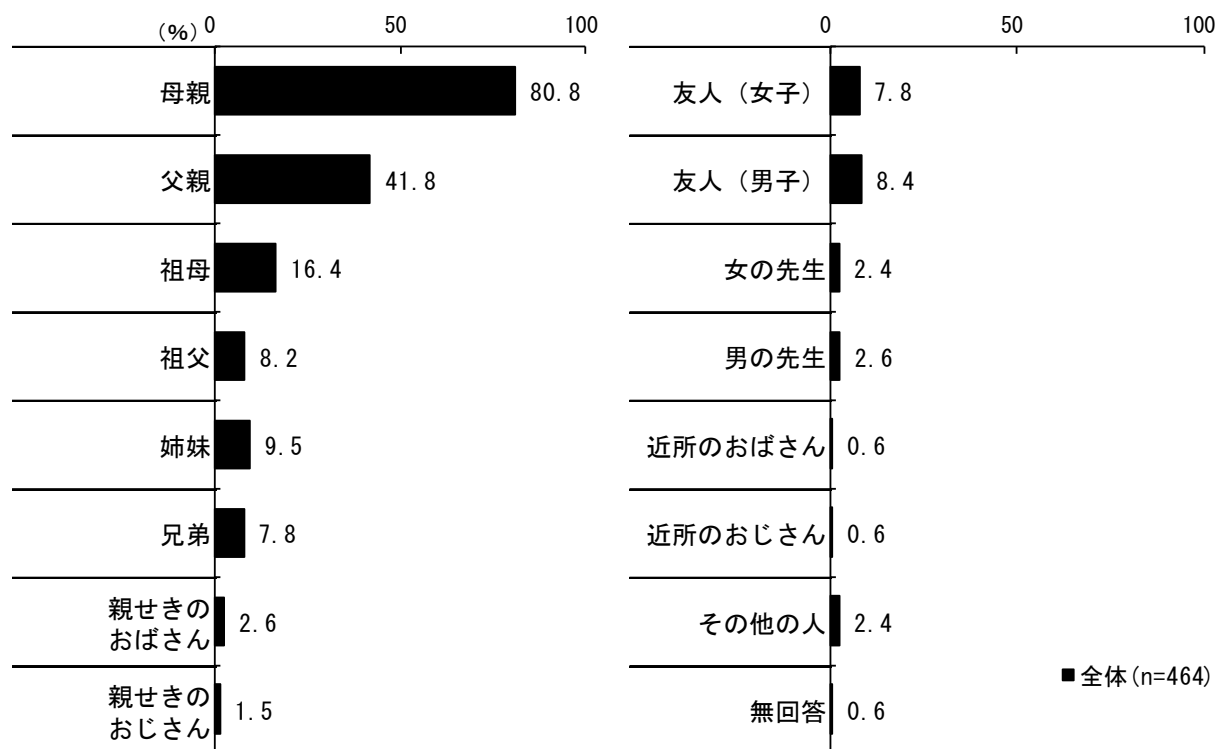
図表 188 【中学2年生】「男／女だから○○しなさい」と言った人（性別）



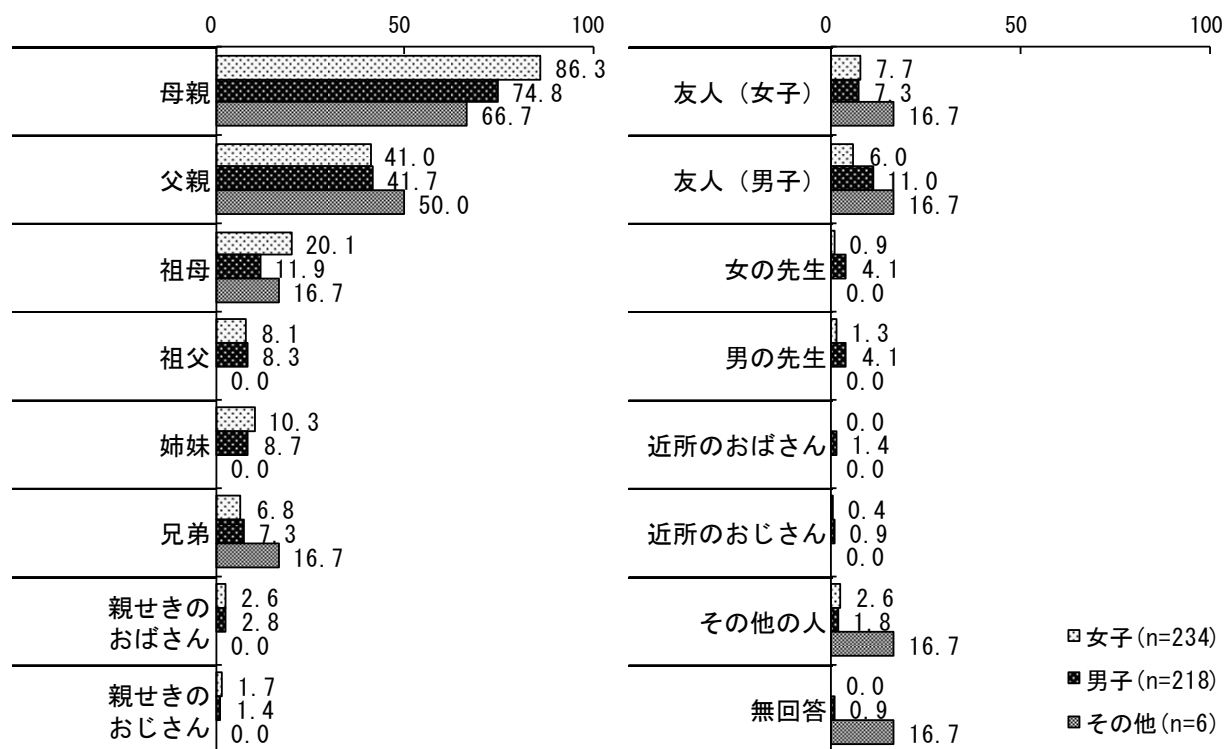
小学5年生

- 「母親」が80.8%と最も高く、次いで「父親」(41.8%)、「祖母」(16.4%)となっています。
- 性別では、女子で「母親」が11.5ポイント、「祖母」が8.2ポイント、それぞれ男子より高くなっています。一方で、男子で「友人(男子)」が11.0%と、女子より5.0ポイント高くなっています。

図表 189 【小学5年生】「男／女だから〇〇しなさい」と言った人



図表 190 【小学5年生】「男／女だから〇〇しなさい」と言った人(性別)

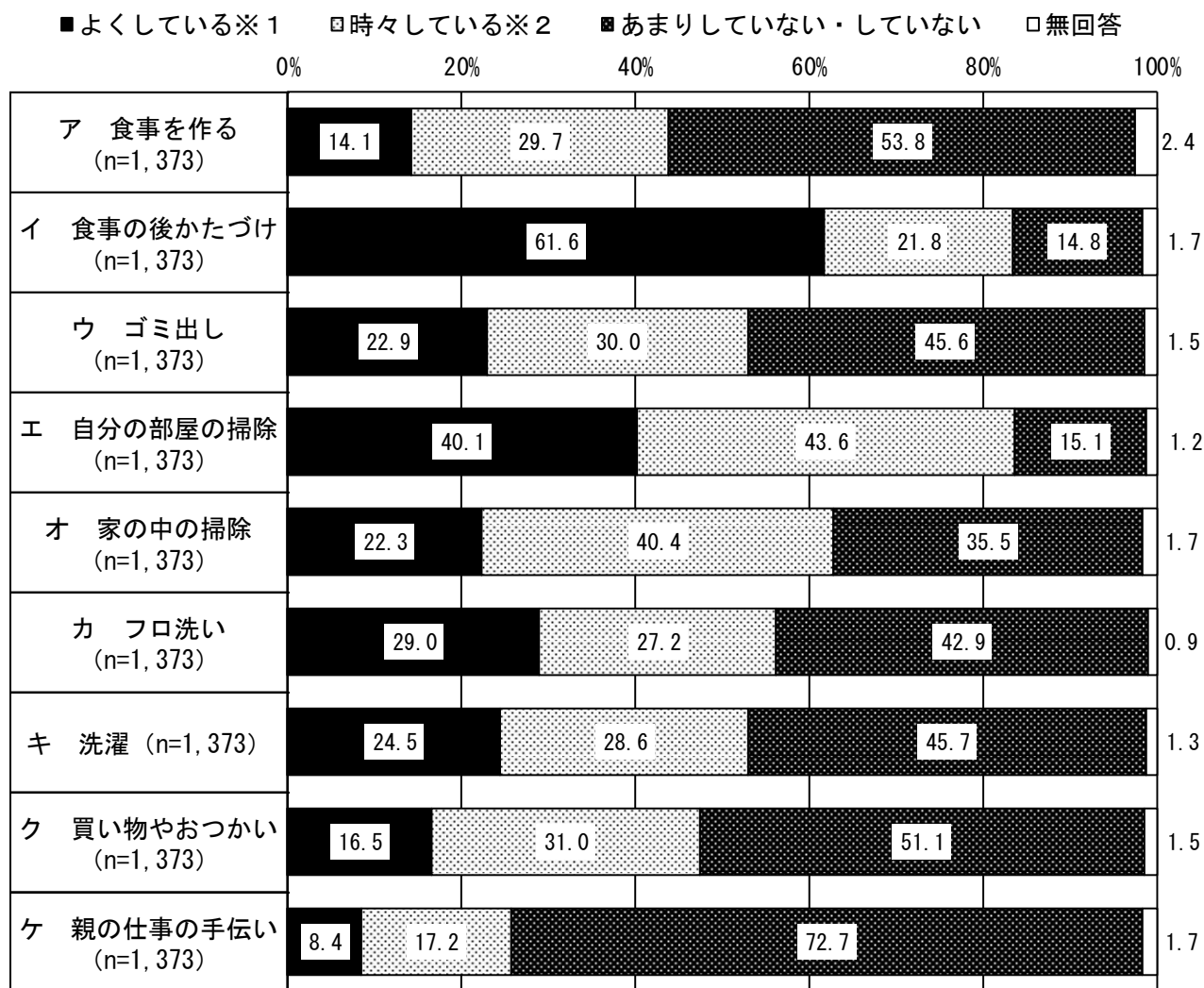


問 あなたは家の中の手伝いをどれくらいしていますか。(○はそれぞれ1つ)

中学2年生

- “している(「よくしている」+「時々している」)”をみると、「イ 食事の後かたづけ」と「エ 自分の部屋の掃除」が8割以上となっています。
- 「あまりしていない・していない」をみると、「ケ 親の仕事の手伝い」が72.7%と最も高く、次いで「ア 食事を作る」(53.8%)、「ク 買い物やおつかい」(51.1%)となっています。

図表 191 【中学2年生】家の手伝いの頻度



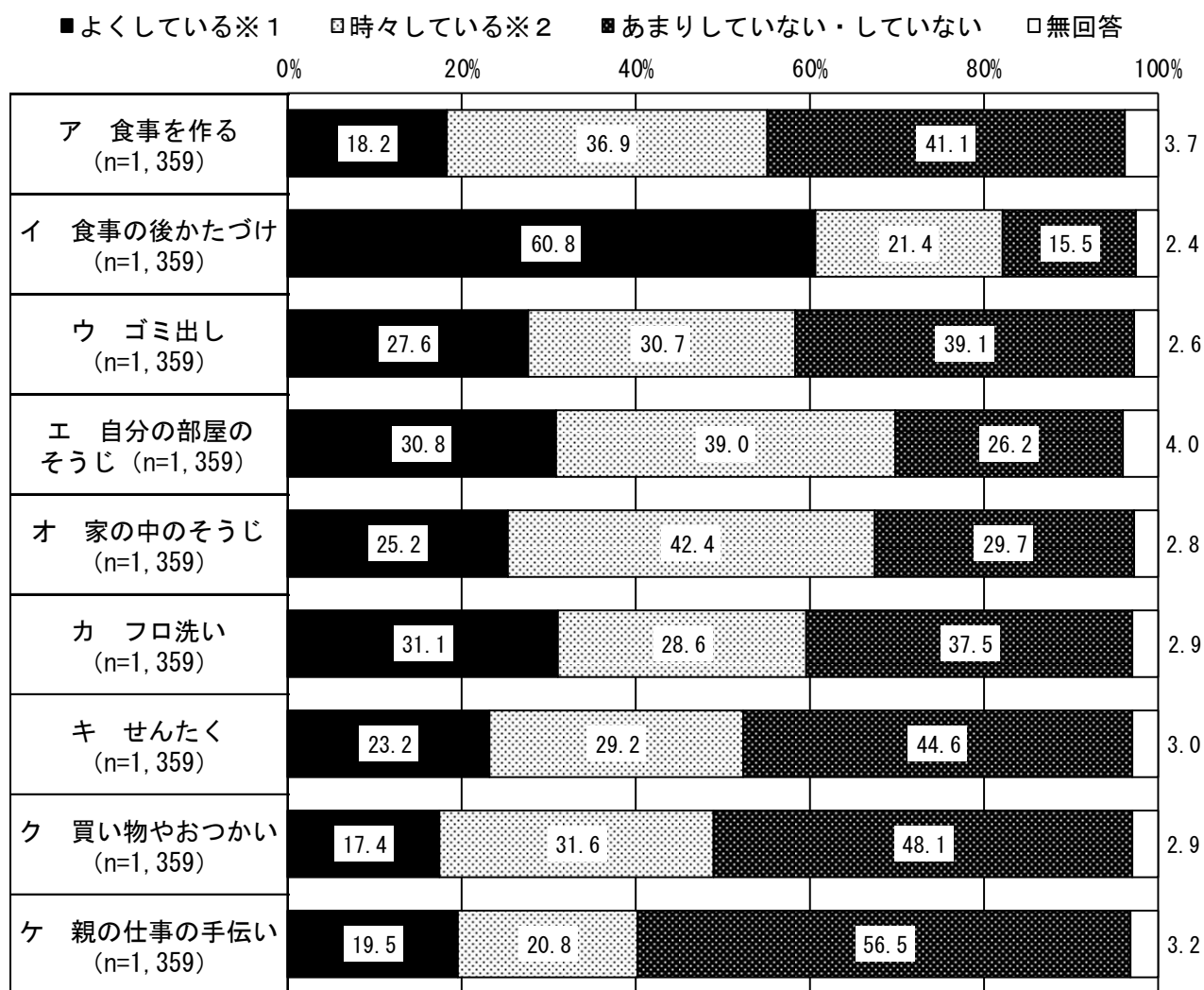
※1 一週間に1回以上

※2 一月に1回以上

小学5年生

- “している（「よくしている」＋「時々している」）”をみると、「イ 食事の後かたづけ」で82.2%と最も高く、「エ 自分の部屋のそうじ」（69.8%）、「オ 家の中のそうじ」（67.6%）となっています。
- 「あまりしていない・していない」をみると、「ケ 親の仕事の手伝い」が56.5%と最も高く、次いで「ク 買い物やおつかい」（48.1%）、「キ せんたく」（44.6%）、「ア 食事を作る」（41.1%）となっています。

図表 192 【小学5年生】家の手伝いの頻度



※1 一週間に1回以上

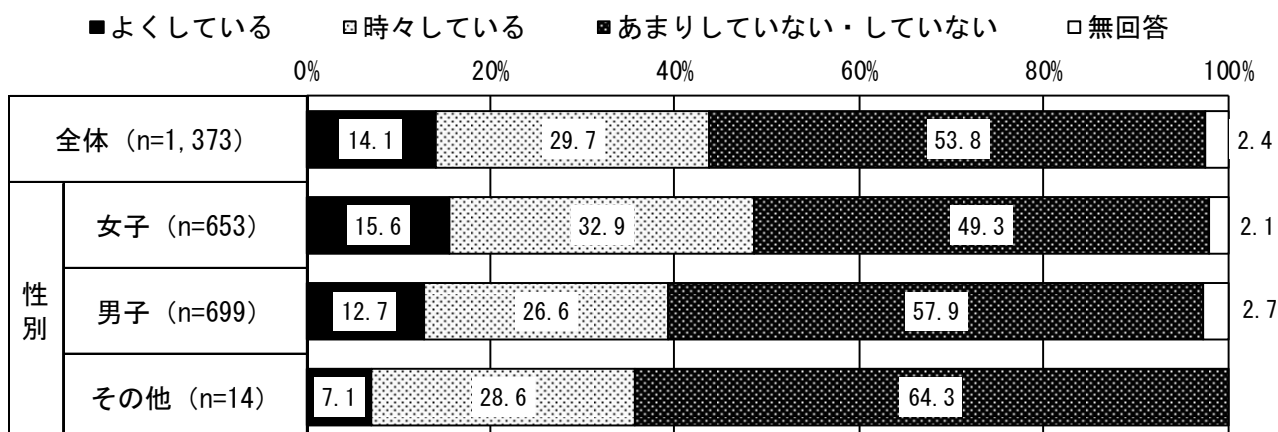
※2 一月に1回以上

ア 食事を作る

中学2年生

- 「よくしている」が14.1%、「時々している」が29.7%、「あまりしていない・していない」が53.8%となっています。
- 性別では、男子で「していない」が57.9%と、女子より8.6ポイント高くなっています。一方で、女子で「時々している」が32.9%と、男子より6.3ポイント高くなっています。

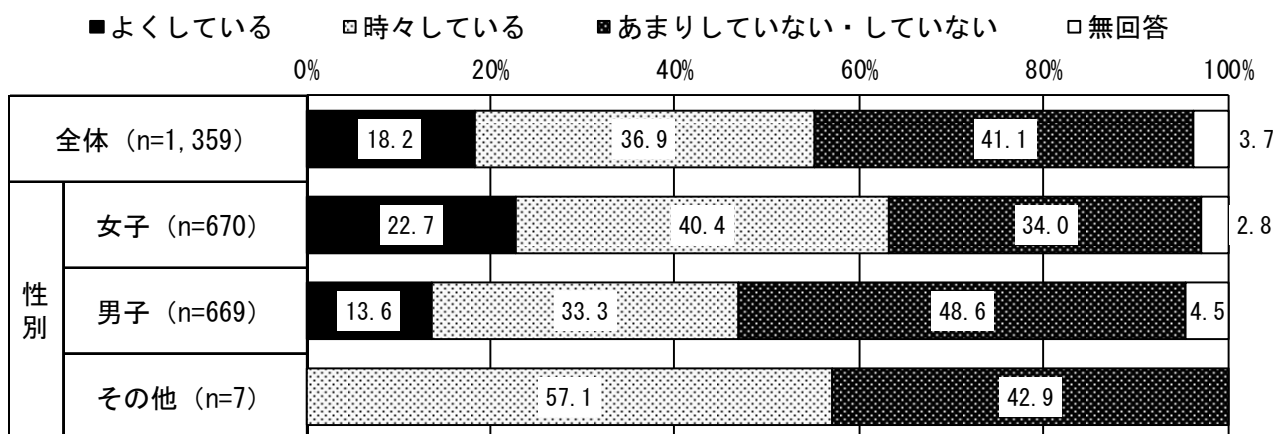
図表 193 【中学2年生】ア 食事を作る（性別）



小学5年生

- 「よくしている」が18.2%、「時々している」が36.9%、「あまりしていない・していない」が41.1%となっています。
- 性別では、男子で「あまりしていない・していない」が48.6%と、女子より14.6ポイント高くなっています。一方で、女子で「よくしている」が9.1ポイント、「時々している」が7.1ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

図表 194 【小学5年生】ア 食事を作る（性別）

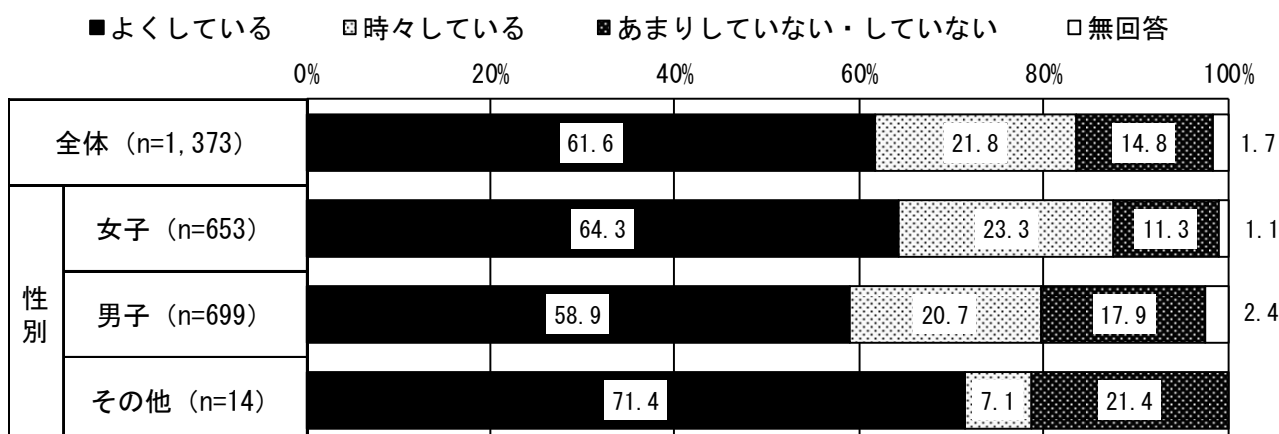


イ 食事の後かたづけ

中学2年生

- 「よくしている」が61.6%、「時々している」が21.8%、「あまりしていない・していない」が14.8%となっています。
- 性別では、男子で「あまりしていない・していない」が17.9%と、女子より6.6ポイント高くなっています。一方で、女子で「よくしている」が64.3%と、男子より5.4ポイント高くなっています。

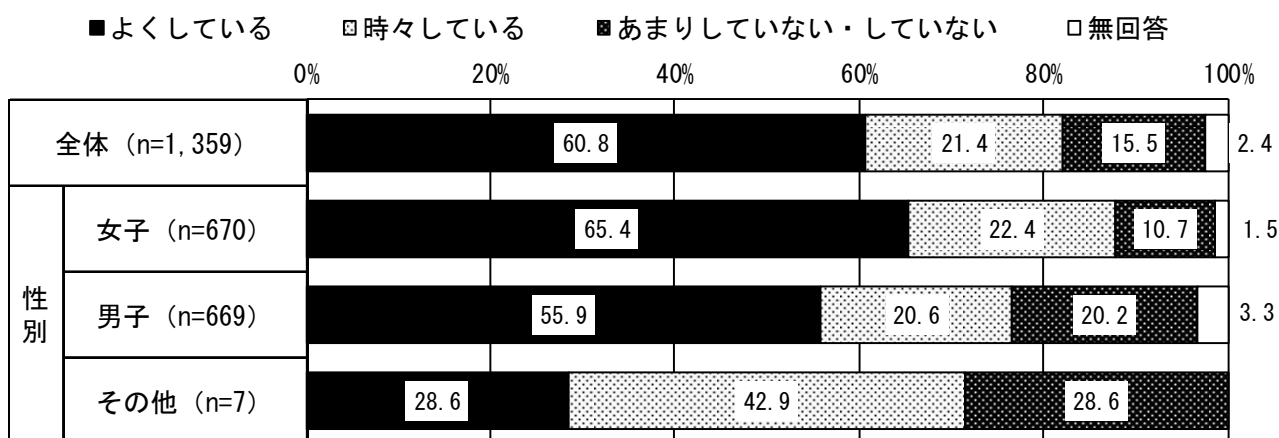
図表 195 【中学2年生】イ 食事の後かたづけ（性別）



小学5年生

- 「よくしている」が60.8%、「時々している」が21.4%、「あまりしていない・していない」が15.5%となっています。
- 性別では、女子で「よくしている」が65.4%と、男子より9.5ポイント高くなっています。一方で、男子で「あまりしていない・していない」が20.2%と、女子より9.5ポイント高くなっています。

図表 196 【小学5年生】イ 食事の後かたづけ（性別）

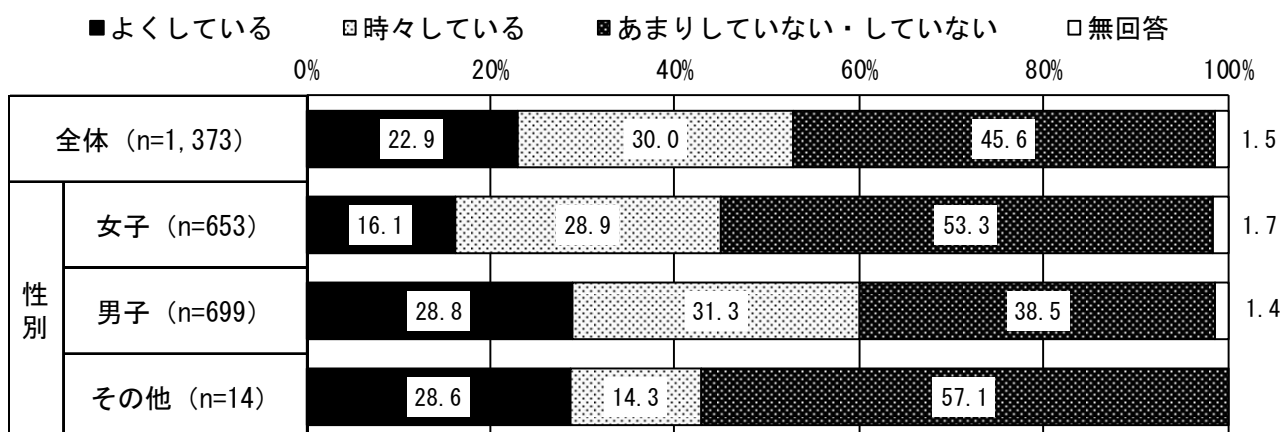


ウ ゴミ出し

中学2年生

- 「よくしている」が22.9%、「時々している」が30.0%、「あまりしていない・していない」が45.6%となっています。
- 性別では、女子で「あまりしていない・していない」が53.3%と、男子より14.8ポイント高くなっています。一方で、男子で「よくしている」が28.8%と、女子より12.7ポイント高くなっています。

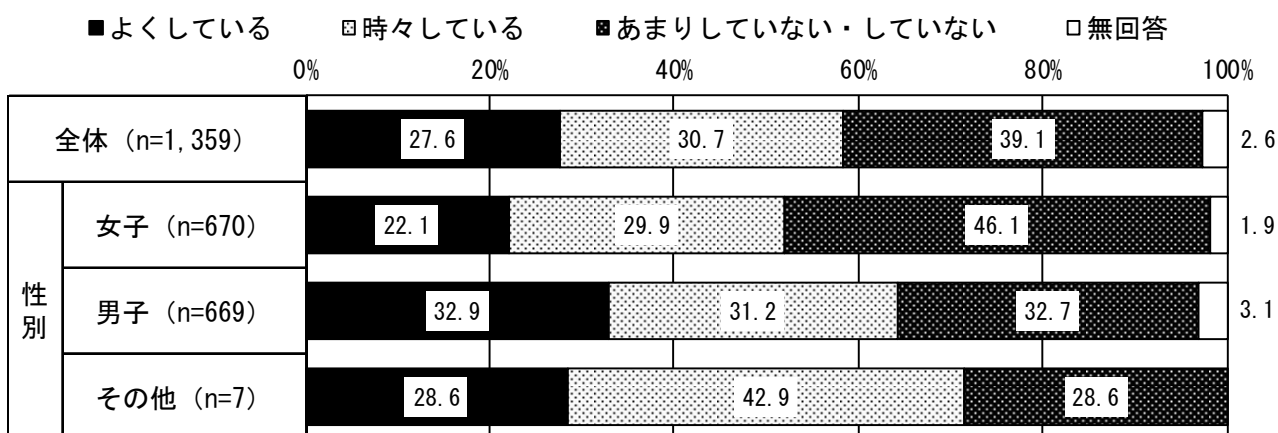
図表 197 【中学2年生】ウ ゴミ出し（性別）



小学5年生

- 「よくしている」が27.6%、「時々している」が30.7%、「あまりしていない・していない」が39.1%となっています。
- 性別では、女子で「あまりしていない・していない」が46.1%と、男子より13.4ポイント高くなっています。一方で、男子で「よくしている」が32.9%と、女子より10.8ポイント高くなっています。

図表 198 【小学5年生】ウ ゴミ出し（性別）

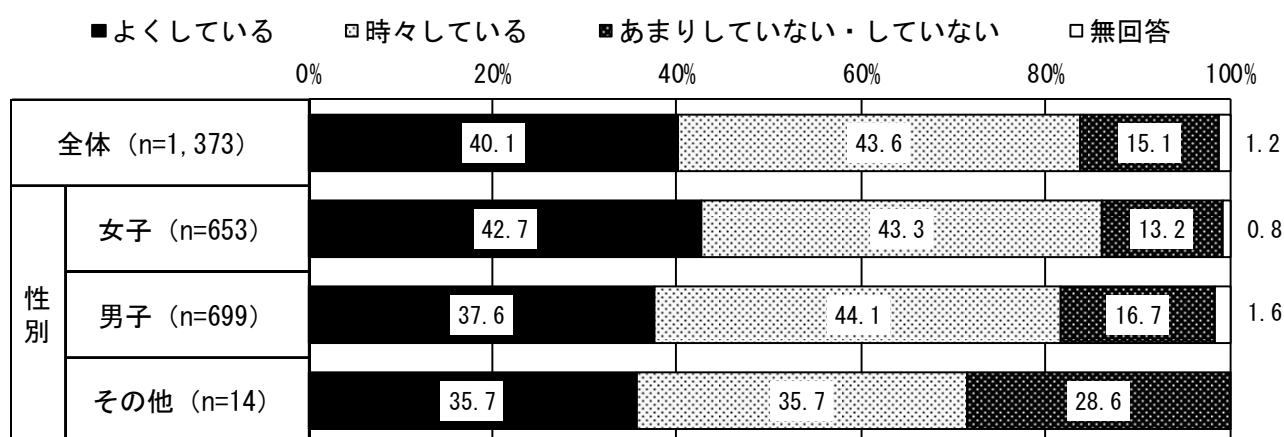


エ 自分の部屋の掃除

中学2年生

- 「よくしている」が40.1%、「時々している」が43.6%、「あまりしていない・していない」が15.1%となっています。
- 性別では、女子で「よくしている」が42.7%と、男子より5.1ポイント高くなっています。

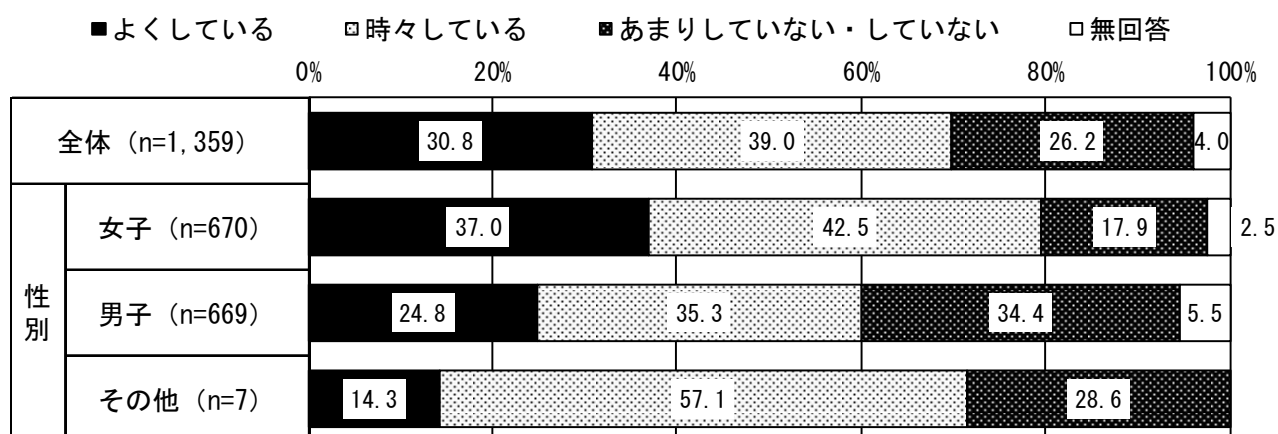
図表 199 【中学2年生】エ 自分の部屋の掃除（性別）



小学5年生

- 「よくしている」が30.8%、「時々している」が39.0%、「あまりしていない・していない」が26.2%となっています。
- 性別では、男子で「あまりしていない・していない」が34.4%と、女子より16.5ポイント高くなっています。一方で、女子で「よくしている」が12.2ポイント、「時々している」が7.2ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

図表 200 【小学5年生】エ 自分の部屋の掃除（性別）

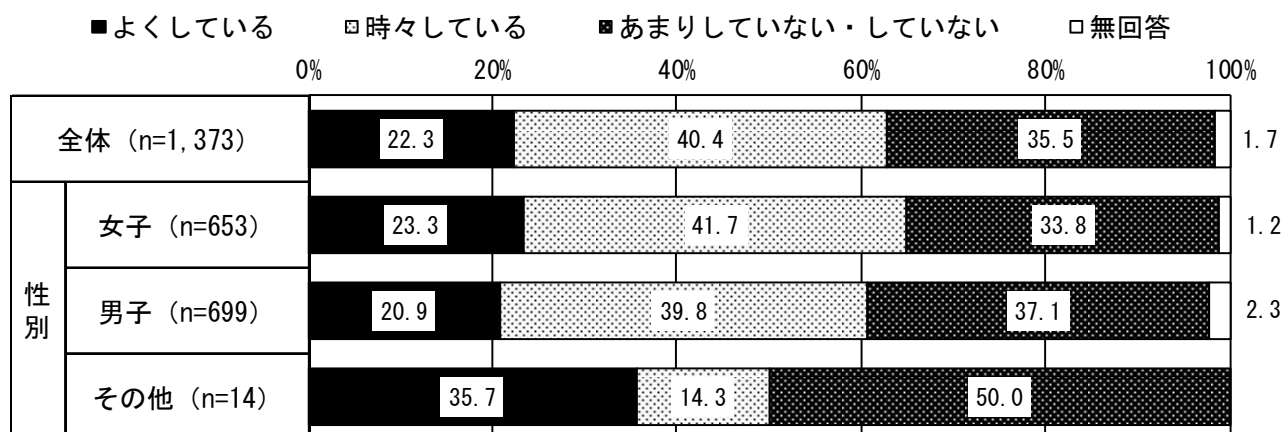


オ 家の中の掃除

中学2年生

- 「よくしている」が22.3%、「時々している」が40.4%、「あまりしていない・していない」が35.5%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

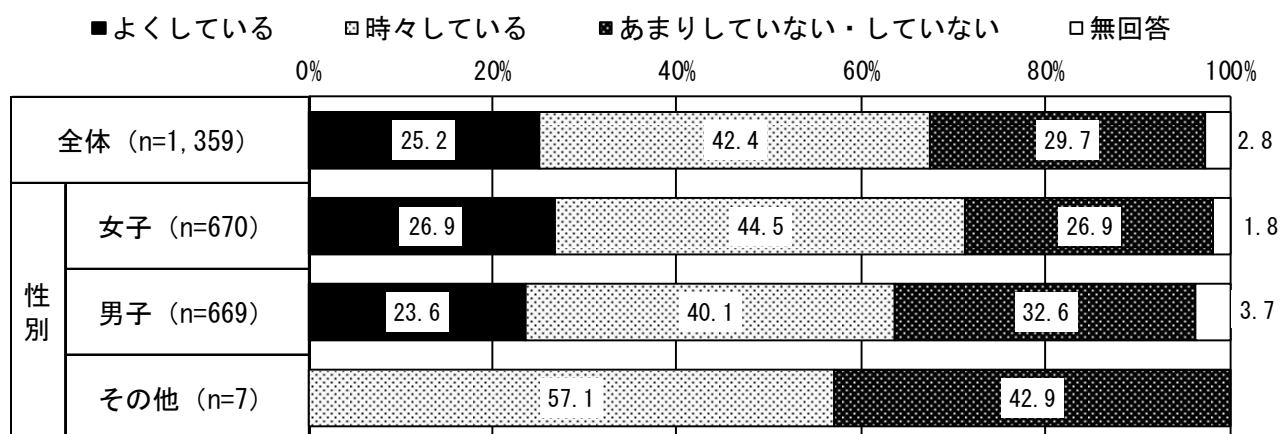
図表 201 【中学2年生】オ 家の中の掃除（性別）



小学5年生

- 「よくしている」が25.2%、「時々している」が42.4%、「あまりしていない・していない」が29.7%となっています。
- 性別では、男子で「あまりしていない・していない」が32.6%と、女子より5.7ポイント高くなっています。

図表 202 【小学5年生】オ 家の中の掃除（性別）

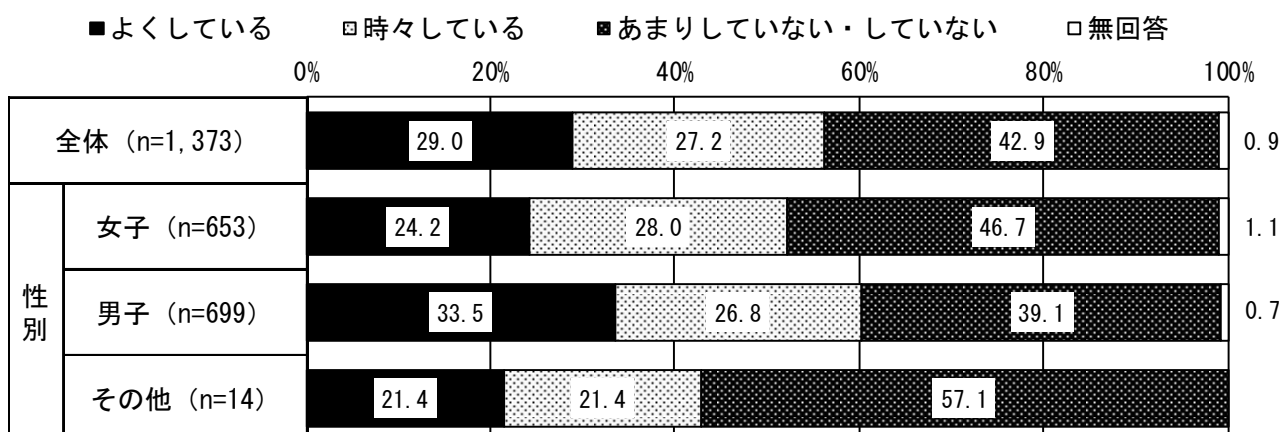


カ フロ洗い

中学2年生

- 「よくしている」が29.0%、「時々している」が27.2%、「あまりしていない・していない」が42.9%となっています。
- 性別では、男子で「よくしている」が33.5%と、女子より9.3ポイント高くなっています。一方で、女子で「あまりしていない・していない」が46.7%と、男子より7.6ポイント高くなっています。

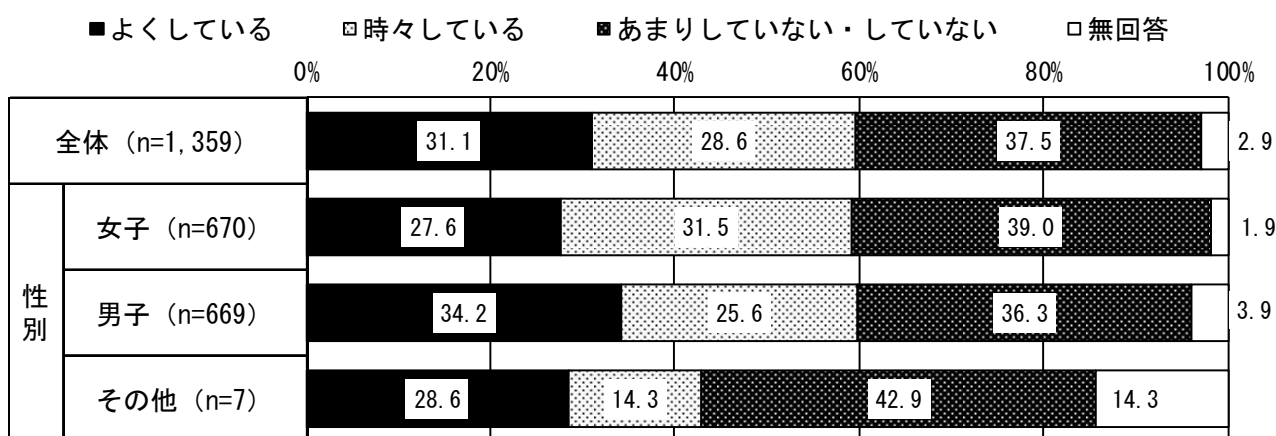
図表 203 【中学2年生】カ フロ洗い（性別）



小学5年生

- 「よくしている」が31.1%、「時々している」が28.6%、「あまりしていない・していない」が37.5%となっています。
- 性別では、男子で「よくしている」が34.2%と、女子より6.6ポイント高くなっています。一方で、女子で「時々している」が31.5%と、男子より5.9ポイント高くなっています。

図表 204 【小学5年生】カ フロ洗い（性別）

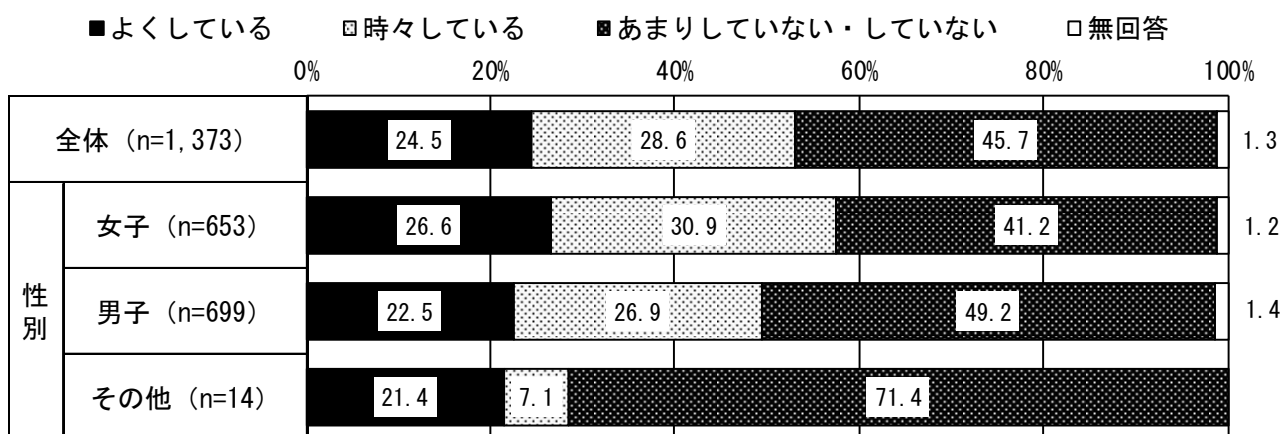


キ 洗濯

中学2年生

- 「よくしている」が24.5%、「時々している」が28.6%、「あまりしていない・していない」が45.7%となっています。
- 性別では、男子で「あまりしていない・していない」が49.2%と、女子より8.0ポイント高くなっています。

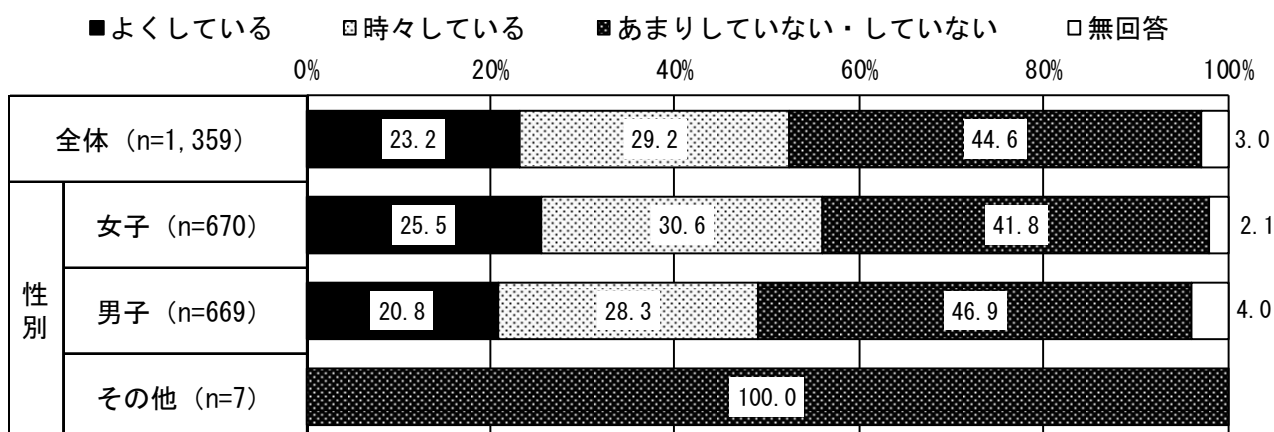
図表 205 【中学2年生】キ 洗濯（性別）



小学5年生

- 「よくしている」が23.2%、「時々している」が29.2%、「あまりしていない・していない」が44.6%となっています。
- 性別では、男子で「あまりしていない・していない」が46.9%と、女子より5.1ポイント高くなっています。一方で、女子で「よくしている」が25.5%と、男子より4.7ポイント高くなっています。

図表 206 【小学5年生】キ 洗濯（性別）

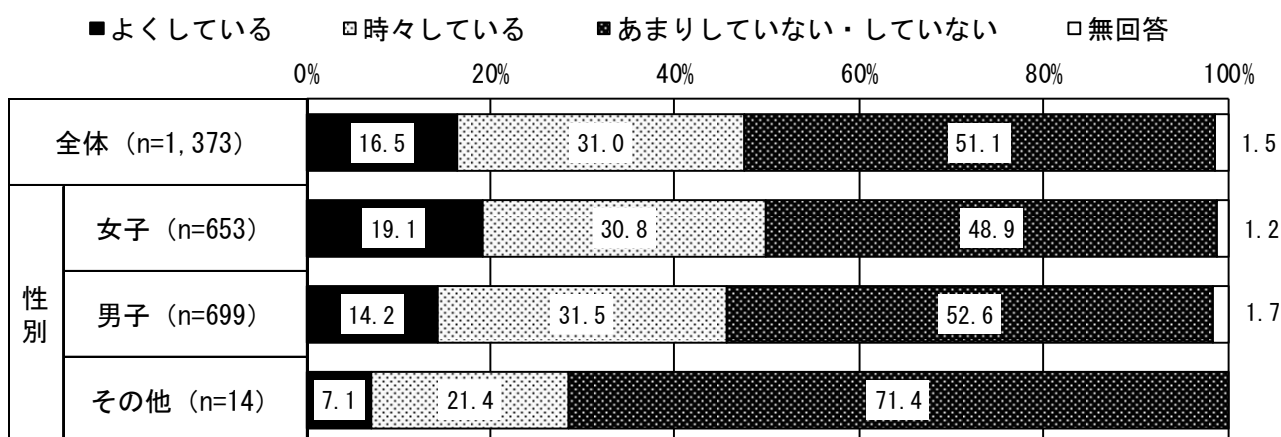


ク 買い物やおつかい

中学2年生

- 「よくしている」が16.5%、「時々している」が31.0%、「あまりしていない・していない」が51.1%となっています。
- 性別では、女子で「よくしている」が19.1%と、男子より4.9ポイント高くなっています。

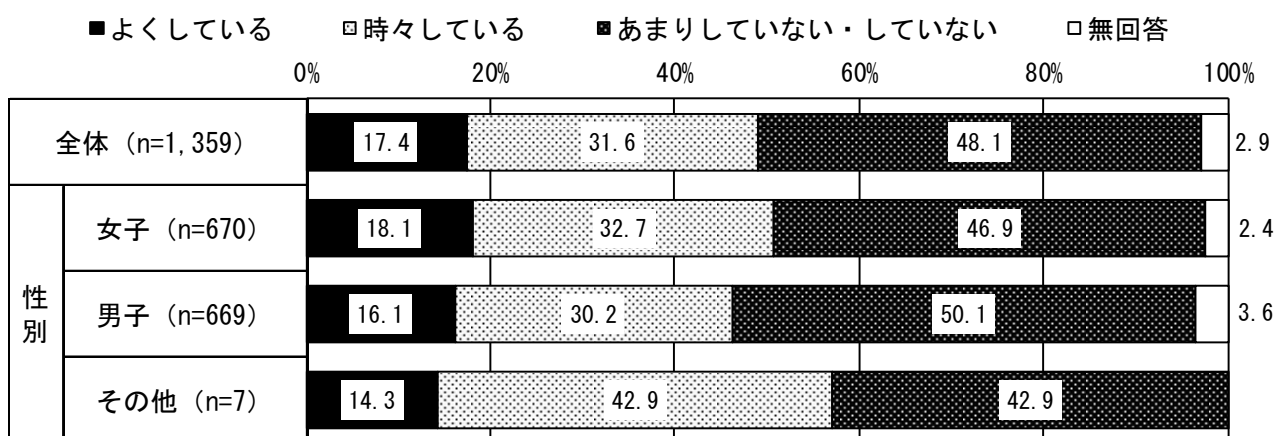
図表 207 【中学2年生】ク 買い物やおつかい（性別）



小学5年生

- 「よくしている」が17.4%、「時々している」が31.6%、「あまりしていない・していない」が48.1%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 208 【小学5年生】ク 買い物やおつかい（性別）

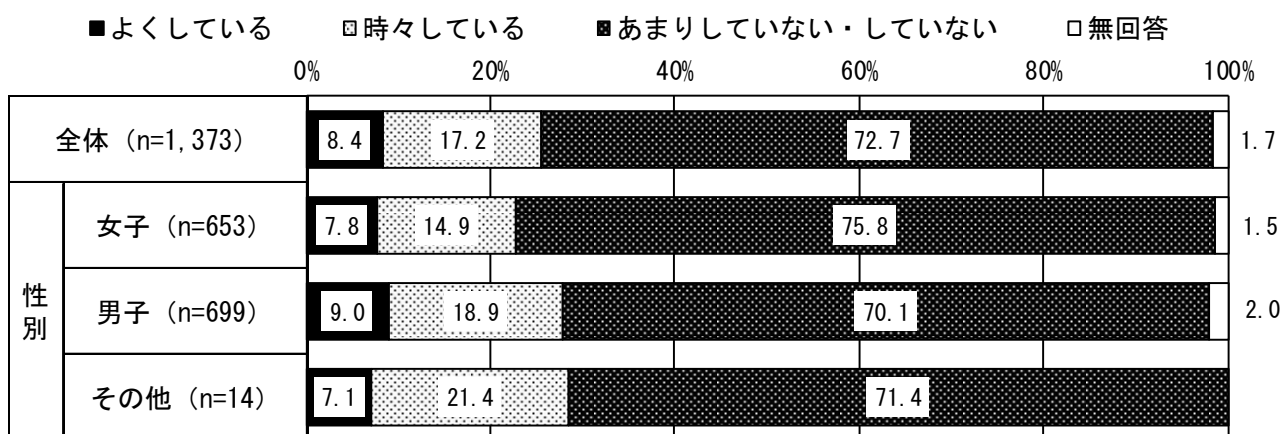


ケ 親の仕事の手伝い

中学2年生

- 「よくしている」が8.4%、「時々している」が17.2%、「あまりしていない・していない」が72.7%となっています。
- 性別では、女子で「あまりしていない・していない」が75.8%と、男子より5.7ポイント高くなっています。

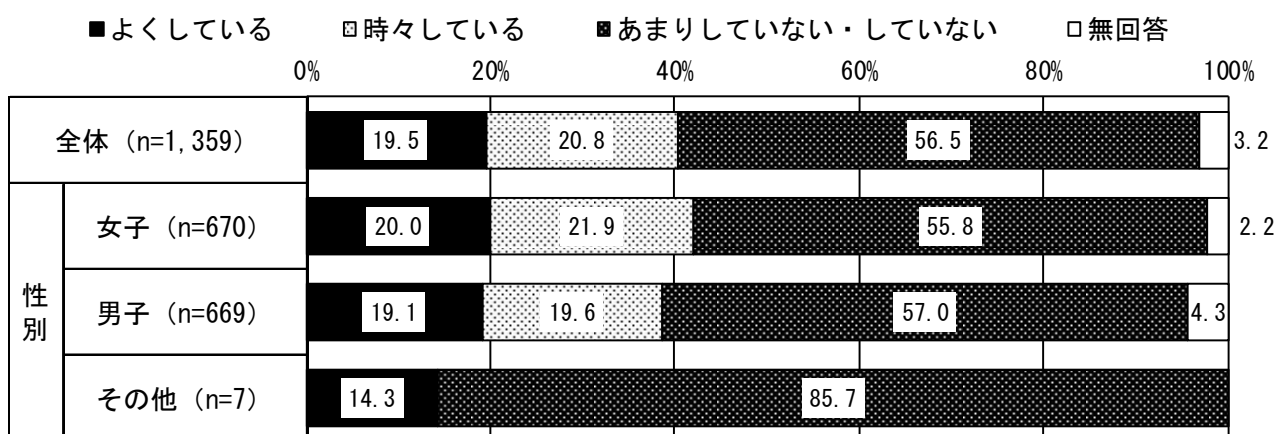
図表 209 【中学2年生】ケ 親の仕事の手伝い（性別）



小学5年生

- 「よくしている」が19.5%、「時々している」が20.8%、「あまりしていない・していない」が56.5%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 210 【小学5年生】ケ 親の仕事の手伝い（性別）

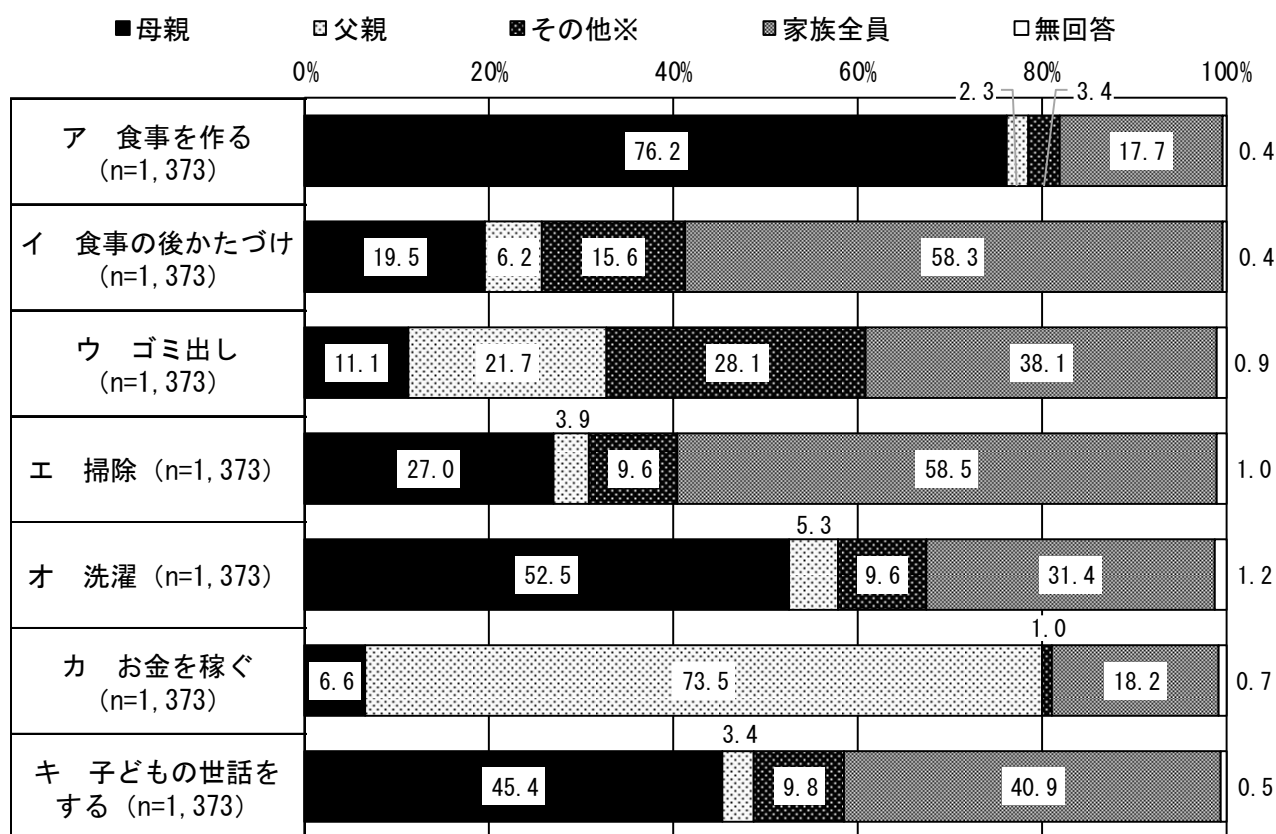


問 あなたは家の中で、次のようなことはだれがやるのがいいと思いますか。
(〇はそれぞれ1つ)

中学2年生

- 「母親」をみると、「ア 食事を作る」が76.2%と最も高く、次いで「オ 洗濯」(52.5%)、「キ 子どもの世話をする」(45.4%)となっています。
- 「父親」をみると、「カ お金を稼ぐ」が73.5%と最も高く、次いで「ウ ゴミ出し」(21.7%)となっています。
- 「家族全員」をみると、「エ 掃除」が58.5%と最も高く、次いで「イ 食事の後かたづけ」(58.3%)、「キ 子どもの世話をする」(40.9%)となっています。

図表 211 【中学2年生】理想の家事分担

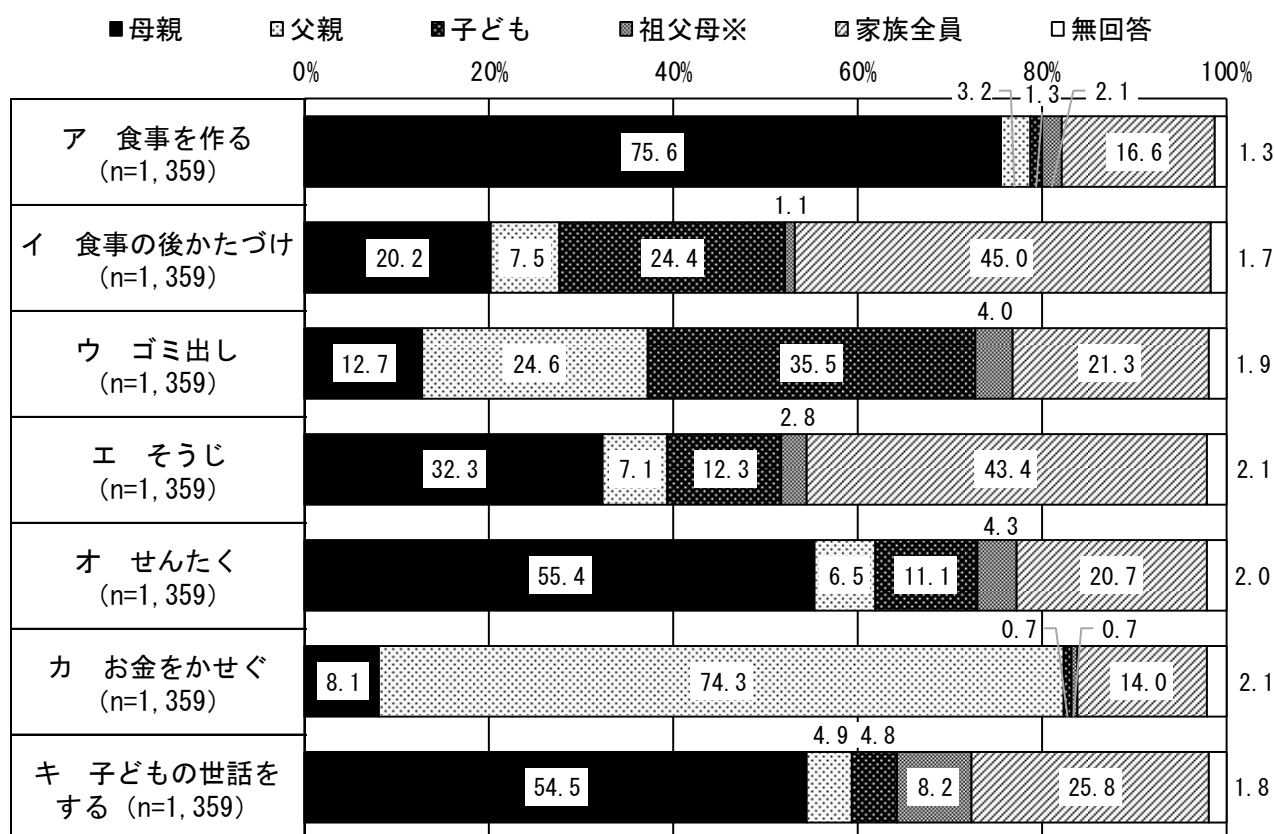


※「子ども」＋「祖母」＋「祖父」

小学5年生

- 「母親」をみると、「ア 食事を作る」で 75.6%と最も高く、次いで「オ せんたく」(55.4%)、「キ 子どもの世話をする」(54.5%) となっています。
- 「父親」をみると、「カ お金をかせぐ」が 74.3%と最も高く、次いで「ゴミ出し」(24.6%) となっています。
- 「子ども」をみると、「ウ ゴミ出し」が 35.5%と最も高く、次いで「イ 食事の後かたづけ」(24.4%) となっています。
- 「家族全員」をみると、「イ 食事の後かたづけ」が 45.0%と最も高く、次いで「エ そうじ」(43.4%) となっています。

図表 212 【小学5年生】理想の家事の分担

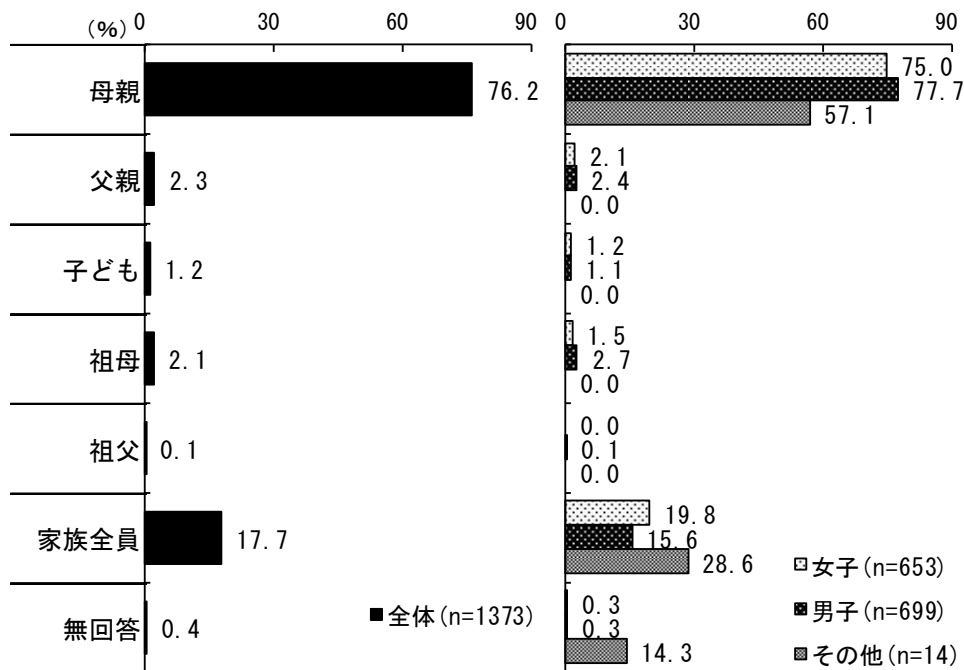


ア 食事を作る

中学2年生

- 「母親」が76.2%と最も高く、次いで「家族全員」(17.7%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

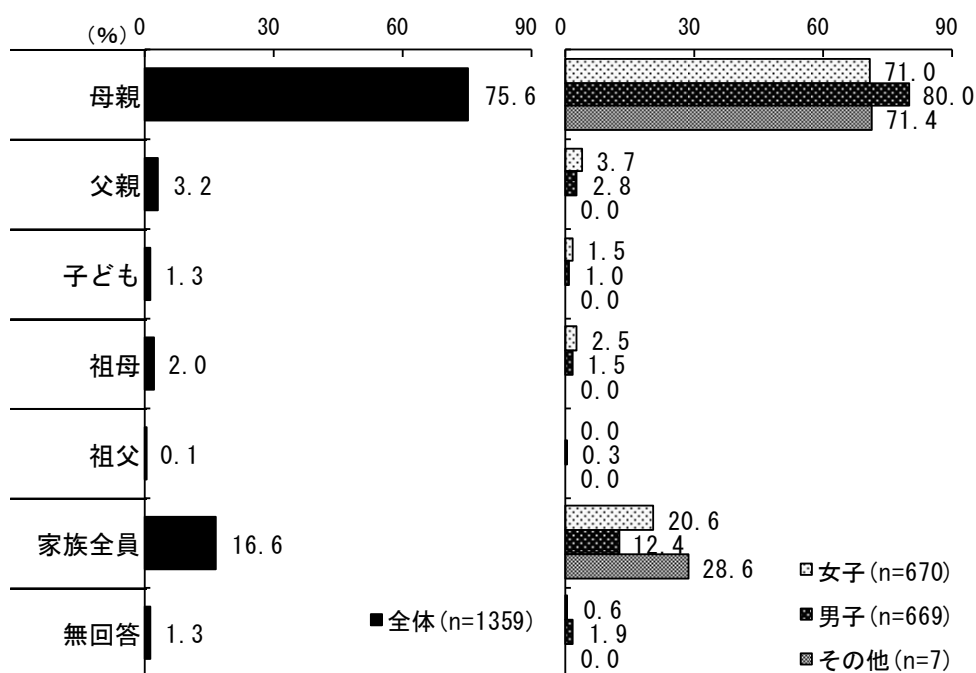
図表 213 【中学2年生】ア 食事を作る（性別）



小学5年生

- 「母親」が75.6%と最も高く、次いで「家族全員」(16.6%)となっています。
- 性別では、男子で「母親」が80.0%と、女子より9.0ポイント高くなっています。一方で、女子で「家族全員」が20.6%と、男子より8.2ポイント高くなっています。

図表 214 【小学5年生】ア 食事を作る（性別）

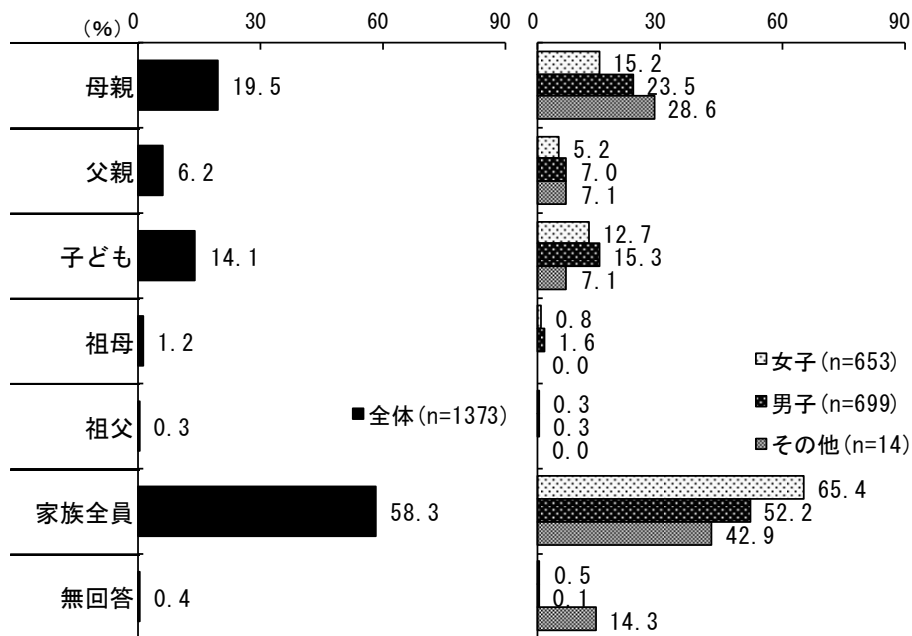


イ 食事の後かたづけ

中学2年生

- 「家族全員」が 58.3%と最も高く、次いで「母親」(19.5%)、「子ども」(14.1%)となっています。
- 性別では、女子で「家族全員」が 65.4%と、男子より 13.2 ポイント高くなっています。一方で、男子で「母親」が 23.5%と、女子より 8.3 ポイント高くなっています。

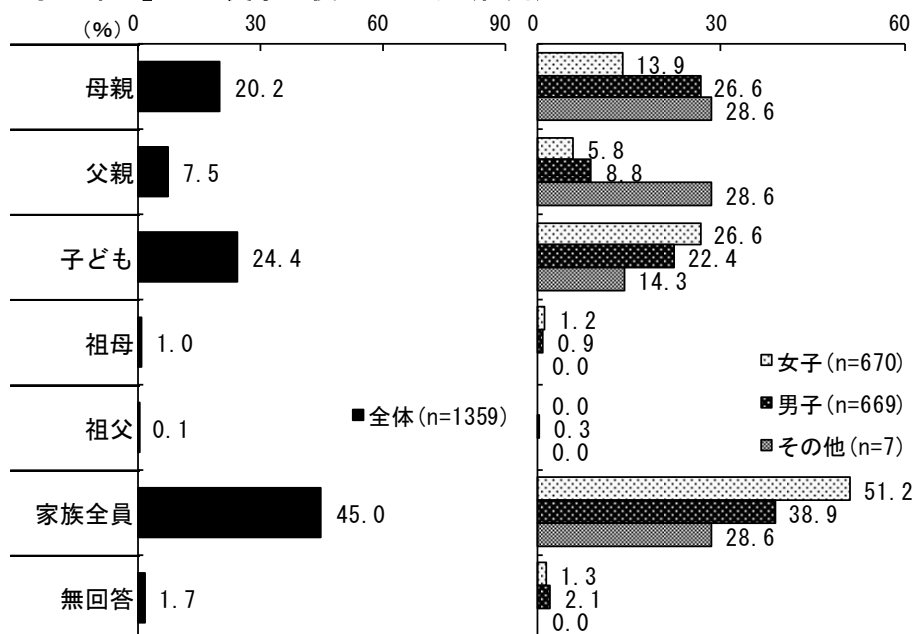
図表 215 【中学2年生】イ 食事の後かたづけ（性別）



小学5年生

- 「家族全員」が 45.0%と最も高く、次いで「子ども」(24.4%)、「母親」(20.2%)となっています。
- 性別では、男子で「母親」が 26.6%と、女子より 12.7 ポイント高くなっています。一方で、女子で「家族全員」が 51.2%と、男子より 12.3 ポイント高くなっています。

図表 216 【小学5年生】イ 食事の後かたづけ（性別）

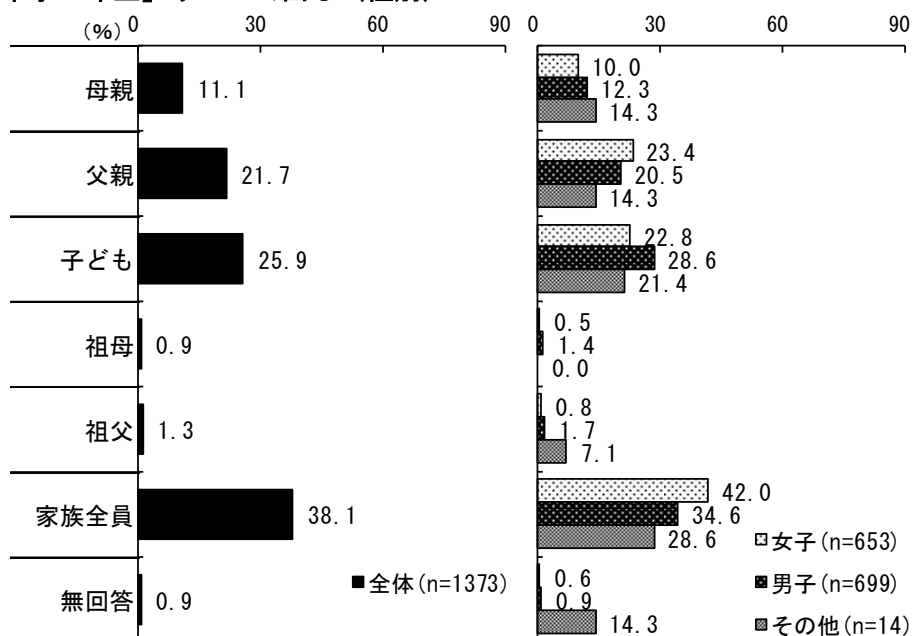


ウ ゴミ出し

中学2年生

- 「家族全員」が38.1%と最も高く、次いで「子ども」(25.9%)、「父親」(21.7%)、「母親」(11.1%)となっています。
- 性別では、女子で「家族全員」が42.0%と、男子より7.4ポイント高くなっています。一方で、男子で「子ども」が28.6%と、女子より5.8ポイント高くなっています。

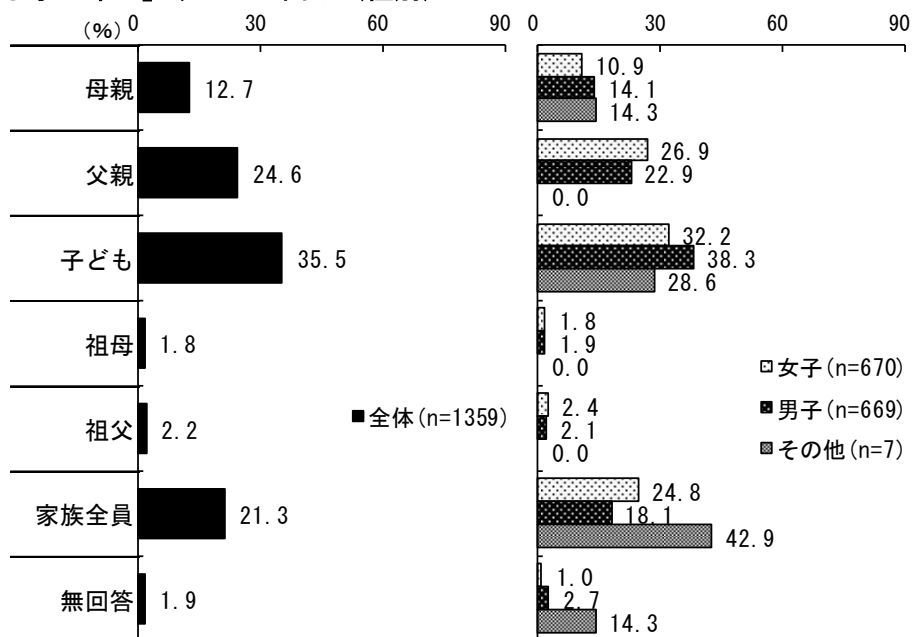
図表 217 【中学2年生】ウ ゴミ出し（性別）



小学5年生

- 「子ども」が35.5%と最も高く、次いで「父親」(24.6%)、「家族全員」(21.3%)、「母親」(12.7%)となっています。
- 性別では、女子で「家族全員」が24.8%と、男子より6.7ポイント高くなっています。一方で、男子で「子ども」が38.3%と、女子より6.1ポイント高くなっています。

図表 218 【小学5年生】ウ ゴミ出し（性別）

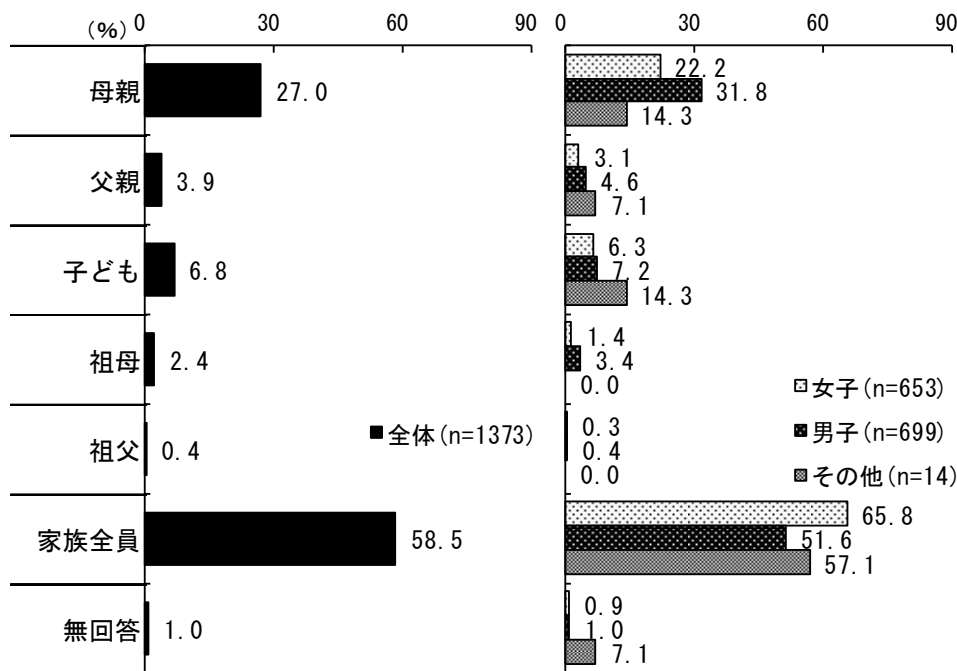


エ 掃除

中学2年生

- 「家族全員」が58.5%と最も高く、次いで「母親」(27.0%)となっています。
- 性別では、女子で「家族全員」が65.8%と、男子より14.2ポイント高くなっています。一方で、男子で「母親」が31.8%と、女子より9.6ポイント高くなっています。

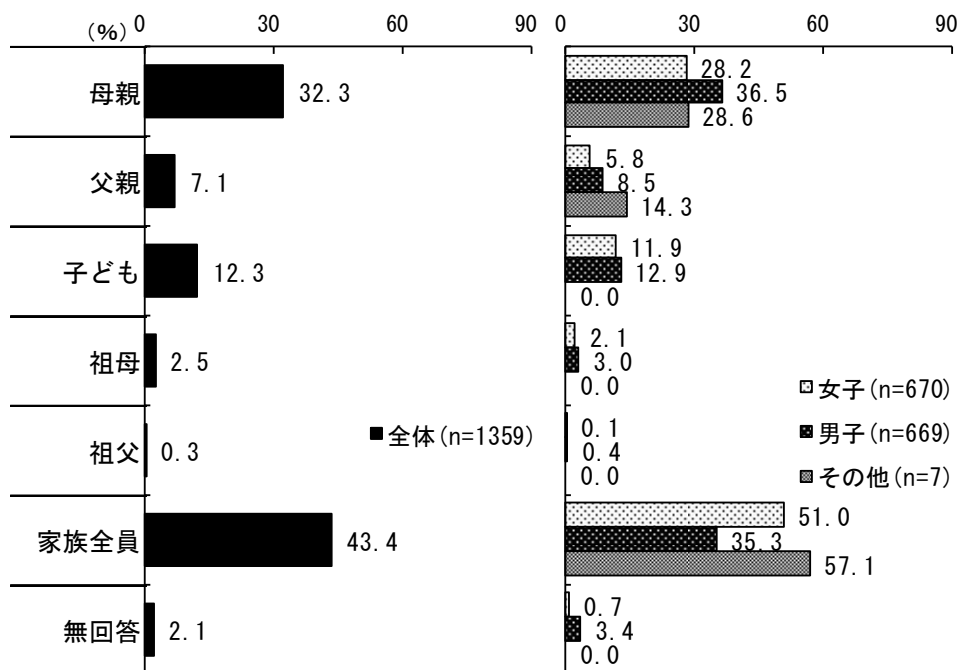
図表 219 【中学2年生】エ 掃除（性別）



小学5年生

- 「家族全員」が43.4%と最も高く、次いで「母親」(32.3%)となっています。
- 性別では、女子で「家族全員」が51.0%と、男子より15.7ポイント高くなっています。一方で、男子で「母親」が36.5%と、女子より8.3ポイント高くなっています。

図表 220 【小学5年生】エ 掃除（性別）

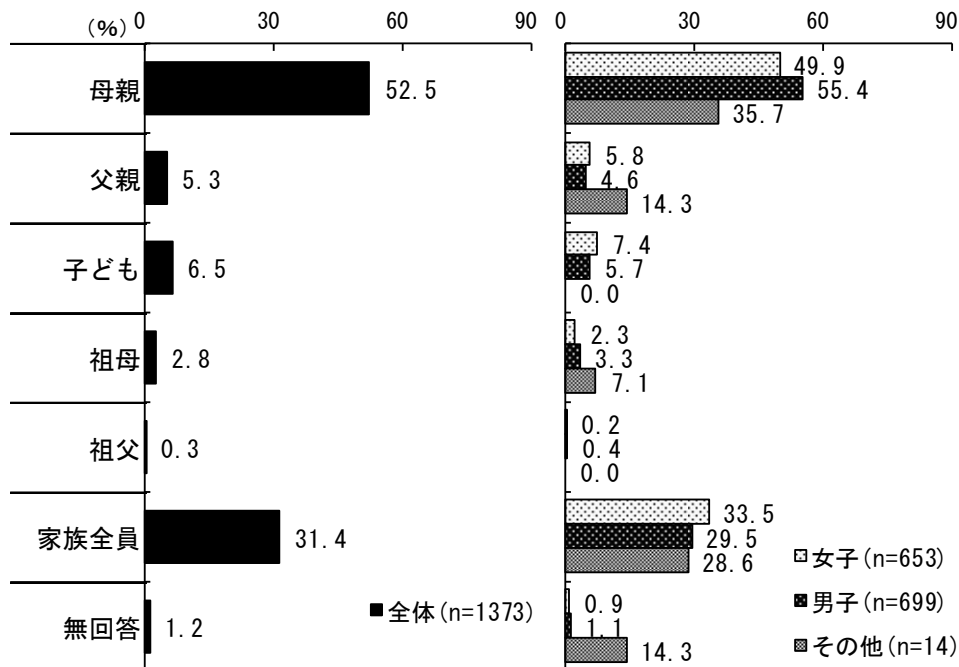


オ 洗濯

中学2年生

- 「母親」が52.5%と最も高く、次いで「家族全員」(31.4%)となっています。
- 性別では、男子で「母親」が55.4%と、女子より5.5ポイント高くなっています。

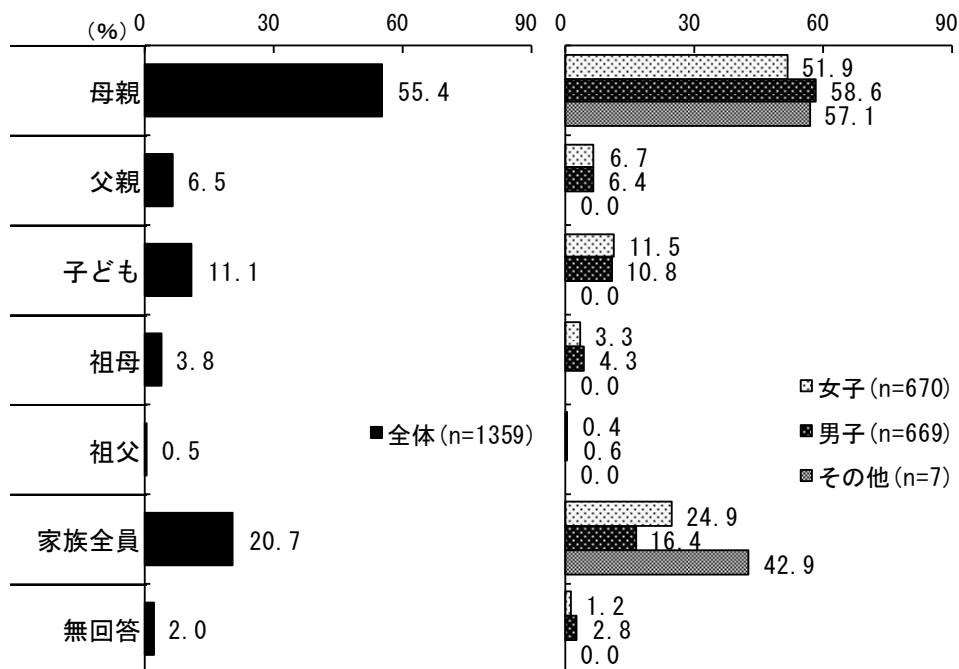
図表 221 【中学2年生】オ 洗濯 (性別)



小学5年生

- 「母親」が55.4%と最も高く、次いで「家族全員」(20.7%)となっています。
- 性別では、女子で「家族全員」が24.9%と、男子より8.5ポイント高くなっています。一方で、男子で「母親」が58.6%と、女子より6.7ポイント高くなっています。

図表 222 【小学5年生】オ 洗濯 (性別)

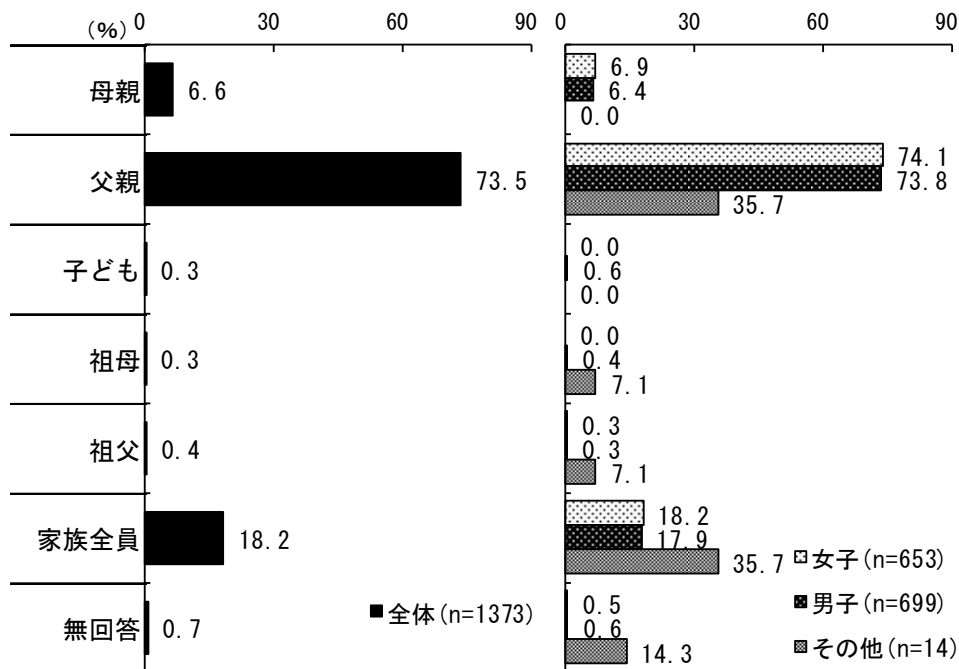


力 お金を稼ぐ

中学2年生

- 「父親」が73.5%と最も高く、次いで「家族全員」(18.2%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

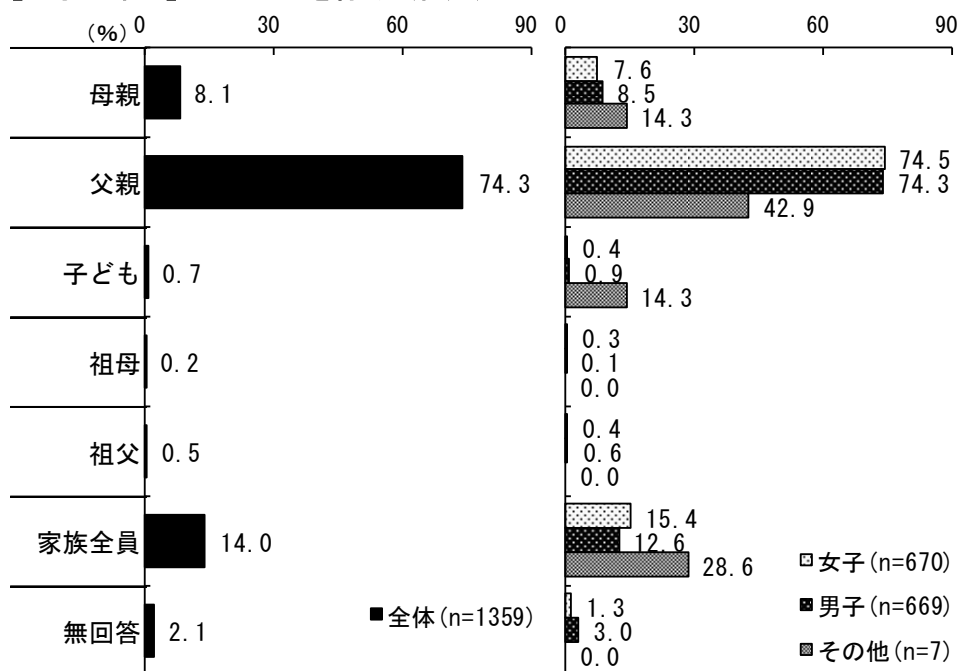
図表 223 【中学2年生】力 お金を稼ぐ（性別）



小学5年生

- 「父親」が74.3%と最も高く、次いで「家族全員」(14.0%)、「母親」(8.1%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 224 【小学5年生】力 お金を稼ぐ（性別）

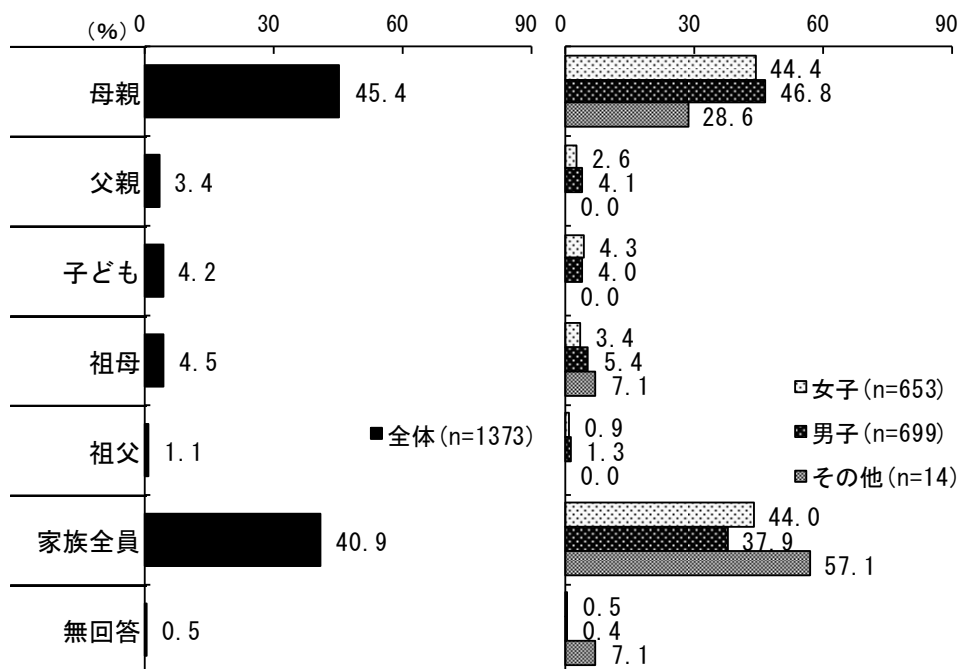


キ 子どもの世話をする

中学2年生

- 「母親」が45.4%と最も高く、次いで「家族全員」(40.9%)となっています。
- 性別では、女子で「家族全員」が44.0%と、男子より6.1ポイント高くなっています。

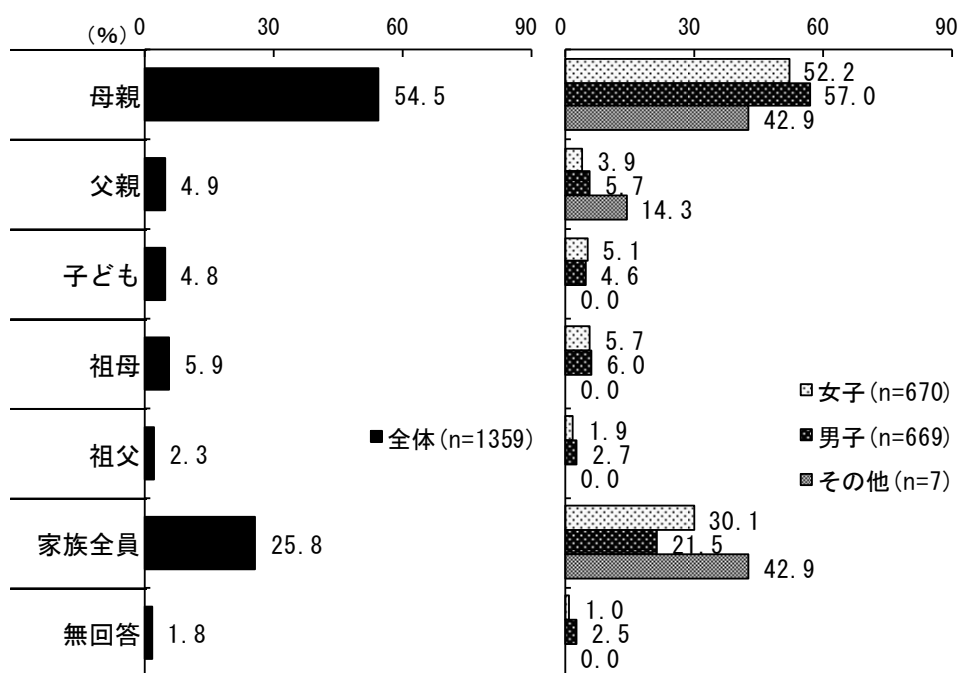
図表 225 【中学2年生】キ 子どもの世話をする（性別）



小学5年生

- 「母親」が54.5%と最も高く、次いで「家族全員」(25.8%)となっています。
- 性別では、女子で「家族全員」が30.1%と、男子より8.6ポイント高くなっています。一方で、男子で「母親」が57.0%と、女子より4.8ポイント高くなっています。

図表 226 【小学5年生】キ 子どもの世話をする（性別）



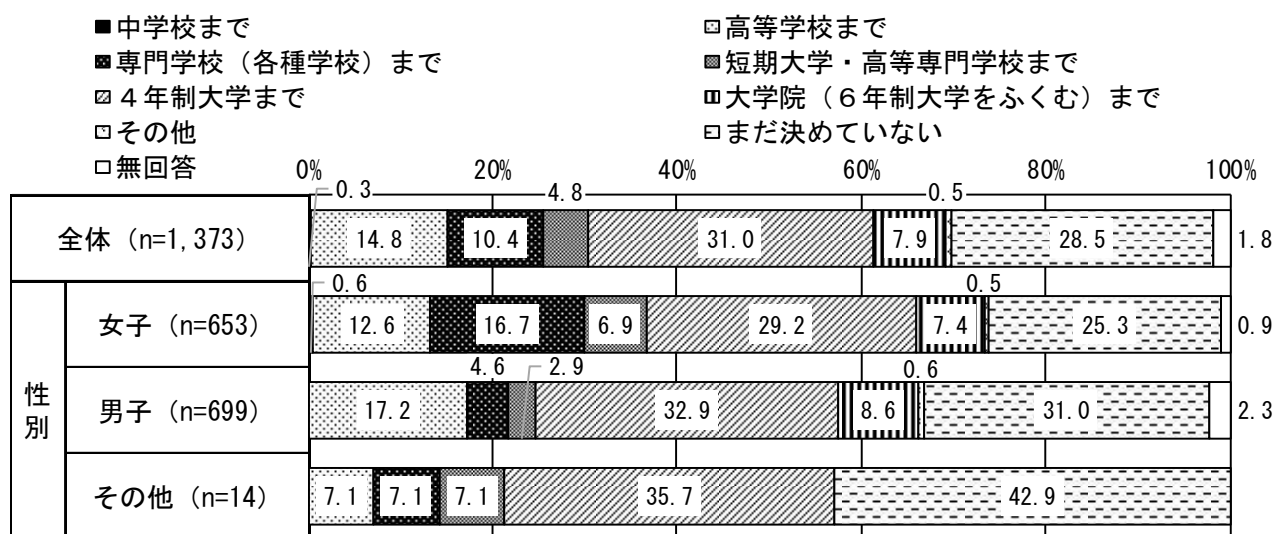
4 仕事・将来について

問 あなたは将来、どの学校まで行きたいと思いますか。（〇は1つ）

中学2年生

- 「4年制大学まで」が31.0%と最も高く、次いで「まだ決めていない」(28.5%)、「高等学校まで」(14.8%)、「専門学校（各種学校まで）」(10.4%)となっています。
- 性別では、女子で「専門学校（各種学校）まで」が16.7%と、男子より12.1ポイント高くなっています。一方で、男子で「まだ決めていない」が31.0%と、女子より5.7ポイント高くなっています。

図表 227 【中学2年生】希望する進路（性別）

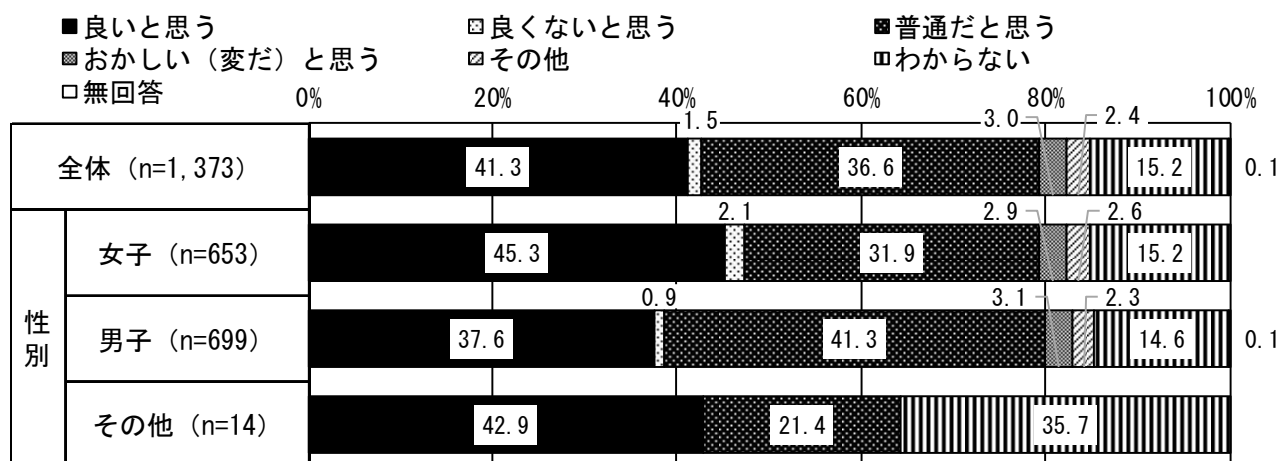


問 あなたは父親が働き、母親が家で家事をするという家庭をどう思いますか。
(○は1つ)

中学2年生

- 「良いと思う」が41.3%と最も高く、次いで「普通だと思う」(36.6%)、「わからない」(15.2%)となっています。
- 性別では、男子で「普通だと思う」が41.3%と、女子より9.4ポイント高くなっています。一方で、女子で「良いと思う」が45.3%と、男子より7.7ポイント高くなっています。

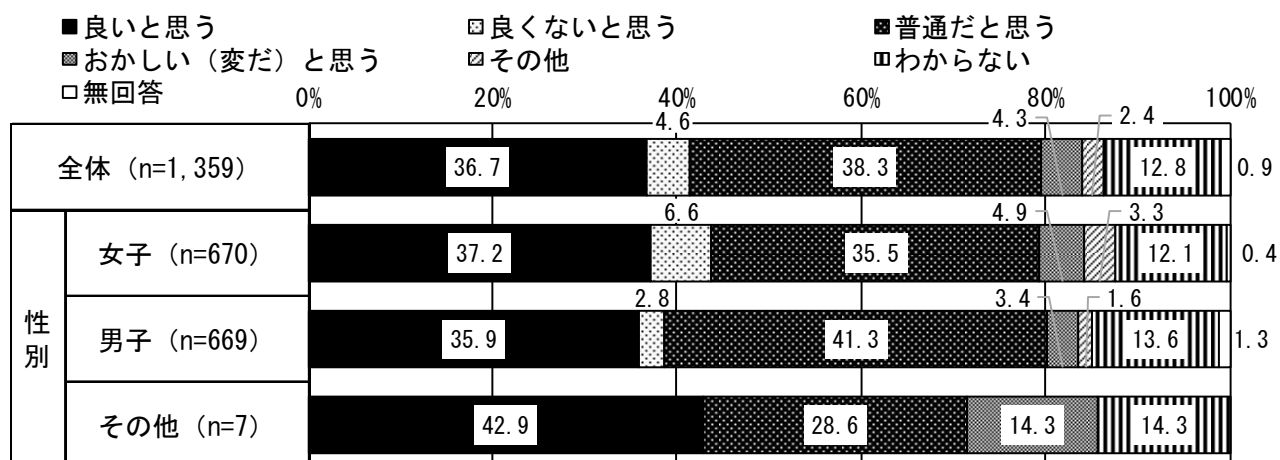
図表 228 【中学2年生】父親が働き、母親が家で家事をする家庭（性別）



小学5年生

- 「普通だと思う」が38.3%と最も高く、次いで「良いと思う」(36.7%)、「わからない」(12.8%)となっています。
- 性別では、男子で「普通だと思う」が41.3%と、女子より5.8ポイント高くなっています。

図表 229 【小学5年生】父親が働き、母親が家で家事をする家庭（性別）

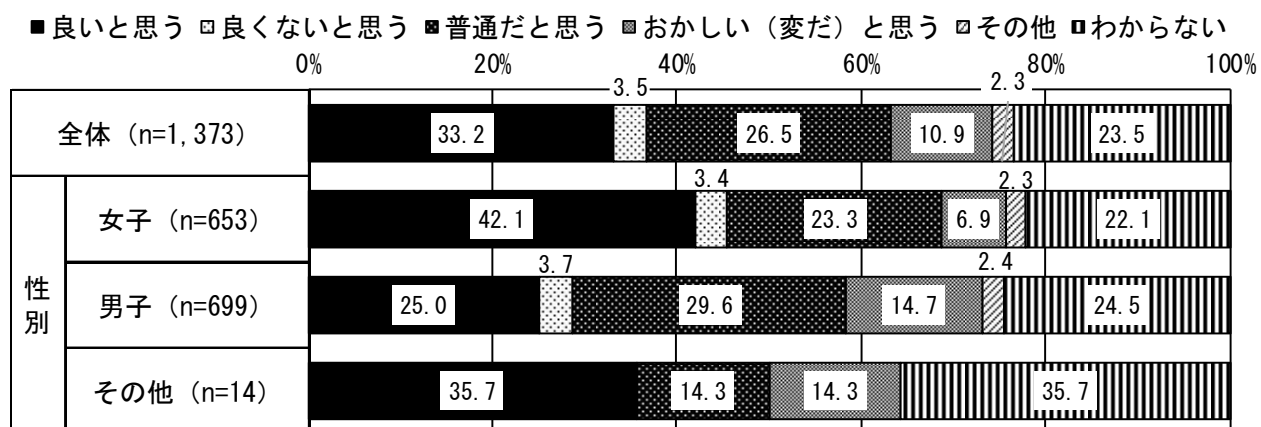


問 あなたは母親が働き、父親が家で家事をするという家庭をどう思いますか。
(○は1つ)

中学2年生

- 「良いと思う」が33.2%と最も高く、次いで「普通だと思う」(26.5%)、「わからない」(23.5%)、「おかしい(変だ)と思う」(10.9%)となっています。
- 性別では、女子で「良いと思う」が42.1%と、男子より17.1ポイント高くなっています。一方で、男子で「おかしい(変だ)と思う」が7.8ポイント、「普通だと思う」が6.3ポイント、それぞれ女子より高くなっています。

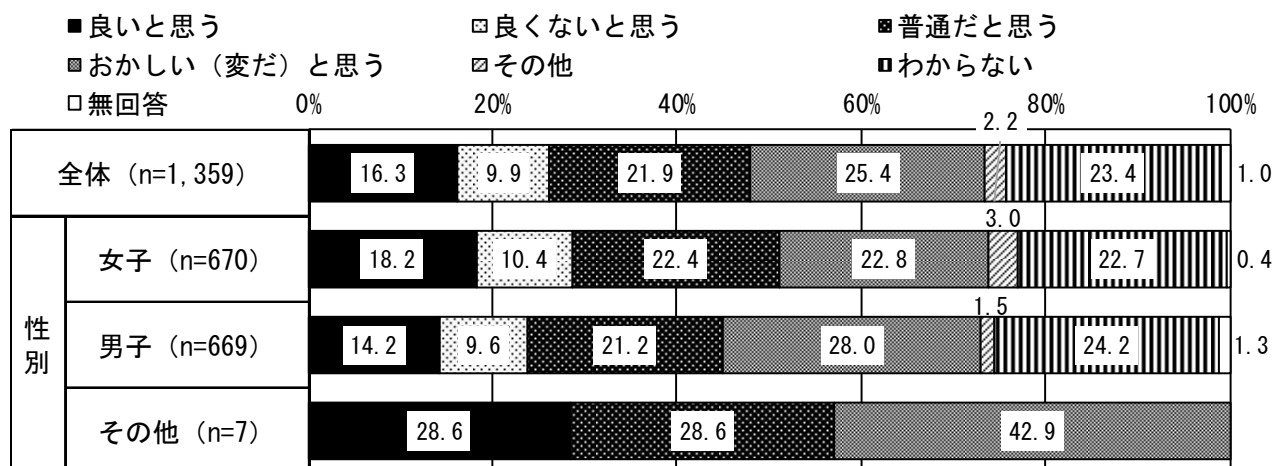
図表 230 【中学2年生】母親が働き、父親が家で家事をする家庭（性別）



小学5年生

- 「おかしい(変だ)と思う」が25.4%と最も高く、次いで「わからない」(23.4%)、「普通だと思う」(21.9%)となっています。
- 性別では、男子で「おかしい(変だ)と思う」が28.0%と、女子より5.2ポイント高くなっています。

図表 231 【小学5年生】母親が働き、父親が家で家事をする家庭（性別）

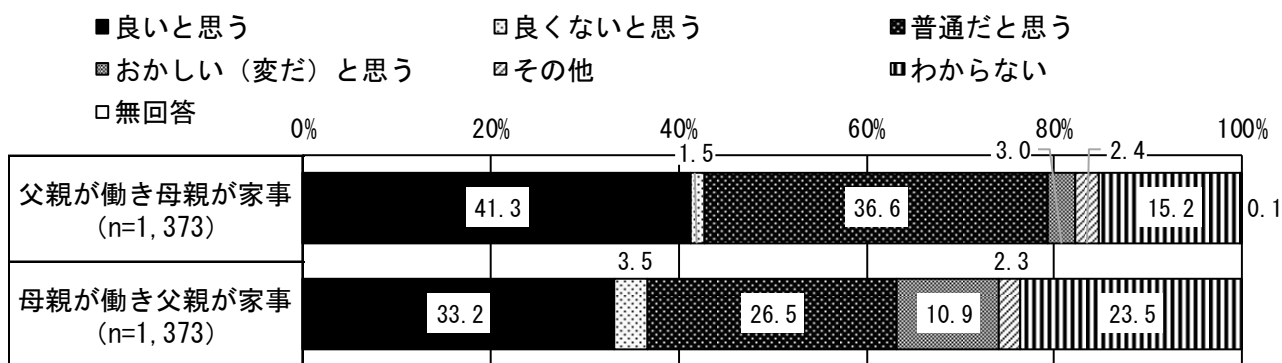


「父親が働き、母親が家事をする家庭」と「母親が働き、父親が家事をする家庭」の比較

中学2年生

- 「父親が働き母親が家事」で「普通だと思う」が10.1ポイント、「良いと思う」が8.1ポイント、それぞれ「母親が働き父親が家事」より高くなっています。
- 「母親が働き父親が家事」で「わからない」が8.3ポイント、「おかしい（変だ）と思う」が7.9ポイント、それぞれ「父親が働き母親が家事」より高くなっています。

図表 232 【中学2年生】「父親が働き、母親が家事をする家庭」と「母親が働き、父親が家事をする家庭」の比較



【中学2年生】その他意見

（「父親が働き、母親が家事をする家庭」と「母親が働き、父親が家事をする家庭」共通）

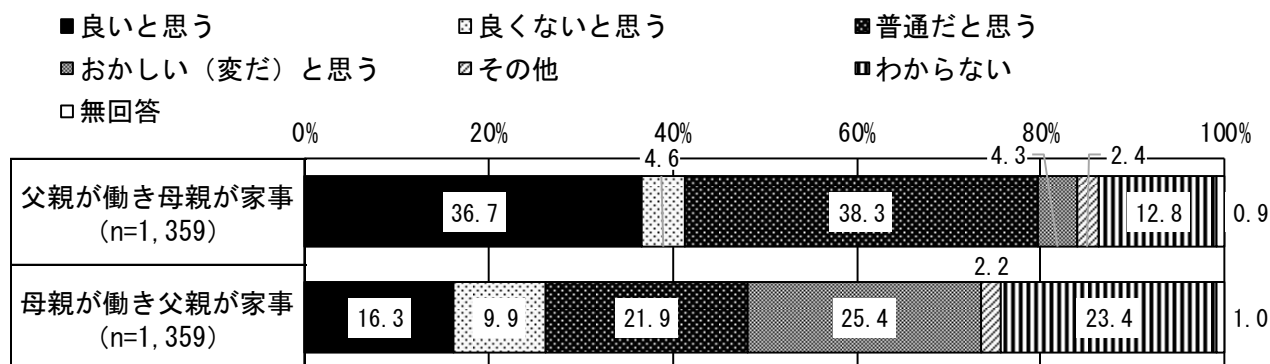
- 互いが良ければ良いと思う。
- 家庭によって変わると思う。
- なんとも思わない。
- どちらも働き、どちらも家事をする。
- おかしいと思わない。

など

小学5年生

- 「父親が働き母親が家事」で「良いと思う」が 20.4 ポイント、「普通だと思う」が 16.4 ポイント、それぞれ「母親が働き父親が家事」より高くなっています。
- 「母親が働き父親が家事」で「おかしい（変だ）と思う」が 21.1 ポイント、「わからない」が 10.6 ポイント、「良くないと思う」が 5.3 ポイント、それぞれ「父親が働き母親が家事」より高くなっています。

図表 233 【小学5年生】「父親が働き、母親が家事をする家庭」と「母親が働き、父親が家事をする家庭」の比較



【小学5年生】その他意見

（「父親が働き、母親が家事をする家庭」と「母親が働き、父親が家事をする家庭」共通）

- 共働きなどでもいいと思う。
- 人それぞれで別にいい。
- 父と母2人働いて家庭も一緒にやった方がいい。
- 残業とかはあるから男も女も交替で家事をする。
- 家族全員でする。

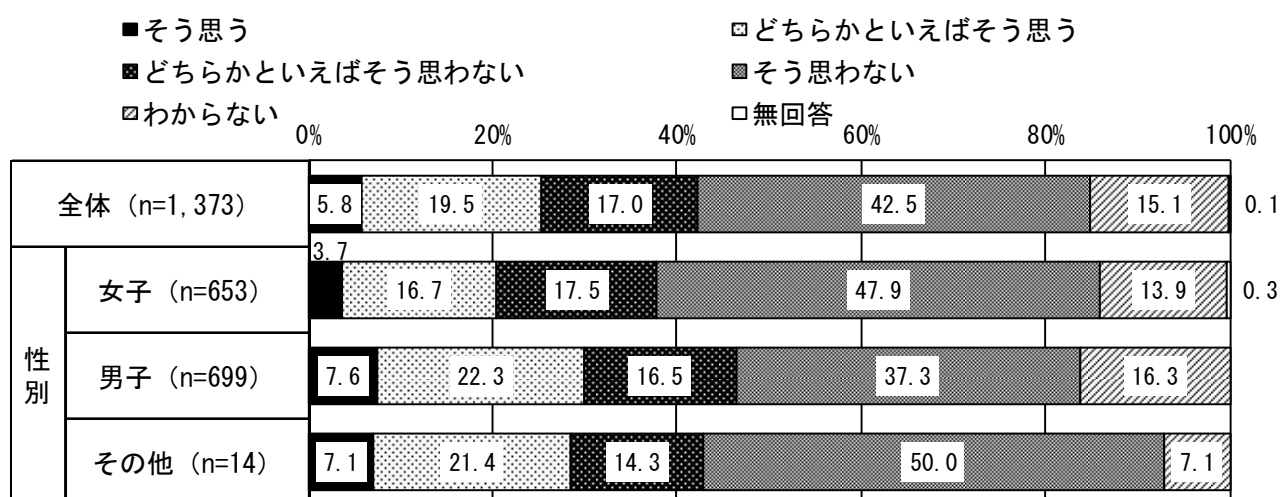
など

問 あなたは「男は仕事をして、女は家で家事・子育てをするべきだ」という性別によって役割分担をするという考え方について、どのように思いますか。（〇は1つ）

中学2年生

- 「そう思わない」が42.5%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(19.5%)、「どちらかといえばそう思わない」(17.0%)、「わからない」(15.1%)となっています。
- 性別では、女子で「そう思わない」が47.9%と、男子より10.6ポイント高くなっています。一方で、男子で「どちらかといえばそう思う」が22.3%と、女子より5.6ポイント高くなっています。

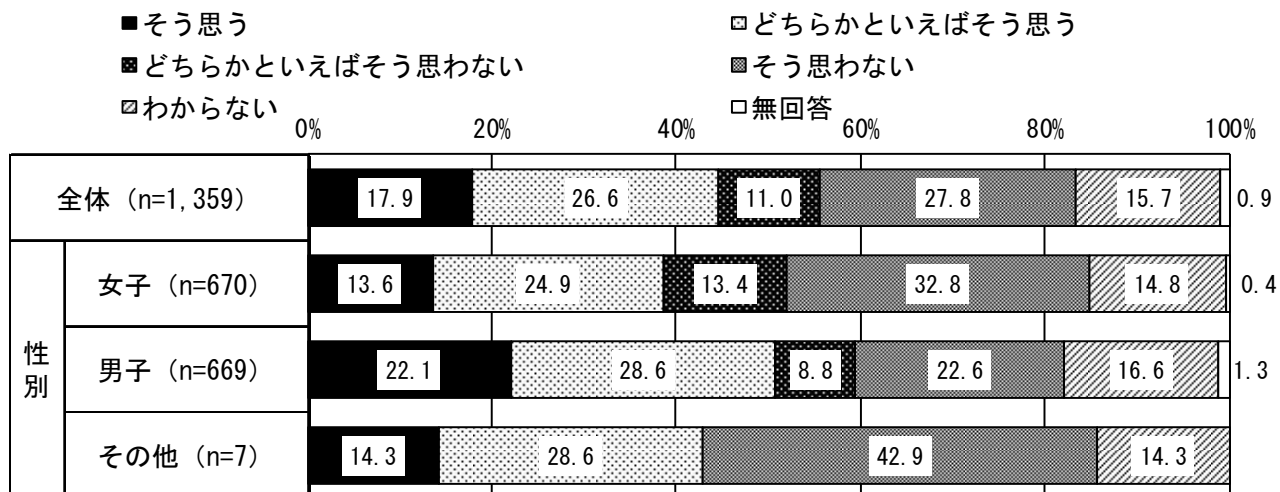
図表 234 【中学2年生】固定的な性別役割分担について（性別）



小学5年生

- 「そう思わない」が27.8%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(26.6%)、「そう思う」(17.9%)となっています。
- 性別では、女子で「そう思わない」が32.8%と、男子より10.2ポイント高くなっています。一方で、男子で「そう思う」が22.1%と、女子より8.5ポイント高くなっています。

図表 235 【小学5年生】固定的な性別役割分担について（性別）

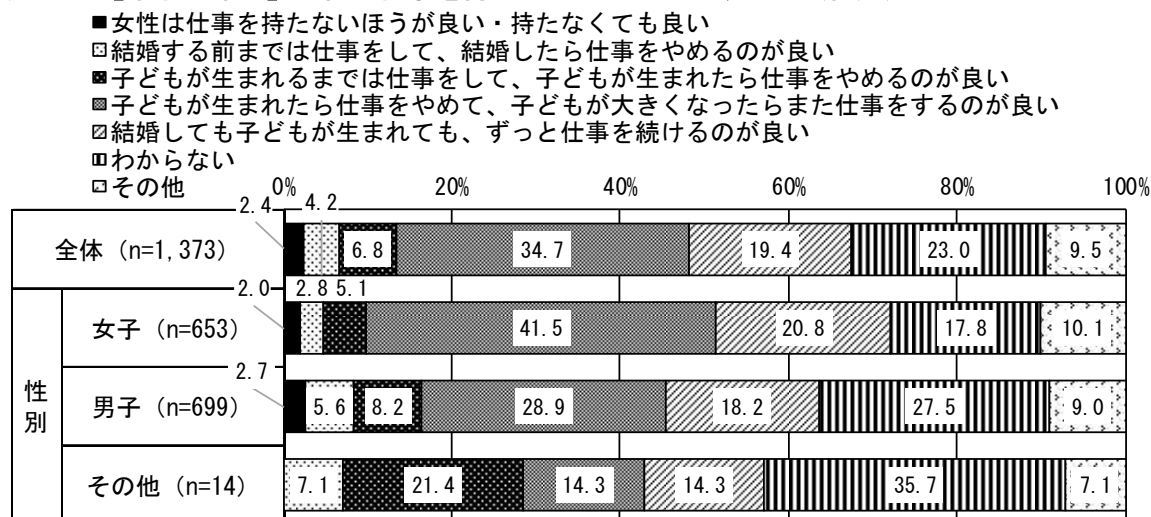


問 あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。（〇は1つ）

中学2年生

- 「子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い」が34.7%と最も高く、次いで「わからない」(23.0%)、「結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い」(19.4%)となっています。
- 性別では、女子で「子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い」が41.5%と、男子より12.6ポイント高くなっています。一方で、男子で「わからない」が27.5%と、女子より9.7ポイント高くなっています。

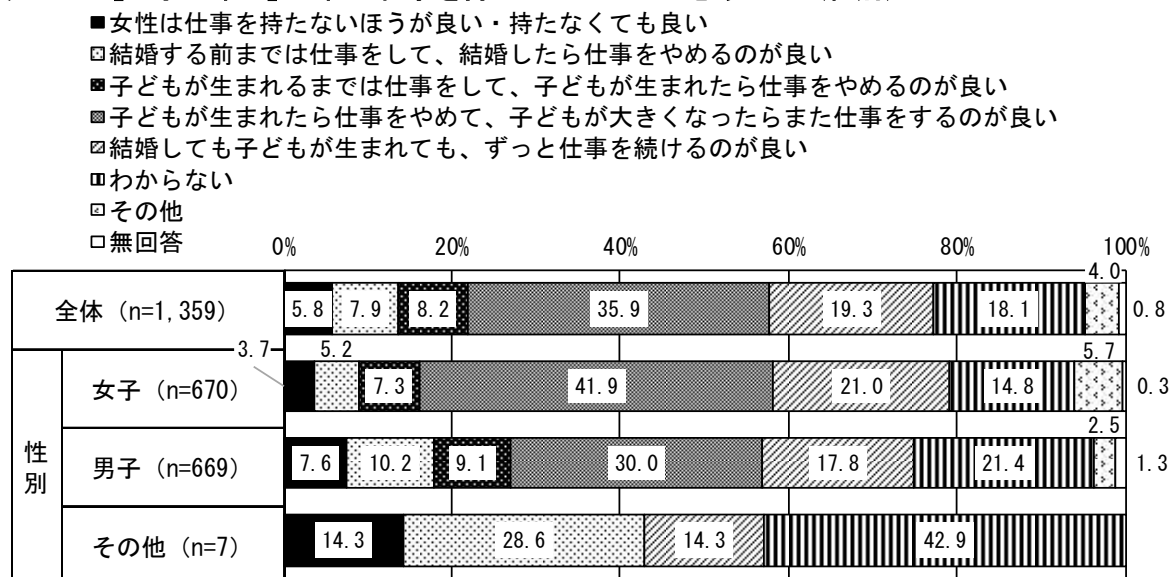
図表 236 【中学2年生】女性が仕事を持つことについて思うこと（性別）



小学5年生

- 「子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い」が35.9%と最も高く、次いで「結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い」(19.3%)、「わからない」(18.1%)となっています。
- 性別では、女子で「子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い」が41.9%と、男子より11.9ポイント高くなっています。一方で、男子で「わからない」が6.6ポイント、「結婚する前までは仕事をして、結婚したら仕事をやめるのが良い」が5.0ポイント、それぞれ女子より高くなっています。

図表 237 【小学5年生】女性が仕事を持つことについて思うこと（性別）

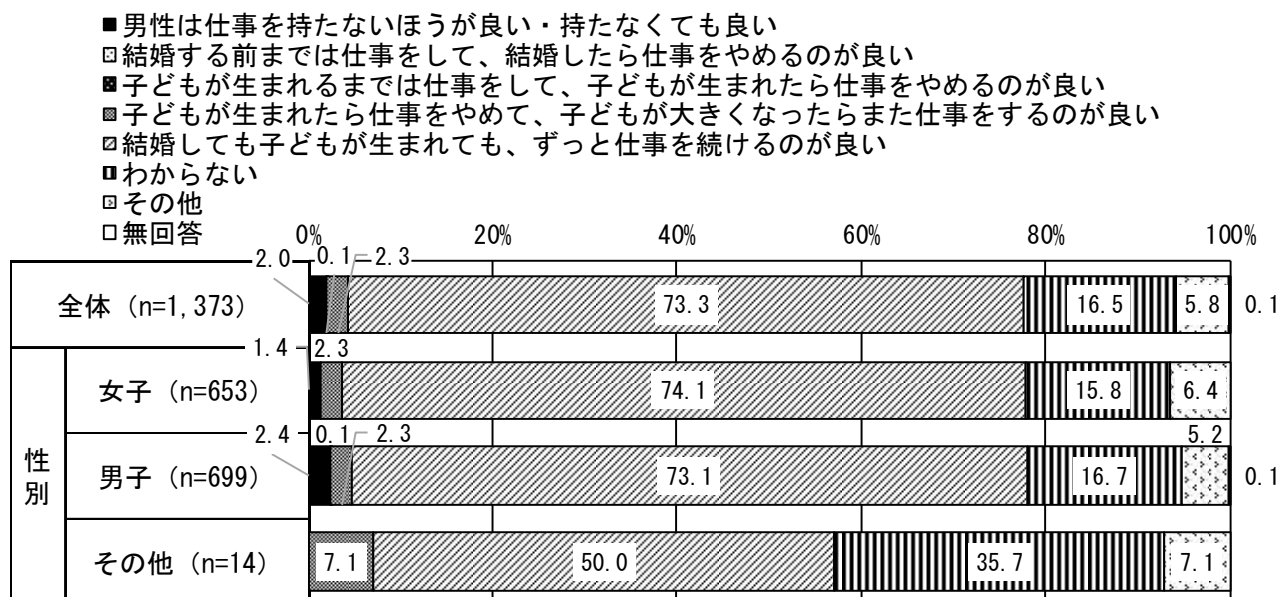


問 あなたは、男性が仕事を持つことについてどう思いますか。（○は1つ）

中学2年生

- 「結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い」が 73.3%と最も高く、次いで「わからない」(16.5%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

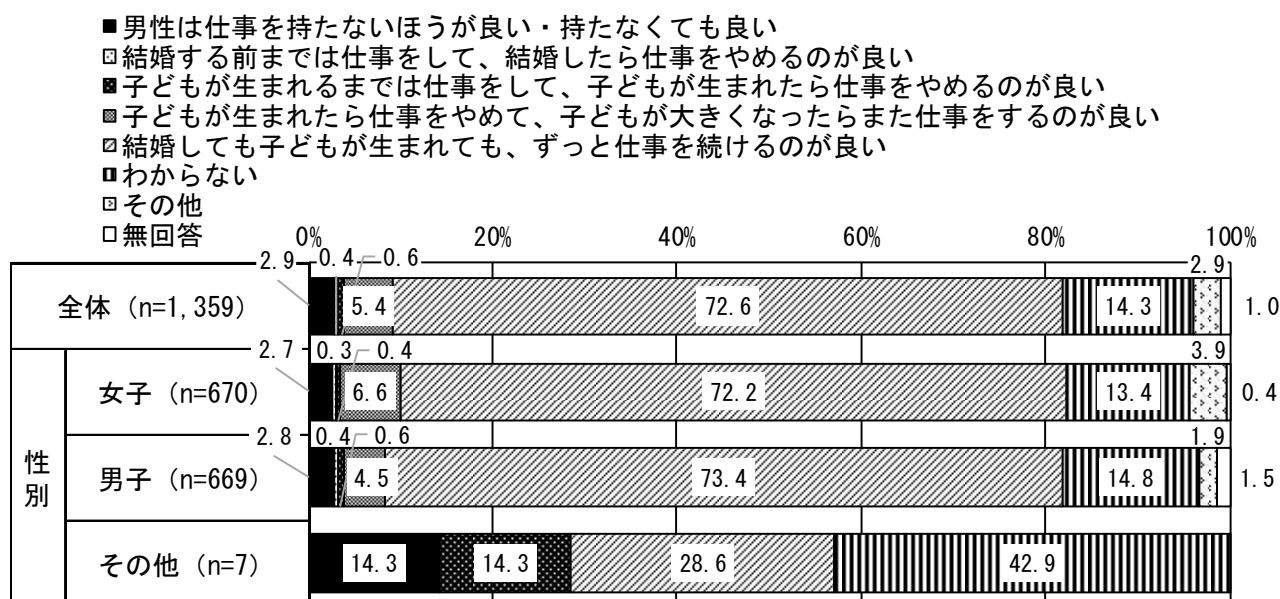
図表 238 【中学2年生】男性が仕事を持つことについて思うこと（性別）



小学5年生

- 「結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い」が 72.6%と最も高く、次いで「わからない」(14.3%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 239 【小学5年生】男性が仕事を持つことについて思うこと（性別）

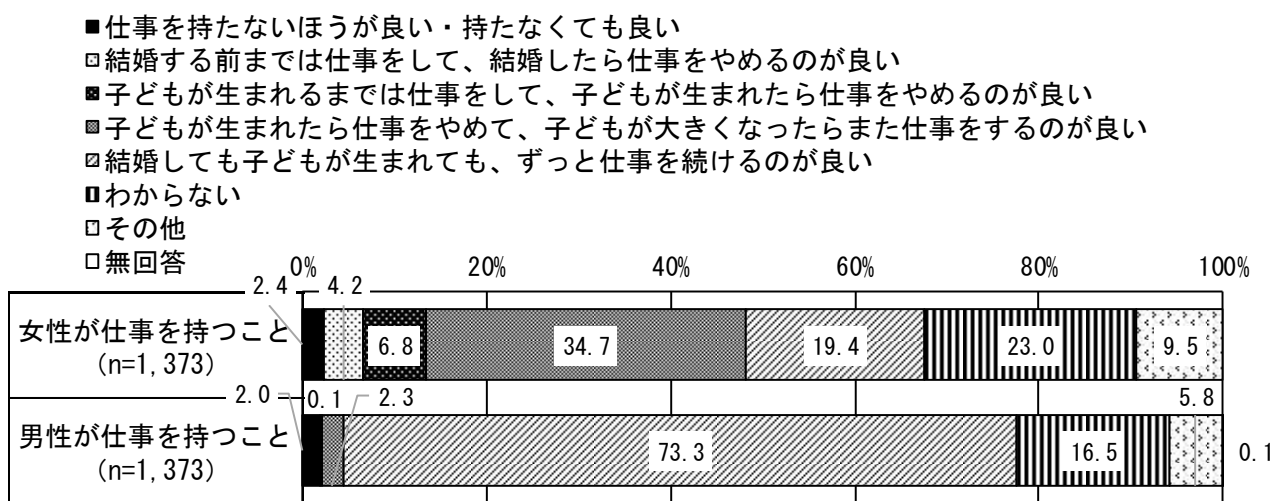


「女性が仕事を持つこと」と「男性が仕事を持つこと」の比較

中学2年生

- 「女性が仕事を持つこと」で、「子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い」が 32.4 ポイント、「子どもが生まれるまでは仕事をして、子どもが生まれたら仕事をやめるのが良い」が 6.8 ポイント、「わからない」が 6.5 ポイント、それぞれ「男性が仕事を持つこと」より高くなっています。
- 「男性が仕事を持つこと」で、「結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い」が 73.3%と、「女性が仕事を持つこと」より 53.9 ポイント高くなっています。

図表 240 【中学2年生】「女性が仕事を持つこと」と「男性が仕事を持つこと」の比較



【中学2年生】その他意見（「女性が仕事を持つこと」と「男性が仕事を持つこと」共通）

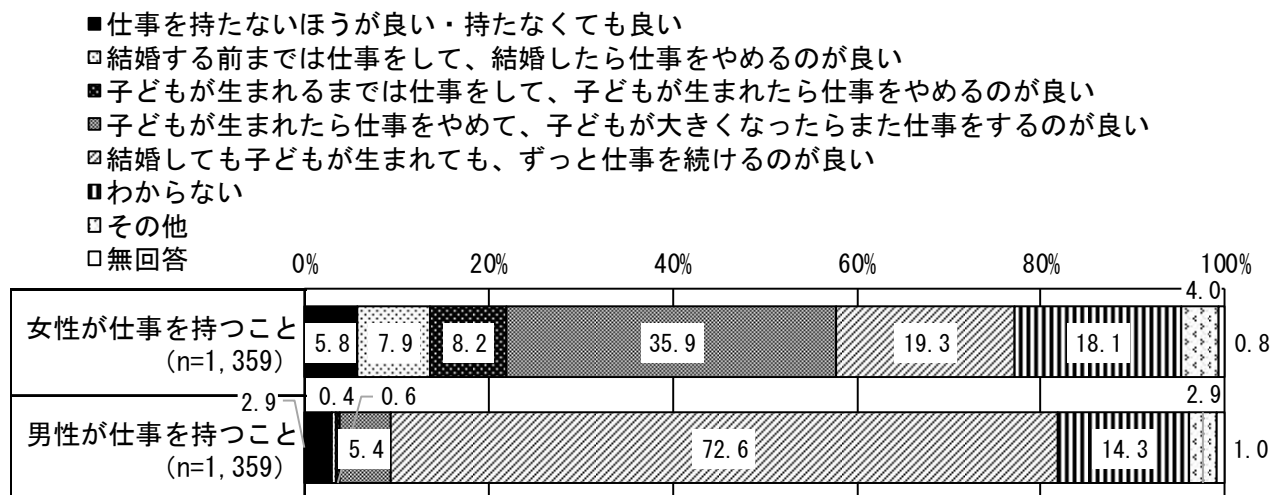
- 自分のやりたいようにすればいいと思う。
- 状況に応じて仕事をすればいい。
- 自分が辞めたいときに仕事を辞めるのが良い。
- それぞれの家庭で決めること。
- 子どもがいる、いない関係なく、本人の意思を尊重すべき。
- （子どもが生まれた場合）子育てと仕事が両立できるのであれば、仕事を持ってよいと思う。けれど、どちらかがおろそかになってしまうのであれば、持たない方がよいと思う。
- 女だから～とか男だから～とかそういうのは関係ないと思う。

など

小学5年生

- 「女性が仕事を持つこと」で、「子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い」が 30.5 ポイント、「子どもが生まれるまでは仕事をして、子どもが生まれたら仕事をやめるのが良い」が 7.6 ポイント、「結婚する前までは仕事をして、結婚したら仕事をやめるのが良い」が 7.5 ポイント、それぞれ「男性が仕事を持つこと」より高くなっています。
- 「男性が仕事を持つこと」で、「結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い」が 72.6%と、「女性が仕事を持つこと」より 53.3 ポイント高くなっています。

図表 241 【小学5年生】「女性が仕事を持つこと」と「男性が仕事を持つこと」の比較



【小学5年生】その他意見（「女性が仕事を持つこと」について）

- 子どもが生まれたら仕事を辞めて、子どもに仕事をして今の生活ができるかを聞き、できると言ったら仕事をする。
- 子どもが学校に行っている間に仕事に行き、帰ってくるときに帰ってくる。
- 子どもが生まれて辛かったら休めばいいと思う。
- 仕事を短くする。
- 育休を取って、保育園か幼稚園に入れるぐらいで戻ればいいと思う。

など

【小学5年生】その他意見（「男性が仕事を持つこと」について）

- 仕事をどうしても辛いと思ったら辞めて、歳を取りすぎていなかったらもう一度仕事に就く。
- 子どもが生まれたら休みを多くとって、仕事を続けるのがいい。
- 少しは家事育児を女性と分け合うべき。
- 仕事を終えるのが3時や4時などの、子どもと触れ合える時間を作った方がいいと思います。

など

【小学5年生】その他意見（「女性が仕事を持つこと」と「男性が仕事を持つこと」共通）

- 自分が辞めたいときに辞めて、またやりたくなったらやればいい（自由）。
- 自分の好きなようにすればいいと思う。
- 子どもが生まれたら仕事の時間を変えて、子どもを家に1人にしないのが良い。
- 2人で仕事して、2人で協力して子育てをしたらいいと思う。

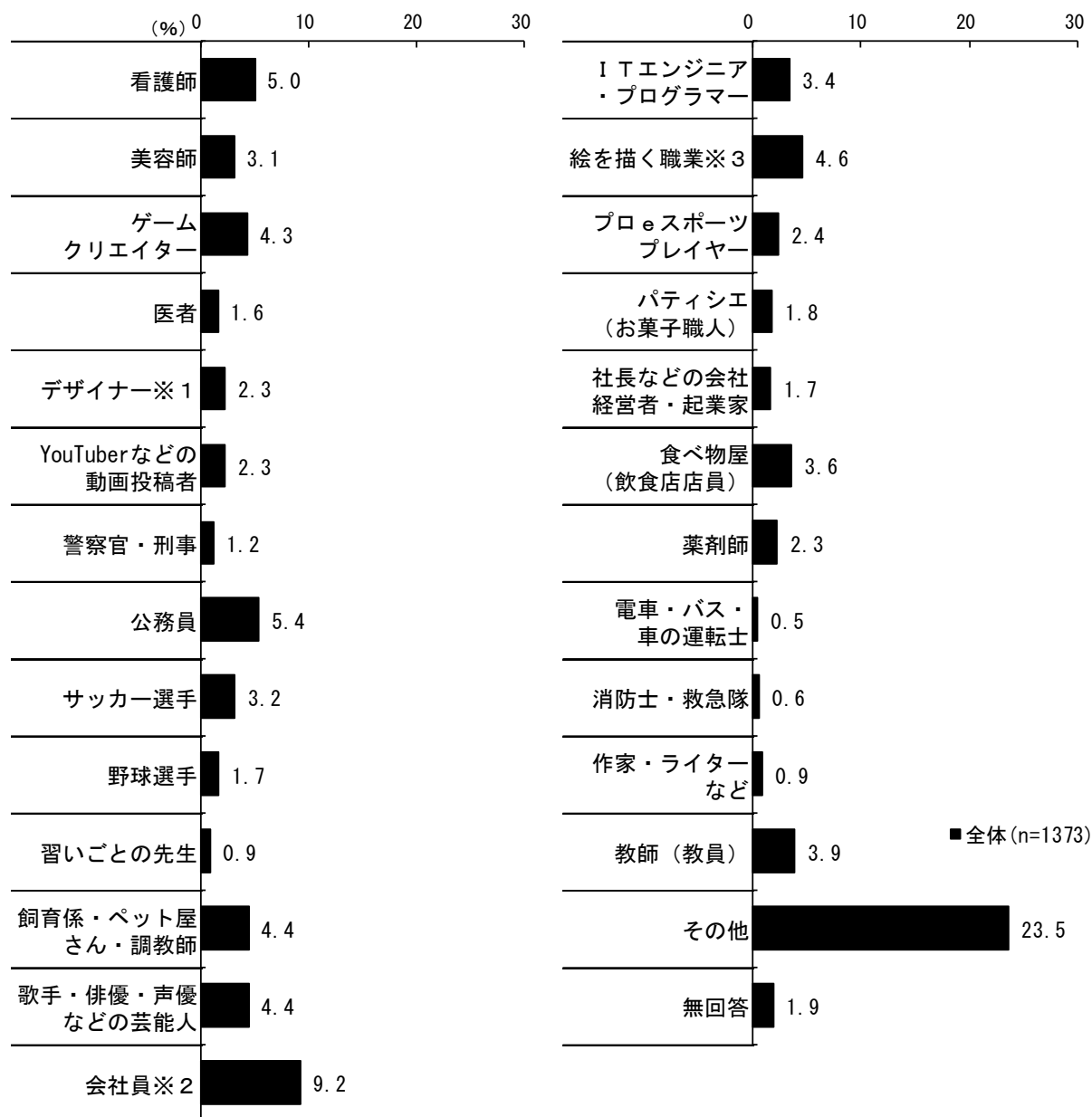
など

問 あなたは将来、どんな仕事につきたいと考えていますか。(〇は1つ)

中学2年生

- 「その他」を除くと、「会社員」が 9.2%と最も高く、次いで「公務員」(5.4%)、「看護師」(5.0%) となっています。

図表 242 【中学2年生】将来つきたい仕事



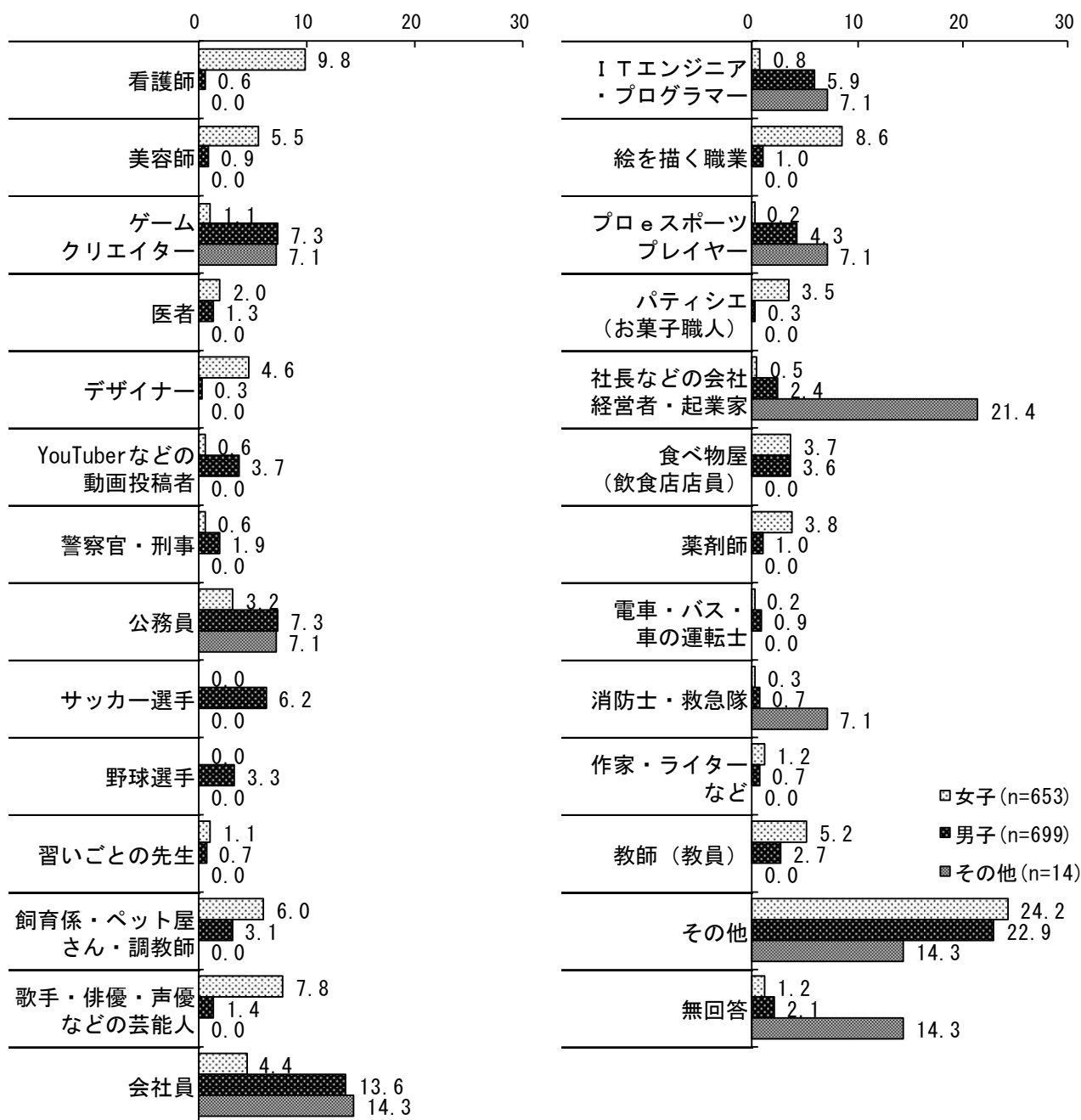
※1 ファッション・インテリア ※2 サラリーマン・OL
 ※3 漫画家・イラストレーター・アニメーター

【中学2年生】その他意見

- まだ決まっていない。
- 保育士
- 管理栄養士
- 整備士
- 獣医師
- 建築関係(大工、建築家)
- 航空関係(パイロット、CA)
- スポーツ選手(バレー、バスケなど)
- 歯科衛生士
- など

- 性別では、「その他」を除くと、女子で「看護師」が 9.8%と最も高く、次いで「絵を描く職業」(8.6%)、「歌手・俳優・声優などの芸能人」(7.8%)、「飼育係・ペット屋さん・調教師」(6.0%)となっています。一方で、男子で「会社員」が 13.6%と最も高く、次いで「ゲームクリエイター」「公務員」(ともに 7.3%)、「サッカー選手」(6.2%)となっています。

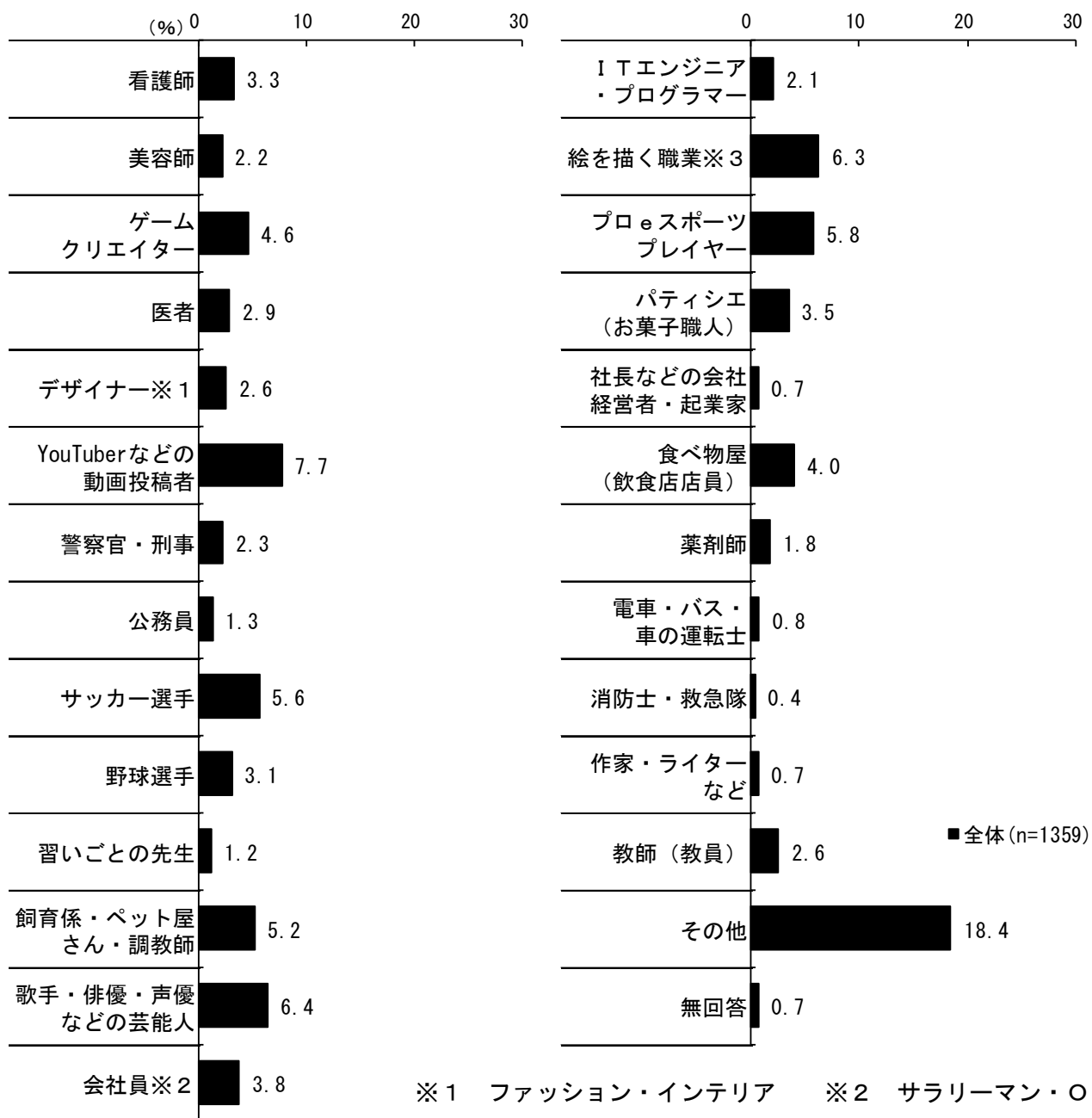
図表 243 【中学2年生】将来つきたい仕事（性別）



小学5年生

- 「その他」を除くと、「YouTuber などの動画投稿者」が7.7%と最も高く、次いで「歌手・俳優・声優などの芸能人」(6.4%)、「絵を描く職業」(6.3%)となっています。

図表 244 【小学5年生】将来つきたい仕事



※1 ファッション・インテリア ※2 サラリーマン・OL

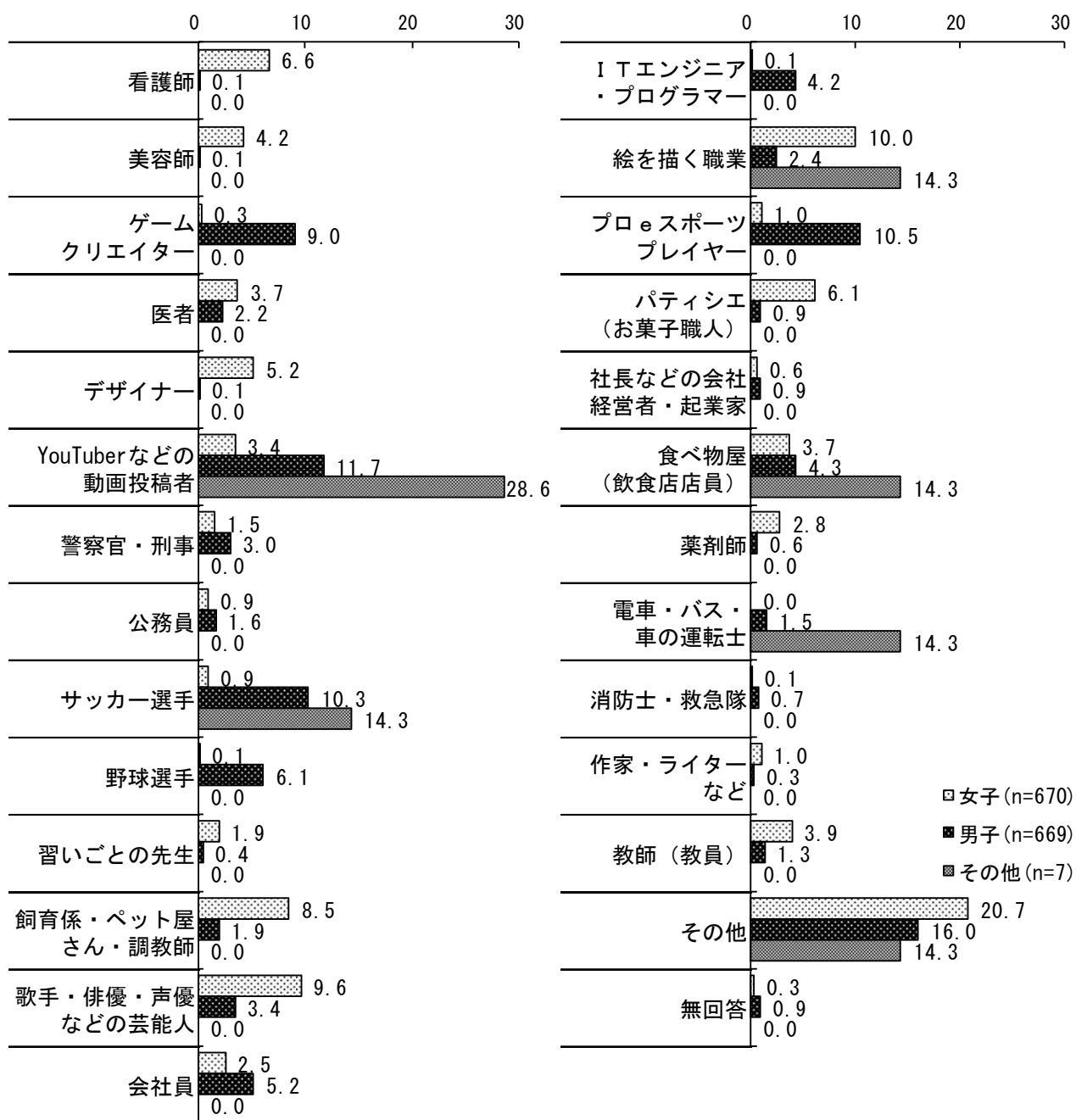
※3 漫画家・イラストレーター・アニメーター

【小学5年生】その他意見

- まだ決まっていない。
- 保育士・幼稚園の先生
- テーマパークのスタッフ
- スポーツ選手 (バスケットボール、テニス、バレーなど)
- 建築関係 (大工・建築家)
- ネイリスト
- アナウンサー
- 水族館飼育員 など

- 性別では、「その他」を除くと、女子で「絵を描く職業」が10.0%と最も高く、次いで「歌手・俳優・声優などの芸能人」(9.6%)、「飼育係・ペット屋さん・調教師」(8.5%)となっています。一方で、男子で「YouTuberなどの動画投稿者」が11.7%と最も高く、次いで「プロeスポーツプレイヤー」(10.5%)、「サッカー選手」(10.3%)となっています。

図表 245 【小学5年生】将来つきたい仕事（性別）

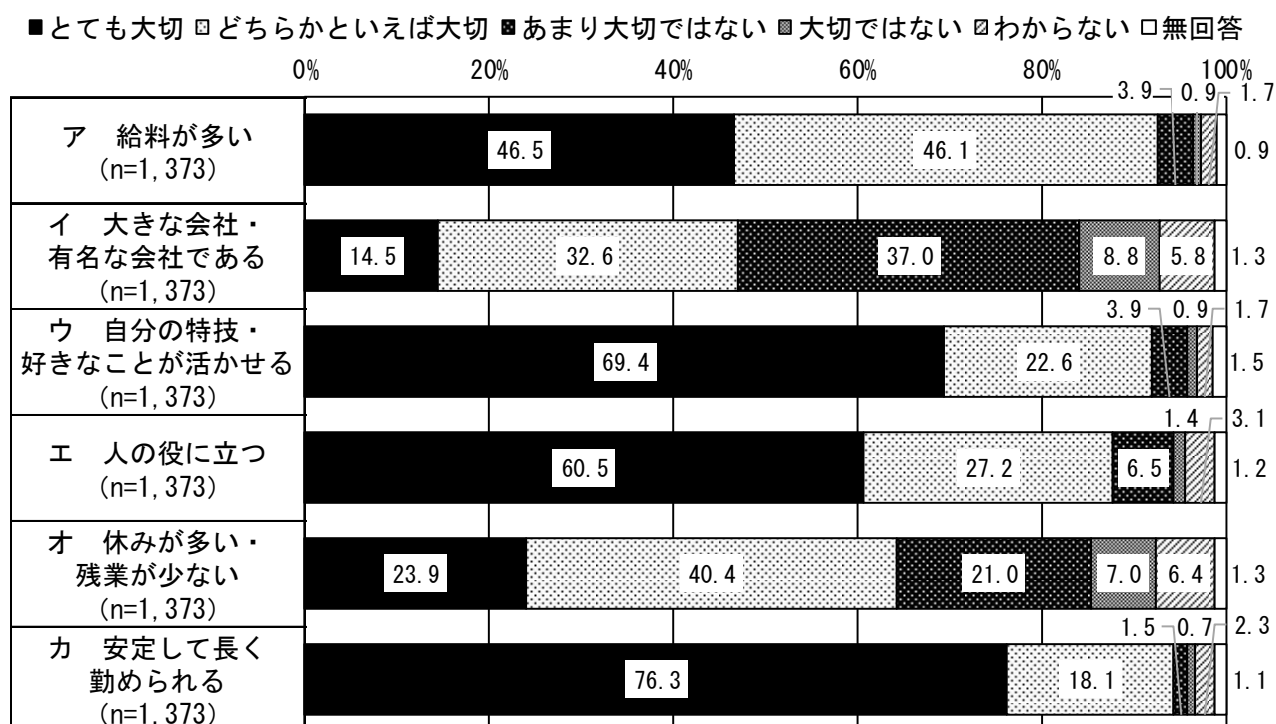


問 職業を選ぶとしたら、あなたは次のようなことをどれくらい大切に考えますか。
(○はそれぞれ1つ)

中学2年生

- “大切に考える(「とても大切」+「どちらかといえば大切」)”をみると、「ア 給料が多い」「ウ 自分の特技・好きなことが活かせる」「カ 安定して長く勤められる」が9割以上となっています。
- “大切に考えない(「大切ではない」+「あまり大切ではない」)”をみると、「イ 大きな会社・有名な会社である」が45.8%と最も高く、次いで「オ 休みが多い・残業が少ない」(28.0%)となっています。

図表 246 【中学2年生】職業選択のポイント

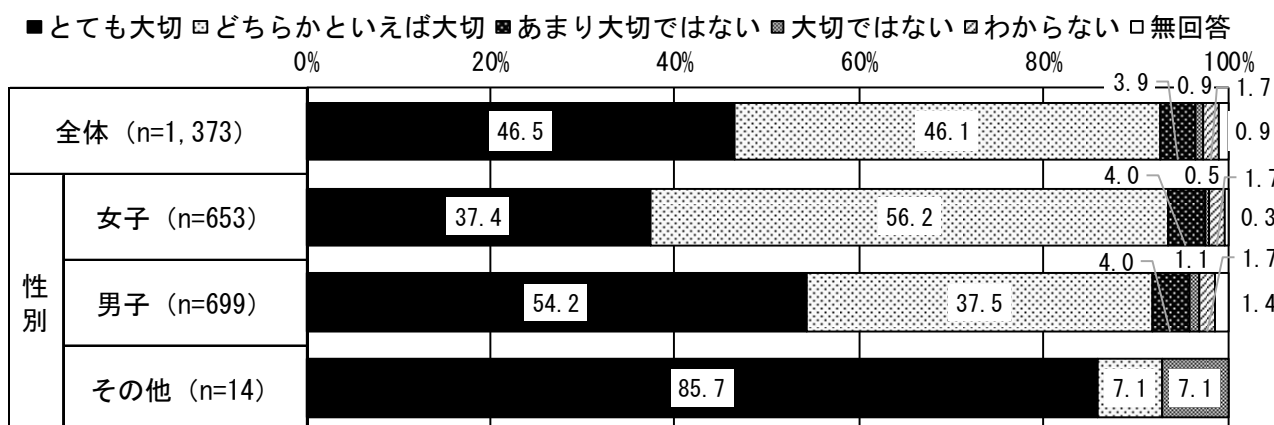


ア 給料が多い

中学2年生

- 「とても大切」が46.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば大切」(46.1%)となっています。
- 性別では、女子で「どちらかといえば大切」が56.2%、男子で「とても大切」が54.2%と、それぞれ最も高くなっています。

図表 247 【中学2年生】ア 給料が多い（性別）

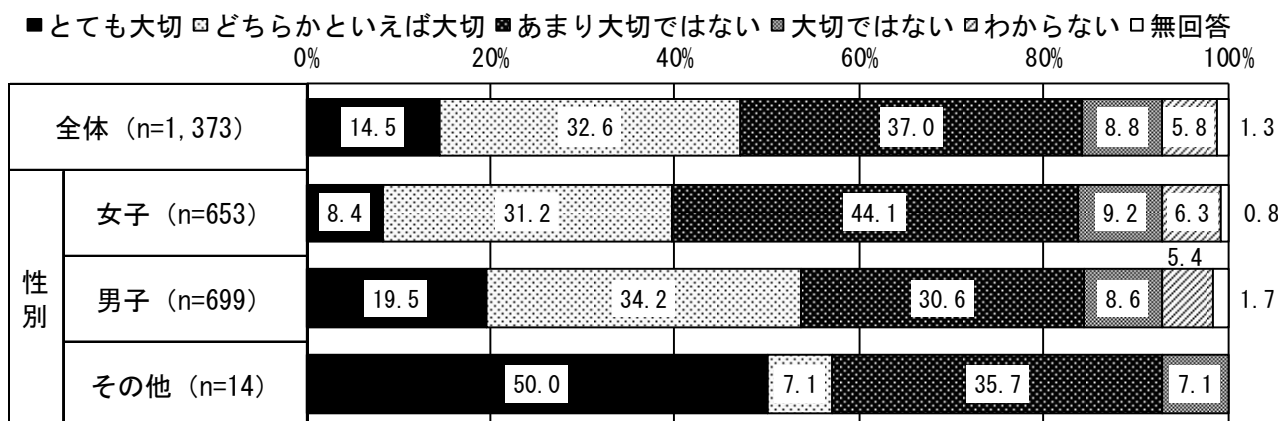


イ 大きな会社・有名な会社である

中学2年生

- 「あまり大切ではない」が37.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば大切」(32.6%)、「とても大切」(14.5%)となっています。
- 性別では、女子で「あまり大切ではない」が44.1%と、男子より13.5ポイント高くなっています。一方で、男子で「とても大切」が19.5%と、女子より11.1ポイント高くなっています。

図表 248 【中学2年生】イ 大きな会社・有名な会社である（性別）

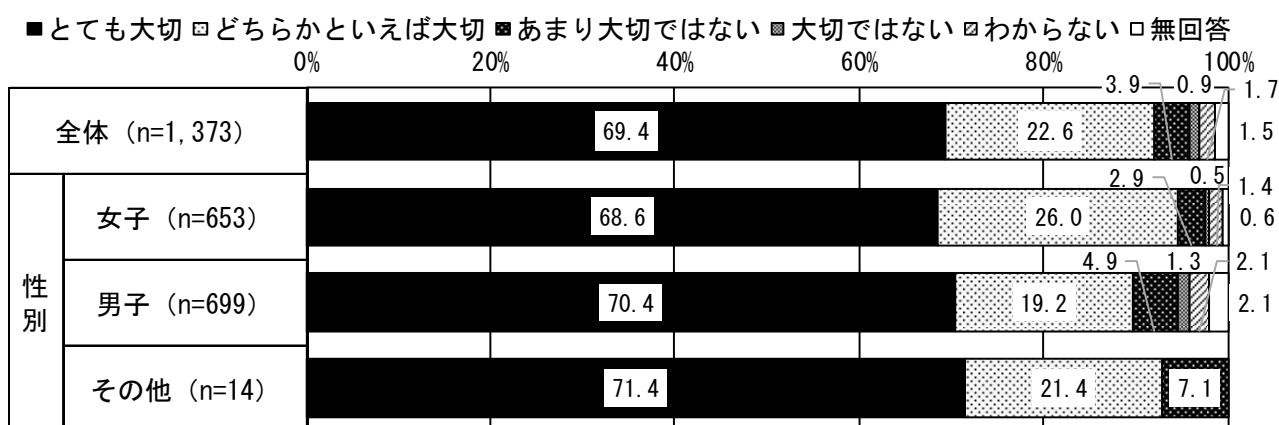


ウ 自分の特技・好きなことが活かせる

中学2年生

- 「とても大切」が69.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば大切」(22.6%)となっています。
- 性別では、女子で「どちらかといえば大切」が26.0%と、男子より6.8ポイント高くなっています。

図表 249 【中学2年生】ウ 自分の特技・好きなことが活かせる（性別）

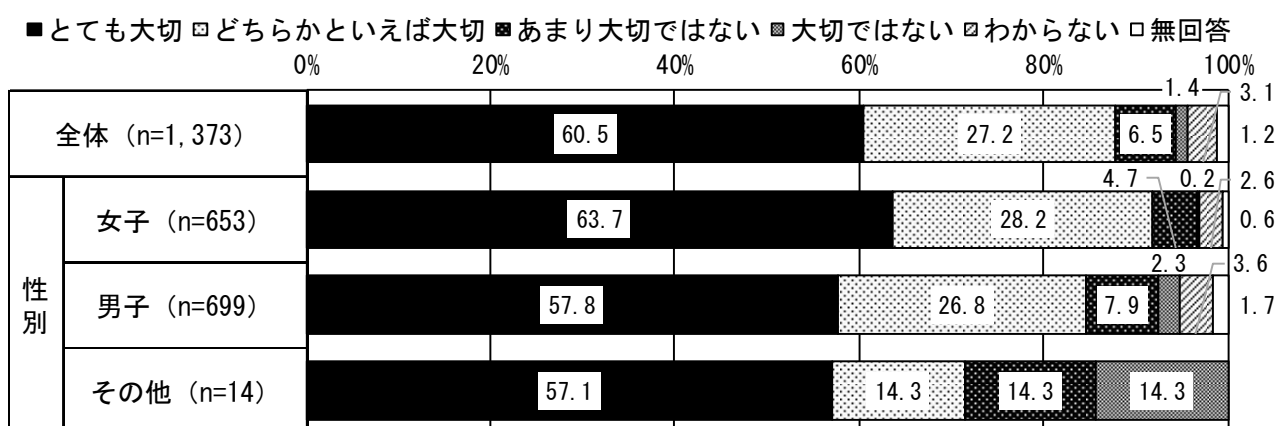


エ 人の役に立つ

中学2年生

- 「とても大切」が60.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば大切」(27.2%)となっています。
- 性別では、女子で「とても大切」が63.7%と、男子より5.9ポイント高くなっています。

図表 250 【中学2年生】エ 人の役に立つ（性別）

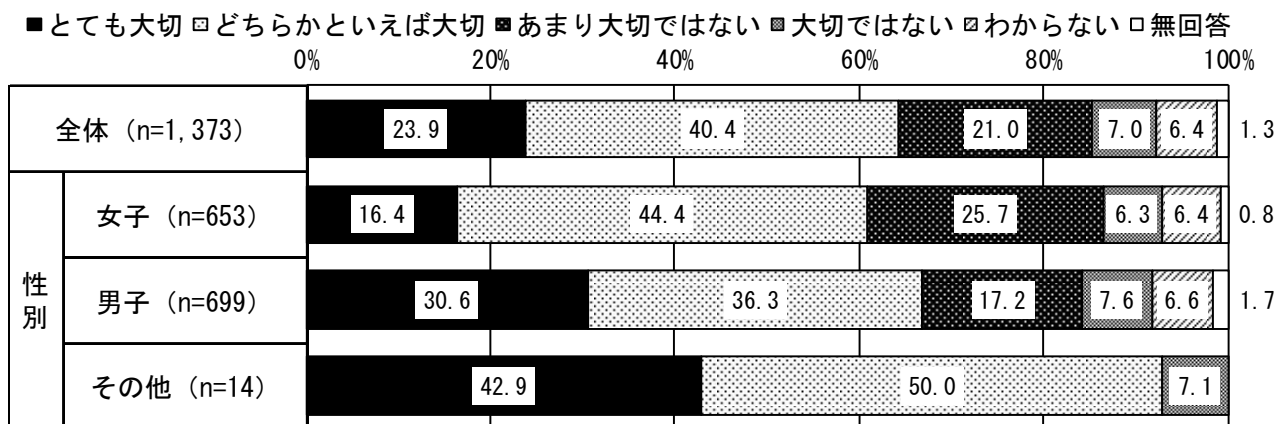


オ 休みが多い・残業が少ない

中学2年生

- 「どちらかといえば大切」が40.4%と最も高く、次いで「とても大切」(23.9%)、「あまり大切ではない」(21.0%)となっています。
- 性別では、男子で「とても大切」が30.6%と、女子より14.2ポイント高くなっています。一方で、女子で「あまり大切ではない」が8.5ポイント、「どちらかといえば大切」が8.1ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

図表 251 【中学2年生】オ 休みが多い・残業が少ない（性別）

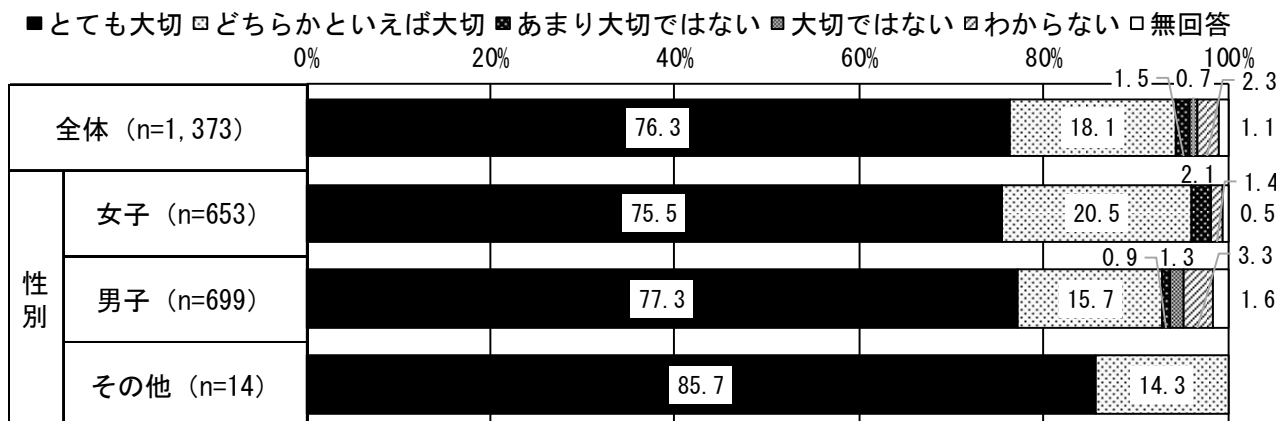


カ 安定して長く勤められる

中学2年生

- 「とても大切」が76.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば大切」(18.1%)となっています。
- 性別では、女子で「どちらかといえば大切」が20.5%と、男子より4.8ポイント高くなっています。

図表 252 【中学2年生】カ 安定して長く勤められる（性別）



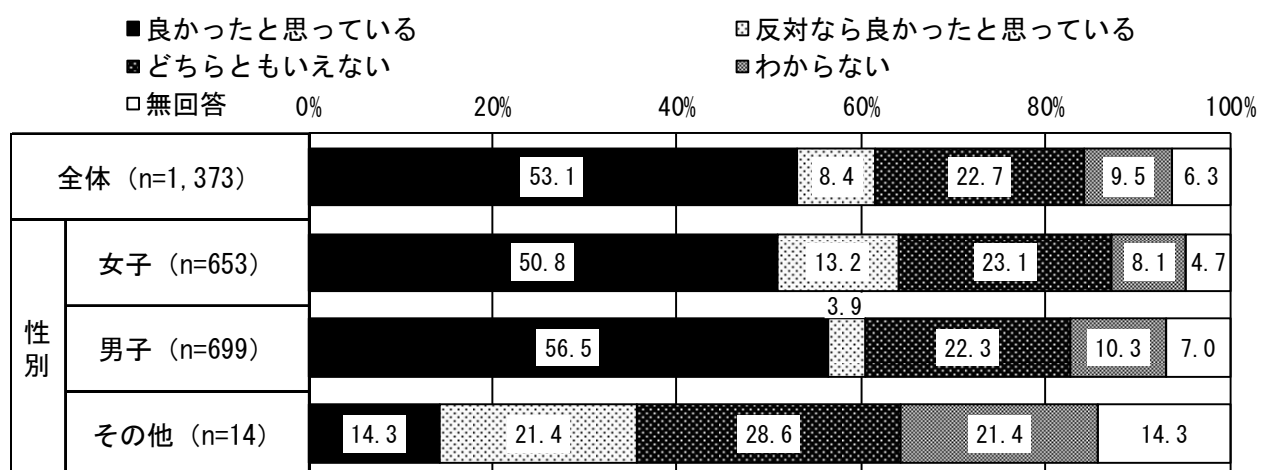
5 性別・男女の平等意識について

問 あなたは、自分が女性または男性に生まれたことをどう思いますか。（〇は1つ）

中学2年生

- 「良かったと思っている」が 53.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」(22.7%)となっています。
- 性別では、女子で「反対なら良かったと思っている」が 13.2%と、男子より 9.3 ポイント高くなっています。一方で、男子で「良かったと思っている」が 56.5%と、女子より 5.7 ポイント高くなっています。

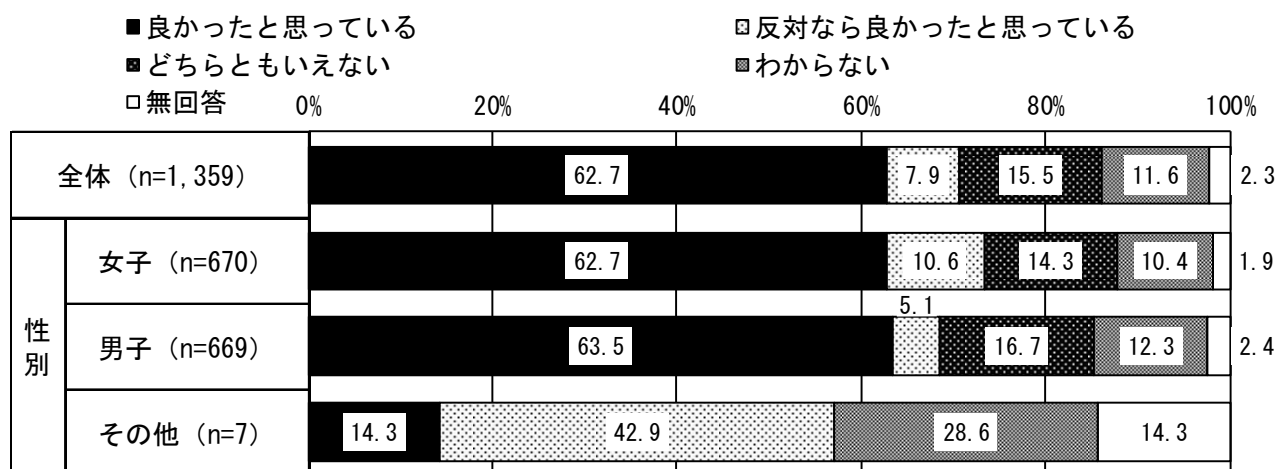
図表 253 【中学2年生】自分の出生時の性別について（性別）



小学5年生

- 「良かったと思っている」が 62.7%と最も高く、次いで「どちらともいえない」(15.5%)となっています。
- 性別では、女子で「反対なら良かったと思っている」が 10.6%と、男子より 5.5 ポイント高くなっています。

図表 254 【小学5年生】自分の出生時の性別について（性別）



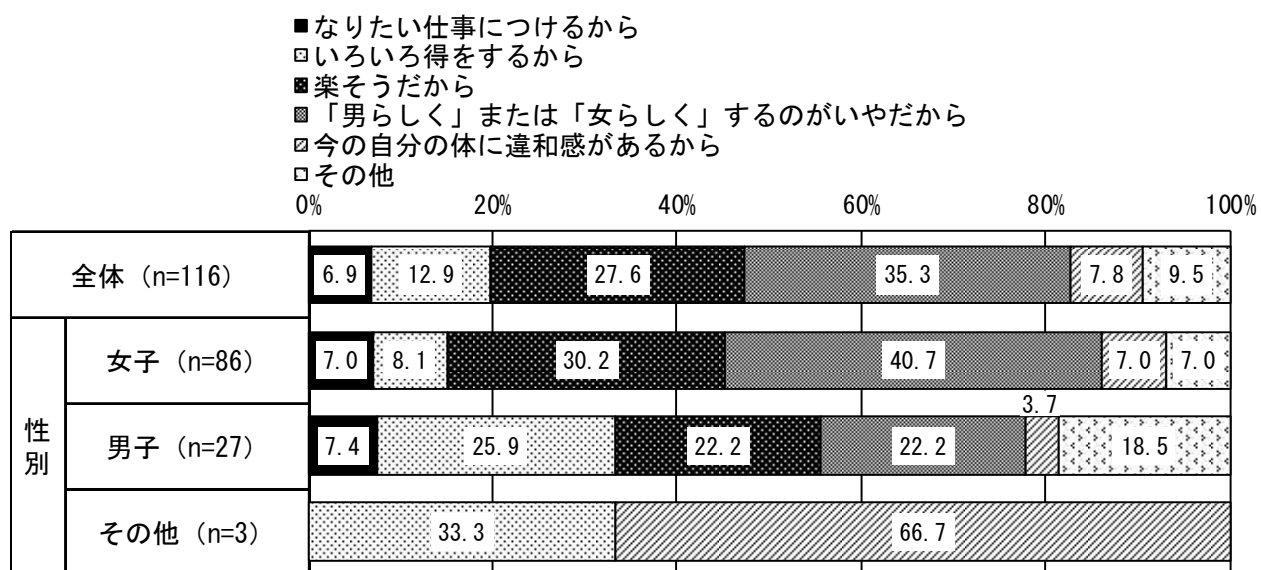
「反対なら良かったと思っている」に○をつけた人

問 理由は何か。(○は1つ)

中学2年生

- 『男らしく』または『女らしく』するのがいやだから」が 35.3%と最も高く、次いで「楽そうだから」(27.6%)、「いろいろ得をするから」(12.9%) となっています。
- 性別では、女子で『男らしく』または『女らしく』するのがいやだから」が 40.7%、男子で「いろいろ得をするから」が 25.9%と、それぞれ最も高くなっています。

図表 255 【中学2年生】出生時の性別と異なる性別が良かったと思う理由（性別）



【中学2年生】その他意見

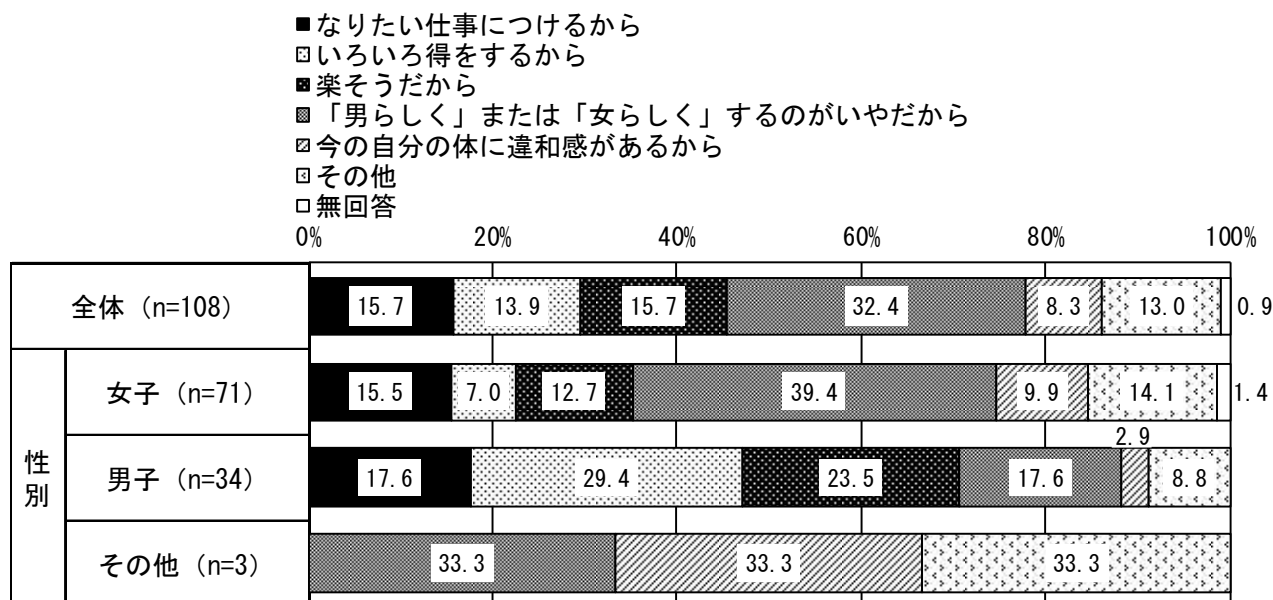
- めんどくさいことが多い。
- 悩みがなくなるから。
- 強くなれるから。
- 女子だと生理が辛いから。

など

小学5年生

- 「『男らしく』または『女らしく』するのがいやだから」が32.4%と最も高く、次いで「なりたい仕事につけるから」「楽そうだから」（ともに15.7%）となっています。
- 性別では、女子は「『男らしく』または『女らしく』するのがいやだから」が39.4%、男子は「いろいろ得をするから」が29.4%と、それぞれ最も高くなっています。

図表 256 【小学5年生】出生時の性別と異なる性別が良かったと思う理由（性別）



【小学5年生】その他意見

- 感覚がどんなか知りたいだけ。
- 女の子だから何何しなよとか言われないから。
- 子どもはほしいけど産むのが怖いから。
- 生理が来ないから。
- 自分が男の子だと思うから。

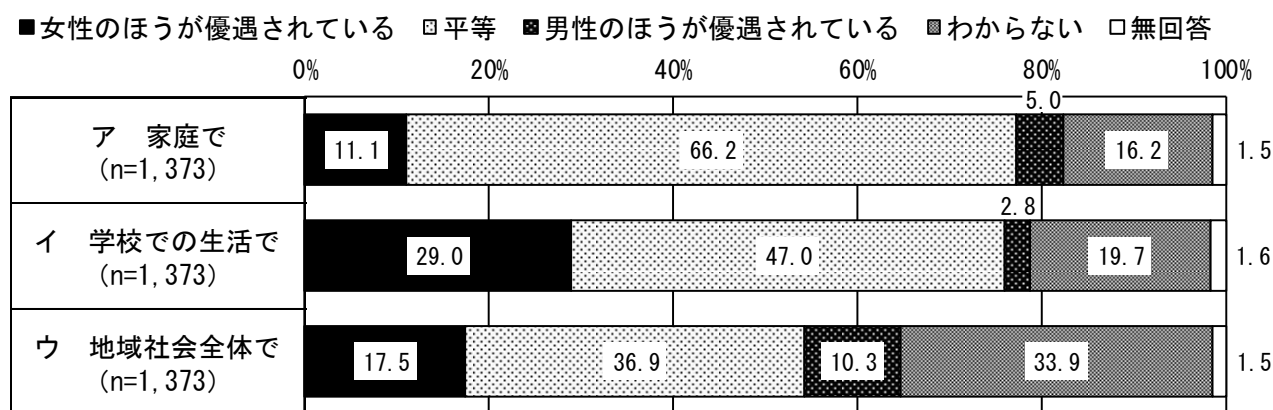
など

問 あなたは、次の場面で男女は平等になっていると思いますか。（○はそれぞれ1つ）

中学2年生

- 「女性のほうが優遇されている」では「イ 学校での生活で」が29.0%、「平等」では「ア 家庭で」が66.2%、「男性のほうが優遇されている」では「ウ 地域社会全体で」が10.3%と、それぞれ最も高くなっています。

図表 257 【中学2年生】分野別の男女の地位

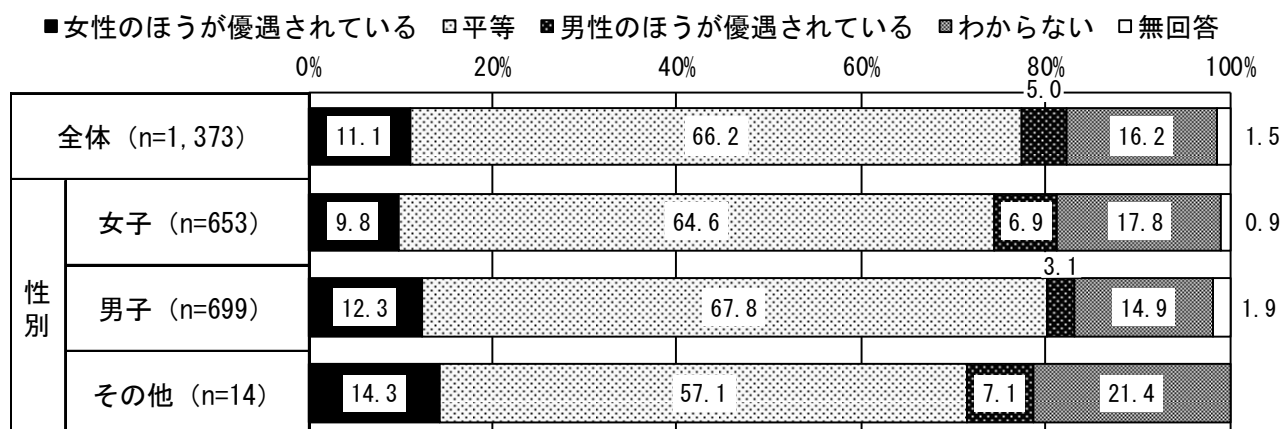


ア 家庭で

中学2年生

- 「平等」が66.2%と最も高く、次いで「わからない」(16.2%)、「女性のほうが優遇されている」(11.1%)となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 258 【中学2年生】ア 家庭で（性別）

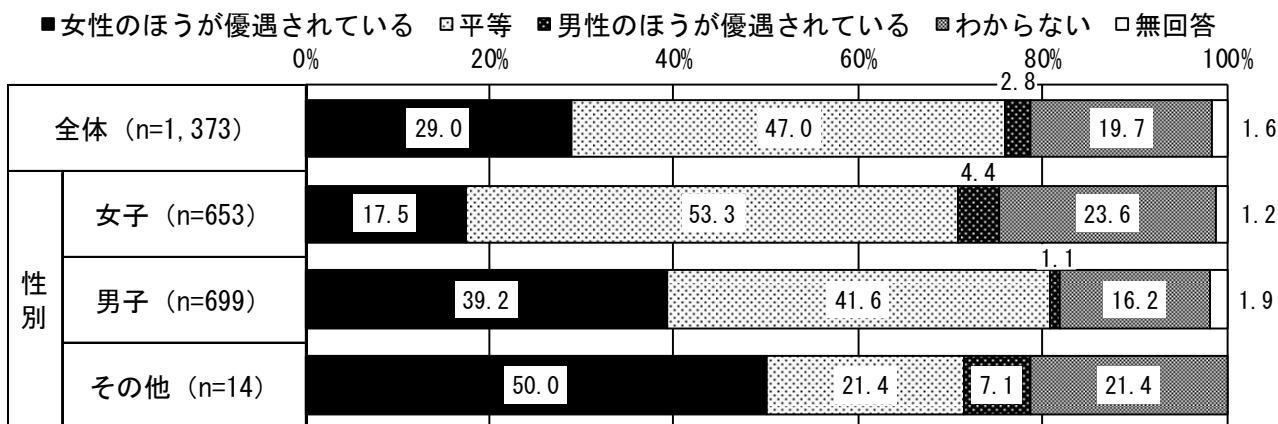


イ 学校での生活で

中学2年生

- 「平等」が47.0%と最も高く、次いで「女性のほうが優遇されている」(29.0%)、「わからない」(19.7%)となっています。
- 性別では、男子で「女性のほうが優遇されている」が39.2%と、女子より21.7ポイント高くなっています。一方で、女子で「平等」が53.3ポイント、「わからない」が7.4ポイント、それぞれ男子より高くなっています。

図表 259 【中学2年生】イ 学校での生活で（性別）

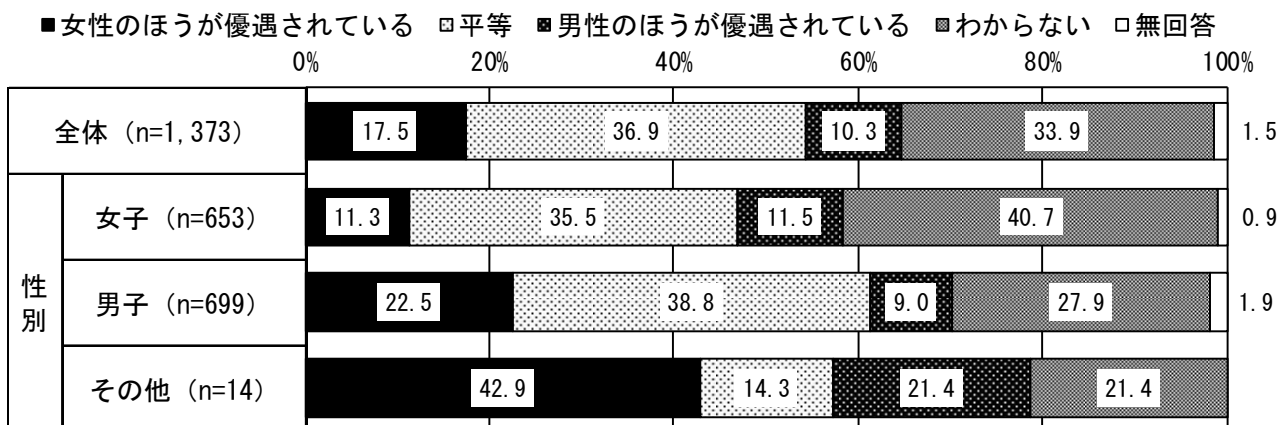


ウ 地域社会全体で

中学2年生

- 「平等」が36.9%と最も高く、次いで「わからない」(33.9%)、「女性のほうが優遇されている」(17.5%)、「男性のほうが優遇されている」(10.3%)となっています。
- 性別では、女子で「わからない」が40.7%と、男子より12.8ポイント高くなっています。一方で、男子で「女性のほうが優遇されている」が22.5%と、女子より11.2ポイント高くなっています。

図表 260 【中学2年生】ウ 地域社会全体で（性別）



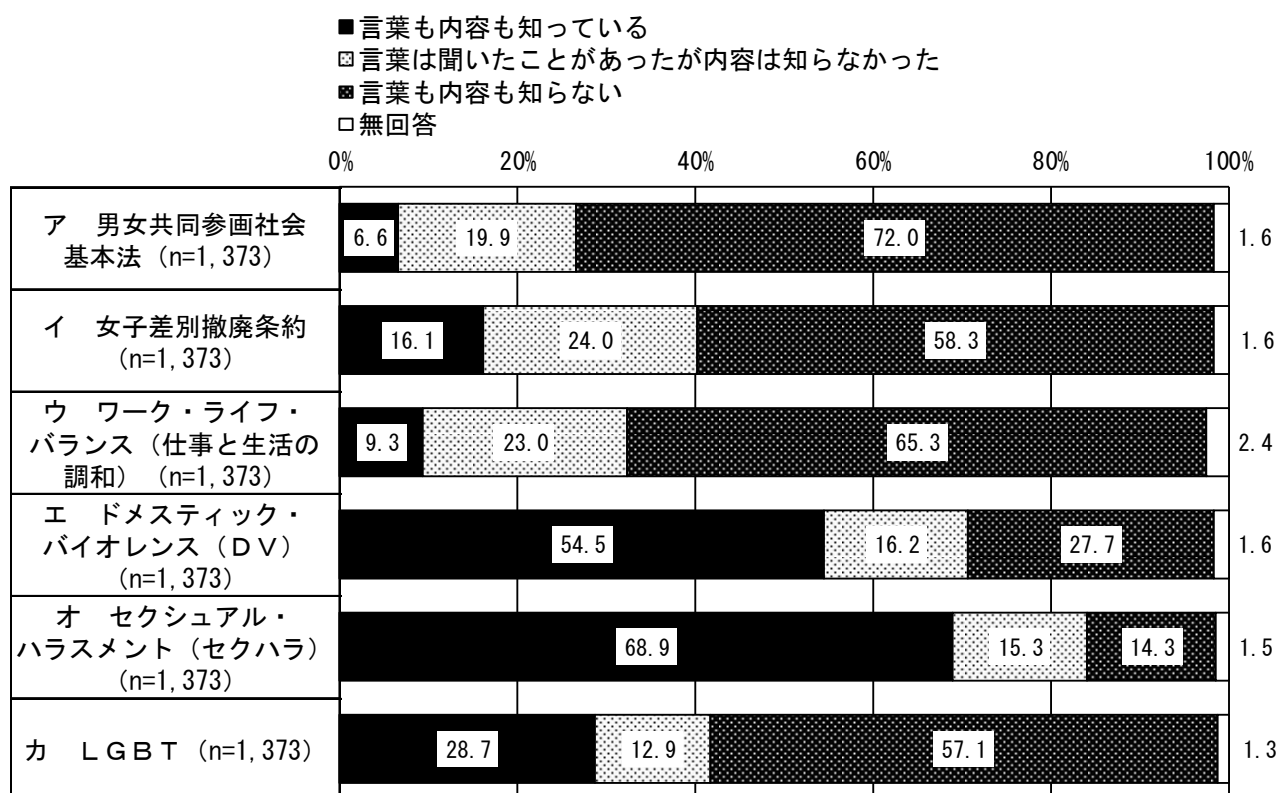
6 男女共同参画に関する用語について

問 あなたは、次の言葉とその内容を知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

中学2年生

- 「言葉も内容も知っている」をみると、「オ セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」が68.9%と最も高く、次いで「エ ドメスティック・バイオレンス（DV）」（54.5%）、「カ L G B T」（28.7%）となっています。
- 「言葉も内容も知らない」をみると、「ア 男女共同参画社会基本法」が72.0%と最も高く、次いで「ウ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（65.3%）、「イ 女子差別撤廃条約」（58.3%）、「カ L G B T」（57.1%）となっています。

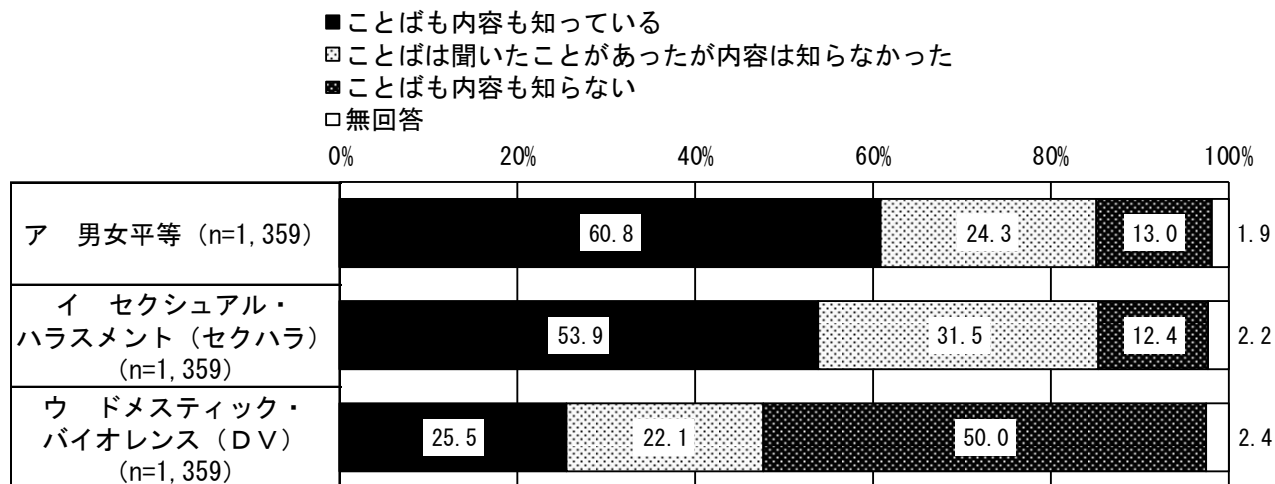
図表 261 【中学2年生】男女共同参画関連用語の認知度



小学5年生

- 「ア 男女平等」と「イ セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」は「ことばも内容も知っている」が5割以上、「ウ ドメスティック・バイオレンス（DV）」は「ことばも内容も知らない」が5割と、それぞれ最も高くなっています。

図表 262 【小学5年生】男女共同参画関連用語の認知度

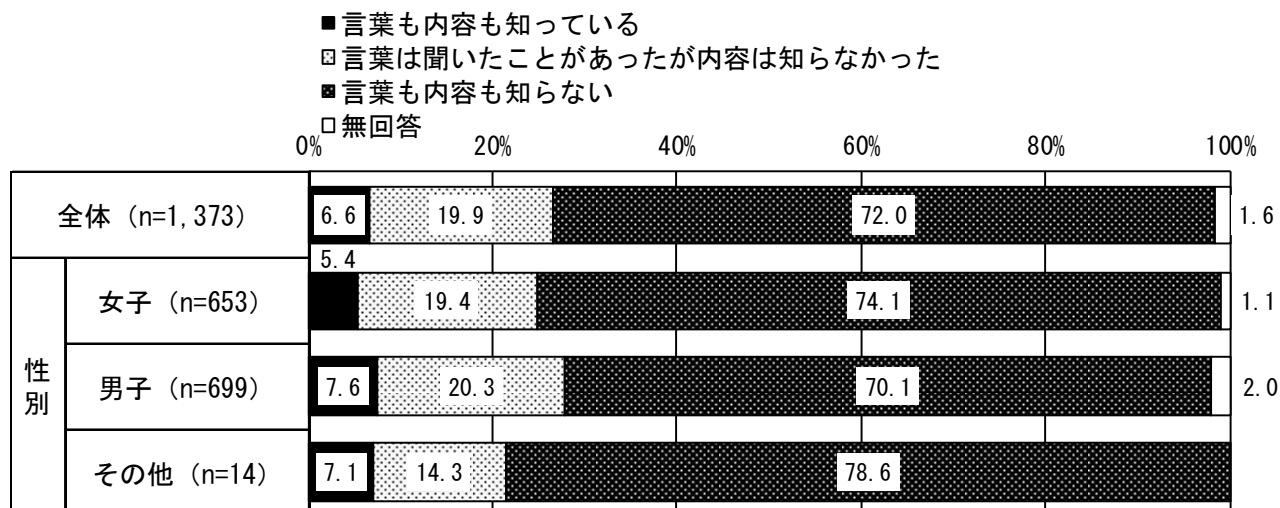


男女共同参画社会基本法

中学2年生

- 「言葉も内容も知っている」が6.6%、「言葉は聞いたことがあったが内容は知らなかった」が19.9%、「言葉も内容も知らない」が72.0%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 263 【中学2年生】男女共同参画社会基本法（性別）

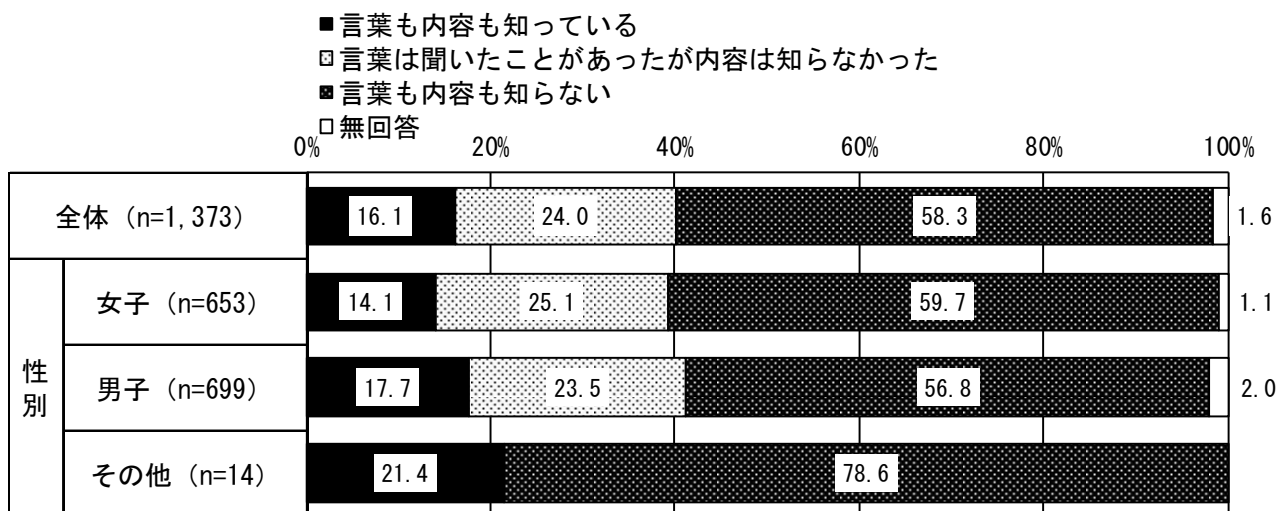


女子差別撤廃条約

中学2年生

- 「言葉も内容も知っている」が 16.1%、「言葉は聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 24.0%、「言葉も内容も知らない」が 58.3%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 264 【中学2年生】女子差別撤廃条約（性別）

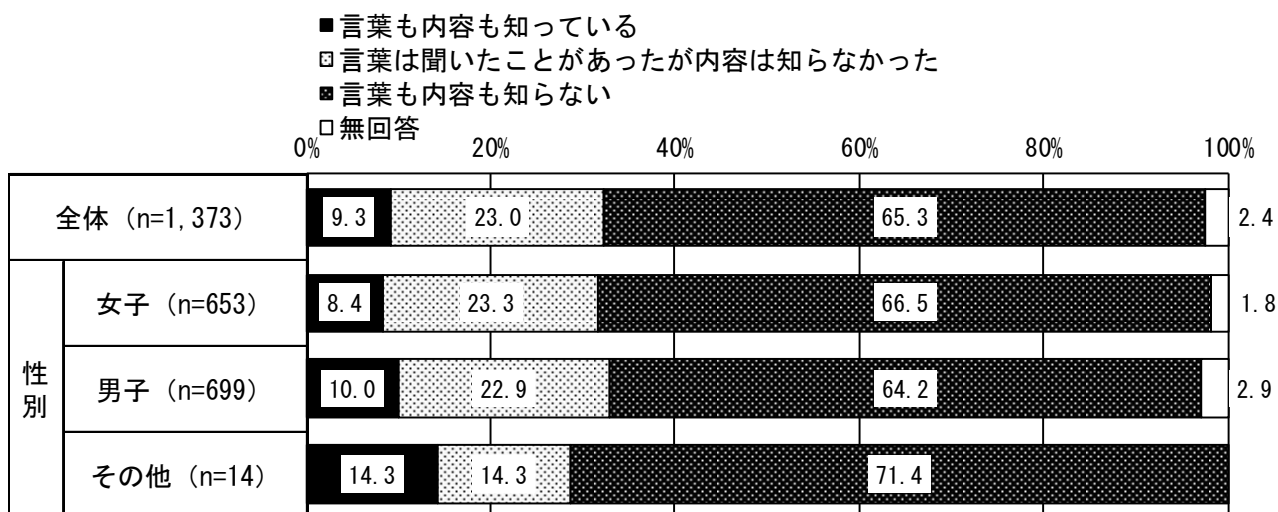


ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

中学2年生

- 「言葉も内容も知っている」が 9.3%、「言葉は聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 23.0%、「言葉も内容も知らない」が 65.3%となっています。
- 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 265 【中学2年生】ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）（性別）

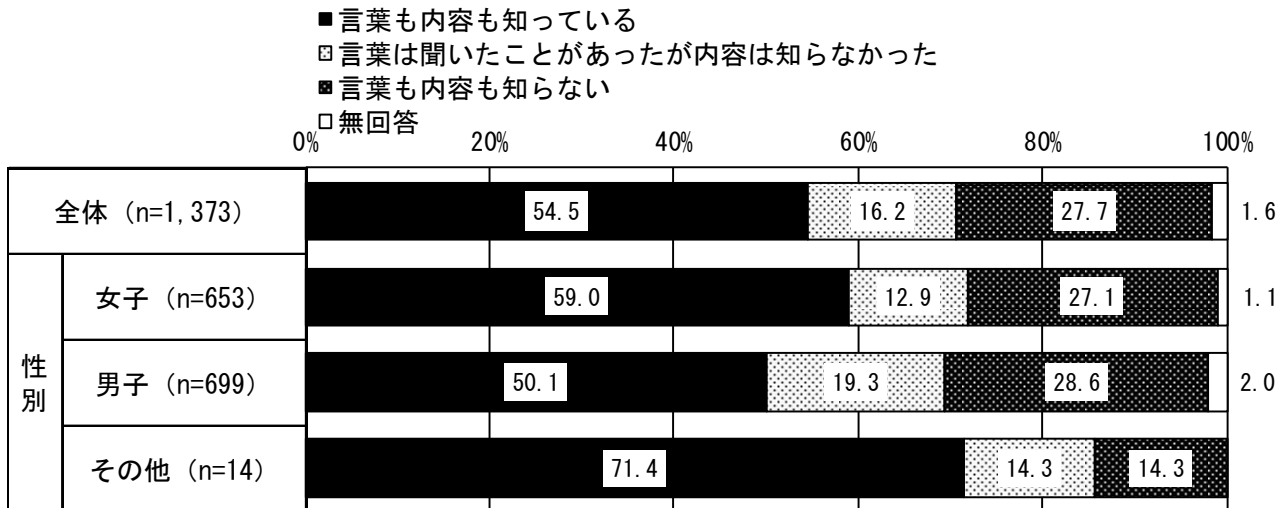


ドメスティック・バイオレンス（DV）

中学2年生

- 「言葉も内容も知っている」が 54.5%、「言葉は聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 16.2%、「言葉も内容も知らない」が 27.7%となっています。
- 性別では、女子で「言葉も内容も知っている」が 59.0%と、男子より 8.9 ポイント高くなっています。一方で、男子で「言葉は聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 19.3%と、女子より 6.4 ポイント高くなっています。

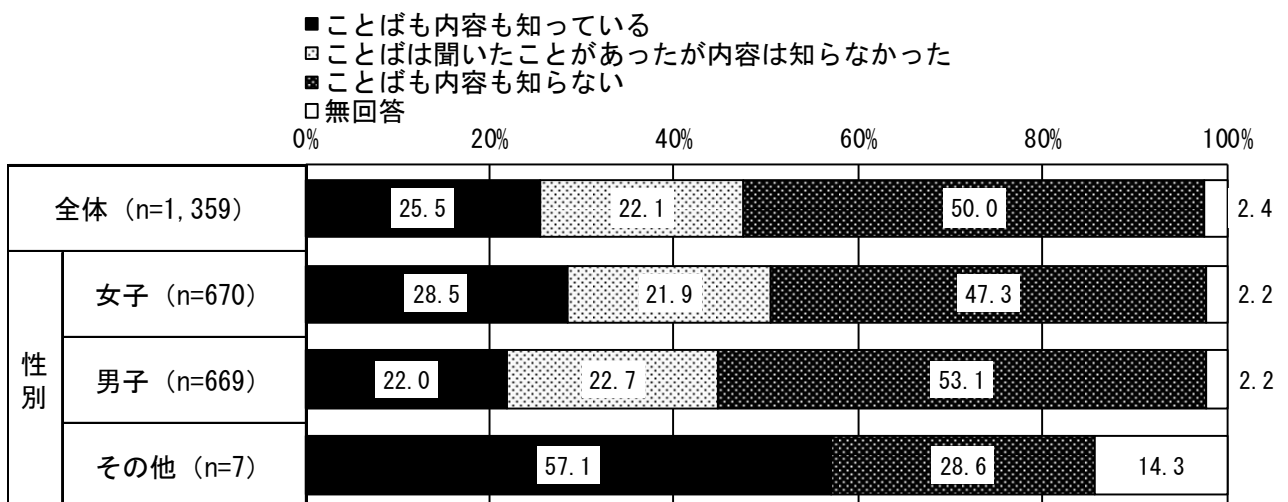
図表 266 【中学2年生】ドメスティック・バイオレンス（DV）（性別）



小学5年生

- 「ことばも内容も知っている」が 25.5%、「ことばは聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 22.1%、「ことばも内容も知らない」が 50.0%となっています。
- 性別では、女子で「ことばも内容も知っている」が 28.5%と、男子より 6.5 ポイント高くなっています。一方で、男子で「ことばも内容も知らない」が 53.1%と、女子より 5.8 ポイント高くなっています。

図表 267 【小学5年生】ドメスティック・バイオレンス（DV）（性別）

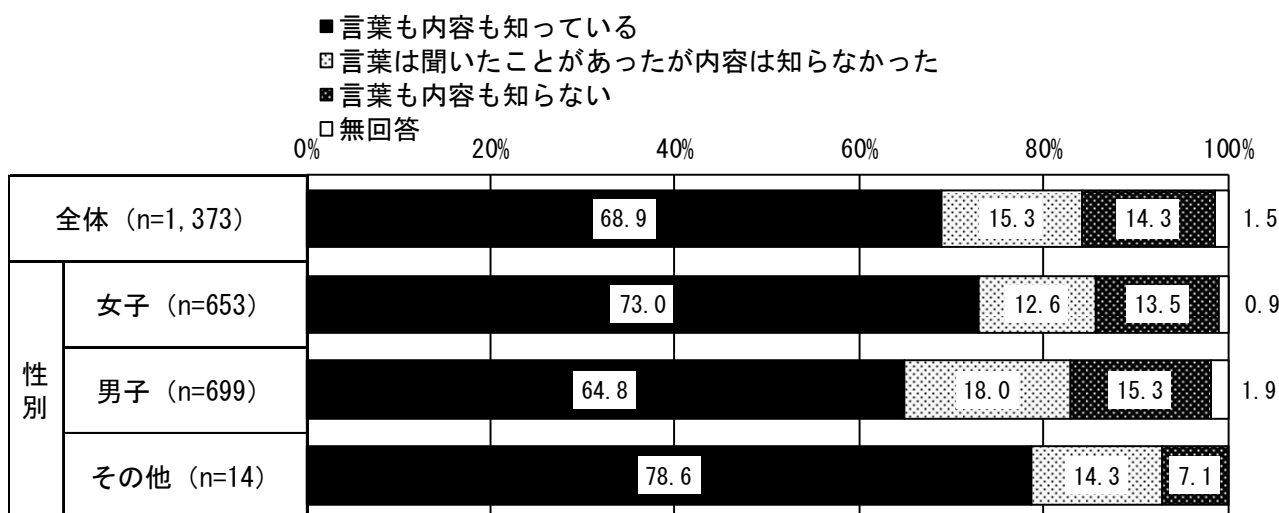


セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

中学2年生

- 「言葉も内容も知っている」が 68.9%、「言葉は聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 15.3%、「言葉も内容も知らない」が 14.3%となっています。
- 性別では、女子で「言葉も内容も知っている」が 73.0%と、男子より 8.2 ポイント高くなっています。一方で、男子で「言葉は聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 18.0%と、女子より 5.4 ポイント高くなっています。

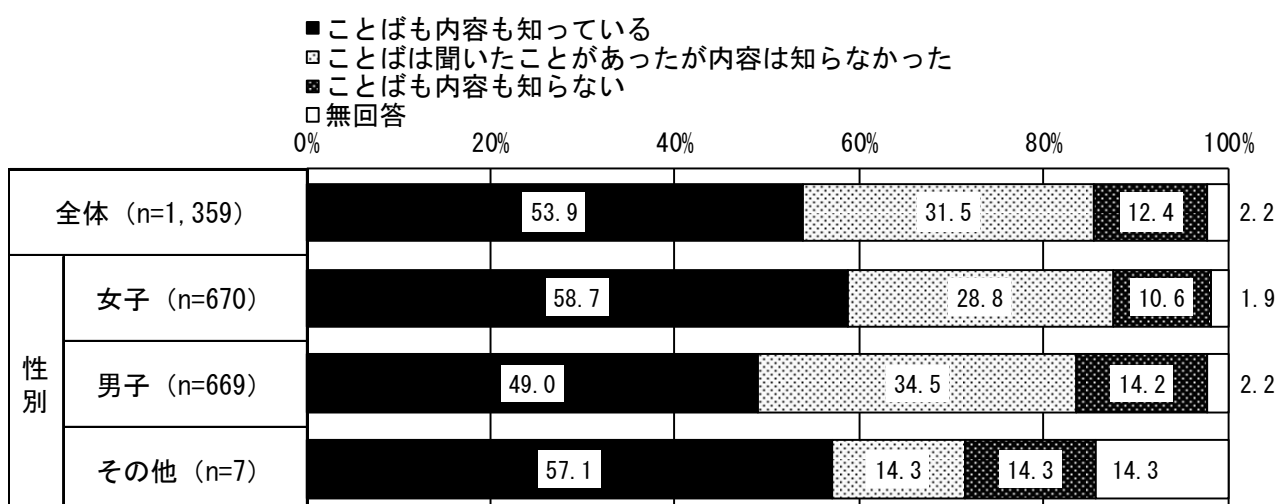
図表 268 【中学2年生】セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）（性別）



小学5年生

- 「ことばも内容も知っている」が 53.9%、「ことばは聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 31.5%、「ことばも内容も知らない」が 12.4%となっています。
- 性別では、女子で「ことばも内容も知っている」が 58.7%と、男子より 9.7 ポイント高くなっています。一方で、男子で「ことばは聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 34.5%と、女子より 5.7 ポイント高くなっています。

図表 269 【小学5年生】セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）（性別）

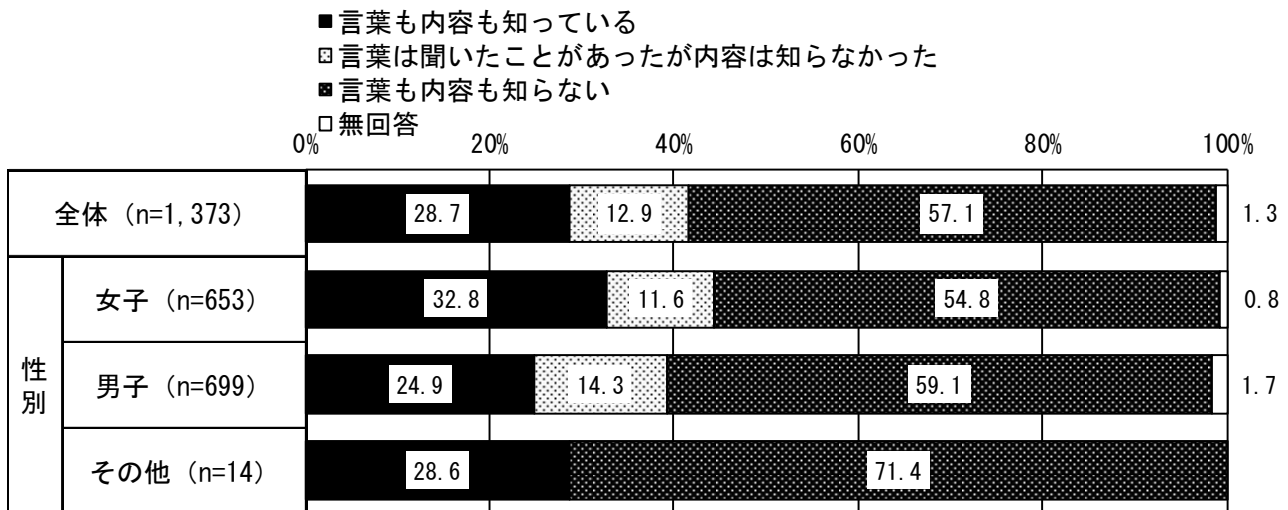


LGBT

中学2年生

- 「言葉も内容も知っている」が 28.7%、「言葉は聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 12.9%、「言葉も内容も知らない」が 57.1%となっています。
- 性別では、女子で「言葉も内容も知っている」が 32.8%と、男子より 7.9 ポイント高くなっています。

図表 270 【中学2年生】LGBT（性別）

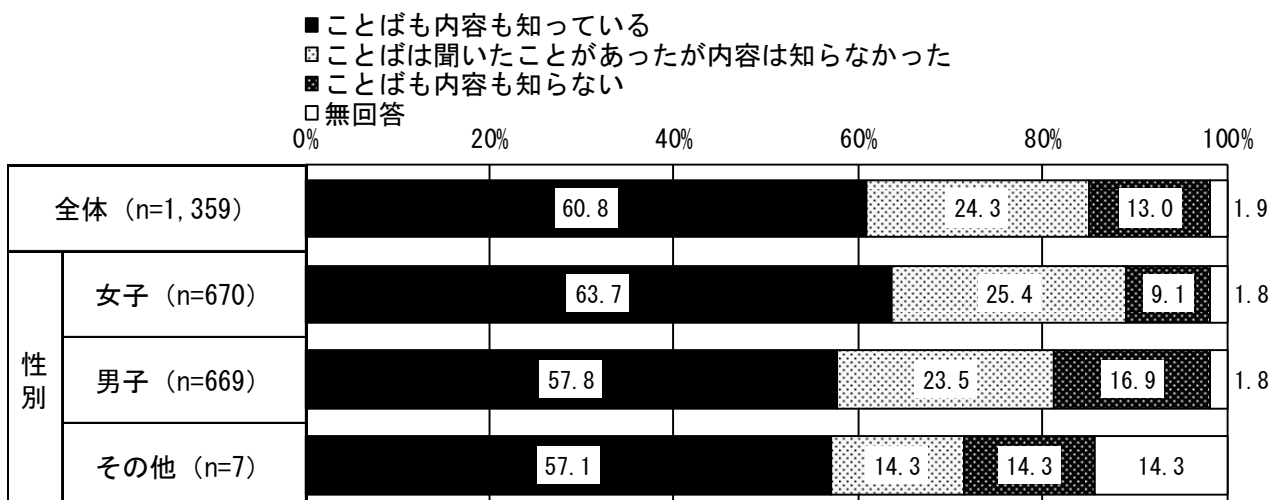


男女平等

小学5年生

- 「ことばも内容も知っている」が 60.8%、「ことばは聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 24.3%、「ことばも内容も知らない」が 13.0%となっています。
- 性別では、男子で「ことばも内容も知らない」が 16.9%と、女子より 7.8 ポイント高くなっています。一方で、女子で「ことばも内容も知っている」が 63.7%と、男子より 5.9 ポイント高くなっています。

図表 271 【小学5年生】男女平等（性別）



Ⅶ 学生 前回比較

※平成 26 年に実施した調査結果について一部抜粋しています。なお、調査対象は今回の調査と異なり、中学 3 年生と小学 6 年生です。

問 普段の学校での生活で、次のようなことを思うときがありますか。
(○はそれぞれ 1 つ)

中学生

- いずれの項目でも「そう思う」が前回よりも低くなっています。なかでも、「ウ 道具運びなど力のいる仕事は男子に向いている」が 25.8 ポイント、「イ 副会長・書記など、細やかな気づかいをする役は女子に向いている」が 14.4 ポイント、それぞれ前回よりも低くなっています。
- 一方で、いずれの項目でも「そう思わない」が前回より高くなっています。なかでも「エ 給食係や教室の掃除などの仕事は女子に向いている」が 17.9 ポイント、「ア 学級委員・生徒会長など、皆をまとめる役は男子に向いている」が 16.7 ポイント、「イ 副会長・書記など、細やかな気づかいをする役は女子に向いている」が 15.9 ポイント、それぞれ前回よりも高くなっています。

図表 272 【中学生】学校生活について（前回比較）

		全体	そう 思う	い ど う え ち ば ら そ う と	い ど え ち ば ら そ う と	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
ア 学級委員・生徒会長 など、皆をまとめる役は 男子に向いている	今回	1373	87	260	277	511	233	5
		100.0	6.3	18.9	20.2	37.2	17.0	0.4
	前回	523	64	160	103	107	85	4
		100.0	12.2	30.6	19.7	20.5	16.3	0.8
イ 副会長・書記など、 細やかな気づかいをする 役は女子に向いている	今回	1373	170	387	212	418	178	8
		100.0	12.4	28.2	15.4	30.4	13.0	0.6
	前回	523	140	189	56	76	58	4
		100.0	26.8	36.1	10.7	14.5	11.1	0.8
ウ 道具運びなど力の いる仕事は男子に 向いている	今回	1373	431	529	158	168	81	6
		100.0	31.4	38.5	11.5	12.2	5.9	0.4
	前回	523	299	162	20	20	17	5
		100.0	57.2	31.0	3.8	3.8	3.3	1.0
エ 給食係や教室の掃除 などの仕事は女子に 向いている	今回	1373	106	206	362	527	163	9
		100.0	7.7	15.0	26.4	38.4	11.9	0.7
	前回	523	92	138	111	107	71	4
		100.0	17.6	26.4	21.2	20.5	13.6	0.8
オ 先生は女子には あまり怒らない	今回	1373	264	334	222	369	176	8
		100.0	19.2	24.3	16.2	26.9	12.8	0.6
	前回	523	116	145	90	104	63	5
		100.0	22.2	27.7	17.2	19.9	12.0	1.0

小学生

- いずれの項目でも「そう思う」が前回よりも低くなっています。なかでも、「ウ 道具運びなど力のいる仕事は男子に向いている」が 12.5 ポイント、「オ 先生は女子にはあまり怒らない」が 11.7 ポイント、それぞれ前回より低くなっています。
- 一方で、いずれの項目でも「そう思わない」と「わからない」が前回より高くなっています。なかでも「そう思わない」で「オ 先生は女子にはあまり怒らない」が 38.6% と、前回より 12.2 ポイント高くなっています。

図表 273 【小学生】学校生活について（前回比較）

		全 体	そ う 思 う	思 い ど え ち ば ら そ う と	思 い ど え ち な ば ら そ う と	な そ う 思 わ	わ か ら な い	無 回 答
ア 学級委員・生徒会長 など、みんなをまとめる 役は男子に向いている	今回	1359	146	333	306	332	236	6
		100.0	10.7	24.5	22.5	24.4	17.4	0.4
	前回	702	112	201	194	119	75	1
		100.0	16.0	28.6	27.6	17.0	10.7	0.1
イ 副会長・書記など、 細やかな気づかいをする 役は女子に向いている	今回	1359	459	422	118	192	153	15
		100.0	33.8	31.1	8.7	14.1	11.3	1.1
	前回	702	281	247	71	64	38	1
		100.0	40.0	35.2	10.1	9.1	5.4	0.1
ウ 道具運びなど力の いる仕事は男子に 向いている	今回	1359	664	388	100	131	63	13
		100.0	48.9	28.6	7.4	9.6	4.6	1.0
	前回	702	431	191	27	37	15	1
		100.0	61.4	27.2	3.8	5.3	2.1	0.1
エ 給食係や教室の掃除 などの仕事は女子に 向いている	今回	1359	269	336	245	338	151	20
		100.0	19.8	24.7	18.0	24.9	11.1	1.5
	前回	702	184	203	147	115	47	6
		100.0	26.2	28.9	20.9	16.4	6.7	0.9
オ 先生は女子には あまり怒らない	今回	1359	214	245	166	525	197	12
		100.0	15.7	18.0	12.2	38.6	14.5	0.9
	前回	702	192	138	121	185	65	1
		100.0	27.4	19.7	17.2	26.4	9.3	0.1

問 あなたは、「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。（〇は1つ）

中学生

- 今回で「言われたことがない」が 18.9%と、前回より 7.4 ポイント高くなっています。

図表 274 【中学生】「男／女だから〇〇しなさい」と言われた経験（前回比較）

全 体		あなたは、「男だから〇〇しなさい」や 「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。					
		言よ わく れ る	言と わき れど るき	言 わ れ る	な言あ いわま れり	なこ言 いとわ がれた	無 回 答
今 回	1373	91	332	26	631	260	33
	100.0	6.6	24.2	1.9	46.0	18.9	2.4
前 回	523	59	149	—	228	60	27
	100.0	11.3	28.5	—	43.6	11.5	5.2

小学生

- 今回で「言われたことがない」が 31.9%と、前回より 18.4 ポイント高くなっています。一方で、「ときどき言われる」が 10.0 ポイント、「よく言われる」が 8.5 ポイント、それぞれ前回より低くなっています。

図表 275 【小学生】「男／女だから〇〇しなさい」と言われた経験（前回比較）

全 体		あなたは、「男だから〇〇しなさい」や 「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。					
		言よ わく れ る	言と わき れど るき	言 わ れ る	な言あ いわま れり	なこ言 いとわ がれた	無 回 答
今 回	1359	94	313	57	428	433	34
	100.0	6.9	23.0	4.2	31.5	31.9	2.5
前 回	702	108	232	—	229	95	38
	100.0	15.4	33.0	—	32.6	13.5	5.4

問 あなたは家の中で、次のようなことはだれがやるのがいいと思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

中学生

- いずれの項目でも「母親」が前回より低くなっています。なかでも、「オ 洗濯」が18.2ポイント、「エ 掃除」が17.0ポイント、それぞれ前回より低くなっています。
- 一方で、いずれの項目でも「家族全員」が前回より高くなっています。なかでも、「オ 洗濯」で31.4%と、前回より16.5ポイント高くなっています。

図表 276 【中学生】理想の家事分担（前回比較）

		全 体	母 親	父 親	子 ど も	祖 母	祖 父	家 族 全 員	無 回 答
ア 食事を作る	今回	1373	1046	32	16	29	1	243	6
		100.0	76.2	2.3	1.2	2.1	0.1	17.7	0.4
	前回	523	453	12	2	24	－	32	－
		100.0	86.6	2.3	0.4	4.6	－	6.1	－
イ 食事の後かたづけ	今回	1373	268	85	193	16	4	801	6
		100.0	19.5	6.2	14.1	1.2	0.3	58.3	0.4
	前回	523	144	21	76	12	2	268	－
		100.0	27.5	4.0	14.5	2.3	0.4	51.2	－
ウ ゴミ出し	今回	1373	153	298	356	13	18	523	12
		100.0	11.1	21.7	25.9	0.9	1.3	38.1	0.9
	前回	523	84	133	114	18	10	163	1
		100.0	16.1	25.4	21.8	3.4	1.9	31.2	0.2
エ 掃除	今回	1373	371	54	93	33	5	803	14
		100.0	27.0	3.9	6.8	2.4	0.4	58.5	1.0
	前回	523	230	12	30	12	4	234	1
		100.0	44.0	2.3	5.7	2.3	0.8	44.7	0.2
オ 洗濯	今回	1373	721	73	89	39	4	431	16
		100.0	52.5	5.3	6.5	2.8	0.3	31.4	1.2
	前回	523	370	15	29	23	3	78	5
		100.0	70.7	2.9	5.5	4.4	0.6	14.9	1.0
カ お金を稼ぐ	今回	1373	91	1009	4	4	5	250	10
		100.0	6.6	73.5	0.3	0.3	0.4	18.2	0.7
	前回	523	54	419	－	1	2	47	－
		100.0	10.3	80.1	－	0.2	0.4	9.0	－
キ 子どもの世話を する	今回	1373	624	46	57	62	15	562	7
		100.0	45.4	3.4	4.2	4.5	1.1	40.9	0.5
	前回	523	305	16	17	38	7	137	3
		100.0	58.3	3.1	3.3	7.3	1.3	26.2	0.6

小学生

- いずれの項目でも「母親」が前回より低くなっています。なかでも、「オ センたく」が 11.1 ポイント、「イ 食事の後かたづけ」が 10.0 ポイント、それぞれ前回より低くなっています。
- 一方で、いずれの項目でも「家族全員」が前回より高くなっています。

図表 277 【小学生】理想の家事分担（前回比較）

		全 体	母 親	父 親	子 ど も	祖 母	祖 父	家 族 全 員	無 回 答
ア 食事を作る	今回	1359	1027	44	17	27	2	225	17
		100.0	75.6	3.2	1.3	2.0	0.1	16.6	1.3
	前回	702	598	16	11	13	1	58	5
		100.0	85.2	2.3	1.6	1.9	0.1	8.3	0.7
イ 食事の後かたづけ	今回	1359	275	102	332	14	2	611	23
		100.0	20.2	7.5	24.4	1.0	0.1	45.0	1.7
	前回	702	212	51	133	10	3	281	12
		100.0	30.2	7.3	18.9	1.4	0.4	40.0	1.7
ウ ゴミ出し	今回	1359	172	334	482	25	30	290	26
		100.0	12.7	24.6	35.5	1.8	2.2	21.3	1.9
	前回	702	101	166	257	27	15	126	10
		100.0	14.4	23.6	36.6	3.8	2.1	17.9	1.4
エ そうじ	今回	1359	439	97	167	34	4	590	28
		100.0	32.3	7.1	12.3	2.5	0.3	43.4	2.1
	前回	702	293	37	68	35	6	252	11
		100.0	41.7	5.3	9.7	5.0	0.9	35.9	1.6
オ センたく	今回	1359	753	89	151	51	7	281	27
		100.0	55.4	6.5	11.1	3.8	0.5	20.7	2.0
	前回	702	467	44	54	38	3	81	15
		100.0	66.5	6.3	7.7	5.4	0.4	11.5	2.1
カ お金をかせぐ	今回	1359	110	1010	10	3	7	190	29
		100.0	8.1	74.3	0.7	0.2	0.5	14.0	2.1
	前回	702	78	554	2	2	5	52	9
		100.0	11.1	78.9	0.3	0.3	0.7	7.4	1.3
キ 子どもの世話を する	今回	1359	741	67	65	80	31	351	24
		100.0	54.5	4.9	4.8	5.9	2.3	25.8	1.8
	前回	702	418	35	33	43	13	152	8
		100.0	59.5	5.0	4.7	6.1	1.9	21.7	1.1

問 あなたは母親が働き、父親が家で家事をするという家庭をどう思いますか。
(○は1つ)

中学生

- 今回で「おかしい（変だ）と思う」が 10.9%と、前回より 11.1 ポイント低くなっています。一方で、「普通だと思う」が 26.5%と、前回より 9.3 ポイント高くなっています。

図表 278 【中学生】母親が働き、父親が家で家事をする家庭（前回比較）

全 体		あなたは母親が働き、父親が家で家事をするという 家庭をどう思いますか。					
		良 い と 思 う	良 く な い と 思 う	普 通 だ と 思 う	と お か し い (変 だ)	そ の 他	わ か ら な い
今 回	1373	456	48	364	150	32	323
	100.0	33.2	3.5	26.5	10.9	2.3	23.5
前 回	523	177	35	90	115	-	106
	100.0	33.8	6.7	17.2	22.0	-	20.3

小学生

- 今回で「おかしい（変だ）と思う」が 25.4%と、前回より 12.6 ポイント低くなっています。一方で、「普通だと思う」が 21.9%と、前回より 8.1 ポイント高くなっています。

図表 279 【小学生】母親が働き、父親が家で家事をする家庭（前回比較）

全 体		あなたは母親が働き、父親が家で家事をするという 家庭をどう思いますか。						
		良 い と 思 う	良 く な い と 思 う	普 通 だ と 思 う	と お か し い (変 だ)	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
今 回	1359	222	134	297	345	30	318	13
	100.0	16.3	9.9	21.9	25.4	2.2	23.4	1.0
前 回	702	121	69	97	267	-	144	4
	100.0	17.2	9.8	13.8	38.0	-	20.5	0.6

問 あなたは「男は仕事をして、女は家で家事・子育てをするべきだ」という性別によって役割分担するという考え方について、どのように思いますか。（○は1つ）

中学生

- 今回で“概ねそう思う”が25.3%と、前回より22.8ポイント低くなっています。一方で、「そう思わない」が42.5%と、前回より21.1ポイント高くなっています。

図表 280 【中学生】固定的な性別役割分担について（前回比較）

全 体		あなたは「男は仕事をして、女は家で家事・子育てをするべきだ」という性別によって役割分担をするという考え方について、どのように思いますか。					
		そう 思う	思 い ど う え ち ば ら そ か う と	思 い ど わ え ち な ば ら い そ か う と	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
今 回	1373	79	268	233	584	207	2
	100.0	5.8	19.5	17.0	42.5	15.1	0.1
前 回	523	86	166	110	112	49	—
	100.0	16.4	31.7	21.0	21.4	9.4	—

小学生

- 今回で“概ねそう思う”が44.5%と、前回*より19.0ポイント低くなっています。一方で、「そう思わない」が12.7ポイント、「わからない」が9.4ポイント、それぞれ前回より高くなっています。

図表 281 【小学生】固定的な性別役割分担について（前回比較）

全 体		あなたは「男は仕事をして、女は家で家事・子育てをするべきだ」という考え方について、どのように思いますか。					
		そう 思う	思 い ど う え ち ば ら そ か う と	思 い ど わ え ち な ば ら い そ か う と	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
今 回	1359	243	362	150	378	214	12
	100.0	17.9	26.6	11.0	27.8	15.7	0.9
前 回	702	208	238	94	106	44	12
	100.0	29.6	33.9	13.4	15.1	6.3	1.7

※前回調査では、「あなたは『男は仕事をして、女は家で家事・子育てをするべきだ』という考え方をどう思いますか。」という設問

問 あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。（○は1つ）

中学生

- 今回で「結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い」が 19.4%と、前回より 7.4 ポイント高くなっています。一方で、「子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い」が 34.7%と、前回より 6.4 ポイント低くなっています。

図表 282 【中学生】女性が仕事を持つことについて思うこと（前回比較）

全体		あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。						
		女性も うが良 い ・持た ない	結婚し て、結 婚した ら仕事 いい	子ども が生ま れたら 仕事も いい	子ども が生ま れたら 仕事も いい	子ども が生ま れたら 仕事も いい	結婚し ても、 子ども がつか ない	その他
今回	1373	33	58	93	477	266	316	130
	100.0	2.4	4.2	6.8	34.7	19.4	23.0	9.5
前回	523	21	45	58	215	63	96	25
	100.0	4.0	8.6	11.1	41.1	12.0	18.4	4.8

小学生

- 今回で「子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い」が 35.9%と、前回より 7.3 ポイント高くなっています。

図表 283 【小学生】女性が仕事を持つことについて思うこと（前回比較）

全体		あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。								
		てもう良い良 い仕事を持 たない	仕事をやる 結婚する前 までは良 い仕事	がめするの 良 い仕事 を	は仕事をして いるか 良 い仕事 を	子どもが生ま れるまで 良 い仕事 を	仕事をする か 良 い仕事 を	仕事をする か 良 い仕事 を	結婚して も、子ども が良 い	わ か ら な い
今回	1359	79	107	111	488	262	246	55	11	
	100.0	5.8	7.9	8.2	35.9	19.3	18.1	4.0	0.8	
前回	702	42	66	75	303	105	94	15	2	
	100.0	6.0	9.4	10.7	43.2	15.0	13.4	2.1	0.3	

問 あなたは、男性が仕事を持つことについてどう思いますか。（○は1つ）

中学生

- 今回で「結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い」が 73.3%と、前回より 11.6 ポイント低くなっています。一方で、「わからない」が 16.5%と、前回より 7.5 ポイント高くなっています。

図表 284 【中学生】男性が仕事を持つことについて思うこと（前回比較）

全体		あなたは、男性が仕事を持つことについてどう思いますか。								
		男性が 仕事を持 たない ・いい	結婚し て、前 までは いい	子ども が生ま れて、 仕事	子ども が生ま れて、 いい	子ども が生ま れて、 いい	子ども が生ま れて、 いい	子ども が生ま れて、 いい	子ども が生ま れて、 いい	わ か ら な い
今回	1373	27	1	-	32	1006	227	79	1	
	100.0	2.0	0.1	-	2.3	73.3	16.5	5.8	0.1	
前回	523	14	-	5	7	444	47	6	-	
	100.0	2.7	-	1.0	1.3	84.9	9.0	1.1	-	

問 あなたは、次の言葉とその内容を知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

中学生

- 「言葉も内容も知っている」をみると、今回で「エ ドメスティック・バイオレンス（DV）」が54.5%と、前回より10.5ポイント低くなっています。
- 「言葉も内容も知らない」をみると、今回で「ウ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が前回より9.1ポイント低く、「エ ドメスティック・バイオレンス（DV）」が前回より9.0ポイント高くなっています。

図表 285 【中学生】男女共同参画関連用語の認知度（前回比較）

		全 体	知 言 っ 葉 て も い 内 る 容 も	な が こ 言 か 内 と 葉 っ 容 が は た は あ 聞 知 っ い ら た た	知 言 ら 葉 な い 内 容 も	無 回 答
ア 男女共同参画社会 基本法	今回	1373	90	273	988	22
		100.0	6.6	19.9	72.0	1.6
	前回	523	43	111	368	1
		100.0	8.2	21.2	70.4	0.2
イ 女子差別撤廃条約	今回	1373	221	329	801	22
		100.0	16.1	24.0	58.3	1.6
	前回	523	71	136	314	2
		100.0	13.6	26.0	60.0	0.4
ウ ワーク・ライフ・ バランス （仕事と生活の調和）	今回	1373	128	316	896	33
		100.0	9.3	23.0	65.3	2.4
	前回	523	29	94	389	11
		100.0	5.5	18.0	74.4	2.1
エ ドメスティック・ バイオレンス（DV）	今回	1373	748	222	381	22
		100.0	54.5	16.2	27.7	1.6
	前回	523	340	84	98	1
		100.0	65.0	16.1	18.7	0.2
オ セクシュアル・ ハラスメント （セクハラ）	今回	1373	946	210	197	20
		100.0	68.9	15.3	14.3	1.5
	前回	523	391	65	66	1
		100.0	74.8	12.4	12.6	0.2

小学生

- 「ことばも内容も知っている」をみると、「ア 男女平等」が 4.1 ポイント、「イ セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」が 6.5 ポイント、それぞれ前回よりも高くなっています。
- 一方で、「イ セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」で「ことばは聞いたことがあったが内容は知らなかった」が 31.5%と、前回より 6.0 ポイント低くなっています。

図表 286 【小学生】男女共同参画関連用語の認知度（前回比較）

		全 体	知 こ と ば も 内 容 も	知 が こ と ば は 聞 い た こ と は 知 ら な か っ た 内 容 は	知 こ と ば も 内 容 も	無 回 答
ア 男女平等	今回	1359	826	330	177	26
		100.0	60.8	24.3	13.0	1.9
	前回	702	398	180	118	6
		100.0	56.7	25.6	16.8	0.9
イ セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）	今回	1359	732	428	169	30
		100.0	53.9	31.5	12.4	2.2
	前回	702	333	263	100	6
		100.0	47.4	37.5	14.2	0.9

VIII 事業所 調査結果の概要

2 事業所における雇用管理状況について

- 過去10年間で“増加傾向（「増加した」＋「やや増加した」）”がみられたのは、「女性の平均勤続年数」（46.9％）と「男性の平均勤続年数」（44.5％）
- 令和元年度における正規従業員新規採用者数は「0人」（女性：54.3％、男性：42.0％）
- 令和元年度における正規従業員新規採用者の割合について、女性は「0.0％」（43.9％）、男性は「80.1～100.0％」（61.0％）
- 管理職の割合について、いずれも女性は「0.0％」、男性は「80.1～100.0％」が多い
- 管理職に女性が少ない理由は、「必要な知識や経験、判断力などを有する女性が少ない」（28.4％）と「役職に就くための在職年数を満たす女性がいらない」（25.4％）
- “主に男性が従事（「男性のみ従事している」＋「男性のほうが多く従事している」）”している仕事は、「筋力が必要な仕事」（74.0％）、「高度な判断が必要な仕事」「リーダーシップが必要な仕事」（ともに56.8％）
- 「男女とも同じように従事している」仕事は、「定型的な仕事（ルーティンワーク）」（46.9％）
- “主に女性が従事（「女性のみ従事している」＋「女性のほうが多く従事している」）”している仕事は、「接客サービス・受付窓口などの対応」（35.8％）
- 「【実施していない】実施予定なし」の取り組みは、「人事異動により女性に様々な職種を経験させる」（55.6％）と「女性の登用や人材育成に関する体制の・取り組み方針などを定める」（50.6％）

3 従業員の育児・介護などとの両立支援について

- 育児との両立支援で「実施予定なし」のものは、「事業所内託児施設の設置」（90.1％）と「保育料など育児に要する経費の援助」（81.5％）
- 介護との両立支援で「実施予定なし」のものは、「介護休暇制度の導入」（39.5％）と「再雇用制度の充実」（37.0％）
- 取り組みによる効果や変化は、「女性従業員の定着率の上昇」（52.4％）、「仕事の進め方の効率化や業務改善」（38.1％）、「女性従業員の責任感の向上」（31.7％）
- 育児休業の取得可能期間は「規定がない」（38.3％）
- 育児休業対象者で、育児休業を取得した男性従業員数は「0人」（78.6％）
- 女性従業員について、育児休業の平均取得期間は「1年以上」（46.2％）、「（6ヶ月以上）1年未満」（30.8％）
- 介護休業を取得した従業員数は、男女ともに「0人」（85.2％）
- 男性の育児休業・介護休業取得についての課題は、「制度の対象となる従業員がいらない」（45.7％）、「制度利用者の業務を代替（カバー）できる体制にない」（39.5％）
- 代替要員の確保方策は、「前例がない」（42.0％）と「部署内でやりくり」（40.7％）
- 女性の再雇用者は「雇用していない」（71.6％）
- 女性の再雇用者の雇用形態は、「パートタイム従業員（アルバイト含む）」（57.9％）と「正規従業員」（52.6％）

4 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

- 「一般事業主行動計画」は「今のところ策定の予定はない」（43.2%）、「わからない」（28.4%）
- ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みについて、「今度取り組みたいと思っている」（28.4%）、「ワーク・ライフ・バランスについてよくわからない」（25.9%）
- ワーク・ライフ・バランスに関して行っている取り組みは、「年休を取りやすい環境を整えている」（90.0%）、「長時間残業の削減や労働時間の短縮など働き方の見直しを行っている」（60.0%）
- ワーク・ライフ・バランスに取り組む上での問題点は、「情報・ノウハウの不足」（31.4%）、「ワーク・ライフ・バランスに関する管理職の認識が乏しい」（28.6%）、「日常的に労働時間が長い部門・部署がある」（25.7%）
- ワーク・ライフ・バランスを推進する上で特に重要なことは、「両立に取り組みやすい職場の雰囲気づくり」（50.6%）、「企業トップの意識」「管理職への周知・理解の促進」（ともに33.3%）

5 各種ハラスメントの防止について

- セクシュアル・ハラスメントに関しては、「特に対応の必要性を感じない」（38.3%）
- 実施中もしくは実施予定の取り組みは、「セクシュアル・ハラスメントについての相談・苦情窓口の設置」（76.9%）、「就業規則などへのセクシュアル・ハラスメント防止の明文化」（69.2%）
- パワー・ハラスメントに関しては、「特に対応の必要性を感じない」（34.6%）
- 実施中もしくは実施予定の取組みは、「就業規則などへのパワー・ハラスメント防止の明文化」「パワー・ハラスメントについての相談・苦情窓口の設置」（ともに75.0%）
- 問題が発生したことが「ある」ものは、「パワー・ハラスメント」（21.0%）、「セクシュアル・ハラスメント」（9.9%）
- ハラスメントへの対応で特に難しいと感じたことは、「加害者の可能性のある者に、ハラスメント問題を理解させること」（70.6%）、「当事者の言い分の食い違いなど、事実確認が困難」（64.7%）

6 男女共同参画社会について

- 「言葉も内容も知らない」ものは、「ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）」（49.4%）、「女子差別撤廃条約」（33.3%）、「男女共同参画社会基本法」（28.4%）
- 小牧市が今後力を入れていくべきことは、「保育施設や保育サービスの充実」（56.8%）、「高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実」（50.6%）

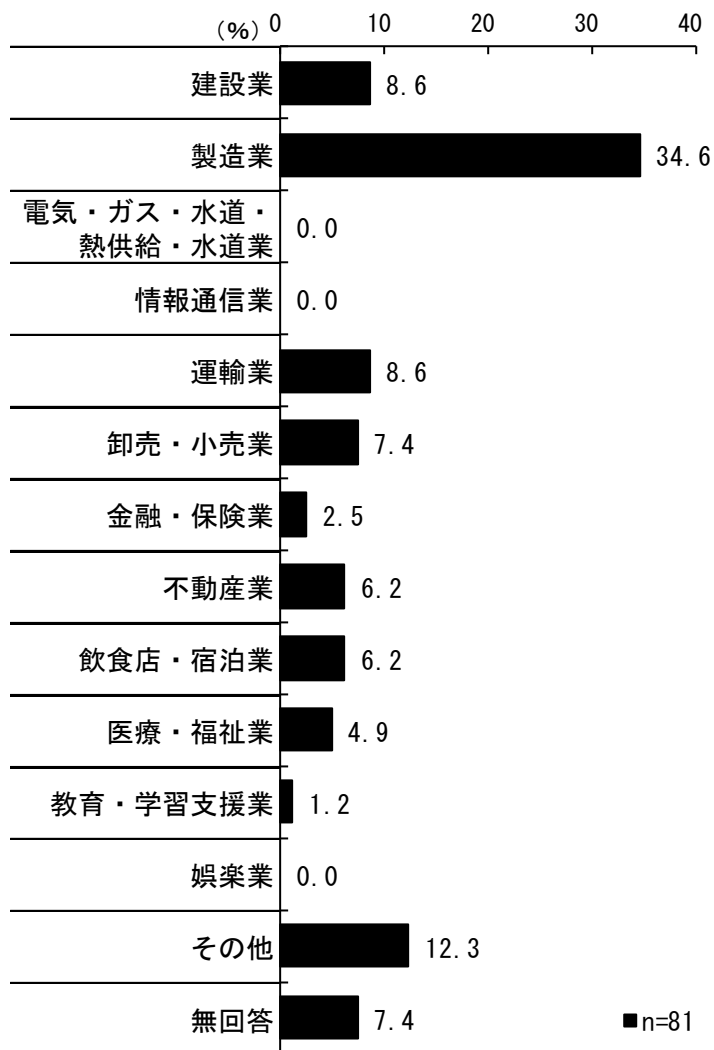
Ⅸ 事業所 調査結果

1 事業所の概要について

問1 貴事業所の主な業種をお教えてください。（〇は1つ）

- 「製造業」が34.6%と最も高く、次いで「その他」（12.3%）、「建設業」「運輸業」（ともに8.6%）となっています。

図表 287 主な業種



その他意見

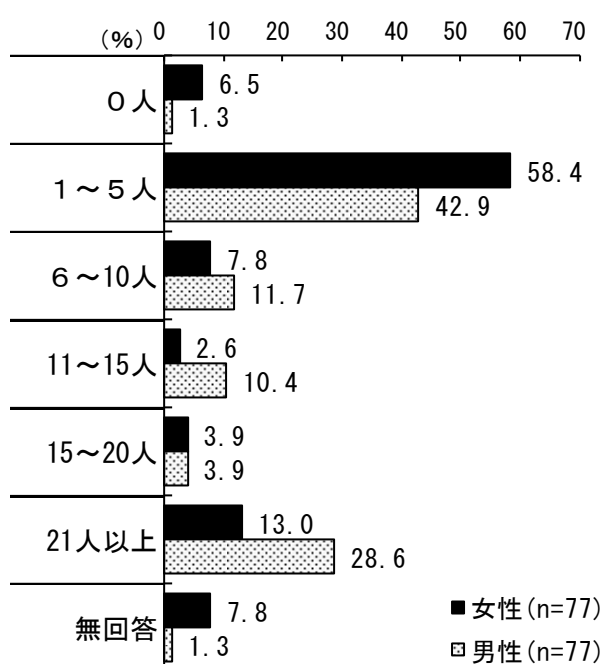
- 自動車整備
- 機械点検・修理
- 人材派遣
- 造園、清掃
- 美容業
- など

問2 令和2年6月1日現在の貴事業所の従業員数を、雇用形態別に記入してください。
 ※詳細な人数が不明な場合は、不明とご記入ください。

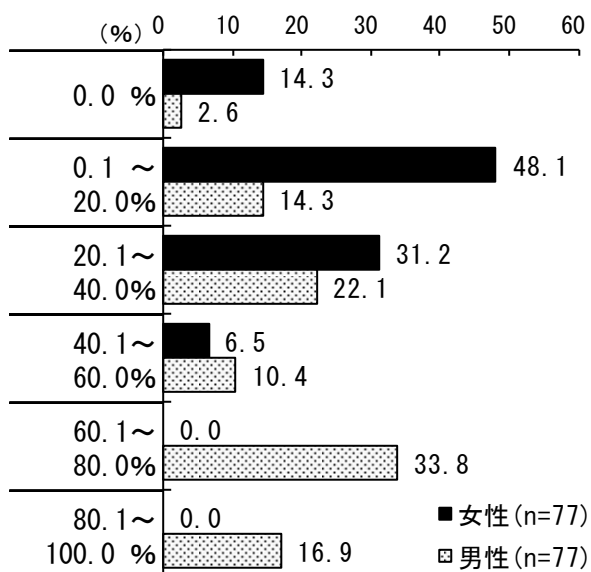
正社員数

- 正社員の人数は、男女ともに「1～5人」が最も高く、次いで「21人以上」となっていますが、男性で「21人以上」が15.6ポイント、女性で「1～5人」が15.5ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 全従業員中の正社員の割合は、女性で「0.1～20.0%」が48.1%と最も高く、次いで「20.1～40.0%」(31.2%)、「0.0%」(14.3%)となっています。一方で、男性で「60.1～80.0%」が33.8%と最も高く、次いで「20.1～40.0%」(22.1%)、「80.1～100.0%」(16.9%)、「0.1～20.0%」(14.3%)となっています。

図表 288 正社員数



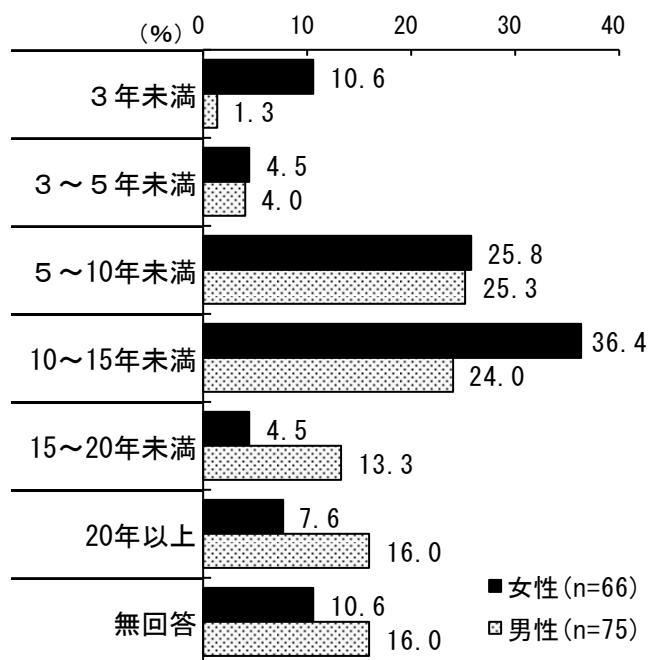
図表 289 全従業員中の正社員の割合



正社員の平均勤続年数

- 正社員の平均勤続年数は、女性で「10～15年未満」が36.4%と最も高く、次いで「5～10年未満」(25.8%)、「3年未満」(10.6%)となっています。一方で、男性で「5～10年未満」が25.3%と最も高く、次いで「10～15年未満」(24.0%)、「20年以上」(16.0%)、「15～20年未満」(13.3%)となっています。

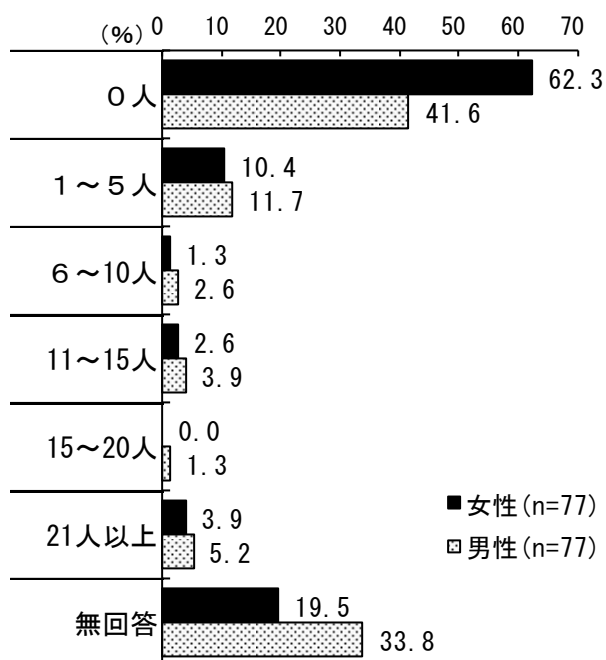
図表 290 正社員の平均勤続年数



契約社員（嘱託社員）

- 契約社員（嘱託社員）の人数は、男女ともに「0人」が最も高く、次いで「1～5人」が約1割となっていますが、女性で「0人」が20.7ポイント、男性より高くなっています。

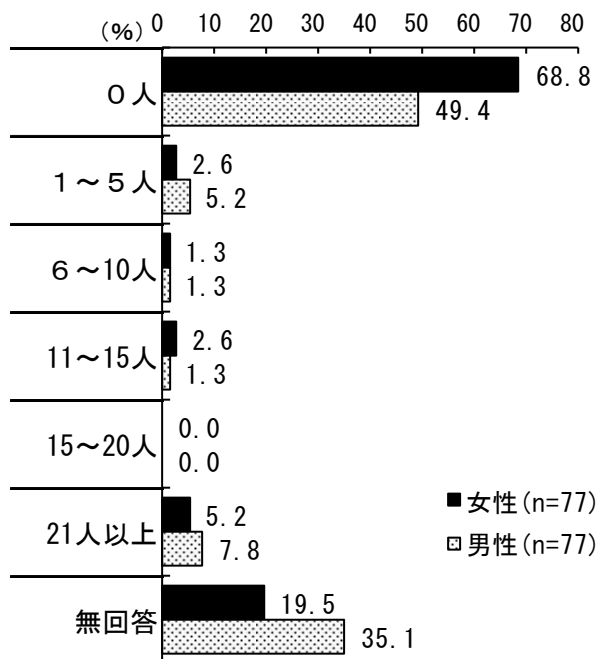
図表 291 契約社員（嘱託社員）



派遣社員

- 派遣社員の人数は、男女ともに「0人」が最も高くなっていますが、女性で「0人」が19.4ポイント、男性より高くなっています。

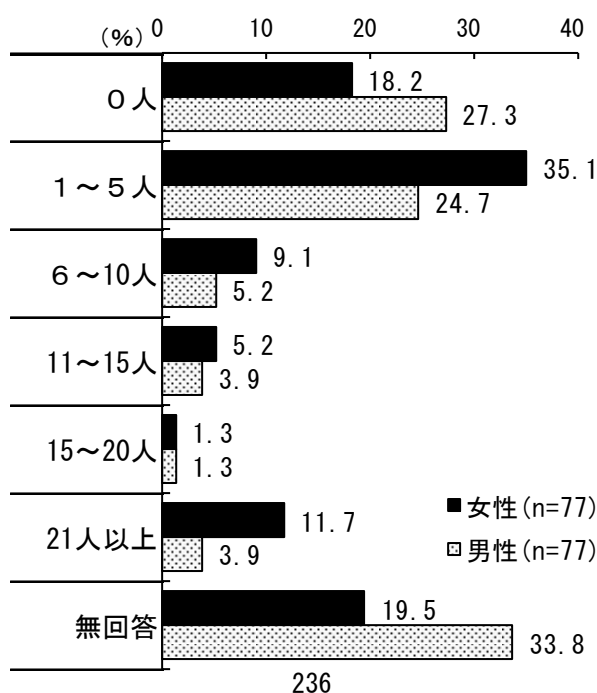
図表 292 派遣社員



パートタイム従業員（アルバイト含む）

- パートタイム従業員（アルバイト含む）の人数は、女性で「1～5人」が35.1%と最も高く、次いで「0人」（18.2%）、「21人以上」（11.7%）となっています。一方で、男性で「0人」が27.3%と最も高く、次いで「1～5人」（24.7%）となっています。

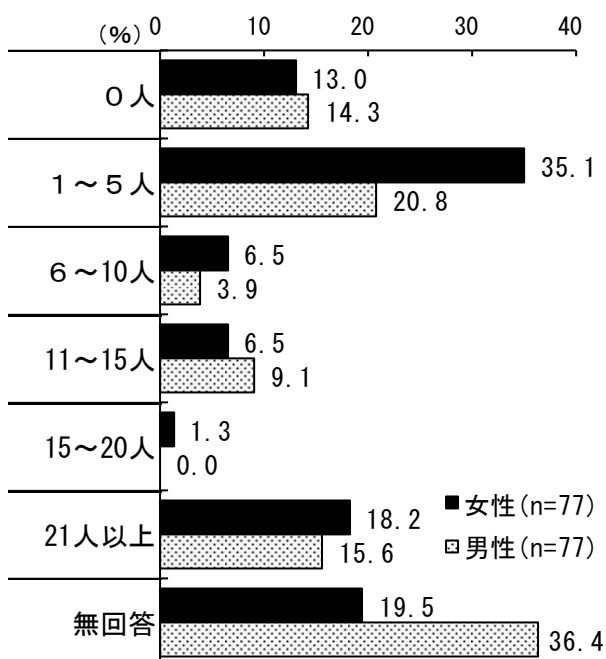
図表 293 パートタイム従業員（アルバイト含む）



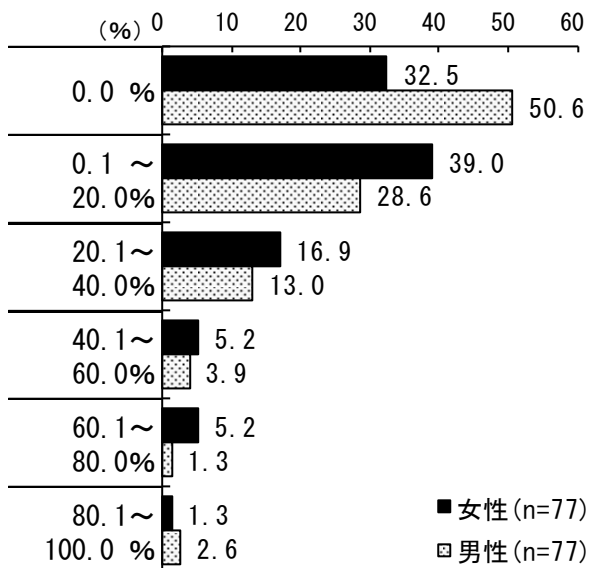
非正規社員

- 非正規社員数は、男女ともに「1～5人」が最も高く、次いで「21人以上」、「0人」となっていますが、女性で「1～5人」が14.3ポイント、男性より高くなっています。
- 全従業員中の非正規社員の割合は、女性で「0.1～20.0%」が39.0%と最も高く、次いで「0.0%」(32.5%)となっています。一方で、男性で「0.0%」が50.6%と最も高く、次いで「0.1～20.0%」(28.6%)となっています。また、男性で「0.0%」が18.1ポイント、女性で「0.1～20.0%」が10.4ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 女性従業員中の非正規社員の割合は、「0.0%」が26.0%と最も高く、次いで「40.1～60.0%」(19.5%)となっています。一方で、男性従業員中の非正規社員の割合は、「0.0%」が49.4%と最も高く、女性より23.4ポイント高くなっています。

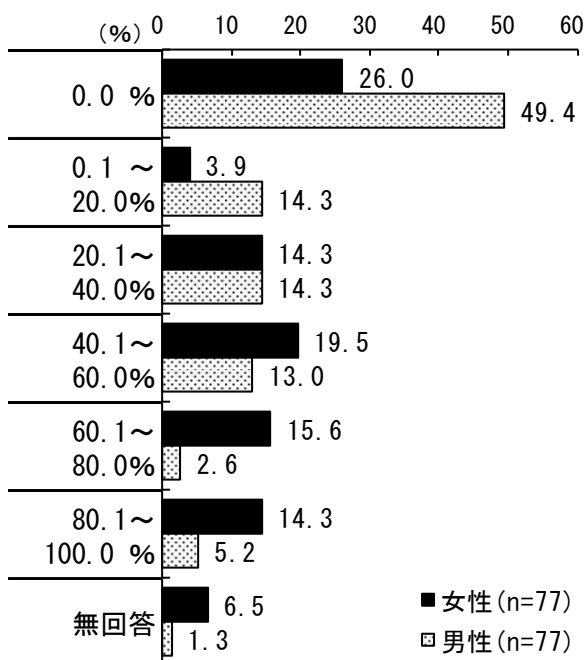
図表 294 非正規社員数



図表 295 全従業員中の非正規社員の割合



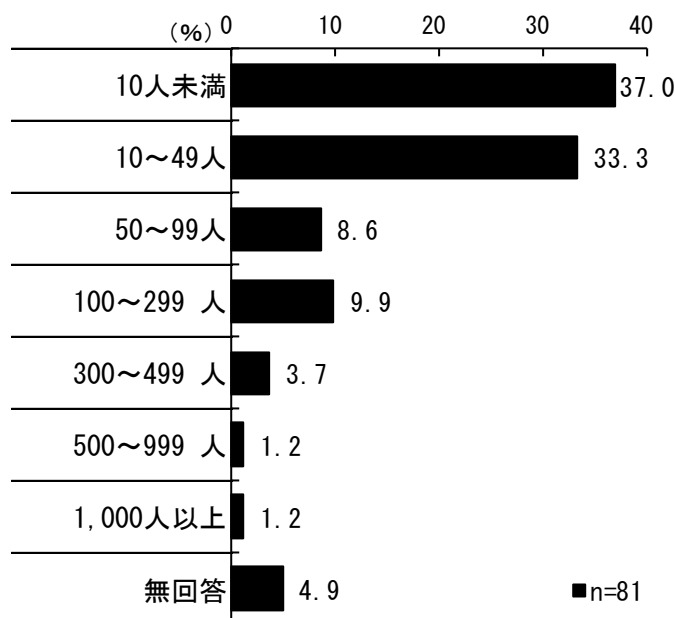
図表 296 女性従業員中の非正規社員割合および男性従業員中の非正規社員割合



問3 令和2年6月1日現在の貴社全体（本社・支店・営業所などの合計）の従業員数（正規従業員のみ）は、次のどれに該当しますか。（○は1つ）

- 「10 人未満」が 37.0%と最も高く、次いで「10～49 人」（33.3%）、「100～299 人」（9.9%）、「50～99 人」（8.6%）となっています。

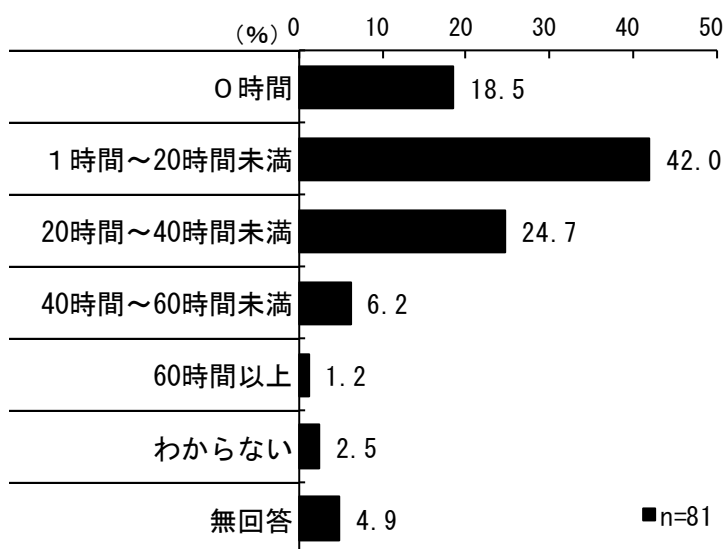
図表 297 正規従業員数



問4 貴事業所の1ヶ月の1人当たりの平均残業時間は何時間程度ですか。（○はひとつ）

- 「1 時間～20 時間未満」が 42.0%と最も高く、次いで「20 時間～40 時間未満」（24.7%）、「0 時間」（18.5%）となっています。

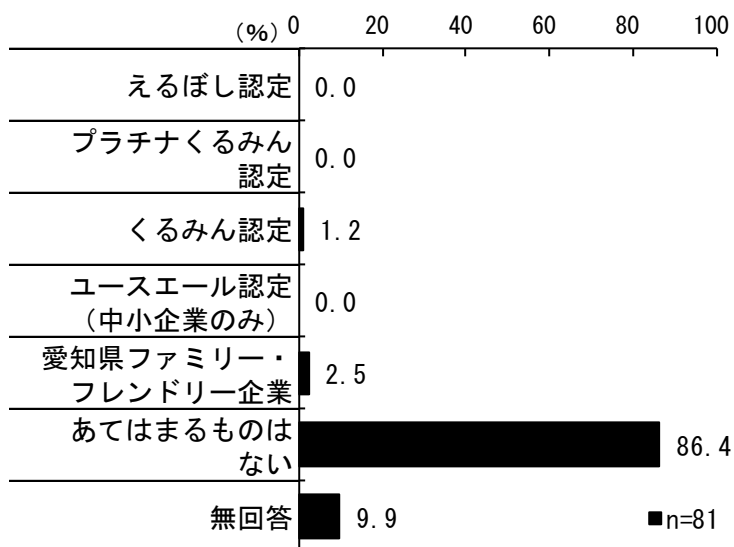
図表 298 1ヶ月あたりの平均残業時間



問5 貴事業所でのお持ちの下記認定制度（令和2年度有効のもの）をお答えください。
（当てはまるもの全てに○）

- 「あてはまるものはない」が 86.4%と最も高く、次いで「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」（2.5%）、「くるみん認定」（1.2%）となっています。

図表 299 認定制度

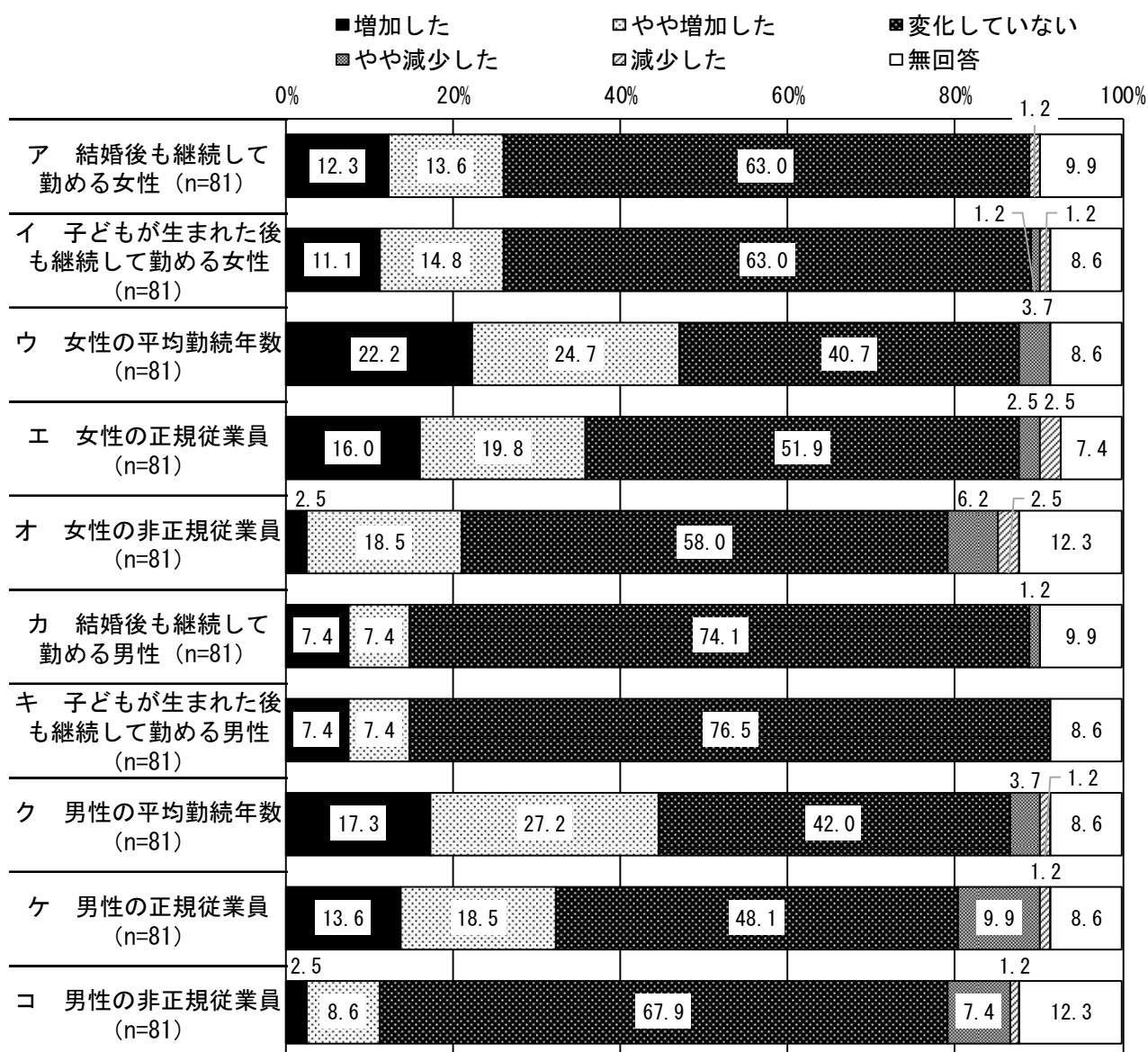


2 事業所における雇用管理状況について

問6 過去 10 年程度の間、貴事業所の従業員は以下についてどのような傾向が見られましたか。（〇はそれぞれ 1 つ）

- “増加傾向（「増加した」＋「やや増加した」）”をみると、「ウ 女性の平均勤続年数」が 46.9%と最も高く、次いで「ク 男性の平均勤続年数」（44.5%）、「エ 女性の正規従業員数」（35.8%）、「ク 男性の正規従業員」（32.1%）となっています。
- 一方で、“減少傾向（「減少した」＋「やや減少した」）”をみると、「ケ 男性の正規従業員」が 11.1%と最も高く、次いで「オ 女性の非正規従業員」（8.7%）、「コ 男性の非正規従業員」（8.6%）となっています。

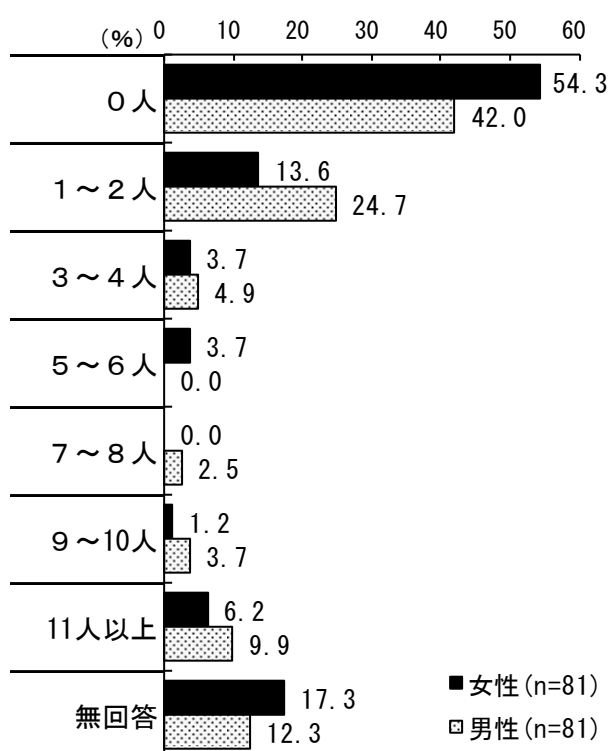
図表 300 過去 10 年間に見られた傾向



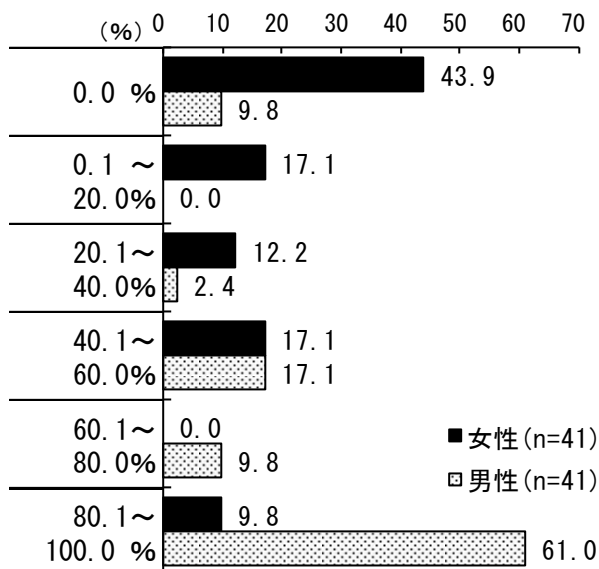
問7 令和元年度における、貴事業所の正規従業員新規採用者数をご記入ください。

- 正規従業員新規採用者数は、男女ともに「0人」が最も高く、次いで「1～2人」となっていますが、女性で「0人」が12.3ポイント、男性で「1～2人」が11.1ポイント、それぞれ異性より高くなっています。
- 正規従業員新規採用者の割合は、女性で「0.0%」が43.9%と最も高く、次いで「0.1～20.0%」「40.1～60.0%」（ともに17.1%）、「20.1～40.0%」（12.2%）となっています。一方で、男性で「80.1～100.0%」が61.0%と最も高く、次いで「40.1～60.0%」（17.1%）となっています。

図表 301 正規従業員新規採用者数



図表 302 正規従業員新規採用者の割合

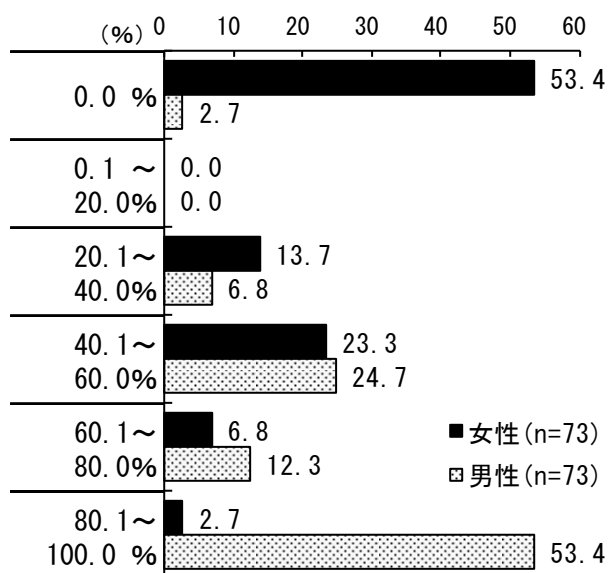


問8 貴事業所の管理職の男女別人数をご記入ください。

取締役・事業主相当職の割合

- 女性で「0.0%」が53.4%と最も高く、次いで「40.1～60.0%」(23.3%)、「20.1～40.0%」(13.7%)となっています。一方で、男性で「80.1～100.0%」が53.4%と最も高く、次いで「40.1～60.0%」(24.7%)、「60.1～80.0%」(12.3%)となっています。

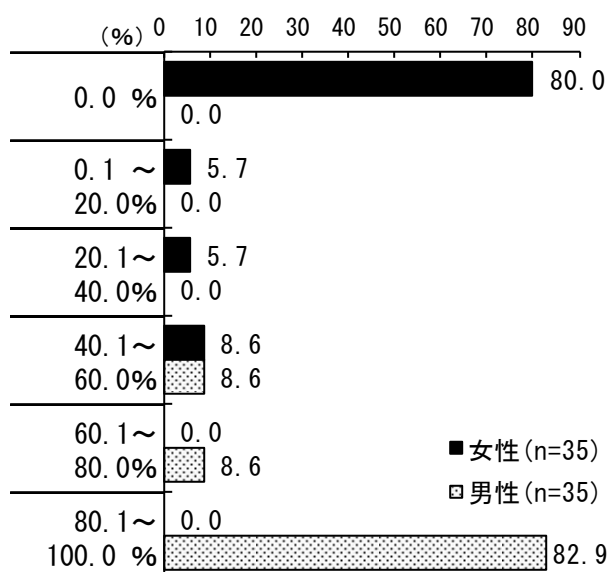
図表 303 取締役・事業主相当職の割合



部長相当職の割合

- 女性で「0.0%」が80.0%と最も高く、次いで「40.1～60.0%」(8.6%)となっています。一方で、男性で「80.1～100.0%」が82.9%と最も高く、次いで「40.1～60.0%」「60.1～80.0%」(ともに8.6%)となっています。

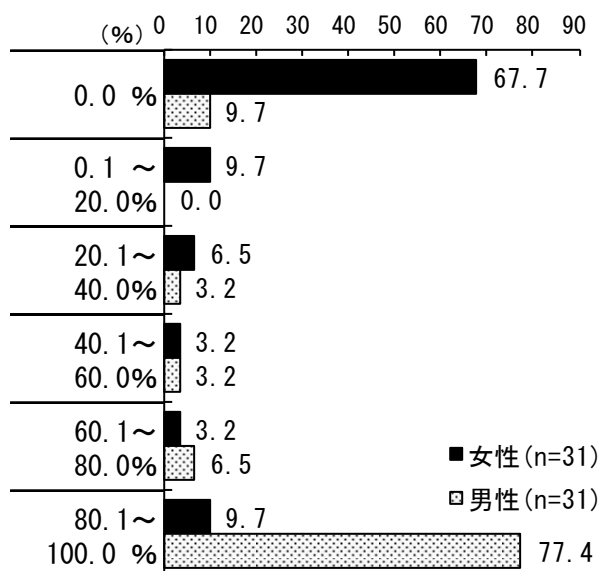
図表 304 部長相当職の割合



課長相当職の割合

- 女性で「0.0%」が67.7%と最も高く、次いで「0.1～20.0%」「80.1～100.0%」（ともに9.7%）となっています。一方で、男性で「80.1～100.0%」が77.4%と最も高く、次いで「0.0%」（9.7%）となっています。

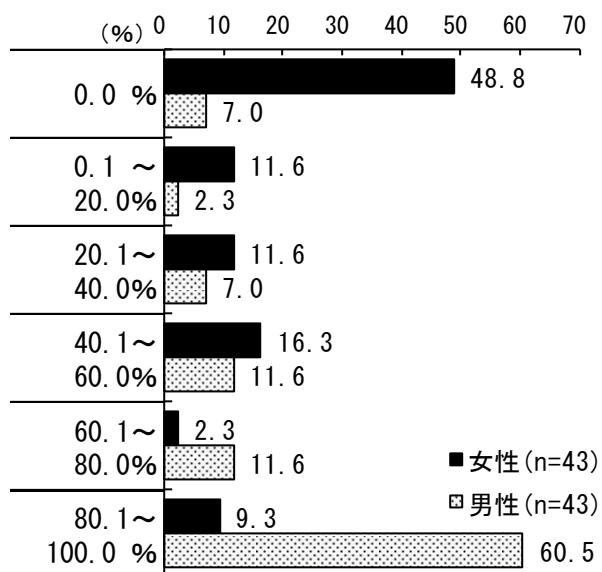
図表 305 課長相当職の割合



係長・主任相当職の割合

- 女性で「0.0%」が48.8%と最も高く、次いで「40.1～60.0%」（16.3%）、「0.1～20.0%」「20.1～40.0%」（ともに11.6%）となっています。一方で、「80.1～100.0%」が60.5%と最も高く、次いで「40.1～60.0%」「60.1～80.0%」（ともに11.6%）となっています。

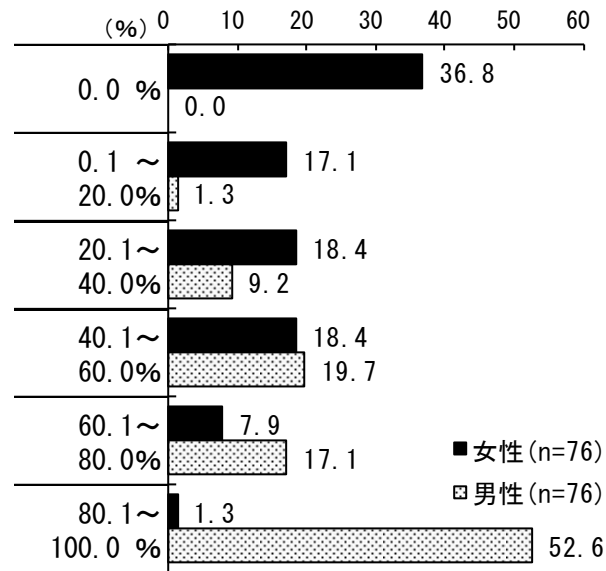
図表 306 係長・主任相当職の割合



管理職の割合

- 女性で「0.0%」が36.8%と最も高く、次いで「20.1~40.0%」「40.1~60.0%」（ともに18.4%）、「0.1~20.0%」（17.1%）となっています。一方で、男性で「80.1~100.0%」が52.6%と最も高く、次いで「40.1~60.0%」（19.7%）、「60.1~80.0%」（17.1%）となっています。

図表 307 管理職の割合

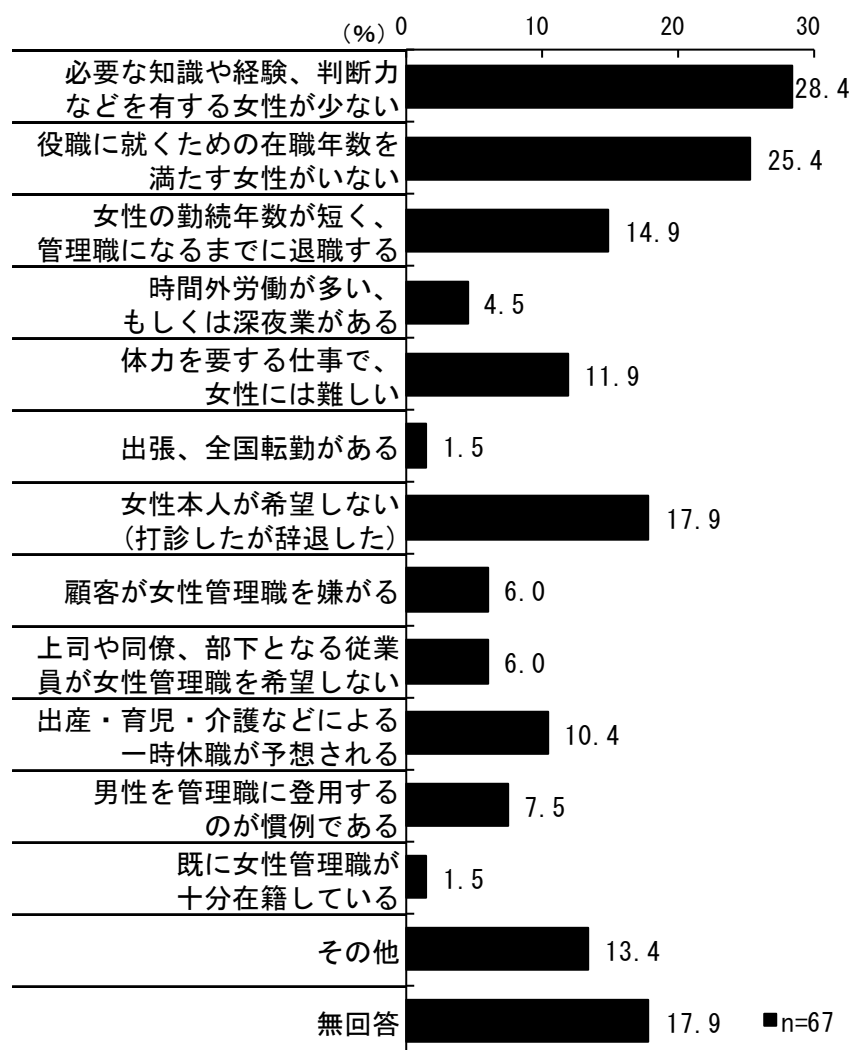


問 8 で女性管理職の人数が男性管理職の人数以下の事業所

問9 貴事業所の管理職に女性が少ないのは、どのような理由ですか。
(当てはまるもの全てに○)

- 「必要な知識や経験、判断力などを有する女性が少ない」が 28.4%と最も高く、次いで「役職に就くための在職年数を満たす女性がいない」(25.4%)、「女性本人が希望しない(打診したが辞退した)」(17.9%)、「女性の勤続年数が短く、管理職になるまでに退職する」(14.9%)となっています。

図表 308 女性管理職が少ない理由



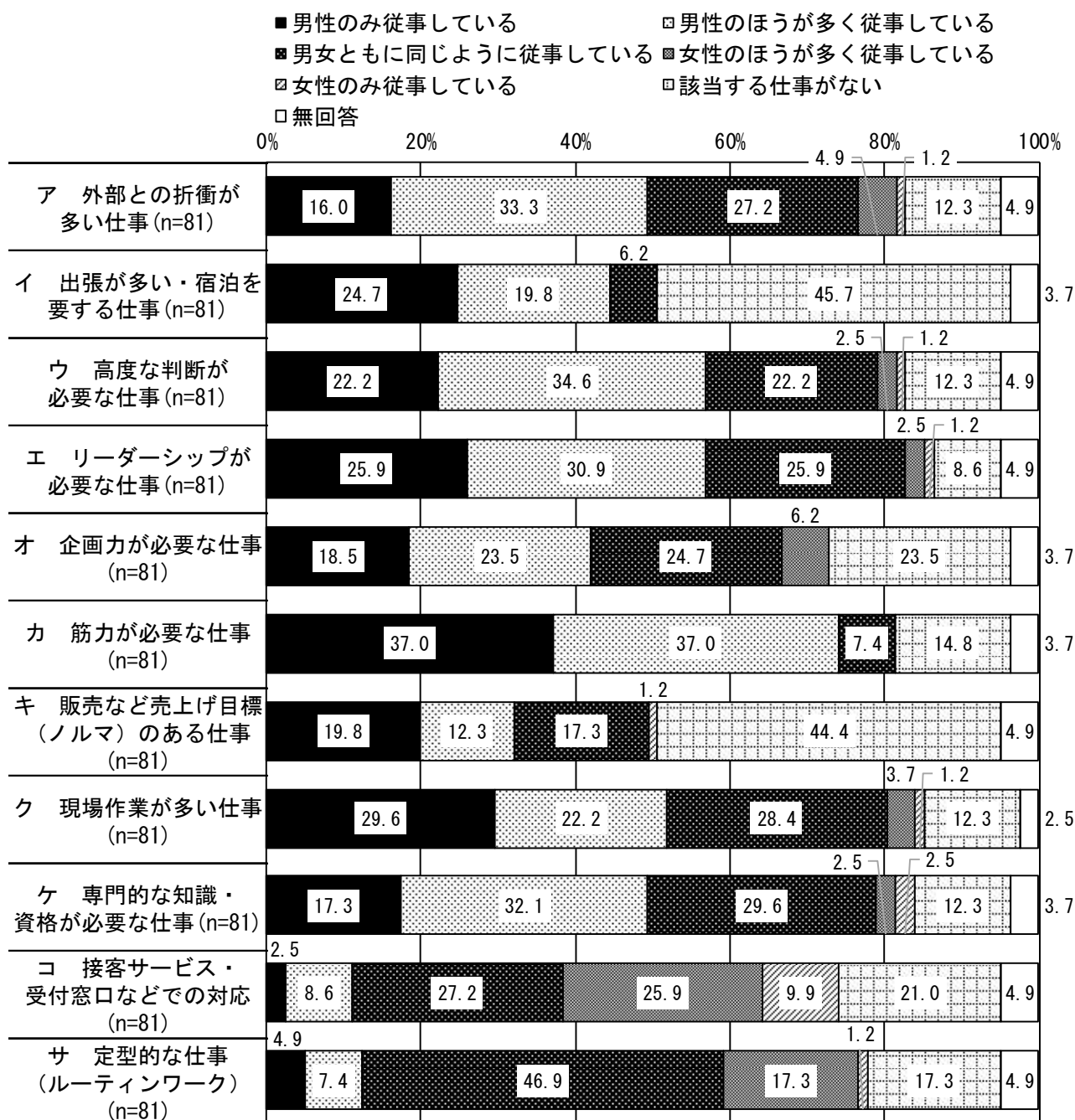
その他意見

- 特になし。
- 殆どがパートタイマー。
- 役職を設けるほど従業員がいません。
- など

問10 貴事業所において、下記のような仕事は女性と男性のどちらが多く従事していますか。
※役職者を除いてお答えください。（〇はそれぞれ1つ）

- “主に男性が従事（「男性のみ従事している」＋「男性のほうが多く従事している」）”をみると、「カ 筋力が必要な仕事」が74.0%と最も高く、次いで「ウ 高度な判断が必要な仕事」「エ リーダーシップが必要な仕事」（ともに56.8%）となっています。
- 「男女とも同じように従事している」をみると、「サ 定型的な仕事（ルーティンワーク）」が46.9%と、他の項目と比べて15ポイント以上高くなっています。
- “主に女性が従事（「女性のみ従事している」＋「女性のほうが多く従事している」）”をみると、「コ 接客サービス・受付窓口などでの対応」が35.8%と最も高く、次いで「サ 定型的な仕事（ルーティンワーク）」（18.5%）となっています。

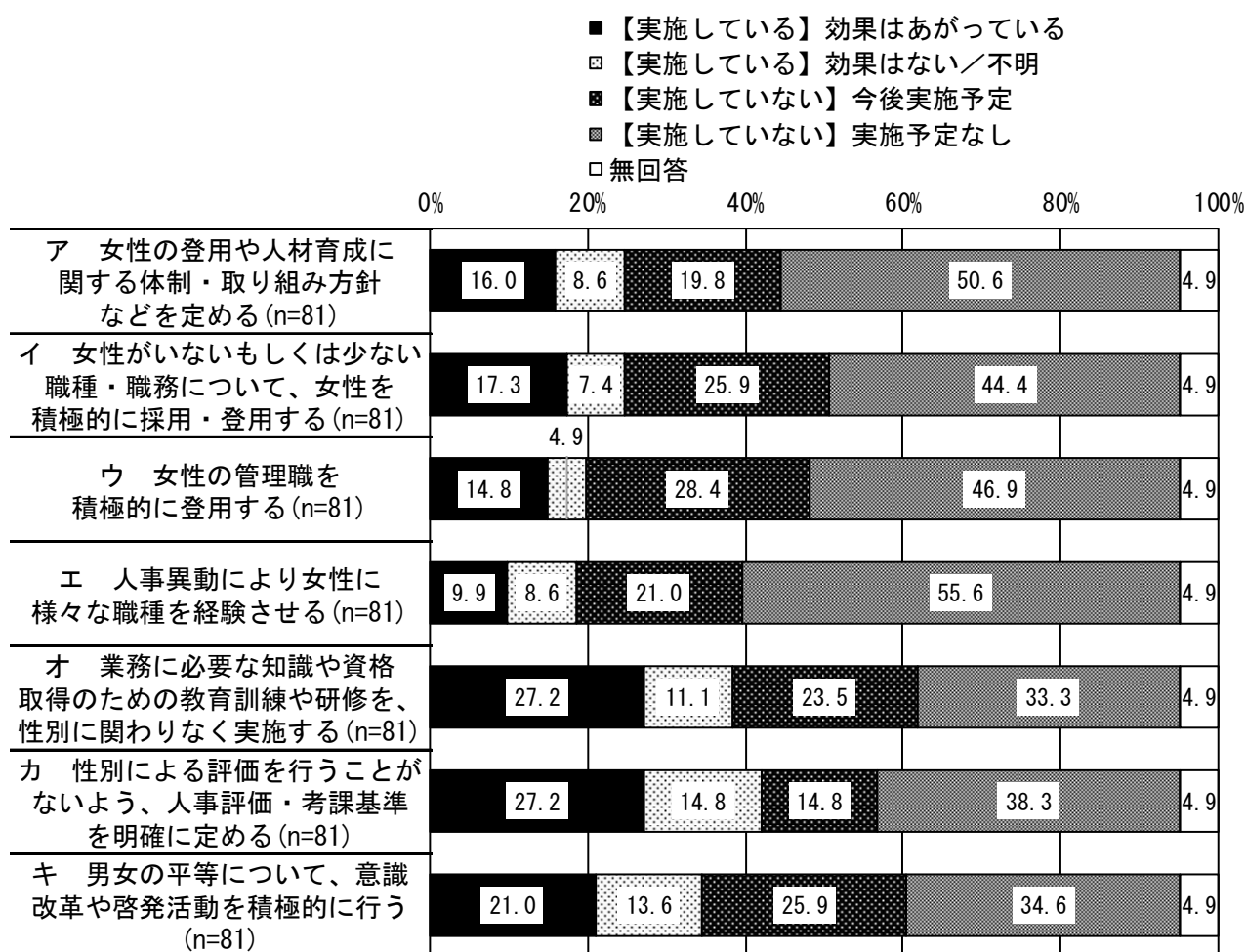
図表 309 業務担当者の男女比



問11 貴事業所では、男女雇用機会均等法に定められているポジティブ・アクションについて、何らかの取り組みを行っていますか。または実施予定ですか。各取り組みについて、実施の有無と効果をお教えてください。（〇はそれぞれ1つ）

- 「【実施している】効果はあがっている」をみると、「オ 業務に必要な知識や資格取得のための教育訓練や研修を、性別に関わりなく実施する」と「カ 性別による評価を行うことがないよう、人事評価・考課基準を明確に定める」がともに 27.2%と最も高く、次いで「キ 男女の平等について、意識改革や啓発活動を積極的に行う」（21.0%）となっています。
- 「【実施していない】実施予定なし」をみると、「エ 人事異動により女性に様々な職種を経験させる」が 55.6%と最も高く、次いで「ア 女性の登用や人材育成に関する体制・取り組み方針などを定める」（50.6%）、「ウ 女性の管理職を積極的に登用する」（46.9%）となっています。

図表 310 ポジティブ・アクションへの取り組み状況



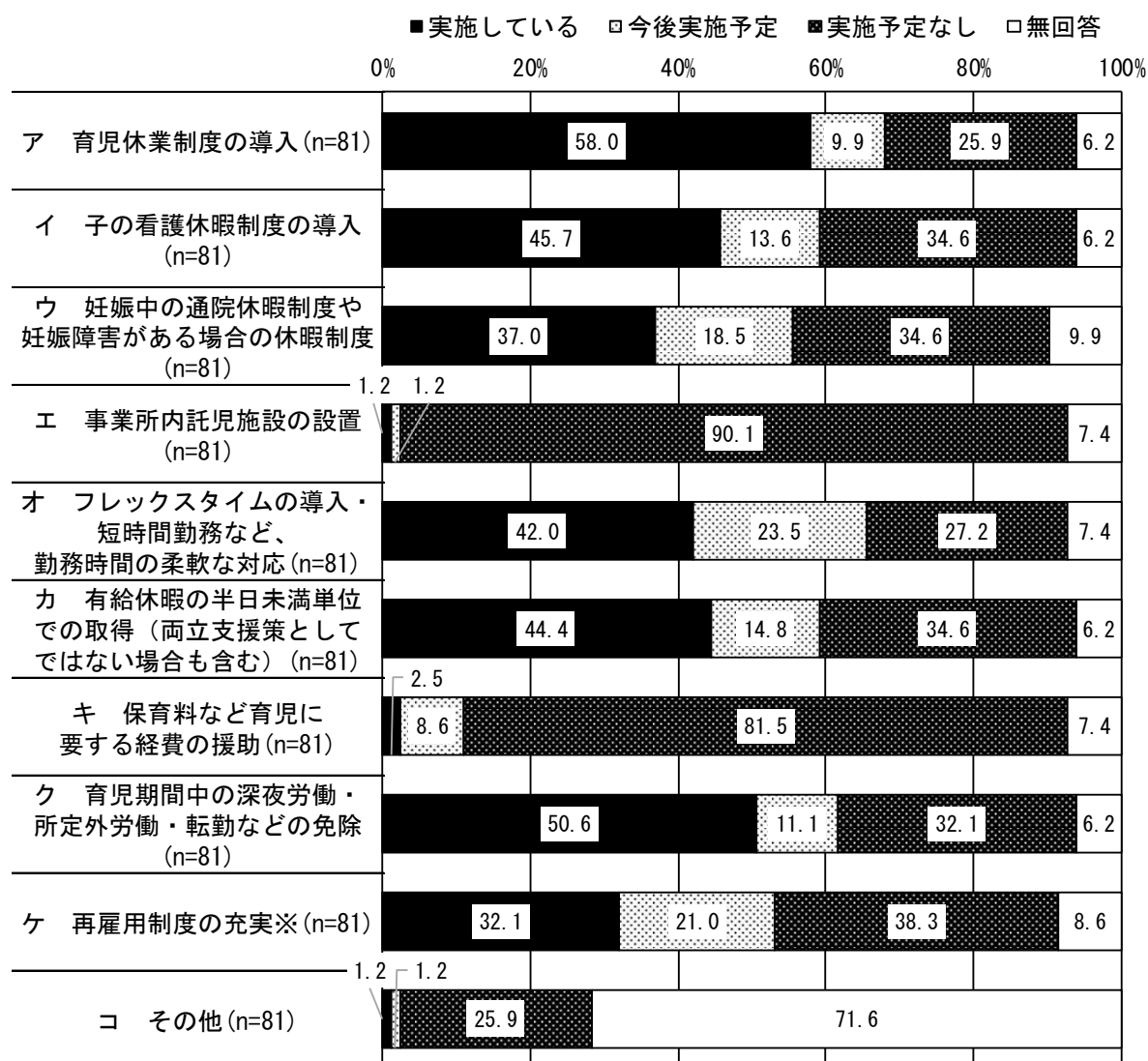
3 従業員の育児・介護などとの両立支援について

問12 貴事業所では、仕事と育児・介護との両立を支援するために、どのような取り組みを行っていますか。（育児・介護それぞれについて1つずつ〇）

育児との両立支援

- 「実施している」をみると、「ア 育児休業制度の導入」が58.0%と最も高く、次いで「ク 育児期間中の深夜労働・所定外労働・転勤などの免除」（50.6%）、「イ 子の看護休暇制度の導入」（45.7%）となっています。
- 「今後実施予定」をみると、「オ フレックスタイムの導入・短時間勤務など、勤務時間の柔軟な対応」が23.5%と最も高く、次いで「ケ 再雇用制度の充実」（21.0%）、「ウ 妊娠中の通院休暇制度や妊娠障害がある場合の休暇制度」（18.5%）となっています。
- 「実施予定なし」をみると、「エ 事業所内託児施設の設置」が90.1%と最も高く、次いで「キ 保育料など育児に要する経費の援助」（81.5%）となっています。

図表 311 育児との両立支援

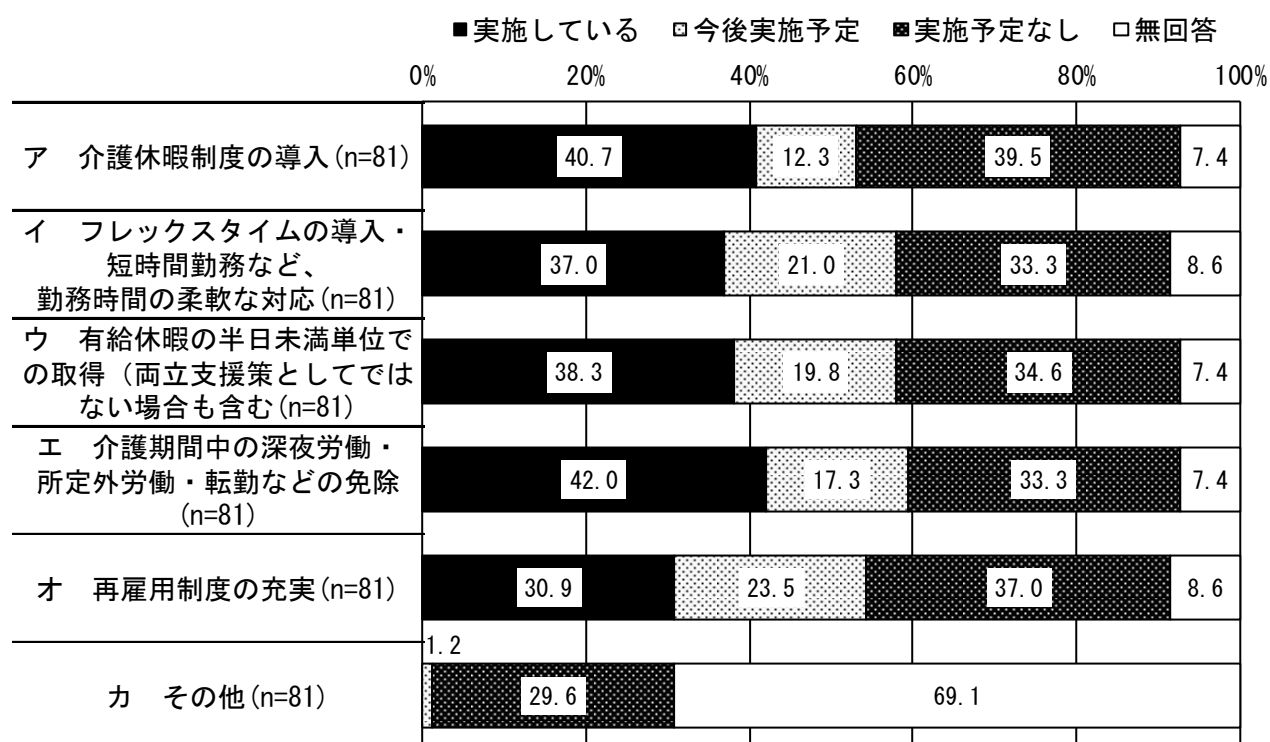


※子育てなどを理由に退職した人を再び雇用することで、定年退職後の再雇用は含めない

介護との両立支援

- 「実施している」をみると、「エ 介護期間中の深夜労働・所定外労働・転勤などの免除」が42.0%と最も高く、次いで「ア 介護休暇制度の導入」(40.7%)となっています。
- 「今後実施予定」をみると、「オ 再雇用制度の充実」が23.5%と最も高く、次いで「イ フレックスタイムの導入・短時間勤務など、勤務時間の柔軟な対応」(21.0%)となっています。
- 「実施予定なし」をみると、「ア 介護休暇制度の導入」が39.5%と最も高く、次いで「オ 再雇用制度の充実」(37.0%)となっています。

図表 312 介護との両立支援

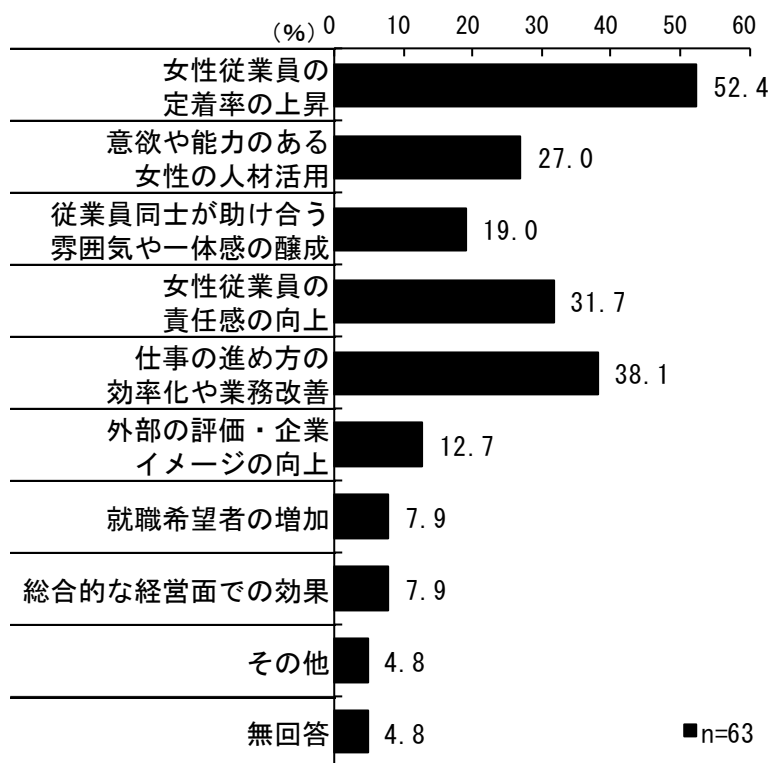


問 12 でどれか 1 つでも「実施している」と答えた事業所

問13 上記取り組みを実施したことにより、どのような効果や変化がありましたか。
(当てはまるもの全てに○)

- 「女性従業員の定着率の上昇」が 52.4%と最も高く、次いで「仕事の進め方の効率化や業務改善」(38.1%)、「女性従業員の責任感の向上」(31.7%)となっています。

図表 313 取り組みによる効果や変化

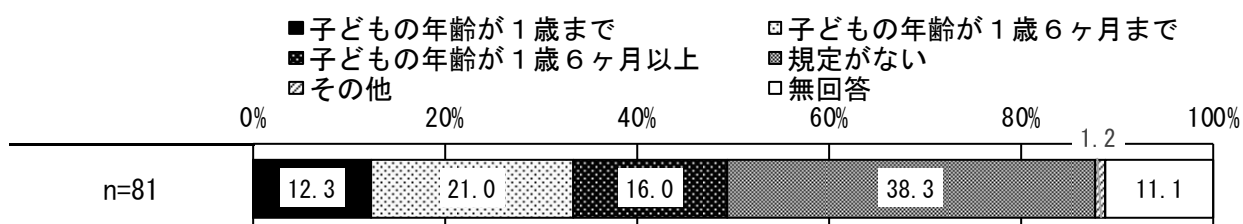


問14 貴事業所における育児休業は、どの程度の期間取得できますか。

「子どもの年齢が1歳6ヶ月以上」を選択された場合、具体的な年齢をお答えください。
(○は1つ)

- 「規定がない」が 38.3%と最も高く、次いで「子どもの年齢が1歳6ヶ月まで」(21.0%)、「子どもの年齢が1歳6ヶ月以上」(16.0%)、「子どもの年齢が1歳まで」(12.3%)となっています。
- また、「子どもの年齢が1歳6ヶ月以上」の13事業所について、「2歳～2歳6ヶ月未満」が9事業所、「3歳以上」が2事業所、「1歳6ヶ月～2歳未満」と「2歳6ヶ月～3歳未満」がともに1事業所となっています。

図表 314 育児休業の取得可能期間

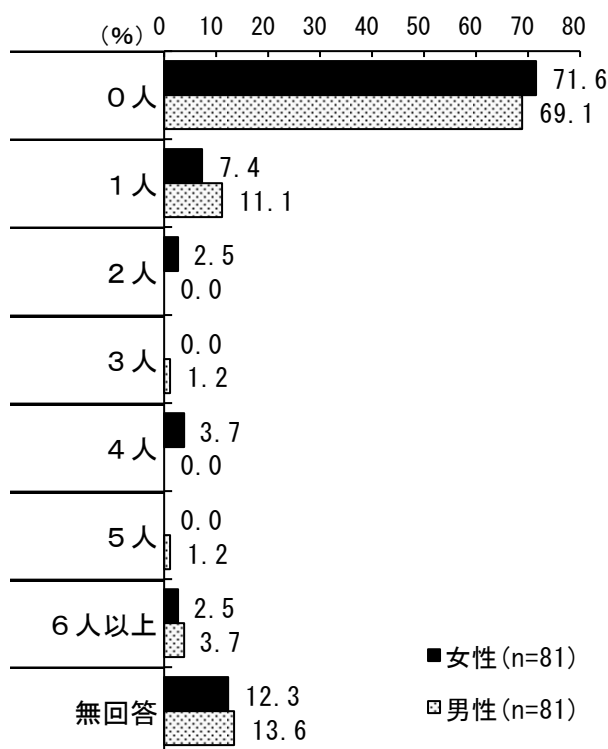


問15 貴事業所において、それぞれの項目について該当する人数をご記入ください。
※詳細な人数は不明の場合は、不明とご記入ください。

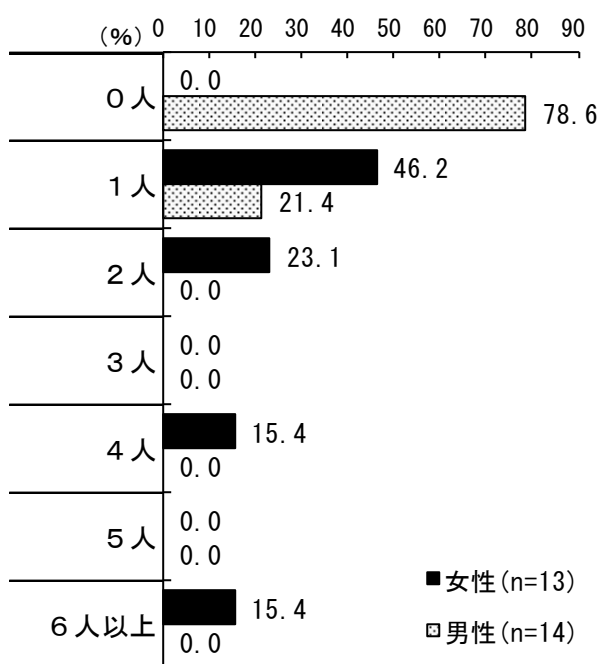
育児休業

- 本人または配偶者が出産した従業員数は、男女ともに「0人」が最も高く、次いで「1人」となっています。
- 育児休業を取得した従業員数は、女性で「1人」が46.2%と最も高く、次いで「2人」(23.1%)、「4人」「6人以上」(ともに15.4%)となっています。一方で、男性で「0人」が78.6%と最も高く、次いで「1人」(21.4%)となっています。
- 育児休業を取得した従業員の割合は、女性で「80.1～100.0%」が92.3%と最も高く、次いで「40.1～60.0%」(7.7%)となっています。一方で、男性で「0.0%」が78.6%と最も高く、次いで「0.1～20.0%」(21.4%)となっています。

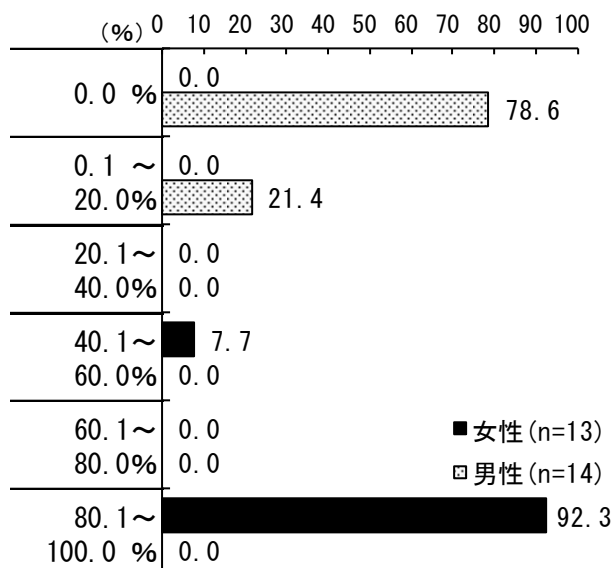
図表 315 本人または配偶者が出産した従業員数



図表 316 育児休業を取得した従業員数



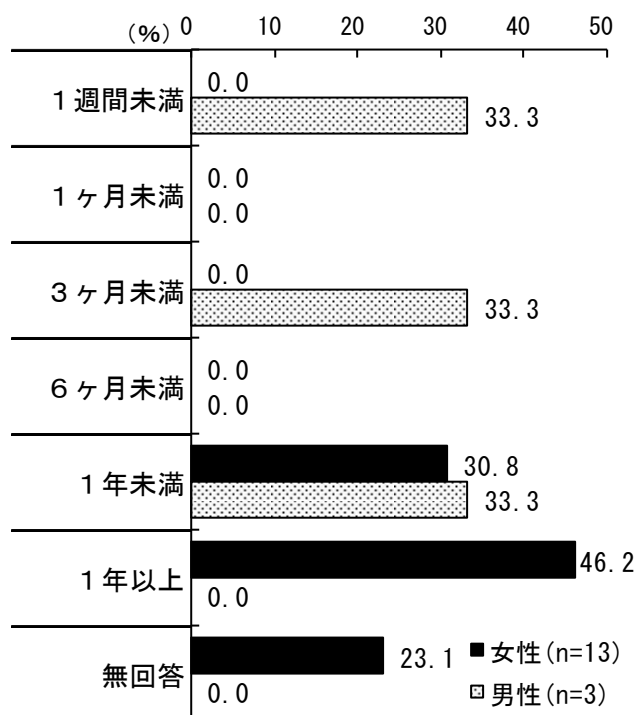
図表 317 育児休業を取得した従業員の割合



育児休業の平均取得期間

- 女性で「1年以上」が46.2%と最も高く、次いで「1年未満」(30.8%)となっています。また、男性は回答者が少ないため、参考程度とします。

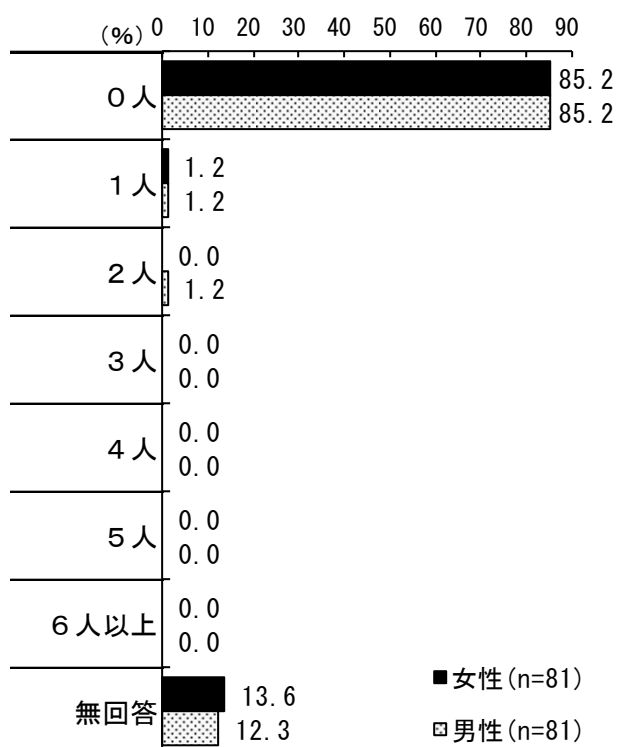
図表 318 育児休業の平均取得期間



介護休業

- 男女ともに「0人」が8割以上となっています。

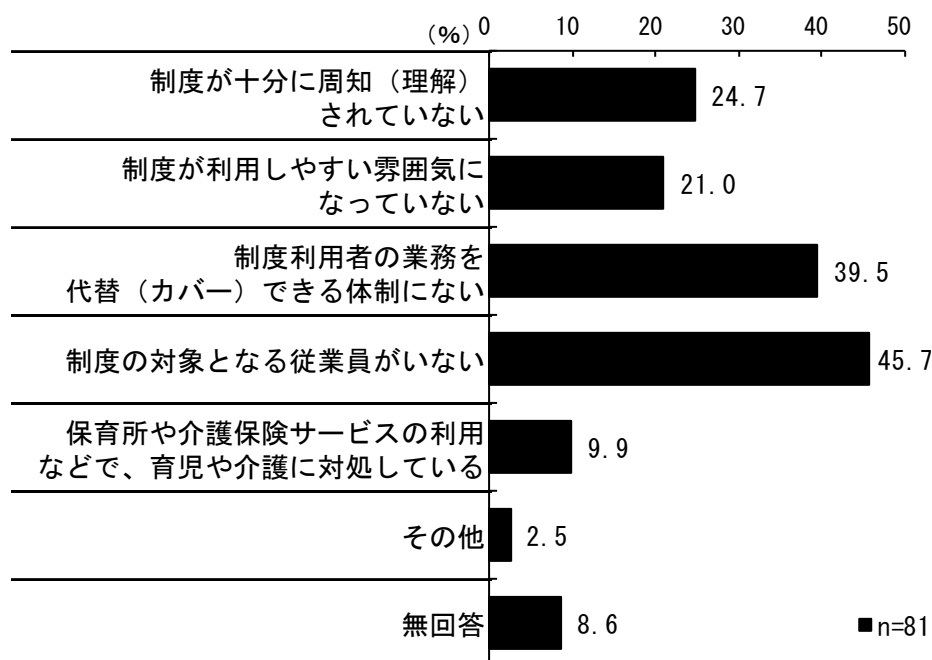
図表 319 介護休業を取得した従業員数



問16 男性の育児休業、介護休業の取得を進めていく中で、課題となっていることを教えてください。（〇はいくつでも）

- 「制度の対象となる従業員がいない」が45.7%と最も高く、次いで「制度利用者の業務を代替（カバー）できる体制にない」（39.5%）となっています。

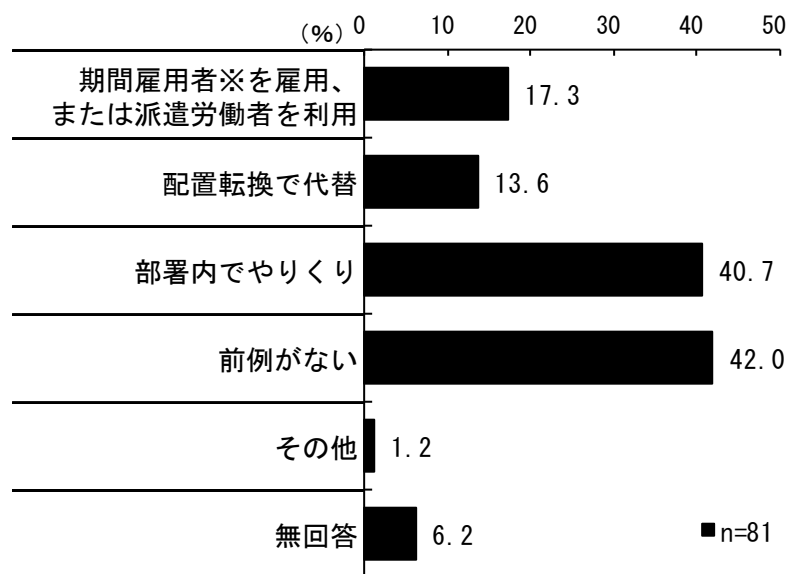
図表 320 男性の育児休業・介護休業取得についての課題



問17 育児休業・介護休業中の労働者の代替要員を、どのように確保していますか。（当てはまるもの全てに〇）

- 「前例がない」が42.0%と最も高く、次いで「部署内でやりくり」（40.7%）となっています。

図表 321 代替要員の確保方策



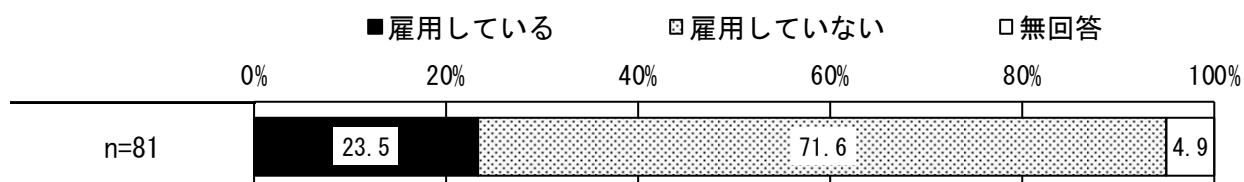
※契約社員・パート・アルバイトなど

問18 貴事業所では、女性の再雇用者を雇用していますか。（○は1つ）

※再雇用とは、育児・介護などを理由に退職した後、再び収入を伴う仕事に就く人のことで、定年後の再雇用は含めません。

- 「雇用している」が23.5%、「雇用していない」が71.6%となっています。

図表 322 女性の再雇用者の雇用状況

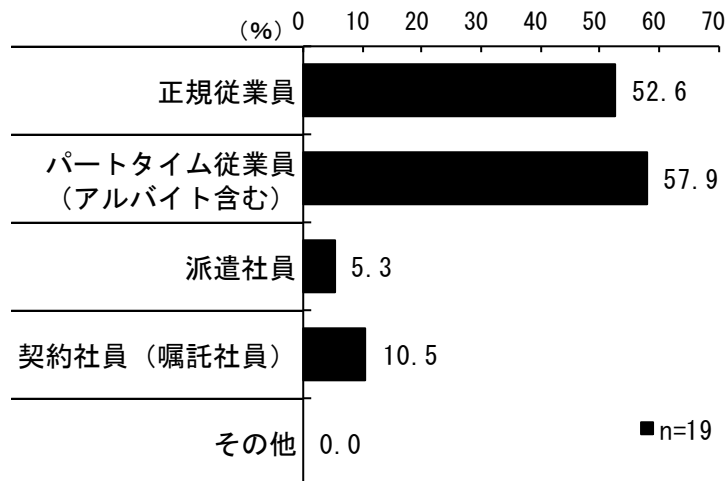


問 18 で「雇用している」と答えた事業所

問19 雇用形態は次のうちどれですか。（当てはまるもの全てに○）

- 「パートタイム従業員（アルバイト含む）」が57.9%と最も高く、次いで「正規従業員」（52.6%）となっています。

図表 323 女性の再雇用者の雇用形態

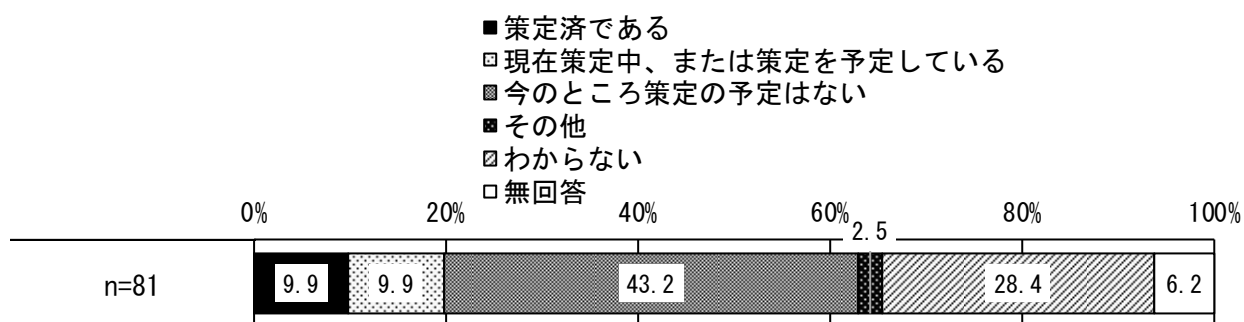


4 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問20 平成 28 年 4 月 1 日に全面施行された「女性活躍推進法」（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）に基づき、国や自治体のほか企業等は女性従業員の活躍を推進するための「一般事業主行動計画」を策定することが義務づけられています。（従業員 301 人以上の事業所は策定義務、300 人以下の事業所は努力義務）。貴事業所での策定状況についてお答えください。（○は 1 つ）

- 「今のところ策定の予定はない」が 43.2%と最も高く、次いで「わからない」(28.4%)、「策定済みである」「現在策定中、または策定を予定している」（ともに 9.9%）となっています。

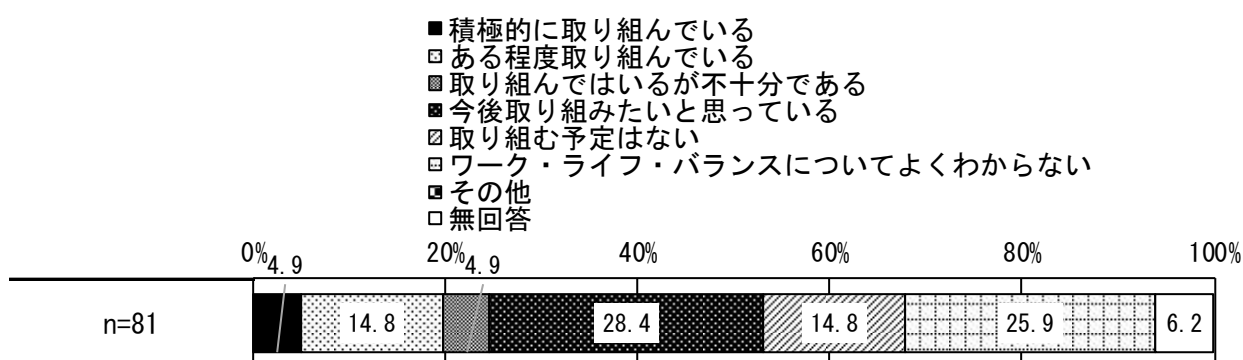
図表 324 「一般事業主行動計画」の策定状況



問21 現在、貴事業所では、ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みを行っていますか。（○は 1 つ）

- 「今後取り組みたいと思っている」が 28.4%と最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスについてよくわからない」(25.9%)、「ある程度取り組んでいる」「取り組む予定はない」（ともに 14.8%）となっています。

図表 325 ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みの実施状況

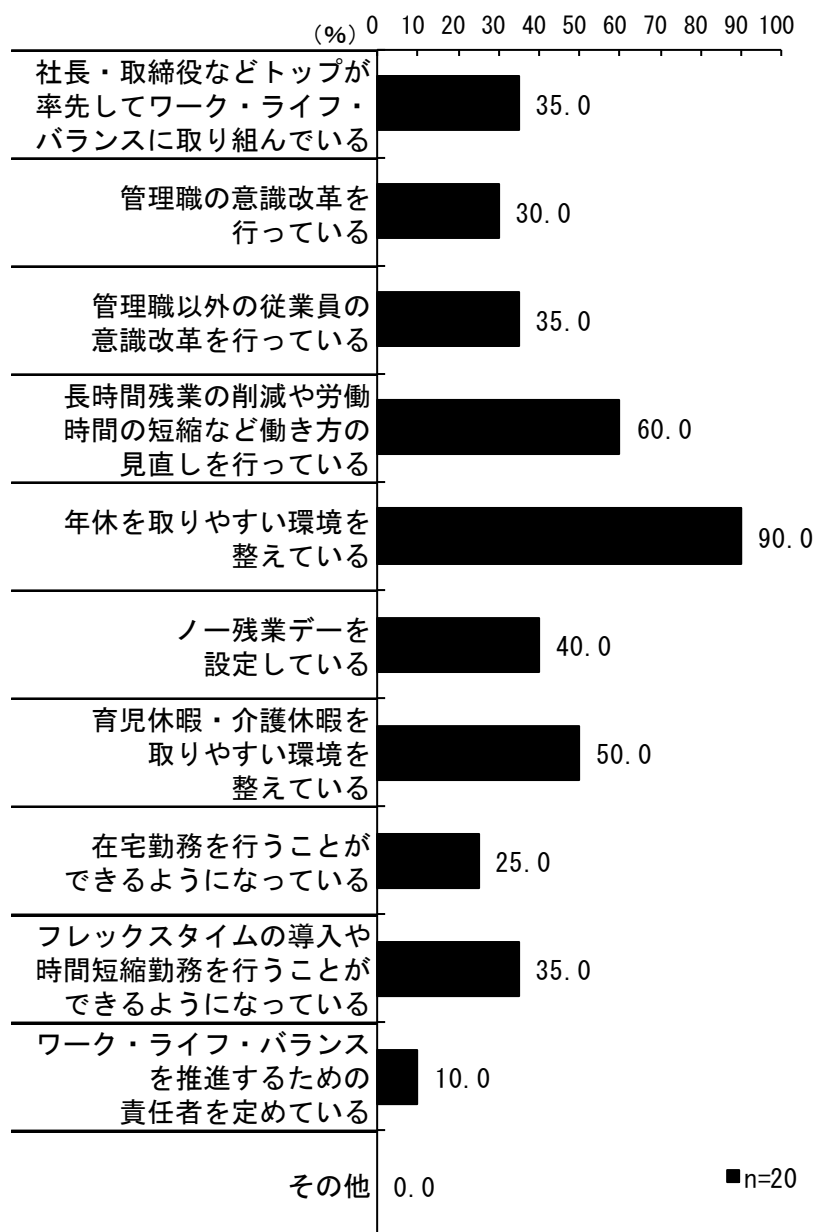


問 21 で「積極的に取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」「取り組んではいるが不十分である」と答えた事業所

問22 現在、ワーク・ライフ・バランスに関して行っている取り組みはどのようなものですか。（当てはまるもの全てに○）

- 「年休を取りやすい環境を整えている」が 90.0%と最も高く、次いで「長時間残業の削減や労働時間の短縮など働き方の見直しを行っている」(60.0%)、「育児休暇・介護休暇を取りやすい環境を整えている」(50.0%)となっています。

図表 326 ワーク・ライフ・バランスに関して行っている取り組み

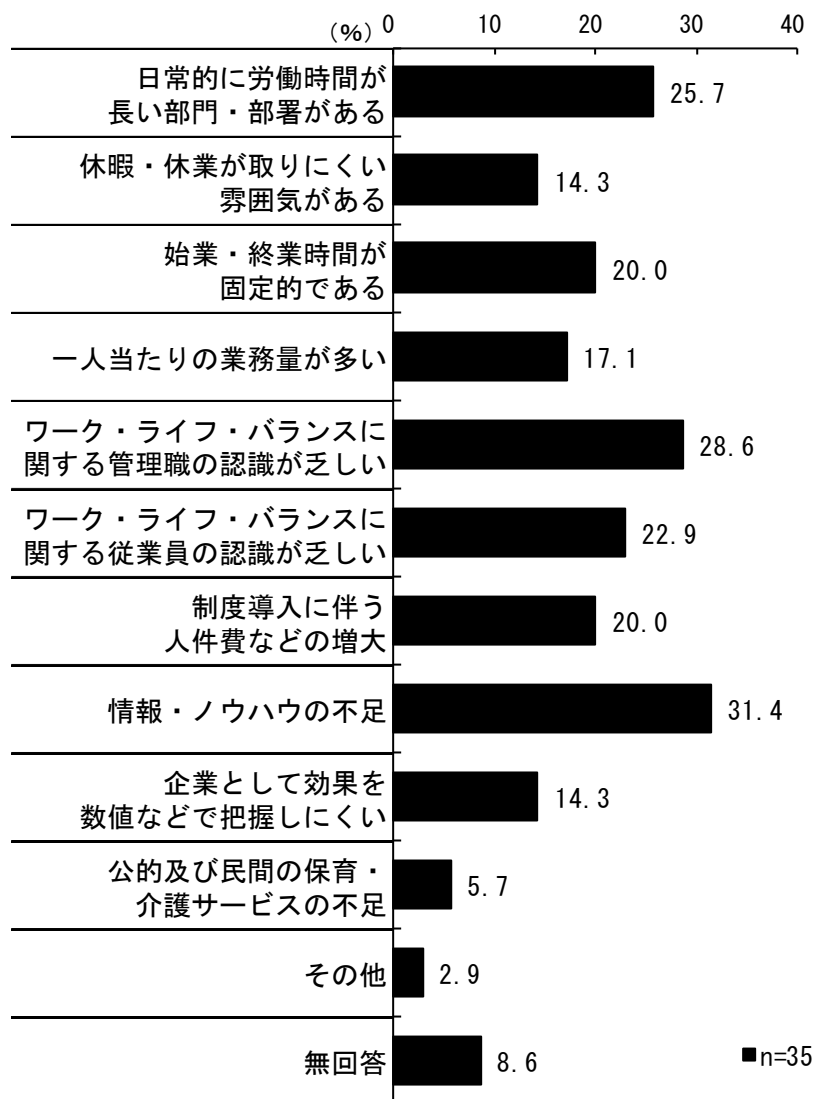


問 21 で「今後取り組みたいと思っている」「取り組む予定はない」と答えた事業所

**問23 貴事業所において、ワーク・ライフ・バランスに取り組む上での問題点は何ですか。
(当てはまるもの全てに○)**

- 「情報・ノウハウの不足」が 31.4%と最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスに関する管理職の認識が乏しい」(28.6%)、「日常的に労働時間が長い部門・部署がある」(25.7%)、「ワーク・ライフ・バランスに関する従業員の認識が乏しい」(22.9%)となっています。

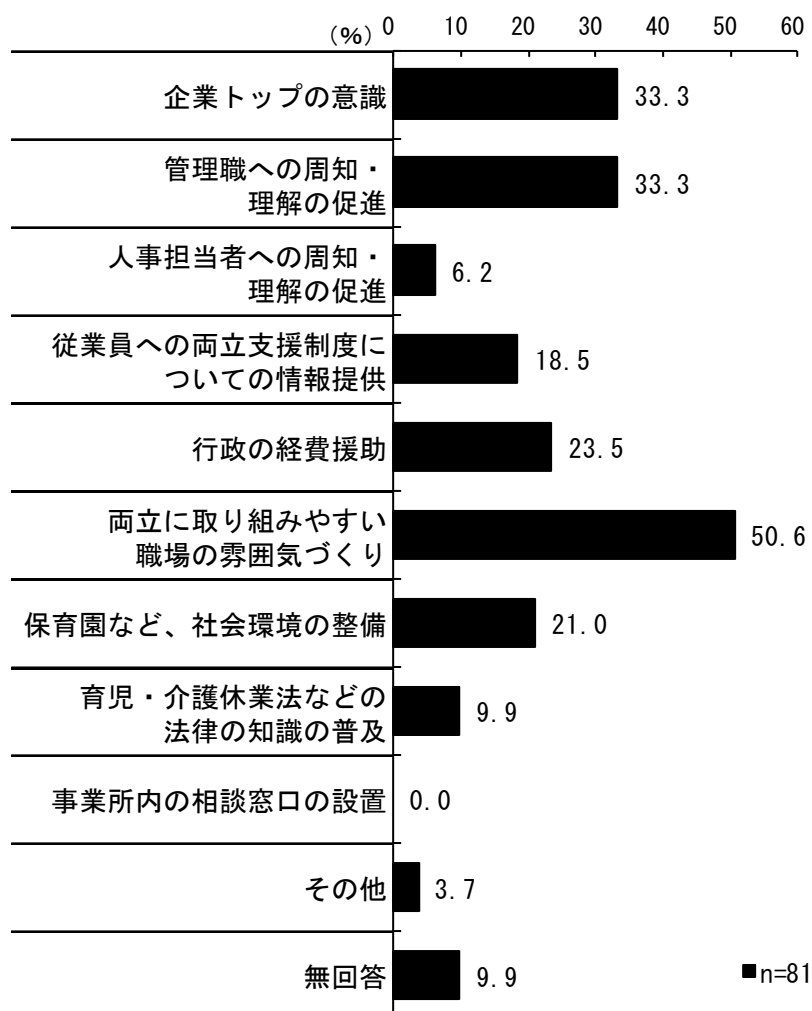
図表 327 ワーク・ライフ・バランスに取り組む上での問題点



問24 ワーク・ライフ・バランスを推進する上で、特に重要なことは何だと思えますか。
(3つまで○)

- 「両立に取り組みやすい職場の雰囲気づくり」が 50.6%と最も高く、次いで「企業トップの意識」「管理職への周知・理解の促進」(ともに 33.3%)、「行政の経費援助」(23.5%)、「保育園など、社会環境の整備」(21.0%)となっています。

図表 328 ワーク・ライフ・バランスを推進する上で特に重要なこと

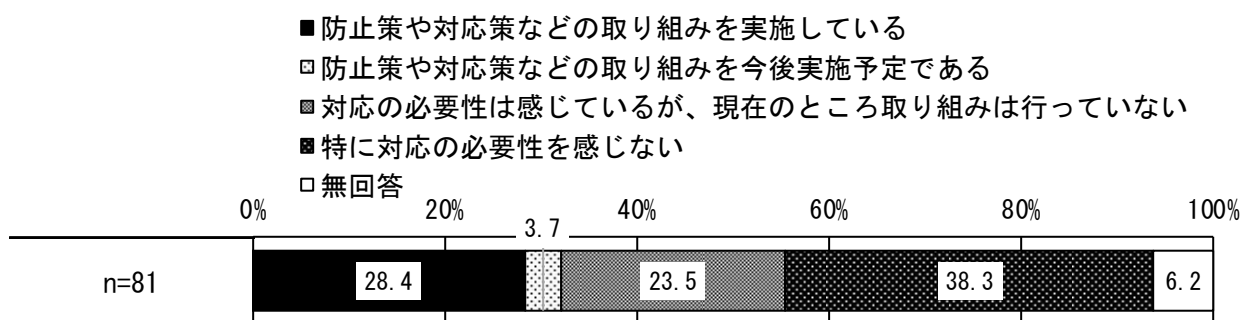


5 各種ハラスメントの防止について

問25 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントに関する取り組みを行っていますか。
(○は1つ)

- 「特に対応の必要性を感じない」が 38.3%と最も高く、次いで「防止策や対応策などの取り組みを実施している」(28.4%)、「対応の必要性は感じているが、現在のところ取り組みは行っていない」(23.5%) となっています。

図表 329 セクシュアル・ハラスメントに関する取り組みの実施状況

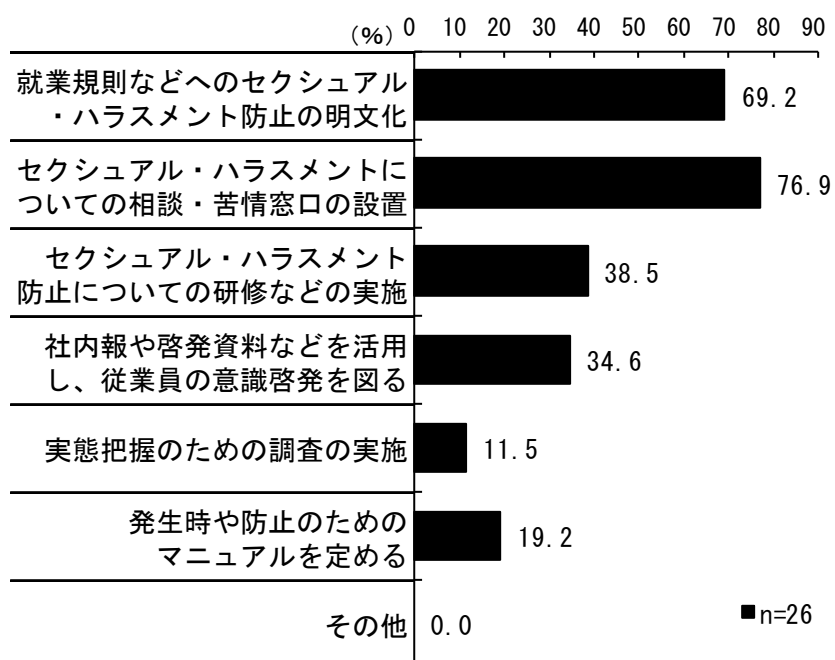


問 25 で「防止策や対応策などの取り組みを実施している」「防止策や対応策などの取り組みを今後実施予定である」と答えた事業所

問26 どのような取り組みを行っている、もしくは行う予定ですか。
(当てはまるもの全てに○)

- 「セクシュアル・ハラスメントについての相談・苦情窓口の設置」が 76.9%と最も高く、次いで「就業規則などへのセクシュアル・ハラスメント防止の明文化」(69.2%) となっています。

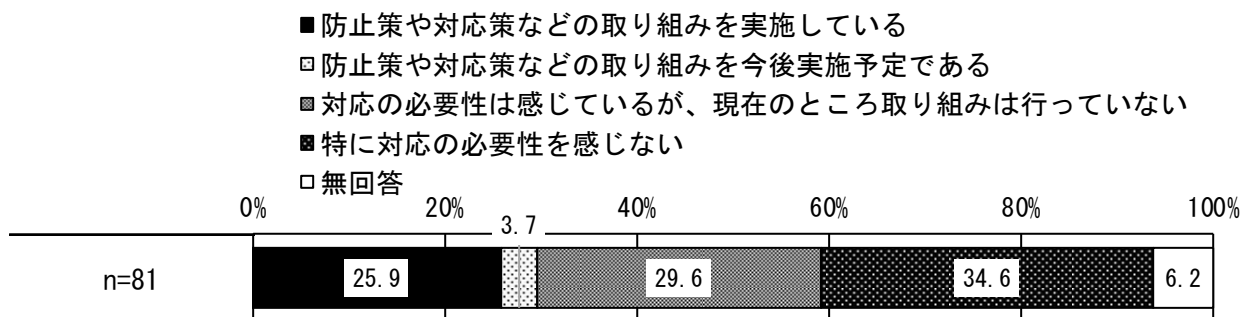
図表 330 実施中もしくは実施予定の取り組み



問27 貴事業所では、パワー・ハラスメントに関する取り組みを行っていますか。
(○は1つ)

- 「特に必要性を感じない」が 34.6%と最も高く、次いで「対応の必要性は感じているが、現在のところ取り組みは行っていない」(29.6%)、「防止策や対応策などの取り組みを実施している」(25.9%)となっています。

図表 331 パワー・ハラスメントに関する取り組みの実施状況

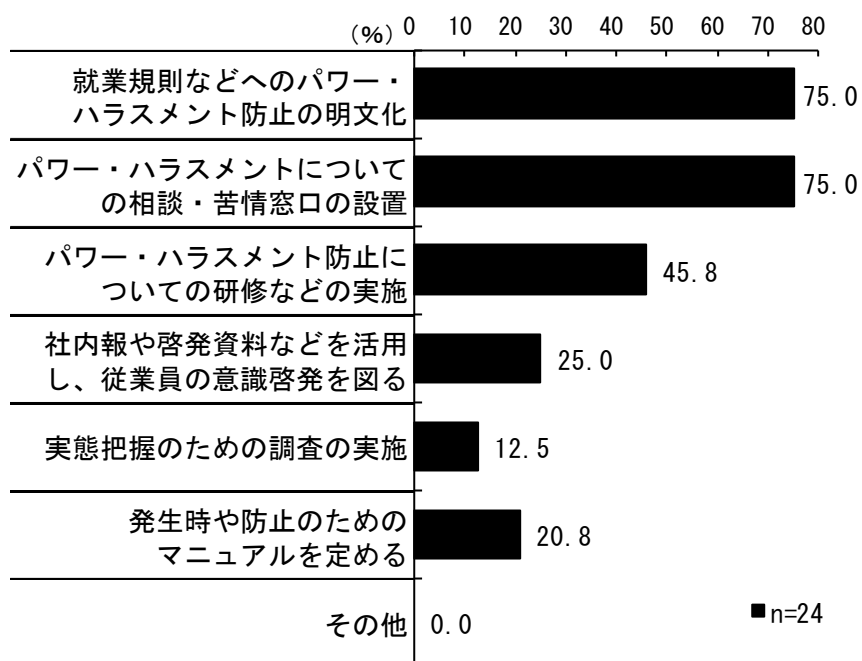


問 27 で「防止策や対応策などの取り組みを実施している」「防止策や対応策などの取り組みを今後実施予定である」と答えた事業所

問28 どのような取り組みを行っている、もしくは行う予定ですか。
(当てはまるもの全てに○)

- 「就業規則などへのパワー・ハラスメント防止の明文化」と「パワー・ハラスメントについての相談・苦情窓口の設置」がともに 75.0%と最も高く、次いで「パワー・ハラスメント防止についての研修などの実施」(45.8%)となっています。

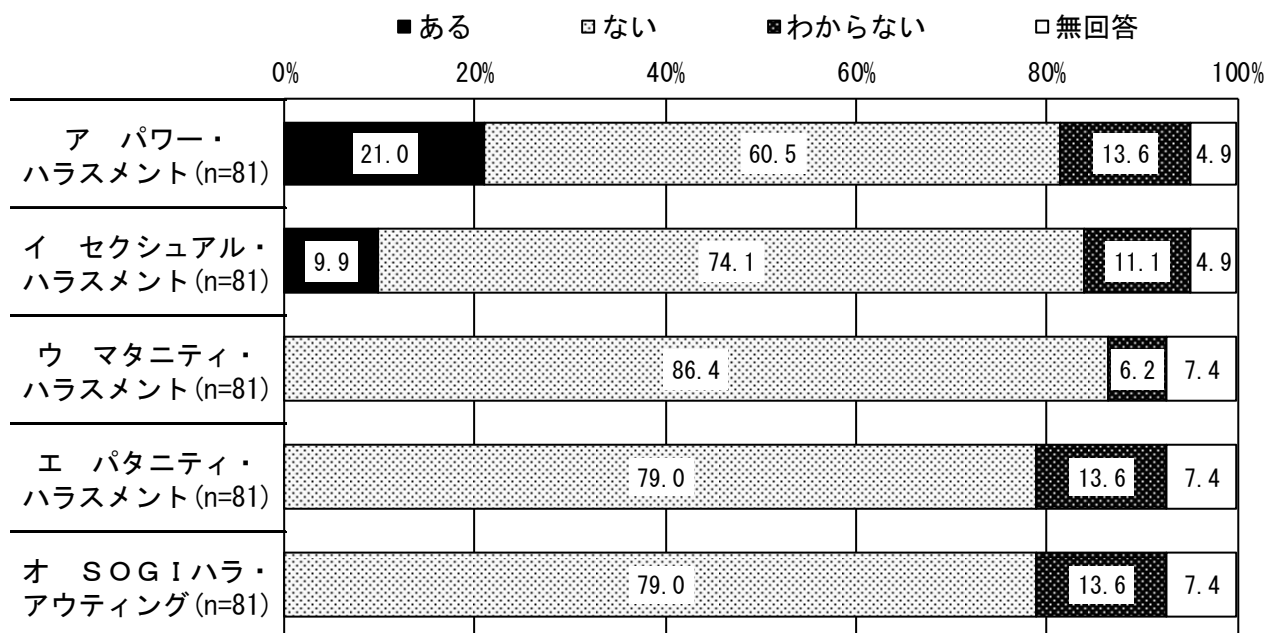
図表 332 実施中もしくは実施予定の取り組み



問29 貴事業所では、ハラスメントと思われる問題が生じたことがありますか。
(〇はそれぞれ1つ)

- 「ある」をみると、「ア パワー・ハラスメント」で21.0%、「イ セクシュアル・ハラスメント」で9.9%となっています。
- 「わからない」をみると、「ウ マタニティ・ハラスメント」を除いて1割以上となっています。

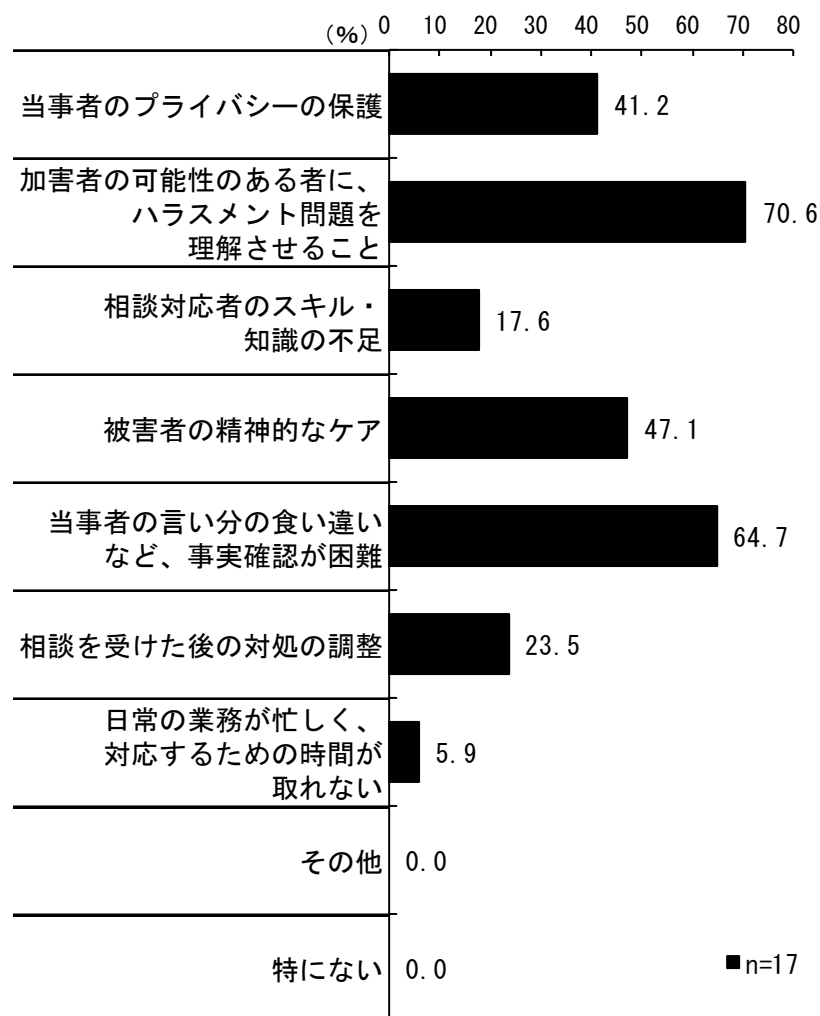
図表 333 ハラスメント問題の発生状況



問30 貴事業所において、実際にハラスメントの事案が起こった際、対応として特に難しいと感じたのはどのようなことですか。（当てはまるもの全てに○）

- 「加害者の可能性のある者に、ハラスメント問題を理解させること」が 70.6%と最も高く、次いで「当事者の言い分の食い違いなど、事実確認が困難」(64.7%)、「被害者の精神的なケア」(47.1%)、「当事者のプライバシーの問題」(41.2%)となっています。

図表 334 ハラスメントへの対応で特に難しいと感じたこと



6 男女共同参画社会について

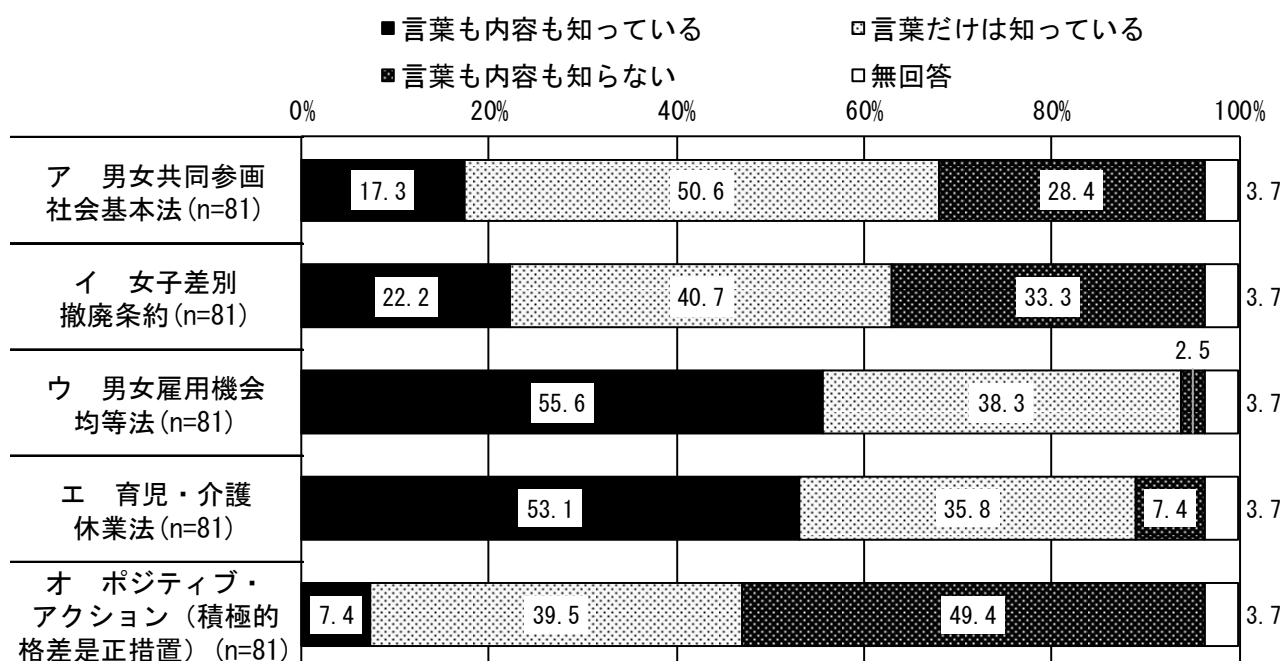
問 31 は調査票記入者が対象

問31 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。

(○はそれぞれ1つ)

- 「言葉も内容も知っている」をみると、「ウ 男女雇用機会均等法」と「エ 育児・介護休業法」がともに5割以上となっています。
- 「言葉も内容も知らない」をみると、「オ ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）」が49.4%と最も高く、次いで「イ 女子差別撤廃条約」（33.3%）、「ア 男女共同参画社会基本法」（28.4%）となっています。

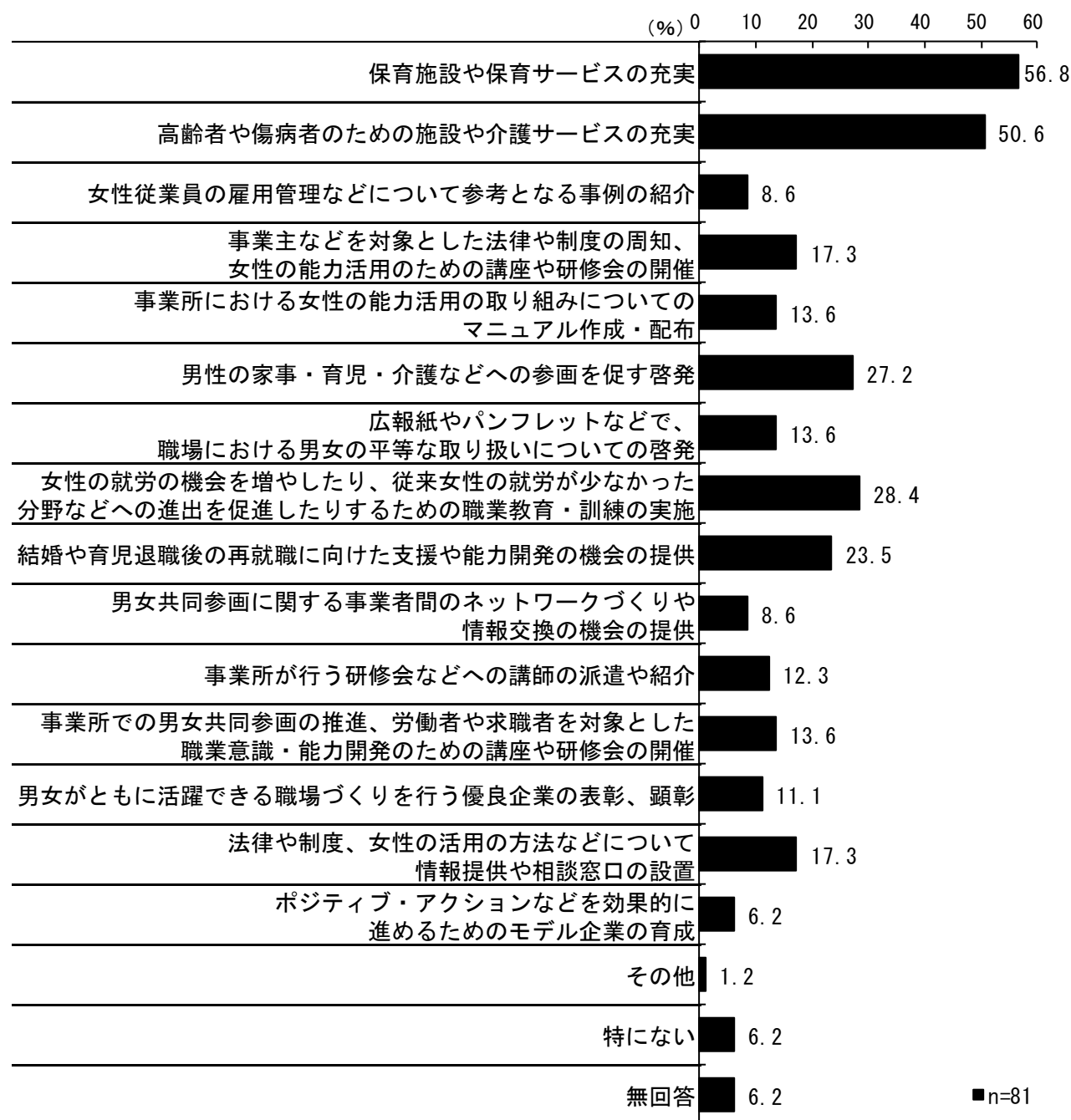
図表 335 男女共同参画関連用語の認知度



問32 貴事業所において男女共同参画を進めるにあたって、今後、小牧市が力を入れていくべきだと思うことは、どのようなことですか。（〇はいくつでも）

- 「保育施設や保育サービスの充実」が 56.8%と最も高く、次いで「高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実」（50.6%）、「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの進出を促進したりするための職業教育・訓練の実施」（28.4%）、「男性の家事・育児・介護などへの参画を促す啓発」（27.2%）となっています。

図表 336 小牧市が今後力を入れていくべきこと



問33 貴事業所が男女共同参画を推進する上で行政に望むことがあればお書きください。

- (問 32「保育施設や保育サービスの充実」に関連して) 小牧市内で働いている人を対象とした保育施設、サービスの充実。
- 男性目線で進めても意味のないものができてしまいます。女性目線で作ったものを男性が理解し、認めていくこと。古い人間の固定観念を壊さなければ無理。この調査のトップの人間、さらに上の人たちが男性ばかりであれば、無駄でしかない。女性が、女性のために動けるようになってきているのなら、一歩進めているのだろうが。
- 小牧市は未だ「パートナーシップ制度」が導入されていないが、企業に対して制度の拡充を考えるのと同時に、小牧市として男女すべての人が住みやすい町としての基本を作らなければ企業の発展は望めません。愛知県で導入されているのは西尾市と豊明市のみです。まだ少なすぎます。小牧市は「パートナーシップ制度」の導入をし、生活基盤を整え、企業は男女すべてが働きやすい職場を作る。この両立を小牧市は真剣に考えていただきたいと思います。
- 男性の意識が変わらなければ、いくら制度や補助を充実させても無意味だと思います。そもそも行政の立場である市役所も、役職者、責任者となる方は圧倒的に男性が多く、電話や窓口対応を女性にさせているのをよく見かけます。まずは市役所が手本となるよう進めてはいかがでしょうか。
- 法的義務とならないと、なかなか進まないと思われます。
- 一部の人以外は1日8時間以上仕事をしている。1日を通して他には食事休憩に2.5時間、身体のケアに1時間、通勤に1時間、睡眠を7時間とすると残りは4.5時間。残業がなくても、4.5時間。この時間内に子どもの送迎、家事、コミュニケーション、買い物、その他の世話を毎日するとすると、何をどう頑張っても、協力しても、かなり疲れる。重い仕事をし、時には深刻な問題を仕事で抱えてしまう男性を、家事、育児、介護に参加させて心身共に健康でいられるかと考えてしまう(私は女性ですが)。とにかく仕事を全うして、子どものこともきちんとして、地域の係や学校の係もやって、少ない手取りのなかで住宅ローンに教育費、税金の支払い、今の社会、誰が幸せなのか。女性参画よりも税金を減らして親と子どもが一緒にいられるようにしてほしい。
- 弊社では女性事務員への正社員の案内を行いますが、ご本人が希望されないため女性正社員がいません。扶養控除の壁等がなくなり働きたいときに働きたいだけ働けるパートタイムなどの自由な働き方を。そう思う女性が多いのでは。
- まだまだ女性自身が「働く」ことに消極的であると感じます。「扶養の範囲内で働きたい」と思っている人がまだ圧倒的に多く、男性も配偶者に「扶養の範囲内で働いてもらう方が得」という根拠のない(本当の仕組みを知らない)思い込みをしている人もたくさんいます。よって、まず女性自身が世の中で働くことの素晴らしさや得るものが多いのだということを認知できる環境や学びの場が増えることが大切だと思います。また、そういったCM、ニュース等も必要であると考えます。
- 特になし(特に男性の力仕事が必要な会社ですので!)
- 家族のみの経営ですので、設問にお答えできず申し訳ありません。もちろん、男女の関係なく、一人の人間として活躍できる社会であってほしいと思っています。
- 小規模会社なので、アンケートはできません(従業員4人、同族会社です)。

X 事業所 前回比較

※平成 26 年に実施した調査結果について一部抜粋しています。

問 過去 10 年程度の間、貴事業所の従業員は以下についてどのような傾向が見られましたか。（○はそれぞれ 1 つ）

- “増加傾向”をみると、「エ 女性の正規従業員」で 17.4 ポイント、「ア 結婚後も継続して勤める女性」と「イ 子どもが生まれた後も継続して勤める女性」でともに 10.5 ポイント、それぞれ前回より高くなっています。

図表 337 過去 10 年間に見られた傾向（前回比較）

		全 体	増 加 し た	し や た や 増 加	い 変 化 な い し て	し や た や 減 少	減 少 し た	無 回 答
ア 結婚後も継続して 勤める女性	今回	81	10	11	51	－	1	8
		100.0	12.3	13.6	63.0	－	1.2	9.9
	前回	65	5	5	38	－	－	17
		100.0	7.7	7.7	58.5	－	－	26.2
イ 子どもが生まれた後 も継続して勤める女性	今回	81	9	12	51	1	1	7
		100.0	11.1	14.8	63.0	1.2	1.2	8.6
	前回	65	5	5	35	－	2	18
		100.0	7.7	7.7	53.8	－	3.1	27.7
ウ 女性の平均勤続年数	今回	81	18	20	33	3	－	7
		100.0	22.2	24.7	40.7	3.7	－	8.6
	前回	65	10	15	22	1	1	16
		100.0	15.4	23.1	33.8	1.5	1.5	24.6
エ 女性の正規従業員	今回	81	13	16	42	2	2	6
		100.0	16.0	19.8	51.9	2.5	2.5	7.4
	前回	65	3	9	31	4	3	15
		100.0	4.6	13.8	47.7	6.2	4.6	23.1
オ 女性の非正規従業員	今回	81	2	15	47	5	2	10
		100.0	2.5	18.5	58.0	6.2	2.5	12.3
	前回	65	2	8	35	－	2	18
		100.0	3.1	12.3	53.8	－	3.1	27.7

問 貴事業所において、下記のような仕事は女性と男性のどちらが多く従事していますか。
※役職者を除いてお答えください。（○はそれぞれ1つ）

- いずれの項目も「男女ともに同じように従事している」が前回より高くなっています。
なかでも、「ク 現場作業が多い仕事」が 20.7 ポイント、「サ 定型的な仕事（ルーティンワーク）」が 16.1 ポイント、「ウ 高度な判断が必要な仕事」が 13.0 ポイント、「ア 外部との折衝が多い仕事」が 11.8 ポイント、それぞれ前回より高くなっています。

図表 338 業務担当者の男女比（前回比較）

		全 体	し男 て性 いの るみ 従 事	い多男 るく性 従の 事ほ しう てが	従同男 事じ女 しよと てうも いに る	い多女 るく性 従の 事ほ しう てが	し女 て性 いの るみ 従 事	が該 ない する 仕事	無 回 答
ア 外部との折衝が 多い仕事	今回	81	13	27	22	4	1	10	4
		100.0	16.0	33.3	27.2	4.9	1.2	12.3	4.9
	前回	65	21	21	10	1	-	4	8.0
		100.0	32.3	32.3	15.4	1.5	-	6.2	12.3
イ 出張が多い・ 宿泊を要する仕事	今回	81	20	16	5	-	-	37	3
		100.0	24.7	19.8	6.2	-	-	45.7	3.7
	前回	65	24	7	1	-	-	25	8.0
		100.0	36.9	10.8	1.5	-	-	38.5	12.3
ウ 高度な判断が 必要な仕事	今回	81	18	28	18	2	1	10	4
		100.0	22.2	34.6	22.2	2.5	1.2	12.3	4.9
	前回	65	26	15	6	-	-	9	9.0
		100.0	40.0	23.1	9.2	-	-	13.8	13.8
エ リーダーシップ が必要な仕事	今回	81	21	25	21	2	1	7	4
		100.0	25.9	30.9	25.9	2.5	1.2	8.6	4.9
	前回	65	22	9	14	1	-	11	8.0
		100.0	33.8	13.8	21.5	1.5	-	16.9	12.3
オ 企画力が必要な仕事	今回	81	15	19	20	5	-	19	3
		100.0	18.5	23.5	24.7	6.2	-	23.5	3.7
	前回	65	22	12	10	-	-	13	8.0
		100.0	33.8	18.5	15.4	-	-	20.0	12.3
カ 筋力が必要な仕事	今回	81	30	30	6	-	-	12	3
		100.0	37.0	37.0	7.4	-	-	14.8	3.7
	前回	65	30	12	4	-	-	10	9.0
		100.0	46.2	18.5	6.2	-	-	15.4	13.8
キ 販売など売上げ目標 （ノルマ）のある仕事	今回	81	16	10	14	-	1	36	4
		100.0	19.8	12.3	17.3	-	1.2	44.4	4.9
	前回	65	21	11	7	-	-	18	8.0
		100.0	32.3	16.9	10.8	-	-	27.7	12.3
ク 現場作業が多い仕事	今回	81	24	18	23	3	1	10	2
		100.0	29.6	22.2	28.4	3.7	1.2	12.3	2.5
	前回	65	28	10	5	-	2	11	9.0
		100.0	43.1	15.4	7.7	-	3.1	16.9	13.8
ケ 専門的な知識・ 資格が必要な仕事	今回	81	14	26	24	2	2	10	3
		100.0	17.3	32.1	29.6	2.5	2.5	12.3	3.7
	前回	65	24	12	15	-	-	8	6.0
		100.0	36.9	18.5	23.1	-	-	12.3	9.2
コ 接客サービス・ 受付窓口などでの対応	今回	81	2	7	22	21	8	17	4
		100.0	2.5	8.6	27.2	25.9	9.9	21.0	4.9
	前回	65	10	4	13	18	1	12	7.0
		100.0	15.4	6.2	20.0	27.7	1.5	18.5	10.8
サ 定型的な仕事 （ルーティンワーク）	今回	81	4	6	38	14	1	14	4
		100.0	4.9	7.4	46.9	17.3	1.2	17.3	4.9
	前回	65	10	5	20	8	1	13	8
		100	15.4	7.7	30.8	12.3	1.5	20.0	12.3

問 貴事業所では、男女雇用機会均等法に定められているポジティブ・アクションについて、何らかの取り組みを行っていますか。または実施予定ですか。各取り組みについて、実施の有無と効果をお教えてください。（〇はそれぞれ1つ）

- いずれの項目も「【実施していない】実施予定なし」が前回よりも低く、それ以外の選択肢が前回よりも高くなっています。
- 「【実施していない】今後実施予定」をみると、「ウ 女性の管理職を積極的に登用する」が28.4%と、前回より19.2ポイント高くなっています。
- 一方で、「【実施していない】実施予定なし」をみると、「ウ 女性の管理職を積極的に登用する」と「キ 男女の平等について、意識改革や啓発活動を積極的に行う」がともに17.7ポイント、前回より高くなっています。

図表 339 ポジティブ・アクションへの取り組み状況（前回比較）

		全体	効果はあがっている【実施している】	効果は不明【実施していない】	今後実施しない【実施していない】	実施しない【実施していない】	無回答
ア 女性の登用や人材育成に関する体制・取り組み方針などを定める	今回	81	13	7	16	41	4
	前回	100.0	16.0	8.6	19.8	50.6	4.9
イ 女性がいなくてもしくは少ない職種・職務について、女性を積極的に採用・登用する	今回	65	5	1	7	40	12
	前回	100.0	7.7	1.5	10.8	61.5	18.5
ウ 女性の管理職を積極的に登用する	今回	81	14	6	21	36	4
	前回	100.0	17.3	7.4	25.9	44.4	4.9
エ 人事異動により女性に様々な職種を経験させる	今回	65	4	2	9	38	12
	前回	100.0	6.2	3.1	13.8	58.5	18.5
オ 業務に必要な知識や資格取得のための教育訓練や研修を、性別に関わりなく実施する	今回	81	12	4	23	38	4
	前回	100.0	14.8	4.9	28.4	46.9	4.9
カ 性別による評価を行うことがないよう、人事評価・考課基準を明確に定める	今回	65	3	3	6	42	11
	前回	100.0	4.6	4.6	9.2	64.6	16.9
キ 男女の平等について、意識改革や啓発活動を積極的に行う	今回	81	8	7	17	45	4
	前回	100.0	9.9	8.6	21.0	55.6	4.9
ク 業務に必要な知識や資格取得のための教育訓練や研修を、性別に関わりなく実施する	今回	65	3	3	5	42	12
	前回	100.0	4.6	4.6	7.7	64.6	18.5
ケ 性別による評価を行うことがないよう、人事評価・考課基準を明確に定める	今回	81	22	9	19	27	4
	前回	100.0	27.2	11.1	23.5	33.3	4.9
コ 性別による評価を行うことがないよう、人事評価・考課基準を明確に定める	今回	65	11	4	11	29	10
	前回	100.0	16.9	6.2	16.9	44.6	15.4
ク 性別による評価を行うことがないよう、人事評価・考課基準を明確に定める	今回	81	22	12	12	31	4
	前回	100.0	27.2	14.8	14.8	38.3	4.9
キ 男女の平等について、意識改革や啓発活動を積極的に行う	今回	65	8	8	7	32	10
	前回	100.0	12.3	12.3	10.8	49.2	15.4
キ 男女の平等について、意識改革や啓発活動を積極的に行う	今回	81	17	11	21	28	4
	前回	100.0	21.0	13.6	25.9	34.6	4.9
キ 男女の平等について、意識改革や啓発活動を積極的に行う	今回	65	5	6	10	34	10
	前回	100.0	7.7	9.2	15.4	52.3	15.4

問 貴事業所では、仕事と育児・介護との両立を支援するために、どのような取り組みを行っていますか。（育児・介護それぞれについて1つずつ〇）

- 「実施している」をみると、「ア 育児休業制度の導入」で33.4ポイント、「イ 子の看護休暇制度の導入」で31.9ポイント、「ク 育児期間中の深夜労働・所定外労働・転勤などの免除」が29.1ポイント、それぞれ前回より高くなっています。
- 「実施予定なし」をみると、「ア 育児休業制度の導入」が21.8ポイント、「イ 子の看護休暇制度の導入」が19.2ポイント、それぞれ前回より低くなっています。一方で、「エ 事業所内託児施設の設置」が90.1%と、前回より17.8ポイント高くなっています。

図表 340 育児との両立支援（前回比較）

【育児】		全 体	い 実 施 し て	予 今 定 後 実 施	な 実 施 予 定	無 回 答
ア 育児休業制度の導入	今回	81	47	8	21	5
		100.0	58.0	9.9	25.9	6.2
	前回	65	16	7	31	11
		100.0	24.6	10.8	47.7	16.9
イ 子の看護休暇制度の導入	今回	81	37	11	28	5
		100.0	45.7	13.6	34.6	6.2
	前回	65	9	5	35	16
		100.0	13.8	7.7	53.8	24.6
ウ 妊娠中の通院休暇制度や妊娠障害がある場合の休暇制度	今回	81	30	15	28	8
		100.0	37.0	18.5	34.6	9.9
	前回	65	12	7	32	14
		100.0	18.5	10.8	49.2	21.5
エ 事業所内託児施設の設置	今回	81	1	1	73	6
		100.0	1.2	1.2	90.1	7.4
	前回	65	－	2	47	16
		100.0	－	3.1	72.3	24.6
オ フレックスタイムの導入・短時間勤務など、勤務時間の柔軟な対応	今回	81	34	19	22	6
		100.0	42.0	23.5	27.2	7.4
	前回	65	17	7	26	15
		100.0	26.2	10.8	40.0	23.1
カ 有給休暇の半日未満単位での取得（両立支援策としてではない場合も含む）	今回	81	36	12	28	5
		100.0	44.4	14.8	34.6	6.2
	前回	65	18	5	27	15
		100.0	27.7	7.7	41.5	23.1
キ 保育料など育児に要する経費の援助	今回	81	2	7	66	6
		100.0	2.5	8.6	81.5	7.4
	前回	65	4	2	46	13
		100.0	6.2	3.1	70.8	20.0
ク 育児期間中の深夜労働・所定外労働・転勤などの免除	今回	81	41	9	26	5
		100.0	50.6	11.1	32.1	6.2
	前回	65	14	5	31	15
		100.0	21.5	7.7	47.7	23.1
ケ 再雇用制度の充実	今回	81	26	17	31	7
		100.0	32.1	21.0	38.3	8.6
	前回	65	13	7	29	16
		100.0	20.0	10.8	44.6	24.6
コ その他	今回	81	1	1	21	58
		100.0	1.2	1.2	25.9	71.6
	前回	65	1	－	14	50
		100.0	1.5	－	21.5	76.9

- 「実施している」をみると、「ア 介護休暇制度の導入」が 22.2 ポイント、「エ 介護期間中の深夜労働・所定外労働・転勤などの免除」が 20.5 ポイント、それぞれ前回より高くなっています。
- 「今後実施予定」をみると、「オ 再雇用制度の充実」が 14.3 ポイント、「ウ 有給休暇の半日未満単位での取得（両立支援策としてではない場合も含む）」が 13.6 ポイント、「イ フレックスタイムの導入・短時間勤務など、勤務時間の柔軟な対応」が 11.8 ポイント、それぞれ前回より高くなっています。

図表 341 介護との両立支援（前回比較）

【介護】		全体	い 実 施 し て	予 今 定 後 実 施	な 実 施 予 定	無 回 答
ア 介護休暇制度の導入	今回	81	33	10	32	6
		100.0	40.7	12.3	39.5	7.4
	前回	65	12	6	29	18
		100.0	18.5	9.2	44.6	27.7
イ フレックスタイムの導入・短時間勤務など、勤務時間の柔軟な対応	今回	81	30	17	27	7
		100.0	37.0	21.0	33.3	8.6
	前回	65	14	6	23	22
		100.0	21.5	9.2	35.4	33.8
ウ 有給休暇の半日未満単位での取得（両立支援策としてではない場合も含む）	今回	81	31	16	28	6
		100.0	38.3	19.8	34.6	7.4
	前回	65	14	4	25	22
		100.0	21.5	6.2	38.5	33.8
エ 介護期間中の深夜労働・所定外労働・転勤などの免除	今回	81	34	14	27	6
		100.0	42.0	17.3	33.3	7.4
	前回	65	14	5	25	21
		100.0	21.5	7.7	38.5	32.3
オ 再雇用制度の充実	今回	81	25	19	30	7
		100.0	30.9	23.5	37.0	8.6
	前回	65	11	6	26	22
		100.0	16.9	9.2	40.0	33.8
カ その他	今回	81	－	1	24	56
		100.0	－	1.2	29.6	69.1
	前回	65	1	－	14	50
		100.0	1.5	－	21.5	76.9

問 上記の取り組みを実施したことにより、どのような効果や変化がありましたか。
(当てはまるもの全てに○)

- 「従業員同士が助け合う雰囲気や一体感の醸成」「外部の評価・企業イメージの向上」「総合的な経営面での効果」を除いて、今回が前回より高くなっています。なかでも、「仕事の進め方の効率化や業務改善」が 22.0 ポイント、「女性従業員の責任感の向上」が 15.6 ポイント、「女性従業員の定着率の上昇」が 10.5 ポイント、それぞれ前回より高くなっています。

図表 342 取り組みによる効果や変化（前回比較）

全体		取り組みを実施したことにより、どのような効果や変化がありましたか。									
		女性従業員の定着率の上昇	意欲や能力のある女性の人材活用	従業員同士が助け合う雰囲気や一体感の醸成	女性従業員の責任感の向上	仕事の進め方や業務改善の効率化	外部の評価・企業イメージの向上	就職希望者の増加	総合的な経営面での効果	その他	無回答
今回	63	33	17	12	20	24	8	5	5	3	3
	100.0	52.4	27.0	19.0	31.7	38.1	12.7	7.9	7.9	4.8	4.8
前回	31	13	6	11	5	5	8	1	3	-	4
	100.0	41.9	19.4	35.5	16.1	16.1	25.8	3.2	9.7	-	12.9

問 貴事業所における育児休業は、どの程度の期間取得できますか。（○は1つ）

- 今回で「子どもの年齢が1歳6ヶ月以上」が 12.9 ポイント、「子どもの年齢が1歳6ヶ月まで」が 11.8 ポイント、それぞれ前回より高くなっています。一方で、「規定がない」が 38.3%と、前回より 12.5 ポイント低くなっています。

図表 343 育児休業の取得可能期間（前回比較）

全体		貴事業所における育児休業は、どの程度の期間取得できますか。					
		1 子 歳 ど も の 年 齢 が	1 子 歳 ど も の 年 齢 が	1 子 歳 ど も の 年 齢 上	規 定 が な い	そ の 他	無 回 答
今 回	81	10	17	13	31	1	9
	100.0	12.3	21.0	16.0	38.3	1.2	11.1
前 回	65	8	6	2	33	1	15
	100.0	12.3	9.2	3.1	50.8	1.5	23.1

問 育児休業・介護休業中の労働者の代替要員を、どのように確保していますか。
(当てはまるもの全てに○)

- 今回で「部内でやりくり」が 16.1 ポイント、「期間雇用者を雇用、または派遣労働者を利用」が 8.1 ポイント、それぞれ前回より高くなっています。

図表 344 代替要員の確保方策（前回比較）

全 体		育児休業・介護休業中の労働者の代替要員を、どのように確保していますか。					
		労働者、期間雇用者または派遣	配置転換で代替	部署内でやりくり	前例がない	その他	無回答
今回	81	14	11	33	34	1	5
	100.0	17.3	13.6	40.7	42.0	1.2	6.2
前回	65	6	7	16	29	2	15
	100.0	9.2	10.8	24.6	44.6	3.1	23.1

問 現在、貴事業所では、ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みを行っていますか。
(○は1つ)

- 今回で「今後取り組みたいと思っている」が 28.4%と、前回より 20.7 ポイント高くなっています。

図表 345 ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みの実施状況（前回比較）

全 体		現在、貴事業所では、ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みを行っていますか。							
		取り組みに積極的に行っている	ある程度行っている	取り組みで十分である	今後取り組みたい	取り組み予定はない	ワーク・ライフ・バランスにない	その他	無回答
今回	81	4	12	4	23	12	21	-	5
	100.0	4.9	14.8	4.9	28.4	14.8	25.9	-	6.2
前回	65	3	8	4	5	11	20	1	13
	100.0	4.6	12.3	6.2	7.7	16.9	30.8	1.5	20.0

問 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントに関する取り組みを行っていますか。
(○は1つ)

- 今回で「特に対応の必要性を感じない」が 38.3%と、前回より 15.5 ポイント高くなっています。一方で、「防止策や対応策などの取り組みを実施している」が 14.6 ポイント、「対応の必要性は感じているが、現在のところ取り組みは行っていない」が 6.6 ポイント、それぞれ前回より高くなっています。

図表 346 セクシュアル・ハラスメントに関する取り組みの実施状況（前回比較）

全 体		貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントに 関する取り組みを行っていますか。				
		し の 防 て 取 止 い り 策 る 組 や み 対 を 応 実 策 施 な ど	実 の 防 施 取 止 予 り 策 定 組 や で み 対 あ を 応 る 今 策 後 な ど	行 と て 対 っ こ い 応 て ろ る の い 取 が 必 な り 、 要 い 組 現 性 み 在 は は の 感 じ	感 特 じ に な 対 い 応 の 必 要 性 を	無 回 答
今 回	81	23	3	19	31	5
	100.0	28.4	3.7	23.5	38.3	6.2
前 回	65	9	1	11	35	9
	100.0	13.8	1.5	16.9	53.8	13.8

問 貴事業所では、パワー・ハラスメントに関する取り組みを行っていますか。
(○は1つ)

- 今回で「防止策や対応策などの取り組みを実施している」が 16.7 ポイント、「対応の必要性は感じているが、現在のところ取り組みは行っていない」が 11.1 ポイント、それぞれ前回より高くなっています。一方で、「特に対応の必要性を感じない」が 34.6%と、前回より 14.6 ポイント低くなっています。

図表 347 パワー・ハラスメントに関する取り組みの実施状況（前回比較）

全 体		貴事業所では、パワー・ハラスメントに 関する取り組みを行っていますか。				
		し の 防 て 取 止 い り 策 る 組 や み 対 を 応 実 策 施 な ど	実 の 防 施 取 止 予 り 策 定 組 や で み 対 あ を 応 る 今 策 後 な ど	行 と て 対 っ こ い 応 て ろ る の い 取 が 必 な り 、 要 い 組 現 性 み 在 は は の 感 じ	感 特 じ に な 対 い 応 の 必 要 性 を	無 回 答
今 回	81	21	3	24	28	5
	100.0	25.9	3.7	29.6	34.6	6.2
前 回	65	6	3	12	32	12
	100.0	9.2	4.6	18.5	49.2	18.5

問 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。
(○はそれぞれ1つ)

- 「言葉も内容も知っている」をみると、「エ 育児・介護休業法」で 13.1 ポイント、「ウ 男女雇用機会均等法」で 9.4 ポイント、それぞれ前回より高くなっています。
- 「言葉も内容も知らない」をみると、「オ ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）」で 49.4%と、前回より 9.4 ポイント高くなっています。

図表 348 男女共同参画関連用語の認知度（前回比較）

		全 体	知 言 っ 葉 て も い る 容 も	知 言 っ 葉 て だ い け る は	知 言 ら 葉 な も い 容 も	無 回 答
ア 男女共同参画社会 基本法	今回	81	14	41	23	3
		100.0	17.3	50.6	28.4	3.7
	前回	65	14	29	15	7
		100.0	21.5	44.6	23.1	10.8
イ 女子差別撤廃条約	今回	81	18	33	27	3
		100.0	22.2	40.7	33.3	3.7
	前回	65	11	29	18	7
		100.0	16.9	44.6	27.7	10.8
ウ 男女雇用機会均等法	今回	81	45	31	2	3
		100.0	55.6	38.3	2.5	3.7
	前回	65	30	24	4	7
		100.0	46.2	36.9	6.2	10.8
エ 育児・介護休業法	今回	81	43	29	6	3
		100.0	53.1	35.8	7.4	3.7
	前回	65	26	28	4	7
		100.0	40.0	43.1	6.2	10.8
オ ポジティブ・ アクション (積極的格差是正措置)	今回	81	6	32	40	3
		100.0	7.4	39.5	49.4	3.7
	前回	65	3	29	26	7
		100.0	4.6	44.6	40.0	10.8

XI 調査票

1 一般

小牧市男女共同参画に関するアンケート

◆ご記入に当たってのお願い◆

- ・この調査にお答えいただくのは、小牧市に住民登録している満20歳以上の方から、無作為に選ばれた3,000の方々です。
- ・この調査は、原則としてあなた（あて名の方）ご自身が記入してください。（事情によりご本人が記入できない場合は、ご家族または代理の方が聞き取ってご記入ください。）
- ・ご回答にあたっては、周りの方に相談せず、あなたのお考えをありのままにお答えください。
- ・ご記入の際は、黒の鉛筆またはボールペンなどではっきりとご記入いただき、消えるボールペンは使用しないでください。
- ・質問ごとに当てはまる回答の番号を選び○で囲ってください。
なお、設問には（○は1つ）、（○は3つまで）（当てはまるもの全てに○）などを書いてありますので、その数にしたがってご回答ください。
- ・ご回答が「その他」に当てはまる場合は、お手数ですが（ ）内になるべく具体的に内容をご記入ください。
- ・設問によっては、回答していただく方が限られる場合がございますので、矢印や説明にしたがってお答えください。
- ・調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。
- ・ご記入いただきました調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒に入れて

10月2日（金）まで にご投函ください。（切手は不要です）

〈お問い合わせ先〉 小牧市まなび創造館

〒485-0041 愛知県小牧市小牧三丁目555番地

電話 0568-71-9848

FAX 0568-71-9840

E-Mail: manabi@city.komaki.lg.jp

1 あなた自身のことについて

問1 あなたの性別をお教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|------------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 () |
|-------|-------|------------|

問2 あなたの年齢をお教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|--------|--------|----------|
| 1. 20代 | 3. 40代 | 5. 60代 |
| 2. 30代 | 4. 50代 | 6. 70代以上 |

問3 あなたは結婚されていますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. 結婚している | 4. 離別・死別 |
| 2. 結婚していないが、異性のパートナー*がいる | 5. 配偶者・パートナーはいない |
| 3. 結婚はしていないが、同性のパートナーがいる | |

※パートナーとは、性別問わず、婚姻届は提出していないが事実上婚姻関係にある方を指します。

問4 家族構成についてお教えてください。(同居の家族がいる場合、当てはまる方全てに○)

- | | |
|----------|----------|
| 1. 一人暮らし | 2. 家族がいる |
|----------|----------|
- ↓
- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 配偶者もしくはパートナー | 5. 祖父母 |
| 2. 子ども | 6. 孫 |
| 3. 親(義理の親を含む) | 7. 兄弟姉妹 |
| 4. 子どもの配偶者もしくはパートナー | 8. その他(具体的に) |

問5 小牧市に住んで何年になりますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 5年未満 | 4. 20年以上30年未満 |
| 2. 5年以上10年未満 | 5. 30年以上 |
| 3. 10年以上20年未満 | |

問6 あなたの就業形態などは次のうちどれですか。育児休業・介護休業中の方は、休業前の形態をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 会社・団体などの役員 | 6. 自営業主・家族従業者 |
| 2. フルタイムで働く社員・職員 | 7. 学生 |
| 3. パートタイマー・アルバイト | 8. 無職(家事専業・年金生活者含む) |
| 4. 派遣社員 | 9. その他 |
| 5. 契約社員・嘱託 | (具体的に) |

2 男女の平等意識について

問7 あなたは今の社会において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。
それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	女性のほうが 優遇されて いる	どちらかと いえば 女性のほうが 優遇されて いる	平等	どちらかと いえば 男性のほうが 優遇されて いる	男性のほうが 優遇されて いる	わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 職場や就職活動で	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育・保育で	1	2	3	4	5	6
④ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 社会通念・慣習・ しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑦ 地域活動・社会活動 (自治会・NPO など)で	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問8 あなたは、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。
(当てはまるものを全てに○)

1. 法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める
2. 女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る
5. 行政や企業などの重要な役職に女性を積極的に登用する制度を採用・充実する
6. 学校教育や社会教育、生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習する
7. その他(具体的に_____)
8. わからない

問9 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守る方が良い」といった固定的な性別役割分担について、どのように思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. そう思う | 4. どちらかといえばそうは思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. そう思わない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

※子どもがいる、いないにかかわらず回答をお願いします。

問10 これからの子どもたちにはどこまで進学することを期待しますか。（○はそれぞれ1つ）

女の子の場合（○は1つ）	男の子の場合（○は1つ）
1. 中学校まで	1. 中学校まで
2. 高等学校まで	2. 高等学校まで
3. 専門学校（各種学校）まで	3. 専門学校（各種学校）まで
4. 短期大学・高等専門学校まで	4. 短期大学・高等専門学校まで
5. 4年制大学まで	5. 4年制大学まで
6. 大学院（6年制大学を含む）まで	6. 大学院（6年制大学を含む）まで
7. その他（具体的に_____）	7. その他（具体的に_____）
8. わからない	8. わからない

問11 あなたが、女性が増えるほうが良いと思う職業や役職は何ですか。

（当てはまるもの全てに○）

1. 内閣総理大臣・閣僚（国務大臣）	9. 新聞記者やテレビ局員などの報道関係者
2. 都道府県・市町村の首長	10. 大学・企業などの研究者
3. 国会議員・都道府県議会議員 ・市町村議会議員	11. 小・中・高校の管理職
4. 国家公務員・地方公務員の管理職	12. 大学教授
5. 企業の経営者	13. 自治会・PTAなどの役員
6. 企業の管理職	14. その他 （具体的に_____）
7. 弁護士・医師などの専門職	15. わからない
8. 警察官	

問12 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由は何だと思えますか。（当てはまるもの全てに○）

1. 家庭、職場、地域における性別役割分担、 性差別の意識	6. 女性の活動を支援するネットワークの不足
2. 男性優位の組織運営	7. 女性側の積極性が不十分
3. 男性側の理解・意識が不十分	8. 支援者等によるセクシュアル・ハラスメント
4. 家庭の支援、協力が得られない	9. 候補者男女均等法*の未定着
5. 女性の能力開発の機会が不十分	10. その他（具体的に_____）
	11. わからない

※候補者男女均等法（正式名称「政治分野における男女共同参画推進法」）とは、できるだけ候補者数を男女均等にしよう政党等に努力を求める法律です。しかし、フランスのパリテ法（2000年制定／候補者が男女同数となるよう義務付け）とは異なり、罰則規定はありません。また、同様に男女間の格差を是正する取組みとして、議員や管理職の一定割合を女性に振り分けるクオータ制が挙げられます。

3 家庭における家事などの分担について

<問3で「1 結婚している」「2 結婚していないが、異性のパートナーがいる」と答えた方にお聞きます。>

問13 あなたの家庭で、次の家事などは主にどなたが担っていますか。（〇はそれぞれ1つ）

	妻	夫	夫婦とも 同じくらい	子ども	家族全員	その他の人 (有償サービスの 利用など)	該当しない
①食事の支度	1	2	3	4	5	6	7
②食事の後かたづけ ・食器洗い	1	2	3	4	5	6	7
③ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	7
④掃除	1	2	3	4	5	6	7
⑤洗濯	1	2	3	4	5	6	7
⑥食料品・日用品の 買い物	1	2	3	4	5	6	7
⑦生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6	7
⑧家計の管理	1	2	3	4	5	6	7
⑨子育て	1	2	3	4	5	6	7
⑩介護	1	2	3	4	5	6	7
⑪自治会などの活動 ・近所づきあい	1	2	3	4	5	6	7

4 仕事と育児・介護休業などについて

※全ての方にお聞きます。

問14 女性及び男性が仕事を持つことについて、あなたはどのように考えますか。

（〇はそれぞれ1つ）※「結婚」は、事実婚も含めます

	結婚や出産にかかわらず、 仕事を継続したほうが良い	結婚後は家事・育児に 専念したほうが良い	結婚するまでは仕事を持つが、 結婚後は家事・育児に 専念したほうが良い	子どもができるまでは仕事を 持つが、子どもがきたら 家事・育児に専念したほうが 良い	子育ての時期だけ一時仕事を やめ、復帰後はフルタイムで 仕事を持つほうが良い	子育ての時期だけ一時仕事を やめ、復帰後はパートタイムで 仕事を持つほうが良い	仕事を持たないほうが良い	多様な選択肢があるなかで、 本人の希望が尊重されるのが 良い	その他 （具体的に）
①女性	1	2	3	4	5	6	7	8	
②男性	1	2	3	4	5	6	7	8	

問15 女性が仕事を持ったり、仕事を持ち続けたりしていく上で、問題となる（なっている）のは何だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

1. 職場の労働条件（勤務時間・賃金・休暇制度など）
2. 職場の人間関係の問題（上司や同僚の理解・協力が得られないなど）
3. 職場の雰囲気（女性は結婚・妊娠・出産したら退職するという暗黙の了解など）
4. 職場での評価（昇給・昇格に男女差があるなど）
5. 職場でのセクシュアル・ハラスメント
6. 女性自身もしくは配偶者・パートナーの勤務地の変更（出向・転勤など）
7. 職場・行政の支援（子育て支援サービス、保育施設の不足など）
8. 家庭内の問題（家族の理解・協力が得られないなど）
9. 女性自身の職業意識の問題
（働き続けることへの意識、責任ある仕事への不安や仕事への取組み姿勢など）
10. 女性は家庭に入るべきなどの社会全体の風潮
11. 一旦退職した女性が、正社員として再就職することが困難である現状
12. その他（具体的に_____）
13. 特に問題はない

問16 育児や家族介護を行うため、法律に基づき育児休業・子の看護休暇・介護休業・介護休暇を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して男性が休業や休暇を取得することについてどう思いますか。（○はそれぞれ1つ）

	取得したほうが 良い	どちらかといえば 取得したほうが 良い	どちらかといえば 取得しないほうが 良い	取得しないほうが 良い
①育児休業	1	2	3	4
②子の看護休暇	1	2	3	4
③介護休業*	1	2	3	4
④介護休暇*	1	2	3	4

問17 へ

※介護休業は、通算93日に達するまで、3回を上限として分割取得可能

※介護休暇は、1年度で5日間取得可能

<問16で、1つでも「3 どちらかといえば取得しないほうが良い」、「4 取得しないほうが良い」と答えた方にお聞きします。>

問16-1 その理由は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

1. 経済的に苦しくなる
2. 職場の理解が得られない
3. 職場に迷惑をかけてしまう
4. 仕事の評価や配属に影響する
5. 男性より女性が取るべきである
6. 男性は育児・介護の地域ネットワークに参加しにくい
7. 男性は育児・介護に慣れていない
8. 周囲に取得した男性が少ない
9. 世間体が悪い
10. その他（具体的に_____）

<全ての方にお聞きます。>

問17 男性がこれまで以上に家事・育児・介護に携わるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

1. 男性が家事などに携わることにに対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などに携わることにに対する女性の抵抗感をなくす
3. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める
4. 社会の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についての評価を高める
5. 男性の悩みに対する相談窓口を充実する
6. 市などの自治体が男性の家事や育児、介護などの技能を高めるための講座を開催する
7. 家庭で子どもに対し、男女の区別なく家事、育児、介護などに携わることができるようなしつけ、育て方を行う
8. 職場において育児・介護休業などを取りやすい雰囲気を作る
9. 労働時間を短縮する
10. 配偶者・パートナー間、家族間でコミュニケーションをはかる
11. その他（具体的に_____）
12. 特に必要ない

5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）とは、
「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」のことです。

内閣府「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」より

問18 あなたの中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味など）」の優先度についてお聞きます。

あなたの理想の優先度に最も当てはまるものをお答えください。（○は1つ）

1. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」全てを大切にしたい
2. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
3. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
4. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
5. 「仕事」を優先したい
6. 「家庭生活」を優先したい
7. 「地域・個人の生活」を優先したい
8. その他（具体的に_____）
9. わからない

問19 あなたの現状の生活に最も当てはまるものをお答えください。(〇は1つ)

1. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」全てを大切にしている
2. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
3. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
4. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
5. 「仕事」を優先している
6. 「家庭生活」を優先している
7. 「地域・個人の生活」を優先している
8. その他(具体的に_____)
9. わからない

6 地域活動・社会活動について

問20 あなたは、次のような活動に参加したことがありますか。(〇はそれぞれ1つ)

	参加したことがある		参加したことがない	
	今後も参加したい	今後は参加したくない	今後は参加したい	今後も参加したくない
① 区・町内会、自治会などの活動	1	2	3	4
② 老人会、青年会、女性会、子ども会などの活動	1	2	3	4
③ 学校のPTA活動	1	2	3	4
④ ボランティアやNPO(民間非営利組織)などの活動	1	2	3	4
⑤ まちづくりなどの活動	1	2	3	4
⑥ 消防団など防災に関する活動	1	2	3	4
⑦ その他(具体的に_____)	1	2	3	4

問21へ

※NPO(民間非営利組織)とは、政府や私企業とは独立し、様々な社会貢献活動を行う、利益を目的としない組織・団体のことです。

<問20で1つでも「2 今後は参加したくない」「3 今後は参加したい」「4 今後も参加したくない」と答えられた方にお聞きします。>

問20-1 これまで参加したことがない理由、今後参加したくない理由は何ですか。
(当てはまるもの全てに〇)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 仕事が忙しい | 8. 活動に関する情報が少ない |
| 2. 家事・育児・介護などで忙しい | 9. 活動する仲間や場所が少ない |
| 3. 家族の理解や協力がでない | 10. 活動日・時間・場所などの都合が合わない |
| 4. 健康や体力に自信がない | 11. 自分の意見が反映されない |
| 5. 一人では参加しにくい | 12. 興味がでない |
| 6. 人間関係がわずらわしい | 13. その他(具体的に_____) |
| 7. 役員など責任ある立場を任されたくない | 14. 特にない |

問21 あなたが地域活動の中で男女の役割分担について思うことは何ですか。

(当てはまるもの全てに○)

1. 町会、町内会に属する各種団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある
2. 活動の準備や後片付けなどは、女性が行う慣行がある
3. 女性が役職に就きたがらない
4. 男性が女性を対等なパートナーとしてみていない
5. 女性が表に出るべきではないという雰囲気がある
6. 女性には発言の機会が与えられない、女性の意見は聞き入れられない
7. その他 (具体的に_____)
8. 特になし

7 人権について

問22 あなたが女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。

(当てはまるもの全てに○)

1. 売春・買春・人身売買
2. 性暴力(痴漢行為、盗撮、同意のない性行為など)
3. 性風俗店
4. つきまとい行為、ストーカー行為など
5. 家庭内の配偶者・パートナー間での暴力(肉体的、精神的、経済的、性的なもの全てを含む)
6. 仕事内容や昇給・昇格の格差など、職場における男女の待遇の違い
7. 職場内などでのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)
8. 女性というだけでお茶くみやコピーとり、掃除などの雑用を任せられる風潮
9. 素直、おしとやか、よく気がつくなどの「女性らしさ」を望まれること
10. 家事・育児・介護等を担うことが当然とされること
11. 進路や職業選択の場面において、性別を理由とした制約が課されること
12. ルッキズムやエイジズム*にさらされること
13. 容姿を競うコンテスト
14. アダルトビデオやポルノ雑誌など、女性のヌード写真や映像の商品化
15. その他 (具体的に_____)

※ルッキズムとは、容姿が一般的に魅力的であるとされるか否かを重視して、人を評価する考え方、また、その評価に基づいて差別を行うことです。エイジズムは、年齢に関する偏見や差別のこと、特に若さに価値を見出す傾向がみられます。

問23 あなたが男性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。
(当てはまるもの全てに○)

1. 売春・買春・人身売買
2. 性暴力（痴漢行為、盗撮、同意のない性行為など）
3. 性風俗店
4. つきまとい行為、ストーカー行為など
5. 家庭内の配偶者・パートナー間での暴力（肉体的、精神的、経済的、性的なもの全てを含む）
6. 仕事内容や昇給・昇格の格差など、職場における男女の待遇の違い
7. 職場内などでのセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
8. 男性というだけで肉体労働・力を使う仕事を任せられる風潮
9. 強く、たくましく、他者に弱音を吐かないなどの「男性らしさ」を望まれること
10. 仕事をし、家族を養うことが当然とされること
11. 進路や職業選択の場面において、性別を理由とした制約が課されること
12. ルッキズムやエイジズムにさらされること
13. 容姿を競うコンテスト
14. アダルトビデオやポルノ雑誌など、男性のヌード写真や映像の商品化
15. その他（具体的に_____）

8 性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)について

問24 あなたは、現在性的少数者（同性愛者、両性愛者やトランスジェンダーなど）がどのような問題に直面していると思いますか。（当てはまるもの全てに○）

1. 就職・職場で不利な扱いを受ける
2. 経済的に自立していくことが困難
3. 病院や福祉施設等での看護や介護における処遇が不適切
4. 必要とする医療へのアクセスが困難
5. 住宅を容易に借りることができない場合がある
6. スポーツ・文化活動や地域活動の参加に支障がある
7. セクシュアリティを明かせないことで精神的負担を被る
8. テレビやインターネットの中で笑いの素材とされる
9. 学校や職場でいじめに遭う可能性がある
10. じろじろ見られたり、避けられたり、差別的な言葉を投げかけられたりする
11. 交流や交際など日常生活における不利な扱いを受ける
12. 戸籍上の性別変更のための条件が厳しい
13. 異性との交際や結婚を強いられる
14. 同性婚が認められていないため、医療や相続、子どもの親権、ビザ等の面で不利益が生じる
15. 学校や職場の規則・環境設備等により、自認する性別とは異なる振る舞いを強いられる
16. その他（具体的に_____）
17. わからない

問25 あなたは、性的少数者の方たちが暮らしやすい社会にするためには、どのような意識啓発や支援が必要だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

1. 相談できる窓口の設置	10. 同性同士のパートナーやその家族も、法律上の配偶者や家族と同等に扱うこと
2. 気持ちや情報を共有できる居場所づくり	11. 更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮
3. いじめや差別を禁止する法律や条例の制定	12. 戸籍上の性別変更の要件緩和
4. 行政職員や教職員に対する研修の実施	13. その他 (具体的に_____)
5. 企業等に対する啓発活動の実施	14. 必要だとは思わない
6. 地域住民に対する啓発活動の実施	15. わからない
7. 幼少期からの教育の充実	
8. 同性婚の承認	
9. 同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行	

9 ドメスティック・バイオレンスについて

※ドメスティック・バイオレンス（DV）とは、「配偶者・パートナー・恋人など親密な関係の間でふるわれる暴力」のことです。

問26 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナー間や恋人間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。（○はそれぞれ1つ）

	どのような場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う	暴力にあたるとは思わない
① 平手で打つ・足で蹴る	1	2	3
② 身体を傷つける可能性のある物などで殴る	1	2	3
③ 殴るふりや刃物をつきつけるなどして脅す	1	2	3
④ 嫌がる相手に性的な行為を強要する・避妊に協力しない	1	2	3
⑤ 嫌がる相手にアダルトビデオやポルノ雑誌などを見せる	1	2	3
⑥ 長時間無視し続ける	1	2	3
⑦ 交友関係や電話、メールなどを細かく監視・制限する	1	2	3
⑧ 配偶者などが実家に帰るのを嫌がる	1	2	3
⑨ 「ばか」「役立たず」「誰のおかげで生活できるんだ」などの言葉を浴びせる	1	2	3
⑩ 大声でどなる	1	2	3
⑪ 生活費を渡さない	1	2	3
⑫ 配偶者などの就労を禁止する	1	2	3
⑬ 大切にしている物をわざと捨てたり壊したりする	1	2	3

問27 あなたはこれまで、あなたの配偶者などから次のような行為をされたことがありますか。

(○はそれぞれ1つ)

	何度もあった	1、2度あった	全くない
① 殴る、蹴る、突き飛ばすなどの身体的な暴力	1	2	3
② 長時間無視をする、人格を否定するようなことを言う、殴るふりをするなどして脅す、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ・暴力	1	2	3
③ 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなどの経済的暴力	1	2	3
④ 嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しないなどの性的な暴力	1	2	3

問28 へ

<問27で1つでも「1 何度もあった」、「2 1、2度あった」と答えた方にお聞きます。>

問27-1 あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

1. した	問27-2 へ
2. していない	問27-3 へ

<問27-1で「1 した」と答えた方にお聞きます。>

問27-2 誰(どこ)に相談しましたか。(当てはまるもの全てに○)

1. 家族・親戚	5. 3・4以外の公的な機関
2. 友人・知人	6. 民間の専門家や専門機関
3. 警察	7. 医療関係者(医師・看護師など)
4. 市町村など役所の相談窓口	8. その他(具体的に_____)

<問27-1で「2 していない」と答えた方にお聞きます。>

問27-3 誰(どこ)にも相談しなかった(できなかった)のはなぜですか。

(当てはまるもの全てに○)

1. 誰(どこ)に相談して良いのかわからなかったから
2. 自分にも悪い点があると思ったから
3. 相談するほどのことでもないと思ったから
4. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
5. 自分さえ我慢すれば、このままやっていくことができると思ったから
6. 相談しても無駄だと思ったから
7. 相談したことが分かれると、仕返しをされたり、さらにひどい暴力を受けると思ったから
8. 加害者に「誰にも言うな」と言われたから
9. 世間体が悪いから
10. 他人を巻き込みたくなかったから
11. その他(具体的に_____)
12. 特に理由はない

問28 あなたは、市に女性相談の窓口があり、そこでDV相談を受け付けていることを知っていますか。(〇は1つ)

- | |
|--|
| 1. 市に女性相談の窓口があり、DV相談を受け付けていることを知っている |
| 2. 市に女性相談の窓口があることは知っているが、DV相談を受け付けていることは知らない |
| 3. 市に女性相談の窓口があることを知らない |

問29 あなたは、性暴力・DVや様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(当てはまるもの全てに〇)

- | | |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1. メールによる相談ができる | 8. 匿名で相談ができる |
| 2. LINEなどのSNSによる相談ができる | 9. 弁護士など、法的知識のある相談員がいる |
| 3. 電話による相談ができる | 10. 臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる |
| 4. 通話料が無料 | 11. その他 (具体的に_____) |
| 5. 24時間相談ができる | 12. 特にない |
| 6. 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる | 13. わからない |
| 7. 同性の相談員がいる | |

問30 あなたは、DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などを防止するために何が必要だと思いますか。(当てはまるもの全てに〇)

- | |
|---|
| 1. 法律・制度の面で見直しを行う
(罰則の強化、性犯罪成立要件の緩和、性交同意年齢 [※] の引き上げなど) |
| 2. 犯罪の取り締まりを強化する |
| 3. 捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする |
| 4. 捜査や裁判等における被害者の負担軽減 |
| 5. 医療・教育・司法・報道等、被害者に接する機会のある分野の関係者への研修の実施 |
| 6. メディア(放送、出版、新聞など)を活用して、広報・啓発活動を積極的に行う |
| 7. 被害者のための相談窓口や保護施設を整備する |
| 8. 家庭や学校において、人権や性についての教育を充実させる |
| 9. 加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムを実施する |
| 10. 職場での人権が軽視されないように、管理者の人権教育を図る |
| 11. メディアが自主的に倫理規定を強化する |
| 12. これらを助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフト、SNSなど)を取り締まる |
| 13. インターネット上などにおけるセカンドレイプ(二次被害) [※] を取り締まる |
| 14. その他(具体的に_____) |
| 15. 特に対策の必要はない |
| 16. わからない |

※性交同意年齢とは、性行為に同意できる能力があると認められる年齢のことです。明治時代から現在に至るまで、日本における性交同意年齢は13歳と定められています。

※セカンドレイプ(二次被害)とは、性暴力被害者に対して、無理解や偏見等を含んだ発言を投げかけたり、中傷を行うなどして、精神的苦痛を与えることです。典型的な例として、被害発生当時の服装や時間、場所などを指し、被害者本人にも責任があると受け取れる発言をすることなどが挙げられます。

10 生涯にわたる健康づくりへの支援について

問31 以前まで、生殖器以外の疾患について、女性を対象とした研究が乏しかったこともあり、性差はないものとして診断や治療が行われていました。現在では、男女の体の違いによる性別特有の病気など、性によって異なる健康上の問題が生じることが知られてきています。このような中で、生涯にわたる健康づくりのための支援策として、あなたは何か必要だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 女性や男性の健康に関する学習の機会の充実 | 5. 性差医療（男女の性差を考慮した医療）の充実 |
| 2. 女性や男性の健康に関する情報の提供 | 6. その他 |
| 3. 公的機関での健康相談 | （具体的に_____） |
| 4. 医療機関での性別専門外来の設置 | 7. わからない |

11 災害時について

問32 あなたは、災害時の避難所運営について、どのようなことが必要だと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

- | |
|--|
| 1. 避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること |
| 2. 男女別トイレや洗濯干し場、授乳室、更衣室など、避難者のニーズに配慮すること |
| 3. 生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること |
| 4. 女性は炊き出し、男性は力仕事といった固定的な性別役割分担意識の解消 |
| 5. 悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口の設置 |
| 6. 性暴力等の被害を発生させないための取組み及び被害者へのケア体制の充実 |
| 7. 性的少数者への配慮（相談窓口の設置、トランスジェンダー等も使用しやすいトイレ・浴室等の運用、同性カップルを家族として扱うことなど） |
| 8. その他（具体的に_____） |

12 メディアにおける性や暴力等の表現について

問33 あなたは、新聞・雑誌・テレビ・インターネット・DVD・ブルーレイディスク・広告などのメディアにおける性や暴力等の表現について、どのように感じていますか。（当てはまるもの全てに○）

- | |
|--|
| 1. 性・暴力表現を見たくない人や子どもに対する配慮がなされていない |
| 2. 女性の性的なイメージを過度に強調するなど、女性の性を商品化・客体化している |
| 3. 性犯罪の助長や被害の矮小化、被害者への偏見や誹謗中傷に繋がる恐れがある |
| 4. 「男は仕事、女は家事・育児」「男は強く、女は弱い」「男は論理的、女は感情的」「女の敵は女」など固定的な男女のイメージにとらわれ、その価値観を再生産している |
| 5. 性的少数者が想定されていない、もしくは、描かれていたとしても表現が差別的であったり不適切 |
| 6. その他（具体的に_____） |
| 7. 特に問題はない |

13 男女共同参画社会について

※男女共同参画社会とは、男女が社会の対等な構成員として自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受し、かつ共に責任を担う社会のことです。

問34 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。

(○はそれぞれ1つ)

	言葉も内容も 知っている	言葉だけは 知っている	言葉も内容も 知らない
① 男女共同参画	1	2	3
② 男女共同参画社会基本法	1	2	3
③ 男女雇用機会均等法	1	2	3
④ 配偶者暴力防止法(DV防止法)	1	2	3
⑤ 育児・介護休業法	1	2	3
⑥ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康/権利)	1	2	3
⑦ ポジティブ・アクション(積極的格差是正措置)	1	2	3
⑧ ジェンダー(社会的・文化的性別)	1	2	3
⑨ LGBT(性的少数者のうち、レズビアン・ゲイ・ バイセクシュアル・トランスジェンダーの総称)	1	2	3
⑩ SOGI(性的指向及び性自認)	1	2	3
⑪ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
⑫ アンパイドワーク(無報酬労働)	1	2	3

問35 小牧市では、男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みを行っています。あなたがご存知のものはどれですか。「知っている」「聞いたことがある」を含めてお答えください。

(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1. 小牧市男女共同参画基本計画(ハーモニーⅢ) | 5. 男女共同参画週間名目鑑賞会 |
| 2. 小牧市男女共同参画条例 | 6. 国際女性デー名目鑑賞会 |
| 3. 小牧市まなび創造館(女性センター) | 7. まなび女性相談 |
| 4. 男女共同参画週間 | |

問36 男女共同参画社会を実現していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（当てはまるもの全てに○）

1. 男女共同参画に関する広報を充実させる
2. 学校教育の場で、男女平等に関する教育をさらに進める
3. 社会教育の場で、男女平等に関する教育をさらに進める
4. 審議会委員や管理職など、政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する
5. 民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
6. 職場における男女の均等な取扱いについて、企業などに働きかける
7. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実させる
8. 女性が働くための機会を増やす、もともと女性が少なかった分野へ女性が進出できるよう職業教育や訓練を行う
9. 保育・子育てサービスや施設を充実させる
10. 介護サービスや福祉関連の施設を充実させる
11. 生涯を通じた男女の健康づくりのために支援を行う
12. 母性保護の向上と母子保健を充実させる
13. その他（具体的に_____）
14. 特になし

問37 あなたは、小牧市において、子育て・介護と仕事を両立するための支援が充実していると思いますか。（○はそれぞれ1つ）

	充実している	どちらかといえば充実している	どちらともいえない	どちらかといえば充実していない	充実していない	わからない
① 子育て	1	2	3	4	5	6
② 介護	1	2	3	4	5	6

問38 男女共同参画について、何かご意見があればお聞かせください。

自由意見欄

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

小牧市男女共同参画に関するアンケート

お願い

中学2年生の皆さんこんにちは！

日ごろは、勉強やスポーツ、文化活動などさまざまな分野で元気に活躍されていることと思います。

小牧市では、男女がともにいきいきとして暮らすことのできるまちを実現するために、中学2年生の皆さんに、日ごろの生活のことや将来のことなどをお聞きしています。

このアンケートは、テストではありません。

あなたの名前を書かなくてよいので、答えは先生や他の人にはわかりません。
あなたがいつも思っていることを書いてください。

アンケートにご協力をお願いします。

令和2年9月

小牧市長 やました しずお
山下 史守朗

◆答え方◆

1. 質問は、全部で21問です。およそ10分かかります。
2. 記入の際は黒の鉛筆またはシャープペンシルではっきりとていねいに書いてください。
3. 質問ごとにあてはまる番号を選び、○で囲ってください。
なお、設問には（○は1つ）、（当てはまるもの全てに○）などを書いてありますので、その数にしたがって回答してください。

1 あなた自身のことについて

問 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1. 女子	2. 男子	3. その他
-------	-------	--------

問 2 あなたは、だれと一緒に住んでいますか。(あてはまる人全てに○)

1. 父親	4. 姉妹
2. 母親	5. 祖父母
3. 兄弟	6. その他(だれ)

2 学校生活について

問 3 普段の学校での生活で、次のようなことを思うときがありますか。(○はそれぞれ1つ)

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない	わからない
ア	学級委員・生徒会長など、皆をまとめる役は男子に向いている	1	2	3	4	5
イ	副会長・書記など、細やかな気づかいをする役は女子に向いている	1	2	3	4	5
ウ	道具運びなど力のいる仕事は男子に向いている	1	2	3	4	5
エ	給食係や教室の掃除などの仕事は女子に向いている	1	2	3	4	5
オ	先生は女子にはあまり怒らない	1	2	3	4	5

3 普段の生活について

問 4 あなたは、「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(〇は1つ)

- | |
|--------------|
| 1. よく言われる |
| 2. ときどき言われる |
| 3. あまり言われない |
| 4. 言われたことがない |

問 5・問 6・問 7 へ

<問 4 で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」に〇をつけた人だけ答えてください。>

問 5 どんなことで言われましたか。(当てはまるもの全てに〇)

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 手伝いをしないとき | 7. 勉強をしないとき |
| 2. 言葉づかいが悪いとき | 8. けんかをしたとき |
| 3. 服装・身だしなみが悪いとき | 9. 泣いたとき |
| 4. 整理整頓ができないとき | 10. 見ているテレビ番組や本・マンガなどについて |
| 5. 行儀が悪いとき | 11. 遊びの内容について |
| 6. 運動をしないとき | 12. 友人について |

<引き続き問 4 で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」に〇をつけた人だけ答えてください。>

問 6 その時、どんな気分でしたか。(〇は1つ)

- | |
|---------------|
| 1. 嫌な気分だった |
| 2. そのとおりだと思った |
| 3. 何とも思わなかった |
| 4. その他(具体的に |

<引き続き問 4 で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」に〇をつけた人だけ答えてください。>

問 7 あなたにそれを言ったのはだれですか。(当てはまるもの全てに〇)

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 母親 | 9. 友人(女子) |
| 2. 父親 | 10. 友人(男子) |
| 3. 祖母 | 11. 女の先生 |
| 4. 祖父 | 12. 男の先生 |
| 5. 姉妹 | 13. 近所のおばさん |
| 6. 兄弟 | 14. 近所のおじさん |
| 7. 親戚のおばさん | 15. その他の人(だれ |
| 8. 親戚のおじさん | |

<すべての人にお聞きします>

問 8 あなたは家の中の手伝いをどれくらいしていますか。(○はそれぞれ1つ)

		よくしている (一週間に1回以上)	時々している (月に1回以上)	あまりしていない・ していない
ア	食事を作る	1	2	3
イ	食事の後かたづけ	1	2	3
ウ	ゴミ出し	1	2	3
エ	自分の部屋の掃除	1	2	3
オ	家の中の掃除	1	2	3
カ	フロ洗い	1	2	3
キ	洗濯	1	2	3
ク	買い物やおつかい	1	2	3
ケ	親の仕事の手伝い	1	2	3

問 9 あなたは家の中で、次のようなことはだれがやるのがいいと思いますか。(○はそれぞれ1つ)

		母親	父親	子ども	祖母	祖父	家族全員
ア	食事を作る	1	2	3	4	5	6
イ	食事の後かたづけ	1	2	3	4	5	6
ウ	ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
エ	掃除	1	2	3	4	5	6
オ	洗濯	1	2	3	4	5	6
カ	お金を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
キ	子どもの世話をする	1	2	3	4	5	6

4 仕事・将来について

問 10 あなたは将来、どの学校まで行きたいと思いますか。(○は1つ)

1. 中学校まで	5. 4年制大学まで
2. 高等学校まで	6. 大学院(6年制大学をふくむ)まで
3. 専門学校(各種学校)まで	7. その他(具体的に)
4. 短期大学・高等専門学校まで	8. まだ決めていない

問 11 あなたは父親が働き、母親が家で家事をするという家庭をどう思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 良いと思う | 4. おかしい(変だ)と思う |
| 2. 良くないと思う | 5. その他(具体的に) |
| 3. 普通だと思う | 6. わからない |

問 12 あなたは母親が働き、父親が家で家事をするという家庭をどう思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 良いと思う | 4. おかしい(変だ)と思う |
| 2. 良くないと思う | 5. その他(具体的に) |
| 3. 普通だと思う | 6. わからない |

問 13 あなたは「男は仕事をして、女は家で家事・子育てをするべきだ」という性別によって役割分担をするという考え方について、どのように思いますか。(〇は1つ)

- | |
|-------------------|
| 1. そう思う |
| 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない |
| 4. そう思わない |
| 5. わからない |

問 14 あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。(〇は1つ)

- | |
|---|
| 1. 女性は仕事を持たないほうが良い・持たなくても良い |
| 2. 結婚する前までは仕事をして、結婚したら仕事をやめるのが良い |
| 3. 子どもが生まれるまでは仕事をして、子どもが生まれたら仕事をやめるのが良い |
| 4. 子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い |
| 5. 結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い |
| 6. わからない |
| 7. その他(具体的に) |

問 15 あなたは、男性が仕事を持つことについてどう思いますか。(〇は1つ)

- | |
|---|
| 1. 男性は仕事を持たないほうが良い・持たなくても良い |
| 2. 結婚する前までは仕事をして、結婚したら仕事をやめるのが良い |
| 3. 子どもが生まれるまでは仕事をして、子どもが生まれたら仕事をやめるのが良い |
| 4. 子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い |
| 5. 結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い |
| 6. わからない |
| 7. その他(具体的に) |

問 16 あなたは将来、どんな仕事につきたいと考えていますか。(〇は1つ)

1. 看護師	15. ITエンジニア・プログラマー
2. 美容師	16. 絵を描く職業 (漫画家・イラストレーター・アニメーター)
3. ゲームクリエイター	17. プロスポーツプレイヤー
4. 医者	18. パティシエ (お菓子職人)
5. デザイナー (ファッション・インテリア)	19. 社長などの会社経営者・起業家
6. YouTuber などの動画投稿者	20. 食べ物屋 (飲食店店員)
7. 警察官・刑事	21. 薬剤師
8. 公務員	22. 電車・バス・車の運転士
9. サッカー選手	23. 消防士・救急隊
10. 野球選手	24. 作家・ライターなど
11. 習いごとの先生	25. 教師 (教員)
12. 飼育係・ペット屋さん・調教師	26. その他
13. 歌手・俳優・声優などの芸能人	(具体的に)
14. 会社員 (サラリーマン・OL)	

問 17 職業を選ぶとしたら、あなたは次のようなことをどれくらい大切に考えますか。
(〇はそれぞれ1つ)

		とても大切	どちらかといえば大切	あまり大切ではない	大切ではない	わからない
ア	給料が多い	1	2	3	4	5
イ	大きな会社・有名な会社である	1	2	3	4	5
ウ	自分の特技・好きなことが活かせる	1	2	3	4	5
エ	人の役に立つ	1	2	3	4	5
オ	休みが多い・残業が少ない	1	2	3	4	5
カ	安定して長く勤められる	1	2	3	4	5



5 性別・男女の平等意識について

問 18 あなたは、自分が女性または男性に生まれたことをどう思いますか。(〇は1つ)

- 1. 良かったと思っている
- 2. 反対なら良かったと思っている
- 3. どちらともいえない
- 4. わからない

問 19 へ

<問 18 で「2 反対なら良かったと思っている」に〇をつけた人だけお答えください。>

問 19 理由は何ですか。(〇は1つ)

- 1. なりたい仕事につけるから
- 2. いろいろ得をするから
- 3. 楽そうだから
- 4. 「男らしく」または「女らしく」するのがいやだから
- 5. 今の自分の体に違和感があるから
- 6. その他(具体的に)

問 20 あなたは、次の場面で男女は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

		女性のほうが 優遇されている	平等	男性のほうが 優遇されている	わからない
ア	家庭で	1	2	3	4
イ	学校での生活で	1	2	3	4
ウ	地域社会全体で	1	2	3	4

6 男女共同参画に関する用語について

問 21 あなたは、次の言葉とその内容を知っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

		言葉も内容も 知っている	言葉は聞いたこと があったが内容は 知らなかった	言葉も内容も 知らない
ア	男女共同参画社会基本法	1	2	3
イ	女子差別撤廃条約	1	2	3
ウ	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
エ	ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3
オ	セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)	1	2	3
カ	LGBT	1	2	3

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

だんじょきょうどうさんかく
小牧市男女共同参画に関するアンケート

お願い

小学5年生のみなさんこんにちは！

日ごろは、勉強やスポーツ、文化活動などさまざまな分野で元気に活やくされていることと思います。

小牧市では、男女がともにいきいきとして暮らすことのできるまちを実現するために、小学5年生のみなさんに、ふだんの生活のことや将来のことなどをお聞きしています。

このアンケートは、テストではありません。

あなたの名前を書かなくてよいので、答えは先生や他の人にはわかりません。
あなたがいつも思っていることを書いてください。

アンケートにご協力をお願いします。

令和2年9月

小牧市長 やました しずお
山下 史守朗

◆答え方◆

1. 質問は、全部で18問です。およそ10分かかります。
2. 黒のえんぴつまたはシャープペンシルではっきりとていねいに書いてください。
3. 質問ごとに当てはまる番号を選び、○で囲ってください。
なお、質問には（○は1つ）、（当てはまるもの全てに○）などと書いてありますので、その数にしたがって答えてください。

1 あなた自身のことについて

問 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 女子 | 2. 男子 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問 2 あなたは、だれと一緒に住んでいますか。(あてはまる人すべてに○)

- | | |
|-------|-------------|
| 1. 父親 | 4. 姉妹 |
| 2. 母親 | 5. 祖父母 |
| 3. 兄弟 | 6. その他(だれ) |

2 学校生活について

問 3 ふだんの学校での生活で、次のようなことを思うときがありますか。(○はそれぞれ1つ)

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない	わからない
ア	学級委員・生徒会長など、みんなをまとめる役は男子に向いている	1	2	3	4	5
イ	副会長・書記など、細やかな気づかいをする役は女子に向いている	1	2	3	4	5
ウ	道具運びなど力のいる仕事は男子に向いている	1	2	3	4	5
エ	給食係や教室の掃除などの仕事は女子に向いている	1	2	3	4	5
オ	先生は女子にはあまり怒らない	1	2	3	4	5



3 ふだんの生活について

問 4 あなたは、「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(〇は1つ)

- | |
|--------------|
| 1. よく言われる |
| 2. ときどき言われる |
| 3. あまり言われない |
| 4. 言われたことがない |

問 5・問 6・問 7 へ

<問 4 で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」に〇をつけた人だけ答えてください。>

問 5 どんなことで言われましたか。(当てはまるものすべてに〇)

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 手伝いをしないとき | 7. 勉強をしないとき |
| 2. ことばづかいが悪いとき | 8. けんかをしたとき |
| 3. 服そう・身だしなみが悪いとき | 9. 泣いたとき |
| 4. 整理整頓ができないとき | 10. 見ているテレビ番組や本・マンガなどについて |
| 5. ぎょうぎが悪いとき | 11. 遊びの内容について |
| 6. 運動をしないとき | 12. 友人について |

<引き続き問 4 で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」に〇をつけた人だけ答えてください。>

問 6 その時、どんな気分でしたか。(〇は1つ)

- | |
|----------------|
| 1. いやな気分だった |
| 2. そのとおりだと思った |
| 3. 何とも思わなかった |
| 4. その他 (くわしく) |

<引き続き問 4 で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」に〇をつけた人だけ答えてください。>

問 7 あなたにそれを言ったのはだれですか。(当てはまるもの全てに〇)

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 母親 | 9. 友人 (女子) |
| 2. 父親 | 10. 友人 (男子) |
| 3. 祖母 | 11. 女の先生 |
| 4. 祖父 | 12. 男の先生 |
| 5. 姉妹 | 13. 近所のおばさん |
| 6. 兄弟 | 14. 近所のおじさん |
| 7. 親せきのおばさん | 15. その他の人 (だれ) |
| 8. 親せきのおじさん | |

<すべての人にお聞きします>

問 8 あなたは家の中の手伝いをどれくらいしていますか。(○はそれぞれ1つ)

		よくしている (一週間に1回以上)	時々している <small>おとつ</small> (一月に1回以上)	あまりしていない・ していない
ア	食事を作る	1	2	3
イ	食事の後かたづけ	1	2	3
ウ	ゴミ出し	1	2	3
エ	自分の部屋のそうじ	1	2	3
オ	家の中のそうじ	1	2	3
カ	フロ洗	1	2	3
キ	せんたく	1	2	3
ク	買い物やおつかい	1	2	3
ケ	親の仕事の手伝い	1	2	3

問 9 あなたは家の中で、次のようなことはだれがやるのがいいと思いますか。

(○はそれぞれ1つ)

		母親	父親	子ども	祖母	祖父	家族全員
ア	食事を作る	1	2	3	4	5	6
イ	食事の後かたづけ	1	2	3	4	5	6
ウ	ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
エ	そうじ	1	2	3	4	5	6
オ	せんたく	1	2	3	4	5	6
カ	お金をかせぐ	1	2	3	4	5	6
キ	子どもの世話をする	1	2	3	4	5	6

4 仕事・将来について

問 10 あなたは父親が働き、母親が家で家事をするという家庭をどう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 良いと思う | 4. おかしい(変だ)と思う |
| 2. 良くないと思う | 5. その他(くわしく) |
| 3. 普通だと思う | 6. わからない |

問 11 あなたは母親が働き、父親が家で家事をするという家庭をどう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 良いと思う | 4. おかしい(変だ)と思う |
| 2. 良くないと思う | 5. その他(くわしく) |
| 3. 普通だと思う | 6. わからない |

問 12 あなたは「男は仕事をして、女は家で家事・子育てをするべきだ」という性別によって役割分担をするという考え方について、どのように思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. そう思う | 4. そう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. わからない |
| 3. どちらかといえばそう思わない | |

問 13 あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1. 女性は仕事を持たないほうが良い・持たなくても良い |
| 2. 結婚する前までは仕事をして、結婚したら仕事をやめるのが良い |
| 3. 子どもが生まれるまでは仕事をして、子どもが生まれたら仕事をやめるのが良い |
| 4. 子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い |
| 5. 結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い |
| 6. わからない |
| 7. その他(くわしく) |

問 14 あなたは、男性が仕事を持つことについてどう思いますか。(○は1つ)

- | |
|---|
| 1. 男性は仕事を持たないほうが良い・持たなくても良い |
| 2. 結婚する前までは仕事をして、結婚したら仕事をやめるのが良い |
| 3. 子どもが生まれるまでは仕事をして、子どもが生まれたら仕事をやめるのが良い |
| 4. 子どもが生まれたら仕事をやめて、子どもが大きくなったらまた仕事をするのが良い |
| 5. 結婚しても子どもが生まれても、ずっと仕事を続けるのが良い |
| 6. わからない |
| 7. その他(くわしく) |

問 15 あなたは将来、どんな仕事につきたいと考えていますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------|-------------------------------------|
| 1. 看護師 | 15. ITエンジニア・プログラマー |
| 2. 美容師 | 16. 絵を描く職業
(漫画家・イラストレーター・アニメーター) |
| 3. ゲームクリエイター | 17. プロスポーツプレイヤー |
| 4. 医者 | 18. パティシエ (お菓子職人) |
| 5. デザイナー (ファッション・インテリア) | 19. 社長などの会社経営者・起業家 |
| 6. YouTuber などの動画投稿者 | 20. 食べ物屋 (飲食店店員) |
| 7. 警察官・刑事 | 21. 薬剤師 |
| 8. 公務員 | 22. 電車・バス・車の運転士 |
| 9. サッカー選手 | 23. 消防士・救急隊 |
| 10. 野球選手 | 24. 作家・ライターなど |
| 11. 習いごとの先生 | 25. 教師 (教員) |
| 12. 飼育係・ペット屋さん・調教師 | 25. その他 |
| 13. 歌手・俳優・声優などの芸能人 | (くわしく) |
| 14. 会社員 (サラリーマン・OL) | |

5 性別・男女の平等意識について

問 16 あなたは、自分が女性または男性に生まれたことをどう思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 良かったと思っている | 3. どちらともいえない |
| 2. 反対なら良かったと思っている | 4. わからない |

＜問 16 で「2 反対なら良かったと思っている」に〇をつけた人だけお答えください。＞

問 17 理由は何ですか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 1. なりたい仕事につけるから | 4. 「男らしく」または「女らしく」するのがいやだから |
| 2. いろいろ得をするから | 5. 今の自分の体に違和感があるから |
| 3. 楽そうだから | 6. その他 (くわしく) |

6 男女共同参画に関する用語について

問 18 あなたは、次の言葉とその内容を知っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

		言葉も内容も 知っている	言葉は聞いたこと があったが内容 は知らなかった	言葉も内容も 知らない
ア	男女平等	1	2	3
イ	セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)	1	2	3
ウ	ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

小牧市男女共同参画に関する事業所アンケート

アンケートご協力をお願い

皆さまには、日頃から市政全般にわたり、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

小牧市では、平成15年に制定した「小牧市男女共同参画条例」に基づき、男女がお互いを尊重しあい、個性が生きる“男女共同参画社会”を目指してさまざまな取り組みを実施してまいりました。

このたび、市内の事業所の皆様のお考えやご意見をお伺いしながら「第4次小牧市男女共同参画基本計画」を策定するために、アンケートを実施させていただきます。

皆さまからいただいたご意見は、事業を効果的に進めるうえでの資料とさせていただきますので、誠に恐縮でございますが、調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、この調査は無記名でご回答いただき、調査結果はコンピュータにより統計的に処理いたしますので、個別の回答などを公表してご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、よろしくお願いいたします。

令和2年9月
小 牧 市

◆ご記入に当たってのお願い◆

- ・この調査にお答えいただくのは、小牧市内の事業所から無作為に選ばれた300社です。
- ・ご回答は、貴事業所の総務・人事などのご担当者様にご記入をお願いいたします。
- ・特に記載がない場合、原則として「貴事業所」とは、この調査票が送られた当該事務所（支店の場合は支店のみ）を示します。
- ・ご記入の際は、黒の鉛筆やボールペンなどではっきりとご記入いただき、消えるボールペンは使用しないでください。
- ・質問ごとに当てはまる回答の番号を選び○で囲ってください。
なお、設問には（○は1つ）、（当てはまるもの全てに○）などを書いてありますので、その数にしたがってご回答ください。
- ・ご回答が「その他」に当てはまる場合は、お手数ですが（ ）内になるべく具体的に内容をご記入ください。
- ・設問によっては回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や説明にしたがってお答えください。
- ・ご記入いただきました調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒に入れて

10月2日（金）まで にご投函ください。（切手は不要です）

〈お問い合わせ先〉 小牧市まなび創造館
〒485-0041 愛知県小牧市小牧三丁目555番地
電話 0568-71-9848
FAX 0568-71-9840
E-Mail: manabi@city.komaki.lg.jp

1 事業所の概要について

問 1 貴事業所の主な業種をお教えてください。(○は1つ)

1. 建設業	8. 不動産業
2. 製造業	9. 飲食店・宿泊業
3. 電気・ガス・水道・熱供給・水道業	10. 医療・福祉業
4. 情報通信業	11. 教育・学習支援業
5. 運輸業	12. 娯楽業
6. 卸売・小売業	13. その他(具体的に)
7. 金融・保険業	

問 2 令和2年9月1日現在の貴事業所の従業員数を、雇用形態別に記入してください。

※詳細な人数が不明の場合は、不明とご記入ください。

		女性	男性
正社員	正社員	人	人
	(平均勤続年数)	(年 ヶ月)	(年 ヶ月)
非正規社員	契約社員(嘱託社員)	人	人
	派遣社員	人	人
	パートタイム従業員 (アルバイト含む)	人	人
	非正規社員 合計	人	人

※契約社員(嘱託社員)＝事業所などと直接契約し、あらかじめ定めた契約期間雇用される者。

※派遣社員＝労働者派遣法に基づき派遣元事務所から派遣された者。

※パートタイム従業員＝正社員より1週間の所定労働時間が短い者。雇用期間の定めの有無は問わない。

問 3 令和2年9月1日現在の貴社全体(本社・支店・営業所などの合計)の従業員数(正規従業員のみ)は、次のどれに該当しますか。(○は1つ)

1. 10人未満	3. 50～99人	5. 300～499人	7. 1,000人以上
2. 10～49人	4. 100～299人	6. 500～999人	

問 4 貴事業所の1ヶ月の1人あたりの平均残業時間は何時間程度ですか。(○はひとつ)

1. 0時間	3. 20時間～40時間未満	5. 60時間以上
2. 1時間～20時間未満	4. 40時間～60時間未満	6. わからない

問 5 貴事業所でお持ちの下記認定制度(令和2年度有効のもの)をお答えください。

(当てはまるもの全てに○)

1. えろぼし認定 ⇒ いずれか1つに○ (3段階目/2段階目/1段階目)	3. くるみん認定
2. プラチナくるみん認定	4. ニューズエール認定(中小企業のみ)
	5. 愛知県ファミリー・フレンドリー企業
	6. あてはまるものはない

2 事業所における雇用管理状況について

問 6 過去 10 年程度の間、貴事業所の従業員は以下についてどのような傾向が見られましたか。
(○はそれぞれ1つ)

		増加した	やや増加した	変化していない	やや減少した	減少した
ア	結婚後も継続して勤める女性	1	2	3	4	5
イ	子どもが生まれた後も継続して勤める女性	1	2	3	4	5
ウ	女性の平均勤続年数	1	2	3	4	5
エ	女性の正規従業員	1	2	3	4	5
オ	女性の非正規従業員	1	2	3	4	5
カ	結婚後も継続して勤める男性	1	2	3	4	5
キ	子どもが生まれた後も継続して勤める男性	1	2	3	4	5
ク	男性の平均勤続年数	1	2	3	4	5
ケ	男性の正規従業員	1	2	3	4	5
コ	男性の非正規従業員	1	2	3	4	5

問 7 令和元年度における、貴事業所の正規従業員新規採用者数をご記入ください。

女性	人	男性	人	合計	人
----	---	----	---	----	---

問 8 貴事業所の管理職の男女別人数をご記入ください。

従業員数	女性	男性	合計
取締役・事業主相当職	人	人	人
部長相当職	人	人	人
課長相当職	人	人	人
係長・主任相当職	人	人	人
合計	人	人	人



< 問 8 で女性管理職の人数が男性管理職より少ない事業所にお聞きます。 >

問 9 貴事業所の管理職に女性が少ないのは、どのような理由ですか。(当てはまるもの全てに○)

1. 必要な知識や経験、判断力などを有する女性が少ない	7. 女性本人が希望しない(打診したが辞退した)
2. 役職に就くための在職年数を満たす女性が少ない	8. 顧客が女性管理職を嫌がる
3. 女性の勤続年数が短く、管理職になるまでに退職する	9. 上司や同僚、部下となる従業員が女性管理職を希望しない
4. 時間外労働が多い、もしくは深夜業がある	10. 出産・育児・介護などによる一時休職が予想される
5. 体力を要する仕事で、女性には難しい	11. 男性を管理職に登用するのが慣例である
6. 出張、全国転勤がある	12. 既に女性管理職が十分在籍している
	13. その他(具体的に)

<全ての事業所にお聞きます。>

問 10 貴事業所において、下記のような仕事は女性と男性のどちらが多く従事していますか。

※役職者を除いてお答えください（○はそれぞれ1つ）

	男性のみ 従事している	男性のほうが 多く 従事している	男女ともに 同じように 従事している	女性のほうが 多く 従事している	女性のみ 従事している	該当する 仕事がない
ア 外部との折衝が多い仕事	1	2	3	4	5	6
イ 出張が多い・宿泊を要する仕事	1	2	3	4	5	6
ウ 高度な判断が必要な仕事	1	2	3	4	5	6
エ リーダーシップが必要な仕事	1	2	3	4	5	6
オ 企画力が必要な仕事	1	2	3	4	5	6
カ 筋力が必要な仕事	1	2	3	4	5	6
キ 販売など売上げ目標（ノルマ） のある仕事	1	2	3	4	5	6
ク 現場作業が多い仕事	1	2	3	4	5	6
ケ 専門的な知識・資格が必要な 仕事	1	2	3	4	5	6
コ 接客サービス・受付窓口などで の対応	1	2	3	4	5	6
サ 定型的な仕事 （ルーティンワーク）	1	2	3	4	5	6

問 11 貴事業所では、男女雇用機会均等法に定められているポジティブ・アクションについて、
何らかの取り組みを行っていますか。または実施予定ですか。各取り組みについて、実施
の有無と効果をお教えてください。（○はそれぞれ1つ）

		実施している		実施していない	
		効果は あがっている	効果はない ／不明	今後 実施予定	実施予定 なし
ア	女性の登用や人材育成に関する体制・取り組み 方針などを定める	1	2	3	4
イ	女性がいらないもしくは少ない職種・職務につい て、女性を積極的に採用・登用する	1	2	3	4
ウ	女性の管理職を積極的に登用する	1	2	3	4
エ	人事異動により女性に様々な職種を経験させる	1	2	3	4
オ	業務に必要な知識や資格取得のための教育訓練 や研修を、性別に関わりなく実施する	1	2	3	4
カ	性別による評価を行うことがないよう、人事 評価・考課基準を明確に定める	1	2	3	4
キ	男女の平等について、意識改革や啓発活動を 積極的に行う	1	2	3	4

3 従業員の育児・介護などとの両立支援について

問 12 貴事業所では、仕事と育児・介護との両立を支援するために、どのような取り組みを行っていますか。（育児・介護それぞれについて1つずつ○）

育児		実施している	実施していない	
			今後実施予定	実施予定なし
ア	育児休業制度の導入	1	2	3
イ	子の看護休暇制度の導入	1	2	3
ウ	妊娠中の通院休暇制度や妊娠障害がある場合の休暇制度	1	2	3
エ	事業所内託児施設の設置	1	2	3
オ	フレックスタイムの導入・短時間勤務など、勤務時間の柔軟な対応	1	2	3
カ	有給休暇の半日未満単位での取得 (両立支援策としてではない場合も含む)	1	2	3
キ	保育料など育児に要する経費の援助	1	2	3
ク	育児期間中の深夜労働・所定外労働・転勤などの免除	1	2	3
ケ	再雇用制度（子育てなどを理由に退職した人を再び雇用することで、定年退職後の再雇用は含めません）の充実	1	2	3
コ	その他（具体的に	1	2	3

問 13 へ

介護		実施している	実施していない	
			今後実施予定	実施予定なし
ア	介護休業制度の導入	1	2	3
イ	フレックスタイムの導入・短時間勤務など、勤務時間の柔軟な対応	1	2	3
ウ	有給休暇の半日未満単位での取得 (両立支援策としてではない場合も含む)	1	2	3
エ	介護期間中の深夜労働・所定外労働・転勤などの免除	1	2	3
オ	再雇用制度（介護などを理由に退職した人を再び雇用することで、定年退職後の再雇用は含めません）の充実	1	2	3
カ	その他（具体的に	1	2	3

問 13 へ

<問 12 でどれか 1 つでも「1 実施している」と答えた事業所にお聞きします。>

問 13 上記取り組みを実施したことにより、どのような効果や変化がありましたか。

(当てはまるもの全てに○)

1. 女性従業員の定着率の上昇	6. 外部の評価・企業イメージの向上
2. 意欲や能力のある女性の人材活用	7. 就職希望者の増加
3. 従業員同士が助け合う雰囲気や一体感の醸成	8. 総合的な経営面での効果
4. 女性従業員の責任感の向上	9. その他
5. 仕事の進め方の効率化や業務改善	(具体的に)

<全ての事業所にお聞きします。>

問 14 貴事業所における育児休業は、どの程度の期間取得できますか。「3」を選択された場合、具体的な年齢をお教えてください。(○は 1 つ)

1. 子どもの年齢が 1 歳まで 2. 子どもの年齢が 1 歳 6 ヶ月まで 3. 子どもの年齢が 1 歳 6 ヶ月以上 4. 規定がない 5. その他 (具体的に)	→	何歳まで取得できますか 歳 ヶ月
--	---	--------------------------

問 15 貴事業所において、それぞれの項目について該当する人数をご記入ください。また、育児休業を取得した方がいる場合は、平均取得期間をお答えください。(○はそれぞれ 1 つ)

※詳細な人数が不明の場合は、不明とご記入ください。

	女性		男性	
育 児	平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までに出生した女性従業員	人	平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までに配偶者が出生した男性従業員	人
	うち育児休業を取得した女性従業員	人	うち育児休業を取得した男性従業員	人
	平均取得期間 1. 1 週間未満 3. 3 ヶ月未満 5. 1 年未満 2. 1 ヶ月未満 4. 6 ヶ月未満 6. 1 年以上		平均取得期間 1. 1 週間未満 3. 3 ヶ月未満 5. 1 年未満 2. 1 ヶ月未満 4. 6 ヶ月未満 6. 1 年以上	
介 護	平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までに介護休業を取得した女性従業員	人	平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までに介護休業を取得した男性従業員	人

問 16 男性の育児休業、介護休業の取得を進めていく中で、課題となっていることを教えてください。(○はいくつでも)

1. 制度が十分に周知 (理解) されていない 2. 制度が利用しやすい雰囲気になっていない 3. 制度利用者の業務を代替 (カバー) できる体制にない 4. 制度の対象となる従業員がいない 5. 保育所や介護保険サービスの利用などで、育児や介護に対処している 6. その他 (具体的に)
--

問 17 育児休業・介護休業中の労働者の代替要員を、どのように確保していますか。
(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|---|-------------|
| 1. 期間雇用者（契約社員・パート・アルバイト
など）を雇用、または派遣労働者を利用 | 3. 部署内でやりくり |
| 2. 配置転換で代替 | 4. 前例がない |
| 5. その他（具体的に) | |

問 18 貴事業所では、女性の再雇用者を雇用していますか。(○は1つ)

※再雇用とは、育児・介護などを理由に退職した後、再び収入を伴う仕事に就く人のこと
で、定年後の再雇用は含めません。

- | | |
|------------|---------|
| 1. 雇用している | → 問 19へ |
| 2. 雇用していない | |

問 18 で「1 雇用している」と答えた事業所にお聞きします。

問 19 雇用形態は次のうちどれですか。(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 正規従業員 | 4. 契約社員（嘱託社員） |
| 2. パートタイム従業員（アルバイト含む） | 5. その他 |
| 3. 派遣社員 | (具体的に) |

4 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 20 平成 28 年 4 月 1 日に全面施行された「女性活躍推進法」（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）に基づき、国や自治体のほか企業等は女性従業員の活躍を推進するための「一般事業主行動計画」^(注)を策定することが義務づけられています（従業員 301 人以上の事業所は策定義務、300 人以下の事業所は努力義務）。貴事業所での策定状況についてお答えください。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|----------|
| 1. 策定済である | 4. その他 |
| 2. 現在策定中、または策定を予定している | (具体的に) |
| 3. 今のところ策定の予定はない | 5. わからない |

(注) 一般事業主行動計画とは、事業主が従業員の仕事と子育てを両立しやすい職場環境づくりのための目標を定めるものです。

問 21 現在、貴事業所では、ワーク・ライフ・バランスに関する取り組みを行っていますか。
(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 積極的に取り組んでいる | → 問 22へ |
| 2. ある程度取り組んでいる | |
| 3. 取り組んではいるが不十分である | → 問 23へ |
| 4. 今後取り組みたいと思っている | |
| 5. 取り組む予定はない | |
| 6. ワーク・ライフ・バランスについてよくわからない | |
| 7. その他（具体的に) | |

<問 21 で「1 積極的に取り組んでいる」・「2 ある程度取り組んでいる」・「3 取り組んではいるが不十分である」と答えた事業所にお聞きします。>

問 22 現在、ワーク・ライフ・バランスに関して行っている取り組みはどのようなものですか。

(当てはまるもの全てに○)

1. 社長・取締役などトップが率先してワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる
2. 管理職の意識改革を行っている
3. 管理職以外の従業員の意識改革を行っている
4. 長時間残業の削減や労働時間の短縮など働き方の見直しを行っている
5. 年休を取りやすい環境を整えている
6. ノー残業デーを設定している
7. 育児休暇・介護休暇を取りやすい環境を整えている
8. 在宅勤務を行うことができるようになっている
9. フレックスタイムの導入や時間短縮勤務を行うことができるようになっている
10. ワーク・ライフ・バランスを推進するための責任者を定めている
11. その他（具体的に

)

<問 21 で「4 今後取り組みたいと思っている」・「5 取り組む予定はない」と答えた事業所にお聞きします。>

問 23 貴事業所において、ワーク・ライフ・バランスに取り組む上での問題点は何ですか。

(当てはまるもの全てに○)

1. 日常的に労働時間が長い部門・部署がある
2. 休暇・休業が取りにくい雰囲気がある
3. 始業・終業時間が固定的である
4. 一人当たりの業務量が多い
5. ワーク・ライフ・バランスに関する管理職の認識が乏しい
6. ワーク・ライフ・バランスに関する従業員の認識が乏しい
7. 制度導入に伴う人件費などの増大
8. 情報・ノウハウの不足
9. 企業として効果を数値などで把握しにくい
10. 公的及び民間の保育・介護サービスの不足
11. その他（具体的に

)

問 24 ワーク・ライフ・バランスを推進する上で、特に重要なことは何だと思えますか。

(3 つまで○)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 企業トップの意識 | 6. 両立に取り組みやすい職場の雰囲気づくり |
| 2. 管理職への周知・理解の促進 | 7. 保育園など、社会環境の整備 |
| 3. 人事担当者への周知・理解の促進 | 8. 育児・介護休業法などの法律の知識の普及 |
| 4. 従業員への両立支援制度についての情報提供 | 9. 事業所内の相談窓口の設置 |
| 5. 行政の経費援助 | 10. その他（具体的に |

)

5 各種ハラスメントの防止について

問 25 貴事業所では、セクシュアル・ハラスメントに関する取り組みを行っていますか。

(○は1つ)

- 1. 防止策や対応策などの取り組みを実施している
- 2. 防止策や対応策などの取り組みを今後実施予定である
- 3. 対応の必要性は感じているが、現在のところ取り組みは行っていない
- 4. 特に対応の必要性を感じない

問 26 へ

<問 25 で「1 防止策や対応策などの取り組みを実施している」・「2 防止策や対応策などの取り組みを今後実施予定である」と答えた事業所にお聞きします。>

問 26 どのような取り組みを行っている、もしくは行う予定ですか。(当てはまるもの全てに○)

- 1. 就業規則などへのセクシュアル・ハラスメント防止の明文化
- 2. セクシュアル・ハラスメントについての相談・苦情窓口の設置
- 3. セクシュアル・ハラスメント防止についての研修などの実施
- 4. 社内報や啓発資料などを活用し、従業員の意識啓発を図る
- 5. 実態把握のための調査の実施
- 6. 発生時や防止のためのマニュアルを定める
- 7. その他(具体的に

)

<全ての事業所にお聞きします。>

問 27 貴事業所では、パワー・ハラスメントに関する取り組みを行っていますか。(○は1つ)

- 1. 防止策や対応策などの取り組みを実施している
- 2. 防止策や対応策などの取り組みを今後実施予定である
- 3. 対応の必要性は感じているが、現在のところ取り組みは行っていない
- 4. 特に対応の必要性を感じない

問 28 へ

<問 27 で「1 防止策や対応策などの取り組みを実施している」・「2 防止策や対応策などの取り組みを今後実施予定である」と答えた事業所にお聞きします。>

問 28 どのような取り組みを行っている、もしくは行う予定ですか。(当てはまるもの全てに○)

- 1. 就業規則などへのパワー・ハラスメント防止の明文化
- 2. パワー・ハラスメントについての相談・苦情窓口の設置
- 3. パワー・ハラスメント防止についての研修などの実施
- 4. 社内報や啓発資料などを活用し、従業員の意識啓発を図る
- 5. 実態把握のための調査の実施
- 6. 発生時や防止のためのマニュアルを定める
- 7. その他(具体的に

)

<全ての事業所にお聞きします。>

問 29 貴事業所では、ハラスメントと思われる問題が生じたことがありますか。(〇はそれぞれ1つ)

		ある	ない	わからない
ア	パワー・ハラスメント	1	2	3
イ	セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
ウ	マタニティ・ハラスメント	1	2	3
エ	パタニティ・ハラスメント*	1	2	3
オ	SOGIハラ*・アウティング*	1	2	3

<問 29 で1つでも「1 ある」と答えた事業所にお聞きします。>

問 30 貴事業所において、実際にハラスメントの事案が起こった際、対応として特に難しいと感じたのはどのようなことですか。(当てはまるもの全てに〇)

1. 当事者のプライバシーの保護
2. 加害者の可能性のある者に、ハラスメント問題を理解させること
3. 相談対応者のスキル・知識の不足
4. 被害者の精神的なケア
5. 当事者の言い分の食い違いなど、事実確認が困難
6. 相談を受けた後の対処の調整
7. 日常の業務が忙しく、対応するための時間が取れない
8. その他(具体的に)
9. 特にない

※パタニティ・ハラスメント＝育児を理由とする休暇や時短勤務等を希望する男性に対する嫌がらせ

※SOGIハラ＝性的指向や性自認に関する侮辱的な言動や不当な取扱いなど

※アウティング＝本人の了承を得ずにセクシュアリティを第三者に暴露すること

6 男女共同参画社会について

<問 31 は、回答を記入されている担当者の方にお聞きします。>

問 31 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

		言葉も内容も知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない
ア	男女共同参画社会基本法	1	2	3
イ	女子差別撤廃条約	1	2	3
ウ	男女雇用機会均等法	1	2	3
エ	育児・介護休業法	1	2	3
オ	ポジティブ・アクション (積極的格差是正措置)	1	2	3

問 32 貴事業所において男女共同参画を進めるにあたって、今後、小牧市が力を入れていくべきだと思うことは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

1. 保育施設や保育サービスの充実
2. 高齢者や傷病者のための施設や介護サービスの充実
3. 女性従業員の雇用管理などについて参考となる事例の紹介
4. 事業主などを対象とした法律や制度の周知、女性の能力活用のための講座や研修会の開催
5. 事業所における女性の能力活用の取り組みについてのマニュアル作成・配布
6. 男性の家事・育児・介護などへの参画を促す啓発
7. 広報紙やパンフレットなどで、職場における男女の平等な取り扱いについての啓発
8. 女性の就労の機会を増やしたり、従来女性の就労が少なかった分野などへの進出を促進したりするための職業教育・訓練の実施
9. 結婚や育児退職後の再就職に向けた支援や能力開発の機会の提供
10. 男女共同参画に関する事業者間のネットワークづくりや情報交換の機会の提供
11. 事業所が行う研修会などへの講師の派遣や紹介
12. 事業所での男女共同参画の推進、労働者や求職者を対象とした職業意識・能力開発のための講座や研修会の開催
13. 男女がともに活躍できる職場づくりを行う優良企業の表彰、顕彰
14. 法律や制度、女性の活用の方法などについて情報提供や相談窓口の設置
15. ポジティブ・アクションなどを効果的に進めるためのモデル企業の育成
16. その他（具体的に _____）
17. 特になし

問 33 貴事業所が男女共同参画を推進する上で行政に望むことがあればお書きください。

自由記入欄

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

小牧市男女共同参画に関するアンケート 調査結果報告書

発 行： 小牧市
編 集： 小牧市 多世代交流プラザ
住 所： 〒485-0041
愛知県小牧市小牧三丁目555番地
T E L： 0568-71-9842
F A X： 0568-71-8612
E-mail： manabi@city.komaki.lg.jp
発行年月： 令和3年3月
